

練馬区障害者基礎調査 報 告 書

令和2年（2020年）3月

練 馬 区

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
(1)	障害者調査	1
(2)	事業所調査	1
3	調査時期	1
4	調査方法	1
5	回収状況	2
(1)	障害者調査	2
(2)	事業所調査	2
6	主な調査項目	2
7	報告書を利用するにあたって	4
II	調査結果のまとめ	5
III	調査結果の詳細（障害者調査）	11
1	基本属性	11
(1)	性別	11
(2)	年齢	11
(3)	調査票の記入者	12
(4)	居住形態、施設入所期間（施設入所者のみ）	13
(5)	同居者（複数回答）	14
(6)	収入源（複数回答）	14
(7)	主な生計維持者	15
(8)	障害の程度	16
(9)	障害の種類等	18
(10)	手帳を取得した年齢、精神疾患・難病の発症年齢等	21
(11)	障害支援区分認定の状況	22
(12)	発達障害、高次脳機能障害、難病等の診断状況（複数回答）	22
(13)	医療的ケアの状況	23
2	介助・援助の状況について	24
(1)	介助・援助者	24
(2)	介助・援助の内容（複数回答）	26
(3)	介助・援助者が不在のときに希望する対応（複数回答）	30
(4)	必要とする介助・援助の有無	35
(5)	必要だが受けていない介助・援助（自由回答）	38
3	日中の過ごし方について	39
4	教育について	43
(1)	通園・通学先	43
(2)	通園・通学にあたって充実してほしいこと（複数回答）	43
5	雇用・就労について	44
(1)	就労形態	44
(2)	職場の所在地（就労者全体と一般就労別）	49
(3)	1年間の就労収入	50
(4)	仕事をする上での不安や不満（複数回答）	51
(5)	働いていない理由（複数回答）	56
(6)	今後の就労意向	60
(7)	働きたいが働けない理由（自由回答）（施設入所者のみ）	64
(8)	働くために大切だと思う環境（複数回答）	64
6	外出や社会参加について	69

(1)	外出の際に困っていること（複数回答）	69
(2)	今後してみたい活動（複数回答）	74
(3)	活動に参加するために必要な支援（複数回答）	74
7	健康状況や医療について	79
(1)	医療の受診状況	79
(2)	入院歴の有無と入院期間	80
(3)	通院する際の介助の必要性（難病患者のみ）	82
(4)	健康管理や医療について困ったことや不便に感じたこと（複数回答）	83
8	相談や情報の入手について	88
(1)	悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先（複数回答）	88
(2)	家族・親戚以外に相談するために必要な体制（自由回答）	92
(3)	福祉サービスなどの情報入手先（複数回答）	94
(4)	福祉サービスの情報提供を充実するために区がすべきこと（自由回答）	99
(5)	コミュニケーション手段	101
9	障害福祉サービスについて	107
(1)	最近1年間に利用したサービス（複数回答）	107
(2)	必要だと思うサービスの利用状況	112
(3)	今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス（複数回答）	117
(4)	改善が必要だと思うサービスと必要なこと（自由回答）	122
(5)	今あるサービス以外に必要なサービス（自由回答）（難病患者のみ）	125
(6)	介護保険サービスの利用状況（複数回答）	126
(7)	障害福祉サービスとの併用で困っていること（複数回答）	131
10	将来について	136
(1)	今後希望する日中の過ごし方（複数回答）	136
(2)	希望する暮らし方	140
(3)	地域で暮らすために必要な手助け・環境（複数回答）（施設入所者のみ）	149
(4)	練馬区での定住意向	150
11	災害対策について	153
(1)	最寄りの避難拠点	153
(2)	災害に備えて必要な対策（複数回答）	159
12	権利擁護について	164
(1)	差別や人権侵害	164
(2)	地域での障害に対する理解	169
(3)	障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと（複数回答）	173
(4)	合理的配慮	176
(5)	成年後見制度	188
13	障害者施策全般について	200
(1)	障害者施策を充実するために必要なこと（複数回答）	200
(2)	「障害」という言葉の表記	205
(3)	意見・要望（自由回答）	206
14	介助・援助者の意向	208
(1)	介助・援助するにあたって困っていること（複数回答）	208
(2)	当該障害者以外の育児・介護等の状況	212
(3)	介助・援助者の健康状態	217
(4)	家族等支援として区に充実してほしい施策（複数回答）	218
(5)	地域で暮らすことの可能性と地域で暮らすための支援や環境（施設入所者のみ）	223
(6)	介助・援助者の意見・要望（自由回答）	226

IV 調査結果の詳細（事業所調査） 228

1	事業所の基本情報	228
(1)	運営主体	228

(2)	事業所の所在地	228
(3)	事業所の開始年度	228
(4)	提供しているサービス（複数回答）	229
(5)	事業所の定員（定員のあるサービスのみのみ）	231
(6)	事業所の利用者数	232
(7)	事業所の職員数	233
(8)	職種別の職員数	234
(9)	経験年数別の職員数	235
2	運営状況について	236
(1)	事業所の平均的な利用率（利用定員が定められている事業所）	236
(2)	事業の収支状況	237
(3)	事業を運営する上での課題（複数回答）	237
3	人材確保・人材育成について	238
(1)	職員の過不足	238
(2)	不足している職員の職種（複数回答）	239
(3)	職員の不足による運営の支障（複数回答）	241
(4)	過去3年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）・退職者数	242
(5)	人材確保のための取組（複数回答）	244
(6)	処遇改善加算の取得	244
(7)	人材育成のための取組（複数回答）	245
(8)	過去1年間に参加した研修内容（複数回答）	246
(9)	練馬障害福祉人材育成・研修センターの利用	246
(10)	練馬障害福祉人材育成・研修センターの利用についての考え方、理由（自由回答）	247
(11)	練馬障害福祉人材育成・研修センターに期待すること（自由回答）	247
(12)	人材確保・人材育成について、練馬区に取り組んでほしいこと（自由回答）	247
4	サービスの提供状況について	248
(1)	サービスの提供状況	248
(2)	サービスを提供しようとしてできなかったこと	249
(3)	サービスを提供しようとしてできなかった理由（自由回答）	249
(4)	特定相談支援事業所の指定を取る予定の有無	250
(5)	特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由（複数回答）	250
(6)	障害福祉サービス・介護保険サービス以外に提供しているサービス（自由回答）	251
(7)	提供している介護保険サービスの種類（複数回答）	251
(8)	共生型サービスの指定を取る予定の有無	252
(9)	指定を取る予定のある（既に指定を受けている）共生型サービスの種類（複数回答）	252
(10)	新たに参入を検討しているサービス（複数回答）	253
5	サービス向上のための取組について	254
(1)	サービス向上のための取組（複数回答）	254
(2)	利用者やご家族からの苦情や要望（複数回答）	255
(3)	利用者の高齢化・重度化（複数回答）	256
(4)	高齢化・重度化に伴う利用者ニーズ（複数回答）	257
(5)	問題が生じた場合の相談先（複数回答）	258
(6)	問題が生じた場合の相談内容（複数回答）	259
6	その他	260
(1)	虐待防止対策の取組（自由回答）	260
(2)	コンプライアンスの取組（複数回答）	260
(3)	災害時の対策（複数回答）	261
(4)	区の障害者施策への意見・要望（自由回答）	261
資料	使用した調査票	263

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、次期練馬区障害者計画・第六期障害福祉計画・第二期障害児福祉計画を策定するため、障害のある区民の意向および区内の障害福祉サービス事業所等の運営状況を把握し、計画策定の基礎データとして活用することを目的に実施した。

2 調査対象

(1) 障害者調査

身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、自立支援医療制度（精神通院）の利用者、難病医療費助成制度の申請者、施設入所者から、計 4,300 名を無作為抽出した。また、児童発達支援事業所において利用者 200 名に配布し、あわせて 4,500 名に対して調査を行った。

(単位：人)

区 分	身体障害者手帳	愛の手帳	自立支援医療制度（精神通院）利用者	難病患者	施設入所者	合計
対象者数	20,343	4,972	13,024	4,914	461	43,714
調査数	1,250	900	1,100	900	150	4,300

(注) 母数は、平成 31 年 3 月 31 日現在である。

【身体障害者数内訳】

(単位：人)

	対象者数	調査数
視覚障害	1,444	200
聴覚平衡機能障害	1,985	200
音声言語機能障害	244	50
肢体不自由	9,651	450
内部障害	7,019	350
合 計	20,343	1,250

(2) 事業所調査

区内で障害福祉サービス等を提供する全ての事業所（338 事業所）に対して調査を行った。

3 調査時期

令和元年 12 月

4 調査方法

郵送配布・郵送回収（児童発達支援事業利用者については、事業所において配布・郵送回収）

5 回収状況

(1) 障害者調査

区 分	配布数	有効回収数	有効回収率
身体障害者（児）	1,250	659	52.7%
知的障害者（児）	900	474	52.7%
精神障害者（児）	1,100	451	41.0%
難病患者	900	475	52.8%
施設入所者	150	105	70.0%
児童発達支援事業利用者	200	127	63.5%
合 計	4,500	2,291	50.9%

(2) 事業所調査

配布数	有効回収数	有効回収率
338	169	50.0%

6 主な調査項目

【基本属性】

- ・性別、年齢、調査票の記入者、居住形態、同居者、収入源、主な生計維持者、障害の程度、各種手帳を取得した年齢等、障害支援区分認定の状況、発達障害や高次脳機能障害等の診断状況、医療的ケアの状況
- ・（身体障害者手帳所持者のみ）障害の種類
- ・（精神障害者のみ）診断名
- ・（難病患者のみ）罹患している主な難病の疾患名

【介助・援助者の状況について】

- ・主な介助・援助者、介助・援助の内容、介助・援助者が不在のときに希望する対応、必要とする介助・援助の有無

【日中の過ごし方について】

- ・日中の主な過ごし方

【教育について】

- ・通園・通学先、通園・通学にあたって充実してほしいこと

【雇用・就労について】

- ・（就労者のみ）就労形態、職場の所在地、1年間の就労収入、仕事をする上での不安や不満
- ・（非就労者のみ）今後の就労意向、働きたいが働けないと思う理由
- ・働くために大切だと思う環境

【外出や社会参加の状況について】

- ・外出の際に困っていること、今後してみたい活動、活動に参加するために必要な支援

【健康状況や医療について】

- ・（精神障害者・難病患者のみ）医療の受診形態、入院歴の有無と入院期間
- ・（難病患者のみ）通院する際の介助の必要性
- ・健康管理や医療で困ったことや不便に感じたこと

【相談や情報の入手について】

- ・悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先、福祉サービスなどの情報の入手先
- ・（身体障害者・精神障害者・児童発達支援事業利用者のみ）コミュニケーション手段・機器等の利用状況 等

【福祉サービスについて】

- ・最近1年間に利用した福祉サービス、必要だと思うサービスの利用状況、必要だと思うサービスを利用できていない理由
- ・今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス
- ・介護保険サービスの利用状況、障害福祉サービスとの併用で困っていること

【将来について】

- ・希望する日中の過ごし方、希望する暮らし方、練馬区での定住意向
- ・（施設入所者のみ）必要な手助けや環境、練馬区への居住意向

【災害対策について】

- ・最寄りの避難拠点の認知度、最寄りの避難拠点まで自力避難の可否、災害に備えて必要な対策

【権利擁護について】

- ・差別や人権侵害を受けていると感じることの有無、地域での障害に対する理解の感じ方、障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと
- ・合理的配慮を求めた経験、合理的配慮を求めた結果、合理的配慮を求めたことがない理由
- ・成年後見制度の認知度、利用意向、成年後見制度を利用しない（したくない）理由

【障害者施策全般について】

- ・障害者施策を充実するために必要なこと
- ・「障害」の表記

【介助・援助者の意向】

- ・介助・援助するにあたって困っていること、当該障害者以外の育児・介護の状況
- ・介助・援助者の健康状態
- ・家族等支援として区に充実してほしい施策
- ・（施設入所者のみ）地域で暮らすことの可能性、地域で暮らすために必要な支援や環境

【事業所の基本情報】

- ・運営主体、所在地、開始年度、提供しているサービス、定員、利用者数、職員数 等

【事業所の運営状況について】

- ・利用率、収支状況、運営上の課題

【事業所における人材確保・人材育成について】

- ・職員の過不足、不足している職種、職員不足による運営の支障
- ・過去3年間の採用者数・退職者数、人材確保・人材育成のための取組
- ・処遇改善加算の取得状況、過去1年間に参加した研修内容
- ・練馬障害福祉人材育成・研修センターの利用、期待すること

【事業所におけるサービスの提供状況について】

- ・サービスの提供状況、サービスを提供しようとしてできなかったこととその理由
- ・特定相談支援事業所の指定を取る予定の有無、取る予定がない理由
- ・障害福祉サービス・介護保険サービス以外に提供しているサービス
- ・提供している介護保険サービスの種類
- ・共生型サービスの指定を取る予定の有無、取る予定のある共生型サービスの種類
- ・今後、新たに参入を検討しているサービス

【事業所におけるサービス向上の取組について】

- ・サービス向上のための取組
- ・利用者やご家族からの苦情や要望
- ・利用者の高齢化・重度化、それに伴う利用者ニーズ
- ・問題が生じた際の相談先、相談内容

【その他】

- ・虐待防止対策の取組
- ・コンプライアンスの取組
- ・災害時の対策
- ・意見・要望

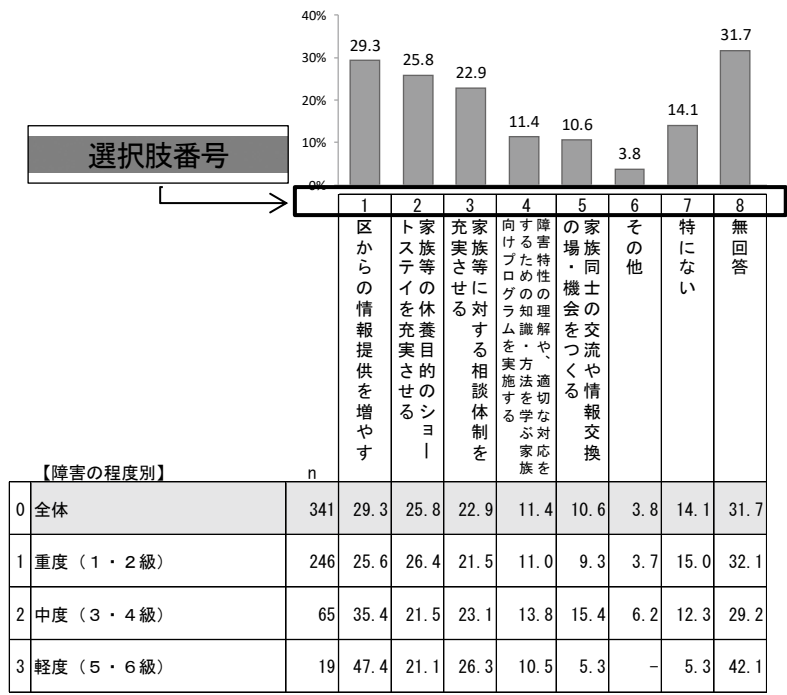
7 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のnとは、基数となる実数のことである。
- 回答はnを100%として百分率で算出している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の―は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 質問において、年齢別、障害の程度別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 障害間比較または前回調査（平成25年度実施）との比較のため、便宜上表記を統一している場合がある。なお、障害間比較は知的障害者、精神障害者、難病患者、施設入所者対象の調査票表記を身体障害者等対象の調査票に統一しており、前回調査の表記は今回調査の表記に統一している。
- 前回調査の概要は以下のとおりである。

○前回調査の概要					
調査対象は、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、自立支援医療制度（精神通院）利用者、難病医療費助成制度申請者、施設入所者から、合計3,500名を無作為抽出して調査を実施した。内訳は次のとおりである。					
■調査対象					
(単位：人)					
区 分	身体障害者手帳	愛の手帳	自立支援医療制度（精神通院）利用者	難病患者	施設入所者
対象者数	19,476	4,050	10,063	4,291	430
調査数	1,150	600	1,000	600	150

(注) 母数は、平成25年3月31日現在

- 今回の基礎調査報告書では、身体障害者手帳所持者を「身体障害者」、愛の手帳所持者を「知的障害者」、自立支援医療制度（精神通院）の利用者を「精神障害者」、難病医療費助成制度の申請者を「難病患者」と区分している。
- グラフの下にある数字は、各設問の選択肢番号を表している。
(例)



Ⅱ 調査結果のまとめ

調査について、全体の結果を簡潔に把握できるよう、概要をまとめた。調査結果の詳細については、参照ページをご覧ください。

（障害者調査）

■基本属性

平均年齢は、身体障害者では 57.6 歳、知的障害者では 28.0 歳、精神障害者では 49.7 歳、難病患者では 61.2 歳、施設入所者では 52.9 歳、児童発達支援事業利用者では 4.2 歳である。[11 頁]

障害の程度は、身体障害者では「1 級」が 36.9%、「2 級」が 19.4%、「3 級」が 12.9%、「4 級」が 16.1%、「5 級」が 6.7%、「6 級」が 5.3%である。知的障害者では、「1 度」が 9.3%、「2 度」が 24.9%、「3 度」が 24.5%、「4 度」が 38.2%である。精神障害者の診断名は、「気分障害（うつ病、躁うつ病など）」が最も多く 53.0%、次いで「統合失調症」が 22.4%、「発達障害」が 15.3%と続いている。難病患者の疾患は、「神経・筋疾患」が 27.4%、「消化器系疾患」が 24.6%、「免疫系疾患」が 22.3%となっている。[16～19 頁]

身体障害者手帳の 1 番目に記載された障害の種類は、身体障害者では「肢体不自由（上肢、下肢等）」が最も多く 28.5%、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害）」(26.4%) もほぼ同じ割合を占めている。次いで「視覚障害」が 14.7%、「聴覚障害」が 14.3%となっている。[18 頁]

障害支援区分の認定を「受けている」と回答した人の障害支援区分は、身体障害者、知的障害者、施設入所者では「区分 6」が最も多くそれぞれ 21.9%、25.7%、56.3%となっており、精神障害者、難病患者では「区分 2」が最も多くそれぞれ 19.8%、19.7%となっている。[22 頁]

■介助・援助の状況について

身体障害者の 51.7%、知的障害者の 89.0%、精神障害者の 45.9%、難病患者の 36.2%は、ふだん何らかの介助・援助を受けている。最も長く介助・援助している人は、身体障害者、知的障害者、精神障害者では「父、母」、難病患者では「配偶者（夫または妻）」が最も多くそれぞれ 3 割台～8 割台となっている。[24～25 頁]

ふだん受けている介助・援助は、身体障害者では「外出」、知的障害者では「お金の管理」、精神障害者では「食事のしたく」、難病患者では「外出」がそれぞれ最も多くあげられている。[26 頁]

ふだんの生活の中で、「必要とする介助・援助は受けていると思う」と回答した人は、身体障害者が 36.9%、知的障害者が 71.3%、精神障害者が 35.0%、難病患者が 29.7%、児童発達支援事業利用者が 52.8%となっている。なお、知的障害者を除いて、約 3 割～5 割が「特に介助・援助を必要としていない」と回答している。[35 頁]

■日中の過ごし方について

日中の主な過ごし方は、身体障害者では「自宅にすることが多い」（42.6%）、知的障害者では「働いている」（39.2%）、精神障害者では「働いている」（44.6%）、難病患者では「自宅にいます」（52.0%）、児童発達支援事業利用者では「幼稚園に通っている」（40.2%）がそれぞれ最も多くなっている。[39 頁]

現在働いている人は、身体障害者が 31.0%、知的障害者が 39.2%、精神障害者が 44.6%、難病患者が 34.9%となっている。[39 頁]

■教育について

現在の通園・通学先は、身体障害者、知的障害者ともに「特別支援学校」が最も多く、それぞれ4割台となっている。次いで身体障害者は「通常の学級」が27.1%、知的障害者は「特別支援学級」が37.8%となっている。[43 頁]

通園・通学に際し充実してほしいことは、身体障害者では「施設・設備などを充実してほしい」、知的障害者では「夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい」、児童発達支援事業利用者では「特に困っていることはない」が最も多くなっている。[43 頁]

■雇用・就労について

現在、働いている人の就労形態は、身体障害者では「会社・団体等の正規職員」（35.3%）、知的障害者では「就労移行支援・就労継続支援事業所」（54.8%）、精神障害者では「非正規職員」（43.8%）、難病患者では「会社・団体等の正規職員」（48.8%）がそれぞれ最も多くなっている。[44 頁]

1年間の就労収入は、身体障害者、精神障害者、難病患者ともに「100万円～300万円未満」が最も多くそれぞれ3割前後を占めているのに対し、知的障害者では20万円未満（「5万円未満」「5万円～20万円未満」の合計）が52.1%となっている。[50 頁]

働くために大切だと思う環境は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「健康状態にあわせて働き方ができること」が最も多く5割～6割を占め、知的障害者では「障害のある人にあった仕事を用意されること」（62.4%）、施設入所者では「健康状態にあわせて働き方ができること」（40.0%）、「障害のある人にあった仕事を用意されること」（40.0%）となっている。[64 頁]

■外出や社会参加について

外出の際に困っていることは、身体障害者では「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」（24.6%）、知的障害者では「他人との会話が難しい」（31.4%）、精神障害者では「他人の視線が気になる」（25.9%）、難病患者では「障害者用のトイレが少ない」（19.8%）、施設入所者では「他人との会話が難しい」（25.7%）、児童発達支援事業利用者では「他人の視線が気になる」（32.3%）となっている。[69 頁]

希望する活動に参加するために必要な支援は、身体障害者では「障害のある人に配慮した施設や設備があること」（31.0%）、知的障害者では「介助者・援助者がいること」（50.0%）、精神障害者では「活動についての情報が提供されること」（35.3%）、難病患者では「活動する場所が近くにあること」（27.6%）、施設入所者では「介助者・援助者がいること」（47.6%）、児童発達支援事業利用者では「適切な指導者がいること」（67.7%）がそれぞれ最も多くあげられている。[74 頁]

■健康状況や医療について

医療の受診形態で「通院している」人は、精神障害者が93.1%、難病患者が90.5%となっている。[79 頁]

精神疾患、難病疾患の入院歴が「ある」人は、精神障害者が38.1%、難病患者が62.9%で、入院期間は、精神障害者、難病患者ともに「1年未満」（「3か月未満」「3か月～1年未満」の合計）がそれぞれ7割以上である。また、難病患者で通院する際に「付添いなどの介助が必要」が20.2%となっている。[80 頁～82 頁]

健康管理や医療で困ったことや不便に感じたことは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者ともに「特に困っていることはない」がそれぞれ4割を占めている中で、身体障害者、精神障害者、難病患者は「医療費の負担が大きい」（それぞれ14.6%、20.0%、31.2%）、知的障害者は「障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」（13.3%）が最も多くあげられている。[83 頁]

■相談や情報の入手について

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先は、身体障害者では「友人・知人」（27.3%）、知的障害者では「学校、職場」（29.1%）、精神障害者、難病患者では「病院・診療所」（それぞれ 42.8%、30.5%）、施設入所者では「福祉施設」（58.1%）が最も多くあげられている。また、知的障害者では「総合福祉事務所」（27.2%）も多い。[88 頁]

福祉サービスなどの情報の入手先は、身体障害者、知的障害者、難病患者では「ねりま区報」が最も多く 3～4 割台となっており、施設入所者では「学校、職場、施設」が最も多く 36.2%となっている。また、精神障害者、難病患者では「病院・診療所」（それぞれ 31.5%、27.2%）も多い。[94 頁]

身体障害者はコミュニケーションの際に「携帯/スマートフォンのメール・SNS」（45.2%）を利用している人が多く、コミュニケーションや情報取得のために充実すべきことは、「パソコン/携帯メール・SNS による情報提供を増やす」（28.8%）が最も多い。[101 頁、104 頁]

■障害福祉サービスについて

最近 1 年間に利用した福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」（27.8%）、知的障害者では「移動支援・同行援護」（28.5%）、精神障害者では「病院や診療所のデイケア」（12.2%）、難病患者では「日常生活用具の給付・レンタル」（15.8%）が最も多い。[107 頁]

必要だと思うサービスの利用状況は、いずれの障害者も「十分利用している」と「十分ではないが、ほぼ利用している」を合わせた“利用している”が、「あまり利用していない」と回答した人を上回っている。[112 頁]

必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は、身体障害者、難病患者、精神障害者、児童発達支援事業利用者で「どのようなサービスがあるかわからないから」（それぞれ 48.1%、53.6%、33.3%、57.1%）、知的障害者では「サービスに空きがなく利用できないから」（33.9%）が最も多くあげられている。また、精神障害者では「利用の仕方がわからないから」（33.3%）も多い。[116 頁]

今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」（45.2%）、知的障害者では「移動支援・同行援護」（45.4%）、精神障害者では「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」（18.8%）、難病患者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」（31.4%）、児童発達支援事業利用者では「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」（85.8%）が最も多くあげられている。[117 頁]

■将来について

今後希望する日中の過ごし方は、身体障害者、精神障害者では「自宅で過ごしたい」（それぞれ 41.3%、40.8%）、知的障害者では「一般企業などで働きたい」（27.2%）、施設入所者では「今いる施設で過ごしたい」（69.5%）が最も多い。[136 頁]

希望する暮らし方（5 年後）は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者ともに「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く 5 割～7 割を占めている。「ひとりで暮らしたい」と回答した人は、身体障害者、難病患者が 1 割台であるのに対し、精神障害者では 2 割を超えており、また、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が「家族と一緒に暮らしたい」に次いで多くなっている。施設入所者では「施設に入所したまま暮らしたい」（51.4%）が最も多くあげられているが、「家族と一緒に暮らしたい」も約 1 割を占めている。なお、10 年後、20 年後も、5 年後と同様の傾向にある。[140 頁、143 頁、146 頁]

練馬区での定住意向は、「住み続けたい」が身体障害者は 79.4%、知的障害者は 74.3%、精神障害者は 65.4%、難病患者は 76.6%、児童発達支援事業利用者は 83.5%となっている。施設入所者では練馬区に「住みたい」が 22.9%となっている。[150 頁]

■災害対策について

最寄りの避難拠点の認知度は、身体障害者が 79.4%、知的障害者が 72.4%、精神障害者が 72.1%、難病患者が 80.2%、児童発達支援事業利用者が 83.5%となっている。最寄りの避難拠点を知っている人のうち、自力避難ができると思う人は、身体障害者が 62.1%、知的障害者が 37.0%、精神障害者が 78.8%、難病患者が 72.4%、児童発達支援事業利用者が 88.7%となっている。[153 頁、156 頁]

災害に備えて、または災害時に必要な対策は、いずれの障害でも「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く約 4 割～約 6 割を占めている。[159 頁]

■権利擁護について

障害があることで、差別や人権侵害を受けていると感じている（「いつも感じる」「たまに感じる」の合計）人の割合は、身体障害者が 20.3%、知的障害者が 44.1%、精神障害者が 35.0%、難病患者が 11.8%、施設入所者が 14.3%となっている。また、地域で暮らす上で、障害に対して理解を得られていないと感じている人（「時々得られていないと感じる」「あまり得られていないと感じる」「まったく得られていないと感じる」の合計）の割合は、身体障害者が 40.9%、知的障害者が 57.0%、精神障害者が 47.7%、難病患者が 52.6%となっている。[164 頁、169 頁]

障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なことは、身体障害者、精神障害者では「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」（それぞれ 35.7%、41.7%）、知的障害者では「学校における福祉教育・人権教育を充実する」（50.2%）、施設入所者では「福祉施設が地域住民との交流を進める」（31.4%）が最も多くあげられている。[173 頁]

合理的配慮を求めたことが「ある」のは身体障害者で 26.3%、知的障害者で 19.2%、精神障害者で 18.2%、難病患者で 17.3%、施設入所者で 30.5%、児童発達支援事業利用者で 8.7%となっている。また、合理的配慮を求めたことがある人のうち、合理的配慮を受けることが「できた」のは約 6 割～8 割となっている。[176 頁、180 頁]

成年後見制度の認知度（「知っている」と回答した人）は、身体障害者が 54.8%、知的障害者が 44.9%、精神障害者が 51.9%、難病患者が 62.7%、施設入所者が 24.8%となっているが、成年後見制度を「現在利用している」「今後利用したい」と回答した人は、身体障害者が 11.9%、知的障害者が 26.6%、精神障害者が 13.8%、難病患者が 10.1%、施設入所者が 28.6%となっている。成年後見制度を「利用したいと思わない」理由は、身体障害者、精神障害者、難病患者で「必要がない」が 5 割～6 割となっており、知的障害者では「費用負担が大きい」（36.4%）が最も多い。[188 頁、191 頁、194 頁]

■障害者施策全般について

障害者施策を充実するために必要なことは、身体障害者では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること」（48.3%）、知的障害者では「当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること」（61.2%）、精神障害者では「障害の早期発見・早期療育に努めること」（50.6%）、難病患者では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」（42.9%）、施設入所者では「障害のある人となない人の交流をすすめること、お互いの理解を深めること」（39.0%）、児童発達支援事業利用者では「障害の早期発見・早期療育に努めること」、「障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること」（それぞれ 70.1%）が最も多くあげられている。[200 頁]

■介助・援助者の意向

介助・援助するにあたって困っていることは、身体障害者、知的障害者では「長期的な外出ができない」（それぞれ 23.2%、33.6%）、精神障害者、児童発達支援事業利用者では「精神的な負担が大きい」（それぞれ 20.3%、34.6%）が最も多くあげられている。難病患者の介助・援助者では「介助・援助方法などの情報」（33.1%）が、支援が必要なこととして最も多くあげられている。[208 頁、209 頁]

当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答したのは身体障害者で 27.0%、知的障害者で 37.2%、精神障害者で 15.9%、難病患者で 15.7%、児童発達支援事業利用者で 36.2%となっている。[212 頁]

区に充実してほしい家族等支援施策は、身体障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者で「区からの情報提供を増やす」（それぞれ 29.3%、27.9%、58.3%）、知的障害者で「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」（48.1%）、精神障害者で「家族等に対する相談体制を充実させる」（24.6%）が最も多くなっている。[218 頁]

施設入所者について、今後、地域で暮らすことが「条件が整えば可能だと思う」と回答した介助・援助者は 21.9%で、地域での暮らし方は、「グループホームで共同生活」が 69.6%となっている。[223 頁]

（事業所調査）

■事業所の基本情報

事業所の運営主体は「企業（株式会社・有限会社等）」（33.1%）、所在地は「石神井圏域」（32.0%）、事業所の開始年度は「平成 17 年～25 年」（37.9%）、提供しているサービスは「居宅介護」（33.7%）が最も多くなっている。[228 頁、229 頁]

事業所の定員について、「就労継続支援（B 型）」の平均値は 28.1 人、「共同生活援助（グループホーム）」の平均値は 11.9 人、「放課後等デイサービス」の平均値は 9.8 人となっている。[231 頁]

職員数は常勤、非常勤ともに「5 人未満」が最も多くなっている（それぞれ 47.3%、29.6%）。[233 頁]

経験年数別の職員数は、どの経験年数においても「5 人未満」が最も多くなっている。[235 頁]

■運営状況について

平均的な利用率は、80%未満が 17.8%、8 割台が 18.9%、9 割台が 18.9%、100%以上が 4.1%となっている。[236 頁]

事業の収支状況は、「黒字だった」が 24.9%、「ほぼ収支が均衡した」が 29.6%、「やや赤字だった」が 10.7%、「大幅な赤字だった」が 11.8%となっている。[237 頁]

事業を運営する上での課題は、「スタッフの確保」が最も多く 49.1%、次いで「スタッフの人材育成」が 46.2%となっている。[237 頁]

■人材確保・人材育成について

職員の過不足については、「不足している」と回答した事業所が 6 割を超えており、不足している職員の職種は、「介護職員（ヘルパー）」が最も多く 43.8%、次いで「生活支援員」が 31.3%となっている。[238 頁、239 頁]

職員の不足による運営の支障としては、「利用者の受け入れを減らしている」が最も多く 37.5%、次いで「サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている」が 25.0%となっている。[241 頁]

人材確保のための取組は、「ハローワークを通じて募集した」が最も多く 59.8%となっている。
[244 頁]

人材育成のための取組は、「事業所での研修実施」（77.5%）、過去1年間に参加した研修内容は、「区が実施する集団指導」（65.7%）が最も多くなっている。[245 頁、246 頁]

なお、練馬障害福祉人材育成・研修センターについては、「研修を利用したことがある」と回答した事業所が 75.7%、「知っているが、研修を利用したことはない」が 23.7%となっている。
[246 頁]

■サービスの提供状況について

これまでにサービスを提供しようとしてできなかったことについては、「ある」と回答した事業所は 33.7%となっている。[249 頁]

特定相談支援事業所の指定については、「指定をとる予定はない」（69.3%）と回答した事業所が多く、特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由は、「職員体制が整わない」（49.0%）が最も多くなっている。[250 頁]

提供している介護保険サービスの種類は、「訪問サービス」が最も多く 31.4%となっている。
[251 頁]

共生型サービスの指定については、「既に指定を受けている」が 6.5%、「指定を受ける予定はない」が 74.8%となっている一方で、指定を取る予定のある共生型サービスの種類については、「ホームヘルプ（訪問介護）」（50.0%）が最も多くなっている。[252 頁]

今後、新たに展開しようとしているサービスは、「就労継続支援（B 型）」が 5.9%、「共同生活援助（グループホーム）」が 4.7%となっている。[253 頁]

■サービス向上のための取組について

サービス向上のために行っている取組は、「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」が 77.5%と最も多く、次いで「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が 72.2%となっている。[254 頁]

利用者やご家族からの苦情や要望は、「利用できる回数や日数が少ない」が 16.6%、「利用日などが希望通りにならない」、「サービス内容に不満がある」がともに 16.0%となっている。また、「特に苦情や要望を受けることはない」が 39.6%と最も多くなっている。[255 頁]

利用者の高齢化・重度化については、「利用者の高齢化が進んでいる」と回答した事業所は 51.5%、「利用者の障害の重度化が進んでいる」と回答した事業所が 30.2%となっており、利用者の高齢化・重度化に伴い高まってきているニーズは、「医療機関・関係機関との連携強化」（56.8%）が最も多くなっている。[256 頁、257 頁]

問題が生じた場合の相談先は、「練馬区」（80.5%）が最も多くなっており、問題が生じた場合の相談内容は、「困難な事例への対応に関すること」が 59.8%と最も多くなっている。[258 頁、259 頁]

■その他

コンプライアンスの取組は、「職員に対して、コンプライアンス教育を行っている」と回答した事業所が最も多く 53.8%、次いで「定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている」が 24.9%と続いている。[260 頁]

大規模災害時を想定した利用者の安否確認等の取組は、「定期的に防災訓練を実施している」が 59.2%と最も多く、次いで「ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している」が 49.1%となっている。[261 頁]

Ⅲ 調査結果の詳細（障害者調査）

1 基本属性

（１） 性別

本調査における回答者の性別は、身体障害者では「男性」が 52.5%、「女性」が 44.9%である。

知的障害者は、「男性」が 60.5%、「女性」が 38.8%である。

精神障害者は、「男性」が 41.2%、「女性」が 57.4%である。

難病患者は、「男性」が 40.0%、「女性」が 59.2%である。

施設入所者は、「男性」が 62.9%、「女性」が 37.1%である。

児童発達支援事業利用者は、「男性」が 70.9%、「女性」が 29.1%である。

（単位：％）

区 分	n	男性	女性	無回答
身体障害者	659	52.5	44.9	2.6
知的障害者	474	60.5	38.8	0.6
精神障害者	451	41.2	57.4	1.3
難病患者	475	40.0	59.2	0.8
施設入所者	105	62.9	37.1	－
児童発達支援事業利用者	127	70.9	29.1	－

（２） 年齢

身体障害者の平均年齢は、57.6 歳である。

知的障害者の平均年齢は、28.0 歳である。

精神障害者の平均年齢は、49.7 歳である。

難病患者の平均年齢は、61.2 歳である。

施設入所者の平均年齢は、52.9 歳である。

児童発達支援事業利用者の平均年齢は、4.2 歳である。

（単位：％）

区 分	n	10 歳未満	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	659	1.8	7.6	2.9	4.6	10.8	19.3	17.9	32.3	2.9	57.6 歳
知的障害者	474	9.3	28.1	20.3	15.0	14.1	8.2	2.5	0.8	1.7	28.0 歳
精神障害者	451	－	0.9	8.2	15.1	27.5	21.5	14.9	10.4	1.6	49.7 歳
難病患者	475	0.2	0.6	4.2	7.6	12.4	15.8	21.1	37.7	0.4	61.2 歳
施設入所者	105	－	－	3.8	5.7	29.5	33.3	17.1	8.6	1.9	52.9 歳

（単位：％）

区 分	n	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	無回答	平均年齢
児童発達支援事業利用者	127	－	－	7.9	25.2	23.6	18.9	21.3	3.1	4.2 歳

年齢3区別にみると、身体障害者では「0～17歳」が8.8%、「18～64歳」が51.4%、「65歳以上」が36.9%である。

知的障害者では、「0～17歳」が34.0%、「18～64歳」が62.9%、「65歳以上」が1.5%である。

精神障害者では、「0～17歳」が0.4%、「18～64歳」が81.8%、「65歳以上」が16.2%である。

難病患者では、「0～17歳」が0.4%、「18～64歳」が51.6%、「65歳以上」が47.6%である。

施設入所者では、「18～64歳」が83.8%、「65歳以上」が14.3%である。

(単位：%)

区 分	n	0～17歳	18～64歳	65歳以上	無回答
身体障害者	659	8.8	51.4	36.9	2.9
知的障害者	474	34.0	62.9	1.5	1.7
精神障害者	451	0.4	81.8	16.2	1.6
難病患者	475	0.4	51.6	47.6	0.4
施設入所者	105	-	83.8	14.3	1.9

(3) 調査票の記入者

調査票の記入者は、身体障害者では「本人が自分一人で記入」が64.6%である。

知的障害者では、「本人の意向を考えながら家族や介助者が記入」が58.9%である。

精神障害者では、「本人が自分一人で記入」が88.0%である。

難病患者では、「本人が自分一人で記入」が81.7%である。

施設入所者では、「本人の意向を考えながら家族や職員が記入」が67.6%である。

児童発達支援事業利用者では、「母親」が95.3%である。

(単位：%)

区 分	n	本人が自分一人で記入	本人に聞いて家族や介助者が代筆	本人の意向を考えながら家族や介助者が記入	無回答
身体障害者	659	64.6	18.1	15.6	1.7
知的障害者	474	19.6	19.8	58.9	1.7
精神障害者	451	88.0	6.2	4.0	1.8
難病患者	475	81.7	10.1	7.6	0.6
施設入所者	105	10.5	21.9	67.6	-

(単位：%)

区 分	n	父親	母親	祖父	祖母	その他	無回答
児童発達支援事業利用者	127	2.4	95.3	-	2.4	-	-

(4) 居住形態、施設入所期間（施設入所者のみ）

現在の居住形態は、身体障害者では「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く 41.7%、次いで「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が 24.7%である。

知的障害者では、「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く 50.2%、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が 17.3%である。

精神障害者では、「アパート、賃貸マンション、借家」が最も多く 38.6%、次いで「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が 25.7%である。

難病患者では、「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が最も多く 51.2%、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が 21.9%である。

(単位：%)

区 分	n	自分の持ち家 (購入マンションも含む)	親など家族の持ち家 (購入マンションも含む)	公営住宅	アパート、賃貸マンション、借家	グループホーム	社宅、会社の寮	福祉施設	病院に入院している	その他	無回答
身体障害者	659	41.7	24.7	9.1	20.3	0.3	0.3	2.3	1.1	-	0.2
知的障害者	474	10.5	50.2	8.4	17.3	8.4	1.9	2.1	0.6	-	0.4
精神障害者	451	19.7	25.7	10.6	38.6	2.9	1.3	0.4	0.2	0.2	0.2
難病患者	475	51.2	15.8	5.9	21.9	1.1	1.3	0.8	1.7	-	0.4

施設入所者の入所期間は、「10 年以上」が最も多く 61.0%、次いで「1 年以上 5 年未満」が 22.9%、「5 年以上 10 年未満」が 9.5%となっている。

(単位：%)

区 分	n	1 年未満	1 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上	無回答
施設入所者	105	4.8	22.9	9.5	61.0	1.9

入所している施設の場所は、「東京都外」が最も多く 54.3%、次いで「東京都内」が 25.7%、「練馬区内」が 16.2%となっている。

(単位：%)

区 分	n	練馬区内	23 区内 (練馬区を除く)	東京都内	東京都外	無回答
施設入所者	105	16.2	2.9	25.7	54.3	1.0

(5) 同居者（複数回答）

同居者は、身体障害者では「配偶者（夫または妻）」が最も多く 41.3%、次いで「父、母」が 32.3%で続いている。なお、17.8%が一人暮らしである。

知的障害者では、「父、母」が 82.5%、「兄弟、姉妹」が 42.2%である。

精神障害者では、「自分一人だけで暮らしている」が最も多く 31.9%、次いで「父、母」が 29.0%、「配偶者（夫または妻）」が 27.1%と続いている。

難病患者では、「配偶者（夫または妻）」が最も多く 62.5%、次いで「息子、娘（息子または娘の配偶者も含む）」が 32.4%となっている。

児童発達支援事業利用者では「母親」が 98.4%、「父親」が 93.7%、「兄弟、姉妹」が 50.4%となっている。

（単位：％）

区 分	n	自分一人だけで暮らしている	配偶者	息子、娘	父、母	祖父、祖母	兄弟、姉妹	その他	グループホーム等での集団生活	無回答
身体障害者	659	17.8	41.3	22.8	32.3	0.6	12.7	1.7	1.8	0.5
知的障害者	474	3.8	1.5	1.7	82.5	5.9	42.2	2.3	9.3	-
精神障害者	451	31.9	27.1	20.2	29.0	0.7	9.8	2.4	2.7	0.2
難病患者	475	14.9	62.5	32.4	12.8	0.8	5.7	2.7	1.9	-

（単位：％）

区 分	n	父親	母親	祖父	祖母	兄弟、姉妹	その他	無回答
児童発達支援事業利用者	127	93.7	98.4	7.9	5.5	50.4	1.6	-

(6) 収入源（複数回答）

収入源は、身体障害者では「年金・手当」が最も多く 63.6%、「就労による収入」が 26.7%である。

知的障害者では、「年金・手当」が最も多く 54.4%、次いで「就労による収入」が 29.3%である。

精神障害者では、「年金・手当」が最も多く 45.7%、次いで「就労による収入」が 36.6%である。

難病患者では、「年金・手当」が最も多く 50.5%、次いで「就労による収入」が 38.3%である。

施設入所者では、「年金・手当」が最も多く 90.5%である。

（単位：％）

区 分	n	就労による収入	年金・手当	生活保護費	家族などからの仕送り	その他	収入はない	無回答
身体障害者	659	26.7	63.6	7.4	2.1	3.9	13.8	1.1
知的障害者	474	29.3	54.4	5.1	28.1	0.2	22.4	0.4
精神障害者	451	36.6	45.7	24.6	4.2	4.2	10.2	1.8
難病患者	475	38.3	50.5	3.8	2.7	4.0	12.0	0.4
施設入所者	105	12.4	90.5	2.9	5.7	-	1.0	4.8

(7) 主な生計維持者

① 主な生計維持者

主な生計維持者は、身体障害者では「本人」が最も多く 45.8%となっている。

知的障害者では、「父」が最も多く 66.2%となっている。

精神障害者では、「本人」が最も多く 45.7%となっている。

難病患者では、「本人」が最も多く 45.3%となっている。

(単位：%)

区 分	n	本人	配偶者 (夫・妻)	父	母	子	祖父・ 祖母	兄弟・ 姉妹	その他	無回答
身体障害者	659	45.8	19.3	19.1	4.9	3.6	0.2	1.8	1.2	4.1
知的障害者	474	8.6	0.8	66.2	16.9	—	0.2	2.5	1.1	3.6
精神障害者	451	45.7	18.4	14.9	9.8	2.2	—	4.2	1.3	3.5
難病患者	475	45.3	37.3	4.4	3.4	6.1	0.2	0.8	0.4	2.1

② 父親の年齢（父親が主な生計維持者）

父親が主な生計維持者の場合の父親の年齢は、身体障害者では「70 歳以上」が最も多く 29.4%となっている。

知的障害者では、「50 歳代」が最も多く 30.9%となっている。

精神障害者では、「70 歳以上」が最も多く 46.3%となっている。

(単位：%)

区 分	n	30 歳 未満	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上	無回答	平均年齢
身体障害者	126	0.8	7.1	19.8	19.8	20.6	29.4	2.4	60.6 歳
知的障害者	314	0.3	4.5	22.9	30.9	20.1	19.1	2.2	58.0 歳
精神障害者	67	—	—	1.5	25.4	22.4	46.3	4.5	67.7 歳
難病患者	21	—	4.8	4.8	23.8	42.9	19.0	4.8	62.7 歳

③ 母親の年齢（母親が主な生計維持者）

母親が主な生計維持者の場合の母親の年齢は、知的障害者では「70 歳以上」が最も多く 30.0%となっている。

(単位：%)

区 分	n	30 歳 未満	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上	無回答	平均年齢
身体障害者	32	—	—	—	15.6	6.3	68.8	9.4	75.6 歳
知的障害者	80	—	6.3	12.5	26.3	21.3	30.0	3.8	61.5 歳
精神障害者	44	—	—	—	11.4	13.6	70.5	4.5	76.1 歳
難病患者	16	—	—	18.8	6.3	6.3	68.8	—	71.7 歳

（８） 障害の程度

① 障害の程度

身体障害者の障害の程度は、「１級」が36.9%、「２級」が19.4%、「３級」が12.9%、「４級」が16.1%、「５級」が6.7%、「６級」が5.3%である。施設入所者では、「１級」(54.3%)、「２級」(22.9%)が多い。

(単位：%)

区 分	n	１級	２級	３級	４級	５級	６級	無回答
身体障害者	659	36.9	19.4	12.9	16.1	6.7	5.3	2.7
知的障害者	94	55.3	23.4	7.4	4.3	3.2	5.3	1.1
精神障害者	19	15.8	26.3	21.1	15.8	5.3	5.3	10.5
難病患者	85	24.7	21.2	25.9	15.3	7.1	－	5.9
施設入所者	35	54.3	22.9	8.6	5.7	2.9	－	5.7
児童発達支援 事業利用者	9	55.6	33.3	11.1	－	－	－	－

知的障害者の障害の程度は、「１度」が9.3%、「２度」が24.9%、「３度」が24.5%、「４度」が38.2%である。施設入所者では、「２度」(61.8%)が多い。

(単位：%)

区 分	n	１度	２度	３度	４度	無回答
身体障害者	78	19.2	28.2	20.5	24.4	7.7
知的障害者	474	9.3	24.9	24.5	38.2	3.2
精神障害者	30	6.7	－	43.3	46.7	3.3
難病患者	6	－	－	16.7	66.7	16.7
施設入所者	89	6.7	61.8	15.7	12.4	3.4
児童発達支援 事業利用者	29	－	6.9	37.9	55.2	－

精神障害者(451人)のうち、精神障害者保健福祉手帳所持者(228人)の障害の程度は、「１級」が3.1%、「２級」が53.1%、「３級」が39.5%である。

(単位：%)

区 分	n	１級	２級	３級	無回答
身体障害者	30	30.0	40.0	23.3	6.7
知的障害者	13	15.4	46.2	38.5	－
精神障害者	228	3.1	53.1	39.5	4.4
難病患者	6	33.3	50.0	16.7	－
施設入所者	2	50.0	50.0	－	－

②重複障害の状況

回答者の手帳の所持状況等により障害の重複状況をみると、身体障害者で16.0%、知的障害者で22.1%、精神障害者で9.7%、難病患者で1.0%、施設入所者で19.1%となっている。

(単位：%)

区 分	n	身体障害のみ	身体・知的の重複	身体・精神の重複	身体・知的・精神の重複	無回答
身体障害者	659	74.2	11.5	4.2	0.3	9.7

(単位：%)

区 分	n	知的障害のみ	知的・身体の重複	知的・精神の重複	知的・身体・精神の重複	無回答
知的障害者	474	63.5	19.4	2.3	0.4	14.3

(単位：%)

区 分	n	精神障害のみ		精神・身体 の重複	精神・知的 の重複	精神・身体・ 知的の重複	無回答
		手帳あり	手帳なし				
精神障害者	451	47.5	38.1	3.1	5.5	1.1	4.7

(単位：%)

区 分	n	手帳 なし	手帳あり						無回 答
			身体 のみ	知的 のみ	精神 のみ	身体・知的 の重複	身体・精神 の重複	知的・精神 の重複	
難病患者	475	74.1	17.1	0.4	0.8	0.6	0.2	0.2	6.5

(単位：%)

区 分	n	身体障害 のみ	知的障害 のみ	身体・知的 の重複	身体・精神 の重複	身体・知的・ 精神の重複	無回答
施設入所者	105	14.3	66.7	17.1	1.0	1.0	-

(9) 障害の種類等

① 身体障害者の障害の種類

身体障害者手帳の1番目に記載された障害の種類は、身体障害者では「肢体不自由（上肢、下肢等）」が最も多く28.5%、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害）」(26.4%)もほぼ同じ割合を占めている。次いで「視覚障害」が14.7%、「聴覚障害」が14.3%と続いている。

(単位：%)

区 分	n	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そし やく機能の障 害	肢体不 自由(上 肢、下肢 等)	肢体不 自由 (体幹)	内部 障害	その他	無回答
身体障害者	659	14.7	14.3	0.5	3.3	28.5	6.7	26.4	0.8	4.9
知的障害者	94	1.1	4.3	—	—	47.9	23.4	9.6	1.1	12.8
精神障害者	19	—	5.3	5.3	—	36.8	—	5.3	—	47.4
施設入所者	35	2.9	5.7	—	—	48.6	22.9	5.7	—	14.3
児童発達支援 事業利用者	9	—	11.1	—	—	44.4	11.1	11.1	—	22.2

身体障害者手帳の2番目に記載された障害の種類は、身体障害者では「肢体不自由（体幹）」が最も多く39.3%、次いで「肢体不自由（上肢、下肢等）」が23.8%と続いている。

(単位：%)

区 分	n	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そし やく機能の障 害	肢体不 自由(上 肢、下肢 等)	肢体不 自由 (体幹)	内部 障害	その他	無回答
身体障害者	84	4.8	6.0	1.2	8.3	23.8	39.3	13.1	3.6	
知的障害者	28	—	3.6	—	7.1	17.9	64.3	3.6	3.6	
精神障害者	5	—	—	—	—	40.0	60.0	—	—	
施設入所者	6	—	16.7	—	—	33.3	16.7	16.7	16.7	
児童発達支援 事業利用者	2	—	—	—	—	—	100.0	—	—	

② 精神障害者の診断名（複数回答）

精神障害者の診断名は、「気分障害（うつ病、躁うつ病など）」が最も多く53.0%、次いで「統合失調症」が22.4%、「発達障害」が15.3%と続いている。

(単位：%)

区 分	n	統合失調症	気分障害	依存症	認知症	高次脳機能障害	発達障害	パーソナリティ障害	摂食障害	その他	難病	無回答
精神障害者	451	22.4	53.0	4.2	1.6	1.6	15.3	1.3	2.9	16.4	2.9	4.9

※「気分障害（うつ病、躁うつ病など）」、「依存症（薬物、アルコールなど）」、「認知症（アルツハイマー、血管性、その他を含む）」、「発達障害（自閉症、ADHD、学習障害、アスペルガー症候群など）」、「摂食障害（拒食症、過食症など）」を略している。

※精神障害者の分類

この報告書において、各設問のクロス集計を行う際に、疾患別により傾向を比較する場合には、上記の表の区分に基づき、「統合失調症」、「気分障害」、「発達障害」、それ以外の区分をまとめた「その他」の4つのカテゴリーに分類している。

③ 難病患者の疾患名

難病患者が罹患している疾患を疾患群別に整理すると、「神経・筋疾患」（27.4%）、「消化器系疾患」（24.6%）、「免疫系疾患」（22.3%）が多くなっている。なお、複数の難病を罹患している場合があるため、個別疾患の割合を足し上げると100%を超える。

(単位：%)

n 475	神経・筋疾患	代謝系疾患	皮膚・結合組織疾患	免疫系疾患	循環器系疾患	血液系疾患	腎・泌尿器系疾患	骨・関節系疾患
	27.4	0.6	1.7	22.3	1.3	3.2	4.0	5.9
	内分泌系疾患	呼吸器系疾患	視覚系疾患	聴覚・平衡機能系疾患	消化器系疾患	染色体または遺伝子に変化を伴う症候群	耳鼻科系疾患	無回答
	4.0	3.4	2.7	-	24.6	-	-	1.3

【神経・筋疾患】

(単位：%)

球脊髄性筋萎縮症	筋萎縮性側索硬化症	脊髄性筋萎縮症	進行性核上性麻痺	パーキンソン病	大脳皮質基底核変性症	シャルコー・マリー・トゥース病	重症筋無力症	多発性硬化症／視神経脊髄炎
0.6	0.4	0.4	1.1	13.7	0.4	0.2	2.9	2.5
慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	多系統萎縮症	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）	もやもや病	先天性ミオパチー	アトピー性脊髄炎	前頭側頭葉変性症	先天性無痛無汗症	*母斑症
0.4	1.1	1.3	1.5	0.2	0.2	0.6	0.2	0.2

「原発性側索硬化症」「ハンチントン病」「神経有棘赤血球症」「先天性筋無力症候群」「封入体筋炎」「クロウ・深瀬症候群」「プリオン病」「亜急性硬化性全脳炎」「進行性多巣性白質脳症」「HTLV-1関連脊髄症」「特発性基底核石灰化症」「ウルリッヒ病」「遠位型ミオパチー」「ベスレムミオパチー」「自己食空胞性ミオパチー」「シュワルツ・ヤンベル症候群」「マリネスコ・シェーグレン症候群」「筋ジストロフィー」「非ジストロフィー性ミオトニー症候群」「遺伝性周期性四肢麻痺」「脊髄空洞症」「脊髄髄膜瘤」「アイザックス症候群」「遺伝性ジストニア」「神経フェリチン症」「脳表ヘモジドリン沈着症」「禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症」「皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症」「神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症」「ペリー症候群」「ピッカーstaff脳幹脳炎」「痙攣重積型（二相性）急性脳症」「アレキサンダー病」「先天性核上性球麻痺」「メビウス症候群」「アイカルディ症候群」「片側巨脳症」「限局性皮質異形成」「神経細胞移動異常症」「先天性大脳白質形成不全症」「ドラベ症候群」「海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん」「ミオクロニー欠伸てんかん」「ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん」「レノックス・ガストー症候群」「ウエスト症候群」「大田原症候群」「早期ミオクロニー脳症」「遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん」「片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群」「環状20番染色体症候群」「ラスムッセン脳炎」「PCDH19関連症候群」「難治頻回部分発作重積型急性脳炎」「徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症」「ランドウ・クレフナー症候群」「レット症候群」「スタージ・ウェーバー症候群」「結節性硬化症」「色素性乾皮症」「ジュベール症候群関連疾患」「アンジェルマン症候群」「カナバン病」「進行性白質脳症」「進行性ミオクロノスアテんかん」「先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症」は回答がなかったため掲載していない。

*「母斑症」は正式には「母斑症（指定難病の結節性硬化症、スタージ・ウェーバー症候群及びクリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群を除く）」。

【免疫系疾患】

(単位：%)

高安動脈炎	巨細胞性動脈炎	結節性多発動脈炎	顕微鏡的多発血管炎	多発血管炎性肉芽腫症	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	バージャー病	原発性抗リン脂質抗体症候群	全身性エリテマトーデス	皮膚筋炎／多発性筋炎
0.8	0.2	0.2	0.8	0.2	1.5	0.2	0.2	7.4	3.2
混合性結合組織病	シェーグレン症候群	再発性多発軟骨炎	ベーチェット病	若年性特発性関節炎	TNF受容体関連周期性症候群	IgG4関連疾患	好酸球性副鼻腔炎		
1.1	2.7	0.4	1.7	0.2	0.2	0.4	1.3		

「悪性関節リウマチ」「成人スチル病」「ブラウ症候群」「家族性地中海熱」「高IgD症候群」「中條・西村症候群」「化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群」「自己免疫性後天性凝固因子欠乏症」「クリオピリン関連周期性熱症候群」「遺伝性自己炎症疾患」「古典的特発性好酸球増多症候群」は回答がなかったため掲載していない。

【消化器系疾患】

(単位：％)

特発性門脈圧亢進症	原発性胆汁性胆管炎	原発性硬化性胆管炎	自己免疫性肝炎	クローン病	潰瘍性大腸炎
0.2	3.2	0.8	2.1	4.0	15.4

「バッド・キアリ症候群」「好酸球性消化管疾患」「慢性特発性偽性腸閉塞症」「巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症」「腸管神経節細胞減少症」「クローンカイト・カナダ症候群」「非特異性多発性小腸潰瘍症」「ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）」「総排泄腔外反症」「総排泄腔遺残」「乳幼児肝巨大血管腫」「胆道閉鎖症」「遺伝性膵炎」「嚢胞性線維症」「肝内結石症」は回答がなかったため掲載していない。

【その他】

(単位：％)

全身性アミロイドーシス	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	フェニルケトン尿症	神経線維腫症	全身性強皮症	特発性拡張型心筋症	再生不良性貧血	自己免疫性溶血性貧血	発作性夜間へモグロビン尿症
0.2	0.2	0.2	0.2	1.5	1.3	0.4	0.2	0.2
特発性血小板減少性紫斑病	原発性免疫不全症候群	特発性多中心性キヤッスルマン病	I g A腎症	多発性嚢胞腎	一次性ネフローゼ症候群	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	黄色靱帯骨化症	後縦靱帯骨化症
1.9	0.2	0.2	0.6	1.7	1.5	0.2	0.8	3.6
広範脊柱管狭窄症	特発性大腿骨頭壊死症	強直性脊椎炎	軟骨無形成症	下垂体性PRL分泌亢進症	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	下垂体前葉機能低下症	先天性副腎皮質酵素欠損症	副甲状腺機能低下症
0.4	0.8	0.2	0.2	0.8	0.8	1.9	0.4	0.2
副腎皮質刺激ホルモン不応症	サルコイドーシス	特発性間質性肺炎	肺動脈性肺高血圧症	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	網膜色素変性症			
0.2	1.1	0.6	0.4	1.3	2.7			

「ライソゾーム病」「副腎白質ジストロフィー」「ミトコンドリア病」「メンケス病」「ウィルソン病」「ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く）」「高チロシン血症1型」「高チロシン血症2型」「高チロシン血症3型」「メーブルシロップ尿症」「プロピオン酸血症」「メチルマロン酸血症」「イソ吉草酸血症」「グルコーストランスポーター1欠損症」「グルタル酸血症1型」「グルタル酸血症2型」「尿素サイクル異常症」「リジン尿性蛋白不耐症」「先天性葉酸吸収不全」「ボルフィリン症」「複合カルボキシラーゼ欠損症」「筋型糖原病」「肝型糖原病」「ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症」「レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症」「シトステロール血症」「タンジール病」「原発性高カイロミクロン血症」「脳髄黄色腫症」「無βリボタンパク血症」「脂肪萎縮症」「カルニチン回路異常症」「三頭酵素欠損症」「シトリン欠損症」「セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症」「非ケトosis型高グリシン血症」「β-ケトチオラーゼ欠損症」「芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症」「メチルグルタコン酸尿症」「大理石骨病」「天疱瘡」「表皮水疱症」「膿疱性乾癬（汎発型）」「スティーマー・ジョンソン症候群」「中毒性表皮壊死症」「先天性魚鱗癬」「家族性良性慢性天疱瘡」「類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）」「特発性後天性全身性無汗症」「弾性線維性仮性黄色腫」「マルファン症候群」「エーラス・ダンロス症候群」「オクシタル・ホーレン症候群」「肥大型心筋症」「拘束型心筋症」「総動脈幹遺残症」「修正大血管転位症」「完全大血管転位症」「単心室症」「左心低形成症候群」「三尖弁閉鎖症」「心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症」「心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症」「ファロー四徴症」「両大血管右室起始症」「エプスタイン病」「巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）」「巨大動脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）」「クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群」「先天性三尖弁狭窄症」「先天性僧帽弁狭窄症」「先天性肺静脈狭窄症」「左肺動脈右肺動脈起始症」「悪性高血圧」「遺伝性QT延長症候群」「血栓性血小板減少性紫斑病」「先天性赤血球形成異常性貧血」「後天性赤芽球癆」「ダイヤモンド・ブラックファン貧血」「ファンconi貧血」「遺伝性鉄芽球性貧血」「特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）」「非典型性溶血性尿毒症症候群」「アルポート症候群」「ギャロウェイ・モフト症候群」「急速進行性糸球体腎炎」「抗糸球体基底膜腎炎」「紫斑病性腎炎」「先天性腎性尿崩症」「間質性膀胱炎（ハンナ型）」「ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）/LMX1B関連腎症」「低ホスファターゼ症」「ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症」「慢性再発性多発性骨髄炎」「進行性骨化性線維異形成症」「肋骨異常を伴う先天性側弯症」「骨形成不全症」「タナトフォリック骨異形成症」「下垂体性ADH分泌異常症」「下垂体性TSH分泌亢進症」「クッシング病」「下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症」「甲状腺ホルモン不応症」「先天性副腎低形成症」「アジソン病」「ウォルフラム症候群」「偽性副甲状腺機能低下症」「ビタミンD依存性くる病/骨軟化症」「肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症」「リンパ脈管筋腫症」「閉塞性細気管支炎」「肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）」「肺胞低換気症候群」「α1-アンチトリプシン欠乏症」「リンパ管腫症/ゴーム病」「巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）」「先天性横隔膜ヘルニア」「先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症」「中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群」「眼皮膚白皮症」「黄斑ジストロフィー」「レーベル遺伝性視神経症」「アッシャー症候群」「前眼部形成異常」「無虹彩症」「膠様滴角膜ジストロフィー」「網膜脈絡膜萎縮症」「鯉耳腎症候群」「ルビンシュタイン・ティビ症候群」「CFC症候群」「コストロ症候群」「チャージ症候群」「肥厚性皮膚骨膜症」「VATER症候群」「那須ハコラ病」「ウィーバー症候群」「コフィン・ローリー症候群」「モワット・ウィルソン症候群」「ウィリアムズ症候群」「ATRX症候群」「クルーゼン症候群」「アペール症候群」「ファイファー症候群」「アントレー・ビクスラー症候群」「コフィン・シリス症候群」「ロスマンド・トムソン症候群」「歌舞伎症候群」「多脾症候群」「無脾症候群」「ウェルナー症候群」「コケイン症候群」「ブラダー・ウィリ症候群」「ソトス症候群」「ヌーナン症候群」「ヤング・シンプソン症候群」「1p36欠失症候群」「4p欠失症候群」「5p欠失症候群」「第14番染色体父親性ダイソミー症候群」「スミス・マギニス症候群」「22q11.2欠失症候群」「エマヌエル症候群」「脆弱X症候群関連疾患」「脆弱X症候群」「オスラー病」「カーニー複合」「エプスタイン症候群」「アラジール症候群」「先天異常症候群」「ハッチンソン・ギルフォード症候群」「若年発症型両側性感音難聴」「遅発性内リンパ水腫」は回答がなかったため掲載していない。

なお、各疾患群の中で重複回答があるため、個別疾患の%の足し上げは疾患群ごとの%と一致しない。

(10) 手帳を取得した年齢、精神疾患・難病の発症年齢等

身体障害者手帳を取得した年齢は、身体障害者では「60 歳以上」が最も多く 26.6%、次いで「10 歳未満」が 21.4%と続いている。施設入所者では、「10 歳未満」が最も多く 20.0%となっている。

愛の手帳を取得した年齢は、知的障害者では「10 歳未満」が最も多く 52.1%、次いで「10 歳代」が 30.4%となっている。施設入所者では、「10 歳代」が最も多く 23.6%、次いで「20 歳代」が 19.1%で続いている。

児童発達支援事業利用者では、身体障害者手帳を取得した年齢は「1 歳」と「3 歳」がともに 33.3%となっており、愛の手帳を取得した年齢は「3 歳」が最も多く 48.3%となっている。

(単位：%)

区 分	n	10 歳未満	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	659	21.4	6.4	5.5	7.1	11.7	15.2	26.6	6.2	39.9 歳
知的障害者	474	52.1	30.4	4.2	2.5	1.3	0.4	0.2	8.9	10.4 歳
施設入所者										
身体障害者手帳	35	20.0	11.4	8.6	14.3	17.1	5.7	2.9	20.0	26.4 歳
愛の手帳	89	16.9	23.6	19.1	10.1	2.2	2.2	—	25.8	20.0 歳

(単位：%)

区 分	n	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	無回答	平均年齢
児童発達支援事業利用者										
身体障害者手帳	9	—	33.3	22.2	33.3	—	—	—	11.1	2.0 歳
愛の手帳	29	—	13.8	24.1	48.3	10.3	3.4	—	—	2.7 歳

精神疾患の発症年齢は、「20 歳代」が最も多く 25.7%、次いで「30 歳代」が 20.8%となっている。

(単位：%)

区 分	n	10 歳未満	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	無回答	平均年齢
精神疾患の発症年齢	451	3.5	16.2	25.7	20.8	15.1	9.1	3.8	5.8	31.5 歳

難病の発症年齢は、「60 歳以上」が最も多く 29.5%、次いで「50 歳代」が 18.1%、「40 歳代」が 14.1%で続いている。平均年齢は 47.7 歳である。

また、医療費助成の申請年齢は「60 歳以上」が最も多く 32.0%となっている。

(単位：%)

区 分	n	10 歳未満	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	無回答	平均年齢
難病の発症年齢	475	2.9	4.2	10.5	13.1	14.1	18.1	29.5	7.6	47.7 歳
医療費助成の申請年齢	475	1.3	3.6	8.4	10.5	13.7	15.6	32.0	14.9	50.6 歳

(11) 障害支援区分認定の状況

障害支援区分の認定を「受けている」と回答した人は、身体障害者が 14.6%、知的障害者が 39.5%、精神障害者が 19.1%、難病患者が 13.9%、施設入所者が 91.4%となっている。

(単位：%)

区 分	n	受けている	受けていない	無回答
身体障害者	659	14.6	65.1	20.3
知的障害者	474	39.5	40.5	20.0
精神障害者	451	19.1	59.6	21.3
難病患者	475	13.9	67.6	18.5
施設入所者	105	91.4	1.0	7.6

障害支援区分の認定を「受けている」と回答した人の障害支援区分は、身体障害者、知的障害者、施設入所者では「区分6」が最も多くそれぞれ 21.9%、25.7%、56.3%となっており、精神障害者、難病患者では「区分2」が最も多くそれぞれ 19.8%、19.7%となっている。

(単位：%)

区 分	n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	無回答
身体障害者	96	10.4	10.4	9.4	5.2	11.5	21.9	31.3
知的障害者	187	3.7	12.8	17.1	17.1	16.0	25.7	7.5
精神障害者	86	9.3	19.8	15.1	3.5	3.5	1.2	47.7
難病患者	66	12.1	19.7	16.7	6.1	3.0	4.5	37.9
施設入所者	96	-	1.0	2.1	9.4	29.2	56.3	2.1

(12) 発達障害、高次脳機能障害、難病等の診断状況（複数回答）

「発達障害（広汎性発達障害、ADHD、LDなど）」と診断されたことがある人は、知的障害者で 38.0%、児童発達支援事業利用者で 48.8%である。

「高次脳機能障害」と診断されたことがある人は、施設入所者で 3.8%である。

「難病」と診断されたことがある人は、身体障害者で 13.1%である。

(単位：%)

区 分	n	発達障害	高次脳機能障害	難病	特にない	無回答
身体障害者	659	1.7	5.2	13.1	70.3	10.3
知的障害者	474	38.0	1.9	7.8	43.5	10.5
施設入所者	105	22.9	3.8	1.9	45.7	25.7
児童発達支援事業利用者	127	48.8	-	4.7	39.4	7.1

(13) 医療的ケアの状況

医療的ケアが「必要」と回答した人は、身体障害者で 14.0%、知的障害者で 10.3%、難病患者で 10.5%となっている。

(単位：%)

区 分	n	必要	必要ではない	無回答
身体障害者	659	14.0	76.9	9.1
知的障害者	474	10.3	83.3	6.3
精神障害者	451	6.2	77.6	16.2
難病患者	475	10.5	83.6	5.9
施設入所者	105	7.6	84.8	7.6
児童発達支援事業利用者	127	2.4	93.7	3.9

医療的ケアの状況についてみると、身体障害者では「たん等の吸引」が 18.5%、「吸入」が 17.4%となっている。

知的障害者では「たん等の吸引」が 40.8%、「吸入」が 30.6%、「胃ろう」が 28.6%となっている。

難病患者では「経管栄養」が 20.0%となっている。

「その他」では「人工透析」、「服薬管理」、「インスリン注射」などが挙げられている。

(単位：%)

区 分	n	経管 栄養	胃ろう	腸ろう	たん等 の吸引	吸入	気管カ ニユー レ	導尿	その他	無回答
身体障害者	92	8.7	12.0	4.3	18.5	17.4	10.9	13.0	60.9	2.2
知的障害者	49	18.4	28.6	－	40.8	30.6	10.2	12.2	44.9	8.2
精神障害者	28	3.6	－	－	3.6	14.3	－	－	39.3	42.9
難病患者	50	20.0	14.0	－	18.0	10.0	6.0	14.0	34.0	20.0
施設入所者	8	－	12.5	－	12.5	－	－	12.5	50.0	25.0
児童発達支援事業利用者	3	33.3	－	－	33.3	33.3	33.3	－	33.3	－

※ベース：医療的ケアが必要と回答した人

2 介助・援助の状況について

(1) 介助・援助者

① 介助・援助者（複数回答）

身体障害者では、43.1%が「とくに介助等は受けていない」状況にあるが、主な介助・援助者としては「父、母」が最も多く21.2%、次いで「配偶者（夫または妻）」が17.8%である。

知的障害者では、「おとうさん、おかあさん」が最も多く78.5%となっている。

精神障害者では、48.8%が「とくに介助等は受けていない」状況にあるが、主な介助・援助者としては「父、母」が最も多く21.1%、次いで「配偶者（夫または妻）」が11.3%である。

難病患者では、59.6%が「とくに介助等は受けていない」状況にあるが、主な介助・援助者としては「配偶者（夫または妻）」が最も多く22.3%、次いで「息子、娘（息子、娘の配偶者も含む）」が11.2%で続いている。

児童発達支援事業利用者では、「母親」が最も多く58.3%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)
とくに介助等は受けていない	43.1（1位）	6.8	48.8（1位）	59.6（1位）
配偶者（夫または妻）	17.8（3位）	0.8	11.3（3位）	22.3（2位）
父、母	21.2（2位）	78.5（1位）	21.1（2位）	3.2
息子、娘（息子、娘の配偶者も含む）	9.0	－	4.4	11.2（3位）
祖父、祖母	0.8	6.3	－	－
兄弟、姉妹	3.8	23.2（2位）	4.7	0.6
行政の職員（ワーカー・保健師等）	1.8	10.5	8.2	1.3
病院の職員（看護師・精神保健福祉士等）	2.3	10.1	6.2	1.9
施設の職員	5.6	14.6（3位）	4.9	4.0
訪問看護師	4.4	4.2	7.5	6.1
ホームヘルパー	9.3	11.4	4.4	8.4
その他	5.0	11.4	2.0	2.1
無回答	5.2	4.2	5.3	4.2

（単位：％）

区 分	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
とくに介助等はしていない	30.7（3位）
母親	58.3（1位）
父親	31.5（2位）
祖父、祖母	9.4
訪問看護師	1.6
ホームヘルパー	－
その他	3.1
無回答	11.0

【前回調査との比較】

（単位：％）

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	とくに介助等は受けていない (43.1)	父、母 (21.2)	配偶者 (17.8)
	前回 (n=558)	とくに介助等は受けていない (33.9)	父、母 (29.6)	配偶者 (17.4)
知的障害者	今回 (n=474)	父、母 (78.5)	兄弟、姉妹 (23.2)	施設の職員 (14.6)
	前回 (n=248)	父、母 (65.7)	兄弟、姉妹 (32.3)	施設の職員 (17.3)
精神障害者	今回 (n=451)	とくに介助等は受けていない (48.8)	父、母 (21.1)	配偶者 (11.3)
	前回 (n=434)	とくに介助等は受けていない (46.3)	父、母 (27.0)	配偶者 (12.4)
難病患者	今回 (n=475)	とくに介助等は受けていない (59.6)	配偶者 (22.3)	息子、娘 (11.2)
	前回 (n=346)	とくに介助等は受けていない (63.6)	配偶者 (19.7)	息子、娘 (10.4)

② 介助・援助者のうち、最も長く介助・援助している人

身体障害者では、最も長く介助・援助している人は「父、母」が最も多く 39.3%、次いで「配偶者（夫または妻）」が 32.3%となっている。

知的障害者では、「父、母」が最も多く 84.8%となっている。

精神障害者では、「父、母」が最も多く 35.7%、次いで「配偶者（夫または妻）」が 19.8%となっている。

難病患者では、「配偶者（夫または妻）」が最も多く 59.9%となっている。

児童発達支援事業利用者では、「母親」が最も多く 86.5%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=341)	知的障害者 (n=422)	精神障害者 (n=207)	難病患者 (n=172)
配偶者（夫または妻）	32.3（2位）	0.9	19.8（2位）	59.9（1位）
父、母	39.3（1位）	84.8（1位）	35.7（1位）	7.0
息子、娘（息子、娘の配偶者も含む）	10.3（3位）	－	4.3	16.9（2位）
祖父、祖母	－	0.9	－	－
兄弟、姉妹	1.8	2.4	4.8	－
行政の職員（ワーカー・保健師等）	0.9	1.4	5.8	0.6
病院の職員（看護師・精神保健福祉士等）	1.5	1.9	4.8	1.7
施設の職員	4.1	4.3（2位）	2.4	2.9
訪問看護師	0.9	－	2.4	1.2
ホームヘルパー	5.0	0.2	3.9	8.1（3位）
その他	4.1	3.1（3位）	2.4	1.7
無回答	－	－	13.5（3位）	－

区 分	児童発達支援 事業利用者 (n=74)
母親	86.5（1位）
父親	1.4（3位）
祖父、祖母	2.7（2位）
訪問看護師	－
ホームヘルパー	－
その他	－
無回答	9.5

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

(2) 介助・援助の内容（複数回答）

介助・援助の内容は、身体障害者では「外出」が最も多く 61.0%となっている。

知的障害者では「金銭管理」が最も多く 74.2%、次いで「家事（調理、掃除、洗濯）」が 67.8%、「外出」が 67.5%となっている。

難病患者では「外出」が最も多く 61.6%となっている。

精神障害者では「食事のしたく」が最も多く 54.1%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=341)	知的障害者 (n=422)	難病患者 (n=172)	児童発達支援 事業利用者 (n=74)
食事	38.4	43.6	29.1	58.1
トイレ	30.5	39.1	27.9	70.3（3位）
入浴	41.6（3位）	51.2	40.7（3位）	77.0（1位）
衣服の着脱	28.7	38.2	35.5	64.9
家の中の移動	17.9	14.7	18.0	9.5
家事（調理、掃除、洗濯）	54.3（2位）	67.8（2位）	58.7（2位）	
外出	61.0（1位）	67.5（3位）	61.6（1位）	73.0（2位）
服薬	34.0	51.4	34.3	50.0
医療的ケアに関わる介助	23.5	26.8	24.4	10.8
他の人と意思疎通を図りたいとき	19.1	48.8	10.5	32.4
金銭管理	34.9	74.2（1位）	29.7	
その他	7.3	6.9	2.9	2.7
無回答	8.2	3.8	8.1	6.8

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

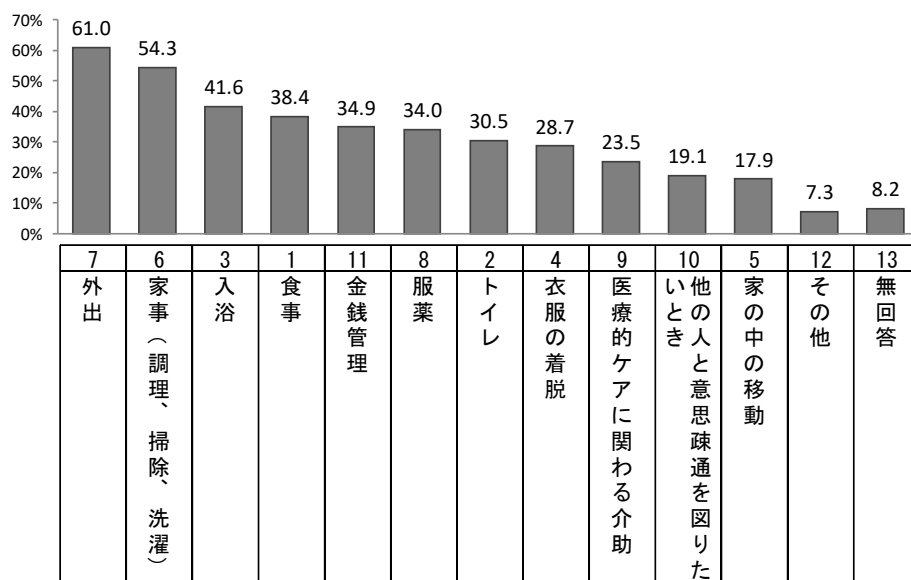
区 分	精神障害者 (n=207)
部屋の整理・整頓・掃除	46.4（2位）
衣類の洗濯	44.0（3位）
日用品の買い物	42.5
食事のしたく	54.1（1位）
外出（通院を含む）	35.7
服薬	26.1
医療的ケアに関わる介助	18.8
他の人と意思疎通を図りたいとき	20.3
金銭管理	30.4
その他	8.2
無回答	13.5

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では、多くの項目で介助・援助を必要とする割合が多くなっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では「外出」の際に介助・援助を受けている割合が 74.2%と最も高く、聴覚障害では「他の人と意思疎通を図りたいとき」が 45.9%と他と比べて高い割合となっている。また、肢体不自由（体幹）では、多くの項目について介助・援助を受けている人の割合が高くなっており、特に「入浴」（71.4%）、「食事」（69.8%）、「トイレ」（69.8%）は、それぞれ約 7 割の人が介助・援助を受けている状況となっている。



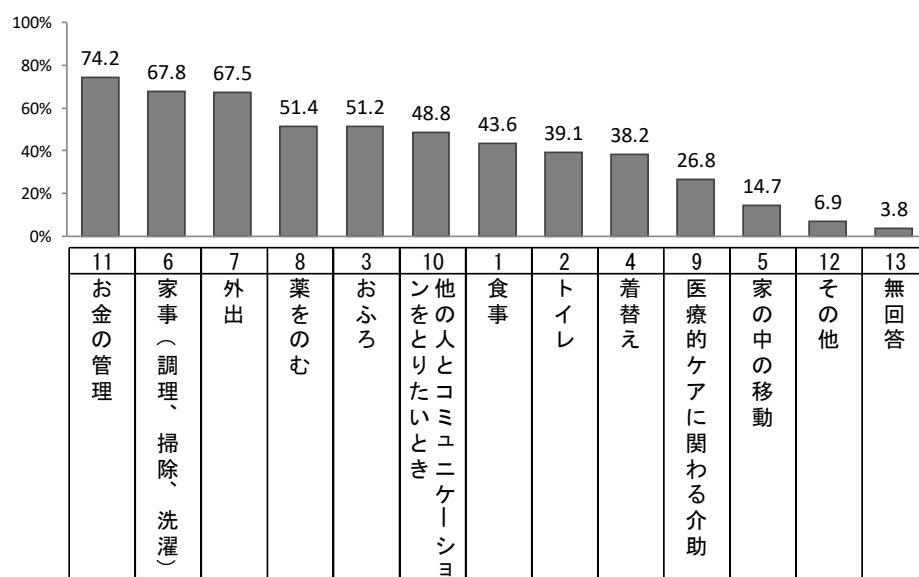
【障害の程度別】		n	7 外出	6 家事（調理、掃除、洗濯）	3 入浴	1 食事	11 金銭管理	8 服薬	2 トイレ	4 衣服の着脱	9 医療的ケアに関わる介助	10 他の人と意思疎通を図りたいとき	5 家の中の移動	12 その他	13 無回答
0	全体	341	61.0	54.3	41.6	38.4	34.9	34.0	30.5	28.7	23.5	19.1	17.9	7.3	8.2
1	重度（１・２級）	246	63.4	53.7	46.7	43.9	33.7	37.4	35.8	33.3	26.0	17.9	21.1	8.1	6.5
2	中度（３・４級）	65	53.8	52.3	23.1	18.5	36.9	21.5	13.8	12.3	10.8	16.9	9.2	4.6	12.3
3	軽度（５・６級）	19	57.9	57.9	31.6	36.8	31.6	31.6	15.8	26.3	15.8	31.6	10.5	5.3	15.8

【障害の種類別】		n	7 外出	6 家事（調理、掃除、洗濯）	3 入浴	1 食事	11 金銭管理	8 服薬	2 トイレ	4 衣服の着脱	9 医療的ケアに関わる介助	10 他の人と意思疎通を図りたいとき	5 家の中の移動	12 その他	13 無回答
1	視覚障害	62	74.2	58.1	17.7	32.3	30.6	22.6	11.3	12.9	17.7	17.7	11.3	12.9	4.8
2	聴覚障害	37	64.9	45.9	37.8	35.1	37.8	35.1	35.1	29.7	8.1	45.9	16.2	2.7	16.2
3	平衡機能障害	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	15	60.0	46.7	26.7	20.0	66.7	20.0	-	20.0	20.0	33.3	-	6.7	6.7
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	138	65.2	55.8	56.5	43.5	40.6	42.0	40.6	42.0	26.8	18.8	25.4	8.0	7.2
6	肢体不自由（体幹）	63	65.1	61.9	71.4	69.8	52.4	60.3	69.8	58.7	36.5	28.6	46.0	7.9	3.2
7	内部障害	77	54.5	51.9	29.9	31.2	23.4	27.3	14.3	11.7	22.1	9.1	7.8	3.9	9.1
8	その他	6	16.7	66.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	-	16.7	16.7	-	33.3	-

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度が重いほど介助・援助を必要とする割合が高くなり、最重度・重度（１・２度）では、「外出」（94.4%）、「おふろ」（88.8%）で、それぞれ９割前後が介助・援助を受けている状況となっている。

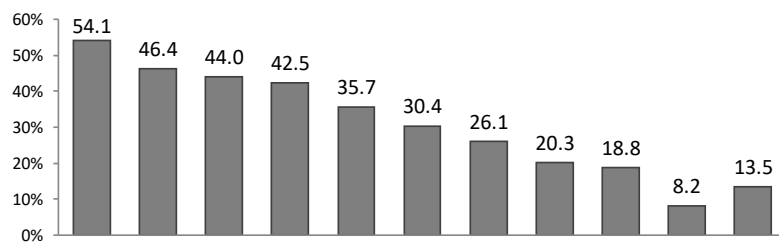


【障害程度別】		n	11	6	7	8	3	10	1	2	4	9	5	12	13
			お金の管理	家事（調理、掃除、洗濯）	外出	薬をのむ	おふろ	他の人とコミュニケーションをとりたいとき	食事	トイレ	着替え	医療的ケアに関わる介助	家の中の移動	その他	無回答
0	全体	422	74.2	67.8	67.5	51.4	51.2	48.8	43.6	39.1	38.2	26.8	14.7	6.9	3.8
1	最重度・重度（１・２度）	161	78.9	72.0	94.4	77.6	88.8	68.3	73.3	76.4	74.5	36.6	31.7	8.7	1.9
2	中度（３度）	112	83.0	68.8	71.4	49.1	35.7	43.8	38.4	23.2	20.5	27.7	5.4	5.4	1.8
3	軽度（４度）	143	63.6	63.6	36.4	25.2	21.7	32.2	14.7	9.8	11.2	15.4	2.8	5.6	6.3

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では、統合失調症や気分障害と診断されている人に比べて、多くの項目で介助・援助を必要とする割合が高くなっている。

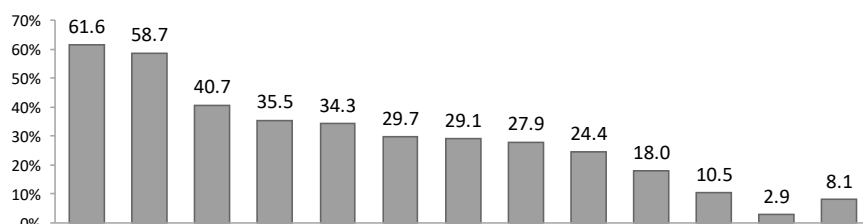


【診断名別】		n	4 食事のしたく	1 部屋の整理・整頓・掃除	2 衣類の洗濯	3 日用品の買い物	5 外出（通院を含む）	9 金銭管理	6 服薬	8 他の人 意思疎通を図りた いとき	7 医療的ケアに関わる 介助	10 その他	11 無回答
0	全体	207	54.1	46.4	44.0	42.5	35.7	30.4	26.1	20.3	18.8	8.2	13.5
1	統合失調症	63	54.0	49.2	41.3	34.9	34.9	27.0	30.2	17.5	28.6	7.9	7.9
2	気分障害	92	52.2	38.0	42.4	44.6	28.3	18.5	21.7	17.4	13.0	9.8	18.5
3	発達障害	44	63.6	63.6	61.4	50.0	38.6	47.7	22.7	22.7	9.1	11.4	6.8
4	その他	71	49.3	42.3	39.4	46.5	38.0	39.4	36.6	22.5	23.9	8.5	16.9

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「外出」が68.1%と最も多く、次いで「家事（調理、掃除、洗濯）」（62.8%）、「入浴」（54.3%）となっている。



【疾患群別】		n	7 外出	6 家事（調理、掃除、洗濯）	3 入浴	4 衣服の着脱	8 服薬	11 金銭管理	1 食事	2 トイレ	9 医療的ケアに関わる介助	5 家の中の移動	10 他の人との意思疎通を図りたい	12 その他	13 無回答
0	全体	172	61.6	58.7	40.7	35.5	34.3	29.7	29.1	27.9	24.4	18.0	10.5	2.9	8.1
1	神経・筋疾患	94	68.1	62.8	54.3	53.2	45.7	43.6	37.2	40.4	28.7	27.7	14.9	4.3	7.4
2	免疫系疾患	28	57.1	50.0	17.9	10.7	14.3	10.7	14.3	10.7	3.6	7.1	3.6	-	10.7
3	消化器系疾患	12	50.0	41.7	25.0	33.3	25.0	16.7	25.0	25.0	25.0	8.3	8.3	-	8.3
4	その他	38	55.3	60.5	26.3	10.5	23.7	13.2	18.4	10.5	28.9	5.3	5.3	2.6	5.3

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

（３） 介助・援助者が不在のときに希望する対応（複数回答）

身体障害者、知的障害者、児童発達支援事業利用者は、「同居している他の家族に頼みたい」の割合が高くなっている。

また、知的障害者では「施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい」、児童発達支援事業利用者では「同居していない家族や親せきに頼みたい」の割合も高くなっている。

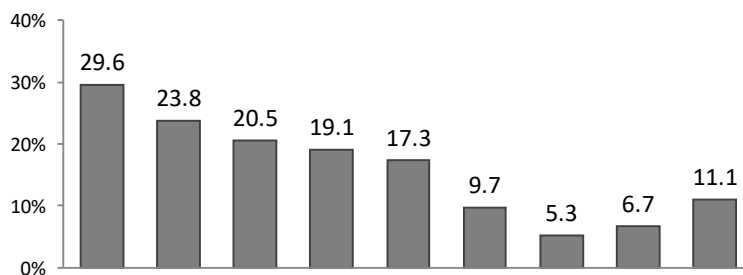
（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=341)	知的障害者 (n=422)	精神障害者 (n=207)	難病患者 (n=172)	児童発達支援 事業利用者 (n=74)
同居している他の家族に頼みたい	29.6（１位）	49.8（１位）	19.3（２位）	16.3	73.0（１位）
同居していない家族や親せきに頼みたい	17.3	16.6	12.1	15.1	40.5（２位）
介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい	23.8（２位）	27.7（３位）	18.4（３位）	34.9（１位）	35.1（３位）
訪問看護を利用したい	9.7	6.9	13.0	19.8（２位）	5.4
施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	19.1	37.9（２位）	7.2	19.2（３位）	18.9
近所の人や友人・知人に頼みたい	5.3	4.5	3.9	3.5	1.4
今までそのようなことはなかったので、よくわからない	20.5（３位）	14.5	28.5（１位）	16.3	4.1
その他	6.7	5.7	10.1	7.6	-
無回答	11.1	4.3	13.5	11.6	5.4

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）と軽度（５・６級）で「同居している他の家族に頼みたい」と回答した人の割合がそれぞれ 29.7%、42.1%と最も高くなっている。

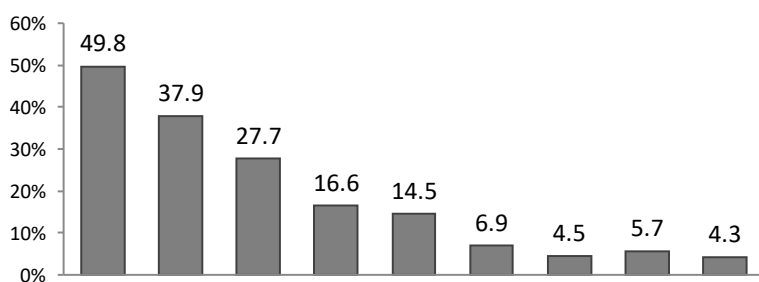


【障害の程度別】		n	1	3	7	5	2	4	6	8	9
			同居している他の家族に頼みたい	介護サービスを利用したい	今までそのようなことはなかったで、よくわからない	施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	同居していない家族や親せきに頼みたい	訪問看護を利用したい	近所の人や友人・知人に頼みたい	その他	無回答
0	全体	341	29.6	23.8	20.5	19.1	17.3	9.7	5.3	6.7	11.1
1	重度（１・２級）	246	29.7	26.4	16.3	20.7	15.9	10.2	5.3	7.7	12.6
2	中度（３・４級）	65	26.2	15.4	35.4	10.8	20.0	7.7	4.6	1.5	6.2
3	軽度（５・６級）	19	42.1	21.1	26.3	21.1	26.3	10.5	10.5	10.5	5.3

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい」と回答した人が 65.8%と最も多くなっている。

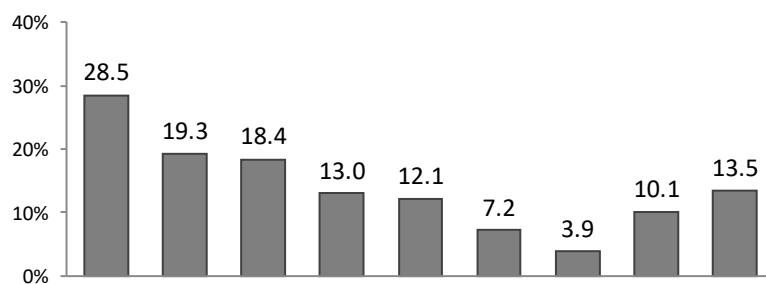


【障害程度別】			n								
			1	5	3	2	7	4	6	8	9
			家族にたのみに住んでいるほかの	施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	ホームヘルプサービスを利用したい	やいっしょに住んでいない家族	かいたまですのよくなことはない	訪問看護を利用したい	近所の人や友だち・知り合いにたのみたい	その他	無回答
0	全体	422	49.8	37.9	27.7	16.6	14.5	6.9	4.5	5.7	4.3
1	最重度・重度（１・２度）	161	52.8	65.8	38.5	12.4	6.8	11.8	3.1	4.3	3.1
2	中度（３度）	112	50.0	33.0	27.7	11.6	14.3	2.7	4.5	8.0	1.8
3	軽度（４度）	143	47.6	10.5	16.1	25.9	21.7	4.9	6.3	5.6	7.7

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では、20.6%が「訪問看護を利用したい」と回答している。

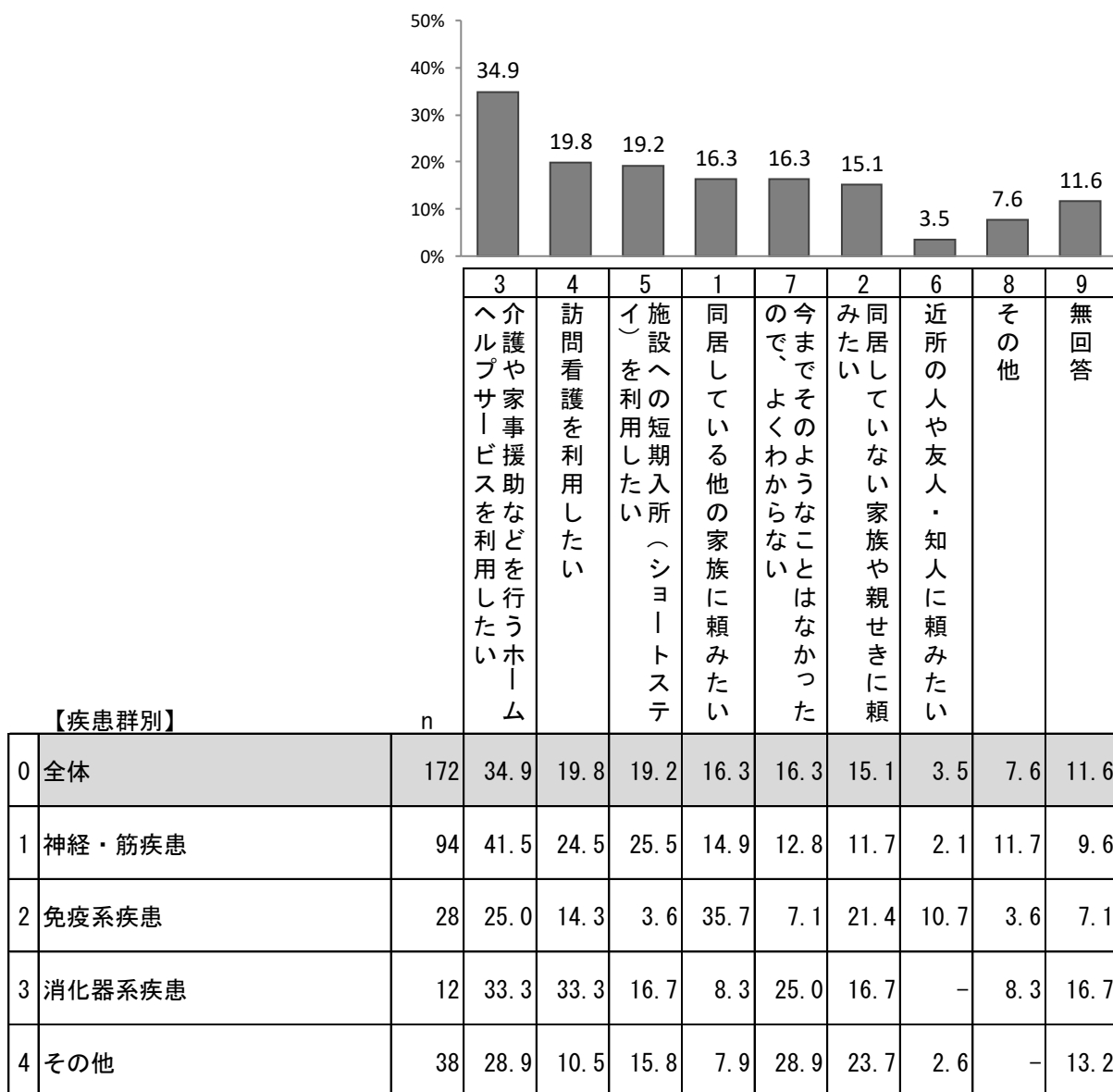


【診断名別】		n	7 たの今 ので、ま よくそ わからう ないな こと はな かつ	1 い同居 して いる 他の 家族 に頼 みた	3 ム介護 や家 事援 助な どを 行う ホー ムヘル プサ ービ スを 利用 した い	4 訪問 看護 を利 用し たい	2 頼同居 みてし てい ない 家族 や親 せき に	5 テ施設 イへの を短 期入 所へ ショ ート ス	6 い近所 の人 や友 人・ 知人 に頼 みた	8 その他	9 無回 答
0	全体	207	28.5	19.3	18.4	13.0	12.1	7.2	3.9	10.1	13.5
1	統合失調症	63	31.7	12.7	15.9	20.6	12.7	7.9	3.2	9.5	12.7
2	気分障害	92	28.3	18.5	20.7	10.9	9.8	6.5	4.3	13.0	14.1
3	発達障害	44	29.5	15.9	15.9	9.1	11.4	4.5	4.5	15.9	13.6
4	その他	71	19.7	16.9	22.5	9.9	14.1	11.3	5.6	11.3	18.3

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

【難病患者】

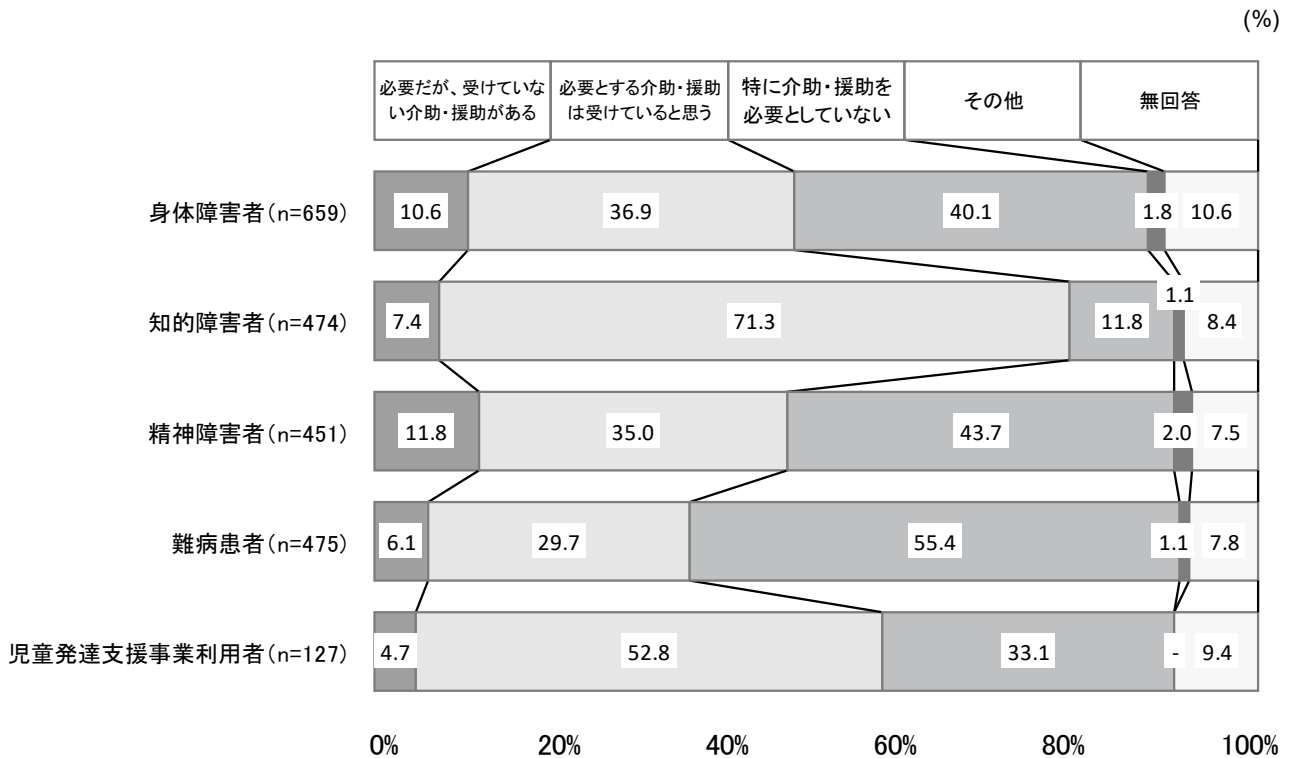
疾患群別にみると、神経・筋疾患では「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」が41.5%と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

(4) 必要とする介助・援助の有無

必要とする介助・援助を受けていると思うかについては、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者ともに、「必要とする介助・援助はを受けていると思う」が、「必要だが、受けていない介助・援助がある」の割合を大きく上回っており、特に知的障害者ではその差が大きい。また、知的障害者を除いて、約3割～5割が「特に介助・援助を必要としていない」と回答している。



【前回調査との比較】

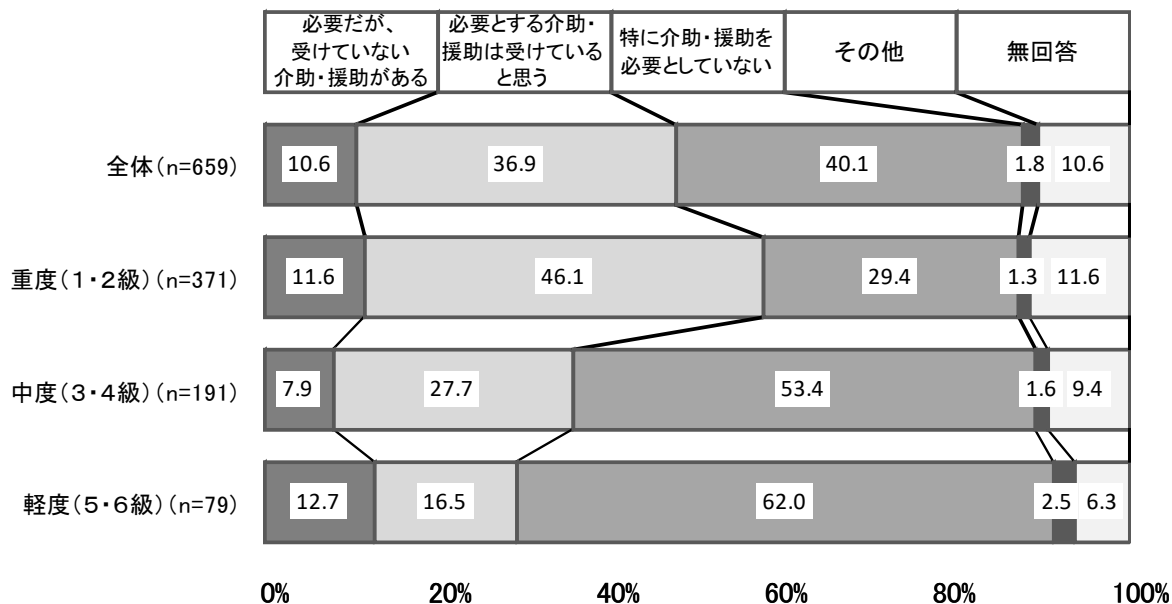
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	特に介助・援助を必要としていない (40.1)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (36.9)	必要だが、受けていない介助・援助がある (10.6)
	前回 (n=558)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (41.6)	特に介助・援助を必要としていない (30.5)	必要だが、受けていない介助・援助がある (9.0)
知的障害者	今回 (n=474)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (71.3)	特に介助・援助を必要としていない (11.8)	必要だが、受けていない介助・援助がある (7.4)
	前回 (n=248)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (71.8)	特に介助・援助を必要としていない (14.9)	必要だが、受けていない介助・援助がある (4.0)
精神障害者	今回 (n=451)	特に介助・援助を必要としていない (43.7)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (35.0)	必要だが、受けていない介助・援助がある (11.8)
	前回 (n=434)	特に介助・援助を必要としていない (40.6)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (36.6)	必要だが、受けていない介助・援助がある (9.4)
難病患者	今回 (n=475)	特に介助・援助を必要としていない (55.4)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (29.7)	必要だが、受けていない介助・援助がある (6.1)
	前回 (n=346)	特に介助・援助を必要としていない (59.8)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (22.3)	必要だが、受けていない介助・援助がある (6.6)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、「必要とする介助・援助は受けていると思う」と回答した人の割合は、障害が重いほど高く、重度（１・２級）では 46.1% となっている。一方、「特に介助・援助を必要としていない」人の割合は、軽度（５・６級）では 62.0%、中度（３・４級）では 53.4% とそれぞれ半数を超えている。

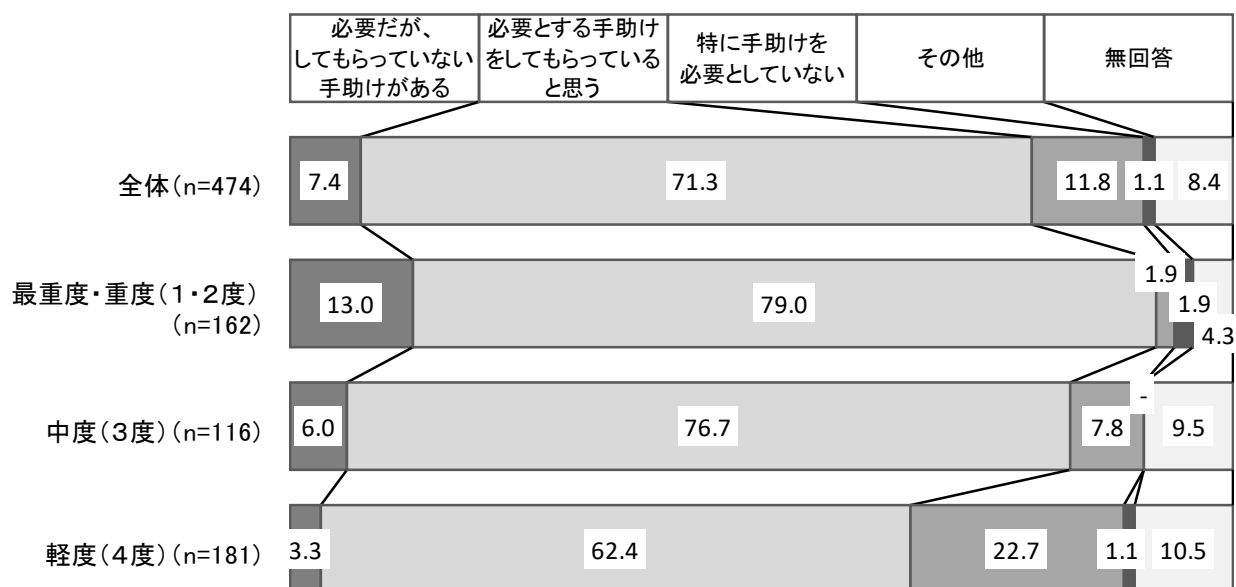
(%)



【知的障害者】

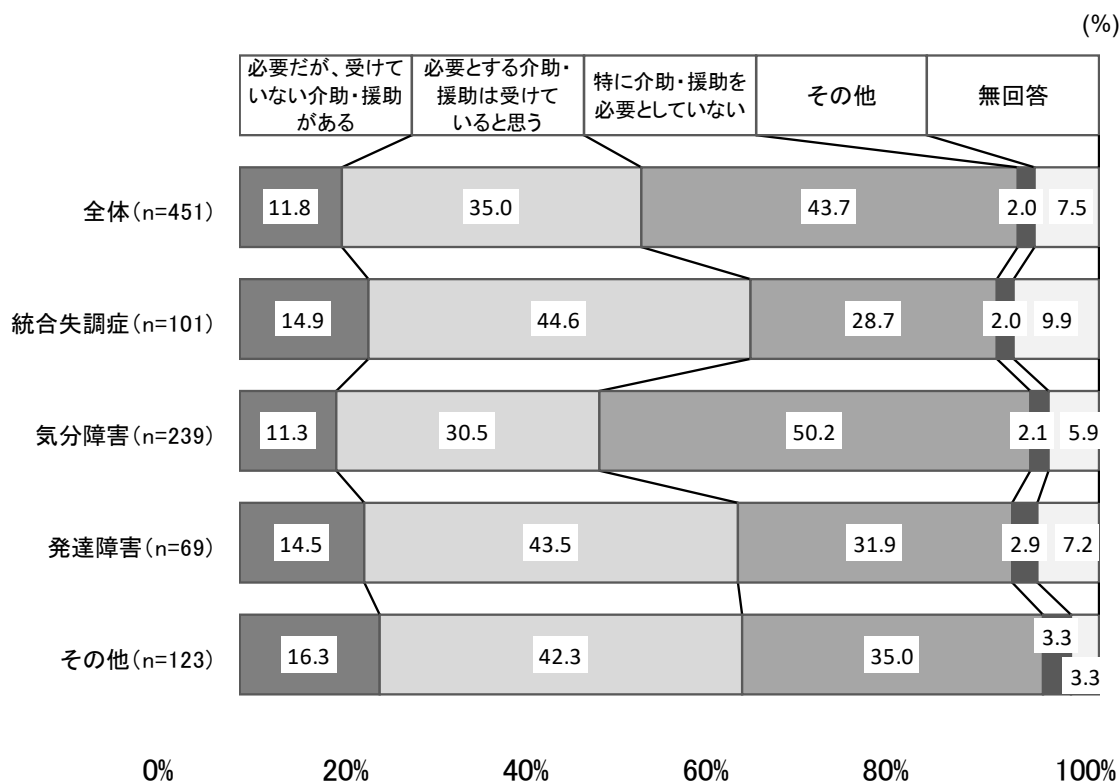
障害の程度別にみると、約 6 割～8 割が「必要とする手助けをしてもらっていると思う」と回答しており、程度が重い人ほど高くなっている。

(%)



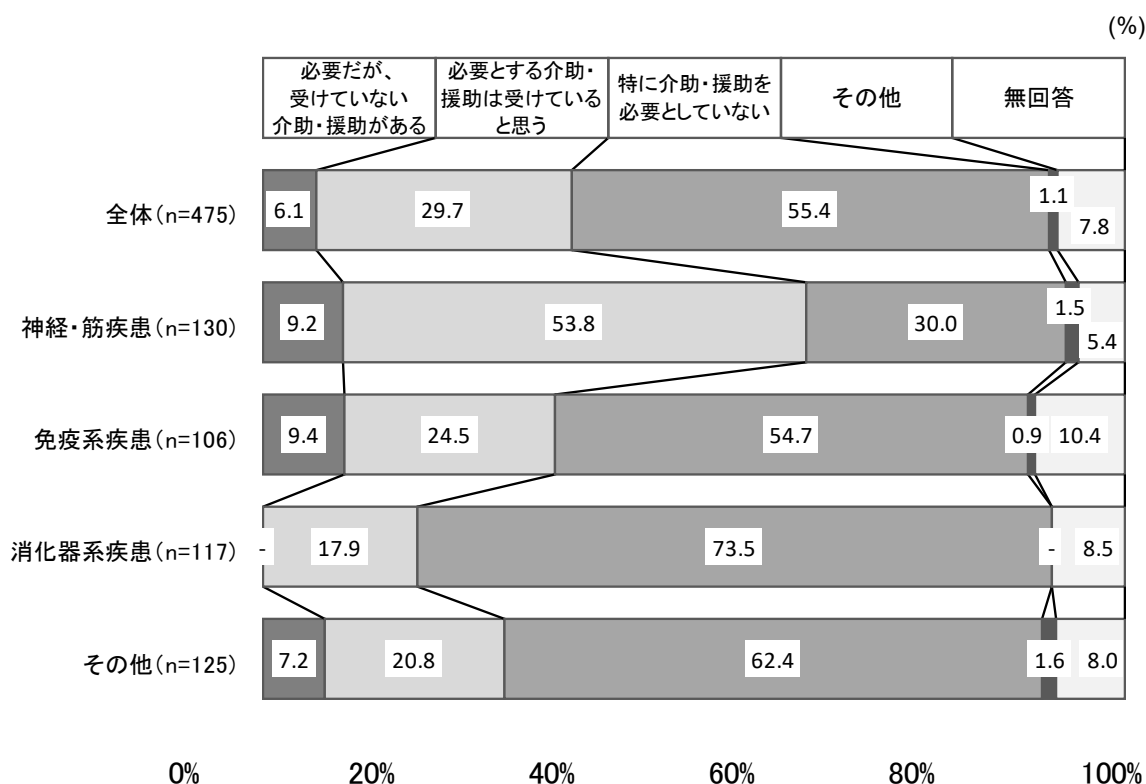
【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症および発達障害と診断されている人では「必要とする介助・援助は受けていると思う」が多く、約4割を超えている。また、約3割～5割が「特に介助・援助を必要としていない」と回答している。



【難病患者者】

疾患群別にみると、「必要とする介助・援助は受けていると思う」と回答した人の割合は、神経・筋疾患では53.8%となっている。神経・筋疾患以外の疾患では、「特に介助・援助を必要としていない」が半数を超えている。



(5) 必要だが受けていない介助・援助（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・食事や掃除、買物などの援助
- ・寝ているときの寝返りなどの夜間介助
- ・ベッドから車いすへの移乗
- ・訪問入浴、入浴介助
- ・通勤時の外出援助
- ・病院などの送迎
- ・通院する際の移動の介助（院内での移動も）
- ・会議等での口述筆記をしてくれる人
- ・代読
- ・余暇活動支援
- ・電話リレーサービス

【知的障害者】

- ・同性介助によるトイレやお風呂の介助
- ・買物
- ・健康・運動面のサポート
- ・通園、通学時の付添援助
- ・病院や作業所への送迎
- ・余暇活動への参加、送迎
- ・独りで外出したいときなどの見守りと手助け
- ・行動障害のある人向けのサービス提供が少ない。
- ・リハビリや自立、発達のための訓練

【精神障害者】

- ・掃除、洗濯、食事の用意など、身の回りの介助
- ・介助者が不在のときの見守り訪問
- ・買物や外出の際のヘルパー
- ・病院への送迎
- ・病気が悪化して動けないときの子育て全般（保育園の送迎など）
- ・余暇支援、社会生活のための自立支援

【難病患者】

- ・掃除や買物など家事全般
- ・医療機関、美容院などへの付添援助
- ・子どもが病気になったときの保育
- ・医療に関するケア

【児童発達支援事業利用者】

- ・トイレトレーニング
- ・言語の発達に関する診察やトレーニング
- ・障害児専用の一時預かり
- ・移動支援

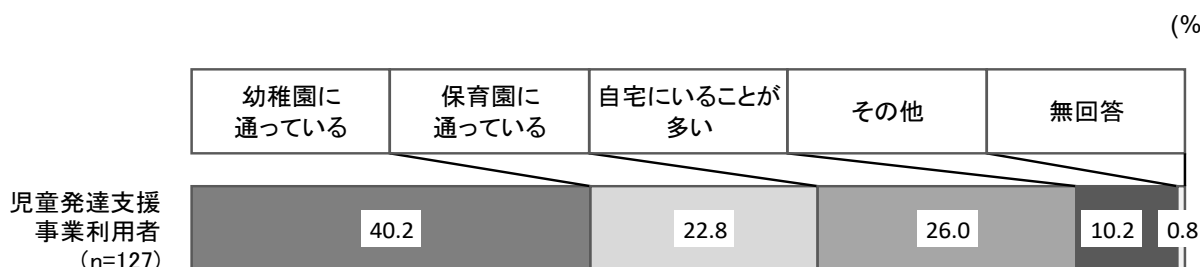
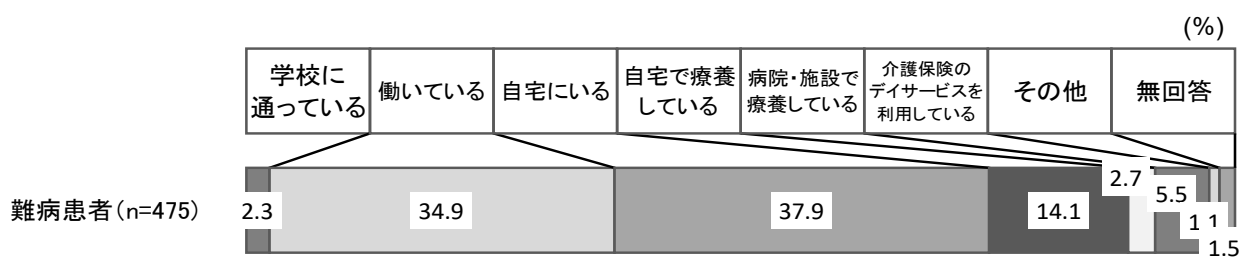
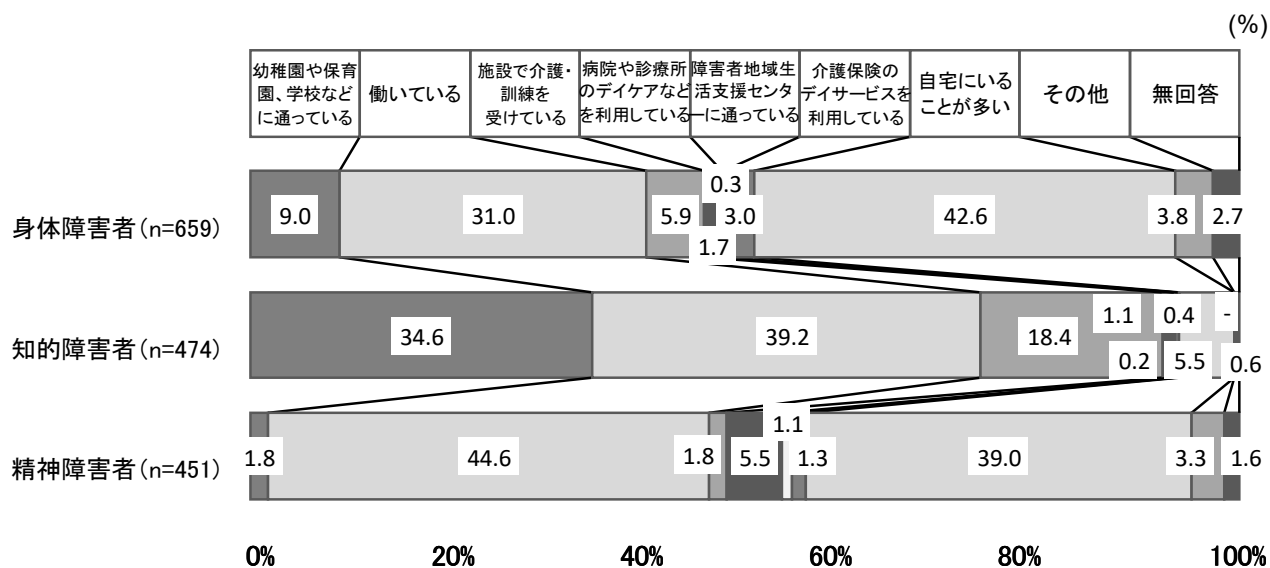
3 日中の過ごし方について

日中の主な過ごし方は、身体障害者では「自宅にすることが多い」が最も多く 42.6%である。知的障害者では、「働いている」が最も多く 39.2%、次いで「幼稚園や保育園、学校などに通っている」が 34.6%、「施設で介護・訓練を受けている」が 18.4%となっている。

精神障害者では、「働いている」が最も多く 44.6%、次いで「自宅にすることが多い」が 39.0%となっている。

難病患者では、“自宅”（「自宅にいたる」「自宅で療養している」の合計）が最も多く 52.0%、次いで「働いている」が 34.9%となっている。

児童発達支援事業利用者は、「幼稚園に通っている」が 40.2%、「保育園に通っている」が 22.8%、「自宅にすることが多い」が 26.0%となっている。



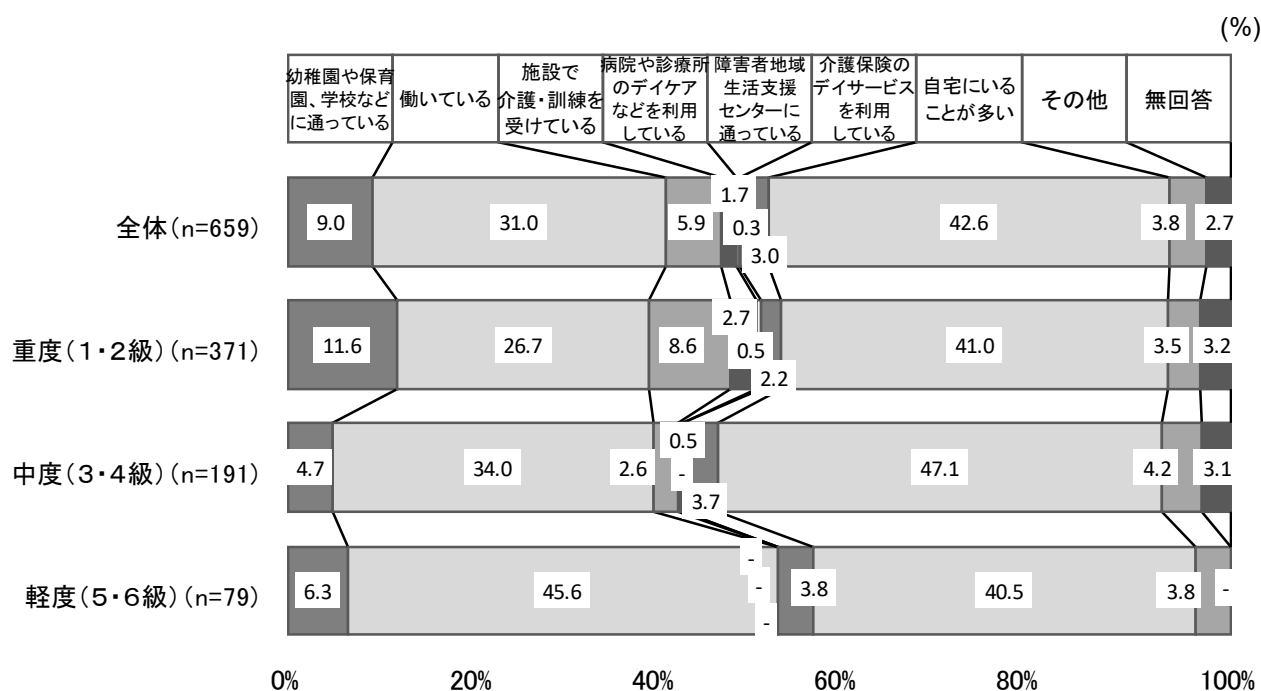
【前回調査との比較】

(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	自宅にすることが多い (42.6)	働いている (31.0)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (9.0)
	前回 (n=558)	自宅にすることが多い (38.9)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (22.9)	働いている (19.7)
知的障害者	今回 (n=474)	働いている (39.2)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (34.6)	施設で介護・訓練を受けている (18.4)
	前回 (n=248)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (36.7)	働いている (27.8)	施設で介護・訓練を受けている (17.3)
精神障害者	今回 (n=451)	働いている (44.6)	自宅にすることが多い (39.0)	病院や診療所のデイケアなどを利用している (5.5)
	前回 (n=434)	自宅にすることが多い (44.0)	働いている (31.3)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (6.5)
難病患者	今回 (n=475)	自宅にしている (37.9)	働いている (34.9)	自宅で療養している (14.1)
	前回 (n=346)	働いている (41.9)	自宅にしている (37.3)	自宅で療養している (16.5)

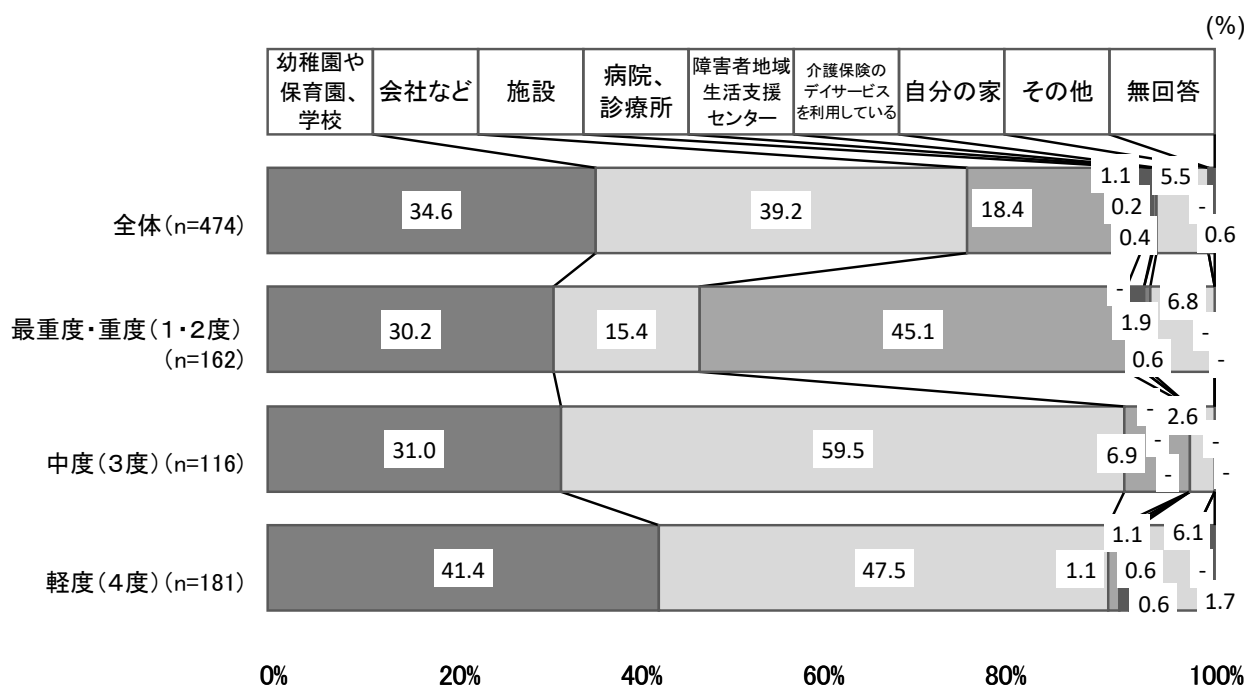
【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「幼稚園や保育園、学校などに通っている」割合が 11.6%と、中度（３・４級）、軽度（５・６級）に比べて高くなっている。また、軽度（５・６級）では「働いている」人が 45.6%と最も多い。



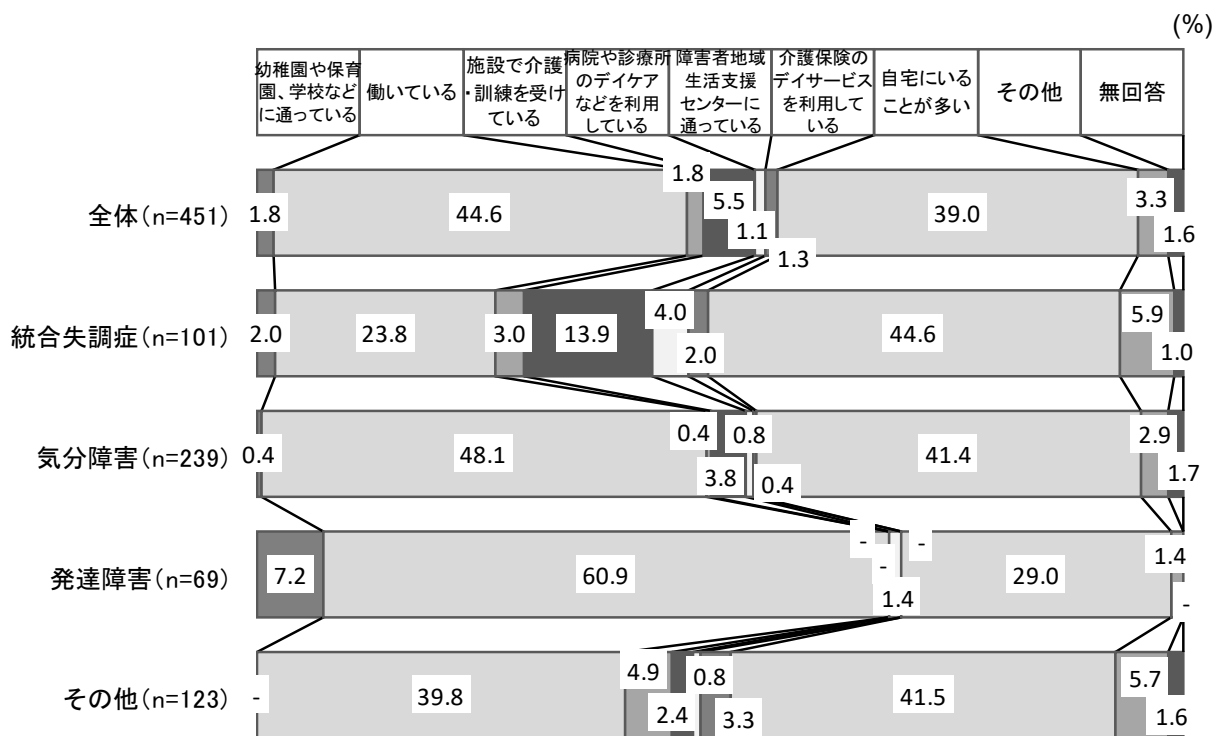
【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では「施設（福祉園など）」が45.1%と最も多く、中度（３度）と軽度（４度）では「会社など（就労移行支援・就労継続支援など作業所も含む）」がそれぞれ59.5%、47.5%と最も多くなっている。



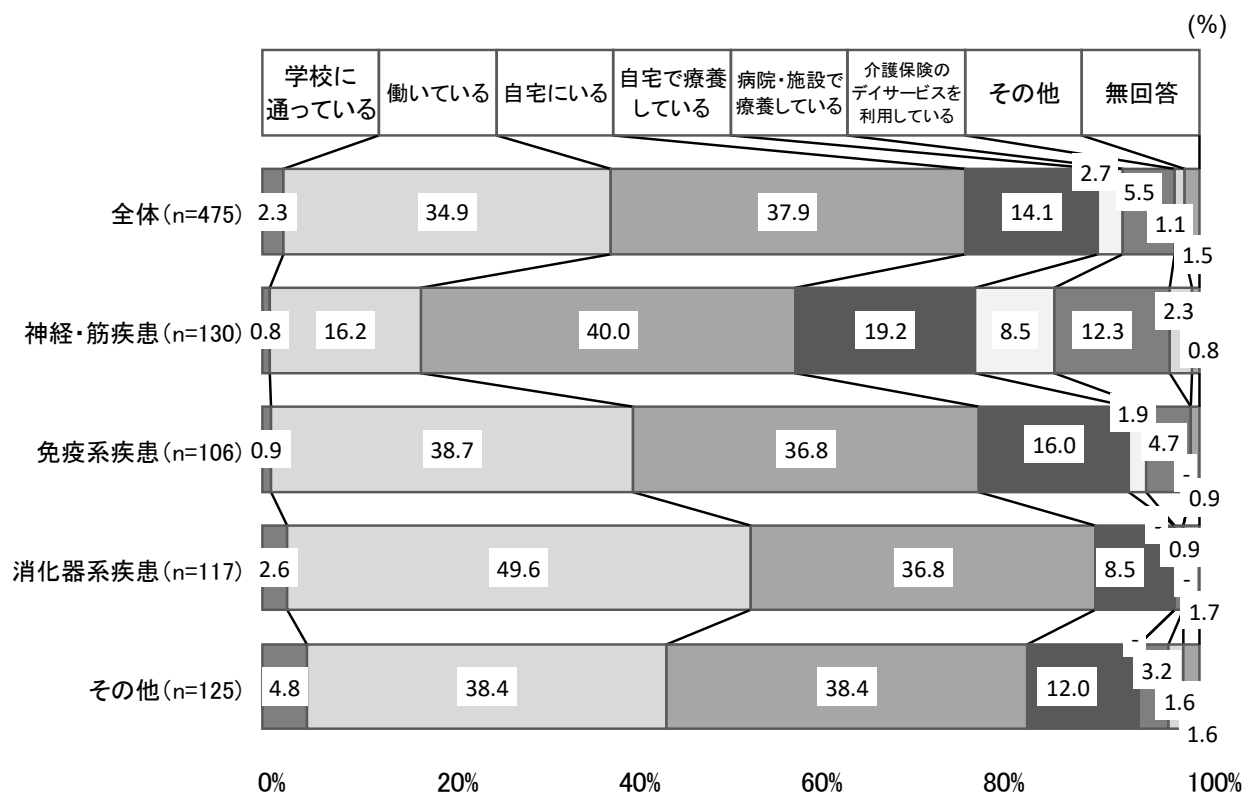
【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「自宅にすることが多い」が44.6%と最も多く、気分障害、発達障害と診断されている人では「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」がそれぞれ48.1%、60.9%と最も多くなっている。



【難病患者】

疾患群別にみると、「働いている」人の割合は、免疫系疾患では 38.7%、消化器系疾患では 49.6%と、それぞれ最も多くなっている。また、神経・筋疾患では「自宅にいる」が 40.0%で最も多く、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、自宅で過ごしている割合が高くなっている。



4 教育について

(1) 通園・通学先

現在の通園・通学先は、身体障害者、知的障害者ともに「特別支援学校」が最も多く、それぞれ 47.5%、45.1%となっている。次いで身体障害者は「通常の学級」が 27.1%、知的障害者は「特別支援学級」が 37.8%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=59)	知的障害者 (n=164)	精神障害者 (n=8)
幼稚園	1.7	-	-
保育園	5.1	3.0	-
児童発達支援事業所等	-	0.6	-
特別支援学校	47.5 (1位)	45.1 (1位)	-
特別支援学級	3.4	37.8 (2位)	-
通常の学級	27.1 (2位)	3.0	-
高等学校	8.5 (3位)	2.4	25.0 (2位)
職業訓練校	-	0.6	-
専門学校・大学	5.1	-	37.5 (1位)
その他	1.7	1.8	25.0 (2位)
無回答	-	5.5 (3位)	12.5

※ベース：幼稚園や保育園、学校などに通っていると回答した人

(2) 通園・通学にあたって充実してほしいこと（複数回答）

通園・通学にあたって充実してほしいことは、身体障害者では「施設・設備などを充実してほしい」が最も多く 37.3%となっており、知的障害者では「夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい」が最も多く 43.3%となっている。児童発達支援事業利用者では「特に困っていることはない」が最も多く 41.3%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=59)	知的障害者 (n=164)	精神障害者 (n=8)	児童発達支援 事業利用者 (n=80)
通いやすくしてほしい（通学手段の改善など）	30.5 (2位)	32.3 (2位)	-	7.5
施設・設備などを充実してほしい	37.3 (1位)	9.8	-	10.0
介助体制を充実してほしい	22.0	8.5	-	10.0
先生・生徒の理解などが深まってほしい	28.8 (3位)	22.6	25.0 (1位)	28.8 (2位)
放課後の居場所づくりを充実してほしい	22.0	30.5 (3位)	12.5	
夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい	27.1	43.3 (1位)	25.0 (1位)	20.0 (3位)
その他	8.5	9.1	-	5.0
特に困っていることはない	22.0	17.1	25.0 (1位)	41.3 (1位)
無回答	1.7	8.5	25.0 (1位)	1.3

※ベース：幼稚園や保育園、学校などに通っていると回答した人

【前回調査との比較】

(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=59)	施設・設備などを充実してほしい (37.3)	通いやすくしてほしい (30.5)	先生・生徒の理解などが深まってほしい (28.8)
	前回 (n=128)	夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい (35.2)	先生・生徒の理解などが深まってほしい (33.6)	施設・設備などを充実してほしい (31.3)
知的障害者	今回 (n=164)	夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい (43.3)	通いやすくしてほしい (32.3)	放課後の居場所づくりを充実してほしい (30.5)
	前回 (n=91)	夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい (60.4)	放課後の居場所づくりを充実してほしい／通いやすくしてほしい (同率 35.2)	
精神障害者	今回 (n=8)	先生・生徒の理解などが深まってほしい／夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい／特に困っていることはない (同率 25.0)		
	前回 (n=28)	先生・生徒の理解などが深まってほしい (46.4)	通いやすくしてほしい (32.1)	夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい／特に困っていない (同率 28.6)

5 雇用・就労について

(1) 就労形態

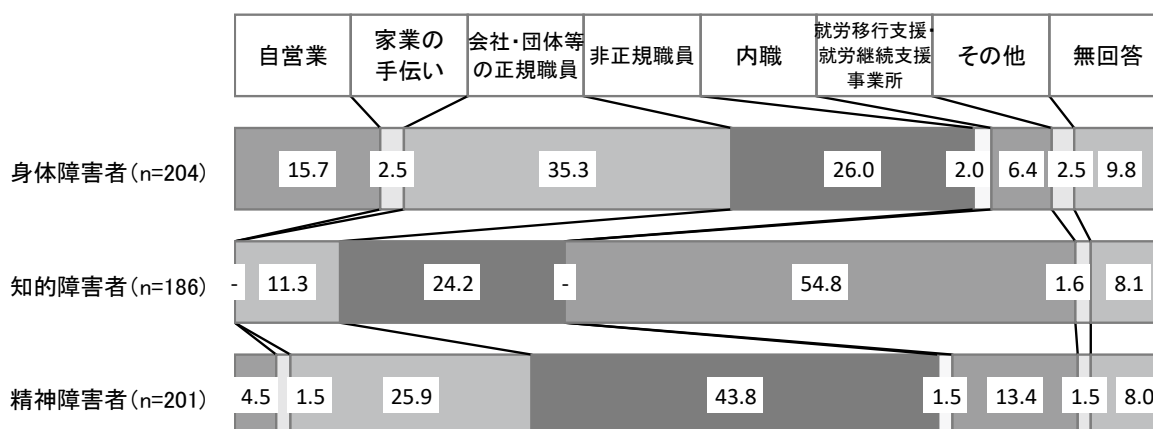
現在働いている人の就労形態は、身体障害者では「会社・団体等の正規職員」が最も多く 35.3%、次いで「非正規職員」が 26.0%、「自営業」が 15.7%となっている。

知的障害者では、「就労移行支援・就労継続支援事業所」が最も多く 54.8%、次いで「非正規職員」が 24.2%、「会社・団体などの正規職員」が 11.3%となっている。

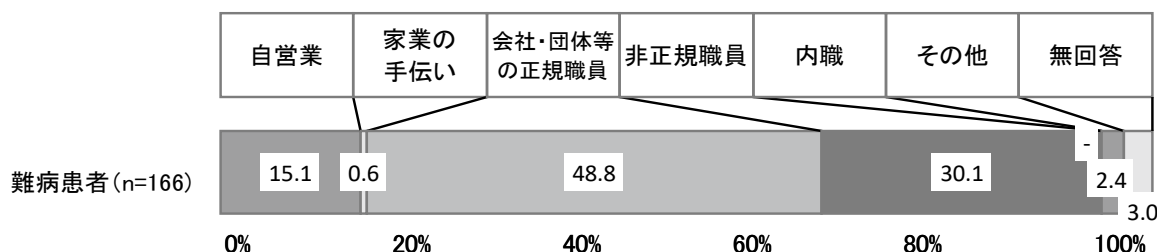
精神障害者では、「非正規職員」が最も多く 43.8%、次いで「会社・団体等の正規職員」が 25.9%となっている。

難病患者では、「会社・団体等の正規職員」が最も多く 48.8%、次いで「非正規職員」が 30.1%、「自営業」が 15.1%となっている。

(%)



(%)



※ベース：働いていると回答した人

【前回調査との比較】

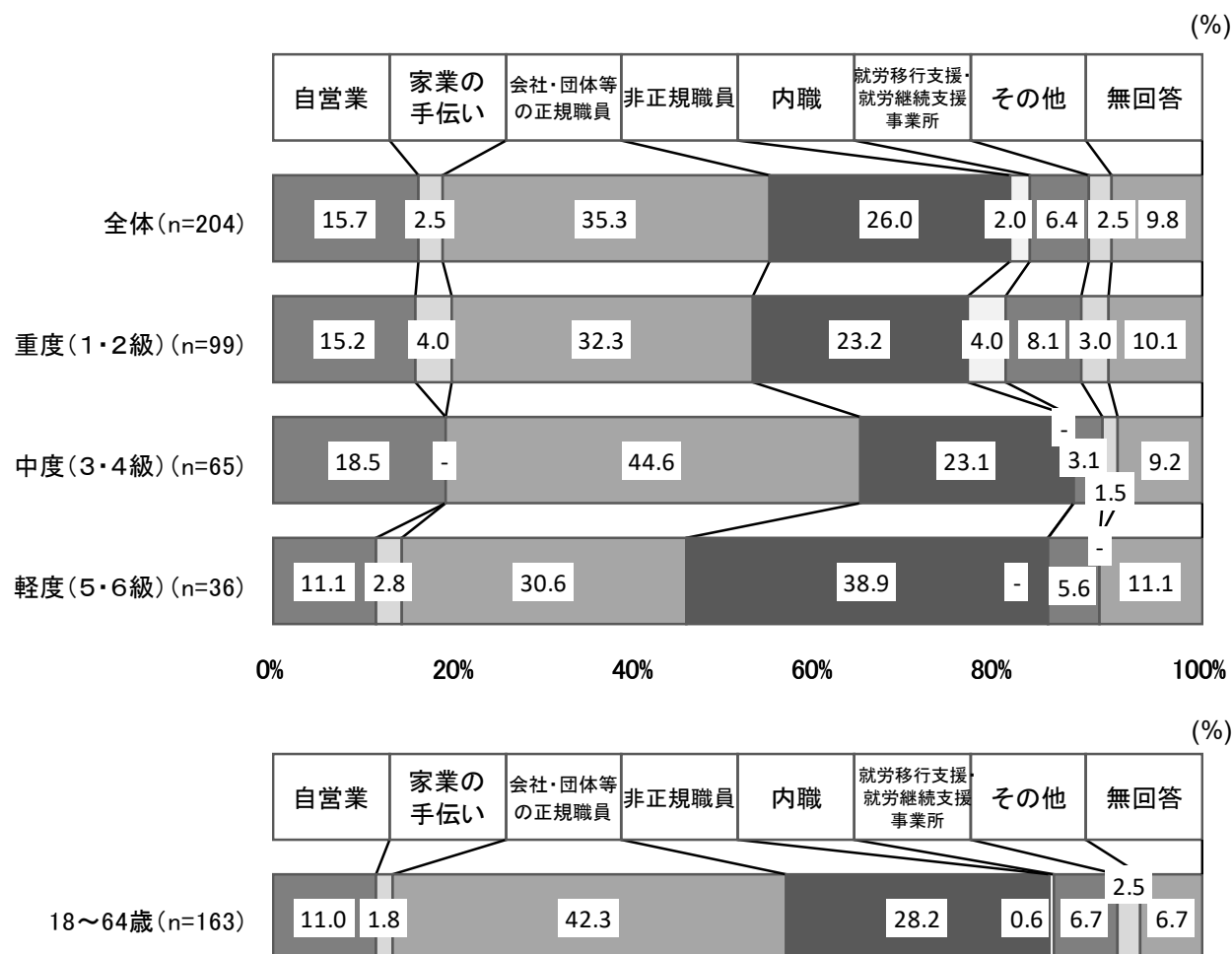
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=204)	会社・団体等の正規職員 (35.3)	非正規職員 (26.0)	自営業 (15.7)
	前回 (n=110)	会社・団体等の正規職員 (45.5)	非正規職員 (24.5)	自営業 (14.5)
知的障害者	今回 (n=186)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (54.8)	非正規職員 (24.2)	家業の手伝い (11.3)
	前回 (n=69)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (44.9)	非正規職員 (24.6)	会社・団体等の正規職員 (15.9)
精神障害者	今回 (n=201)	非正規職員 (43.8)	会社・団体等の正規職員 (25.9)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (13.4)
	前回 (n=136)	非正規職員 (34.6)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (27.9)	会社・団体等の正規職員 (25.7)
難病患者	今回 (n=166)	会社・団体等の正規職員 (48.8)	非正規職員 (30.1)	自営業 (15.1)
	前回 (n=145)	会社・団体等の正規職員 (51.0)	非正規職員 (25.5)	自営業 (14.5)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、「会社・団体等の正規職員」の割合が最も高いのは中度（３・４級）で、44.6%となっている。一方、「非正規職員（契約、パート、派遣等）」の割合が最も高いのは軽度（５・６級）で、38.9%となっている。

年齢別にみると、18～64歳では「会社・団体等の正規職員」が42.3%と最も多く、次いで「非正規職員（契約、パート、派遣等）」が28.2%となっている。

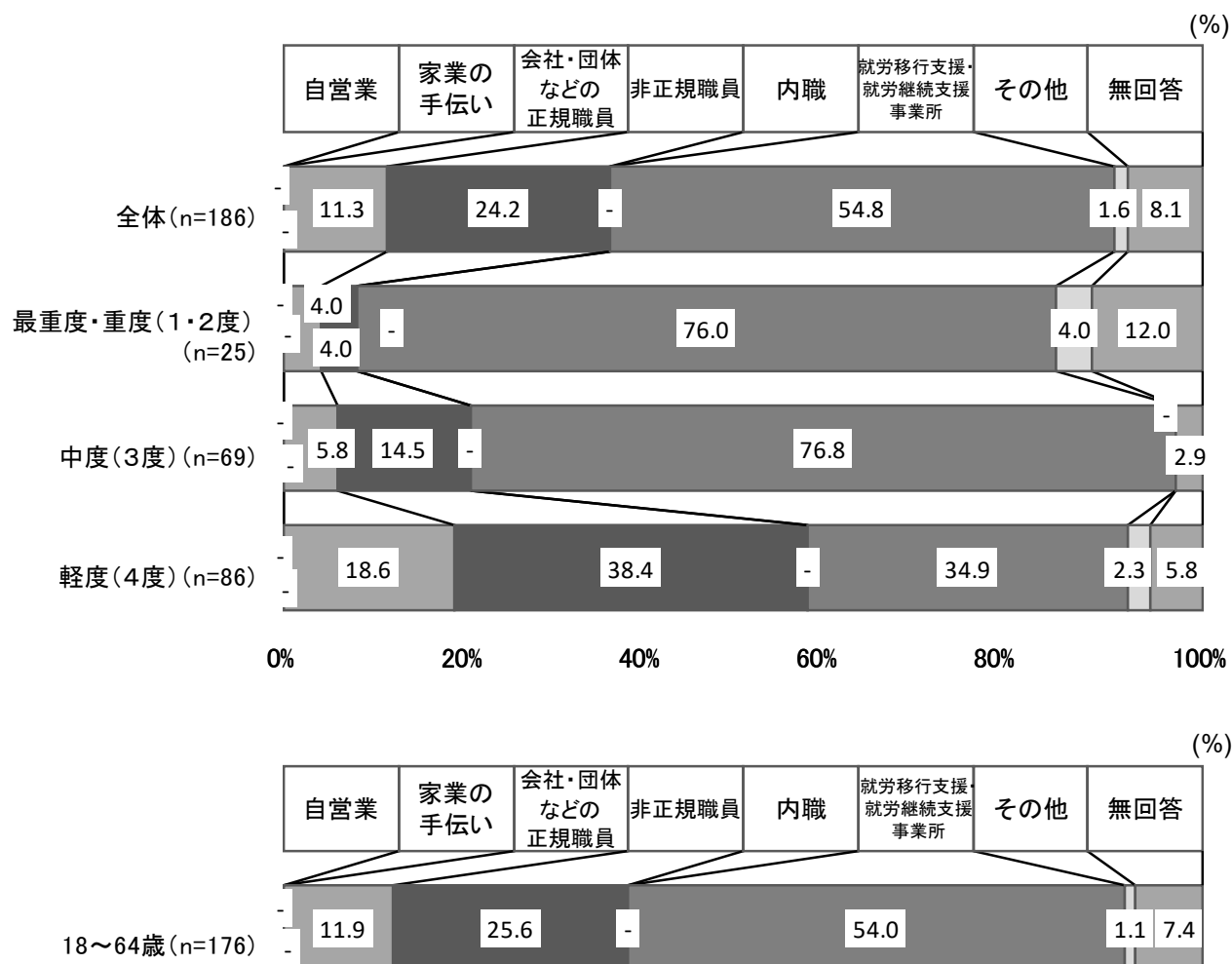


※ベース：働いていると回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）と中度（３度）では「就労移行支援・就労継続支援事業所」がそれぞれ 76.0%、76.8%と最も多い。軽度（４度）では「非正規職員（契約、パート、派遣など）」が 38.4%と最も多く、「就労移行支援・就労継続支援事業所」は 34.9%である。

年齢別にみると、18～64 歳では全体とほぼ同様の傾向を示している。

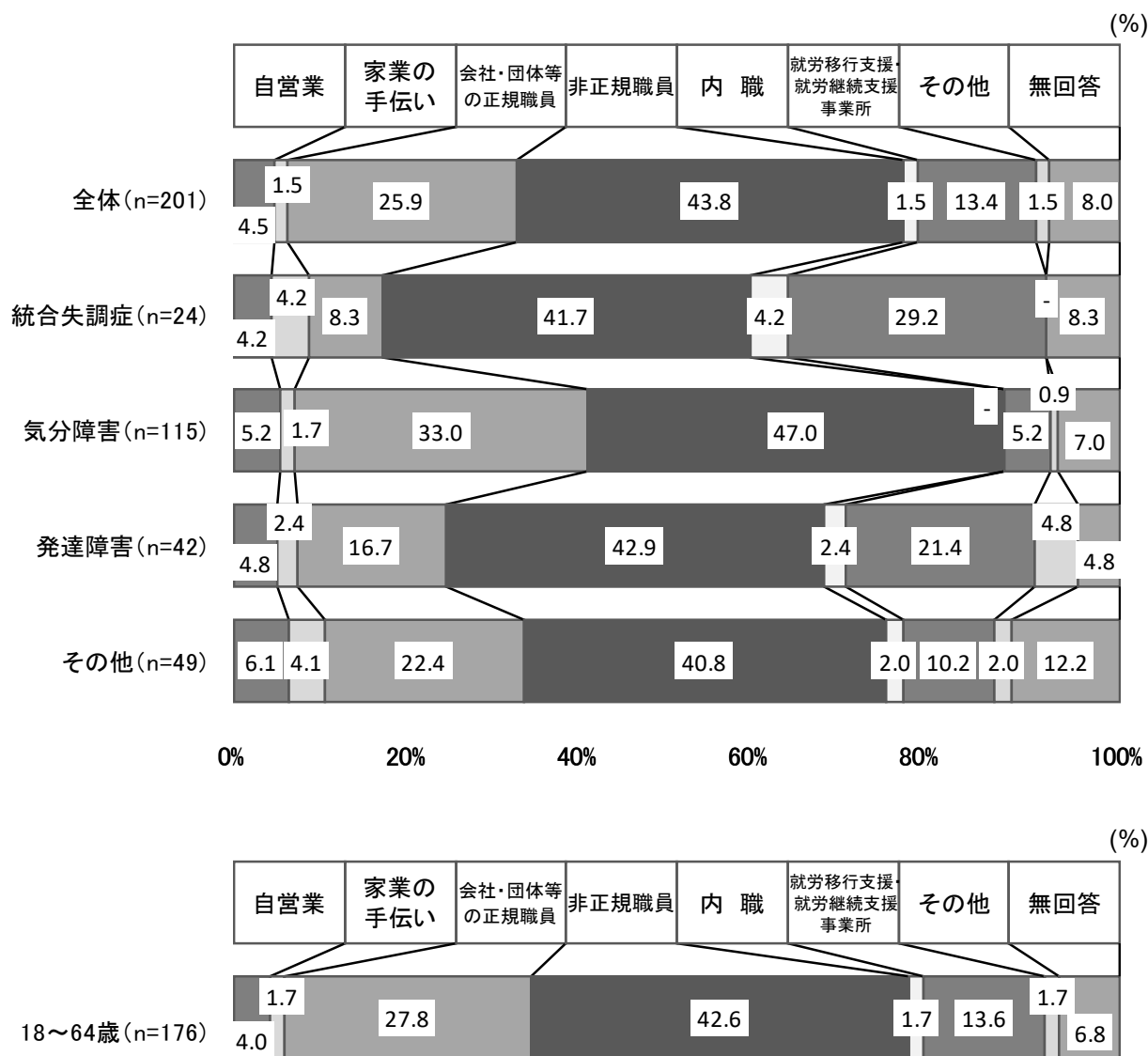


※ベース：働いていると回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、診断にかかわらず、「非正規職員（契約、パート、派遣等）」が最も多く、約4割となっている。なお、気分障害では「会社・団体等の正規職員」の割合が33.0%と、統合失調症や発達障害と診断されている人に比べて割合が高くなっている。

年齢別にみると、18～64歳では全体とほぼ同様の傾向を示している。

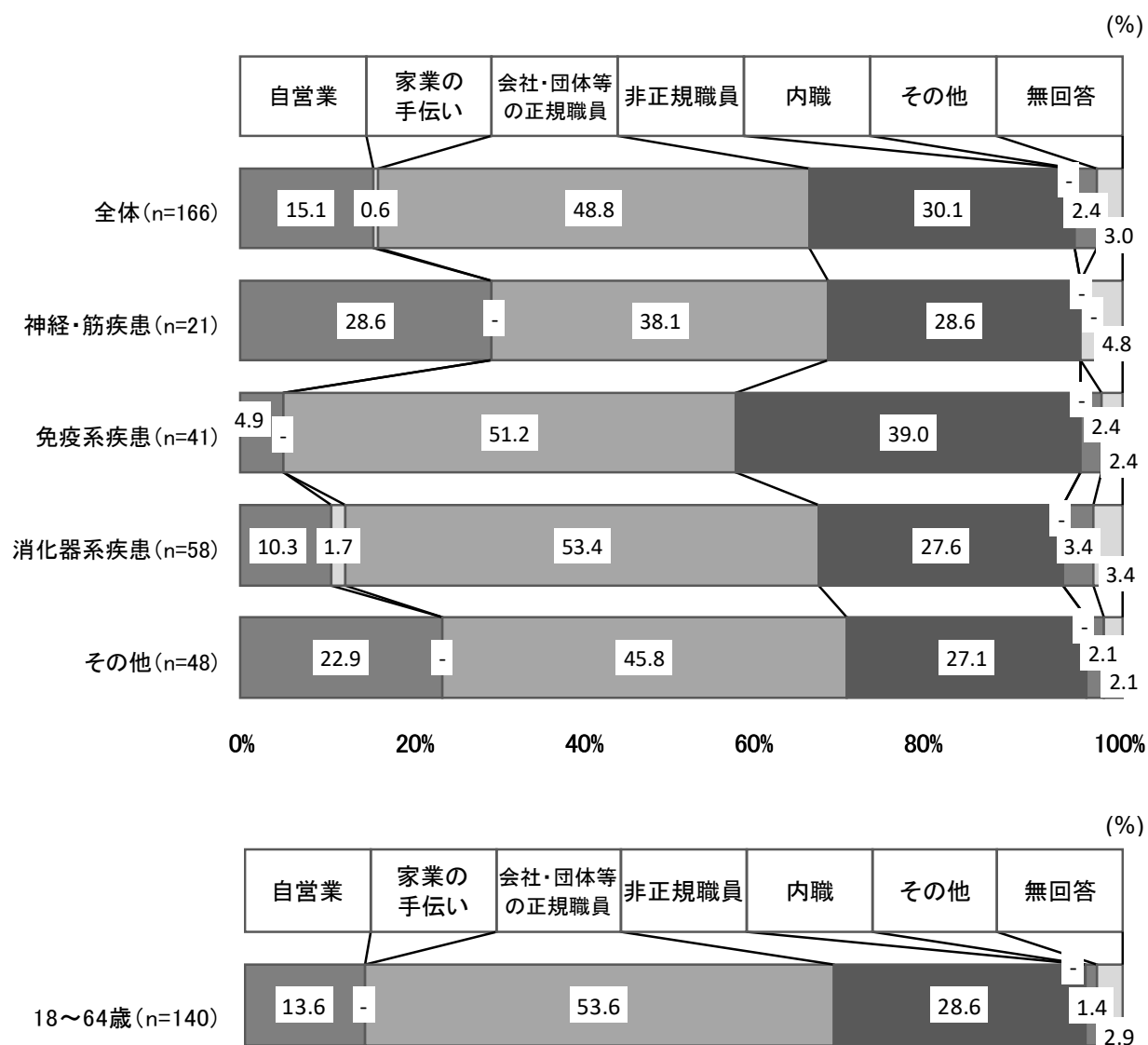


※ベース：働いていると回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、「会社・団体等の正規職員」の割合は、神経・筋疾患では38.1%、免疫系疾患では51.2%、消化器系疾患では53.4%と最も多くなっている。

年齢別にみると、18～64歳では、「会社・団体等の正規職員」が約半数となっている。



※ベース：働いていると回答した人

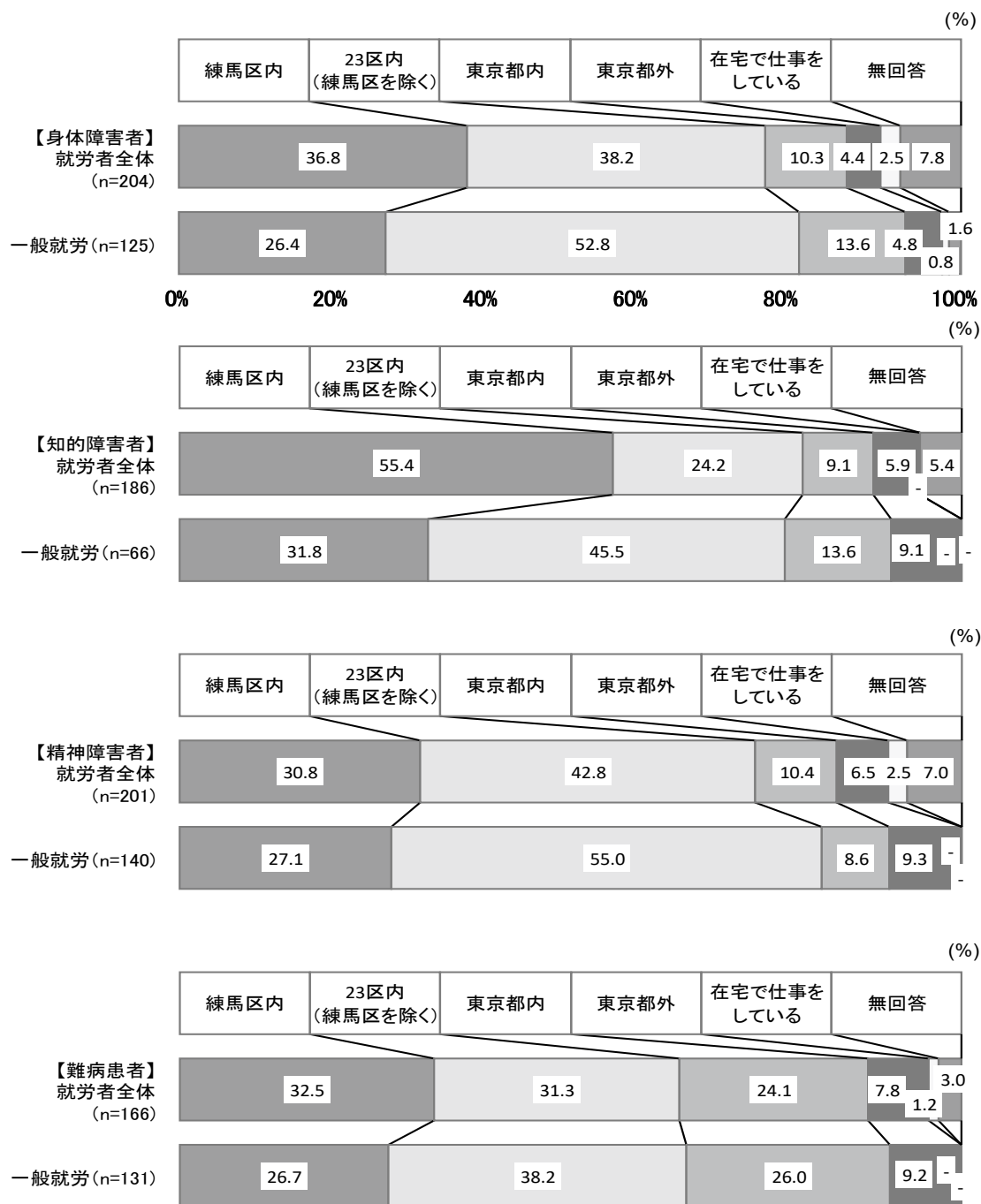
(2) 職場の所在地（就労者全体と一般就労別）

職場の所在地は、身体障害者、精神障害者では「23区内（練馬区を除く）」が最も多くそれぞれ 38.2%、42.8%となっており、「練馬区内」と回答した人も含めると、「練馬区を含む 23 区内」がそれぞれ 7 割を超えている。

知的障害者では、「練馬区内」が最も多く 55.4%、「23 区内（練馬区を除く）」（24.2%）も含めると、「練馬区を含む 23 区内」が約 8 割となっている。

難病患者は、「練馬区を含む 23 区内」が 6 割台で、「東京都外」が 24.1%となっている。

一般就労（「会社・団体等の正規職員」「非正規職員」の合計）では、身体障害者、知的障害者、精神障害者ともに「23 区内（練馬区を除く）」が 4 割～5 割台となっている。



※ベース：働いていると回答した人

【前回調査との比較】

(単位：％)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=204)	23区内 (練馬区を除く) (38.2)	練馬区内 (36.8)	東京都内 (10.3)
	前回 (n=110)	23区内 (練馬区を除く) (43.6)	練馬区内 (31.8)	東京都内 (16.4)
知的障害者	今回 (n=186)	練馬区内 (55.4)	23区内 (練馬区を除く) (24.2)	東京都内 (9.1)
	前回 (n=69)	練馬区内 (49.3)	23区内 (練馬区を除く) (26.1)	東京都内 (13.0)
精神障害者	今回 (n=201)	23区内 (練馬区を除く) (42.8)	練馬区内 (30.8)	東京都内 (10.4)
	前回 (n=136)	23区内 (練馬区を除く) (41.2)	練馬区内 (39.0)	東京都内 (11.8)
難病患者	今回 (n=166)	練馬区内 (32.5)	23区内 (練馬区を除く) (31.3)	東京都内 (24.1)
	前回 (n=145)	23区内 (練馬区を除く) (44.8)	練馬区内 (34.5)	東京都内 (14.5)

(3) 1年間の就労収入

1年間の就労収入は、身体障害者、知的障害者、精神障害者ともに「100万円～300万円未満」が最も多くそれぞれ31.9%、29.0%、30.3%となっている。

知的障害者では、「5万円未満」が24.7%、「5万円～20万円未満」が27.4%となっており、約5割が20万円未満である。

難病患者は、「100万円～300万円未満」、「300万円～500万円未満」がともに25.9%と最も多くなっている。

(単位：％)

区 分	身体障害者 (n=204)	知的障害者 (n=186)	精神障害者 (n=201)	難病患者 (n=166)
5万円未満	7.4	24.7 (3位)	7.0	0.6
5万円～20万円未満	7.4	27.4 (2位)	8.0	3.6
20万円～50万円未満	2.0	4.8	6.0	4.8
50万円～100万円未満	9.8 (3位)	8.1	16.4 (2位)	10.8
100万円～300万円未満	31.9 (1位)	29.0 (1位)	30.3 (1位)	25.9 (1位)
300万円～500万円未満	21.1 (2位)	－	9.0 (3位)	25.9 (1位)
500万円～700万円未満	5.9	－	7.5	11.4 (3位)
700万円以上	5.4	－	4.0	11.4 (3位)
収入はない	7.8	3.2	5.0	－
無回答	1.5	2.7	7.0	5.4

※ベース：働いていると回答した人

(4) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）

仕事をする上での不安や不満は、身体障害者では「収入が少ない」が最も多く 42.2%となっている。また、「特に不安や不満はない」が 21.1%である。

知的障害者では、「収入が少ない」（33.3%）、「職場での身分が不安定」（23.1%）、「昇給や昇進が平等ではない」（22.6%）が多くなっている。また、「特に不安や不満はない」は 29.6%である。

精神障害者は、「収入が少ない」が最も多く 46.3%、次いで「人間関係が苦手」が 35.3%となっている。

難病患者では、「収入が少ない」が最も多く 40.4%、次いで「仕事が体力的にきつい」が 29.5%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=204)	知的障害者 (n=186)	精神障害者 (n=201)	難病患者 (n=166)
収入が少ない	42.2（1位）	33.3（1位）	46.3（1位）	40.4（1位）
仕事が難しい	4.4	3.8	8.5	7.2
仕事が体力的にきつい	16.7（3位）	5.9	22.9（3位）	29.5（2位）
自分にあった内容の仕事がない	6.9	5.9	12.9	2.4
1日の就労時間が長い	5.4	3.8	11.4	14.5
1週間の就労日数が多い	3.9	3.8	7.0	10.2
障害への理解が足りない	15.2	9.7	22.9（3位）	16.3
人間関係が苦手	12.7	10.8	35.3（2位）	7.8
職場での身分が不安定	6.4	23.1（3位）	20.4	6.6
トイレなど障害者用の設備が十分でない	2.5	2.2	6.0	3.6
昇給や昇進が平等ではない	8.3	22.6	11.9	10.2
通勤が大変	11.3	8.6	21.9	19.9（3位）
その他	4.4	6.5	10.4	3.0
特に不安や不満はない	21.1（2位）	29.6（2位）	17.9	19.9（3位）
無回答	9.3	7.5	2.5	3.6

※ベース：働いていると回答した人

【前回調査との比較】

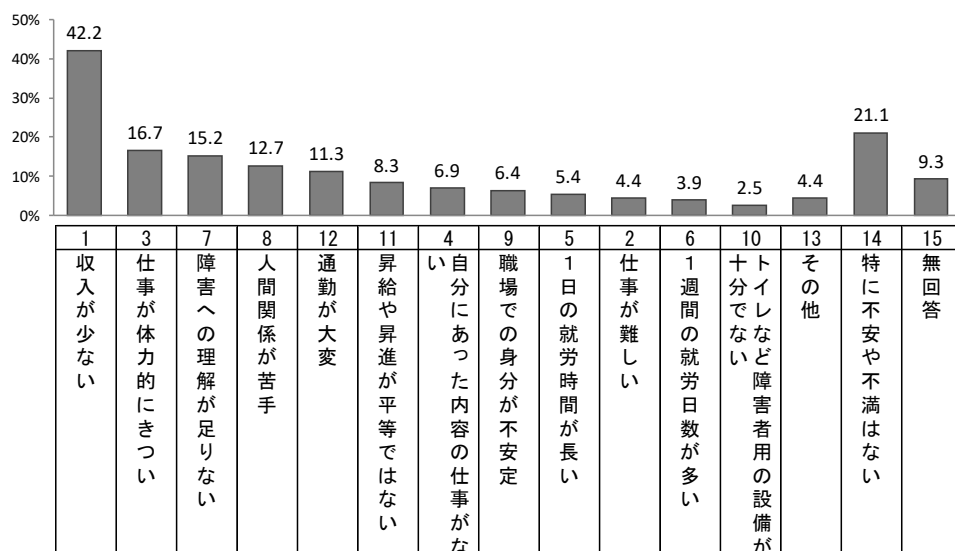
（単位：％）

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=204)	収入が少ない (42.2)	特に不安や不満はない (21.1)	仕事が体力的にきつい (16.7)
	前回 (n=110)	収入が少ない (35.5)	特に不安や不満はない (28.2)	障害への理解が足りない (18.2)
知的障害者	今回 (n=186)	収入が少ない (33.3)	特に不安や不満はない (29.6)	職場での身分が不安定 (23.1)
	前回 (n=69)	収入が少ない (40.6)	特に不安や不満はない (34.8)	昇給や昇進が平等ではない (20.3)
精神障害者	今回 (n=201)	収入が少ない (46.3)	人間関係が苦手 (35.3)	障害への理解が足りない/仕事が体力的にきつい (同率22.9)
	前回 (n=136)	収入が少ない (41.2)	人間関係が苦手 (38.2)	障害への理解が足りない (20.6)
難病患者	今回 (n=166)	収入が少ない (40.4)	仕事が体力的にきつい (29.5)	通勤が大変/特に不安や不満はない (同率19.9)
	前回 (n=145)	収入が少ない (34.5)	特に不安や不満はない (29.0)	障害への理解が足りない (22.1)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「収入が少ない」が最も多い。また、「人間関係が苦手」をあげる人の割合は、障害の程度が軽いほど高く、軽度（５・６級）では25.0%となっている。

就労形態別にみると、「非正規職員」では、半数以上が「収入が少ない」（56.6%）ことをあげている。



【障害の程度別】

	n	1 収入が少ない	3 仕事が体力的にきつい	7 障害への理解が足りない	8 人間関係が苦手	12 通勤が大変	11 昇給や昇進が平等ではない	4 い自分にあつた内容の仕事がない	9 職場での身分が不安定	5 1日の就労時間が長い	2 仕事が多い	6 1週間の就労日数が多い	10 トイレなど障害者用の設備が十分でない	13 その他	14 特に不安や不満はない	15 無回答
0 全体	204	42.2	16.7	15.2	12.7	11.3	8.3	6.9	6.4	5.4	4.4	3.9	2.5	4.4	21.1	9.3
1 重度（１・２級）	99	38.4	17.2	13.1	6.1	14.1	6.1	7.1	3.0	7.1	4.0	4.0	-	2.0	26.3	10.1
2 中度（３・４級）	65	44.6	20.0	16.9	15.4	10.8	10.8	6.2	9.2	4.6	4.6	4.6	6.2	4.6	12.3	9.2
3 軽度（５・６級）	36	50.0	11.1	19.4	25.0	2.8	11.1	8.3	11.1	2.8	5.6	2.8	2.8	11.1	19.4	5.6

【就労形態別】

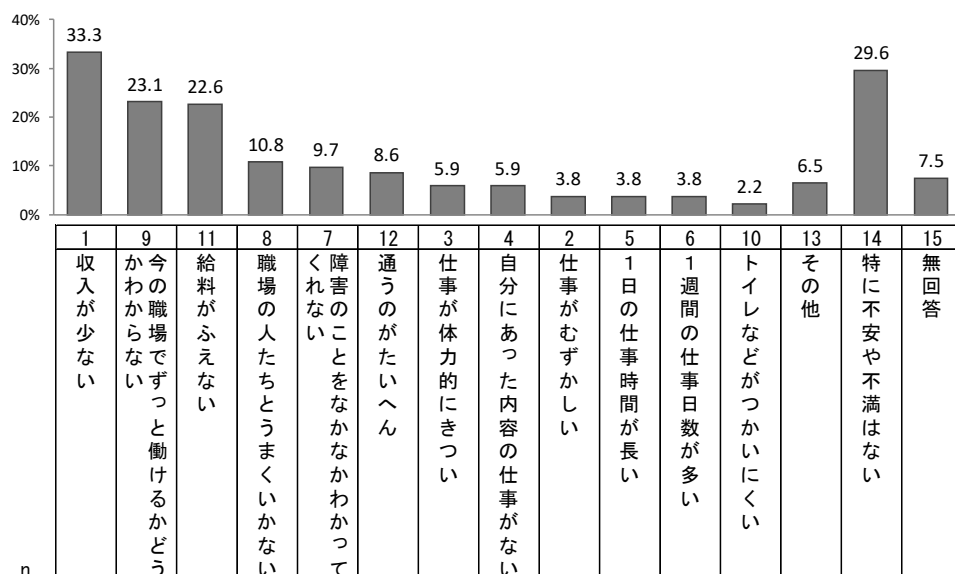
1 自営業	32	40.6	40.6	6.3	3.1	3.1	-	6.3	-	3.1	3.1	3.1	3.1	6.3	21.9	6.3
2 会社・団体等の正規職員	72	40.3	15.3	18.1	13.9	16.7	4.2	6.9	4.2	6.9	5.6	6.9	4.2	4.2	23.6	-
3 非正規職員	53	56.6	13.2	22.6	18.9	11.3	20.8	9.4	17.0	3.8	1.9	1.9	1.9	3.8	24.5	1.9
4 就労移行支援・就労継続支援事業所	13	38.5	-	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4	7.7	-	7.7	-	-	7.7	23.1	7.7

※ベース：働いていると回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「収入が少ない」が多くあげられているが、軽度（４度）では「特に不安や不満はない」と回答した人が 36.0%と最も多い。

就労形態別にみると、就労移行支援・就労継続支援事業所で働いている場合には、46.1%が「収入が少ない」ことをあげている。また、非正規職員（契約、パート、派遣など）は、「今の職場ですっと働けるかどうかわからない」と回答した人が 37.8%と最も多い。



【障害程度別】

障害の程度別	n	1 収入が少ない	9 今の職場ですっと働けるかどうか	11 給料がふえない	8 職場の人たちとうまくいかない	7 障害のことをなかなかわかって	12 通うのがたいへん	3 仕事に体力的にきつい	4 自分にあつた内容の仕事がない	2 仕事にむずかしい	5 1日の仕事時間が長い	6 1週間の仕事日数が多い	10 トイレなどがつかいにくい	13 その他	14 特に不安や不満はない	15 無回答
0 全体	186	33.3	23.1	22.6	10.8	9.7	8.6	5.9	5.9	3.8	3.8	3.8	2.2	6.5	29.6	7.5
1 最重度・重度（１・２度）	25	40.0	20.0	24.0	8.0	12.0	8.0	-	8.0	8.0	-	-	8.0	16.0	16.0	16.0
2 中度（３度）	69	37.7	21.7	20.3	5.8	10.1	10.1	2.9	4.3	4.3	5.8	4.3	1.4	5.8	27.5	5.8
3 軽度（４度）	86	30.2	25.6	24.4	16.3	9.3	8.1	9.3	7.0	2.3	2.3	3.5	1.2	4.7	36.0	3.5

【就労形態別】

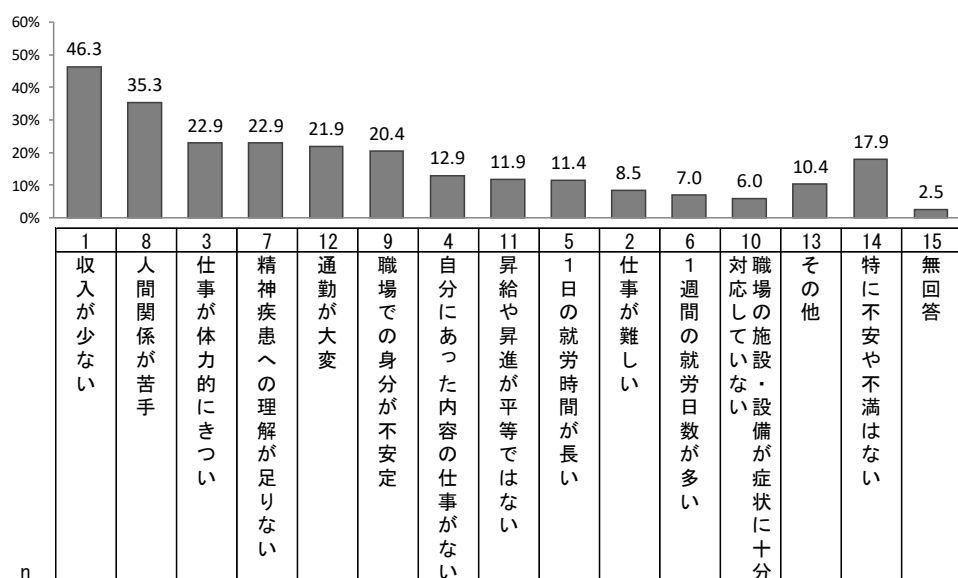
就労形態別	n	1 収入が少ない	9 今の職場ですっと働けるかどうか	11 給料がふえない	8 職場の人たちとうまくいかない	7 障害のことをなかなかわかって	12 通うのがたいへん	3 仕事に体力的にきつい	4 自分にあつた内容の仕事がない	2 仕事にむずかしい	5 1日の仕事時間が長い	6 1週間の仕事日数が多い	10 トイレなどがつかいにくい	13 その他	14 特に不安や不満はない	15 無回答
1 会社・団体などの正規職員	21	9.5	23.8	14.3	9.5	-	9.5	4.8	4.8	4.8	-	4.8	-	-	42.9	4.8
2 非正規職員	45	22.2	37.8	20.0	4.4	11.1	6.7	2.2	-	2.2	2.2	2.2	-	4.4	35.6	-
3 就労移行支援・就労継続支援事業所	102	46.1	18.6	27.5	11.8	10.8	10.8	5.9	7.8	3.9	3.9	2.9	3.9	8.8	26.5	4.9

※ベース：働いていると回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、発達障害と診断されている人では、「人間関係が苦手」と回答した人の割合が4割を超えている（それぞれ45.8%、47.6%）。

就労形態別にみると、会社・団体等の正規職員の場合は、26.9%が「昇給や昇進が平等ではない」と回答し、また、非正規職員（契約、パート、派遣等）の場合は、33.0%が「職場での身分が不安定」と回答している。



【診断名別】		n	1	8	3	7	12	9	4	11	5	2	6	10	13	14	15
0	全体	201	46.3	35.3	22.9	22.9	21.9	20.4	12.9	11.9	11.4	8.5	7.0	6.0	10.4	17.9	2.5
1	統合失調症	24	54.2	45.8	25.0	20.8	20.8	25.0	16.7	4.2	8.3	8.3	8.3	-	16.7	16.7	-
2	気分障害	115	50.4	36.5	27.8	28.7	23.5	24.3	14.8	15.7	13.9	10.4	7.8	7.0	12.2	13.0	1.7
3	発達障害	42	50.0	47.6	16.7	33.3	31.0	33.3	23.8	19.0	4.8	9.5	4.8	14.3	9.5	16.7	-
4	その他	49	42.9	28.6	20.4	22.4	22.4	18.4	12.2	16.3	14.3	12.2	10.2	16.3	18.4	20.4	6.1

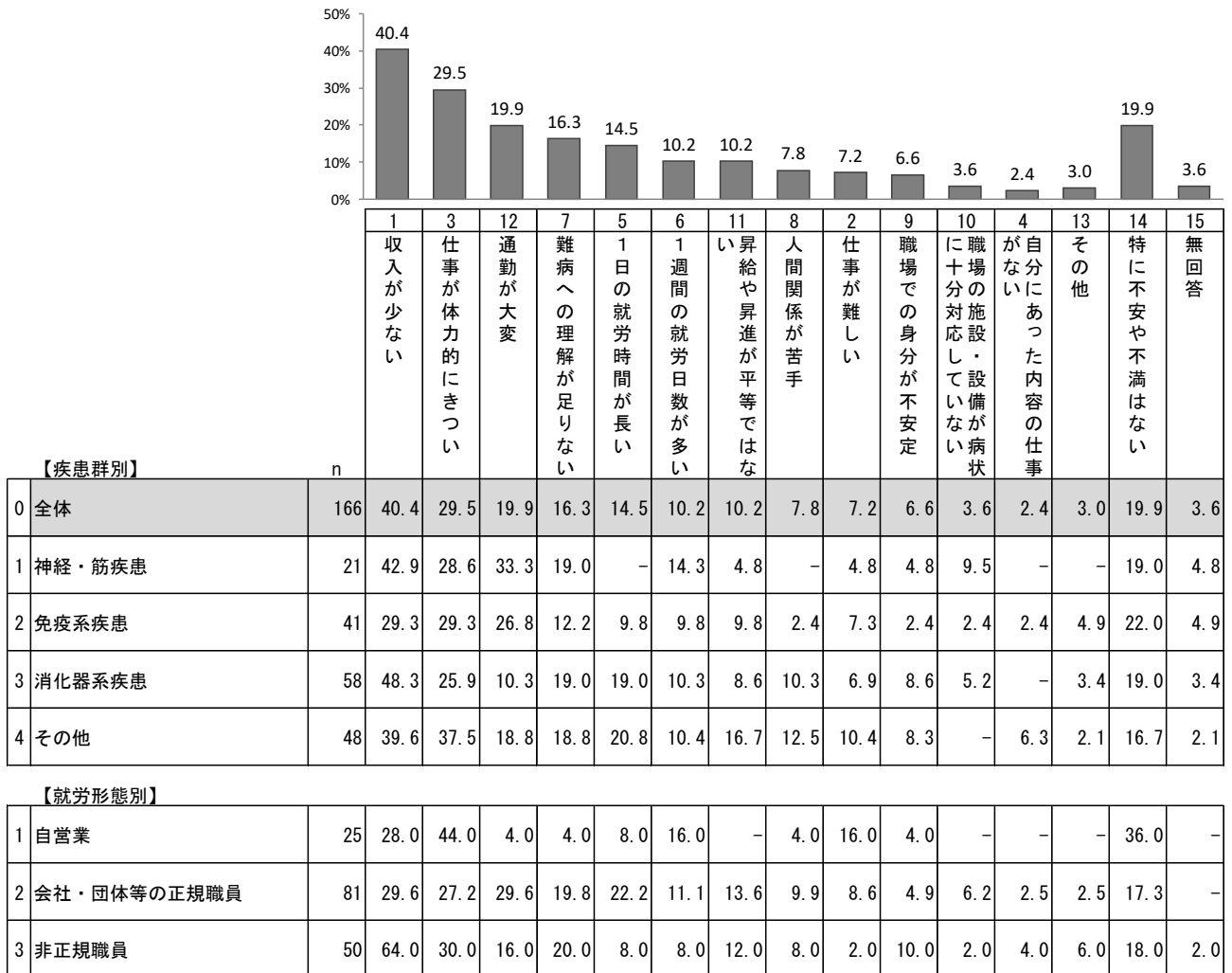
【就労形態別】		n	1	8	3	7	12	9	4	11	5	2	6	10	13	14	15
1	会社・団体等の正規職員	52	34.6	28.8	19.2	23.1	25.0	5.8	5.8	26.9	13.5	11.5	5.8	3.8	13.5	21.2	1.9
2	非正規職員	88	54.5	40.9	27.3	23.9	22.7	33.0	15.9	9.1	12.5	6.8	9.1	8.0	9.1	15.9	1.1
3	就労移行支援・就労継続支援事業所	27	44.4	40.7	18.5	11.1	22.2	14.8	11.1	3.7	3.7	11.1	3.7	3.7	11.1	22.2	3.7

※ベース：働いていると回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、消化器系疾患では「収入が少ない」ことをあげる人が48.3%と最も多く、次いで「仕事が体力的にきつい」が25.9%となっている。

就労形態別にみると、非正規職員（契約、パート、派遣等）では「収入が少ない」ことをあげる人が64.0%と特に多くなっている。



※ベース：働いていると回答した人

（５）働いていない理由（複数回答）

現在働いていない人の「働いていない理由」は、身体障害者では「高齢だから」が 37.7%と最も多く、次いで「障害の程度や症状のため」が 34.3%となっている。

知的障害者では、「障害の程度や症状のため」が 73.6%と最も多くなっている。

精神障害者では、「体調がよくないから」が 48.2%と最も多く、次いで「障害の程度や症状のため」が 37.7%となっている。

（単位：％）

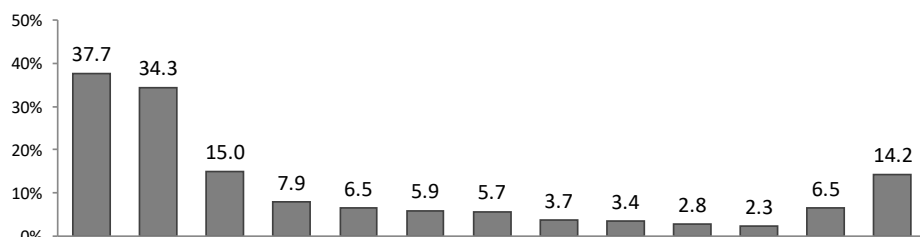
区 分	身体障害者 (n=353)	知的障害者 (n=121)	精神障害者 (n=220)
体調がよくないから	15.0 （３位）	7.4	48.2 （１位）
働くと、体調が悪いときに休みにくいから	5.7	2.5	22.7 （３位）
働く、と、通院しにくいから	5.9	1.7	13.2
通勤が難しいから	6.5	5.8	18.2
職場の理解が得られないと思うから	3.4	7.4	19.5
やりたい仕事が見つからないから	3.7	5.0	10.9
仕事が難しそうだから	2.8	8.3 （３位）	16.4
家事があるから	7.9	1.7	13.2
高齢だから	37.7 （１位）	3.3	17.3
仕事をする年齢に達していないから	2.3	2.5	0.5
障害の程度や症状のため	34.3 （２位）	73.6 （１位）	37.7 （２位）
その他	6.5	6.6	7.7
無回答	14.2	12.4 （２位）	12.3

※ベース：働いていないと回答した人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「障害の程度や症状のため」という理由が 39.7% と最も多く、中度（３・４級）や軽度（５・６級）に比べて高い割合となっている。

年齢別にみると、18～64 歳では「障害の程度や症状のため」が 49.4% と最も多く、次いで「体調がよくないから」が 22.1% となっている。



【障害の程度別】		n	9	11	1	8	4	3	2	6	5	7	10	12	13
			高齢だから	障害の程度や症状のため	体調がよくないから	家事があるから	通勤が難しいから	働くこと、通院しにくいから	働くこと、体調が悪いときに休みにくいから	やりたい仕事が見つからないから	職場の理解が得られないと思うから	仕事に難しさがあるから	仕事をしたい年齢に達していないから	その他	無回答
0	全体	353	37.7	34.3	15.0	7.9	6.5	5.9	5.7	3.7	3.4	2.8	2.3	6.5	14.2
1	重度（１・２級）	204	30.9	39.7	13.7	5.9	7.4	6.9	4.4	3.4	2.9	2.5	2.5	7.8	14.2
2	中度（３・４級）	103	52.4	27.2	17.5	8.7	5.8	4.9	7.8	-	2.9	1.0	1.9	3.9	12.6
3	軽度（５・６級）	35	37.1	25.7	14.3	20.0	2.9	5.7	5.7	14.3	5.7	8.6	2.9	5.7	11.4

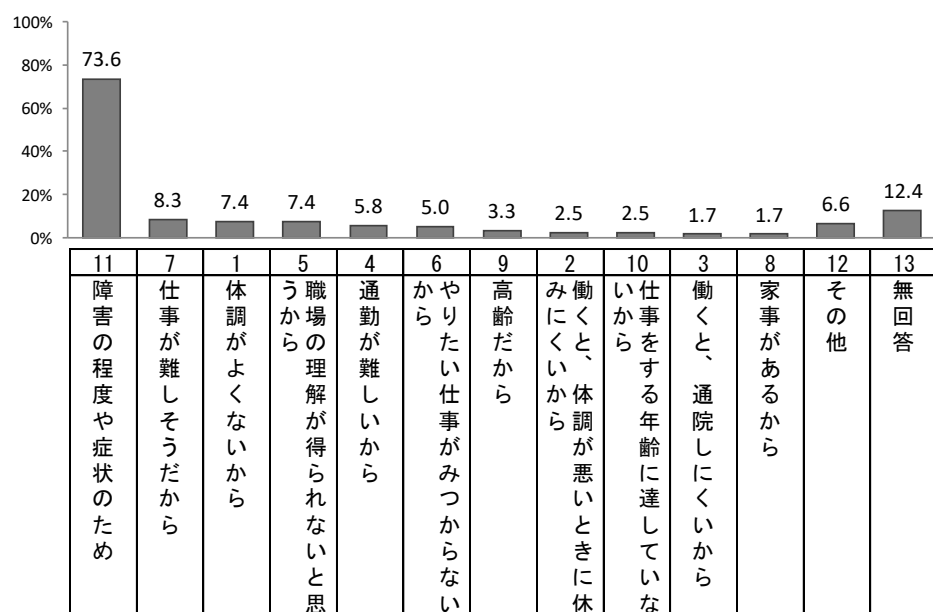
【年齢別】		n	9	11	1	8	4	3	2	6	5	7	10	12	13
			高齢だから	障害の程度や症状のため	体調がよくないから	家事があるから	通勤が難しいから	働くこと、通院しにくいから	働くこと、体調が悪いときに休みにくいから	やりたい仕事が見つからないから	職場の理解が得られないと思うから	仕事に難しさがあるから	仕事をしたい年齢に達していないから	その他	無回答
1	18～64歳	154	4.5	49.4	22.1	9.7	11.0	9.1	9.7	6.5	6.5	5.8	-	9.1	14.9

※ベース：働いていないと回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）と中度（３度）で、「障害の程度や症状のため」と回答している人が約８割となっている。

年齢別にみると、１８～６４歳では全体とほぼ同様の傾向を示している。



【障害程度別】		n				患		い		休	な				
0	全体	121	73.6	8.3	7.4	7.4	5.8	5.0	3.3	2.5	2.5	1.7	1.7	6.6	12.4
1	最重度・重度（１・２度）	88	79.5	6.8	3.4	5.7	6.8	3.4	2.3	-	3.4	-	1.1	4.5	14.8
2	中度（３度）	11	81.8	-	9.1	-	-	-	9.1	-	-	-	-	9.1	-
3	軽度（４度）	17	35.3	23.5	23.5	23.5	5.9	17.6	5.9	17.6	-	11.8	5.9	17.6	5.9

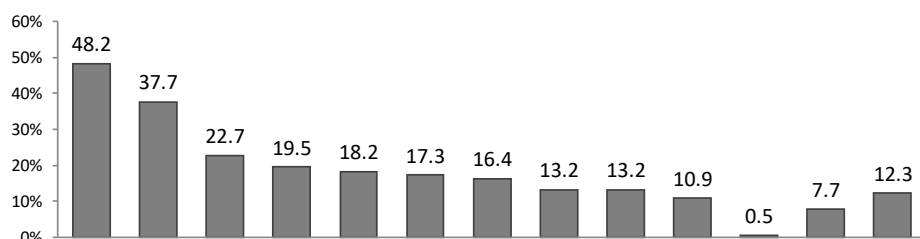
【年齢別】		n	11	7	1	5	4	6	9	2	10	3	8	12	13
1	18～64歳	112	75.0	8.9	8.0	8.0	6.3	5.4	2.7	2.7	0.9	0.9	1.8	7.1	11.6

※ベース：働いていないと回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「障害の程度や症状のため」という理由が 50.0%と最も多く、気分障害、発達障害と診断されている人では「体調がよくないから」という理由がそれぞれ 58.9%、61.9%と最も多くなっている。

年齢別にみると、18～64 歳では、「体調がよくないから」という理由が 55.0%と最も多く、次いで「障害の程度や症状のため」という理由が 40.2%で続いている。



			n												
【診断名別】			1	11	2	5	4	9	7	3	8	6	10	12	13
			体調が よくない から	障害の 程度や 症状の ため	働く と、 体調 が悪 い と き に 休 み に	職 場 の 理 解 が 得 ら れ な い と 思 う か	通 勤 が 難 し い か ら	高 齢 だ か ら	仕 事 が 難 し そ う だ か ら	働 く と、 通 院 し に く い か ら	家 事 が あ る か ら	や り た い 仕 事 が み つ か ら な い か ら	仕 事 を す る 年 齢 に 達 し て い な い か ら	そ の 他	無 回 答
0	全体	220	48.2	37.7	22.7	19.5	18.2	17.3	16.4	13.2	13.2	10.9	0.5	7.7	12.3
1	統合失調症	68	44.1	50.0	17.6	14.7	16.2	17.6	22.1	10.3	20.6	7.4	－	2.9	11.8
2	気分障害	112	58.9	36.6	26.8	22.3	20.5	15.2	14.3	16.1	8.0	12.5	0.9	8.9	10.7
3	発達障害	21	61.9	52.4	28.6	23.8	28.6	4.8	38.1	14.3	9.5	19.0	－	19.0	9.5
4	その他	65	40.0	43.1	27.7	21.5	18.5	16.9	15.4	16.9	13.8	13.8	－	9.2	13.8

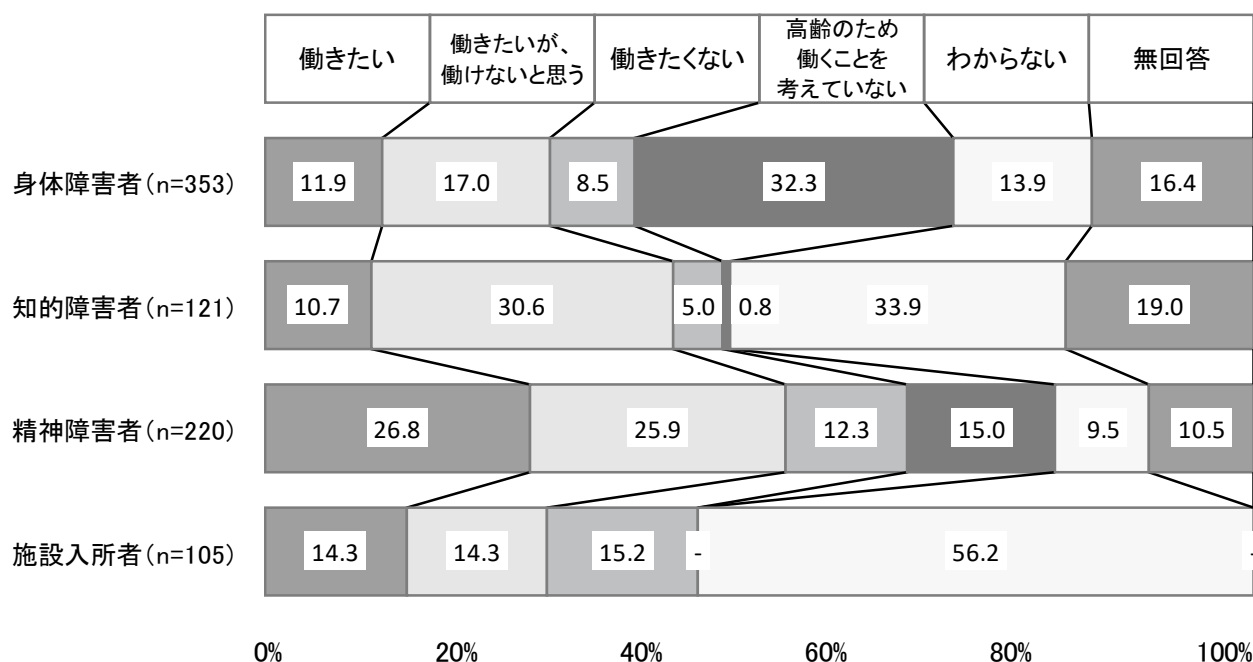
【年齢別】															
1	18～64歳	169	55.0	40.2	28.4	23.7	21.9	4.7	20.1	14.2	16.0	13.0	-	9.5	10.7

※ベース：働いていないと回答した人

(6) 今後の就労意向

現在働いていない人の今後の就労について、身体障害者では「高齢のため働くことを考えていない」が最も多く 32.3%となっている。知的障害者では「働きたいが働けないと思う」が 30.6%となっている。精神障害者では「働きたい」が最も多く 26.8%、次いで「働きたいが働けないと思う」が 25.9%となっている。施設入所者では、「働きたい」、「働きたいが働けないと思う」がともに 14.3%となっている。

(%)



※ベース：働いていないと回答した人

【前回調査との比較】

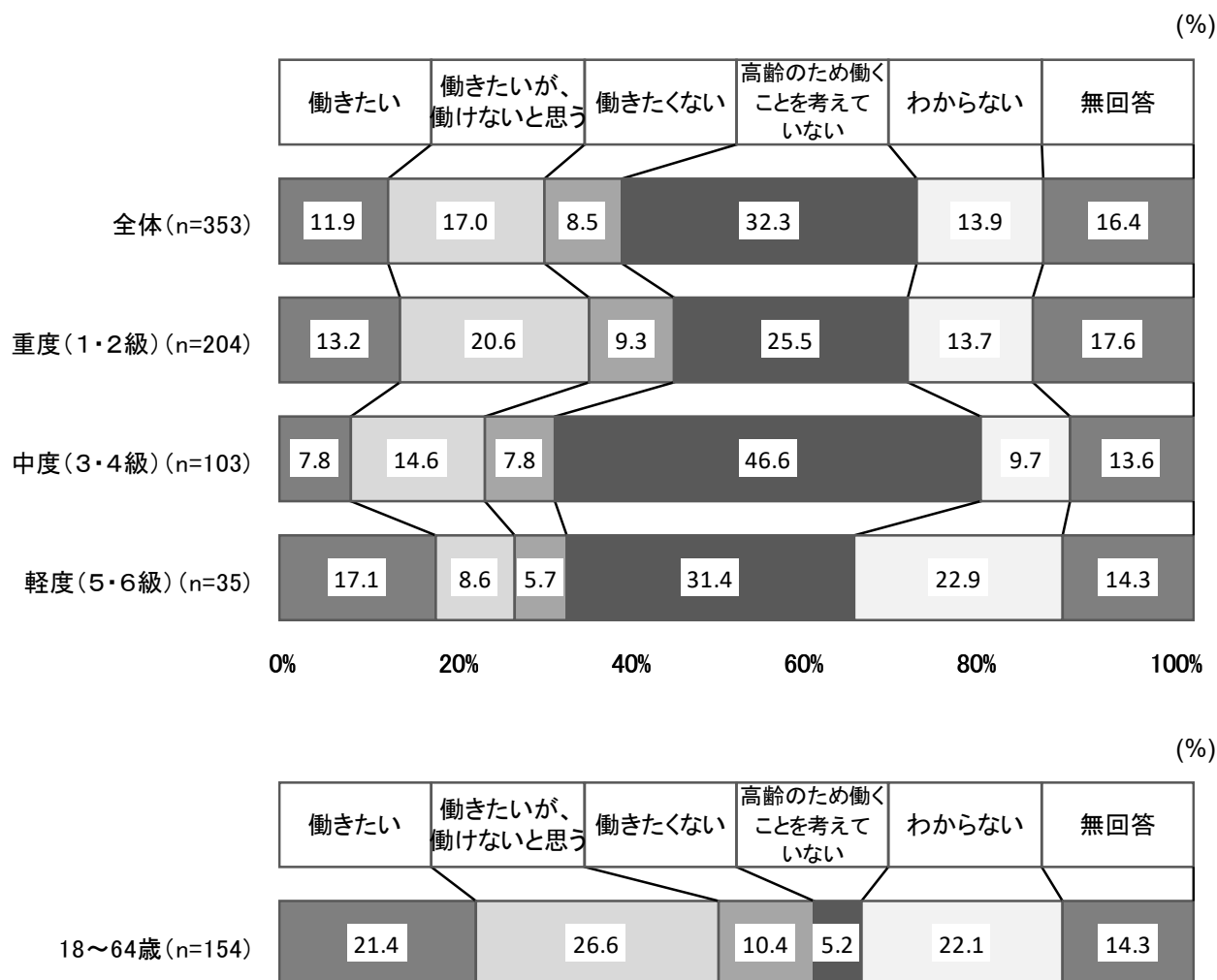
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=353)	高齢のため働くことを考えていない (32.3)	働きたいが、働けないと思う (17.0)	わからない (13.9)
	前回 (n=252)	働きたいが、働けないと思う (23.8)	働きたくない (20.6)	わからない (11.5)
知的障害者	今回 (n=121)	わからない (33.9)	働きたいが、働けないと思う (30.6)	働きたい (10.7)
	前回 (n=78)	わからない (26.9)	働きたいが、働けないと思う (25.6)	働きたくない (15.4)
精神障害者	今回 (n=220)	働きたい (26.8)	働きたいが、働けないと思う (25.9)	高齢のため働くことを考えていない (15.0)
	前回 (n=228)	働きたいが、働けないと思う (29.8)	働きたい (25.0)	働きたくない (19.3)
施設入所者	今回 (n=105)	わからない (56.2)	働きたくない (15.2)	働きたくない/働きたいが、働けないと思う (同率 14.3)
	前回 (n=100)	わからない (42.0)	働きたい (18.0)	働きたくない (18.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では、20.6%が「働きたいが、働けないと思う」と回答している。

年齢別にみると、18～64 歳では、「働きたい」が 21.4%、「働きたいが、働けないと思う」が 26.6%となっており、合わせると約半数の人には就労意向があることがわかる。

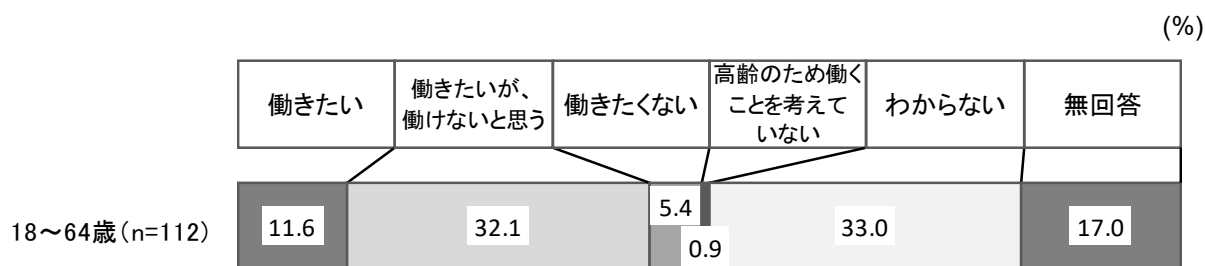
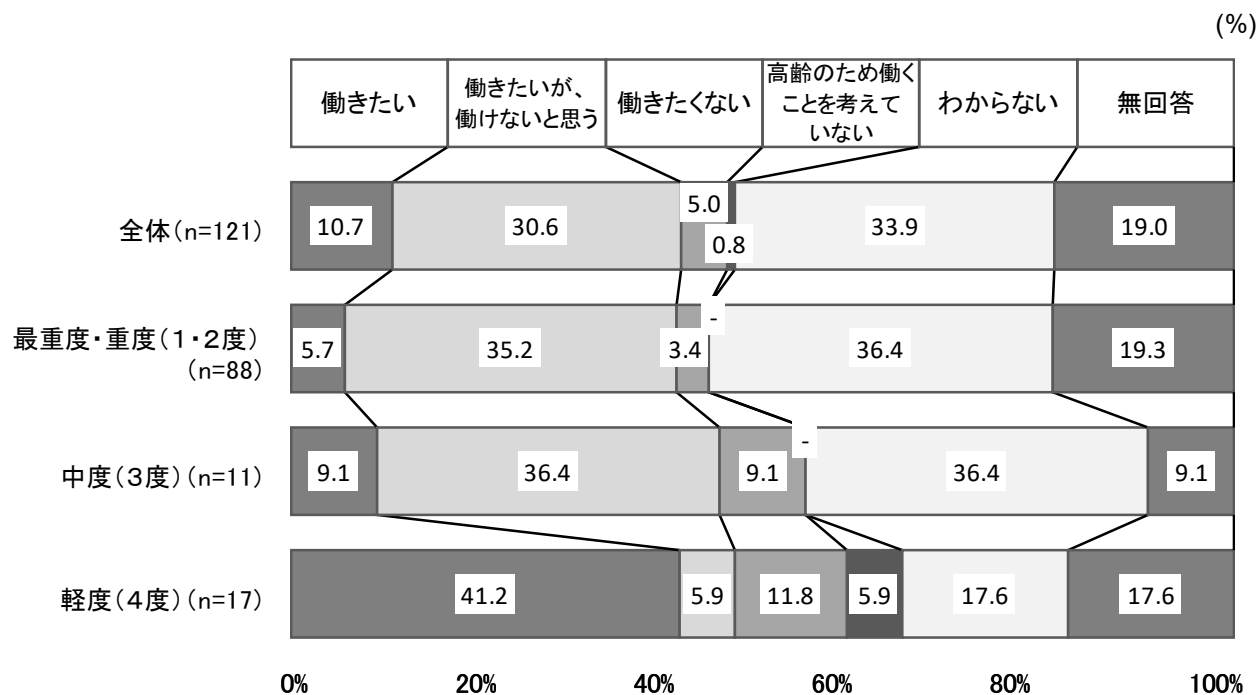


※ベース：働いていないと回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず、約4割の人に就労意向（「働きたい」「働きたいが、働けないと思う」と回答）があることがわかる。

年齢別にみると、18～64歳では全体とほぼ同様の傾向を示している。

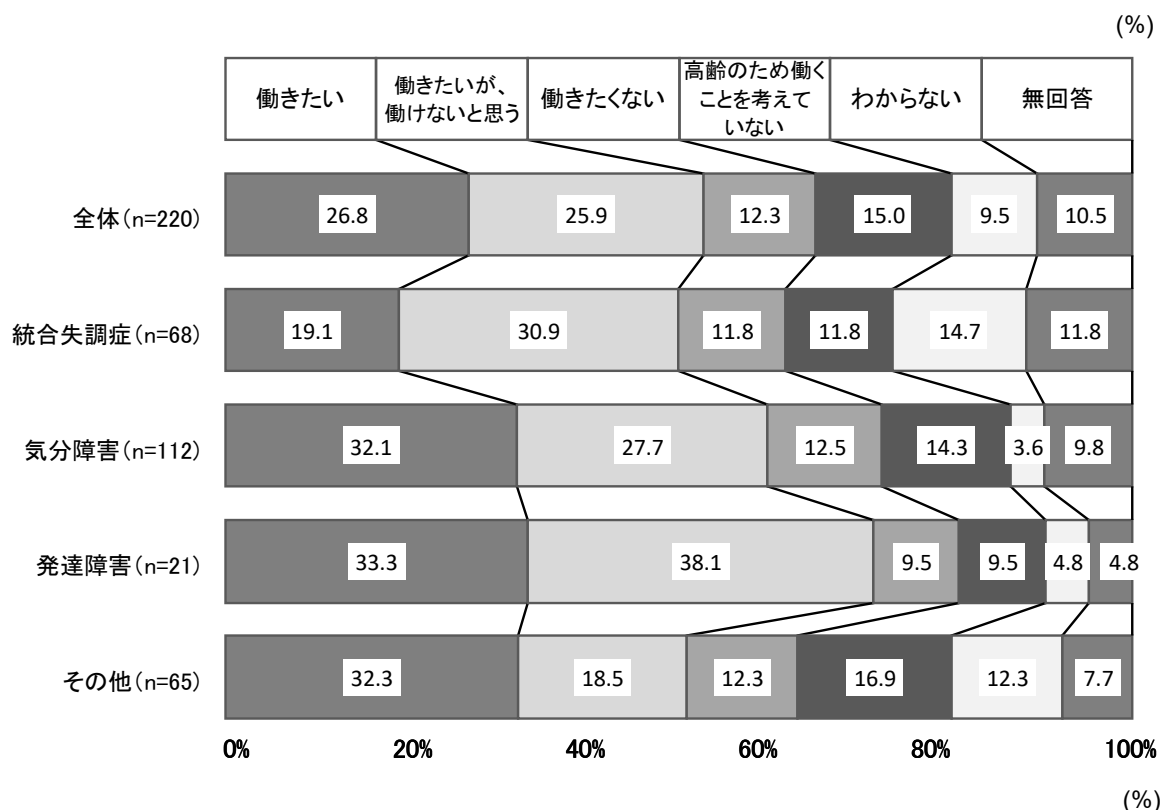


※ベース：働いていないと回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では、「働きたい」が19.1%、「働きたいが、働けないと思う」が30.9%で、合わせると半数の人に就労意向があることがわかる。同様に、気分障害と診断されている人では約6割、発達障害と診断されている人では約7割に就労意向があることがわかる。

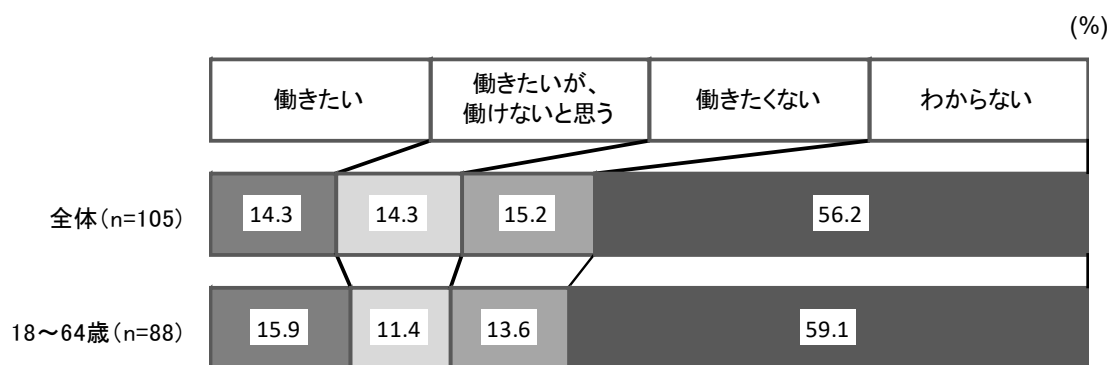
年齢別にみると、18～64歳では「働きたい」が33.7%、「働きたいが、働けないと思う」が30.2%で、「働きたくない」と回答した人は11.8%となっている。



※ベース：働いていないと回答した人

【施設入所者】

年齢別にみると、18～64歳では就労意向のある人が27.3%となっている。



※ベース：働いていないと回答した人

(7) 働きたいが働けない理由（自由回答）（施設入所者のみ）

主な意見は、次のとおりである。

- ・ 幼少から施設で生活しており、就労経験が無く高齢になってしまっているため
- ・ 聴覚障害がありコミュニケーションをとるのに時間を要し、思いが伝わらないと行動障害をおこしてしまうため
- ・ 身体が自由に動かないから

(8) 働くために大切だと思う環境（複数回答）

障害のある人が働くために大切な環境としては、身体障害者、精神障害者、難病患者では「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も多くそれぞれ 50.5%、64.7%、64.6%となっている。知的障害者では「障害のある人にあった仕事を用意されること」が 62.4%、「事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること」が 62.0%となっている。

施設入所者では、「健康状態にあわせた働き方ができること」、「障害のある人にあった仕事を用意されること」がともに 40.0%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)
自分の家の近くに働く場があること	36.4	52.1（3位）	48.8（3位）	40.6（3位）	24.8
自分の家の中で、通勤することなく働けること	24.1	9.5	30.6	32.0	6.7
健康状態にあわせた働き方ができること	50.5（1位）	35.2	64.7（1位）	64.6（1位）	40.0（1位）
障害のある人にあった仕事を用意されること	47.3（2位）	62.4（1位）	47.2	34.3	40.0（1位）
就労支援機関（レインボーワーク、就労移行支援事業所等）が充実していること	15.9	41.1	27.1	14.3	9.5
生活支援・余暇支援が充実していること	20.0	43.5	31.7	17.3	24.8
事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること	44.6（3位）	62.0（2位）	55.7（2位）	50.5（2位）	32.4（3位）
職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるように配慮されていること	34.6	36.9	28.6	26.3	24.8
ジョブコーチの支援を受けながら働けること	14.9	34.0	23.3	11.4	10.5
同じような障害のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	14.6	38.8	19.3	11.2	19.0
その他	4.2	2.7	6.2	2.3	1.9
わからない	9.6	7.8	6.9	11.4	30.5
無回答	10.6	5.5	5.5	8.2	5.7

【前回調査との比較】

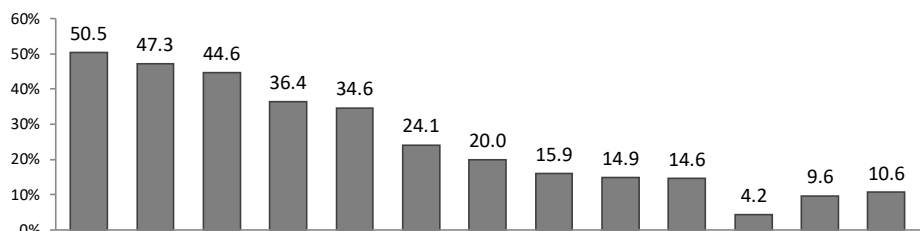
（単位：％）

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	健康状態にあわせた働き方ができること (50.5)	障害のある人にあった仕事を用意されること (47.3)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (44.6)
	前回 (n=558)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (46.4)	障害のある人にあった仕事を用意されること (45.7)	健康状態にあわせた働き方ができること (42.5)
知的障害者	今回 (n=474)	障害のある人にあった仕事を用意されること (62.4)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (62.0)	自分の家の近くに働く場があること (52.1)
	前回 (n=248)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (59.3)	障害のある人にあった仕事を用意されること (57.3)	自分の家の近くに働く場があること (50.4)
精神障害者	今回 (n=451)	健康状態にあわせた働き方ができること (64.7)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (55.7)	自分の家の近くに働く場があること (48.8)
	前回 (n=434)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (56.7)	健康状態にあわせた働き方ができること (54.6)	障害のある人にあった仕事を用意されること (45.4)
難病患者	今回 (n=475)	健康状態にあわせた働き方ができること (64.6)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (50.5)	自分の家の近くに働く場があること (40.6)
	前回 (n=346)	健康状態にあわせた働き方ができること (61.6)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (43.6)	障害のある人にあった仕事を用意されること (41.9)
施設入所者	今回 (n=105)	健康状態にあわせた働き方ができること/障害のある人にあった仕事を用意されること (同率 40.0)	障害のある人にあった仕事を用意されること (39.0)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (32.4)
	前回 (n=100)	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること (42.0)		職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるように配慮されていること (34.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も多い。（軽度（５・６級）では「障害のある人にあった仕事を用意されること」が同率（５０．６％）で１位。）

障害の種類別にみると、視覚障害では「障害のある人にあった仕事を用意されること」が５６．４％と最も多く、聴覚障害では「事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること」が６１．６％と最も多くなっている。

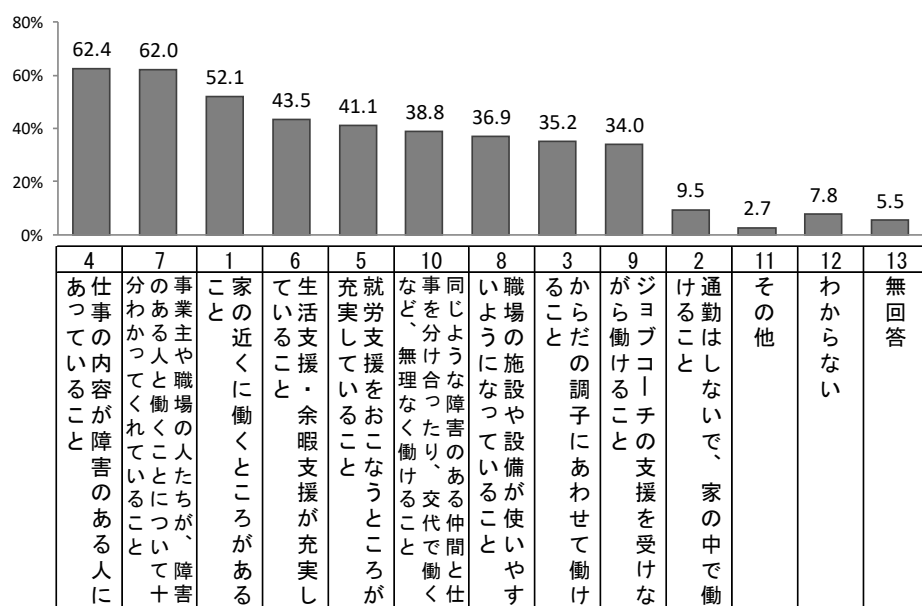


【障害の程度別】		n	3 こ健康 と健康 状態に あわせ た働き 方がで きる	4 れる障 害のあ る人に あつた 仕事が 用意さ れるこ と	7 用事業 主や職 場の人 たちが 、障害 者雇用 について 十分理 解して いるこ と	1 自分の 家の近 くに働 く場が あるこ と	8 ことも 利用で きるよ うに設 備が配 慮され ている 人に	2 働ける こと自 分の家 の中で 、通勤 すること なく	6 こと生 活支援 ・余暇 支援が 充実し ている	5 就労支 援機 関（レ イン ボー ワーク 、	9 けるこ とジョ ブコー チの支 援を受 けなが ら働	10 に、あ るいは 交替で 働ける こと同 じよう な障害 のある 仲間と 一緒	11 その他	12 わから ない	13 無回答
0	全体	659	50.5	47.3	44.6	36.4	34.6	24.1	20.0	15.9	14.9	14.6	4.2	9.6	10.6
1	重度（１・２級）	371	50.9	46.9	44.5	34.5	36.1	24.3	20.5	16.2	15.1	14.6	4.6	9.2	11.1
2	中度（３・４級）	191	52.4	49.2	45.0	41.4	30.9	26.2	19.9	15.2	15.7	14.7	3.7	7.9	8.9
3	軽度（５・６級）	79	50.6	50.6	48.1	38.0	36.7	22.8	19.0	19.0	13.9	13.9	3.8	13.9	7.6

【障害の種類別】		n	3 こ健康 と健康 状態に あわせ た働き 方がで きる	4 れる障 害のあ る人に あつた 仕事が 用意さ れるこ と	7 用事業 主や職 場の人 たちが 、障害 者雇用 について 十分理 解して いるこ と	1 自分の 家の近 くに働 く場が あるこ と	8 ことも 利用で きるよ うに設 備が配 慮され ている 人に	2 働ける こと自 分の家 の中で 、通勤 すること なく	6 こと生 活支援 ・余暇 支援が 充実し ている	5 就労支 援機 関（レ イン ボー ワーク 、	9 けるこ とジョ ブコー チの支 援を受 けなが ら働	10 に、あ るいは 交替で 働ける こと同 じよう な障害 のある 仲間と 一緒	11 その他	12 わから ない	13 無回答
1	視覚障害	101	39.6	56.4	45.5	35.6	40.6	29.7	18.8	18.8	19.8	16.8	5.9	11.9	6.9
2	聴覚障害	99	43.4	54.5	61.6	25.3	37.4	16.2	25.3	25.3	22.2	22.2	8.1	5.1	8.1
3	平衡機能障害	4	75.0	50.0	50.0	50.0	25.0	—	50.0	25.0	25.0	25.0	—	—	—
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	34.5	44.8	37.9	24.1	31.0	10.3	6.9	10.3	13.8	10.3	—	13.8	10.3
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	56.3	53.8	51.9	46.2	44.7	31.3	25.0	20.2	19.2	18.8	4.3	7.2	9.1
6	肢体不自由（体幹）	77	54.5	51.9	50.6	32.5	42.9	28.6	22.1	22.1	19.5	19.5	3.9	6.5	14.3
7	内部障害	185	57.8	36.2	30.8	34.1	18.4	22.2	16.2	7.6	5.9	4.3	2.2	10.8	14.1
8	その他	8	37.5	25.0	12.5	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5	—	12.5	—	37.5	—

【知的障害者】

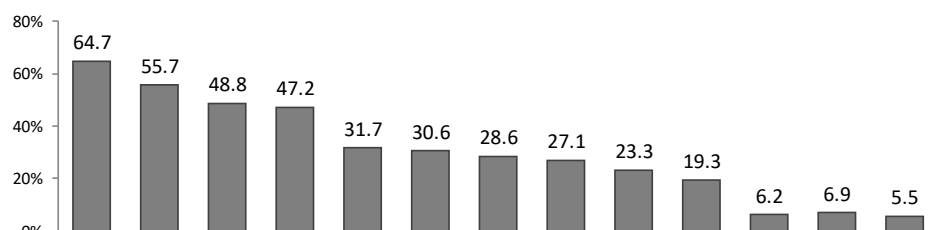
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「仕事の内容が障害のある人にあっていること」が71.0%と最も多く、軽度（４度）では「事業主や職場の人たちが、障害のある人と働くことについて十分わかってきていること」が67.4%と最も多くなっている。



【障害程度別】		n	4	7	1	6	5	10	8	3	9	2	11	12	13
0	全体	474	62.4	62.0	52.1	43.5	41.1	38.8	36.9	35.2	34.0	9.5	2.7	7.8	5.5
1	最重度・重度（１・２度）	162	71.0	58.0	58.0	50.6	33.3	38.3	46.9	40.7	29.0	14.2	2.5	13.0	4.3
2	中度（３度）	116	62.9	62.9	57.8	46.6	43.1	42.2	35.3	34.5	33.6	3.4	3.4	3.4	4.3
3	軽度（４度）	181	56.9	67.4	45.3	35.9	47.5	37.6	29.8	32.0	40.3	9.4	2.8	5.5	5.5

【精神障害者】

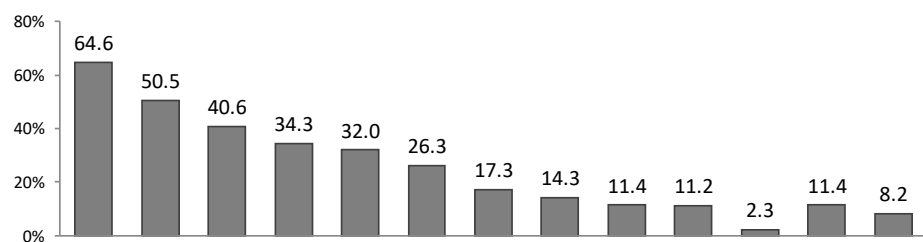
診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「精神疾患のある方であった仕事を用意されること」が 57.4%と最も多く、気分障害と診断されている人では「健康状態にあわせた働き方ができること」が 72.0%と最も多く、発達障害と診断されている人では「事業主や職場の人たちが、精神疾患のある方の雇用について十分理解していること」が 69.6%と最も多くなっている。



			3	7	1	4	6	2	8	5	9	10	11	12	13
			健康状態にあわせた働き方ができること	事業主や職場の人たちが、精神疾患のある方の雇用について十分理解していること	自分の家の近くに働く場があること	精神疾患のある方にあつた仕事を用意されること	生活支援・余暇支援が充実していること	自分の家の中で、通勤することなく働けること	職場の施設や設備が精神疾患の配慮されていること	就労支援機関（レインボーワーク、就労移行支援事業所等）が充実していること	ジョブコーチの支援を受けながら働けること	同じような精神疾患のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	その他	わからない	無回答
【診断名別】			n												
0	全体	451	64.7	55.7	48.8	47.2	31.7	30.6	28.6	27.1	23.3	19.3	6.2	6.9	5.5
1	統合失調症	101	56.4	55.4	51.5	57.4	33.7	32.7	33.7	28.7	27.7	28.7	5.0	7.9	6.9
2	気分障害	239	72.0	57.7	51.0	44.8	31.4	35.1	28.0	23.8	18.8	17.2	8.4	4.6	3.3
3	発達障害	69	65.2	69.6	43.5	66.7	37.7	34.8	43.5	46.4	39.1	24.6	11.6	5.8	2.9
4	その他	123	64.2	52.8	54.5	45.5	35.0	31.7	31.7	24.4	26.0	21.1	4.9	9.8	4.9

【難病患者】

疾患群別にみると、いずれも「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も多くあげられているが、特に消化器系疾患では78.6%と高い割合となっている。



【疾患群別】		n	3 健康状態にあわせた働き方ができること	7 事業主や職場の人たちが、難病の方の雇用について十分理解していること	1 自分の家の近くに働く場があること	4 難病の方の健康状態にあった仕事を用意されること	2 自分の家の中で、通勤することなく働けること	8 職場の施設や設備が、難病の方に利用しやすいように配慮されていること	6 生活支援・余暇支援が充実していること	5 就労支援機関（レインボーワーク、就労移行支援事業所）が充実していること	9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること	10 あるいは交替で働けることと一緒に、	11 その他	12 わからない	13 無回答
0	全体	475	64.6	50.5	40.6	34.3	32.0	26.3	17.3	14.3	11.4	11.2	2.3	11.4	8.2
1	神経・筋疾患	130	53.8	43.1	32.3	30.0	33.1	21.5	13.8	8.5	10.8	9.2	3.8	14.6	12.3
2	免疫系疾患	106	67.0	54.7	44.3	39.6	32.1	25.5	18.9	16.0	11.3	13.2	1.9	12.3	6.6
3	消化器系疾患	117	78.6	55.6	46.2	34.2	34.2	34.2	21.4	17.1	12.0	9.4	—	5.1	6.0
4	その他	125	60.0	52.8	43.2	36.0	29.6	25.6	16.0	16.8	11.2	12.8	4.0	12.8	7.2

6 外出や社会参加について

(1) 外出の際に困っていること（複数回答）

外出の際に困っていることは、身体障害者では「特に困っていることはない」が30.7%いる中で、「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」が最も多く24.6%となっている。

知的障害者では、「他人との会話が難しい」が最も多く31.4%となっている。

精神障害者では、「特に困っていることはない」が46.8%いる中で、「他人の視線が気になる」が最も多く25.9%となっている。

難病患者では、「特に困っていることはない」が39.2%いる中で、「障害者用のトイレが少ない」が最も多く19.8%となっている。

施設入所者では、「特に困っていることはない」が29.5%いる中で、「他人との会話が難しい」が最も多く25.7%となっている。

児童発達支援事業利用者では、「特に困っていることはない」が33.1%いる中で、「他人の視線が気になる」が最も多く32.3%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
付き添ってくれる人がいない	8.6	13.9	9.5	4.6	16.2	23.6
他人との会話が難しい	13.4	31.4 (1位)	17.1 (3位)	4.8	25.7 (2位)	23.6
他人の視線が気になる	6.1	15.0	25.9 (2位)	5.9	4.8	32.3 (2位)
必要なときに、周りの人の手助け・配慮が足りない	10.3	8.9	13.1	6.1	7.6	15.0
歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい	24.6 (2位)	15.0		15.6	14.3	17.3
建物などに段差が多く、利用しにくい	23.5 (3位)	13.1		19.4 (3位)	18.1	11.0
車を駐車するところがない	9.7	8.6		8.8	3.8	14.2
気軽に利用できる移動手段が少ない	10.6	15.8		10.5	22.9 (3位)	11.0
電車やバスなどが利用しづらい	16.5	19.6		12.0	19.0	26.0 (3位)
障害者用のトイレが少ない	12.7	20.0 (3位)		19.8 (2位)	13.3	17.3
その他	10.8	6.5	12.6	7.2	4.8	6.3
特に困っていることはない	30.7 (1位)	27.8 (2位)	46.8 (1位)	39.2 (1位)	29.5 (1位)	33.1 (1位)
無回答	7.4	6.5	4.9	6.7	8.6	2.4

【前回調査との比較】

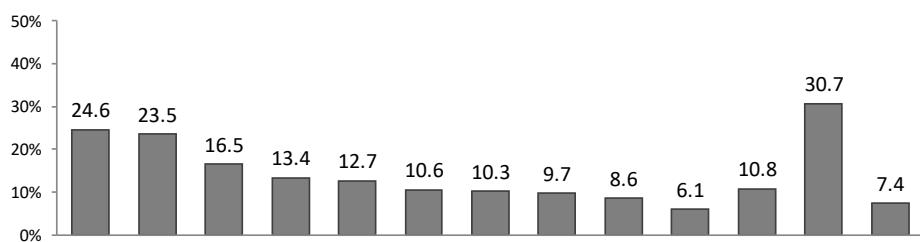
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	特に困っていることはない (30.7)	歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい (24.6)	建物などに段差が多く、利用しにくい (23.5)
	前回 (n=558)	歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい (27.2)	特に困っていることはない (26.0)	建物などに段差が多く、利用しにくい (24.0)
知的障害者	今回 (n=474)	他人との会話が難しい (31.4)	特に困っていることはない (27.8)	障害者用のトイレが少ない (20.0)
	前回 (n=248)	他人との会話が難しい (33.1)	特に困っていることはない (29.0)	他人の視線が気になる (17.7)
精神障害者	今回 (n=451)	特に困っていることはない (46.8)	他人の視線が気になる (25.9)	他人との会話が難しい (17.1)
	前回 (n=434)	特に困っていることはない (44.5)	他人の視線が気になる (21.7)	他人との会話が難しい (20.3)
難病患者	今回 (n=475)	特に困っていることはない (39.2)	障害者用のトイレが少ない (19.8)	建物などに段差が多く、利用しにくい (19.4)
	前回 (n=346)	特に困っていることはない (40.8)	歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい (19.7)	建物などに段差が多く、利用しにくい (19.1)
施設入所者	今回 (n=105)	特に困っていることはない (29.5)	他人との会話が難しい (25.7)	気軽に利用できる移動手段が少ない (22.9)
	前回 (n=100)	建物などに段差が多く、利用しにくい (29.0)	他人との会話が難しい (26.0)	付き添ってくれる人がいない (25.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」（27.8%）、「建物などに段差が多く、利用しにくい」（27.5%）をあげる人が、それぞれ３割近くにのぼる。なお、「特に困っていることはない」と回答した人の割合は、障害の軽い人ほど高く、軽度（５度・６度）では41.8%となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では約半数が「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」（50.5%）ことで困っている状況である。聴覚障害では43.4%が「他人との会話が難しい」と回答している。肢体不自由（上肢、下肢等）と肢体不自由（体幹）では「障害者用のトイレが少ない」ことをあげる人の割合が、それぞれ21.6%、27.3%となっている。



【障害の程度別】

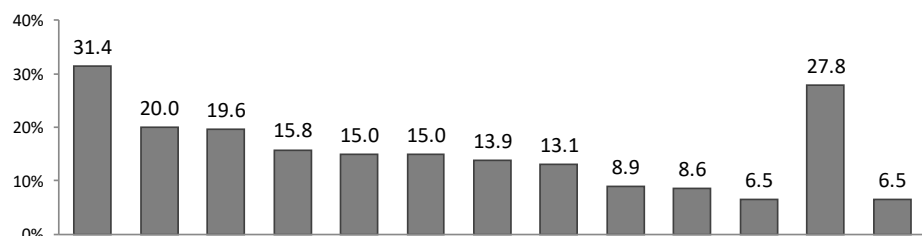
	n	5 障害物が多いなど、歩道が歩きにくい	6 建物などに段差が多く、利用しにくい	9 電車やバスなどが利用しづらい	2 他人との会話が難しい	10 障害者用のトイレが少ない	8 気軽に利用できる移動手段が少ない	4 必要ときに、周りの人の手助け・配慮が足りない	7 車を駐車するところがない	1 付き添ってくれる人がいない	3 他人の視線が気になる	11 その他	12 特に困っていることはない	13 無回答
0 全体	659	24.6	23.5	16.5	13.4	12.7	10.6	10.3	9.7	8.6	6.1	10.8	30.7	7.4
1 重度（１・２級）	371	27.8	27.5	20.5	12.9	14.8	13.2	11.9	11.6	8.9	4.9	11.6	28.6	7.5
2 中度（３・４級）	191	19.4	18.8	11.5	14.7	10.5	8.4	7.3	7.9	6.8	7.9	9.4	30.9	6.8
3 軽度（５・６級）	79	24.1	16.5	10.1	11.4	7.6	3.8	8.9	5.1	10.1	5.1	11.4	41.8	6.3

【障害の種類別】

1 視覚障害	101	50.5	30.7	19.8	9.9	11.9	12.9	15.8	2.0	15.8	5.0	15.8	18.8	5.9
2 聴覚障害	99	11.1	8.1	8.1	43.4	5.1	4.0	11.1	4.0	10.1	11.1	11.1	32.3	5.1
3 平衡機能障害	4	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	75.0	-
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	29	27.6	17.2	17.2	48.3	-	6.9	6.9	3.4	6.9	13.8	6.9	17.2	6.9
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	208	32.2	36.5	26.4	9.6	21.6	18.3	13.0	18.3	7.7	6.3	12.5	20.7	7.7
6 肢体不自由（体幹）	77	39.0	40.3	32.5	14.3	27.3	29.9	16.9	20.8	14.3	5.2	3.9	15.6	9.1
7 内部障害	185	13.0	16.2	11.4	2.2	9.7	4.3	5.4	8.6	3.2	3.8	8.1	47.0	7.0
8 その他	8	50.0	50.0	-	12.5	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-

【知的障害者】

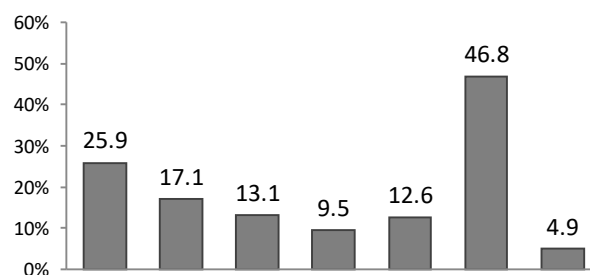
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「トイレが使いにくい、少ない」とで困っている人が43.8%と最も多く、次いで「まわりの人と話すのがむずかしい」（37.7%）、「電車やバスなどが利用しづらい」（35.8%）となっている。中度（３度）と軽度（４度）では「特に困っていることはない」がそれぞれ27.6%、45.3%と多くなっている。



【障害程度別】		n	2	10	9	8	3	5	1	6	4	7	11	12	13
			まわりの人と話すのがむずかしい	トイレが使いにくい、少ない	電車やバスなどが利用しづらい	（福祉タクシーなど）気軽に利用できる移動手段が少ない	まわりの人の目が気になる	歩道が狭かったり、自転車が置いてあつたりして、歩道が歩きに	つきそってくれる人がいない	建物などに段差が多く、利用しにく	いまわりの人の手助け・配慮が足りない	車を停めるところがない	その他	特に困っていることはない	無回答
0	全体	474	31.4	20.0	19.6	15.8	15.0	15.0	13.9	13.1	8.9	8.6	6.5	27.8	6.5
1	最重度・重度（１・２度）	162	37.7	43.8	35.8	30.9	21.6	27.2	18.5	25.3	14.2	19.1	10.5	9.9	7.4
2	中度（３度）	116	33.6	9.5	12.9	12.9	9.5	8.6	19.8	7.8	5.2	6.0	4.3	27.6	4.3
3	軽度（４度）	181	24.3	6.1	9.4	5.0	12.2	8.8	6.1	6.6	5.5	1.7	4.4	45.3	6.1

【精神障害者】

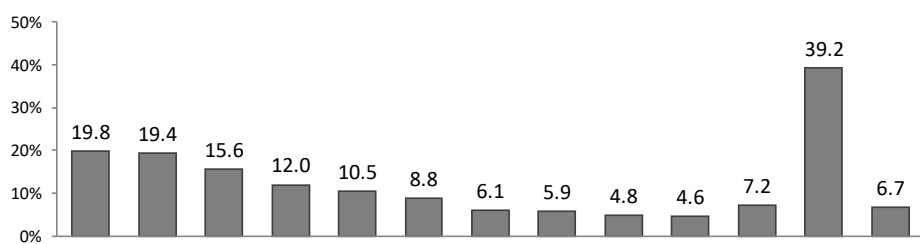
診断名別にみると、発達障害と診断されている人では、「他人の視線が気になる」が44.9%、「他人との会話が難しい」が31.9%となっており、それぞれ統合失調症、気分障害と診断されている人に比べて高い割合となっている。



【診断名別】			n						
			3	2	4	1	5	6	7
			他人の視線が気になる	他人との会話が難しい	助け・配慮が足りない、周りの人の手	付き添ってくれる人がいない	その他	特に困っていることはない	無回答
0	全体	451	25.9	17.1	13.1	9.5	12.6	46.8	4.9
1	統合失調症	101	29.7	19.8	14.9	11.9	14.9	37.6	6.9
2	気分障害	239	26.4	15.1	11.7	9.6	13.0	51.0	2.9
3	発達障害	69	44.9	31.9	17.4	5.8	13.0	33.3	-
4	その他	123	22.0	20.3	18.7	8.9	16.3	42.3	4.9

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「建物などに段差が多く、利用しにくい」が35.4%と最も多くなっている。免疫系疾患、消化器系疾患では「特に困っていることはない」と回答した人の割合が約4割と最も多くなっている。



【疾患群別】		n	10 トイレが使いにくい・少ない	6 建物などに段差が多く、利用しにくい	5 障害物が狭く、放置自転車などの多いなど、歩道が歩きのにくい	9 電車やバスなどが利用しづらい	8 少ないに利用できる移動手段が	7 車を駐車するところがない	4 必要ときに、周りの人の手助け・配慮が足りない	3 他人の視線が気になる	2 他人との会話が難しい	1 付き添ってくれる人がいない	11 その他	12 特に困っていることはない	13 無回答
0	全体	475	19.8	19.4	15.6	12.0	10.5	8.8	6.1	5.9	4.8	4.6	7.2	39.2	6.7
1	神経・筋疾患	130	26.2	35.4	24.6	22.3	20.8	9.2	7.7	12.3	12.3	10.8	8.5	20.8	7.7
2	免疫系疾患	106	4.7	13.2	11.3	10.4	6.6	6.6	5.7	4.7	3.8	3.8	5.7	46.2	7.5
3	消化器系疾患	117	32.5	8.5	5.1	5.1	3.4	7.7	1.7	-	0.9	2.6	5.1	45.3	6.8
4	その他	125	13.6	20.8	20.8	8.8	10.4	11.2	8.8	6.4	1.6	1.6	9.6	43.2	4.0

(2) 今後してみたい活動（複数回答）

今後してみたい活動は、身体障害者、知的障害者、難病患者、施設入所者では「旅行」が最も多くなっている。精神障害者では「個人的な趣味や学習の活動」（45.7%）、児童発達支援事業利用者では「スポーツ・レクリエーション」（74.8%）が最も多くなっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
文化芸術活動	11.5	13.1	21.7	12.8	10.5	47.2
スポーツ・レクリエーション	19.9（3位）	34.4（2位）	24.2（3位）	17.9（3位）	21.9	74.8（1位）
旅行	40.1（1位）	51.3（1位）	34.8（2位）	46.1（1位）	41.0（1位）	59.8（2位）
ボランティア活動	7.6	5.1	15.1	12.6	1.9	
障害者団体の活動	7.0	7.0	6.9	6.5	4.8	
趣味などのサークル活動	19.6	21.1	22.0	16.8	6.7	
個人的な趣味や学習の活動	37.0（2位）	31.9（3位）	45.7（1位）	43.4（2位）	19.0	59.8（2位）
講座や講演会などへの参加	12.4	3.0	18.4	15.6	1.0	
地域の行事やお祭	10.9	20.0	11.5	8.2	23.8（3位）	48.8
その他	4.2	4.4	4.4	2.7	4.8	5.5
特に活動したくない	16.8	12.4	19.5	15.2	27.6（2位）	0.8
無回答	8.2	6.5	4.2	6.5	5.7	0.8

(3) 活動に参加するために必要な支援（複数回答）

希望する活動に参加するために必要な支援は、身体障害者では「障害のある人に配慮した施設や設備があること」が最も多く 31.0%となっている。

知的障害者では、「介助者・援助者がいること」が最も多く 50.0%となっている。

精神障害者では、「活動についての情報が提供されること」が最も多く 35.3%となっている。

難病患者では、「活動する場所が近くにあること」が最も多く 27.6%となっている。

施設入所者では、「介助者・援助者がいること」が最も多く 47.6%となっている。

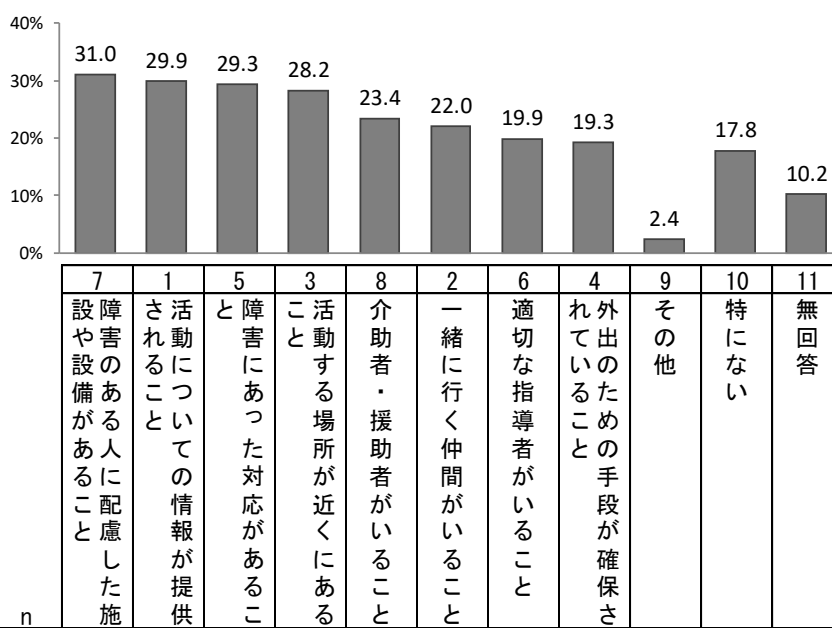
児童発達支援事業利用者では、「適切な指導者がいること」が最も多く 67.7%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
活動についての情報が提供されること	29.9（2位）	30.4	35.3（1位）	25.5（2位）	28.6	55.9（3位）
一緒に行く仲間がいること	22.0	30.8	24.8	19.2	30.5	36.2
活動する場所が近くにあること	28.2	32.3	33.3（2位）	27.6（1位）	25.7	65.4（2位）
外出のための手段が確保されていること	19.3	38.8	17.5	15.4	39.0（2位）	22.8
障害にあった対応があること	29.3（3位）	42.8（3位）	26.6	22.5	32.4（3位）	
適切な指導者がいること	19.9	46.8（2位）	27.5（3位）	14.5	24.8	67.7（1位）
障害のある人に配慮した施設や設備があること	31.0（1位）	33.5	25.3	23.2	30.5	
介助者・援助者がいること	23.4	50.0（1位）	13.7	13.7	47.6（1位）	25.2
その他	2.4	2.5	5.5	1.3	-	4.7
特にない	17.8	9.1	21.7	25.1（3位）	18.1	3.1
無回答	10.2	8.6	9.8	10.3	5.7	2.4

【身体障害者】

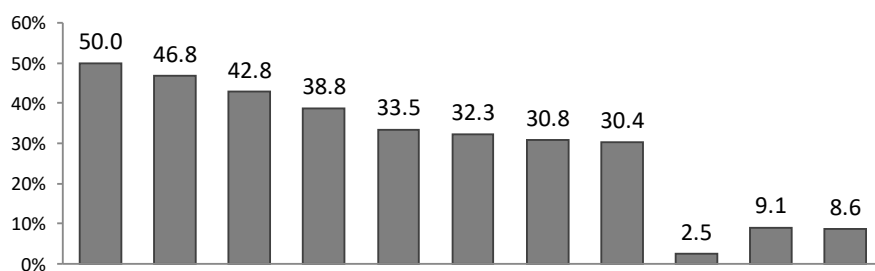
障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「障害のある人に配慮した施設や設備があること」（34.0%）、中度（３・４級）では「活動する場所が近くにあること」（29.3%）、軽度（５・６級）では「活動についての情報が提供されること」（39.2%）が最も多くなっている。



【障害の程度別】		n	7 設や設備がある人に配慮した施設	1 障害のある人に配慮した施設	5 活動についての情報が提供	3 活動する場所が近くにあること	8 介助者・援助者がいること	2 一緒に行く仲間がいること	6 適切な指導者がいること	4 外出のための手段が確保	9 その他	10 特にな	11 無回答
0	全体	659	31.0	29.9	29.3	28.2	23.4	22.0	19.9	19.3	2.4	17.8	10.2
1	重度（１・２級）	371	34.0	29.1	32.3	28.3	29.9	22.9	22.4	21.8	3.0	13.7	11.9
2	中度（３・４級）	191	28.3	28.8	25.7	29.3	13.1	21.5	16.2	18.3	1.6	20.9	7.3
3	軽度（５・６級）	79	25.3	39.2	26.6	26.6	15.2	21.5	15.2	8.9	2.5	29.1	7.6

【知的障害者】

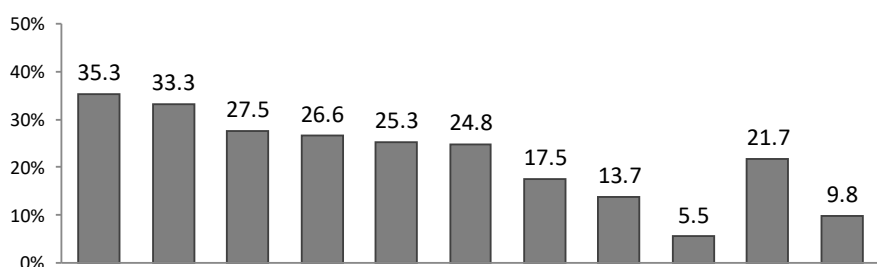
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）と中度（３度）では、「手助けをしてくれる人がいること」がそれぞれ 63.0%、50.0%と最も多く、軽度（４度）では「きちんと教えてくれる人がいること」が 56.4%と最も多くなっている。



【障害程度別】		n	8 い 手 助 け を し て く れ る 人 が	6 が き ち ん と 教 え て く れ る 人	5 る 障 害 に あ っ た 対 応 が で き	4 サ ー ビ ス の た め の 手 助 け ・	7 い 障 害 の あ る 人 が 使 い や す	3 る 活 動 す る 場 所 が 近 く に あ	2 る い っ し よ に 行 く 仲 間 が い	1 が 活 動 に つ い て の お し ら せ	9 そ の 他	10 特 に な い	11 無 回 答
0	全体	474	50.0	46.8	42.8	38.8	33.5	32.3	30.8	30.4	2.5	9.1	8.6
1	最重度・重度（１・２度）	162	63.0	37.0	55.6	55.6	51.2	34.0	25.3	27.8	4.9	5.6	9.9
2	中度（３度）	116	50.0	49.1	40.5	43.1	25.9	33.6	30.2	31.9	0.9	5.2	6.9
3	軽度（４度）	181	40.3	56.4	35.4	22.7	23.2	31.5	37.6	33.1	1.7	14.4	6.1

【精神障害者】

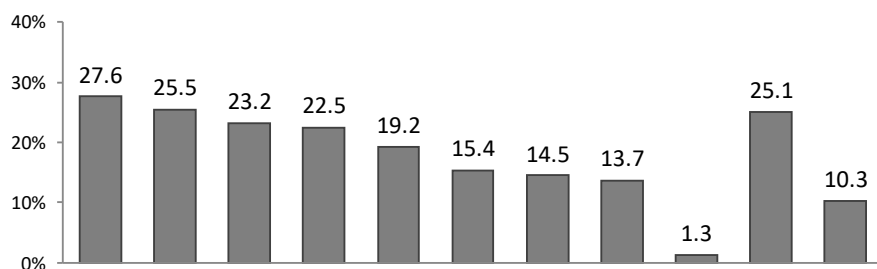
診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「精神疾患の症状にあった対応があること」が 37.6%と最も多く、発達障害と診断されている人では「適切な指導者がいること」が 44.9%と最も多くなっている。



【診断名別】		n	1 児童活動に関する情報提供	3 活動する場所が近くにあり	6 適切な指導者がいること	5 精神疾患の症状にあった対応	7 精神施設や設備がある方に配慮	2 一緒にいく仲間がいること	4 外出のための手段が確保	8 と介助者・援助者がいること	9 その他	10 特になし	11 無回答
0	全体	451	35.3	33.3	27.5	26.6	25.3	24.8	17.5	13.7	5.5	21.7	9.8
1	統合失調症	101	36.6	35.6	33.7	37.6	36.6	24.8	19.8	18.8	3.0	20.8	7.9
2	気分障害	239	35.6	34.7	25.1	24.3	23.4	24.7	18.0	10.5	7.5	22.6	7.9
3	発達障害	69	43.5	37.7	44.9	37.7	36.2	29.0	18.8	21.7	10.1	18.8	1.4
4	その他	123	37.4	35.8	25.2	29.3	26.8	23.6	17.1	16.3	5.7	22.8	8.9

【難病患者】

疾患群別にみると、「外出のための手段が確保されていること」や「介助者・援助者がいること」は、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患で高い割合となっている。

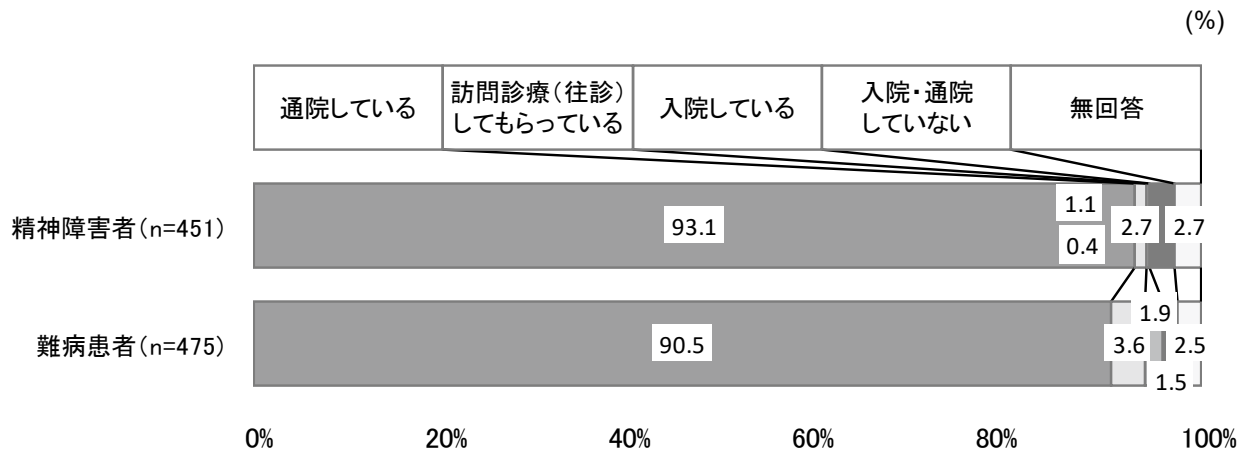


【疾患群別】		n	3 活動する場所が近くにあること	1 活動についての情報が提供されること	7 難病の方に配慮した施設や設備があること	5 と難病の方にあつた対応があること	2 一緒に行く仲間がいること	4 外出のための手段が確保されていること	6 適切な指導者がいること	8 介助者・援助者がいること	9 その他	10 特にない	11 無回答
0	全体	475	27.6	25.5	23.2	22.5	19.2	15.4	14.5	13.7	1.3	25.1	10.3
1	神経・筋疾患	130	27.7	22.3	26.2	23.8	16.2	25.4	14.6	23.1	1.5	18.5	13.8
2	免疫系疾患	106	30.2	18.9	17.9	17.9	17.9	15.1	14.2	13.2	0.9	28.3	10.4
3	消化器系疾患	117	28.2	34.2	28.2	25.6	17.1	7.7	11.1	4.3	0.9	28.2	10.3
4	その他	125	23.2	26.4	20.0	22.4	24.8	12.0	17.6	13.6	1.6	25.6	6.4

7 健康状況や医療について

(1) 医療の受診状況

精神障害者は自立支援医療制度（精神通院）利用者、難病患者は難病医療費助成利用者を調査対象としているため、医療の受診形態で「通院している」人は、精神障害者が 93.1%、難病患者が 90.5%となっている。



【前回調査との比較】

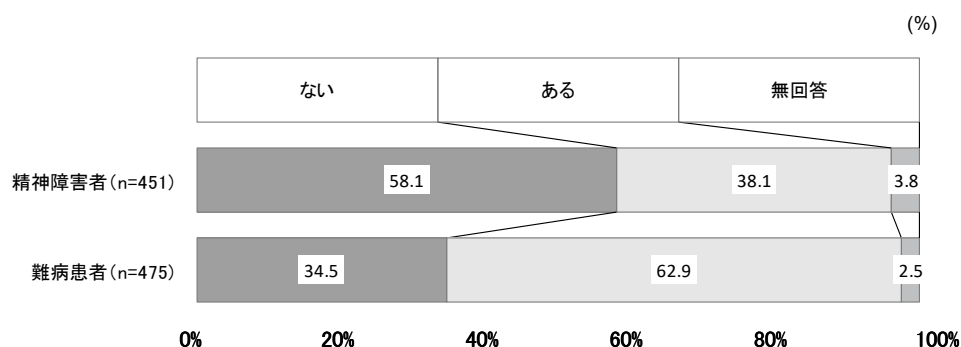
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
精神障害者	今回 (n=451)	通院している (93.1)	入院・通院していない (2.7)	訪問診療(往診)してもらっている (1.1)
	前回 (n=434)	通院している (91.9)	入院・通院していない (2.5)	入院している (1.2)
難病患者	今回 (n=475)	通院している (90.5)	訪問診療(往診)してもらっている (3.6)	入院している (1.9)
	前回 (n=346)	通院している (93.1)	訪問診療(往診)してもらっている (3.5)	入院している/入院・通院していない (同率1.4)

(2) 入院歴の有無と入院期間

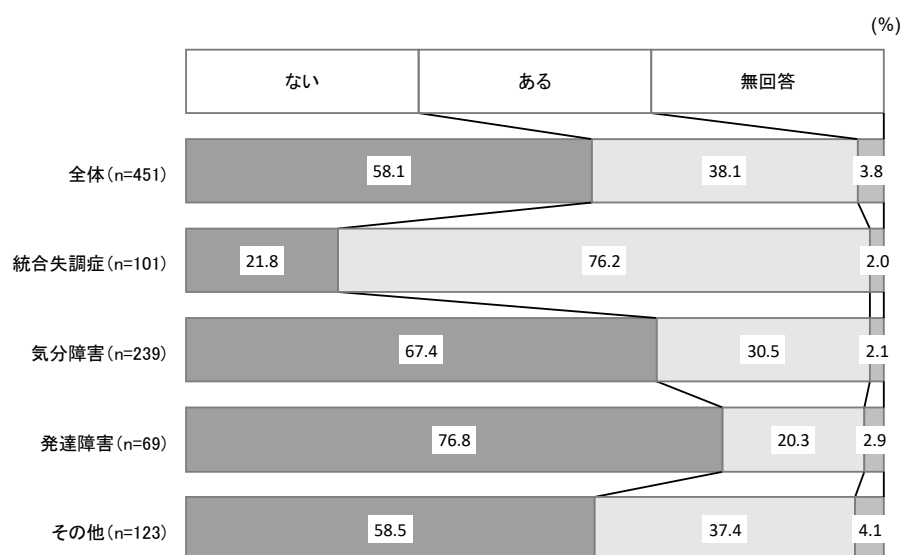
① 入院歴の有無

精神疾患、難病疾患の入院歴が「ある」人は、精神障害者が 38.1%、難病患者が 62.9%となっている。



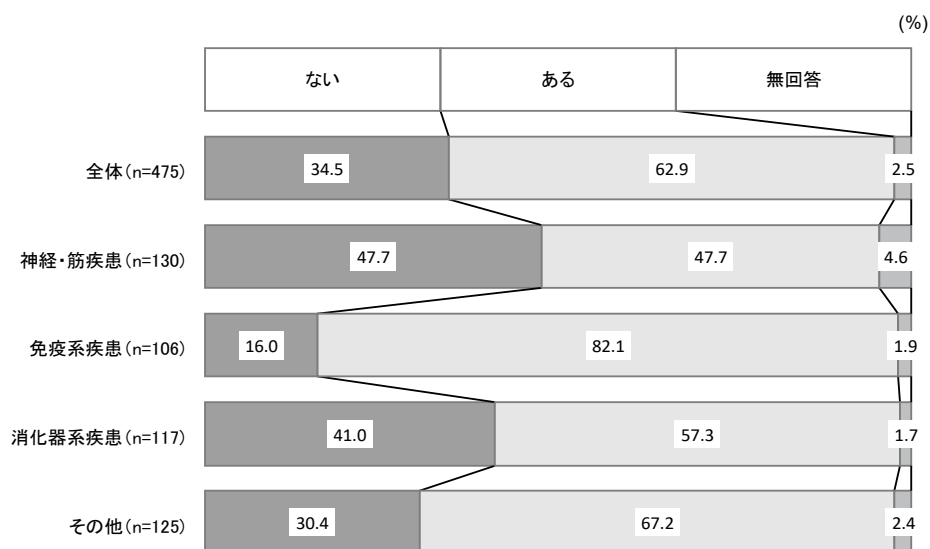
【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「ある」(76.2%)が多くなっている。



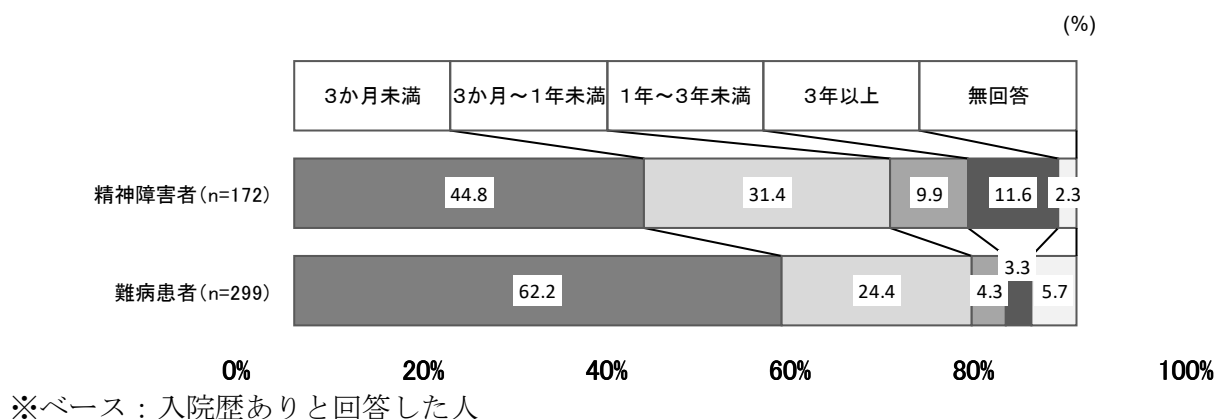
【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患では「ある」(82.1%)が多くなっている。



② 入院期間

入院歴が“ある”と回答した人の入院期間は、精神障害者、難病患者ともに「3か月未満」が最も多くそれぞれ44.8%、62.2%となっている。

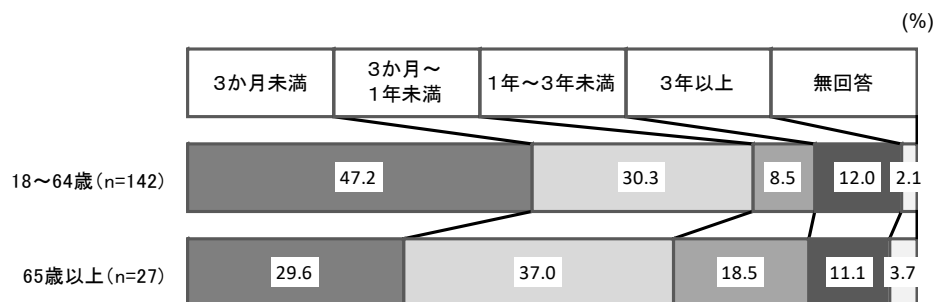
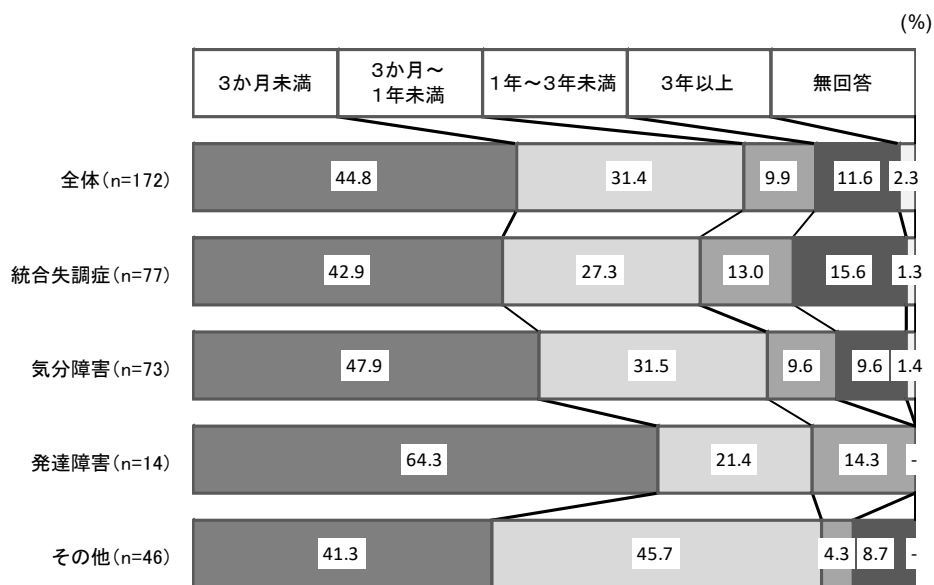


【精神障害者】

診断名別にみると、「3か月～1年未満」の入院歴がある人の割合は、統合失調症および気分障害と診断されている人で約3割となっている。

年齢区分別にみると、18～64歳では「3か月未満」が47.2%、「3か月～1年未満」が30.3%となっている。

なお、0～17歳で入院歴のある人はいなかった。

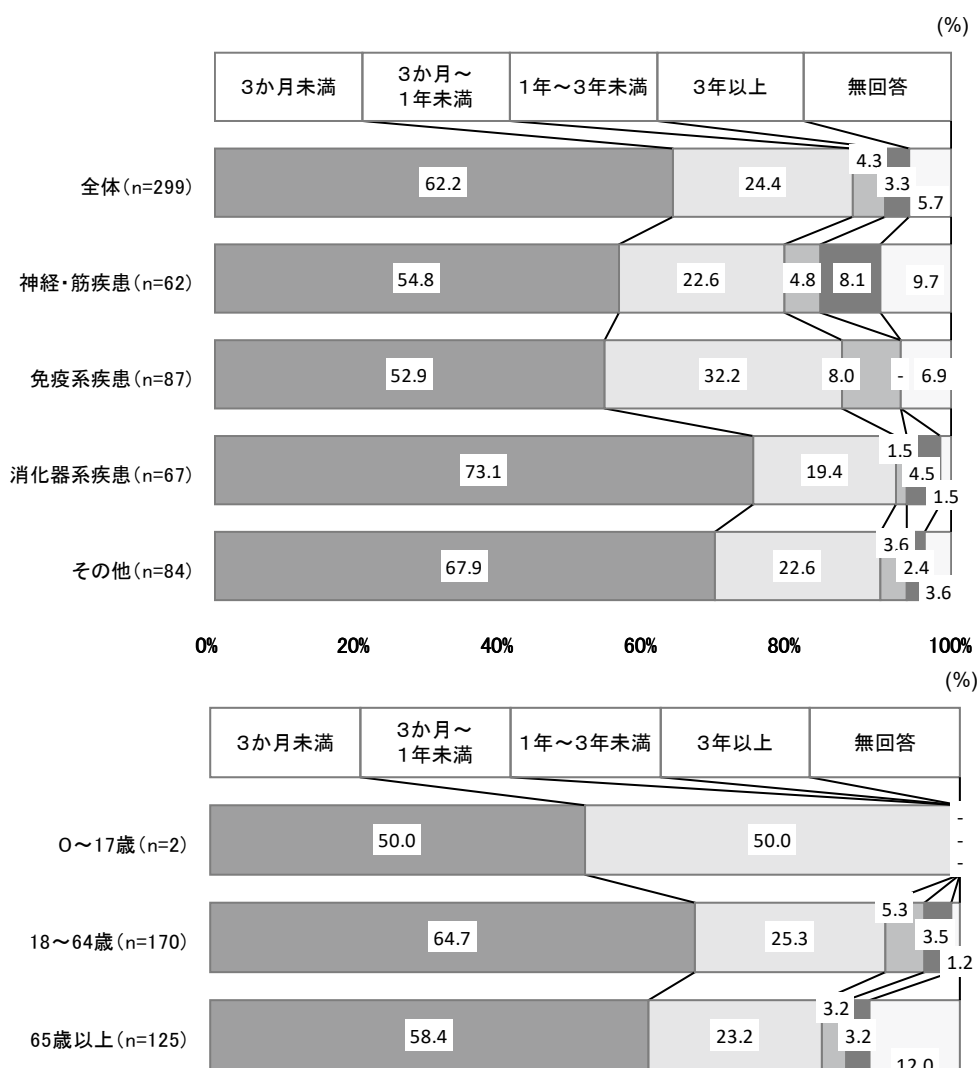


※ベース：入院歴ありと回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、いずれの疾患でも「3か月未満」が最も多く半数を超えており、特に消化器系疾患では73.1%となっている。

年齢3区分別にみると、18～64歳では「3か月未満」が64.7%、「3か月～1年未満」が25.3%となっている。

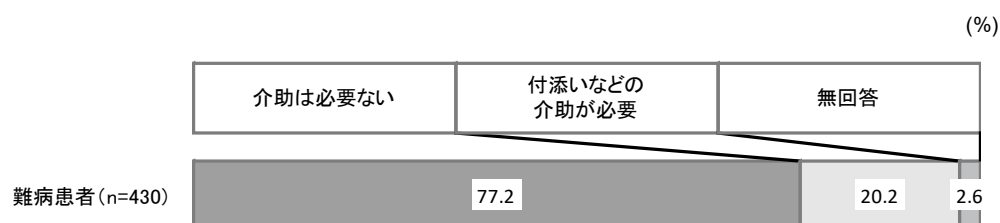


※ベース：入院歴ありと回答した人

(3) 通院する際の介助の必要性（難病患者のみ）

難病患者の医療の受診形態で“通院している”と回答した人の通院する際の介助の必要性は、「介助は必要ない」が77.2%、「付添いなどの介助が必要」が20.2%となっている。

なお、神経・筋疾患では「付添いなどの介助が必要」が多くなっている。



※ベース：通院していると回答した人

(4) 健康管理や医療について困ったことや不便に感じたこと（複数回答）

健康管理や医療で困ったことや不便に感じたことは、いずれも「特に困っていることはない」が最も多くなっている。

次いで、身体障害者、精神障害者、難病患者では「医療費の負担が大きい」（それぞれ 14.6%、20.0%、31.2%）、知的障害者では「障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」（13.3%）となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=430)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
特に困っていることはない	42.6（１位）	40.1（１位）	41.0（１位）	40.0（１位）	69.3（１位）
近所に診てくれる医師がいない	7.4	12.2	11.1	14.9（３位）	3.1
専門的な治療を行う医療機関がない	8.8	13.1（３位）	4.7	9.1	9.4（３位）
通院や健康診査のときに付き添いがいない	6.4	5.7	5.3	4.2	
往診を頼める医者がいない	6.4	6.3	5.3	2.8	1.6
定期的に健康診査を受けられない	1.4	3.2	4.2	0.7	2.4
医療機関とのコミュニケーションがとれない	5.5	10.5	6.9	2.1	2.4
障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	4.9	13.3（２位）	8.9	2.6	3.9
受診手続きなど、障害のある人への配慮が不十分	9.3	5.3	9.8	3.5	7.1
医療機関の建物が障害のある人に配慮した構造になっていない	6.5	3.0	5.8	2.3	3.1
医療費の負担が大きい	14.6（２位）	9.7	20.0（２位）	31.2（２位）	
休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない	9.4	12.9	16.2（３位）	10.2	11.8（２位）
その他	5.5	7.0	9.3	4.7	2.4
無回答	12.0（３位）	9.5	7.5	9.3	3.9

※難病患者のベース：通院していると回答した人

【前回調査との比較】

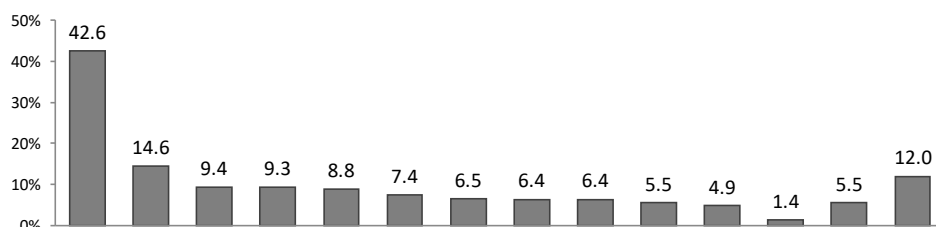
（単位：％）

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	特に困っていることはない (42.6)	医療費の負担が大きい (14.6)	休日・夜間の相談や治療をして くれる医療機関が少ない (9.4)
	前回 (n=558)	特に困っていることはない (46.4)	休日・夜間の相談や治療をして くれる医療機関が少ない (12.0)	医療費の負担が大きい (11.3)
知的障害者	今回 (n=474)	特に困っていることはない (40.1)	障害のために症状が正確に伝わら ず、必要な治療が受けられない (13.3)	専門的な治療を行う医療機関が ない (13.1)
	前回 (n=248)	特に困っていることはない (41.9)	障害のために症状が正確に伝わら ず、必要な治療が受けられない (13.7)	専門的な治療を行う医療機関が ない (10.9)
精神障害者	今回 (n=451)	特に困っていることはない (41.0)	医療費の負担が大きい (20.0)	休日・夜間の相談や治療をして くれる医療機関が少ない (16.2)
	前回 (n=434)	特に困っていることはない (41.5)	医療費の負担が大きい (16.1)	休日・夜間の相談や治療をして くれる医療機関が少ない (14.3)
難病患者	今回 (n=430)	特に困っていることはない (40.0)	医療費の負担が大きい (31.2)	近所に診てくれる医師がいない (14.9)
	前回 (n=332)	特に困っていることはない (44.4)	医療費の負担が大きい (19.3)	近所に診てくれる医師がいない (14.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、「医療費の負担が大きい」と回答した人の割合は、中度（３・４級）と軽度（５・６級）では、それぞれ 22.0%、27.8%と 2 割を超えている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）では、「近所で診てくれる医師がいない」が 22.1%と多く、次いで「専門的な治療を行う医療機関がない」が 20.8%となっている。また、「医療機関とのコミュニケーションがとれない」ことをあげる人の割合は、聴覚障害では 14.1%、音声・言語・そしゃく機能の障害では 17.2%と、それぞれ 1 割を超えている。



1	特に困っていることはない
11	医療費の負担が大きい
12	休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない
9	受診が不十分、障害のある人への配慮が不十分
3	専門的な治療を行う医療機関がない
2	近所に診てくれる医師がいない
10	医療機関の建物が障害のある人に配慮した構造になっていない
4	通院や健康診断のときに付き添いがいない
5	往診を頼める医師がいない
7	医療機関とのコミュニケーションがとれない
8	障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
6	定期的に健康診断を受けられない
13	その他
14	無回答

【障害の程度別】

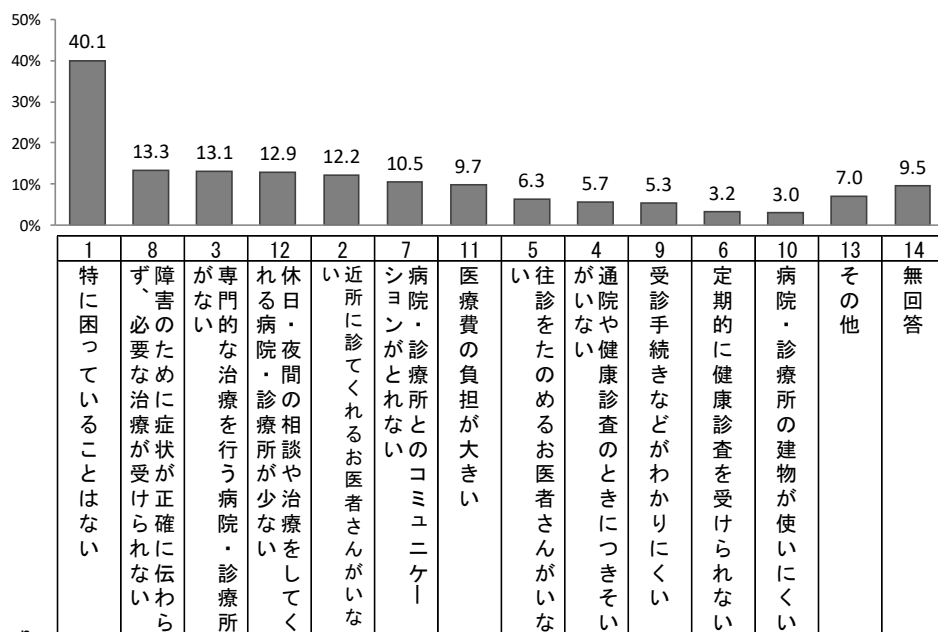
	n	1	11	12	9	3	2	10	4	5	7	8	6	13	14
0 全体	659	42.6	14.6	9.4	9.3	8.8	7.4	6.5	6.4	6.4	5.5	4.9	1.4	5.5	12.0
1 重度（１・２級）	371	42.9	8.1	10.5	9.2	9.7	8.6	8.4	6.7	6.7	6.5	5.4	1.3	6.2	12.7
2 中度（３・４級）	191	42.4	22.0	8.9	9.4	6.8	7.3	4.7	5.2	5.2	4.2	5.2	1.0	4.7	9.9
3 軽度（５・６級）	79	45.6	27.8	5.1	8.9	8.9	2.5	2.5	7.6	7.6	2.5	2.5	2.5	2.5	8.9

【障害の種類別】

	n	1	11	12	9	3	2	10	4	5	7	8	6	13	14
1 視覚障害	101	40.6	13.9	10.9	14.9	9.9	8.9	12.9	8.9	5.9	5.0	8.9	1.0	5.9	7.9
2 聴覚障害	99	38.4	14.1	5.1	14.1	9.1	3.0	2.0	6.1	4.0	14.1	10.1	2.0	4.0	13.1
3 平衡機能障害	4	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	29	41.4	20.7	10.3	10.3	6.9	3.4	6.9	-	3.4	17.2	10.3	-	6.9	6.9
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	208	36.5	15.9	11.1	10.1	12.5	9.6	10.6	9.6	8.7	5.8	4.3	2.9	7.2	9.6
6 肢体不自由（体幹）	77	23.4	13.0	19.5	15.6	20.8	22.1	15.6	10.4	14.3	2.6	5.2	2.6	5.2	15.6
7 内部障害	185	53.0	14.1	9.2	3.2	3.2	5.4	1.6	4.3	5.4	1.6	1.1	-	4.3	11.9
8 その他	8	37.5	-	-	12.5	12.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	25.0

【知的障害者】

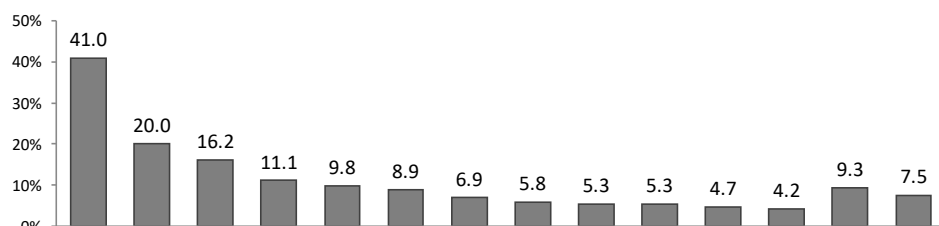
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「近所に診てくれるお医者さんがいない」が 22.8%と多く、次いで「専門的な治療を行う病院・診療所がない」が 21.0%となっている。また、「病院・診療所とのコミュニケーションがとれない」ことをあげた人の割合は程度が重いほど高く、重度（１・２度）では 13.6%となっている。



【障害程度別】		n	1	8	3	12	2	7	11	5	4	9	6	10	13	14
0	全体	474	40.1	13.3	13.1	12.9	12.2	10.5	9.7	6.3	5.7	5.3	3.2	3.0	7.0	9.5
1	最重度・重度（１・２度）	162	24.1	16.7	21.0	18.5	22.8	13.6	8.0	11.1	5.6	1.2	4.3	5.6	11.7	8.6
2	中度（３度）	116	44.0	18.1	12.9	8.6	7.8	10.3	13.8	4.3	5.2	6.9	3.4	1.7	6.0	8.6
3	軽度（４度）	181	51.4	8.3	7.2	9.9	6.6	6.6	9.4	3.3	6.6	8.3	2.2	1.7	3.9	9.9

【精神障害者】

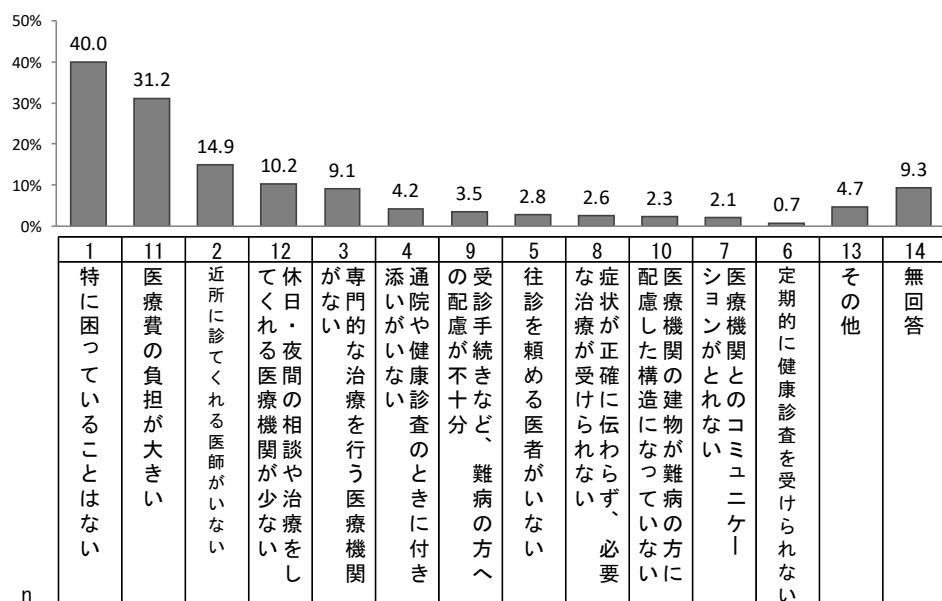
診断名別にみると、「特に困っていることはない」と回答した人の割合が高くなっている一方で、気分障害および発達障害と診断されている人では「医療費の負担が大きい」（それぞれ 22.6%、26.1%）も次いで高くなっている。



【診断名別】		n	1 特に困っていることはない	11 医療費の負担が大きい	12 休日・夜間の相談や治療をして くれる医療機関が少ない	2 近所に診てくれる医師がいない	9 受診手続きなど、精神疾患のある 方への配慮が不十分	8 精神疾患のために症状が正確に伝わ らず、必要な治療が受けられない	7 医療機関とのコミュニケーション がとれない	10 医療機関の建物が精神疾患のある 方に配慮した構造になっていない	4 通院や健康診断のときに付き添い がない	5 往診を頼める医者がいない	3 専門的な治療を行う医療機関がない	6 定期的に健康診断を受けられない	13 その他	14 無回答
0	全体	451	41.0	20.0	16.2	11.1	9.8	8.9	6.9	5.8	5.3	5.3	4.7	4.2	9.3	7.5
1	統合失調症	101	44.6	13.9	17.8	9.9	4.0	8.9	10.9	4.0	7.9	9.9	2.0	3.0	8.9	7.9
2	気分障害	239	38.5	22.6	18.8	10.9	11.7	11.3	6.3	7.5	5.4	5.9	6.7	4.6	10.5	5.4
3	発達障害	69	33.3	26.1	17.4	13.0	13.0	13.0	11.6	7.2	8.7	7.2	4.3	7.2	14.5	5.8
4	その他	123	31.7	23.6	18.7	13.8	15.4	10.6	5.7	11.4	4.9	4.1	7.3	3.3	11.4	8.9

【難病患者】

疾患群別にみると、「特に困っていることはない」と回答した人の割合が高くなっている一方で、消化器系疾患では「医療費の負担が大きい」が44.6%と最も多くなっている。



【疾患群別】		n	1	11	2	12	3	4	9	5	8	10	7	6	13	14
0	全体	430	40.0	31.2	14.9	10.2	9.1	4.2	3.5	2.8	2.6	2.3	2.1	0.7	4.7	9.3
1	神経・筋疾患	103	35.0	23.3	18.4	9.7	11.7	7.8	3.9	3.9	5.8	1.9	1.9	1.9	4.9	12.6
2	免疫系疾患	99	42.4	32.3	15.2	10.1	7.1	2.0	3.0	3.0	2.0	2.0	3.0	-	6.1	6.1
3	消化器系疾患	112	41.1	44.6	12.5	8.9	8.9	1.8	5.4	0.9	0.9	2.7	1.8	-	2.7	3.6
4	その他	118	38.1	26.3	15.3	12.7	9.3	5.1	2.5	3.4	1.7	2.5	1.7	0.8	5.1	14.4

※難病患者のベース：通院していると回答した人

8 相談や情報の入手について

(1) 悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先（複数回答）

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先は、身体障害者では「友人・知人」が最も多く 27.3%、次いで「病院・診療所」が 23.8%となっている。

知的障害者では、「学校・職場」が最も多く 29.1%、次いで「総合福祉事務所」が 27.2%となっている。

精神障害者では、「病院・診療所」が最も多く 42.8%、次いで「友人・知人」が 23.5%となっている。

難病患者では、「病院・診療所」、「友人・知人」がともに 30.5%と最も多くなっている。

施設入所者では、「福祉施設」が 58.1%と最も多くなっている。

児童発達支援事業利用者では、「こども発達支援センター」が 77.2%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
総合福祉事務所	20.3 (3位)	27.2 (2位)	14.2	8.8	12.4 (3位)	3.9
保健相談所	2.1	2.5	12.6	6.5	1.0	40.9 (3位)
障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら）	4.2	9.1	5.8	1.7	4.8	-
権利擁護センター ほっとサポートねりま	0.6	0.4	0.4	-	-	-
民生委員・児童委員	0.5	0.2	0.7	0.4	1.9	-
障害者相談員	2.1	2.5	1.6		8.6	-
児童相談所	0.2	1.5	-		1.0	2.4
福祉施設	3.3	16.9	2.9		58.1 (1位)	2.4
相談支援事業所	3.8	12.7	4.7	2.7	18.1 (2位)	3.9
病院・診療所	23.8 (2位)	17.9 (3位)	42.8 (1位)	30.5 (1位)	5.7	26.8
学校・職場	7.9	29.1 (1位)	4.7	5.5	1.9	16.5
障害者団体	3.0	4.0	1.1	1.7	1.0	3.1
友人・知人	27.3 (1位)	17.1	23.5 (2位)	30.5 (1位)	6.7	48.0 (2位)
ホームヘルパー	5.6	4.9	3.5	5.3	1.9	1.6
インターネットの掲示板（民間サイト）など	3.3	1.7	5.8	7.2	-	7.1
難病情報センター				1.1		
こども発達支援センター						77.2 (1位)
その他	4.1	8.4	10.2	4.0	6.7	8.7
相談できるところはない	9.0	8.2	14.6 (3位)	13.9	3.8	2.4
相談の必要はない	16.5	8.2	6.9	15.6 (3位)	9.5	1.6
無回答	9.3	7.4	4.4	3.6	9.5	0.8

【前回調査との比較】

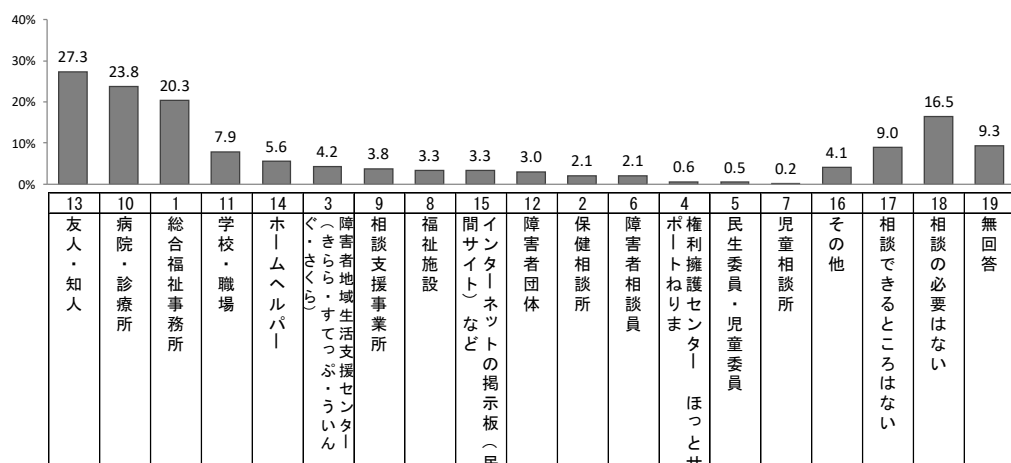
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	友人・知人 (27.3)	病院・診療所 (23.8)	総合福祉事務所 (20.3)
	前回 (n=558)	友人・知人 (31.4)	病院・診療所 (27.1)	総合福祉事務所 (18.5)
知的障害者	今回 (n=474)	学校・職場 (29.1)	総合福祉事務所 (27.2)	病院・診療所 (17.9)
	前回 (n=248)	学校・職場 (26.6)	総合福祉事務所 (21.4)	友人・知人 (20.0)
精神障害者	今回 (n=451)	病院・診療所 (42.8)	友人・知人 (23.5)	相談できるところはない (14.6)
	前回 (n=434)	病院・診療所 (43.1)	友人・知人 (26.7)	総合福祉事務所 (15.4)
難病患者	今回 (n=475)	病院・診療所/友人・知人 (同率30.5)		相談の必要はない (15.6)
	前回 (n=346)	病院・診療所 (34.1)	友人・知人 (30.1)	相談できるところはない (16.5)
施設入所者	今回 (n=105)	福祉施設 (58.1)	相談支援事業所 (18.1)	総合福祉事務所 (12.4)
	前回 (n=100)	福祉施設 (64.0)	総合福祉事務所 (13.0)	身体障害者・知的障害者 相談員 (7.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「病院・診療所」が27.5%と最も多く、中度（３・４級）と軽度（５・６級）では「友人・知人」が最も多い（それぞれ29.3%、25.3%）。また、障害の程度が軽いほど、「相談の必要はない」が多くなっている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）と内部障害では、「病院・診療所」をあげる人の割合が最も高くなっている（それぞれ33.8%、33.0%）。



【障害の程度別】

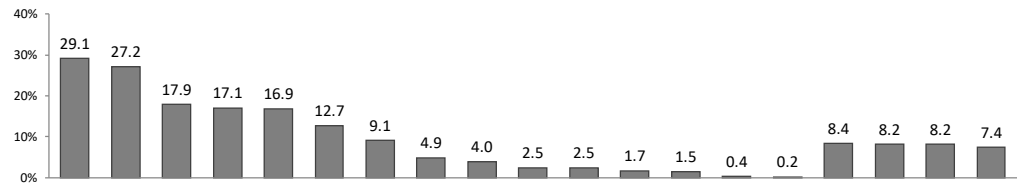
障害の程度別	n	13 友人・知人	10 病院・診療所	1 総合福祉事務所	11 学校・職場	14 ホームヘルパー	3 (ぐ・さくら)	9 障害者地域生活支援センター	8 福祉施設	15 インターネットの掲示板 (民間サイト) など	12 障害者団体	2 保健相談所	6 障害者相談員	4 権利擁護センター (ほっとサポートねりま)	5 民生委員・児童委員	7 児童相談所	16 その他	17 相談できるところはない	18 相談の必要はない	19 無回答
0 全体	659	27.3	23.8	20.3	7.9	5.6	4.2	3.8	3.3	3.3	3.0	2.1	2.1	0.6	0.5	0.2	4.1	9.0	16.5	9.3
1 重度（１・２級）	371	27.0	27.5	24.3	9.7	7.0	5.9	4.9	4.3	3.8	3.5	2.2	1.9	0.5	0.8	-	4.6	5.9	14.6	9.4
2 中度（３・４級）	191	29.3	18.8	15.7	5.8	3.1	1.0	3.7	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	-	-	0.5	3.7	14.1	18.3	9.4
3 軽度（５・６級）	79	25.3	17.7	15.2	5.1	3.8	3.8	-	1.3	3.8	2.5	1.3	2.5	1.3	-	-	3.8	10.1	24.1	6.3

【障害の種類別】

障害の種類別	n	13 友人・知人	10 病院・診療所	1 総合福祉事務所	11 学校・職場	14 ホームヘルパー	3 (ぐ・さくら)	9 障害者地域生活支援センター	8 福祉施設	15 インターネットの掲示板 (民間サイト) など	12 障害者団体	2 保健相談所	6 障害者相談員	4 権利擁護センター (ほっとサポートねりま)	5 民生委員・児童委員	7 児童相談所	16 その他	17 相談できるところはない	18 相談の必要はない	19 無回答
1 視覚障害	101	32.7	18.8	23.8	7.9	4.0	6.9	2.0	1.0	3.0	5.0	1.0	5.0	-	-	-	4.0	7.9	17.8	6.9
2 聴覚障害	99	33.3	16.2	29.3	12.1	-	7.1	4.0	5.1	6.1	8.1	4.0	2.0	-	-	1.0	2.0	9.1	14.1	8.1
3 平衡機能障害	4	50.0	50.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	25.0
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	29	24.1	24.1	13.8	13.8	-	13.8	3.4	3.4	-	3.4	3.4	6.9	-	-	-	6.9	31.0	13.8	3.4
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	208	27.9	24.0	21.2	9.6	9.1	3.4	7.7	5.8	3.4	1.9	1.0	1.0	0.5	0.5	-	7.2	7.2	16.3	8.7
6 肢体不自由（体幹）	77	20.8	33.8	31.2	18.2	10.4	5.2	10.4	9.1	5.2	5.2	1.3	1.3	1.3	-	-	3.9	10.4	6.5	13.0
7 内部障害	185	23.2	33.0	14.6	2.2	7.0	2.2	1.6	0.5	2.2	-	2.7	2.2	-	0.5	-	3.8	5.9	17.3	10.8
8 その他	8	37.5	62.5	37.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-

【知的障害者】

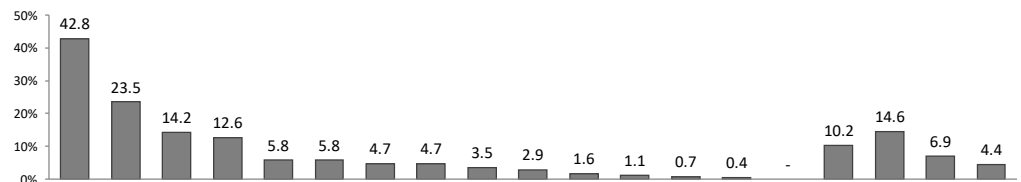
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「総合福祉事務所」に相談している人が 41.4%と最も多く、次いで「福祉施設」が 30.9%となっている。中度（３度）と軽度（４度）では、「学校、職場」がそれぞれ 31.0%、34.3%と最も多い。



【障害程度別】		n	11 学校、職場	1 総合福祉事務所	10 病院・診療所	13 友だち、知り合い	8 福祉施設	9 相談支援事業所	3 障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぶ・ういんぐ・さくら）	14 ホームヘルパー	12 障害者団体	2 保健相談所	6 障害者相談員	15 インターネットの掲示板（民間サイト）など	7 児童相談所	4 権利擁護センター（ほっとサポートねりま）	5 民生委員・児童委員	16 その他	17 相談できる場所はない	18 相談の必要はない	19 無回答
0	全体	474	29.1	27.2	17.9	17.1	16.9	12.7	9.1	4.9	4.0	2.5	2.5	1.7	1.5	0.4	0.2	8.4	8.2	8.2	7.4
1	最重度・重度（１・２度）	162	22.8	41.4	23.5	19.1	30.9	18.5	8.0	9.9	8.0	1.9	3.7	1.9	1.2	0.6	-	9.3	7.4	4.9	5.6
2	中度（３度）	116	31.0	25.0	12.1	8.6	13.8	16.4	12.1	0.9	4.3	0.9	1.7	0.9	0.9	-	0.9	9.5	10.3	3.4	8.6
3	軽度（４度）	181	34.3	15.5	15.5	21.0	7.2	5.0	7.2	1.7	0.6	3.9	2.2	1.7	2.2	0.6	-	7.7	8.3	14.4	6.1

【精神障害者】

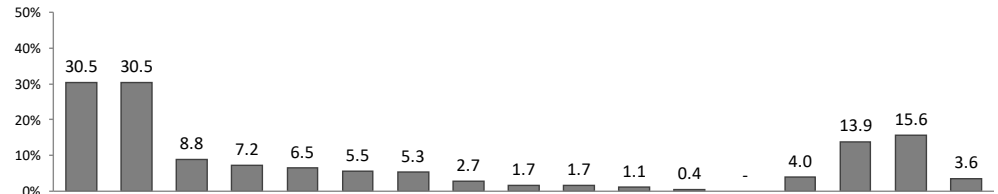
診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「障害者地域生活支援センター」が 12.9%と、気分障害、発達障害と診断されている人に比べて高い割合となっている。また、発達障害と診断されている人では「相談支援事業所」が 17.4%と、統合失調症、気分障害と診断されている人に比べて高い割合となっている。



【診断名別】		n	10 病院・診療所	13 友人・知人	1 総合福祉事務所	2 保健相談所	3 障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぶ・ういんぐ・さくら）	15 インターネットの掲示板（民間サイト）など	9 相談支援事業所	11 学校・職場	14 ホームヘルパー	8 福祉施設	6 障害者相談員	12 障害者団体	5 民生委員・児童委員	4 権利擁護センター（ほっとサポートねりま）	7 児童相談所	16 その他	17 相談できる場所はない	18 相談の必要はない	19 無回答
0	全体	451	42.8	23.5	14.2	12.6	5.8	5.8	4.7	4.7	3.5	2.9	1.6	1.1	0.7	0.4	-	10.2	14.6	6.9	4.4
1	統合失調症	101	40.6	20.8	11.9	18.8	12.9	3.0	4.0	1.0	5.0	4.0	4.0	1.0	1.0	1.0	-	12.9	13.9	8.9	6.9
2	気分障害	239	47.7	25.5	16.7	10.9	3.3	7.9	3.3	4.2	2.9	1.3	0.8	1.3	0.4	-	-	10.0	14.6	4.6	2.5
3	発達障害	69	39.1	27.5	8.7	18.8	5.8	5.8	17.4	11.6	5.8	8.7	4.3	4.3	-	1.4	-	11.6	11.6	7.2	1.4
4	その他	123	43.1	24.4	17.1	13.0	2.4	7.3	4.9	1.6	7.3	4.1	-	0.8	0.8	-	-	13.8	13.0	5.7	6.5

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患、免疫系疾患では「病院・診療所」がそれぞれ 36.9%、30.2%と最も多く、消化器系疾患では「友人・知人」が 38.5%と最も多い。なお、「相談できるところはない」と回答した人は、神経・筋疾患では 14.6%、免疫系疾患では 17.0%、消化器系疾患では 12.8%となっている。



【疾患群別】		n	6 病院・診療所	11 友人・知人	1 総合福祉事務所	13 インターネットの掲示板（民間サイト）など	2 保健相談所	9 学校・職場	12 ホームヘルパー	8 相談支援事業所	3 障害者地域生活支援センター（きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら）	10 患者団体・患者会	7 難病情報センター	5 民生委員・児童委員	4 サポートねりま 権利擁護センター ほつと	14 その他	15 相談できるところはない	16 相談の必要はない	17 無回答
0	全体	475	30.5	30.5	8.8	7.2	6.5	5.5	5.3	2.7	1.7	1.7	1.1	0.4	-	4.0	13.9	15.6	3.6
1	神経・筋疾患	130	36.9	21.5	20.0	6.2	6.9	1.5	11.5	6.9	3.1	2.3	1.5	0.8	-	7.7	14.6	8.5	4.6
2	免疫系疾患	106	30.2	28.3	4.7	5.7	4.7	8.5	3.8	1.9	2.8	-	1.9	0.9	-	2.8	17.0	15.1	3.8
3	消化器系疾患	117	28.2	38.5	3.4	11.1	6.8	6.0	0.9	0.9	-	2.6	-	-	-	1.7	12.8	17.9	2.6
4	その他	125	28.8	32.8	6.4	7.2	8.0	7.2	4.0	0.8	0.8	1.6	0.8	-	-	2.4	12.0	20.0	3.2

(2) 家族・親戚以外に相談するために必要な体制（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・区役所や身近な場所で気軽に相談できる体制
- ・たらいまわしにせず、親身になって相談にのってほしい。
- ・相談先が変わった場合、すでに伝えてある内容は相手先に正しく引き継いでほしい。
- ・聴覚障害専用のテレビ電話が必要
- ・パソコンやスマートフォンなどを使ったインターネット相談
- ・訪問による相談
- ・定期的に通える所があると相談しやすい。
- ・相談を受ける側の障害に関する専門知識
- ・相談できる場所があることをもっと広く情報提供してほしい。
- ・悩みの種類によって、どこで相談できるかわかりやすくしてほしい。
- ・病院の総合診療医のような、適切な相談先を総合的に紹介する窓口
- ・プライバシーの保護

【知的障害者】

- ・相談相手が代わったときに、最初からまた説明しなくて済むような相談がしやすい。
- ・予約をしなくても、すぐに話を聞いてもらえること。
- ・定期的な連絡
- ・周りの人や対応する人の障害への理解
- ・相談先のわかりやすい案内

【精神障害者】

- ・いつでも同じ人に相談ができること。
- ・プライバシーの保護
- ・パソコンやスマートフォンなどを使ったインターネット相談
- ・24時間の電話相談
- ・相談の事例がウェブサイトに掲載されているとよい。
- ・訪問による定期相談
- ・どこに相談したらよいのかわからない人が多いと思うので、総合案内があるとよい。
- ・精神疾患に対する理解や十分な知識
- ・低料金で受けられるカウンセリング制度
- ・同じ病気を抱えた人の当事者の会、共通のサークル

【難病患者】

- ・身近な場所での相談窓口
- ・24時間の電話相談
- ・訪問による定期相談
- ・パソコンやスマートフォンなどを使ったインターネット相談
- ・相談の事例がウェブサイトに掲載されているとよい。
- ・土曜や日曜、夜間など勤労者でも相談できる窓口
- ・プライバシーの保護
- ・難病に対する理解
- ・難病に詳しく、理解のあるカウンセラーがいてくれると相談しやすい。
- ・情報提供の充実
- ・同じ病気の方とコミュニケーションをとれるような機会

【施設入所者】

- ・親身になって聞いてくれる人がいれば相談しやすくなる。
- ・自分（本人）のことをよく知ってくれていること。
- ・相談を受ける側の障害に関する専門知識と理解

【児童発達支援事業利用者】

- ・相談場所の情報提供、相談後の適切な支援体制
- ・予約が取りやすく、専門者がいること。電話でもすぐ対応してくれること。
- ・予約や申込などがいない、いつでも気軽に相談できる相談窓口
- ・相談を受ける人の専門的な知識や理解
- ・24 時間の相談体制
- ・パソコンやスマートフォンなどを使ったインターネット相談
- ・定期的な連絡
- ・たらいまわしにせずに、親身になって相談を聞いてほしい。
- ・心理相談を気軽に受けられるようになるとよい。
- ・情報提供の充実
- ・障害への正しい理解が広まっていること。
- ・母親、父親のためのカウンセリング
- ・子を持つ同じ悩みのある親とコミュニケーションが取れる場所がほしい。
- ・中立的な立場で問題解決に対応する第三者機関

(3) 福祉サービスなどの情報入手先（複数回答）

福祉サービスなどの情報の入手先は、身体障害者、知的障害者、難病患者では「ねりま区報」が最も多くなっている。精神障害者では「病院・診療所」、施設入所者では「学校、職場、施設」、児童発達支援事業利用者では「こども発達支援センター」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
ねりま区報	41.7 (1位)	35.2 (1位)	23.9 (2位)	34.5 (1位)	8.6 (3位)	26.0 (2位)
区のホームページ	14.1	11.4	15.5	16.6	1.0	26.0 (2位)
インターネットのサイト (区のホームページ以外)	9.4	6.1	13.3	11.4	1.0	26.0 (2位)
区の障害者福祉のしおり	21.2 (2位)	18.6	5.5	5.3	6.7	1.6
総合福祉事務所・保健相談所	15.9 (3位)	19.4 (3位)	17.3	13.1	7.6	16.5
障害者地域生活支援センター (きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)	4.4	7.0	5.1	2.1	2.9	-
学校、職場、施設	7.4	27.4 (2位)	3.1	1.1	36.2 (2位)	
病院・診療所	12.6	5.5	31.5 (1位)	27.2 (2位)	2.9	11.8
相談支援事業所	3.2	9.5	3.5	3.8	2.9	5.5
民生委員・児童委員	1.2	-	0.7	0.6	-	-
障害者団体 (患者団体・患者会)	7.1	7.4	1.6	2.5	1.0	2.4
家族・親せき	9.9	16.2	9.8	8.0	8.6 (3位)	7.9
友人・知人	12.4	19.4 (3位)	6.9	8.4	1.0	22.8
こども発達支援センター						64.6 (1位)
その他	3.3	3.6	5.8	2.9	1.0	1.6
わからない	11.8	13.9	19.3 (3位)	18.9 (3位)	41.9 (1位)	7.1
無回答	7.1	6.1	4.9	3.2	9.5	1.6

【前回調査との比較】

(単位：%)

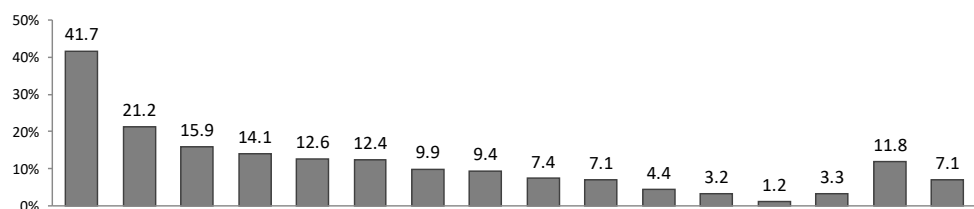
区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	ねりま区報 (41.7)	区の障害者福祉のしおり (21.2)	総合福祉事務所・保健相談所 (15.9)
	前回 (n=558)	ねりま区報 (40.9)	区の障害者福祉のしおり (26.0)	友人・知人 (19.4)
知的障害者	今回 (n=474)	ねりま区報 (35.2)	学校、職場、施設 (27.4)	総合福祉事務所・保健相談所 (同率19.4) /友人・知人
	前回 (n=248)	ねりま区報 (39.5)	学校、職場、施設 (25.0)	総合福祉事務所・保健相談所 (同率19.4) /友人・知人
精神障害者	今回 (n=451)	病院・診療所 (31.5)	ねりま区報 (23.9)	わからない (19.3)
	前回 (n=434)	ねりま区報 (36.4)	病院・診療所 (26.3)	総合福祉事務所・保健相談所 (16.8)
難病患者	今回 (n=475)	ねりま区報 (34.5)	病院・診療所 (27.2)	わからない (18.9)
	前回 (n=346)	ねりま区報 (43.6)	病院・診療所 (21.4)	わからない (20.5)
施設入所者	今回 (n=105)	わからない (41.9)	学校、職場、施設 (36.2)	ねりま区報/家族・親せき (同率8.6)
	前回 (n=100)	学校、職場、施設 (39.0)	わからない (30.0)	総合福祉事務所・保健相談所/家族・親せき (同率9.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「ねりま区報」をあげる人が最も多く、次いで「区の障害者福祉のしおり」となっている。

障害の種類別にみると、聴覚障害では「区のホームページ」から情報を入手している割合が20.2%と他と比べて高い。また、内部障害では「病院・診療所」が22.2%と2番目に多くあげられている。

年齢3区分別にみると、0～17歳では「学校、職場、施設」が29.3%と最も多い。また、「ねりま区報」をあげる人の割合は、年齢が高い層ほど高くなっており、65歳以上では半数を超えている。



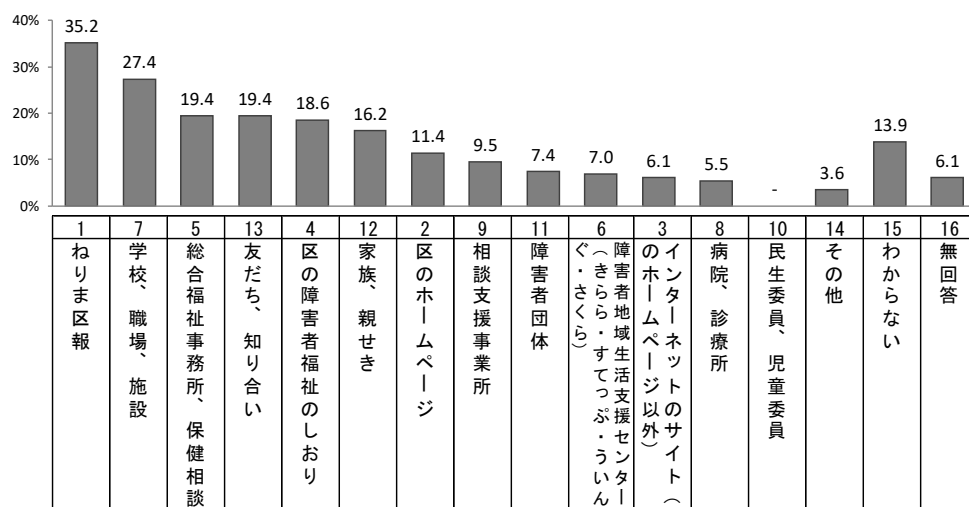
【障害の程度別】		n	1	4	5	2	8	13	12	3	7	11	6	9	10	14	15	16
			ねりま区報	区の障害者福祉のしおり	総合福祉事務所・保健相談所	区のホームページ	病院・診療所	友人・知人	家族・親せき	インターネットのサイト（区のホームページ以外）	学校、職場、施設	障害者団体	障害者地域生活支援センター（きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら）	相談支援事業所	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
0	全体	659	41.7	21.2	15.9	14.1	12.6	12.4	9.9	9.4	7.4	7.1	4.4	3.2	1.2	3.3	11.8	7.1
1	重度（１・２級）	371	39.9	22.9	17.3	15.1	14.0	13.2	12.1	9.7	9.7	8.4	5.7	3.0	1.6	4.0	9.7	7.3
2	中度（３・４級）	191	47.1	20.4	15.2	14.1	12.0	11.5	6.3	12.0	4.2	5.8	2.1	3.1	0.5	3.1	12.0	6.3
3	軽度（５・６級）	79	41.8	20.3	10.1	12.7	5.1	12.7	7.6	3.8	6.3	5.1	3.8	5.1	1.3	1.3	20.3	6.3

【障害の種類別】		n	1	4	5	2	8	13	12	3	7	11	6	9	10	14	15	16
			ねりま区報	区の障害者福祉のしおり	総合福祉事務所・保健相談所	区のホームページ	病院・診療所	友人・知人	家族・親せき	インターネットのサイト（区のホームページ以外）	学校、職場、施設	障害者団体	障害者地域生活支援センター（きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら）	相談支援事業所	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
1	視覚障害	101	37.6	21.8	15.8	7.9	5.9	13.9	13.9	7.9	7.9	9.9	6.9	1.0	-	3.0	11.9	5.0
2	聴覚障害	99	49.5	38.4	20.2	20.2	4.0	20.2	7.1	9.1	12.1	17.2	8.1	1.0	1.0	2.0	13.1	6.1
3	平衡機能障害	4	50.0	-	-	-	25.0	25.0	50.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-	25.0
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	34.5	10.3	13.8	6.9	10.3	6.9	13.8	6.9	3.4	3.4	6.9	3.4	3.4	3.4	24.1	10.3
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	38.0	22.6	16.8	15.4	12.0	13.0	9.6	12.5	11.5	5.3	4.3	6.7	1.9	5.8	10.6	6.7
6	肢体不自由（体幹）	77	35.1	29.9	22.1	14.3	15.6	15.6	18.2	7.8	20.8	7.8	3.9	11.7	1.3	3.9	7.8	7.8
7	内部障害	185	41.6	15.1	14.1	14.1	22.2	6.5	9.7	8.1	2.2	2.7	1.6	1.1	2.2	2.7	9.7	6.5
8	その他	8	62.5	12.5	25.0	-	37.5	25.0	-	37.5	-	-	-	-	-	-	12.5	-

【年齢3区分別】		n	1	4	5	2	8	13	12	3	7	11	6	9	10	14	15	16
			ねりま区報	区の障害者福祉のしおり	総合福祉事務所・保健相談所	区のホームページ	病院・診療所	友人・知人	家族・親せき	インターネットのサイト（区のホームページ以外）	学校、職場、施設	障害者団体	障害者地域生活支援センター（きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら）	相談支援事業所	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
1	0～17歳	58	13.8	24.1	27.6	13.8	20.7	19.0	17.2	12.1	29.3	12.1	-	3.4	1.7	5.2	12.1	1.7
2	18～64歳	339	37.2	25.7	17.7	20.9	10.9	11.8	9.1	14.2	7.4	10.0	6.5	2.7	0.3	2.4	14.2	4.4
3	65歳以上	243	55.1	14.0	11.5	5.3	14.0	11.5	9.5	2.9	1.6	2.1	2.9	4.1	2.5	4.5	8.6	11.1

【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「ねりま区報」から情報を入手している人が多い。
年齢3区分別にみると、0～17歳では「学校、職場、施設」が43.5%と最も多くなっている。



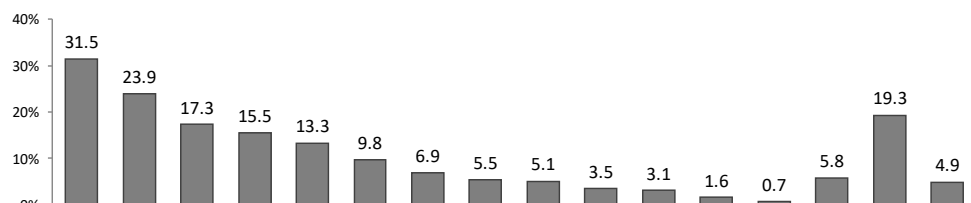
【障害程度別】		n	1	7	5	13	4	12	2	9	11	6	3	8	10	14	15	16
0	全体	474	35.2	27.4	19.4	19.4	18.6	16.2	11.4	9.5	7.4	7.0	6.1	5.5	-	3.6	13.9	6.1
1	最重度・重度（１・２度）	162	41.4	32.7	30.2	32.1	28.4	11.7	14.2	14.8	13.6	8.6	4.9	9.9	-	1.9	6.8	4.9
2	中度（３度）	116	34.5	31.9	13.8	15.5	15.5	20.7	6.9	8.6	6.9	8.6	6.0	4.3	-	6.0	10.3	5.2
3	軽度（４度）	181	30.9	21.0	13.3	11.6	12.2	18.2	12.7	5.5	2.8	3.9	6.6	2.8	-	3.9	22.1	6.1

【年齢3区分別】		n	1	7	5	13	4	12	2	9	11	6	3	8	10	14	15	16
1	0～17歳	161	31.7	43.5	13.7	23.6	13.0	12.4	16.8	10.6	5.6	0.6	8.1	6.8	-	3.7	14.9	4.3
2	18～64歳	298	37.6	19.8	22.8	18.1	21.5	19.1	9.1	8.7	8.7	10.4	5.4	4.7	-	3.4	13.4	6.0
3	65歳以上	7	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	-	-	14.3	28.6	28.6

【精神障害者】

診断名別にみると、気分障害、発達障害と診断されている人では、「区のホームページ」や「インターネットのサイト（区のホームページ以外）」から情報を入手している人が約2割いるのに対し、統合失調症と診断されている人では「区のホームページ」が9.9%、「インターネットのサイト（区のホームページ以外）」が4.0%といずれも低い割合となっている。

年齢3区分別にみると、「ねりま区報」から情報を入手している人の割合は、18～64歳では21.7%、65歳以上では31.5%と、高齢層の方が高くなっている。



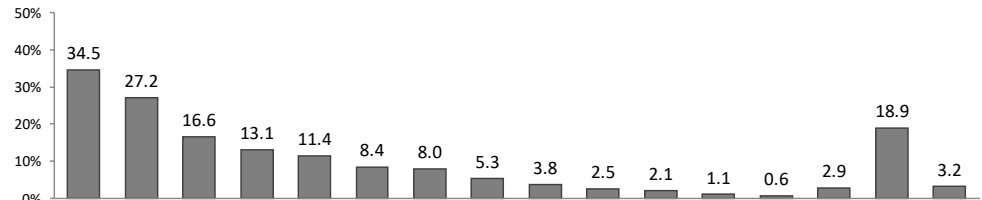
【診断名別】		n	8	1	5	2	3	12	13	4	6	9	7	11	10	14	15	16
			病院・診療所	ねりま区報	総合福祉事務所・保健相談所	区のホームページ	インターネットのサイト（区のホームページ以外）	家族・親せき	友人・知人	区の障害者福祉のしおり	障害者地域生活支援センター（へきから・すてっぷ・ういんぐ・さくら）	相談支援事業所	学校・職場・施設	障害者団体	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
0	全体	451	31.5	23.9	17.3	15.5	13.3	9.8	6.9	5.5	5.1	3.5	3.1	1.6	0.7	5.8	19.3	4.9
1	統合失調症	101	32.7	22.8	19.8	9.9	4.0	7.9	4.0	8.9	10.9	2.0	1.0	-	-	4.0	21.8	5.9
2	気分障害	239	37.2	23.4	16.7	20.9	19.2	5.9	7.1	2.9	2.1	2.5	2.1	0.8	0.8	5.9	22.2	3.8
3	発達障害	69	23.2	21.7	23.2	21.7	20.3	18.8	13.0	10.1	4.3	11.6	7.2	7.2	-	4.3	15.9	-
4	その他	123	30.9	20.3	18.7	13.8	14.6	10.6	8.1	5.7	2.4	5.7	3.3	1.6	0.8	8.9	20.3	4.1

【年齢3区分別】			8	1	5	2	3	12	13	4	6	9	7	11	10	14	15	16
1	0～17歳	2	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2	18～64歳	369	30.4	21.7	17.3	16.8	15.2	9.8	6.0	6.0	6.0	4.1	3.5	1.9	0.5	4.9	20.6	3.5
3	65歳以上	73	37.0	31.5	15.1	6.8	4.1	11.0	9.6	2.7	-	1.4	1.4	-	1.4	11.0	15.1	12.3

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患、免疫系疾患では「ねりま区報」がそれぞれ 36.2%、35.8%と最も多く、消化器系疾患では「病院、診療所」が 30.8%と最も多い。また、「相談支援事業所」から情報を入手している人の割合は、免疫系疾患、消化器系疾患では 1%台だが、神経・筋疾患では約 1 割（10.8%）と高くなっている。

年齢 3 区分別にみると、18～64 歳では「病院、診療所」が 29.8%と最も多く、65 歳以上では「ねりま区報」が 46.5%と最も多くなっている。



【疾患群別】

	n	1	8	2	5	3	13	12	4	9	11	6	7	10	14	15	16
		ねりま区報	病院、診療所	区のホームページ	総合福祉事務所・保健相談所	のホームページ以外のサイト（区）	友人・知人	家族、親せき	区の障害者福祉のしおり	相談支援事業所	患者団体、患者会	障害者地域生活支援センター（きさら・すてつぷ・ういんぐ・さくら）	学校、職場、施設	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
0 全体	475	34.5	27.2	16.6	13.1	11.4	8.4	8.0	5.3	3.8	2.5	2.1	1.1	0.6	2.9	18.9	3.2
1 神経・筋疾患	130	36.2	26.9	14.6	18.5	13.1	10.0	11.5	7.7	10.8	5.4	4.6	0.8	0.8	6.2	13.8	3.8
2 免疫系疾患	106	35.8	23.6	14.2	10.4	8.5	8.5	3.8	5.7	1.9	1.9	1.9	0.9	1.9	1.9	24.5	3.8
3 消化器系疾患	117	27.4	30.8	16.2	12.0	12.0	8.5	6.0	0.9	1.7	1.7	—	2.6	—	1.7	23.1	1.7
4 その他	125	36.0	27.2	21.6	12.0	12.0	6.4	9.6	6.4	1.6	0.8	1.6	—	0.8	1.6	15.2	3.2

【年齢 3 区分別】

	n	1	8	2	5	3	13	12	4	9	11	6	7	10	14	15	16
		ねりま区報	病院、診療所	区のホームページ	総合福祉事務所・保健相談所	のホームページ以外のサイト（区）	友人・知人	家族、親せき	区の障害者福祉のしおり	相談支援事業所	患者団体、患者会	障害者地域生活支援センター（きさら・すてつぷ・ういんぐ・さくら）	学校、職場、施設	民生委員・児童委員	その他	わからない	無回答
1 0～17歳	2	50.0	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2 18～64歳	245	23.7	29.8	22.9	13.5	17.6	6.5	5.7	4.5	1.6	3.7	2.9	1.2	—	1.2	24.1	1.2
3 65歳以上	226	46.5	24.8	10.2	12.4	4.4	10.6	10.6	6.2	6.2	1.3	1.3	0.9	1.3	4.9	13.3	5.3

(4) 福祉サービスの情報提供を充実するために区がすべきこと（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・情報の一元化、ワンストップサービス
- ・メールマガジンやスマートフォンアプリなどを活用した情報提供の充実
- ・定期的な訪問による情報提供
- ・ユニボイスコードの活用
- ・誰でもわかるようなデザイン（ユニバーサルデザイン）の活用
- ・区報、区ホームページの充実
- ・障害別のパンフレットの作成
- ・ポスターの掲示など、公共の場所での情報提供
- ・専門知識をもつ人材の養成
- ・区からの積極的な広報

【知的障害者】

- ・絵や写真などを使ったわかりやすい“しおり”の作成
- ・SNS や YouTube など身近な媒体を活用した情報提供
- ・1 か所の窓口で利用できるものすべて説明してもらえるとよい。
- ・郵送や自宅訪問による定期的な情報提供
- ・メールマガジンやスマートフォンアプリなどを活用した情報提供の充実
- ・区報、区ホームページの充実、工夫
- ・学校や施設などでの定期的な説明会の開催
- ・障害別に特集されたパンフレット

【精神障害者】

- ・メールマガジンやスマートフォンアプリなどを活用した情報提供の充実
- ・区からの積極的な情報提供
- ・郵送や訪問での定期的な情報提供
- ・精神科に通院している人に「あなたはこの制度が使えます」などの通知があるとよい。
- ・区ホームページの充実、検索のしやすさ
- ・音声や映像による情報提供
- ・人が集まりやすい図書館や病院にパンフレットなどを置く。
- ・企業や学校、病院と連携した情報提供

【難病患者】

- ・ワンストップで情報取得、申請手続きなどが完了するようなサービス
- ・郵送や訪問での定期的な情報提供
- ・Twitter や Instagram などスマートフォンで手軽に見られるツールの活用
- ・手続申請時などに、受けられる福祉サービス等の案内・説明があるとよい。
- ・見やすい区報
- ・検索のしやすいホームページ
- ・フローチャートや図などを使ったサービスの案内
- ・通院する病院、クリニックでの情報提供の充実
- ・同じ悩み事を持っている人たちとの情報交換
- ・障害者側にのみではなく、地域や社会全体に対する情報発信が大切である。

【施設入所者】

- ・インターネットにもっと情報を載せてほしい。
- ・分かりやすい情報
- ・職員のスキルアップ

【児童発達支援事業利用者】

- ・郵送や窓口でのサービス情報の提供
- ・郵送や電話などで定期的な情報提供
- ・区のホームページの工夫（分かりやすさ、検索のしやすさ）
- ・区報の充実
- ・情報の一元化、ワンストップサービス
- ・メールマガジン、SNS を活用した情報発信
- ・幼稚園や小学校などでの情報提供
- ・障害者の成長に応じて、どのようなことをすべきなのか、シンプルに示してほしい。

(5) コミュニケーション手段

① コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況（複数回答）

コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況は、身体障害者、精神障害者ともに「携帯/スマートフォンのメール・SNS」が最も多い。

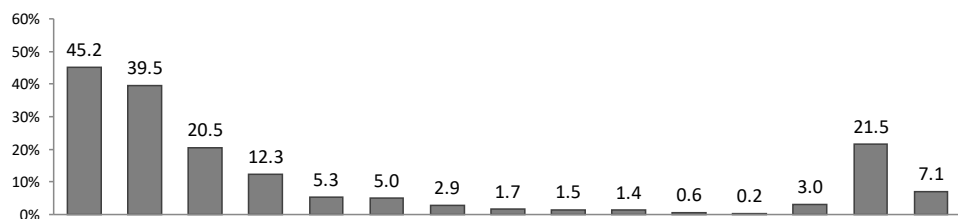
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	精神障害者 (n=451)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
パソコンのメール	20.5	20.6 (3位)	-
携帯/スマートフォンのメール・SNS	45.2 (1位)	66.5 (1位)	-
電話(固定・携帯/スマートフォン)	39.5 (2位)	43.7 (2位)	-
携帯用会話補助装置	1.4	-	-
手話・手話通訳	5.0	-	2.4
読話	2.9	-	-
筆談・要約筆記	5.3	3.5	-
補聴機器(補聴器・人工内耳など)	12.3	-	-
触手話	0.2	-	1.6
指文字・指点字	1.7	-	0.8
意志伝達装置	0.6	-	-
文字盤	1.5	-	-
コミュニケーションボード(絵・カード等)	-	0.4	-
その他	3.0	3.5	3.1 (3位)
特に使用している機器はない	21.5 (3位)	15.5	89.8 (1位)
無回答	7.1	4.4	7.1 (2位)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず、「携帯／スマートフォンのメール・SNS」を使用している人は4割を超え、「パソコンのメール」を使用している人は約2割となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害ともに「携帯／スマートフォンのメール・SNS」を使用している人が半数を超えている。



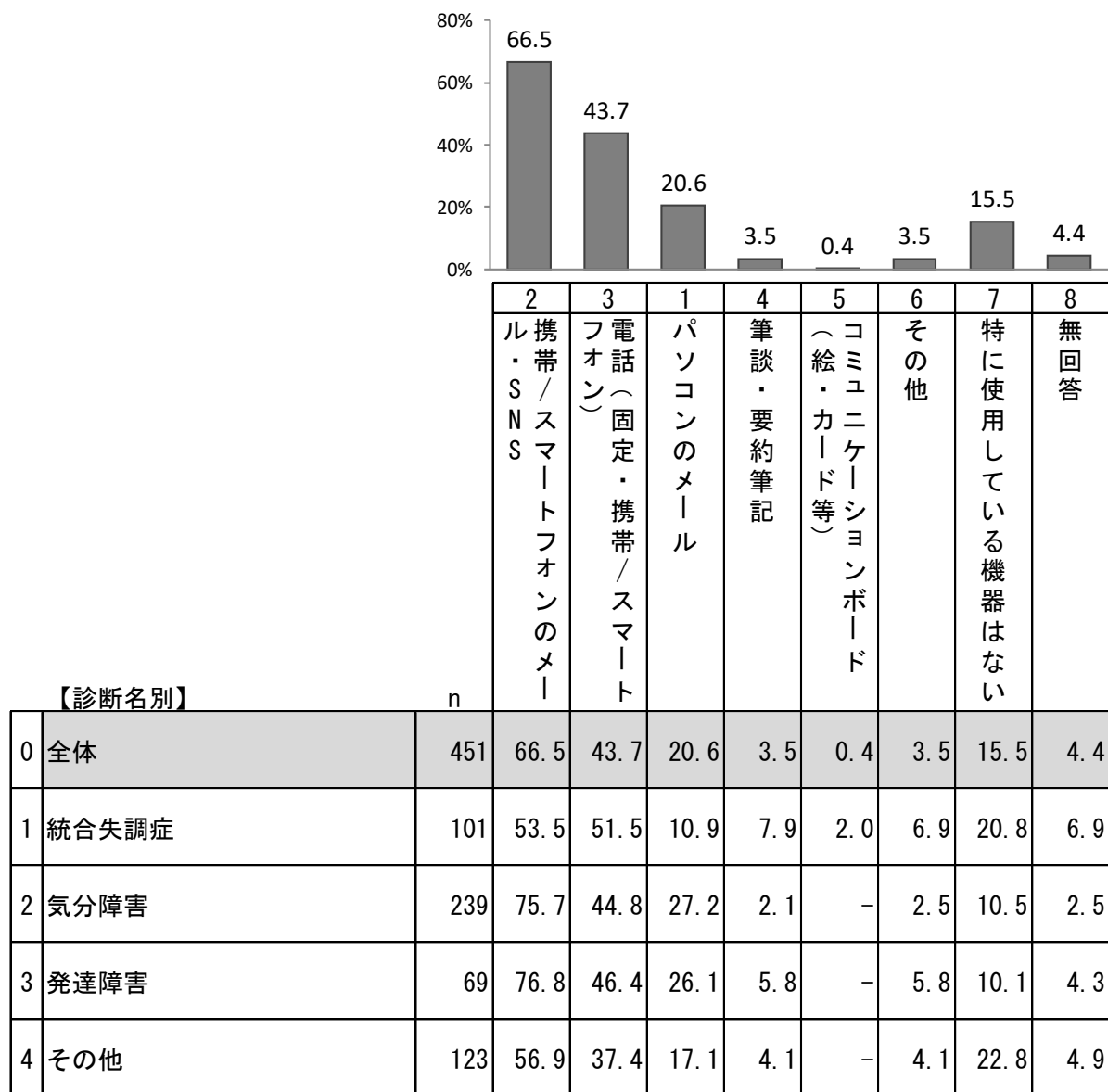
【障害の程度別】		n	2	3	1	8	7	5	6	10	12	4	11	9	13	14	15
			ル・携帯／スマートフォン	フ・電話（固定・携帯／スマートフォン）	パ・パソコンのメール	な・補聴機器（補聴器・人工内耳など）	筆・筆談・要約筆記	手・手話・手話通訳	読・読話	指・指文字・指点字	文・文字盤	携・携帯用会話補助装置	意・意志伝達装置	触・触手話	そ・その他	特・特に使用している機器はない	無・無回答
0	全体	659	45.2	39.5	20.5	12.3	5.3	5.0	2.9	1.7	1.5	1.4	0.6	0.2	3.0	21.5	7.1
1	重度（１・２級）	371	46.4	35.0	21.6	8.4	6.2	6.5	3.5	1.3	2.4	1.3	1.1	-	3.8	22.4	7.5
2	中度（３・４級）	191	43.5	46.6	19.4	14.7	5.2	3.7	2.1	2.6	0.5	1.6	-	0.5	2.1	22.5	5.2
3	軽度（５・６級）	79	45.6	46.8	21.5	26.6	2.5	2.5	2.5	1.3	-	1.3	-	-	2.5	12.7	6.3

【障害の種類別】		n	2	3	1	8	7	5	6	10	12	4	11	9	13	14	15
			ル・携帯／スマートフォン	フ・電話（固定・携帯／スマートフォン）	パ・パソコンのメール	な・補聴機器（補聴器・人工内耳など）	筆・筆談・要約筆記	手・手話・手話通訳	読・読話	指・指文字・指点字	文・文字盤	携・携帯用会話補助装置	意・意志伝達装置	触・触手話	そ・その他	特・特に使用している機器はない	無・無回答
1	視覚障害	101	51.5	44.6	24.8	4.0	1.0	2.0	1.0	4.0	-	1.0	-	-	4.0	17.8	5.9
2	聴覚障害	99	50.5	22.2	23.2	61.6	30.3	29.3	15.2	9.1	3.0	4.0	-	1.0	6.1	5.1	3.0
3	平衡機能障害	4	50.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	48.3	37.9	17.2	-	10.3	3.4	-	-	-	-	-	-	-	27.6	6.9
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	43.8	38.9	21.2	3.4	1.4	1.0	1.0	-	2.9	1.0	1.9	-	3.8	27.9	4.8
6	肢体不自由（体幹）	77	26.0	33.8	10.4	1.3	2.6	1.3	1.3	-	6.5	3.9	5.2	-	6.5	36.4	7.8
7	内部障害	185	45.9	41.6	21.6	4.9	0.5	0.5	0.5	-	-	1.6	-	-	0.5	22.7	8.6
8	その他	8	12.5	62.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	12.5

【精神障害者】

診断名別にみると、「携帯／スマートフォンのメール・SNS」を利用している人の割合は、気分障害、発達障害と診断されている人では7割を超えている（それぞれ75.7%、76.8%）。

また、統合失調症と診断されている人では「電話（固定・携帯／スマートフォン）」を利用している人の割合が他と比べて高くなっている。



② コミュニケーションや情報取得のために充実すべきこと（複数回答）

コミュニケーションや情報取得のために充実すべきことは、身体障害者、精神障害者では「パソコン/携帯メール・SNS による情報提供を増やす」が最も多くそれぞれ 28.8%、36.6%となっている。

児童発達支援事業利用者では「特にない」が最も多く 46.5%となっている。次いで「公共施設の案内・誘導をわかりやすくする」が 26.0%となっている。

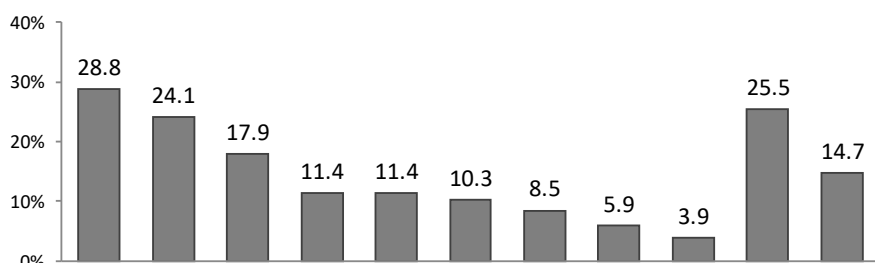
（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	精神障害者 (n=451)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
点字による情報提供を増やす	5.9		3.9
音声による情報提供を増やす	17.9	11.3	5.5
パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	28.8 （１位）	36.6 （１位）	21.3 （３位）
手話通訳・要約筆記を充実する	8.5		4.7
公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	24.1 （３位）	30.4 （２位）	26.0 （２位）
電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	11.4	9.3	6.3
コミュニケーション支援機器を充実する	10.3	9.1	7.1
コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供を増やす	11.4	11.3	7.1
その他	3.9	7.3	3.1
特にない	25.5 （２位）	25.1 （３位）	46.5 （１位）
無回答	14.7	10.4	9.4

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度による大きな差はみられない。

障害の種類別にみると、視覚障害では「音声による情報提供を増やす」が46.5%と最も多く、聴覚障害では「パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」が42.4%と最も多くなっている。肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）、内部障害では「特にない」が最も多くなっている。



【障害の程度別】

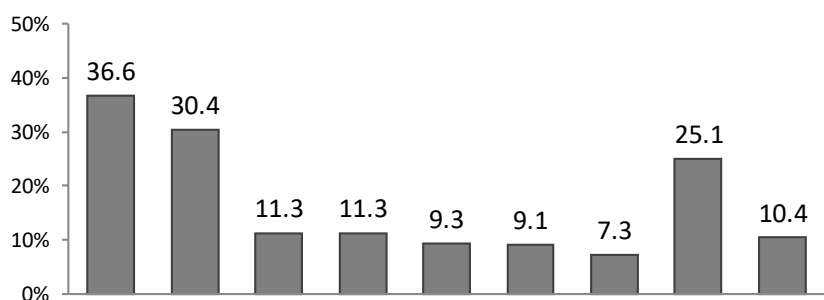
	n	3	5	2	6	8	7	4	1	9	10	11
0 全体	659	28.8	24.1	17.9	11.4	11.4	10.3	8.5	5.9	3.9	25.5	14.7
1 重度（１・２級）	371	31.3	22.1	19.4	9.7	12.4	11.1	9.4	6.5	3.2	24.0	15.6
2 中度（３・４級）	191	25.7	27.2	16.8	12.6	8.9	10.5	8.4	5.8	6.3	24.6	14.7
3 軽度（５・６級）	79	27.8	30.4	17.7	19.0	13.9	7.6	6.3	5.1	2.5	30.4	7.6

【障害の種類別】

1 視覚障害	101	36.6	29.7	46.5	6.9	16.8	7.9	2.0	13.9	4.0	21.8	8.9
2 聴覚障害	99	42.4	28.3	8.1	40.4	22.2	23.2	35.4	6.1	8.1	12.1	7.1
3 平衡機能障害	4	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	25.0	—
4 音声・言語・そしゃく機能の障害	29	27.6	31.0	17.2	3.4	13.8	17.2	—	3.4	3.4	17.2	13.8
5 肢体不自由（上肢、下肢等）	208	25.0	26.4	15.4	5.8	8.2	9.6	5.8	5.3	5.3	26.9	16.3
6 肢体不自由（体幹）	77	20.8	24.7	15.6	6.5	14.3	16.9	5.2	5.2	2.6	24.7	19.5
7 内部障害	185	25.4	20.5	9.7	6.5	8.1	4.9	3.8	3.2	2.7	31.4	16.8
8 その他	8	12.5	—	12.5	—	—	—	—	—	12.5	62.5	12.5

【精神障害者】

診断名別にみると、「パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」ことをあげる人の割合は、発達障害と診断されている人では52.2%、気分障害と診断されている人では43.5%、統合失調症と診断されている人では28.7%となっている。



【診断名別】			n	2	3	1	6	4	5	7	8	9
				パソコン／携帯メール・SNS による情報提供を増やす	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	音声による情報提供を増やす	増やす コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供を	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	充実する コミュニケーション支援機器を	その他	特にない	無回答
0	全体	451	36.6	30.4	11.3	11.3	9.3	9.1	7.3	25.1	10.4	
1	統合失調症	101	28.7	26.7	10.9	13.9	11.9	14.9	7.9	28.7	11.9	
2	気分障害	239	43.5	31.0	10.0	10.0	9.2	7.5	7.5	22.2	6.7	
3	発達障害	69	52.2	30.4	18.8	15.9	8.7	15.9	11.6	20.3	5.8	
4	その他	123	30.1	35.8	14.6	12.2	7.3	8.1	7.3	22.8	12.2	

9 障害福祉サービスについて

(1) 最近 1 年間に利用したサービス（複数回答）

最近 1 年間に利用した福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が 27.8%となっている。

知的障害者では、「移動支援・同行援護」が 28.5%となっている。

精神障害者では、「病院や診療所のデイケア」が 12.2%となっている。

難病患者では、「日常生活用具の給付・レンタル」が 15.8%となっている。

児童発達支援事業利用者では、「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が 85.8%となっている。

なお、児童発達支援事業利用者以外では、「サービスを利用したことがない」の割合が高くなっている。

（単位：％）

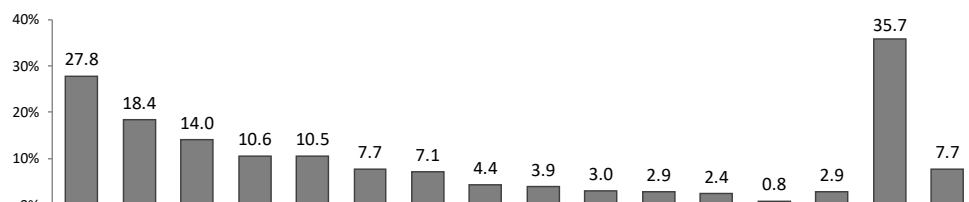
区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
ホームヘルプなどの訪問系サービス	10.5	10.5	7.1	10.7	1.6
訪問看護などの医療系サービス	7.1	7.0	12.0（3位）	9.7	4.7
短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	7.7	17.9	2.7	4.0	1.6
補装具費の支給・修理	18.4（3位）	12.0		6.9	6.3
日常生活用具の給付・レンタル	14.0	5.3		15.8（2位）	0.8
住宅設備改善費の給付	2.9	0.8		5.1	－
福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	27.8（2位）	24.3（2位）		7.4	3.1
移動支援・同行援護	10.6	28.5（1位）		2.9	－
訪問入浴サービス	3.9	2.3		2.7	－
就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの 日中活動系サービス	3.0	21.7	10.2		
グループホームなどの居住系サービス	0.8	8.4	3.3	1.3	
児童発達支援・放課後等デイサービスなど	4.4	23.6（3位）	0.4		85.8（1位）
手話通訳者・要約筆記者の派遣	2.4	－		－	－
障害者地域生活支援センター（きらら・すてっ ぷ・ういんぐ・さくら）			6.9		
病院や診療所のデイケア			12.2（2位）		
日中一時支援				0.6	
介護保険のサービス				12.2（3位）	
ファミリーサポート					7.9（3位）
その他	2.9	2.1	4.2	0.2	0.8
上記のサービスを利用したことがない	35.7（1位）	21.9	58.3（1位）	64.2（1位）	11.0（2位）
無回答	7.7	5.3	4.9	6.5	1.6

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度が重いほどサービスの利用割合が高くなる傾向にある。

障害の種類別にみると、視覚障害では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が41.6%と最も多く、次いで「移動支援・同行支援」が24.8%となっている。

なお、聴覚障害では「補装具費の支給・修理」が30.3%と最も多く、肢体不自由（体幹）では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が46.8%と最も多いなど、障害の種類により各サービスの利用割合が異なる。

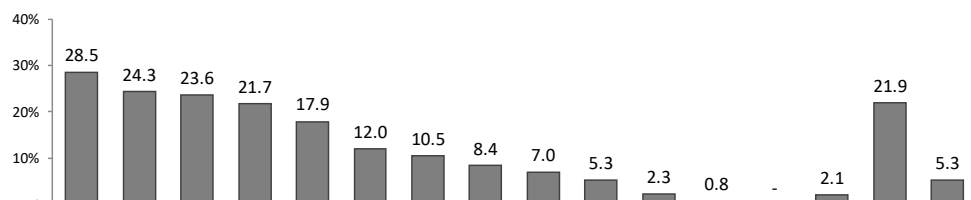


【障害の程度別】		n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
0	全体	659	27.8	18.4	14.0	10.6	10.5	7.7	7.1	4.4	3.9	3.0	2.9	2.4	0.8	2.9	35.7	7.7
1	重度（１・２級）	371	41.8	19.7	18.1	15.9	15.1	11.1	11.6	6.5	6.2	3.0	2.7	4.0	0.8	3.0	22.1	7.8
2	中度（３・４級）	191	11.5	16.2	11.5	3.7	4.2	3.7	1.6	1.6	1.6	3.1	2.6	-	-	2.1	51.8	8.9
3	軽度（５・６級）	79	3.8	19.0	1.3	2.5	3.8	2.5	1.3	1.3	-	3.8	3.8	1.3	1.3	3.8	62.0	5.1

【障害の種類別】		n	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1	視覚障害	101	41.6	17.8	17.8	24.8	13.9	5.0	5.9	2.0	2.0	3.0	2.0	-	-	2.0	31.7	8.9
2	聴覚障害	99	9.1	30.3	6.1	8.1	3.0	8.1	-	5.1	-	8.1	2.0	16.2	2.0	5.1	31.3	8.1
3	平衡機能障害	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	25.0
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	6.9	17.2	10.3	6.9	6.9	10.3	3.4	3.4	3.4	3.4	-	3.4	-	-	58.6	6.9
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	29.3	23.6	20.7	12.5	15.9	13.5	13.0	7.7	9.1	3.4	3.4	-	-	3.4	35.1	4.8
6	肢体不自由（体幹）	77	46.8	26.0	20.8	22.1	16.9	26.0	16.9	18.2	11.7	6.5	6.5	-	-	6.5	19.5	3.9
7	内部障害	185	34.1	9.2	11.9	3.2	8.6	2.2	7.6	2.2	1.6	0.5	2.7	-	0.5	1.6	35.1	8.6
8	その他	8	37.5	12.5	37.5	25.0	25.0	12.5	-	-	12.5	-	-	-	12.5	12.5	25.0	-

【知的障害者】

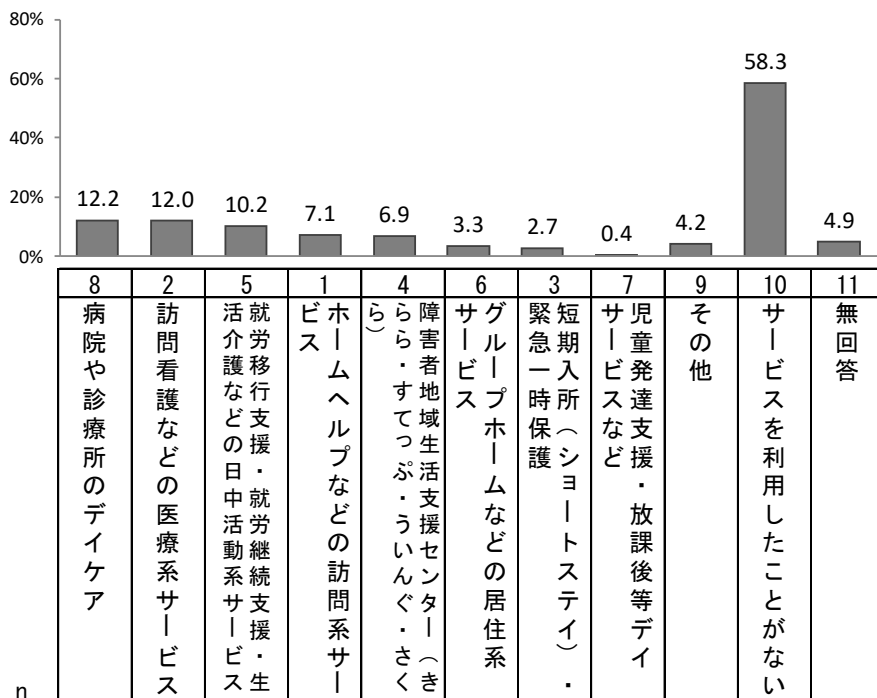
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では「福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など」が 58.6%と最も多く、次いで「移動支援・同行援護」（48.8%）、「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」（38.3%）となっている。中度（３度）では「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」が 29.3%と最も多く、次いで「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が 26.7%となっている。



【障害程度別】		n	8	7	12	10	3	4	1	11	2	5	9	6	13	14	15	16
			移動支援・同行援護	福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など	児童発達支援・放課後等デイサービスなど	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	補装具費の支給・修理	ホームヘルプなどの訪問系サービス	グループホームなどの居住系サービス	訪問看護などの医療系サービス	日常生活用具の給付・レンタル	訪問入浴サービス	住宅設備改善費の給付	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	サービスを利用していない	無回答
0	全体	474	28.5	24.3	23.6	21.7	17.9	12.0	10.5	8.4	7.0	5.3	2.3	0.8	-	2.1	21.9	5.3
1	最重度・重度（１・２度）	162	48.8	58.6	24.7	24.1	38.3	23.5	22.2	3.1	11.7	11.1	5.6	1.9	-	3.1	4.3	1.9
2	中度（３度）	116	28.4	9.5	26.7	29.3	12.9	6.0	5.2	12.9	1.7	3.4	0.9	-	-	0.9	19.0	5.2
3	軽度（４度）	181	11.6	3.3	21.5	16.0	3.3	6.1	2.8	10.5	5.5	1.7	0.6	0.6	-	2.2	39.2	7.7

【精神障害者】

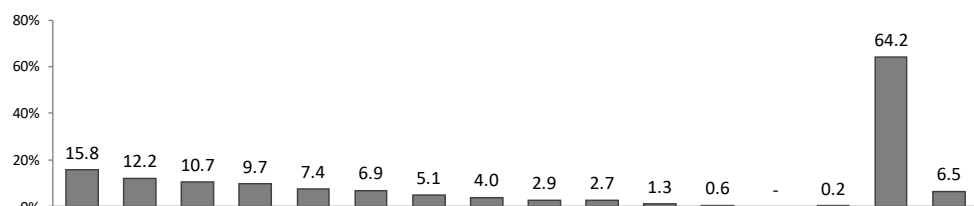
診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「訪問看護などの医療系サービス」（26.7%）、気分障害と診断されている人では「病院や診療所のデイケア」（11.3%）、発達障害と診断されている人では「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」（29.0%）が最も多くなっている。



【診断名別】		n	8	2	5	1	4	6	3	7	9	10	11
			病院や診療所のデイケア	訪問看護などの医療系サービス	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	ホームヘルプなどの訪問系サービス	障害者地域生活支援センター（きら）	グループホームなどの居住系サービス	緊急一時保護	短期入所（ショートステイ）	その他	サービスを利用したことがない	無回答
0	全体	451	12.2	12.0	10.2	7.1	6.9	3.3	2.7	0.4	4.2	58.3	4.9
1	統合失調症	101	18.8	26.7	10.9	10.9	13.9	5.0	3.0	0.0	5.0	39.6	6.9
2	気分障害	239	11.3	6.7	8.4	5.9	3.8	1.3	2.1	0.4	2.9	67.8	4.2
3	発達障害	69	15.9	7.2	29.0	7.2	7.2	5.8	2.9	2.9	8.7	49.3	0.0
4	その他	123	13.8	12.2	7.3	11.4	5.7	7.3	7.3	0.8	4.1	57.7	2.4

【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患でサービスの利用割合が高くなっている。



【疾患群別】		n	5	13	1	2	7	4	6	3	8	9	10	11	12	14	15	16
0	全体	475	15.8	12.2	10.7	9.7	7.4	6.9	5.1	4.0	2.9	2.7	1.3	0.6	-	0.2	64.2	6.5
1	神経・筋疾患	130	37.7	26.2	25.4	24.6	13.1	16.2	12.3	11.5	6.2	8.5	3.8	1.5	-	-	36.2	8.5
2	免疫系疾患	106	8.5	7.5	6.6	3.8	1.9	5.7	1.9	0.9	0.9	-	0.9	-	-	-	72.6	5.7
3	消化器系疾患	117	5.1	4.3	1.7	2.6	0.9	1.7	2.6	0.9	0.9	-	-	0.9	-	0.9	85.5	4.3
4	その他	125	8.0	8.8	6.4	5.6	12.0	3.2	4.8	1.6	3.2	1.6	-	-	-	0.8	65.6	7.2

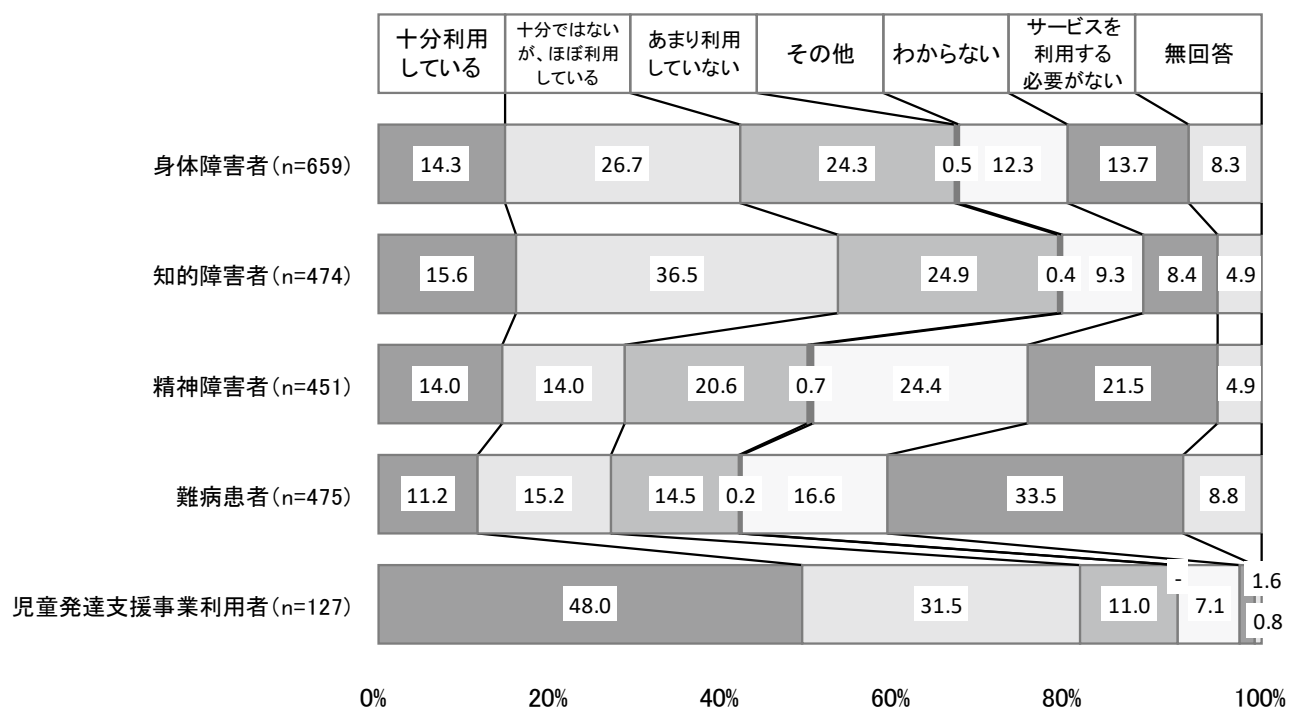
(2) 必要だと思うサービスの利用状況

① 必要だと思うサービスの利用状況

必要だと思うサービスの利用状況は、身体障害者、知的障害者、児童発達支援事業利用者では“利用している”人（「十分利用している」「十分ではないが、ほぼ利用している」の合計）の割合が、それぞれ41.0%、52.1%、79.5%となっている。

一方、精神障害者、難病患者では“利用している”がそれぞれ28.0%、26.4%となっている。

(%)



【前回調査との比較】

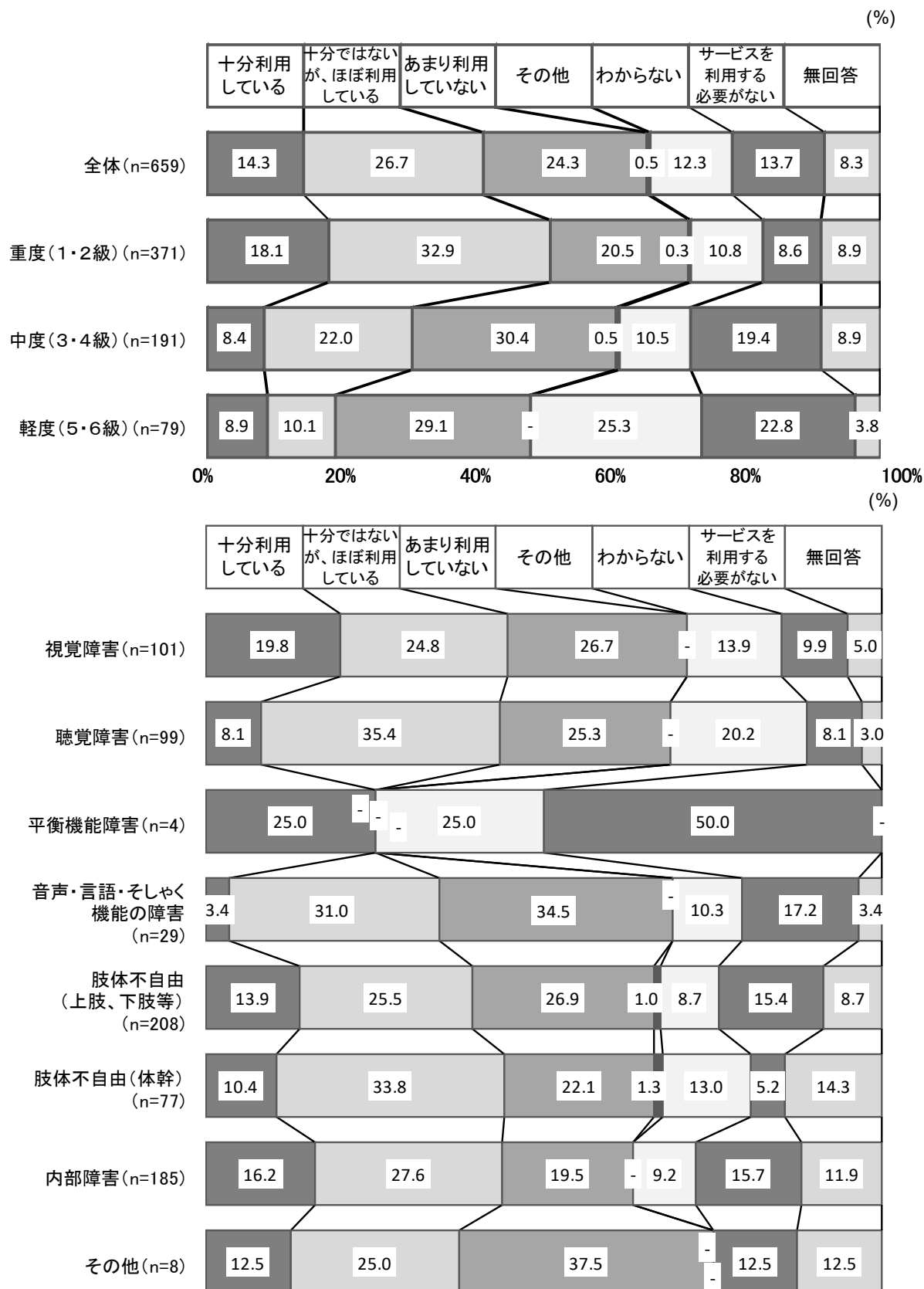
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	十分ではないが、ほぼ利用している (26.7)	あまり利用していない (24.3)	十分利用している (14.3)
	前回 (n=558)	十分ではないが、ほぼ利用している (25.8)	あまり利用していない (22.8)	十分利用している (16.7)
知的障害者	今回 (n=474)	十分ではないが、ほぼ利用している (36.5)	あまり利用していない (24.9)	十分利用している (15.6)
	前回 (n=248)	十分ではないが、ほぼ利用している (30.2)	あまり利用していない (22.2)	わからない (16.1)
精神障害者	今回 (n=451)	わからない (24.4)	サービスを利用する必要がある (21.5)	あまり利用していない (20.6)
	前回 (n=434)	あまり利用していない (21.4)	十分ではないが、ほぼ利用している (21.0)	わからない (19.4)
難病患者	今回 (n=475)	サービスを利用する必要がある (33.5)	わからない (16.6)	十分ではないが、ほぼ利用している (15.2)
	前回 (n=346)	サービスを利用する必要がある (30.3)	あまり利用していない (24.0)	わからない (16.2)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、“利用している”人の割合は、程度が重いほど高く、重度（１・２級）で約５割、中度（３・４級）で約３割、軽度（５・６級）で約２割となっている。

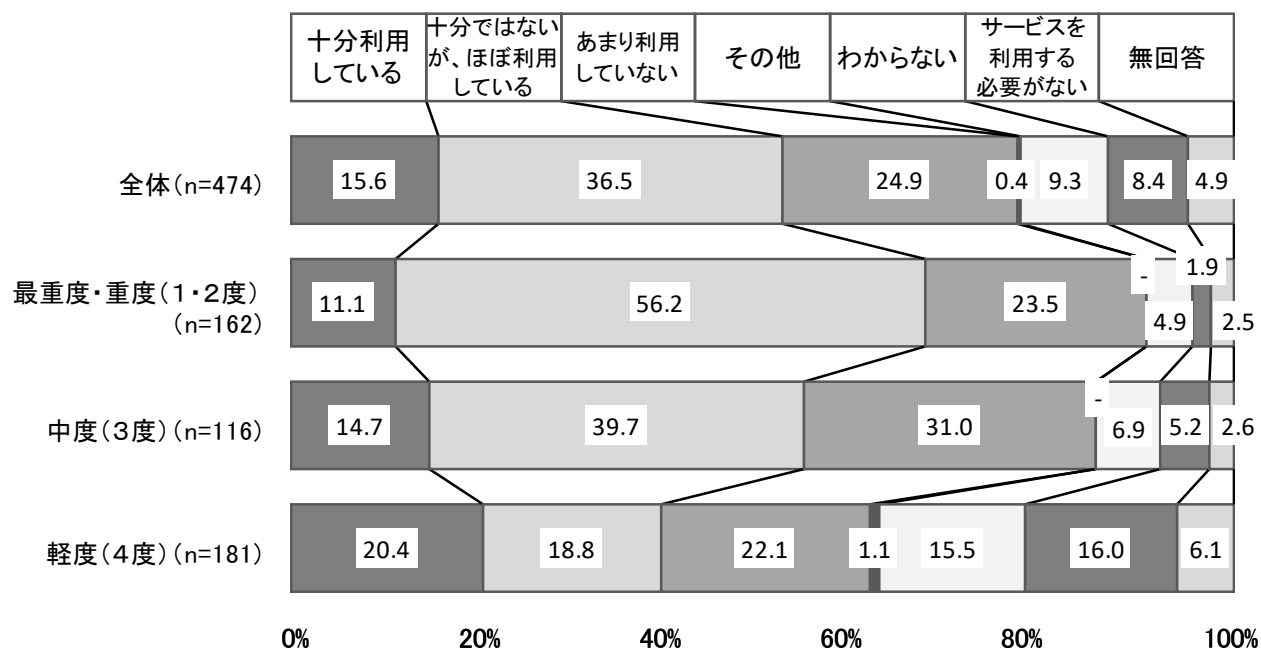
障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）、内部障害ともに、“利用している”と回答した人が、「あまり利用していない」と回答した人より多くなっている。



【知的障害者】

障害の程度別にみると、“利用している”割合は程度が重いほど高く、軽度（４度）では 39.2%だが、中度（３度）では 54.4%、最重度・重度（１・２度）では 67.3%となっている。

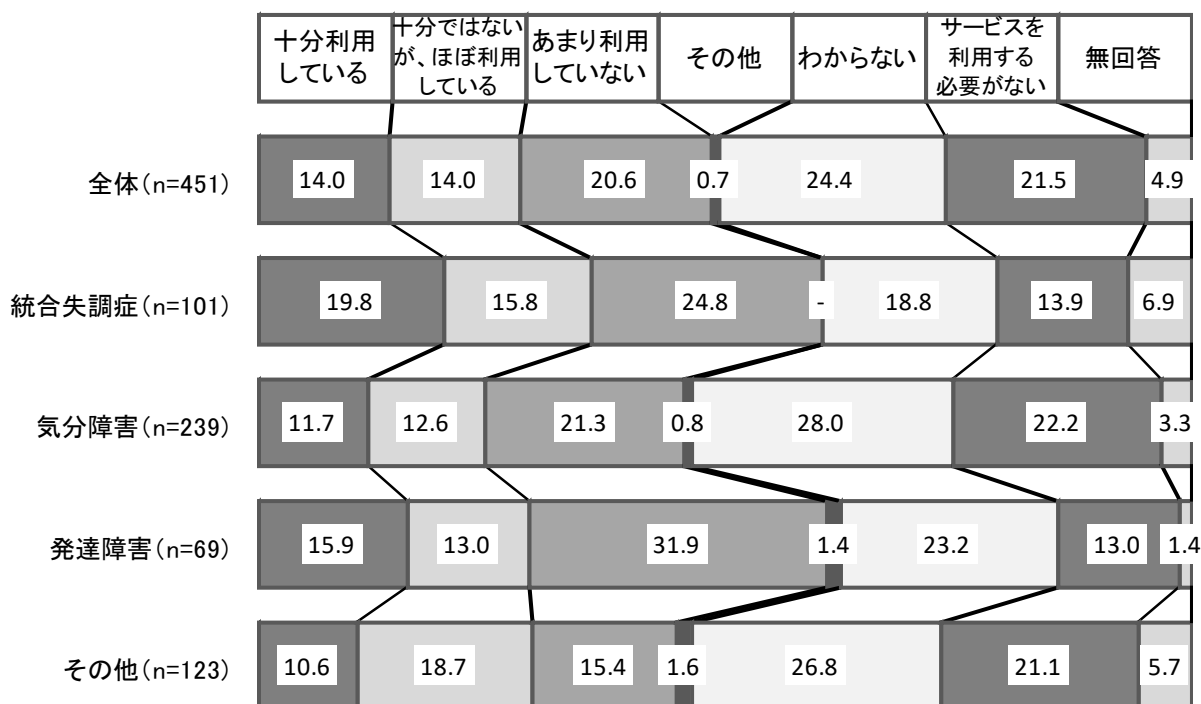
(%)



【精神障害者】

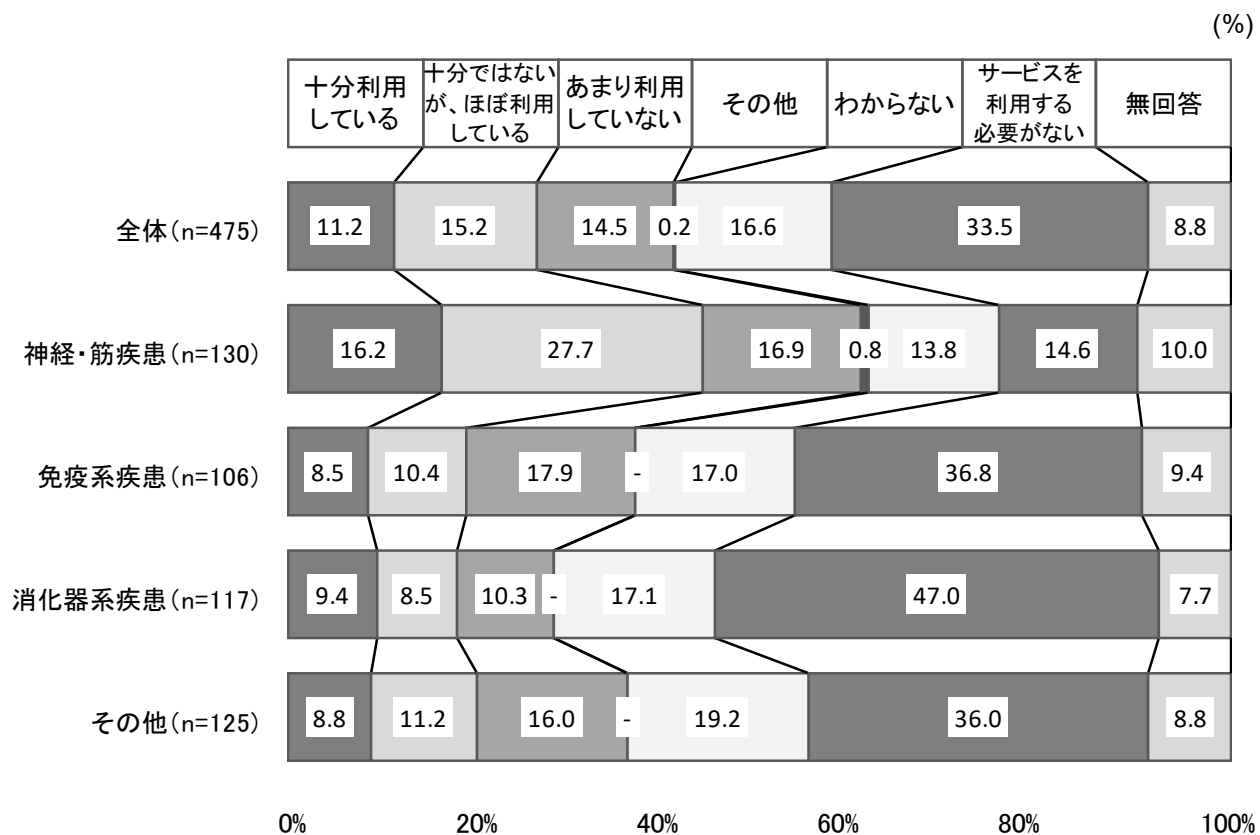
診断名別にみると、「十分利用している」と回答した人の割合は、統合失調症と診断されている人では 19.8%、気分障害と診断されている人では 11.7%、発達障害と診断されている人では 15.9%となっている。

(%)



【難病患者】

疾患群別にみると、“利用している”割合は、神経・筋疾患では43.9%と他と比べて高い割合となっている。また、免疫系疾患、消化器系疾患では約4割が「サービスを利用する必要がない」と回答している。



② 必要だと思うサービスを利用できていない理由（複数回答）

必要だと思うサービスを“あまり利用していない”と回答した人の理由は、身体障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者で「どのようなサービスがあるかわからないから」が最も多くそれぞれ48.1%、53.6%、57.1%となっている。知的障害者では「サービスに空きがなく利用できないから」が最も多く33.9%となっている。精神障害者では「どのようなサービスがあるかわからないから」、「利用の仕方がわからないから」がともに33.3%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=160)	知的障害者 (n=118)	精神障害者 (n=93)	難病患者 (n=69)	児童発達支援 事業利用者 (n=14)
自己負担が大きいから	16.3	12.7	19.4（3位）	10.1	28.6（3位）
支給要件に該当しないから	17.5	11.0	12.9	18.8（3位）	42.9（2位）
必要とするサービスがないから	20.0（3位）	19.5	14.0	13.0	14.3
どのようなサービスがあるかわからないから	48.1（1位）	29.7（2位）	33.3（1位）	53.6（1位）	57.1（1位）
利用の仕方がわからないから	30.0（2位）	28.0（3位）	33.3（1位）	24.6（2位）	28.6（3位）
個別のニーズに対応できないから	10.0	18.6	19.4（3位）	10.1	21.4
サービスに空きがなく利用できないから	5.0	33.9（1位）	5.4	2.9	28.6（3位）
その他	6.9	11.0	12.9	5.8	7.1
わからない	6.9	5.9	11.8	4.3	-
無回答	4.4	1.7	2.2	2.9	-

※ベース：必要なサービスをあまり利用していないと回答した人

【前回調査との比較】

（単位：％）

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=160)	どのようなサービスがあるかわからないから (48.1)	利用の仕方がわからないから (30.0)	必要とするサービスがないから (20.0)
	前回 (n=127)	どのようなサービスがあるかわからないから (42.5)	利用の仕方がわからないから (26.8)	必要とするサービスがないから (23.6)
知的障害者	今回 (n=118)	サービスに空きがなく利用できないから (33.9)	どのようなサービスがあるかわからないから (29.7)	利用の仕方がわからないから (28.0)
	前回 (n=55)	どのようなサービスがあるかわからないから (41.8)	利用の仕方がわからないから (29.1)	個別のニーズに対応できないから (18.2)
精神障害者	今回 (n=93)	どのようなサービスがあるかわからないから/利用の仕方がわからないから (同率33.3)		自己負担が大きいから/個別のニーズに対応できないから (同率19.4)
	前回 (n=93)	どのようなサービスがあるかわからないから (46.2)		必要とするサービスがないから (21.5)
難病患者	今回 (n=69)	どのようなサービスがあるかわからないから (53.6)	利用の仕方がわからないから (24.6)	支給要件に該当しないから (18.8)
	前回 (n=83)	どのようなサービスがあるかわからないから (53.0)	利用の仕方がわからないから (21.7)	個別のニーズに対応できないから (19.3)

(3) 今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス（複数回答）

今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が最も多く 45.2%、次いで「補装具費の支給・修理」が 28.5%となっている。

知的障害者では、「移動支援・同行援護」が最も多く 45.4%、次いで「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」が 45.1%となっている。

精神障害者では、「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」が 18.8%となっている。

難病患者では、「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が多く 31.4%、次いで「日常生活用具の給付・レンタル」が 19.4%となっている。

児童発達支援事業利用者では、「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が 85.8%と最も多くなっている。

なお、精神障害者、難病患者では、「利用したいサービスはない」がそれぞれ 38.4%、37.7%と最も多くなっている。

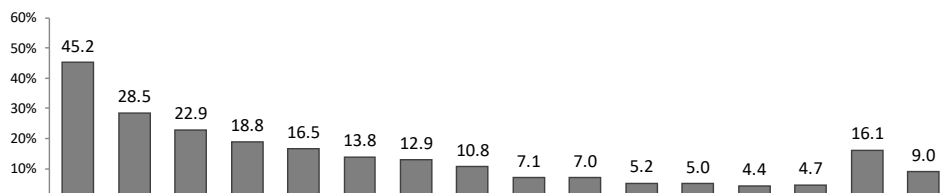
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
ホームヘルプなどの訪問系サービス	16.5	16.5	14.0	16.2	6.3
訪問看護などの医療系サービス	10.8	8.2	14.6	13.5	3.9
短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	12.9	45.1（2位）	8.2	9.1	7.9
補装具費の支給・修理	28.5（2位）	14.1		9.3	5.5
日常生活用具の給付・レンタル	22.9（3位）	10.3		19.4（3位）	4.7
住宅設備改善費の給付	13.8	8.0		12.8	1.6
福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	45.2（1位）	33.5（3位）		31.4（2位）	10.2（3位）
移動支援・同行援護	18.8	45.4（1位）		8.4	5.5
訪問入浴サービス	7.0	5.9		3.6	1.6
就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの 日中活動系サービス	7.1	30.8	18.8（2位）		
グループホームなどの居住系サービス	4.4	28.3	4.9	2.5	
児童発達支援・放課後等デイサービスなど	5.0	22.4	1.3		85.8（1位）
手話通訳者・要約筆記者の派遣	5.2	0.4		0.4	-
障害者地域生活支援センター（きらら・すてっ ぷ・ういんぐ・さくら）			13.3		
病院や診療所のデイケア			17.3（3位）		
日中一時支援				4.4	
介護保険のサービス				15.4	
ファミリーサポート					22.8（2位）
その他	4.7	2.1	6.2	3.2	3.1
上記の中に利用したいサービスはない	16.1	12.0	38.4（1位）	37.7（1位）	6.3
無回答	9.0	5.5	8.2	8.0	2.4

【身体障害者】

障害の種類別にみると、程度が重いほどサービスの利用意向が高くなる傾向にある。最も利用意向が高いサービスは「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」で、重度（１・２級）では56.6%となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」の利用意向が52.5%と最も高く、次いで「移動支援・同行援護」が32.7%となっている。聴覚障害では「補装具費の支給・修理」の利用意向が49.5%と最も高い。肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）、内部障害ではいずれも「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」の利用意向が最も高く、それぞれ50.0%、59.7%、51.9%となっている。

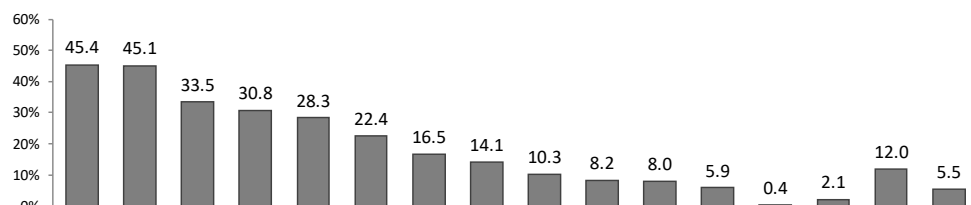


【障害の程度別】		n	7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	4 補装具費の支給・修理	5 日常生活用具の給付・レンタル	8 移動支援・同行援護	1 ホームヘルプなどの訪問系サービス	6 住宅設備改善費の給付	3 短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	2 訪問看護などの医療系サービス	10 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	9 訪問入浴サービス	13 手話通訳者・要約筆記者の派遣	12 児童発達支援・放課後等デイサービスなど	11 グループホームなどの居住系サービス	14 その他	15 利用したいサービスはない	16 無回答
0	全体	659	45.2	28.5	22.9	18.8	16.5	13.8	12.9	10.8	7.1	7.0	5.2	5.0	4.4	4.7	16.1	9.0
1	重度（１・２級）	371	56.6	30.7	26.1	25.6	21.0	15.4	18.6	13.7	6.2	10.2	5.7	7.3	5.1	4.3	10.2	8.9
2	中度（３・４級）	191	35.6	23.6	19.9	9.4	11.5	11.5	5.2	8.4	7.9	3.1	4.7	2.1	3.7	5.2	22.5	8.4
3	軽度（５・６級）	79	20.3	32.9	15.2	8.9	7.6	12.7	2.5	2.5	8.9	-	5.1	1.3	1.3	3.8	27.8	10.1

【障害の種類別】		n	7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	4 補装具費の支給・修理	5 日常生活用具の給付・レンタル	8 移動支援・同行援護	1 ホームヘルプなどの訪問系サービス	6 住宅設備改善費の給付	3 短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	2 訪問看護などの医療系サービス	10 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	9 訪問入浴サービス	13 手話通訳者・要約筆記者の派遣	12 児童発達支援・放課後等デイサービスなど	11 グループホームなどの居住系サービス	14 その他	15 利用したいサービスはない	16 無回答
1	視覚障害	101	52.5	23.8	26.7	32.7	21.8	16.8	7.9	9.9	7.9	1.0	-	2.0	3.0	5.0	12.9	11.9
2	聴覚障害	99	28.3	49.5	25.3	15.2	11.1	11.1	12.1	4.0	11.1	2.0	32.3	6.1	5.1	3.0	11.1	6.1
3	平衡機能障害	4	25.0	-	-	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	24.1	20.7	17.2	13.8	13.8	6.9	10.3	10.3	13.8	3.4	3.4	3.4	3.4	6.9	20.7	13.8
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	50.0	35.6	31.3	25.0	23.6	19.7	20.7	16.8	7.7	14.9	0.5	9.1	6.3	5.8	18.8	6.3
6	肢体不自由（体幹）	77	59.7	46.8	33.8	44.2	32.5	27.3	42.9	26.0	16.9	20.8	-	19.5	9.1	2.6	6.5	5.2
7	内部障害	185	51.9	13.0	14.1	8.6	13.0	5.9	5.4	9.7	3.2	2.7	-	2.2	3.2	4.9	15.7	10.3
8	その他	8	50.0	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	-	12.5	12.5	-	-	12.5	-	12.5	12.5

【知的障害者】

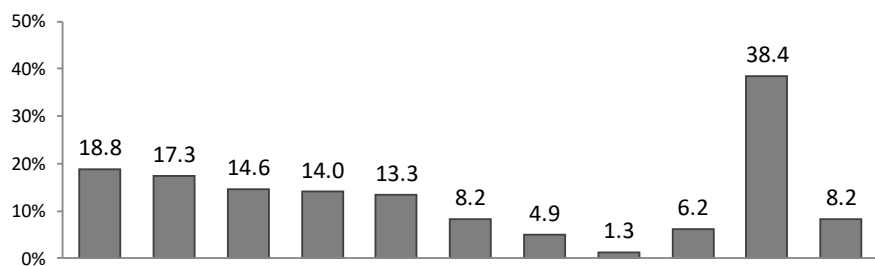
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」をあげる人が 79.0%と最も多く、次いで「福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など」が 68.5%となっている。中度（３度）では「移動支援・同行援護」が 54.3%と最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」が 47.4%となっている。



【障害程度別】		n	8	3	7	10	11	12	1	4	5	2	6	9	13	14	15	16
			移動支援・同行援護	短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など	就労移行支援・就労継続支援・生活介護の日の活動系サービス	グループホームなどの居住系サービス	児童発達支援・放課後等デイサービスなど	ホームヘルプなどの訪問系サービス	補装具費の支給・修理	日常生活用具の給付・レンタル	訪問看護などの医療系サービス	住宅設備改善費の給付	訪問入浴サービス	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	利用したいサービスはない	無回答
0	全体	474	45.4	45.1	33.5	30.8	28.3	22.4	16.5	14.1	10.3	8.2	8.0	5.9	0.4	2.1	12.0	5.5
1	最重度・重度（１・２度）	162	63.6	79.0	68.5	40.1	33.3	20.4	30.2	31.5	22.2	14.8	16.0	14.2	-	3.7	1.9	0.6
2	中度（３度）	116	54.3	47.4	23.3	30.2	29.3	25.0	12.9	6.0	4.3	5.2	2.6	2.6	0.9	2.6	4.3	5.2
3	軽度（４度）	181	26.0	14.4	9.9	24.9	23.2	22.7	6.6	3.3	3.3	3.9	3.9	1.1	0.6	0.6	26.0	8.3

【精神障害者】

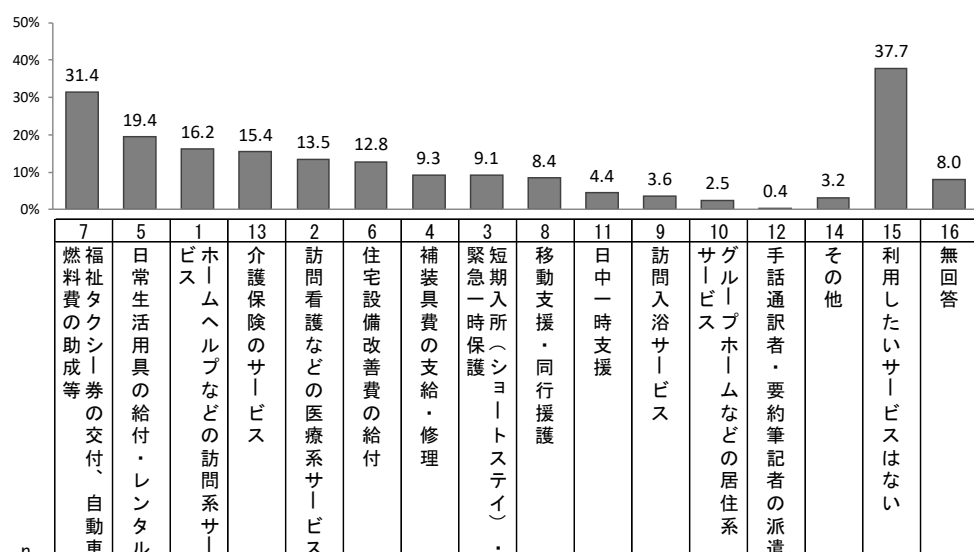
診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「訪問看護などの医療系サービス」が26.7%と最も多く、発達障害と診断されている人では「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」が43.5%と最も多くなっている。



【診断名別】		n	5 系サ ービ ス	8 病 院 や 診 療 所 の デ イ ケ ア	2 訪 問 看 護 な ど の 医 療 系 サ ー ビ ス	1 ホ ー ム ヘ ル プ な ど の 訪 問 系 サ ー ビ ス	4 障 害 者 地 域 生 活 支 援 セ ン タ ー （ き ・ さ く ら ）	3 短 期 入 所 （ シ ョ ー ト ス テ イ ） ・ 緊 急 一 時 保 護	6 グ ル ー プ ホ ー ム な ど の 居 住 系 サ ー ビ ス	7 児 童 発 達 支 援 ・ 放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス な ど	9 そ の 他	10 利 用 し た い サ ー ビ ス は な い	11 無 回 答
0	全体	451	18.8	17.3	14.6	14.0	13.3	8.2	4.9	1.3	6.2	38.4	8.2
1	統合失調症	101	16.8	18.8	26.7	20.8	20.8	5.0	5.0	1.0	4.0	26.7	9.9
2	気分障害	239	18.0	17.6	12.6	13.4	10.0	7.1	2.5	1.3	6.7	46.4	5.0
3	発達障害	69	43.5	20.3	7.2	15.9	18.8	13.0	8.7	2.9	10.1	23.2	4.3
4	その他	123	18.7	17.1	15.4	13.0	9.8	13.8	6.5	2.4	7.3	36.6	9.8

【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患のサービスの利用意向が高い傾向にある。なお、神経・筋疾患では「日常生活用具の給付・レンタル」をあげる人が46.2%と最も多く、免疫系疾患、消化器系疾患では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」がそれぞれ30.2%、18.8%と最も多くなっている。



【疾患群別】		n	7	5	1	13	2	6	4	3	8	11	9	10	12	14	15	16
			福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	日常生活用具の給付・レンタル	ホームヘルプなどの訪問系サービス	介護保険のサービス	訪問看護などの医療系サービス	住宅設備改善費の給付	補装具費の支給・修理	緊急一時保護	短期入所（ショートステイ）・移動支援・同行援護	日中一時支援	訪問入浴サービス	グループホームなどの居住系サービス	手話通訳者・要約筆記者の派遣	その他	利用したいサービスはない	無回答
0	全体	475	31.4	19.4	16.2	15.4	13.5	12.8	9.3	9.1	8.4	4.4	3.6	2.5	0.4	3.2	37.7	8.0
1	神経・筋疾患	130	44.6	46.2	32.3	30.8	31.5	25.4	20.0	20.8	16.9	10.0	10.8	6.9	0.8	1.5	13.8	6.9
2	免疫系疾患	106	30.2	13.2	8.5	14.2	6.6	11.3	5.7	2.8	5.7	4.7	-	0.9	-	2.8	43.4	6.6
3	消化器系疾患	117	18.8	4.3	8.5	5.1	6.8	6.8	0.9	3.4	2.6	0.9	1.7	0.9	0.9	5.1	53.0	14.5
4	その他	125	31.2	10.4	11.2	9.6	7.2	7.2	8.8	7.2	8.8	1.6	0.8	0.8	-	4.8	43.2	3.2

(4) 改善が必要だと思うサービスと必要なこと（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

(居宅介護等)

- ・人材育成と人材確保、特に男性の介護士が少ない。
- ・利用できる時間を増やす。

(移動支援)

- ・支給時間の増加
- ・ヘルパーの質の向上
- ・利用要件の緩和

(短期入所、緊急一時保護等)

- ・施設数やベッド数の増加
- ・土日祝日や学校が長期で休みの時の利用確保
- ・緊急時は必ず対応してほしい。

(グループホーム)

- ・重度障害者グループホームの充実

(補装具、日常生活用具等)

- ・申請手続き等の利便化
- ・補装具品の拡大
- ・補助上限額を設定せず、必要な補装具の助成をしてほしい。

(放課後等デイサービス)

- ・たくさん使っている人と、あまり入れてない人と差がある。
- ・長期休みの際の時間延長

(福祉タクシー券)

- ・利用範囲の拡大
- ・収入制限をなくして誰でも利用できるようにする。

(各種申請、手続き)

- ・インターネットの活用

(その他)

- ・手話通訳・要約筆記通訳について、救急病院に行くときなど、夜間でも利用できる体制
- ・遠隔情報保障システムの設置
- ・公共住宅への優先的入居
- ・在宅レスパイト事業の充実

【知的障害者】

(居宅介護等)

- ・ヘルパーの増加、質の向上
- ・ヘルパーの障害理解
- ・グループホームに入っている、ヘルパーを利用したい。

(移動支援)

- ・支給時間の増加
- ・夏休み等、長期休みの間の利用の充実
- ・週末や夜間帯などのヘルパーの充実、男性のヘルパーに増えてほしい。
- ・行動障害、医療的ケアの適切な対応
- ・施設から自宅、自宅から施設の送迎に利用できるようにしてほしい。
- ・手続きの簡略化
- ・所得による上限額の撤廃
- ・事業所情報の提供

(日中活動系サービス等)

- ・就労継続支援 B 型事業所の充実
- ・医療的ケアへの対応
- ・土日にも利用を拡大し、当事者、区民も利用できる活動の場にしてほしい。

(短期入所、緊急一時保護等)

- ・施設数やベッド数の増加
- ・緊急時に備えたベッドの確保
- ・需要と供給のバランスがとれていない。
- ・重度障害者（児）、医療的ケアへの対応の充実
- ・利用条件の緩和、利用回数の上限引き上げ

(グループホーム)

- ・施設数の増加
- ・軽度障害者用グループホームの充実
- ・重度障害者用グループホームの充実
- ・体験型グループホームの充実
- ・医療的ケアに対応したグループホームの整備

(放課後等デイサービス)

- ・事業所数の増加
- ・利用時間の延長、内容の充実
- ・職員の質の向上
- ・親が自分で探して断わられてしまうことがある。利用のための窓口があるといい。
- ・長期休みの際の時間延長

(福祉タクシー券)

- ・手続きの簡素化

(入所施設)

- ・練馬区内に入所施設を設置してほしい。

【精神障害者】

(居宅介護等)

- ・ヘルパーの増加、質の向上
- ・利用時間の増加
- ・利用するにあたって、どのようなサービスが使えるのか情報提供してほしい。

(訪問看護)

- ・定期的な訪問

(デイケア)

- ・プログラム内容の充実
- ・利用のしやすさ

(日中活動系サービス等)

- ・障害者地域生活支援センターの情報の充実
- ・女性でも利用しやすい工夫（障害者地域生活支援センター）
- ・就労支援事業所の増加、工賃向上のための取組
- ・福祉作業所での一人ひとりにあった作業内容の充実
- ・サービスと当事者をつなぐコーディネーター

(短期入所、緊急一時保護等)

- ・気軽に使えるような仕組み
- ・孤独がダメな人もいるので、支援者と一緒にいられるとよい。

(グループホーム)

- ・施設数の増加
- ・支援内容の充実

(その他)

- ・ カウンセリングの費用助成
- ・ 自立支援医療制度の更新手続きの簡素化

【難病患者】

(居宅介護等)

- ・ 配偶者が健康だとサービスが利用しづらいため、休めない。

(移動支援)

- ・ 電動車いす移動の支援ができるようにしてほしい。
- ・ 夜間の利用

(短期入所、緊急一時保護等)

- ・ 施設数の増加
- ・ 申込日時が早すぎるため、柔軟な利用ができない。
- ・ 体験型の利用の充実

(グループホーム)

- ・ 施設数の増加

(補装具、日常生活用具等)

- ・ 利用できるサービスの情報提供の充実
- ・ 自己負担の軽減

(福祉タクシー券)

- ・ 金額の増加
- ・ 事業者数の増加
- ・ 利用するための積極的な情報提供

【児童発達支援事業利用者】

(児童発達支援)

- ・ 待機期間の短縮
- ・ 事業所数の増加
- ・ 働いている保護者のためのサービス拡充
- ・ 職員のスキル向上

(移動支援)

- ・ 利用するための情報提供

(短期入所、緊急一時保護等)

- ・ 気軽に誰でも利用できる体制
- ・ 人数の枠の増加
- ・ インターネットの活用など、予約方法の改善

(福祉タクシー券)

- ・ 支給要件の緩和

(その他)

- ・ 保育園の障害児枠の増加

(5) **今あるサービス以外に必要なサービス（自由回答）（難病患者のみ）**

主な回答内容は、次のとおりである。

【難病患者】

(相談支援)

- ・無料でできる家計管理や金銭面、経済面での具体的な相談
- ・急に体調が悪くなったときの相談
- ・訪問による相談

(サービス等)

- ・緊急通報訪問サービス
- ・外出同行サービス

(その他)

- ・入院時の家庭（子育て、家事など）の支援
- ・通所できるリハビリ施設

（６） 介護保険サービスの利用状況（複数回答）

「介護保険サービスは利用していない」と回答した人が６割～８割となっている。

一方で、身体障害者では「訪問介護」「通所介護」（それぞれ 8.3%）、知的障害者では「短期入所」（10.7%）、難病患者では「訪問介護」（14.0%）などの利用がある。

（単位：％）

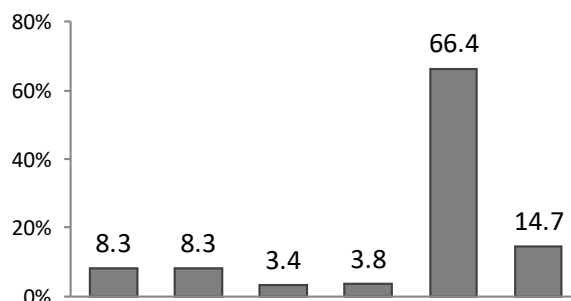
区 分	身体障害者 (n=529)	知的障害者 (n=122)	精神障害者 (n=335)	難病患者 (n=413)
訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	8.3 （３位）	4.9	6.3 （３位）	14.0 （２位）
通所介護（デイサービス）を利用している	8.3 （３位）	4.9	3.9	10.7 （３位）
短期入所（ショートステイ）を利用している	3.4	10.7 （３位）	0.6	1.7
その他	3.8	－	1.5	3.1
介護保険サービスは利用していない	66.4 （１位）	66.4 （１位）	79.7 （１位）	69.5 （１位）
無回答	14.7 （２位）	18.9 （２位）	10.4 （２位）	7.5

※ベース：40 歳以上と回答した人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、介護保険サービスを利用している人の割合は、おおむね程度が重いほど高くなっており、重度（１・２級）では「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人が 12.1% となっている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）では「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人が 12.8%、「通所介護（デイサービス）を利用している」人が 14.9%、「短期入所（ショートステイ）を利用している」人が 10.6%といずれも 1 割を超えている。



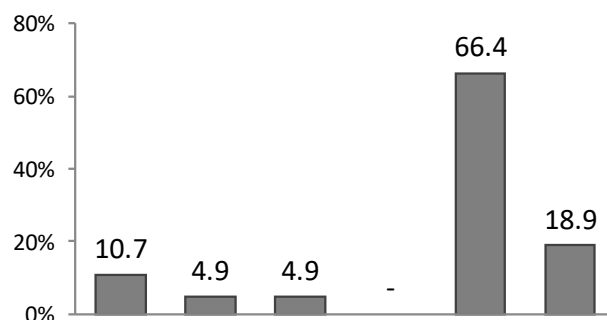
【障害の程度別】		n	1	2	3	4	5	6
			訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	通所介護（デイサービス）を利用している	短期入所（ショートステイ）を利用している	その他	介護保険サービスは利用していない	無回答
0	全体	529	8.3	8.3	3.4	3.8	66.4	14.7
1	重度（１・２級）	281	12.1	7.8	4.6	4.6	61.2	15.7
2	中度（３・４級）	165	3.6	9.7	1.8	2.4	72.1	13.9
3	軽度（５・６級）	70	2.9	5.7	1.4	2.9	80.0	10.0

【障害の種類別】		n	1	2	3	4	5	6
			訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	通所介護（デイサービス）を利用している	短期入所（ショートステイ）を利用している	その他	介護保険サービスは利用していない	無回答
1	視覚障害	81	8.6	3.7	—	1.2	71.6	14.8
2	聴覚障害	67	1.5	3.0	4.5	1.5	76.1	14.9
3	平衡機能障害	3	—	—	—	—	100.0	—
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	24	4.2	20.8	8.3	—	54.2	20.8
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	158	11.4	12.7	4.4	8.2	58.9	13.3
6	肢体不自由（体幹）	47	12.8	14.9	10.6	2.1	57.4	17.0
7	内部障害	171	9.9	4.7	0.6	2.3	67.8	17.0
8	その他	8	25.0	12.5	—	12.5	50.0	12.5

※ベース：40 歳以上と回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では介護保険の「短期入所（ショートステイ）」を利用している」人が 21.2%、「通所介護（デイサービス）」を利用している」人が 15.2% となっている。

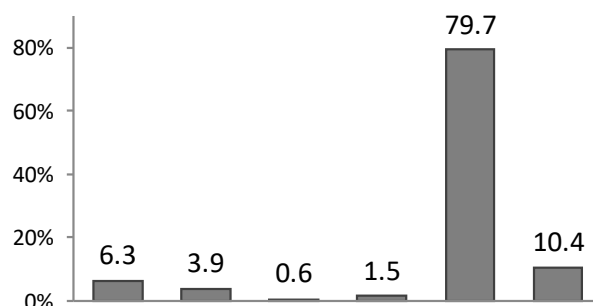


【障害程度別】			n	3 短期入所（ショートステイ）を利用している	1 訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	2 通所介護（デイサービス）を利用している	4 その他	5 介護保険サービスは利用していない	6 無回答
0	全体		122	10.7	4.9	4.9	-	66.4	18.9
1	最重度・重度（１・２度）		33	21.2	9.1	15.2	-	57.6	12.1
2	中度（３度）		38	10.5	-	2.6	-	65.8	23.7
3	軽度（４度）		46	2.2	4.3	-	-	73.9	19.6

※ベース：40歳以上と回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、介護保険の「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人の割合は、統合失調症と診断されている人では 7.6%、気分障害と診断されている人では 4.8%、発達障害と診断されている人では 12.5%となっている。なお、「介護保険サービスは利用していない」人の割合は、7割～8割となっている。

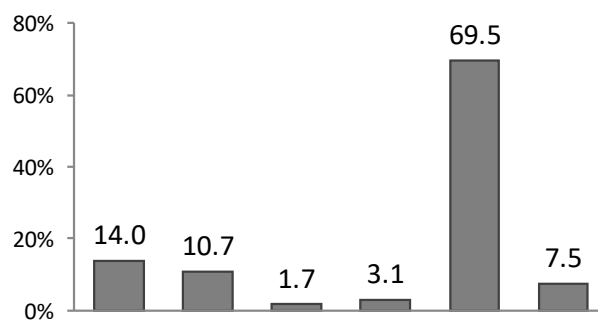


【診断名別】		n	1 訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	2 通所介護（デイサービス）を利用している	3 短期入所（ショートステイ）を利用している	4 その他	5 介護保険サービスは利用していない	6 無回答
0	全体	335	6.3	3.9	0.6	1.5	79.7	10.4
1	統合失調症	79	7.6	6.3	—	2.5	68.4	17.7
2	気分障害	186	4.8	2.2	—	0.5	87.6	5.9
3	発達障害	24	12.5	4.2	—	—	83.3	4.2
4	その他	98	7.1	5.1	2.0	1.0	78.6	10.2

※ベース：40歳以上と回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患でのサービス利用の割合が高く、27.9%が「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」、23.0%が「通所介護（デイサービス）を利用している」と回答している。



【疾患群別】		n	1 訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	2 通所介護（デイサービス）を利用している	3 短期入所（ショートステイ）を利用している	4 その他	5 介護保険サービスは利用していない	6 無回答
0	全体	413	14.0	10.7	1.7	3.1	69.5	7.5
1	神経・筋疾患	122	27.9	23.0	4.9	6.6	41.8	12.3
2	免疫系疾患	94	9.6	5.3	—	1.1	83.0	3.2
3	消化器系疾患	93	5.4	4.3	—	1.1	83.9	6.5
4	その他	107	8.4	7.5	0.9	2.8	77.6	6.5

※ベース：40歳以上と回答した人

（７） 障害福祉サービスとの併用で困っていること（複数回答）

障害福祉サービスとの併用で困っていることは、身体障害者、難病患者で「利用者自己負担が増えた」がそれぞれ 11.0%、12.6%となっている。また、「特に困っていることはない」は身体障害者で 30.0%、難病患者で 30.5%となっている。

（単位：％）

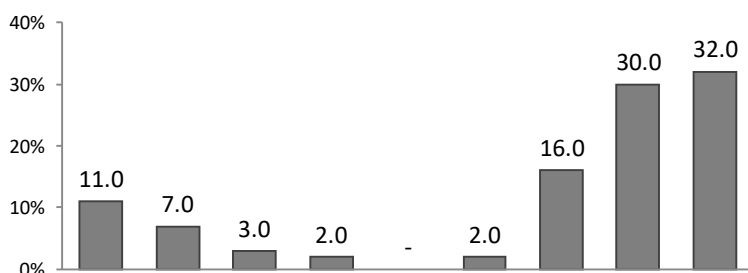
区 分	身体障害者 (n=100)	知的障害者 (n=18)	精神障害者 (n=33)	難病患者 (n=95)
サービスの支給量が減ってしまった	7.0	5.6	12.1（３位）	6.3
同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	-	-	-	2.1
利用者自己負担が増えた	11.0	-	9.1	12.6
障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	2.0	-	-	5.3
介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	3.0	-	9.1	4.2
その他	2.0	11.1（３位）	6.1	-
障害福祉サービスは利用していない（介護保険サービスのみ利用）	16.0（３位）	11.1（３位）	9.1	22.1（３位）
特に困っていることはない	30.0（２位）	22.2（２位）	42.4（１位）	30.5（１位）
無回答	32.0（１位）	55.6（１位）	24.2（２位）	29.5（２位）

※ベース：介護保険サービスを利用している人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「利用者自己負担が増えた」ことで困っている人が 15.4%、「サービスの支給量が減ってしまった」ことで困っている人が 9.2%いる。

障害の種類別にみると、肢体不自由（上肢、下肢等）では、9.1%が「利用者自己負担が増えた」と回答している。



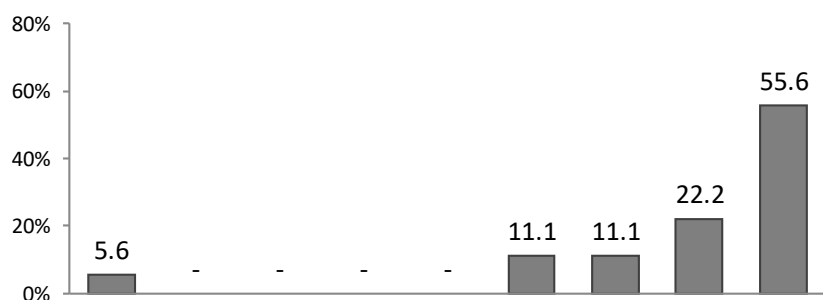
【障害の程度別】			n									
0	全体	100	3 利用者自己負担が増えた	1 サービスの支給量が減ってしまった	5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	6 その他	7 障害福祉サービスは利用していない（介護保険サービスのみの利用）	8 特に困っていることはない	9 無回答	
0	全体	100	11.0	7.0	3.0	2.0	-	2.0	16.0	30.0	32.0	
1	重度（１・２級）	65	15.4	9.2	4.6	3.1	-	-	12.3	27.7	32.3	
2	中度（３・４級）	23	-	4.3	-	-	-	8.7	26.1	34.8	26.1	
3	軽度（５・６級）	7	14.3	-	-	-	-	-	14.3	14.3	57.1	

【障害の種類別】										
			1	2	3	4	5	6	7	
1	視覚障害	11	18.2	18.2	9.1	9.1	-	-	9.1	27.3
2	聴覚障害	6	16.7	-	-	-	-	16.7	-	33.3
3	音声・言語・そしゃく機能の障害	6	16.7	-	16.7	-	-	-	33.3	16.7
4	肢体不自由（上肢、下肢等）	44	9.1	2.3	4.5	2.3	-	-	25.0	29.5
5	肢体不自由（体幹）	12	8.3	-	-	8.3	-	-	16.7	41.7
6	内部障害	26	15.4	3.8	3.8	3.8	-	3.8	7.7	30.8
7	その他	3	-	66.7	-	-	-	-	33.3	-

※ベース：介護保険サービスを利用している人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、軽度（４度）では３人中１人（３３．３％）が「サービスの支給量が減ってしまった」と回答している。

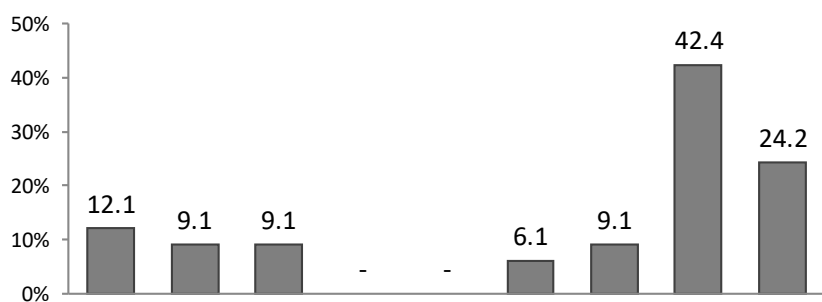


【障害程度別】		n	1 サービスの支給量が減ってしまった	2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	3 利用者自己負担が増えた	4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	6 その他	7 障害福祉サービスは利用していない（介護保険サービスのみ利用）	8 特に困っていることはない	9 無回答
0	全体	18	5.6	-	-	-	-	11.1	11.1	22.2	55.6
1	最重度・重度（１・２度）	10	-	-	-	-	-	-	10.0	20.0	70.0
2	中度（３度）	4	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0	50.0
3	軽度（４度）	3	33.3	-	-	-	-	66.7	-	-	33.3

※ベース：介護保険サービスを利用している人

【精神障害者】

診断名別にみると、気分障害と診断されている人では、12人中2人(16.7%)が「介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった」と回答している。なお、3割～4割の人が「特に困っていることはない」と回答している。

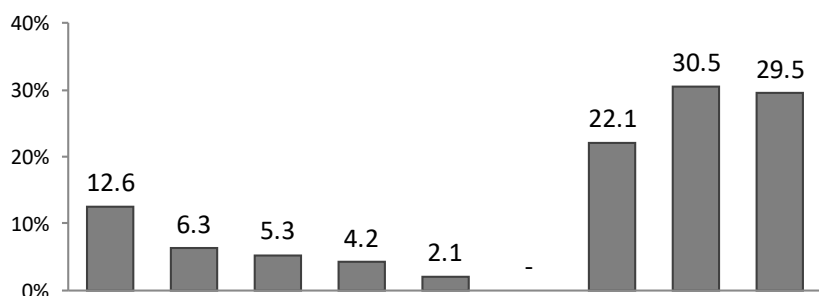


【診断名別】		n	1 サービスの支給量が減ってしまった	3 利用者自己負担が増えた	5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	6 その他	7 障害福祉サービスは利用していない（介護保険サービスのみ利用）	8 特に困っていることはない	9 無回答
0	全体	33	12.1	9.1	9.1	-	-	6.1	9.1	42.4	24.2
1	統合失調症	11	9.1	-	-	-	-	9.1	-	45.5	36.4
2	気分障害	12	8.3	-	16.7	-	-	16.7	8.3	41.7	25.0
3	発達障害	3	33.3	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3	33.3
4	その他	11	18.2	27.3	9.1	-	-	-	18.2	36.4	9.1

※ベース：介護保険サービスを利用している人

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「利用者自己負担が増えた」ことで困っている人が12.5%、「サービスの支給量が減ってしまった」ことで困っている人が7.1%となっている。



【疾患群別】			n								
			3 利用者自己負担が増えた	1 サービスの支給量が減ってしまった	4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	6 その他	7 (介護福祉サービスは利用していない) (介護保険サービスのみ利用)	8 特に困っていることはない	9 無回答
0	全体	95	12.6	6.3	5.3	4.2	2.1	-	22.1	30.5	29.5
1	神経・筋疾患	56	12.5	7.1	5.4	3.6	1.8	-	26.8	30.4	25.0
2	免疫系疾患	13	7.7	-	-	-	-	-	15.4	53.8	23.1
3	消化器系疾患	9	22.2	-	-	-	-	-	22.2	11.1	44.4
4	その他	17	11.8	11.8	11.8	11.8	5.9	-	11.8	17.6	47.1

※ベース：介護保険サービスを利用している人

10 将来について

(1) 今後希望する日中の過ごし方（複数回答）

今後希望する日中の過ごし方は、身体障害者では「自宅で過ごしたい」が41.3%と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」が17.3%となっている。

知的障害者では、「一般企業などで働きたい」が27.2%と最も多く、次いで「福祉園などの通所施設で、身の介護などをうけながらさまざまな活動を行いたい」が26.8%となっている。

精神障害者では、「自宅で過ごしたい」が40.8%と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」が32.8%となっている。

施設入所者では、「今いる施設で過ごしたい」が最も多く69.5%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	施設入所者 (n=105)
学校に通いたい	8.0	22.8 (3位)	8.4	1.9
一般企業などで働きたい	17.3 (2位)	27.2 (1位)	32.8 (2位)	2.9
就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい(福祉的就労)	4.4	22.4	10.2	1.0
就労のための訓練・支援を受け(就労移行支援)、企業就労を目指したい	4.6	15.0	12.0 (3位)	-
自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい	7.6	16.7	10.6	1.9
医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	4.7	6.1	5.3	2.9
福祉園などの通所施設で、身の介護などを受けながらさまざまな活動を行いたい	8.5	26.8 (2位)	2.0	3.8
自宅で過ごしたい	41.3 (1位)	20.9	40.8 (1位)	10.5 (3位)
その他	8.5	5.7	10.2	4.8
今いる施設で過ごしたい				69.5 (1位)
わからない	11.2 (3位)	4.4	9.8	17.1 (2位)
無回答	9.7	5.5	3.8	2.9

【前回調査との比較】

(単位：%)

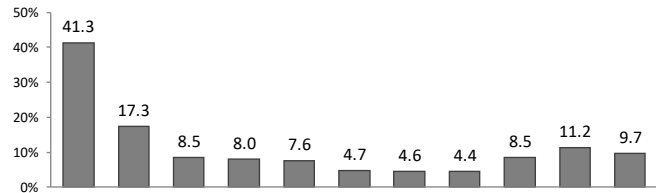
区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回(n=659)	自宅で過ごしたい (41.3)	一般企業などで働きたい (17.3)	わからない (11.2)
	前回(n=558)	自宅で過ごしたい (29.7)	学校に通いたい (20.1)	一般企業などで働きたい (16.5)
知的障害者	今回(n=474)	一般企業などで働きたい (27.2)	福祉園で活動を行いたい (26.8)	学校に通いたい (22.8)
	前回(n=248)	学校に通いたい (23.8)	一般企業などで働きたい (21.0)	福祉園で活動を行いたい (20.2)
精神障害者	今回(n=451)	自宅で過ごしたい (40.8)	一般企業などで働きたい (32.8)	就労訓練・支援を受けて企業就労を目指したい (12.0)
	前回(n=434)	自宅で過ごしたい (30.4)	一般企業などで働きたい (28.8)	自立訓練を受けて過ごしたい (13.1)
施設入所者	今回(n=105)	今いる施設で過ごしたい (69.5)	わからない (17.1)	自宅で過ごしたい (10.5)
	前回(n=100)	今いる施設で過ごしたい (63.0)	自宅で過ごしたい (15.0)	わからない (13.0)

【身体障害者】

現在の日中の過ごし方別にみると、「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」人では、34.8%が「一般企業などで働きたい」、26.0%が「自宅で過ごしたい」と回答している。「自宅にいたることが多い」人では、62.3%が「自宅で過ごしたい」と回答しているが、「一般企業などで働きたい」と回答した人も7.1%いる。

障害の程度別にみると、「一般企業などで働きたい」と回答した人の割合は、障害が軽いほど高く、軽度（５・６級）では22.8%となっている。

年齢３区分別にみると、18～64歳では27.7%が「一般企業などで働きたい」と回答している。



【日中の過ごし方別】		n	1 自宅で過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	3 福祉施設などの通所施設で、身辺の動介を行いたい	4 学校に通いたい	5 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい	6 医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	7 就労のための訓練・支援を受け（就労移行支援、企業就労を目指したい）	8 就労移行支援・就労継続支援事業所（福祉的就労）などで働きたい	9 その他	10 わからない	11 無回答
0	全体	659	41.3	17.3	8.5	8.0	7.6	4.7	4.6	4.4	8.5	11.2	9.7
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	59	16.9	28.8	23.7	69.5	11.9	3.4	10.2	8.5	-	1.7	5.1
2	働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）	204	26.0	34.8	0.5	1.5	3.9	2.5	4.4	5.9	11.8	15.7	8.3
3	施設（福祉園など）で介護・訓練を受けている	39	20.5	2.6	64.1	2.6	12.8	15.4	5.1	5.1	7.7	7.7	7.7
4	病院や診療所のデイケアなどを利用している	11	36.4	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1	-	-	27.3	9.1	9.1
5	障害者地域生活支援センター（きらら、すてっぷ、ういんぐ、さくら）に通っている	2	-	-	-	-	100.0	-	50.0	-	-	-	-
6	介護保険のデイサービスを利用している	20	45.0	-	5.0	-	15.0	15.0	-	-	-	10.0	20.0
7	自宅にいたることが多い	281	62.3	7.1	3.9	1.8	6.0	3.9	3.6	2.5	6.0	11.4	9.3
8	その他	25	40.0	8.0	12.0	-	8.0	8.0	4.0	8.0	32.0	8.0	8.0

【障害の程度別】		n	1 重度（１・２級）	2 中度（３・４級）	3 軽度（５・６級）
1	重度（１・２級）	371	37.5	15.1	11.1
2	中度（３・４級）	191	47.6	19.4	5.2
3	軽度（５・６級）	79	45.6	22.8	5.1

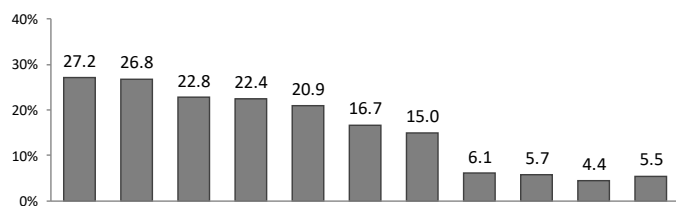
【年齢３区分別】		n	1 0～17歳	2 18～64歳	3 65歳以上
1	0～17歳	58	15.5	29.3	20.7
2	18～64歳	339	35.1	27.7	8.8
3	65歳以上	243	57.2	1.2	4.5

【知的障害者】

現在の日中の過ごし方別にみると、施設（福祉園）などで過ごしている人の90.8%が「福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい」と回答しているが、「自分の家で過ごしたい」と回答している人も27.6%いる。

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい」（63.0%）、中度（3度）では「就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい」（34.5%）、軽度（4度）では「会社などで働きたい」（49.7%）が最も多くなっている。

年齢3区分別にみると、18～64歳では「福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい」が33.6%と最も多くなっている。



【日中の過ごし方別】		n	2	7	1	3	8	5	4	6	9	10	11
			会社などで働きたい	福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい	学校に通いたい	就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい	自分の家で過ごしたい	自立した日常生活を送れるよう、自立訓練などを受けたい	働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい	介護、診療所で機能訓練、看護しながら過ごしたい	その他	わからない	無回答
0	全体	474	27.2	26.8	22.8	22.4	20.9	16.7	15.0	6.1	5.7	4.4	5.5
1	幼稚園や保育園、学校	164	32.9	17.1	62.8	22.0	14.0	24.4	28.7	4.9	5.5	3.7	1.8
2	会社など（就労移行支援・就労継続支援など作業所も含む）	186	37.1	8.1	1.6	34.9	20.4	14.0	10.2	1.6	5.9	4.8	8.6
3	施設（福祉園など）	87	1.1	90.8	-	2.3	27.6	12.6	-	16.1	3.4	1.1	2.3
4	病院、診療所	5	-	-	-	-	20.0	-	20.0	40.0	20.0	40.0	20.0
5	障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら）	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
6	介護保険のデイサービスを利用している	2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
7	自分の家	26	19.2	15.4	7.7	11.5	50.0	7.7	11.5	7.7	11.5	11.5	-

【障害程度別】													
1	最重度・重度（1・2度）	162	4.9	63.0	17.3	18.5	22.8	16.7	4.9	15.4	6.8	2.5	2.5
2	中度（3度）	116	24.1	16.4	24.1	34.5	20.7	19.0	18.1	0.9	5.2	4.3	4.3
3	軽度（4度）	181	49.7	1.7	26.5	18.8	19.3	15.5	23.2	1.1	5.5	6.6	6.6

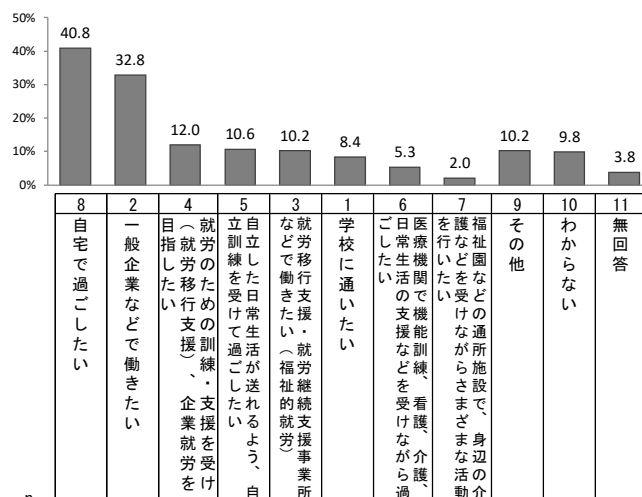
【年齢3区分別】													
1	0～17歳	161	32.3	14.9	64.6	19.9	13.7	24.8	28.0	5.0	5.0	3.7	3.1
2	18～64歳	298	25.2	33.6	1.0	23.5	24.2	13.1	8.4	6.7	5.7	4.7	6.4
3	65歳以上	7	-	14.3	-	14.3	28.6	-	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6

【精神障害者】

現在の日中の過ごし方別にみると、「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」人では「一般企業などで働きたい」が40.8%と最も多くなっている。

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では「一般企業などで働きたい」が52.2%と最も多く、次いで「就労のための訓練・支援を受け（就労移行支援）、企業就労を目指したい」が31.9%となっている。

年齢3区分別にみると、18～64歳では「一般企業などで働きたい」が38.2%と最も多くなっている。



【日中の過ごし方別】		n				を け		自 所		過		動 介			
0	全体	451	40.8	32.8	12.0	10.6	10.2	8.4	5.3	2.0	10.2	9.8	3.8		
1	幼稚園や保育園、学校などに通っている	8	—	87.5	25.0	12.5	25.0	62.5	—	—	—	—	—		
2	働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）	201	25.9	40.8	10.4	8.0	10.9	7.0	3.5	1.5	11.9	12.4	2.5		
3	施設（福祉園など）で介護・訓練を受けている	8	12.5	12.5	12.5	12.5	—	—	25.0	25.0	—	25.0	12.5		
4	病院や診療所のデイケアなどを利用している	25	32.0	28.0	8.0	4.0	12.0	8.0	20.0	—	16.0	8.0	4.0		
5	障害者地域生活支援センター（きらら、すてっぷ、ういんぐ、さくら）に通っている	5	60.0	20.0	—	60.0	—	—	—	—	—	—	—		
6	介護保険のデイサービスを利用している	6	50.0	—	—	50.0	—	—	—	16.7	—	—	—		
7	自宅にいたことが多い	176	61.9	25.0	14.2	11.9	10.2	9.1	4.5	1.7	6.8	8.0	3.4		
8	その他	15	53.3	40.0	20.0	13.3	6.7	6.7	13.3	—	26.7	—	—		

【診断名別】													
			8	2	4	5	3	1	6	7	9	10	11
1	統合失調症	101	47.5	24.8	9.9	14.9	8.9	8.9	10.9	2.0	10.9	6.9	5.0
2	気分障害	239	41.4	37.2	11.7	9.6	9.6	7.1	5.0	1.3	10.9	11.3	2.5
3	発達障害	69	23.2	52.2	31.9	11.6	23.2	20.3	7.2	1.4	8.7	5.8	-
4	その他	123	44.7	30.1	13.0	13.0	9.8	7.3	4.9	3.3	13.0	10.6	4.1

【年齢3区分別】													
			8	2	4	5	3	1	6	7	9	10	11
1	0～17歳	2	-	100.0	50.0	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-
2	18～64歳	369	36.3	38.2	14.4	11.7	11.7	9.5	4.9	1.6	10.6	9.5	3.0
3	65歳以上	73	65.8	5.5	-	6.8	1.4	1.4	8.2	4.1	9.6	9.6	6.8

(2) 希望する暮らし方

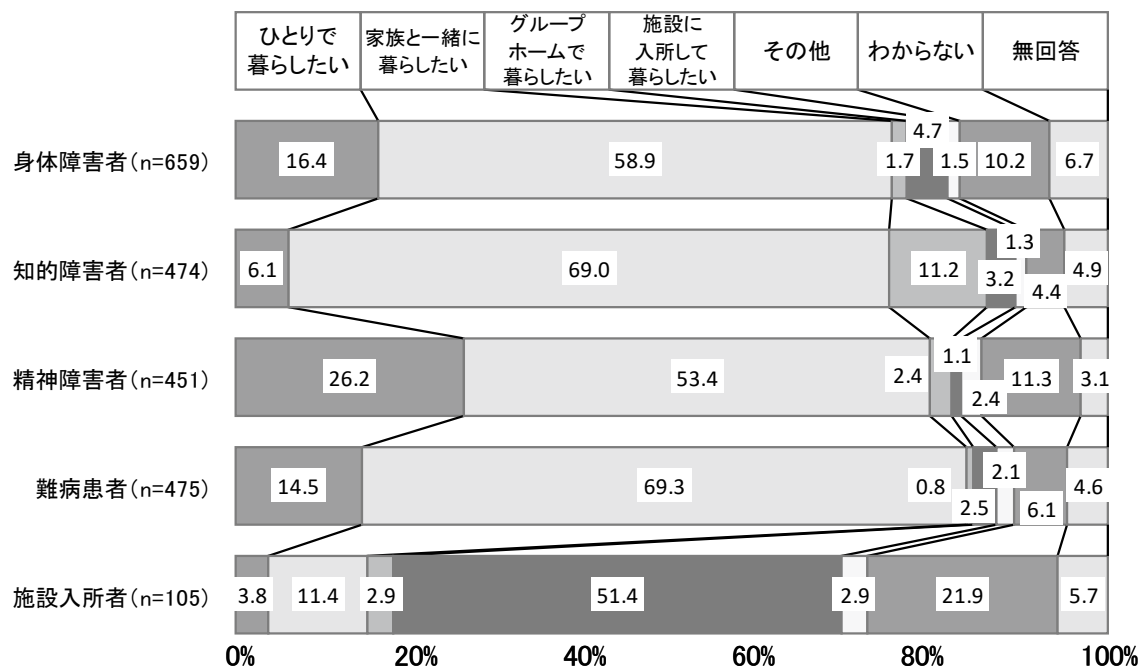
① 5年後

5年後の希望する暮らし方の第1希望は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者で「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く約5割から約7割となっている。身体障害者、精神障害者、難病患者では「ひとりで暮らしたい」、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が次に多くなっている。

施設入所者では「施設に入所して暮らしたい」が51.4%と最も多くなっている。

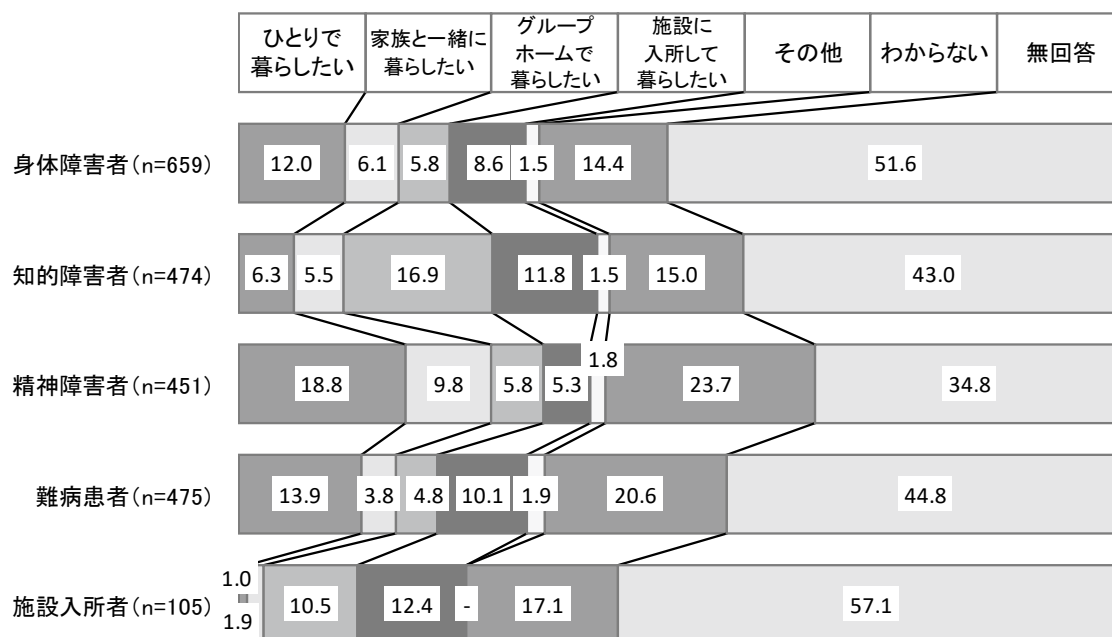
<第1希望>

(%)



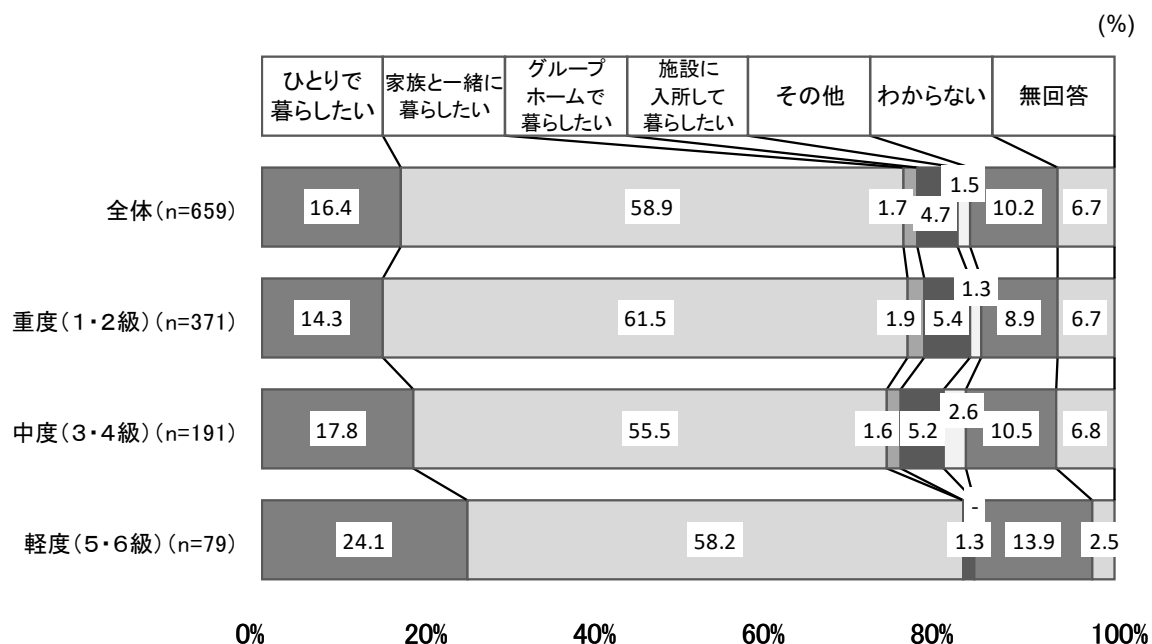
<第2希望>

(%)



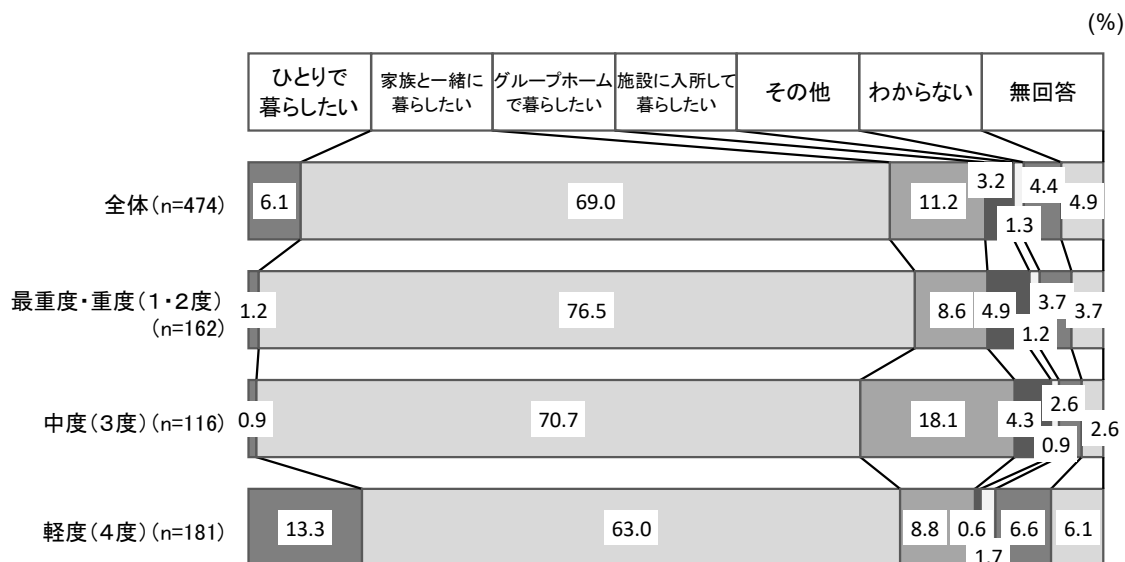
【身体障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「ひとりで暮らしたい」と回答した人の割合は、程度が軽いほど高く、軽度（5・6級）では24.1%となっている。



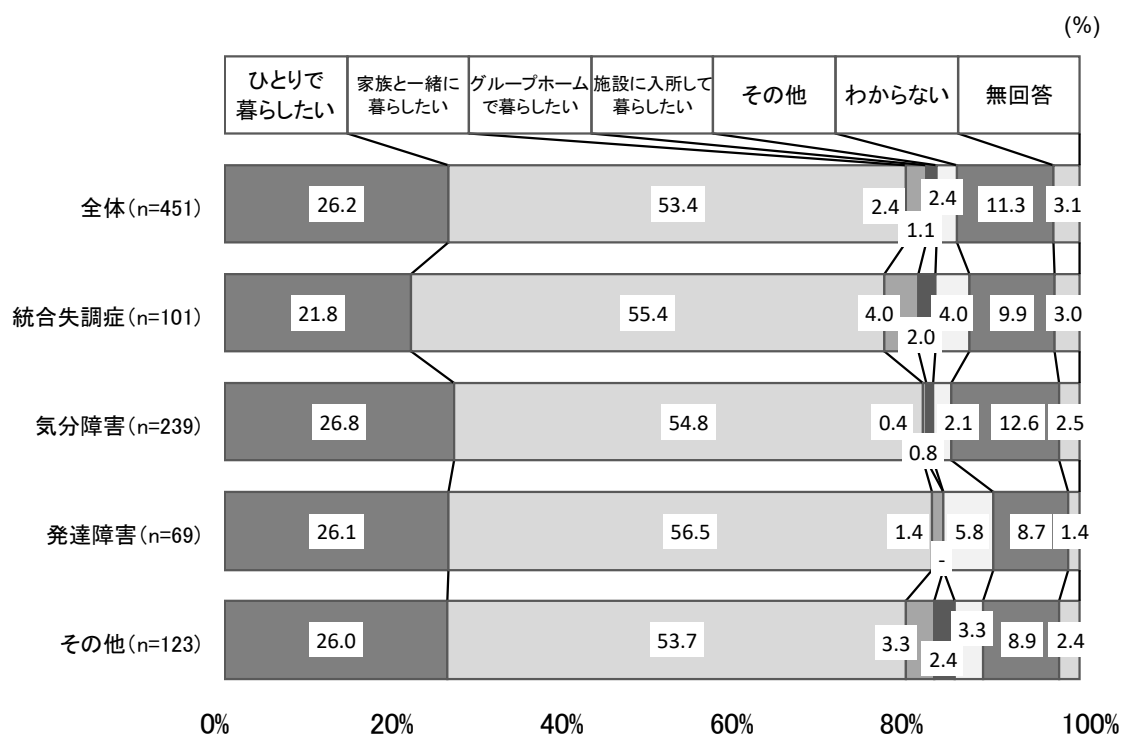
【知的障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、最重度・重度（1・2度）、中度（3度）で7割台、軽度（4度）で6割台となっている。



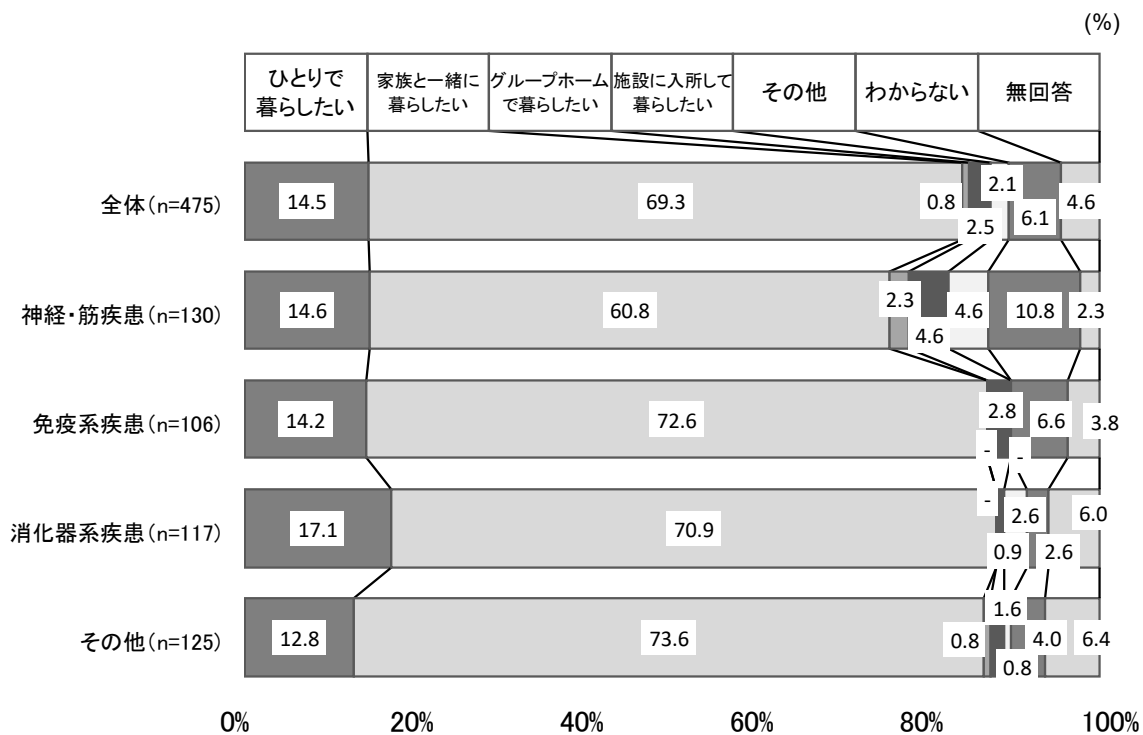
【精神障害者（第1希望）】

診断名別にみると、全体とほぼ同様の傾向を示している。



【難病患者（第1希望）】

疾患群別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は神経・筋疾患では6割台、他は7割台となっている。



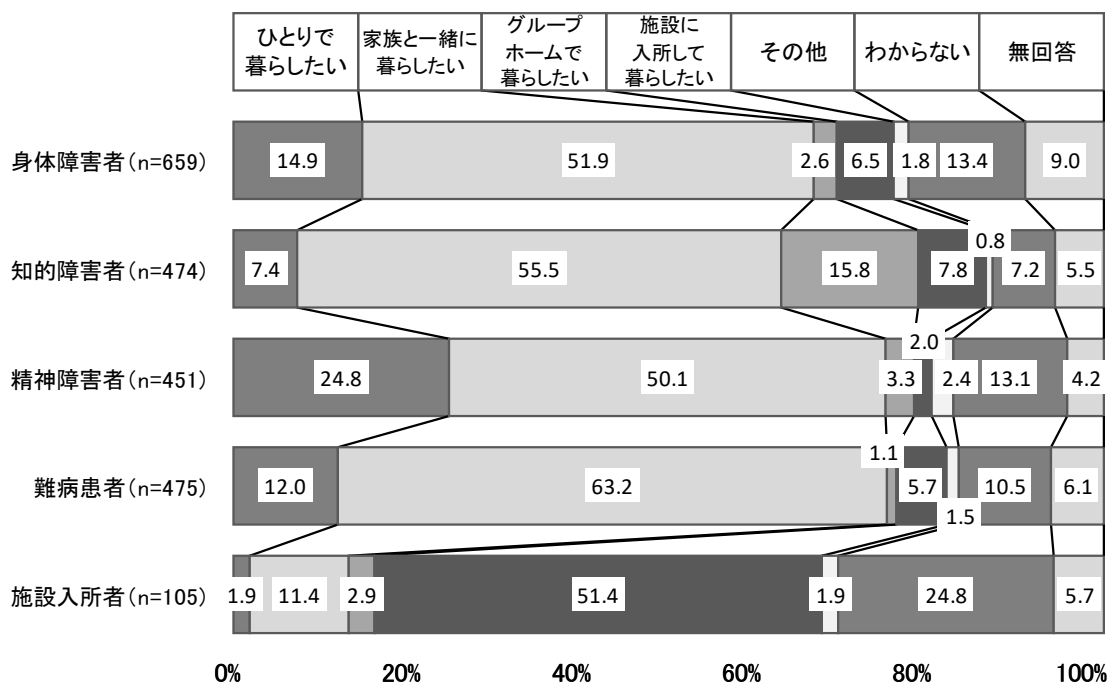
② 10年後

10年後の希望する暮らし方の第1希望は、「5年後」と同様の傾向で、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者で「家族と一緒に暮らしたい」が最も多く約5割から約6割となっている。身体障害者、精神障害者、難病患者では「ひとりで暮らしたい」、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が次に多くなっている。

施設入所者では「施設に入所して暮らしたい」が51.4%と最も多くなっている。

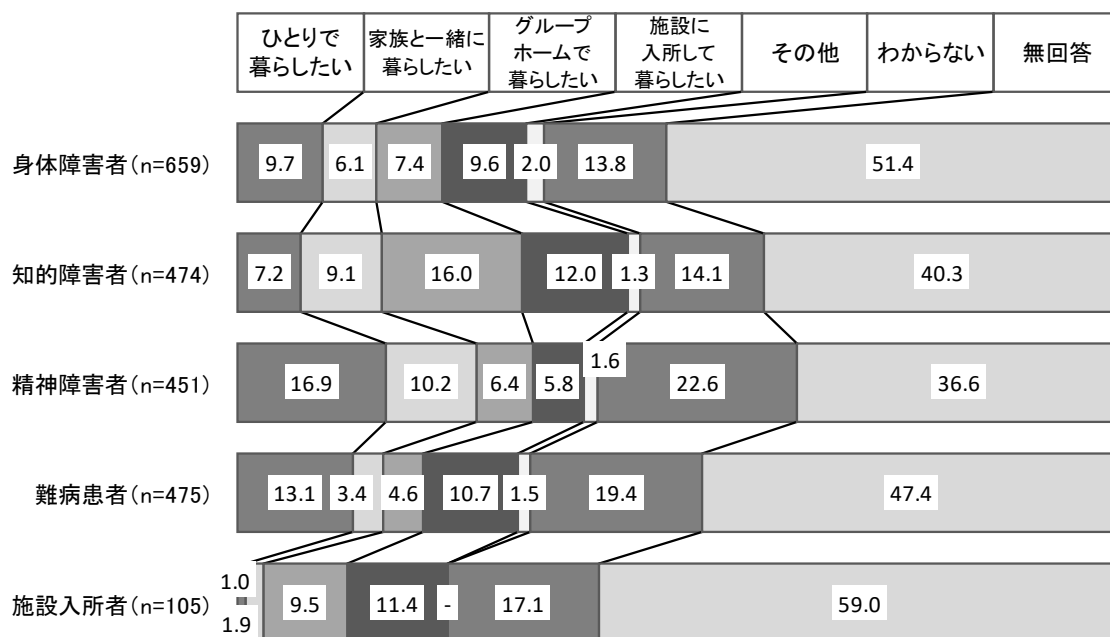
<第1希望>

(%)



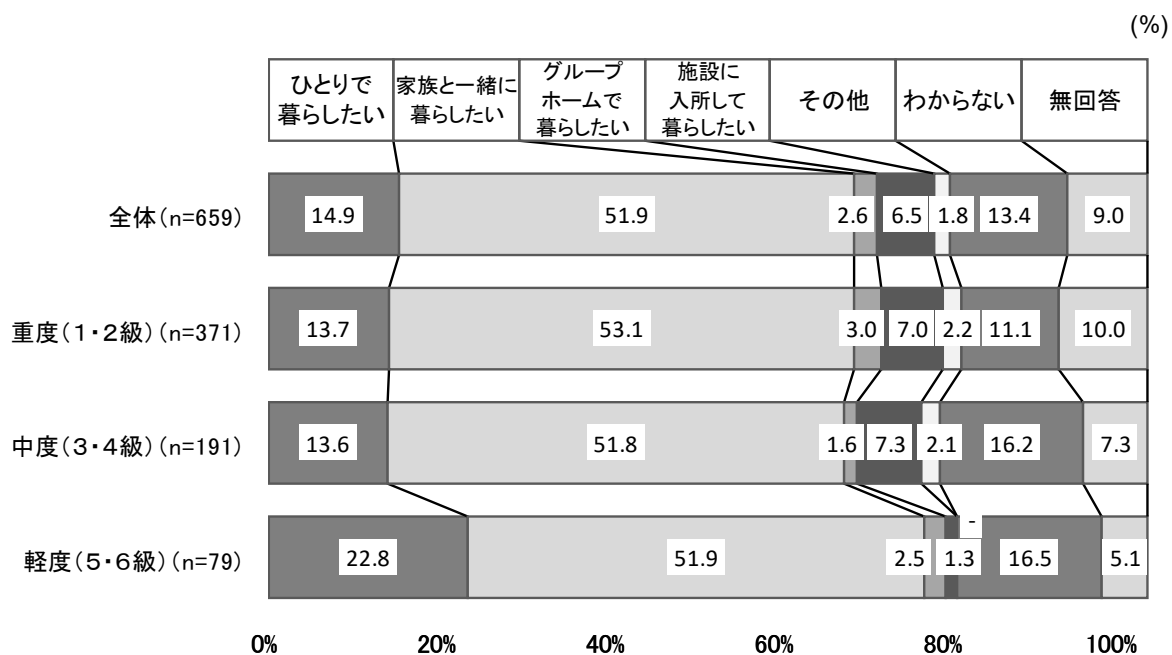
<第2希望>

(%)



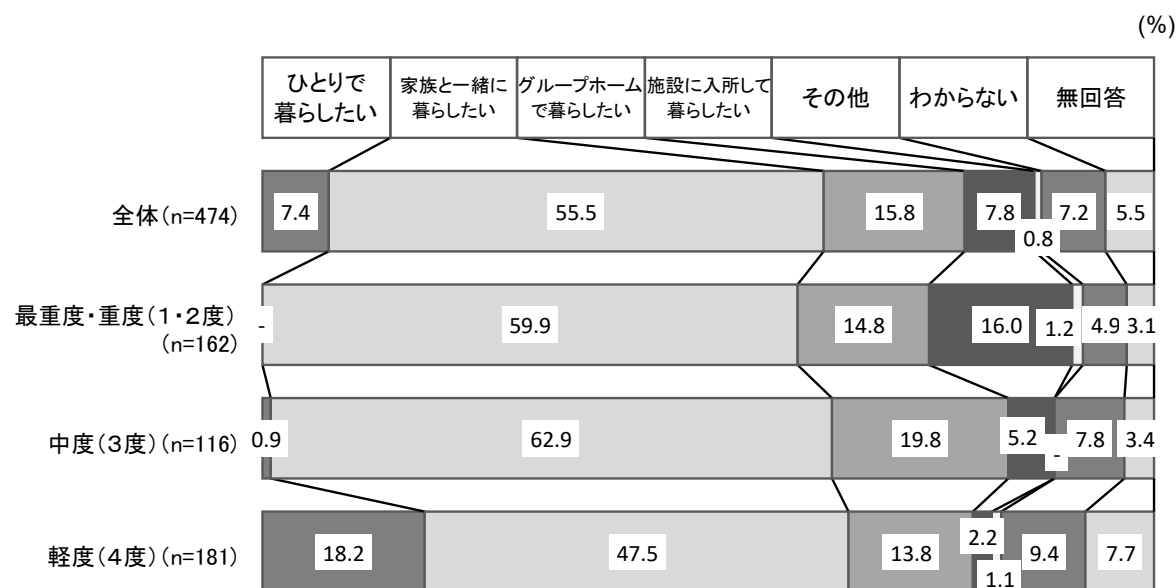
【身体障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「ひとりで暮らしたい」と回答した人の割合は、軽度（5・6級）で22.8%と高くなっている。



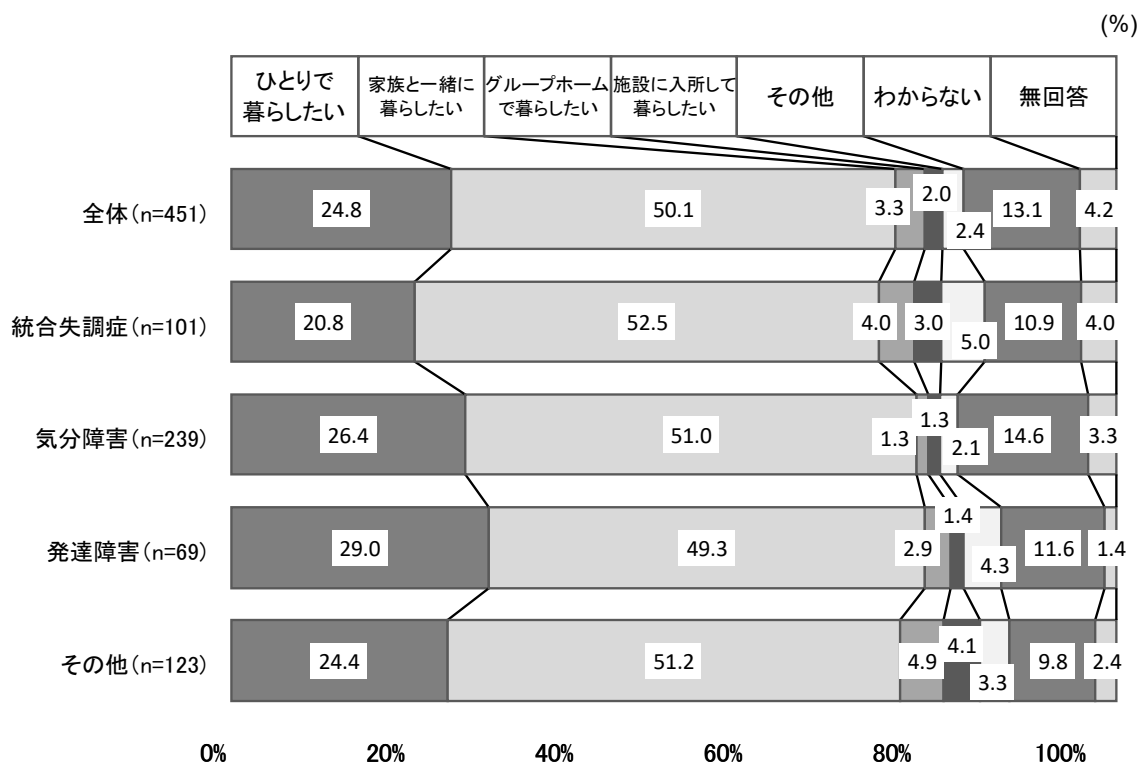
【知的障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「グループホームで暮らしたい」と回答した人の割合は14.8%、「施設に入所して暮らしたい」と回答した人の割合は16.0%となっている。



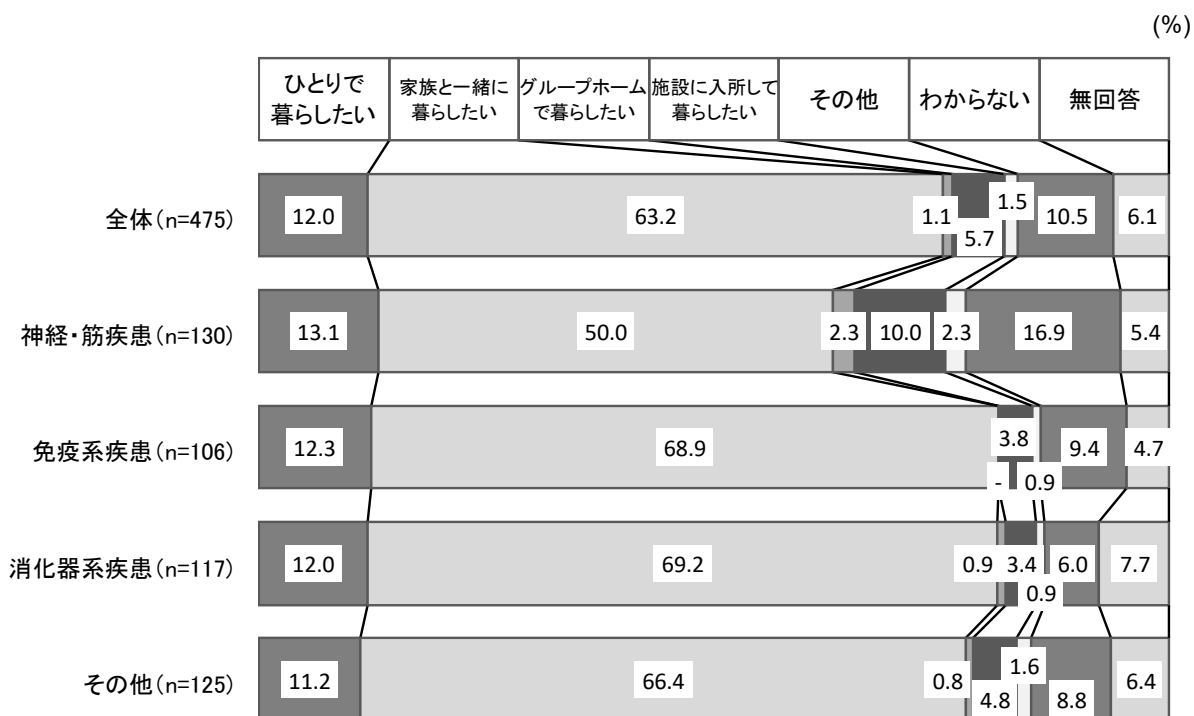
【精神障害者（第1希望）】

診断名別にみると、いずれも「ひとりで暮らしたい」と回答した人は2割台、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は約5割となっている。



【難病患者（第1希望）】

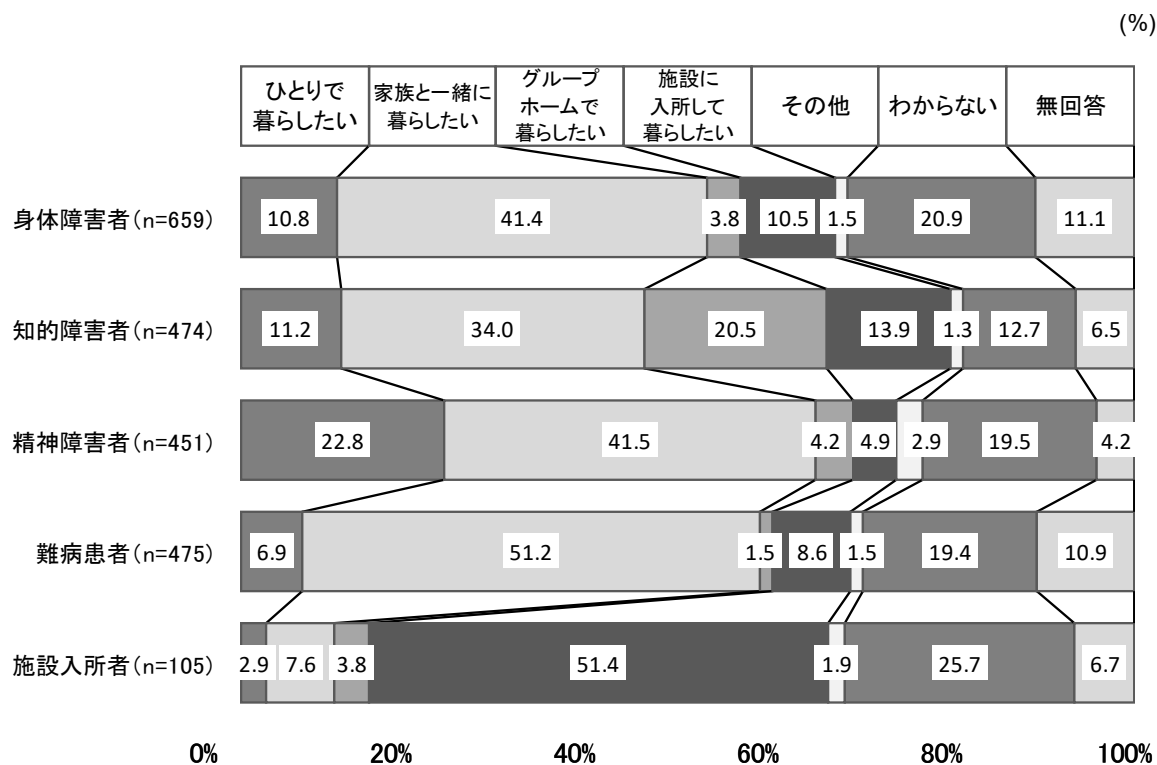
疾患群別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は神経・筋疾患で5割、他は約7割となっている。



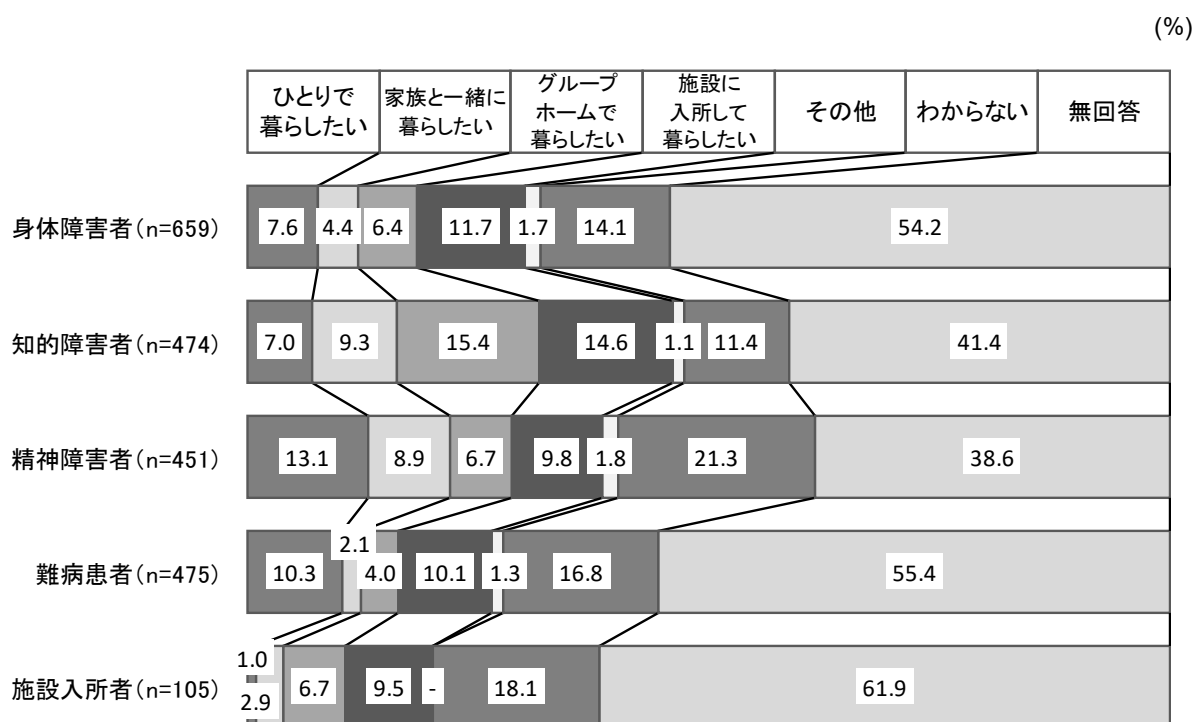
③ 20 年後

20 年後の希望する暮らし方の第 1 希望は、「5 年後」、「10 年後」と同様の傾向にあるが、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者で「10 年後」より「家族と一緒に暮らしたい」が 10～20 ポイント低下し、「施設に入所して暮らしたい」が 3～6 ポイント、「わからない」が 5～9 ポイント上昇している。

< 第 1 希望 >

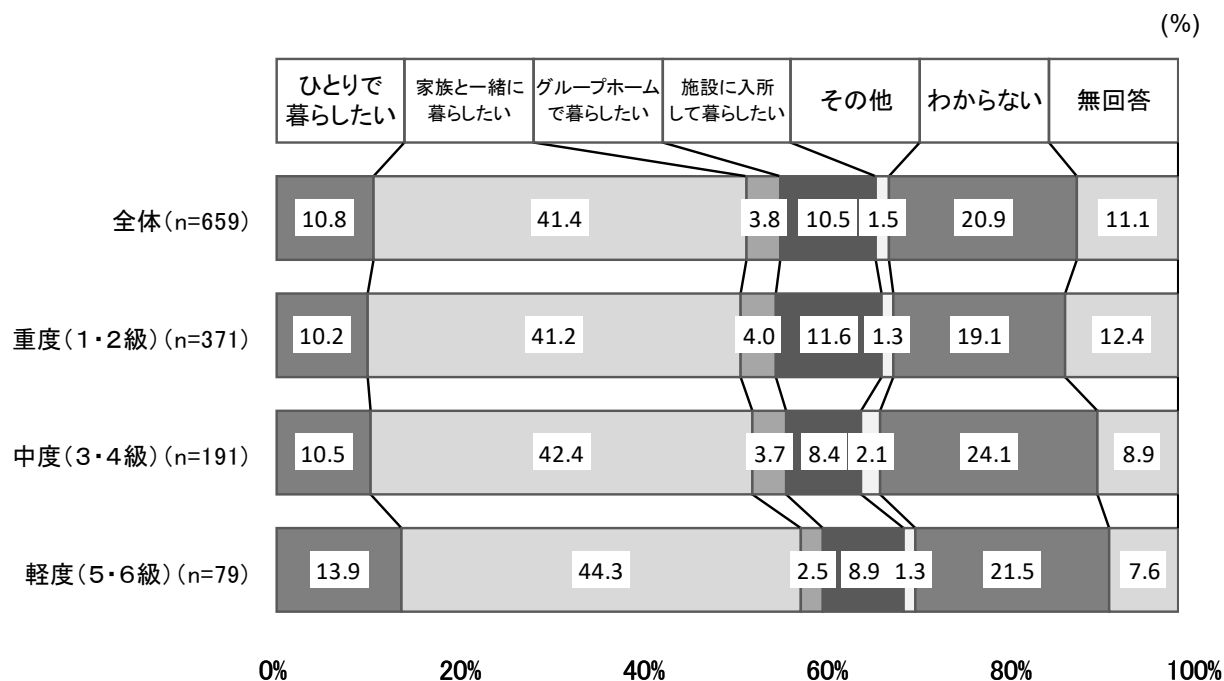


< 第 2 希望 >



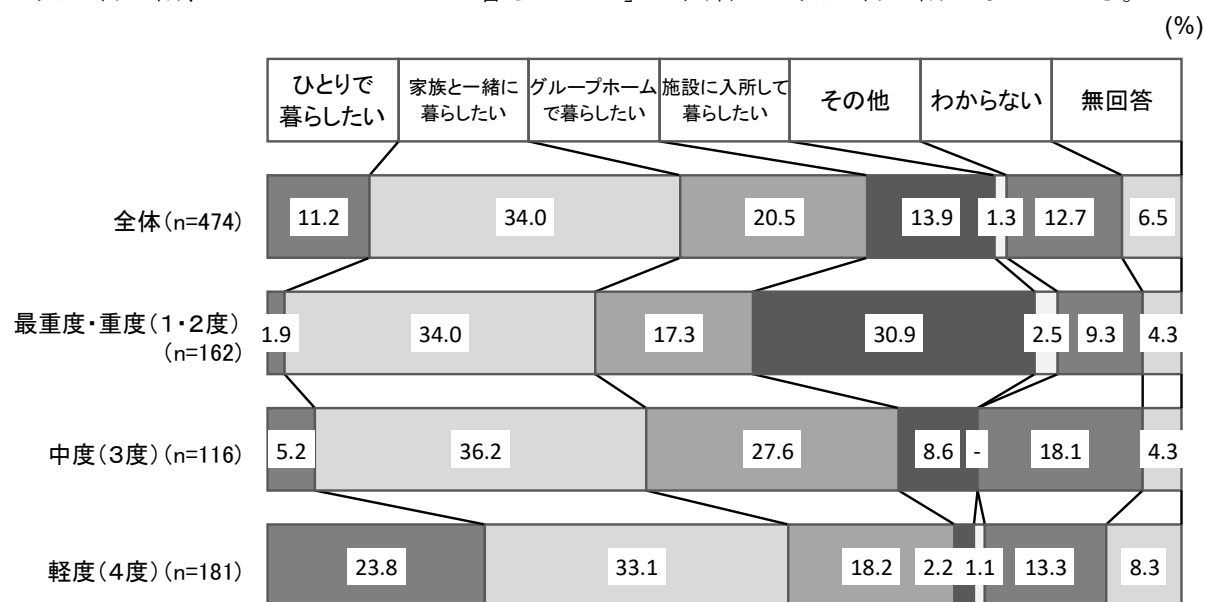
【身体障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、いずれも「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人が約4割、「わからない」と回答した人が約2割となっている。



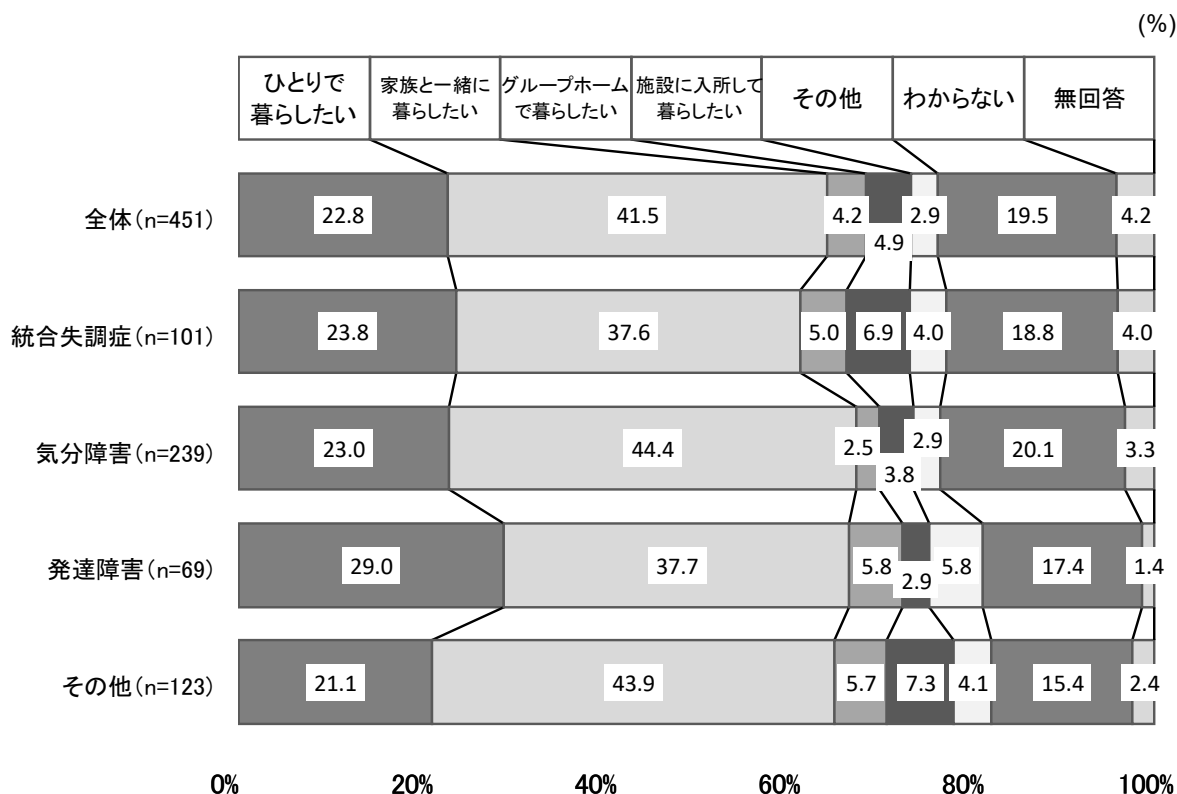
【知的障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が約3割、「グループホームで暮らしたい」と回答した人が約2割となっている。



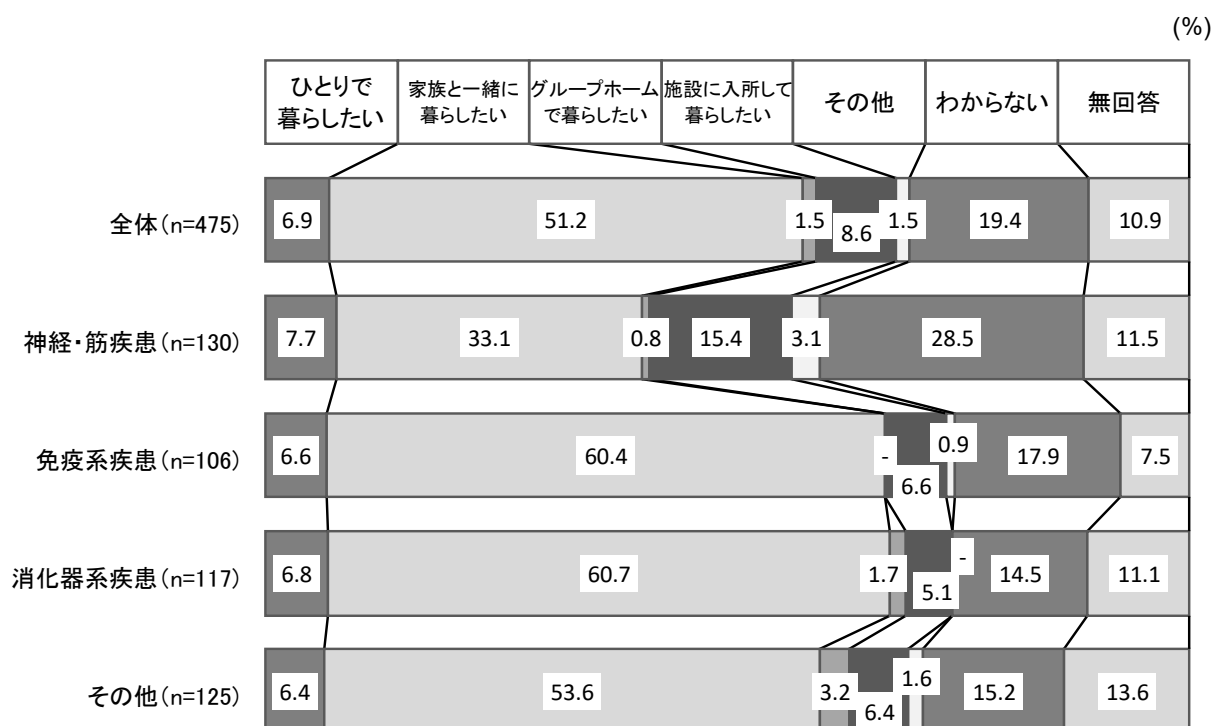
【精神障害者（第1希望）】

診断名別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、いずれも約4割となっている。



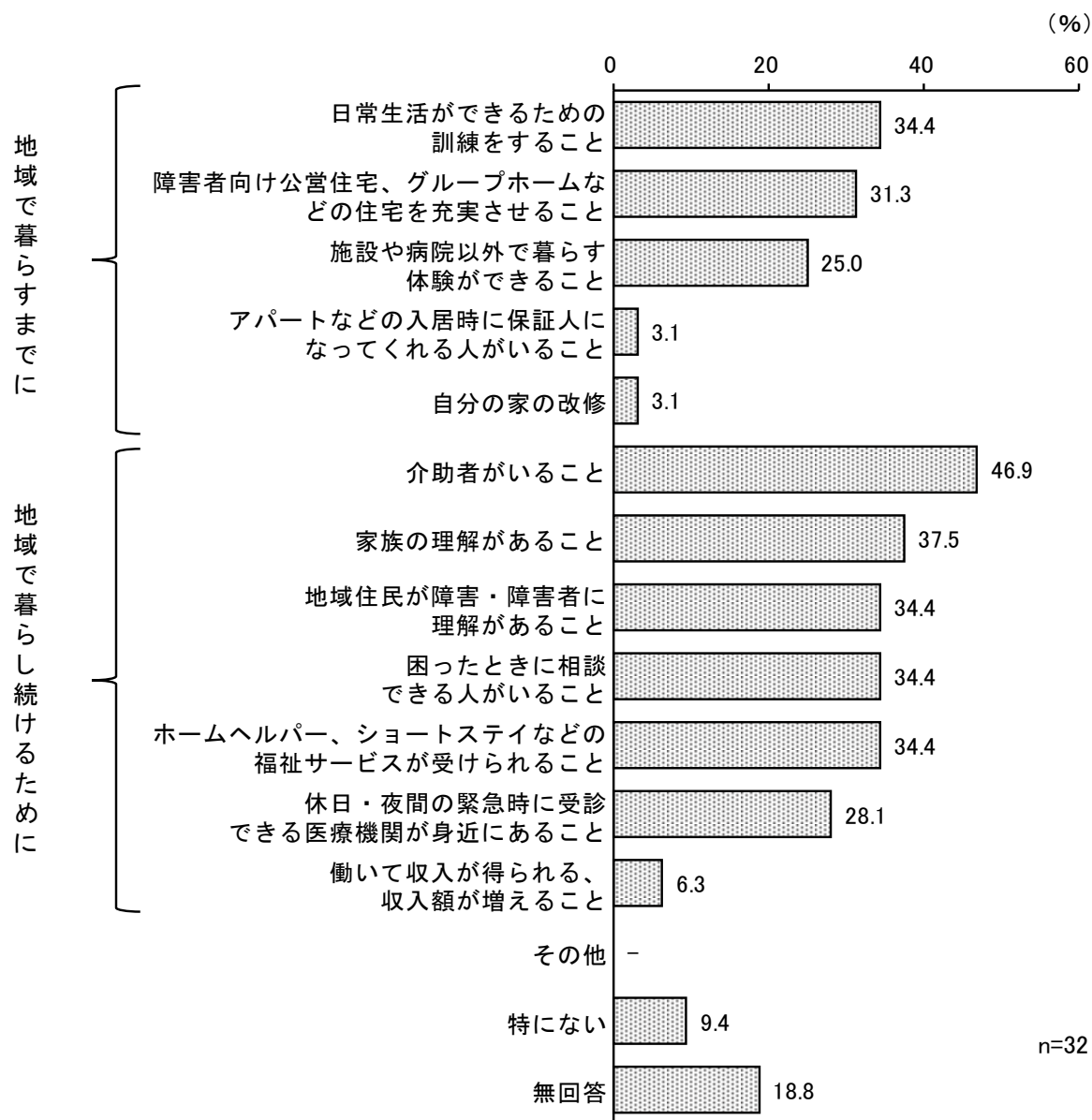
【難病患者（第1希望）】

疾患群別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、神経・筋疾患では約3割と他と比べて低くなっている。



(3) 地域で暮らすために必要な手助け・環境（複数回答）（施設入所者のみ）

希望する暮らし方で“ひとりで暮らしたい”“家族といっしょに暮らしたい”“グループホームで暮らしたい”と回答した施設入所者の必要な手助けや環境は、“地域で暮らすまでに”では「日常生活ができるための訓練をすること」が最も多く34.4%となっている。“地域で暮らし続けるために”では「介助者がいること」が最も多く46.9%、次いで「家族の理解があること」が37.5%となっている。



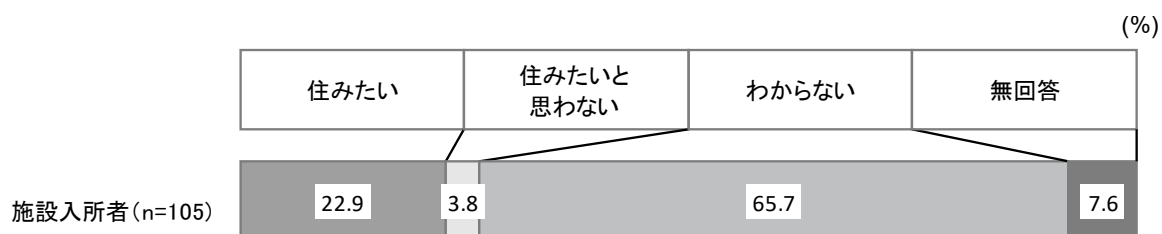
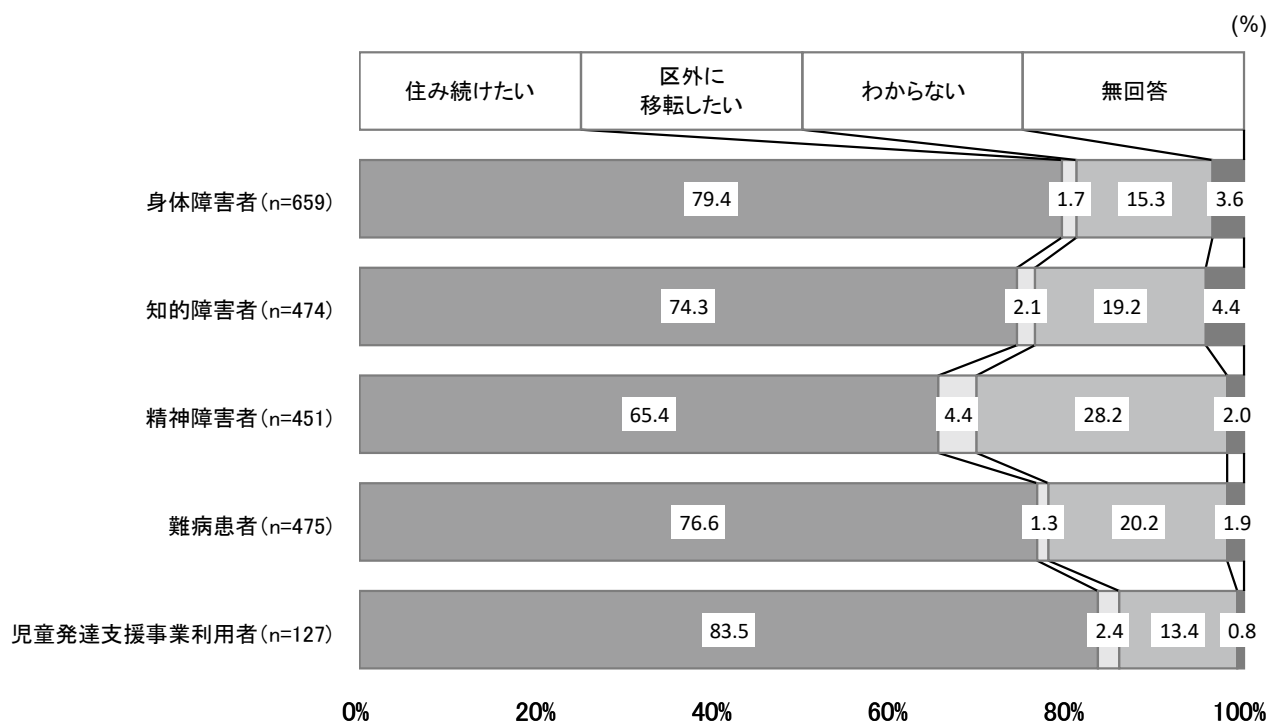
※ベース：「ひとりで暮らしたい」「家族と暮らしたい」「グループホームで暮らしたい」と回答した人

（４） 練馬区での定住意向

① 練馬区での定住意向

今後も練馬区に住み続けたいと思うか尋ねたところ「住み続けたい」と回答した人は、身体障害者が 79.4%、知的障害者が 74.3%、精神障害者が 65.4%、難病患者が 76.6%、児童発達支援事業利用者が 83.5%となっている。

施設入所者で、練馬区に「住みたい」と回答した人は 22.9%となっている。



② 定住意向の理由

主な回答内容は、次のとおりである。

ア. 今後も練馬区に住み続けたい理由

【身体障害者】

- ・ 住みやすい、住み慣れている。
- ・ 緑が多い。
- ・ 買物がしやすい。
- ・ 仲間、友人がいる。
- ・ 福祉サービスが充実している。

【知的障害者】

- ・ 交通の便が良く、住みやすい。住み慣れている。
- ・ 緑が多い。
- ・ 優しい人が多い。
- ・ 仲間、友人がいる。
- ・ 病院が近くにあり、通院しやすい。
- ・ 福祉サービスが充実している。

【精神障害者】

- ・ 公共機関が充実していて住みやすい。
- ・ 緑が多い。
- ・ 病院が近くにあり、通院しやすい。
- ・ 治安が良く、安心して住める。
- ・ 福祉が充実している。

【難病患者】

- ・ 住みやすい、住み慣れている。
- ・ 緑が多く、環境がよい。
- ・ 交通の便がよい。
- ・ 病院が近くにあり、通院しやすい。
- ・ 仲間、友人がいる。
- ・ 行政がしっかりしており、福祉が充実している。

【施設入所者】

- ・ 家族と一緒にいたい。
- ・ 自分の実家（故郷）であり、家族がいるから。

【児童発達支援事業利用者】

- ・ 住みやすい、住み慣れている。
- ・ 福祉が充実していて、子育てしやすい。
- ・ 自然や公園が多い。

イ. 練馬区外に移転したい理由

【身体障害者】

- ・田舎暮らし等にあこがれがある。
- ・施設入所を考えている。
- ・周囲の環境が変わってしまった。

【知的障害者】

- ・もっと静かな環境で暮らしたい。
- ・家賃が高い。
- ・職場の近くに引っ越したい。

【精神障害者】

- ・家賃が高い。
- ・駅から遠いところに住んでいるから。

【難病患者】

- ・仕事がしやすいエリアに転居したい。
- ・通院している病院の近くに住みたい。

【施設入所者】

- ・施設での生活が長いから。

【児童発達支援事業利用者】

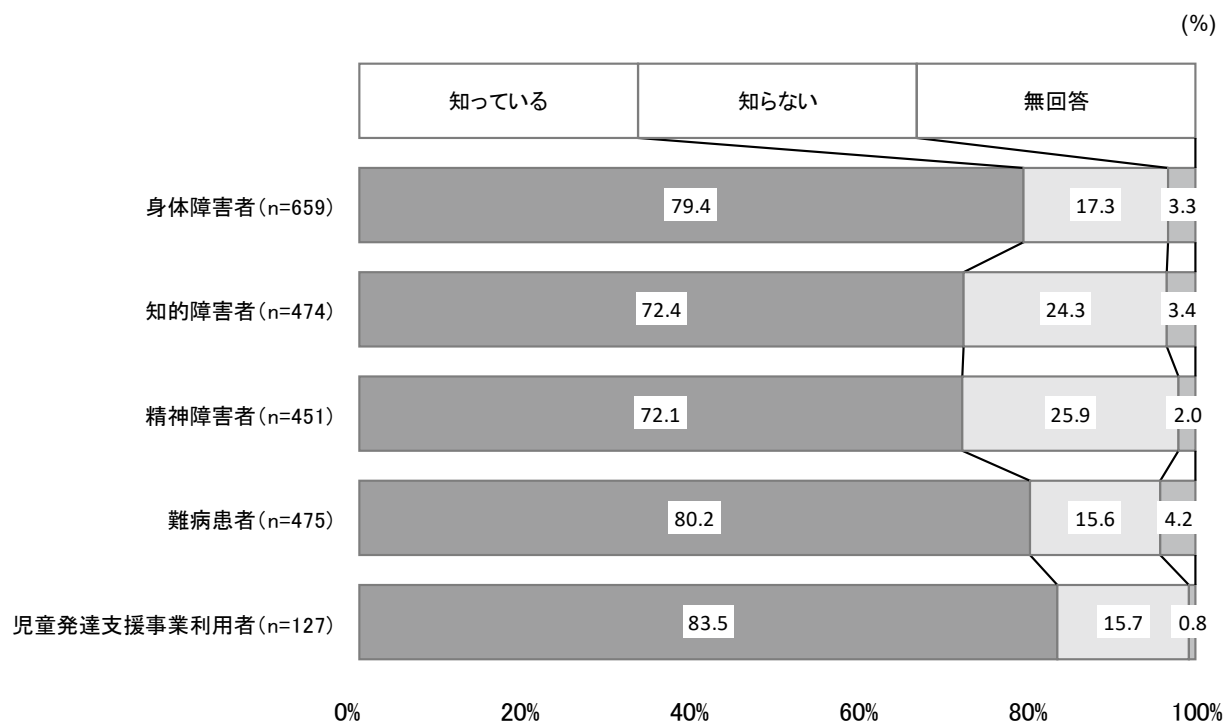
- ・都内への移動時間が長い。
- ・子どもがどうしても大きい音を出すので近所迷惑になってしまう。
- ・小児病院が少ない。
- ・小学校の特別支援学級が充実していない。

1 1 災害対策について

(1) 最寄りの避難拠点

① 避難拠点の認知度

最寄りの避難拠点を知っている人の割合は、身体障害者が 79.4%、知的障害者が 72.4%、精神障害者が 72.1%、難病患者が 80.2%、児童発達支援事業利用者が 83.5%となっている。



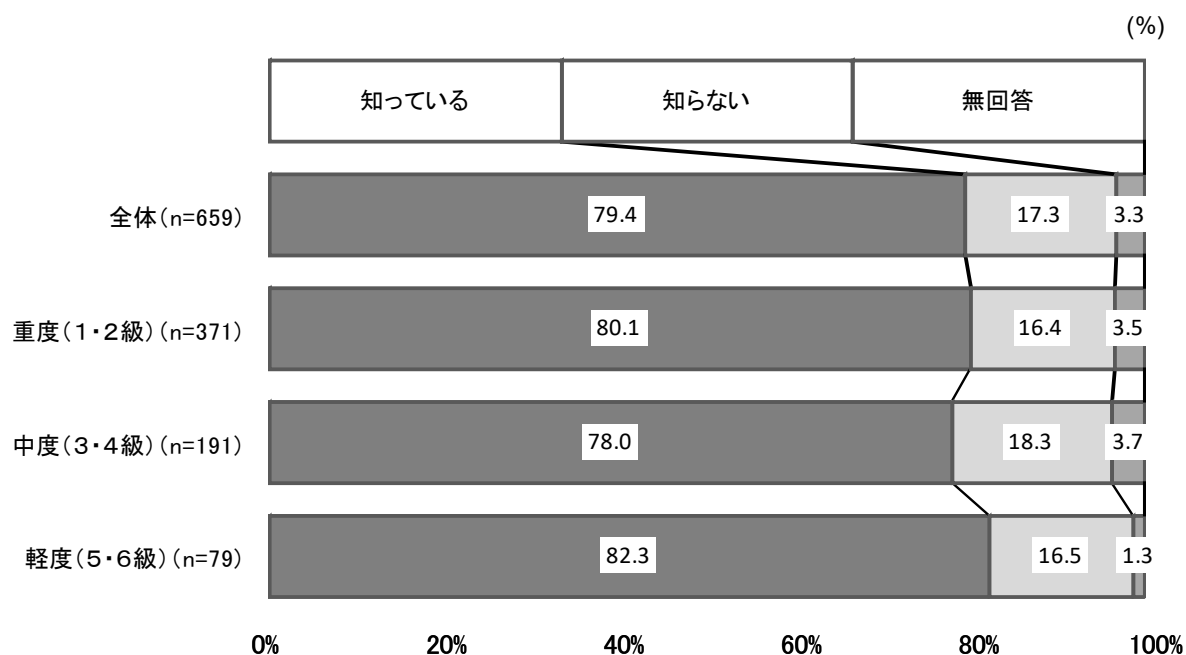
【前回調査との比較】

(単位：%)

区 分		1 位	2 位
身体障害者	今回 (n=659)	知っている (79.4)	知らない (17.3)
	前回 (n=558)	知っている (75.6)	知らない (16.5)
知的障害者	今回 (n=474)	知っている (72.4)	知らない (24.3)
	前回 (n=248)	知っている (58.9)	知らない (32.3)
精神障害者	今回 (n=451)	知っている (72.1)	知らない (25.9)
	前回 (n=434)	知っている (70.5)	知らない (23.7)
難病患者	今回 (n=475)	知っている (80.2)	知らない (15.6)
	前回 (n=346)	知っている (79.8)	知らない (17.9)

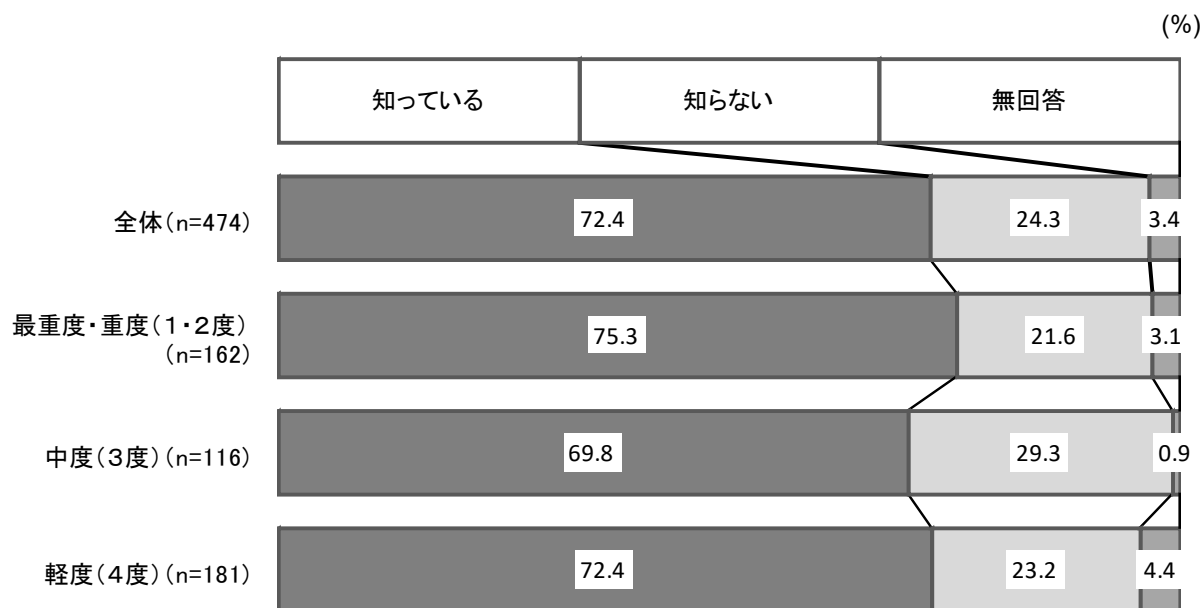
【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「知っている」人の割合は約8割である。



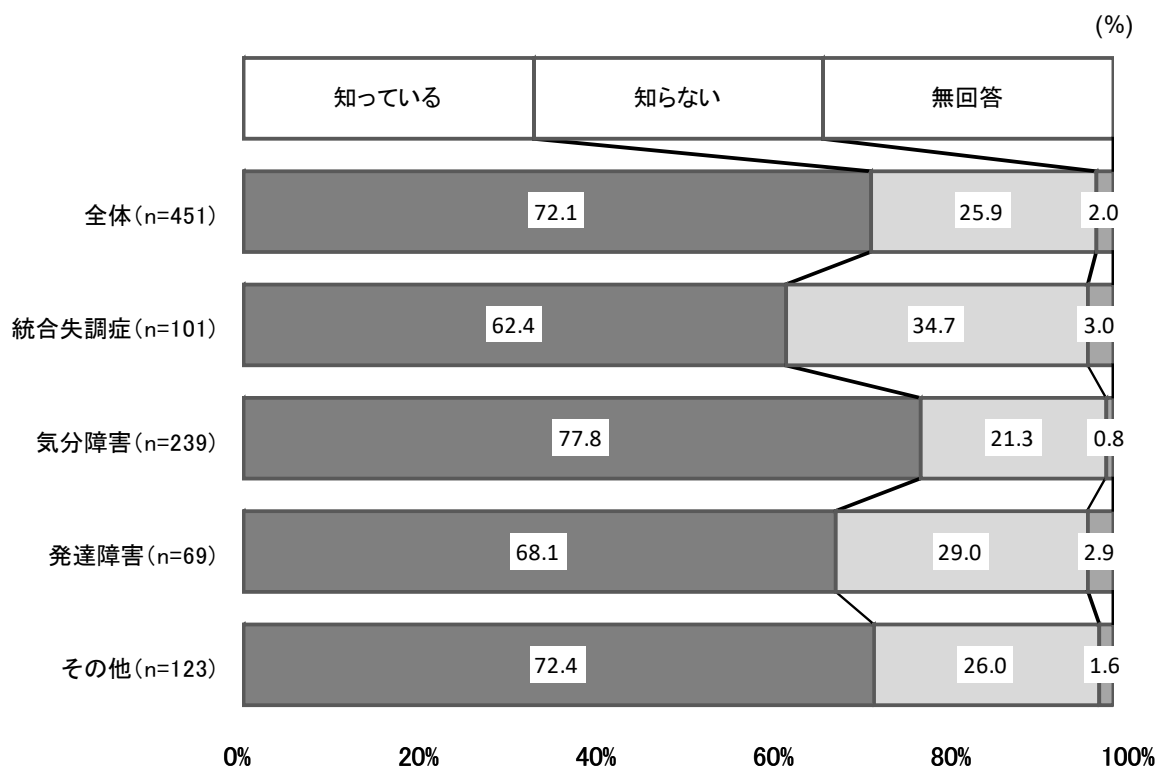
【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「知っている」人の割合は約7割である。



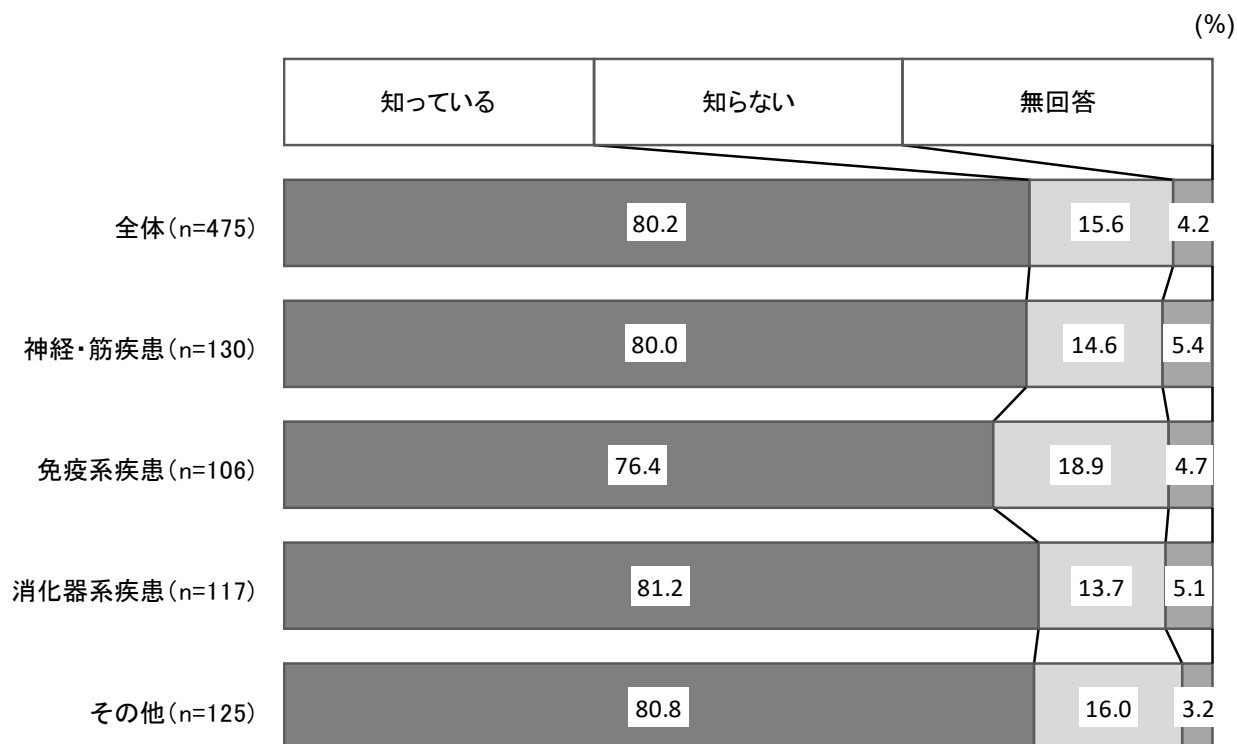
【精神障害者】

診断名別にみると、最寄りの避難拠点を「知っている」人の割合は、統合失調症と診断されている人では 62.4%、気分障害と診断されている人では 77.8%、発達障害と診断されている人では 68.1%となっている。



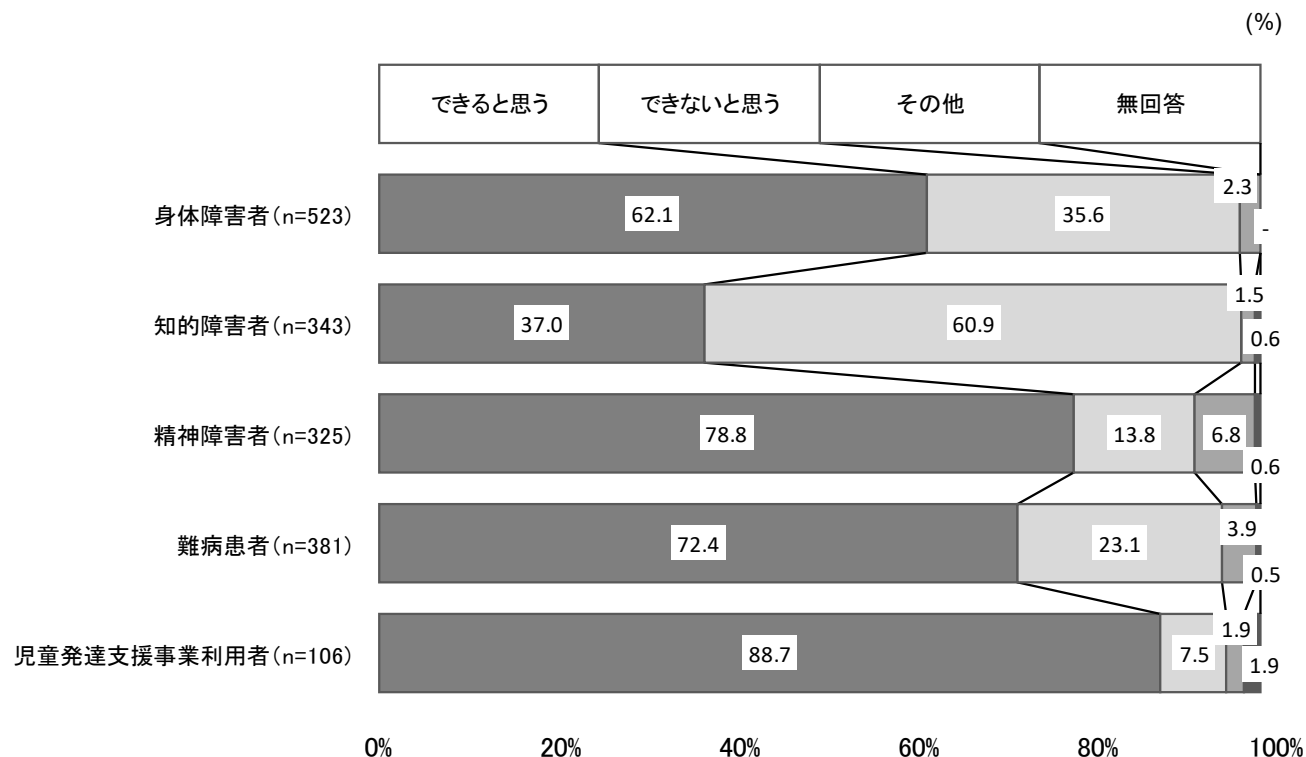
【難病患者】

疾患群別にみると、疾患群にかかわらず「知っている」人の割合は約 8 割である。



② 避難拠点まで自力避難の可否

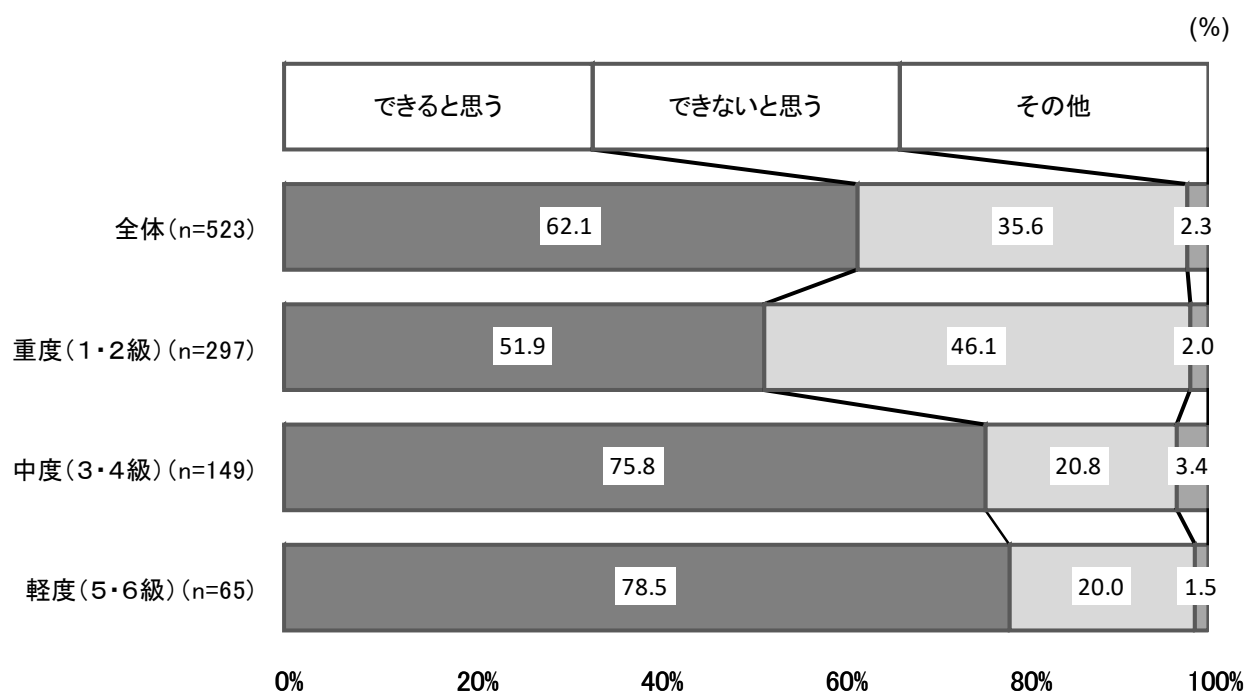
最寄りの避難拠点まで自力避難が「できると思う」と回答した人は、身体障害者が 62.1%、知的障害者が 37.0%、精神障害者が 78.8%、難病患者が 72.4%、児童発達支援事業利用者が 88.7% となっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

【身体障害者】

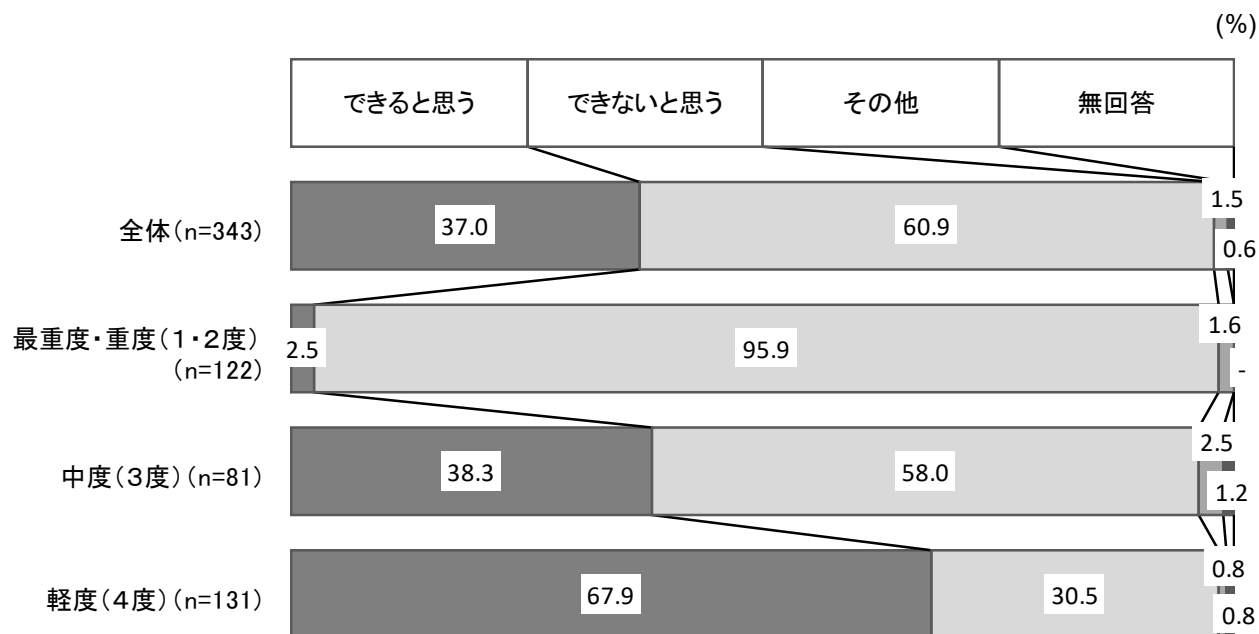
障害の程度別にみると、重度（１・２級）では、自力で避難することが「できると思う」と回答した人が 51.9％と、中度（３・４級）、軽度（５・６級）に比べて低くなっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、ひとりで避難することが「できると思う」と回答した人の割合は、程度が軽いほど高く、軽度（４度）では 67.9％となっている。

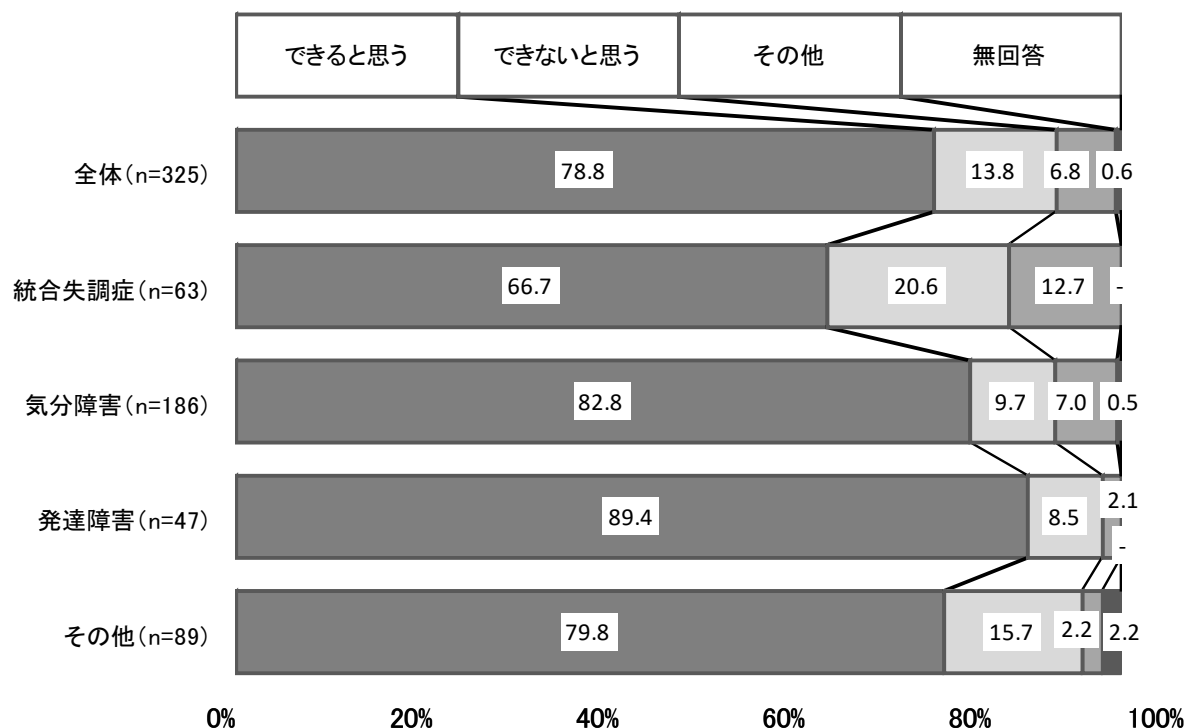


※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、自力で避難することが「できると思う」と回答した人の割合は、統合失調症と診断されている人では 66.7%、気分障害と診断されている人では 82.8%、発達障害と診断されている人では 89.4%となっている。

(%)

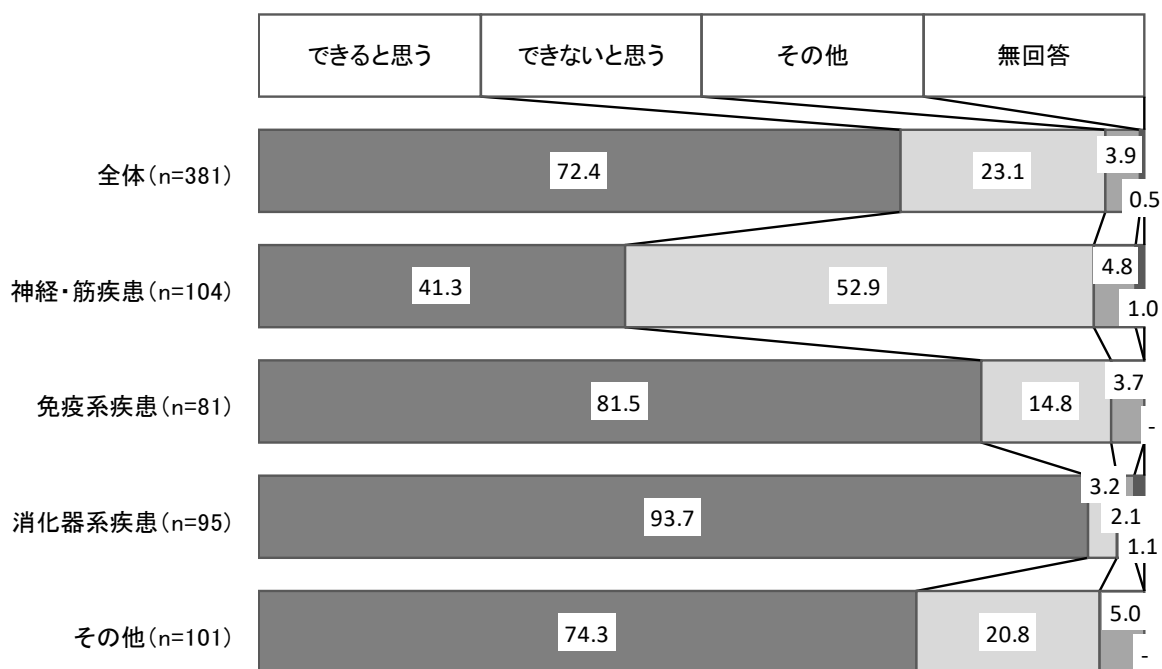


※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では自力で避難することが「できないと思う」人が「できると思う」人を上回っている。

(%)



※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

(2) 災害に備えて必要な対策（複数回答）

災害に備えて、または災害時に必要な対策は、いずれの障害でも「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く身体障害者が 45.1%、知的障害者が 51.9%、精神障害者が 58.3%、難病患者が 50.5%、児童発達支援事業利用者が 59.8%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
避難しやすい避難所を整備する	45.1（１位）	51.9（１位）	58.3（１位）	50.5（１位）	59.8（１位）
障害のある人が防災訓練等に参加するように促す	17.1	24.9	19.1		22.8
日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	31.7	37.3	44.6（２位）	37.3（３位）	44.9（２位）
緊急通報システムを整備する	27.6	25.9	34.6	31.6	23.6
避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する	32.5	47.0（２位）	39.2	35.6	31.5
避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する	36.9（３位）	43.5	33.0	41.9（２位）	29.1
避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する	24.0	17.3	19.3	24.8	13.4
避難時において障害者に配慮した情報提供を行う	41.9（２位）	46.2（３位）	40.4（３位）	34.5	35.4（３位）
避難時の介助人などを確保する	29.1	35.7	24.8	26.5	20.5
避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	17.8	16.7	17.7	11.4	15.7
避難所で補装具等の貸出しを行う	16.8	14.1	14.6	16.8	13.4
その他	4.4	9.7	12.2	5.9	7.9
特になし	6.8	4.2	8.6	7.6	3.1
無回答	7.3	7.2	4.0	5.1	3.9

【前回調査との比較】

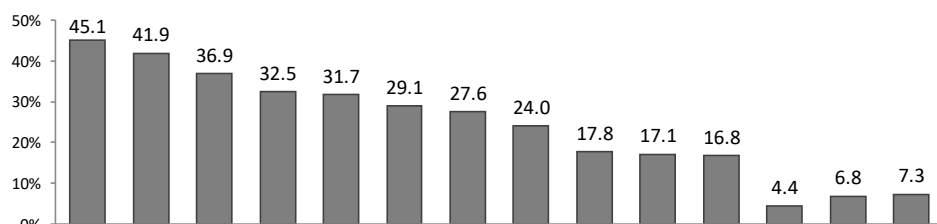
（単位：％）

区 分		１ 位	２ 位	３ 位
身体障害者	今回 (n=659)	避難しやすい避難所を整備する (45.1)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (41.9)	避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する (36.9)
	前回 (n=558)	避難しやすい避難所を整備する (39.4)	避難時に障害者用設備を配置する (31.4)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (31.2)
知的障害者	今回 (n=474)	避難しやすい避難所を整備する (51.9)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (47.0)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (46.2)
	前回 (n=248)	避難しやすい避難所を整備する (45.6)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (44.4)	避難時に障害者用設備を配置する (35.1)
精神障害者	今回 (n=451)	避難しやすい避難所を整備する (58.3)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (44.6)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (40.4)
	前回 (n=434)	避難しやすい避難所を整備する (46.5)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (34.3)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (32.7)
難病患者	今回 (n=475)	避難しやすい避難所を整備する (50.5)	避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する (41.9)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (37.3)
	前回 (n=346)	避難しやすい避難所を整備する (47.7)	避難時に障害者用設備を配置する (35.5)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (35.3)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、「避難時の介助人などを確保する」ことをあげた人の割合は、障害が重いほど高く、重度（１・２級）では33.4%となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では「避難時において障害者に配慮した情報提供を行う」が48.5%と最も多く、次いで「避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する」（41.6%）、「避難時の介助人などを確保する」（40.6%）となっている。聴覚障害では「避難時において障害者に配慮した情報提供を行う」が60.6%と最も多く、次いで「避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する」が45.5%となっている。肢体不自由（体幹）では「避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する」が51.9%と最も多くなっている。

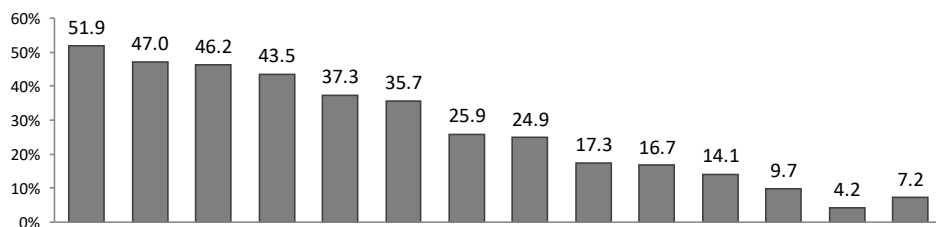


【障害の程度別】		n	1	8	6	5	3	9	4	7	10	2	11	12	13	14
0	全体	659	45.1	41.9	36.9	32.5	31.7	29.1	27.6	24.0	17.8	17.1	16.8	4.4	6.8	7.3
1	重度（１・２級）	371	43.1	43.4	37.7	32.9	28.6	33.4	27.2	27.2	19.9	17.5	15.6	5.1	5.7	7.8
2	中度（３・４級）	191	48.2	39.8	36.6	33.0	37.2	24.1	26.7	19.9	15.2	16.8	19.9	2.1	7.9	7.3
3	軽度（５・６級）	79	45.6	43.0	31.6	32.9	34.2	22.8	35.4	20.3	16.5	16.5	15.2	7.6	8.9	5.1

【障害の種類別】		n	1	8	6	5	3	9	4	7	10	2	11	12	13	14
1	視覚障害	101	33.7	48.5	33.7	41.6	34.7	40.6	23.8	14.9	26.7	16.8	14.9	4.0	7.9	5.9
2	聴覚障害	99	39.4	60.6	28.3	31.3	32.3	24.2	36.4	18.2	45.5	22.2	25.3	7.1	4.0	6.1
3	平衡機能障害	4	50.0	25.0	25.0	75.0	50.0	50.0	75.0	-	-	-	-	-	-	-
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	48.3	37.9	37.9	34.5	24.1	20.7	27.6	13.8	6.9	3.4	13.8	-	13.8	3.4
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	54.3	47.6	49.0	35.6	35.1	39.9	30.3	22.1	15.4	22.6	17.8	4.8	4.8	6.7
6	肢体不自由（体幹）	77	50.6	50.6	51.9	37.7	37.7	45.5	27.3	28.6	11.7	23.4	18.2	6.5	5.2	5.2
7	内部障害	185	41.1	29.2	30.3	25.4	24.9	13.5	22.2	37.3	8.1	10.3	13.5	3.8	7.6	10.3
8	その他	8	25.0	12.5	37.5	25.0	-	37.5	12.5	37.5	-	-	25.0	-	-	-

【知的障害者】

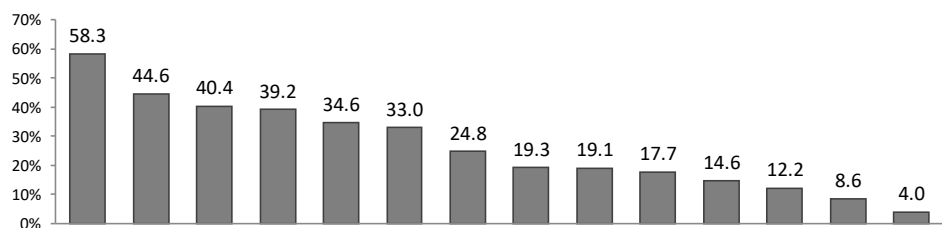
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では「避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する」（62.3%）、中度（３度）では「避難時において、障害者がわかるようなお知らせをする」（52.6%）、軽度（４度）では「避難しやすい避難所を整備する」（49.2%）が最も多くなっている。



【障害程度別】		n	1 避難しやすい避難所を整備する	5 地域で助け合える体制をつくる	8 避難時において、障害者がわかるようなお知らせをする	6 避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する	3 日頃から避難方法などを知らせる	9 避難時の介助人などを用意する	4 緊急通報システムをつくる	2 障害のある人に防災訓練などへの参加をすすめる	7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を用意する	10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを用意する	11 避難所で補装具などの貸出しを行う	12 その他	13 特にない	14 無回答
0	全体	474	51.9	47.0	46.2	43.5	37.3	35.7	25.9	24.9	17.3	16.7	14.1	9.7	4.2	7.2
1	最重度・重度（１・２度）	162	61.7	50.6	47.5	62.3	30.2	50.6	27.8	22.8	22.8	17.3	17.9	20.4	2.5	4.3
2	中度（３度）	116	45.7	50.0	52.6	31.9	42.2	34.5	22.4	25.0	9.5	13.8	8.6	6.9	2.6	3.4
3	軽度（４度）	181	49.2	42.5	40.3	34.8	40.9	24.9	27.1	27.6	16.6	18.2	14.4	2.8	6.6	11.0

【精神障害者】

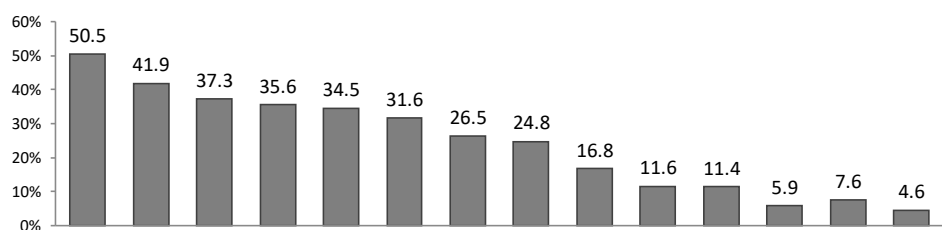
診断名別にみると、いずれも「避難しやすい避難所を整備する」が最も多くなっている。



【診断名別】		n	1 避難しやすい避難所を整備する	3 日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	8 避難時において障害者に配慮した情報提供を行う	5 避難時の支援体制を整備する、地域で助ける	4 緊急通報システムを整備する	6 避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する	9 避難時の介助人などを確保する	7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する	2 障害のある人が防災訓練等に参加するように促す	10 ヘルパーなどを確保する、ガイド	11 避難所で補装具等の貸出しを行う	12 その他	13 特にない	14 無回答
0	全体	451	58.3	44.6	40.4	39.2	34.6	33.0	24.8	19.3	19.1	17.7	14.6	12.2	8.6	4.0
1	統合失調症	101	58.4	43.6	41.6	37.6	37.6	32.7	21.8	14.9	24.8	12.9	10.9	11.9	11.9	4.0
2	気分障害	239	61.9	47.7	39.3	39.3	36.0	33.1	22.2	18.4	17.6	15.9	15.9	13.4	8.8	2.1
3	発達障害	69	63.8	46.4	58.0	44.9	36.2	34.8	29.0	27.5	29.0	27.5	18.8	15.9	4.3	4.3
4	その他	123	61.0	49.6	44.7	45.5	38.2	39.8	31.7	22.8	21.1	22.0	21.1	19.5	4.1	2.4

【難病患者】

疾患群別にみると、いずれも「避難しやすい避難所を整備する」が最も多くなっている。



【疾患群別】		n	1 避難しやすい避難所を整備する	6 避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する	3 日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	5 避難時の支援体制を整備する、地域で助け合える体制を整備する	8 避難時において障害者に配慮した情報提供を行う	4 緊急通報システムを整備する	9 避難時の介助人などを確保する	7 在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する	11 避難所で補装具等の貸出しを行う	2 参加する方にも防災訓練等に	10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	12 その他	13 特にな	14 無回答
0	全体	475	50.5	41.9	37.3	35.6	34.5	31.6	26.5	24.8	16.8	11.6	11.4	5.9	7.6	4.6
1	神経・筋疾患	130	50.0	45.4	35.4	34.6	36.9	22.3	35.4	20.8	19.2	12.3	6.9	6.9	6.2	5.4
2	免疫系疾患	106	47.2	37.7	34.0	26.4	33.0	39.6	20.8	24.5	17.9	8.5	10.4	2.8	7.5	4.7
3	消化器系疾患	117	59.8	48.7	41.0	41.9	37.6	35.9	26.5	27.4	20.5	15.4	18.8	6.8	5.1	5.1
4	その他	125	47.2	36.0	37.6	38.4	32.0	32.8	21.6	28.0	11.2	9.6	10.4	6.4	10.4	3.2

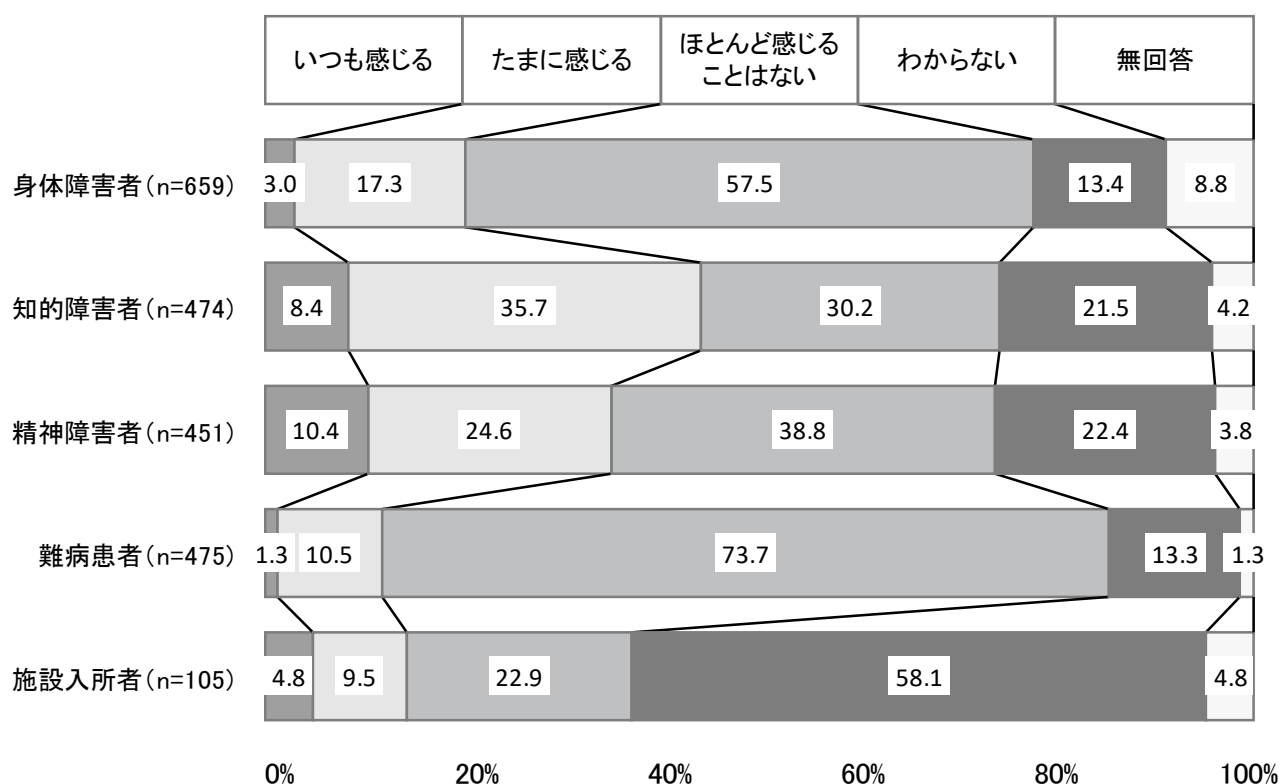
12 権利擁護について

(1) 差別や人権侵害

① 差別や人権侵害を受けていると感じるものの有無

“差別や人権侵害を受けていると感じる”（「いつも感じる」「たまに感じる」の合計）は、身体障害者が 20.3%、知的障害者が 44.1%、精神障害者が 35.0%、難病患者が 11.8%、施設入所者が 14.3%となっている。

(%)



【前回調査との比較】

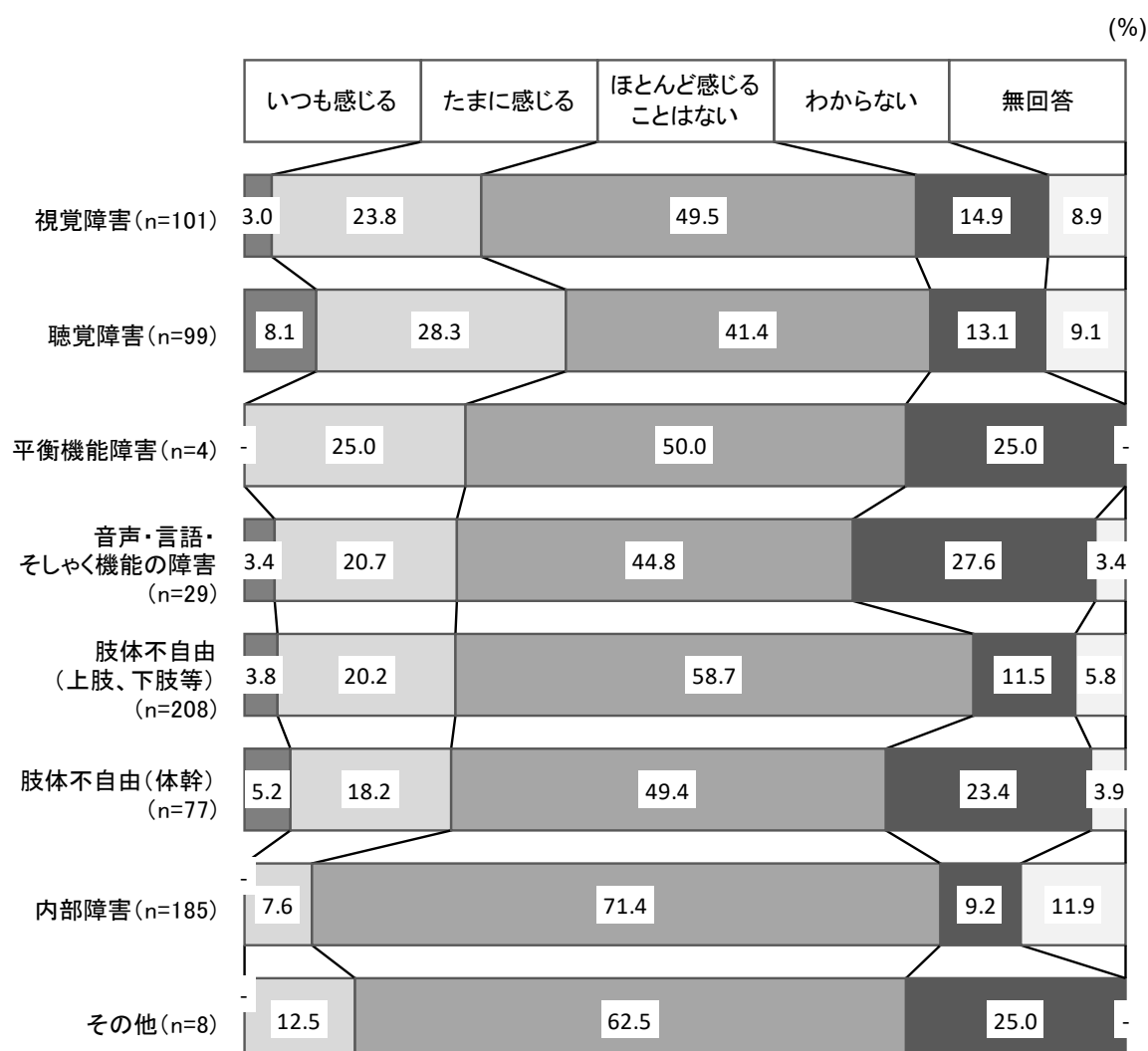
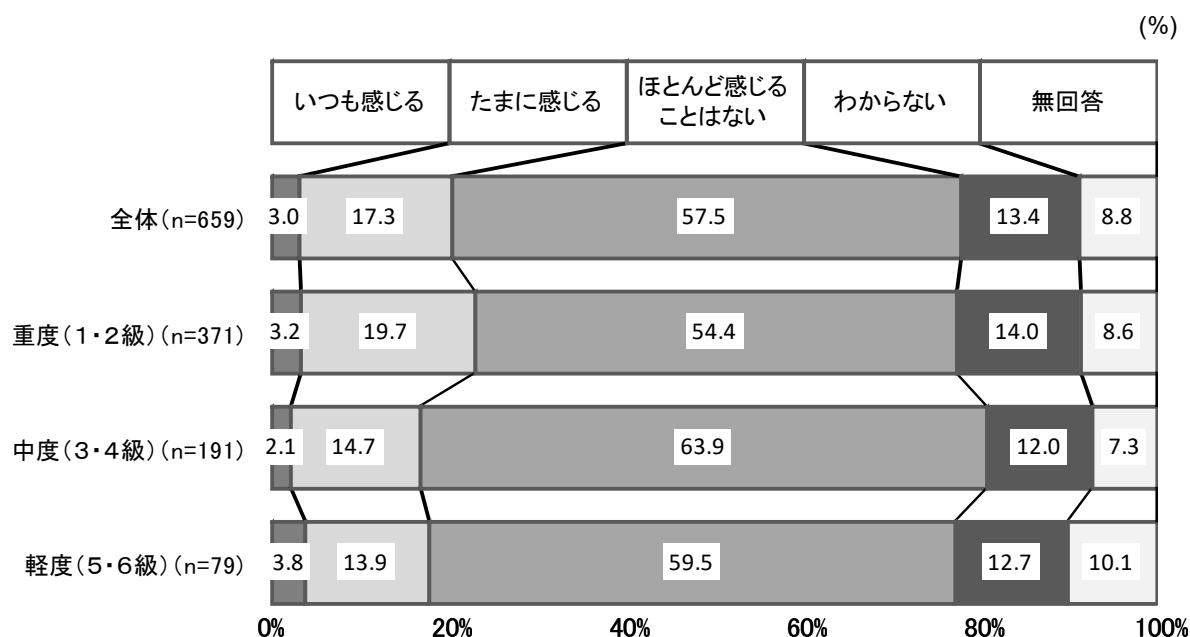
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	ほとんど感じることはない (57.5)	たまに感じる (17.3)	わからない (13.4)
	前回 (n=558)	ほとんど感じることはない (46.6)	わからない (18.5)	たまに感じる (17.9)
知的障害者	今回 (n=474)	たまに感じる (35.7)	ほとんど感じることはない (30.2)	わからない (21.5)
	前回 (n=248)	たまに感じる (33.5)	ほとんど感じることはない (25.8)	わからない (20.6)
精神障害者	今回 (n=451)	ほとんど感じることはない (38.8)	たまに感じる (24.6)	わからない (22.4)
	前回 (n=434)	ほとんど感じることはない (39.6)	わからない (22.6)	たまに感じる (22.4)
難病患者	今回 (n=475)	ほとんど感じることはない (73.7)	わからない (13.3)	たまに感じる (10.5)
	前回 (n=)	わからない (55.0)	ほとんど感じることはない (20.0)	たまに感じる (12.0)

【身体障害者】

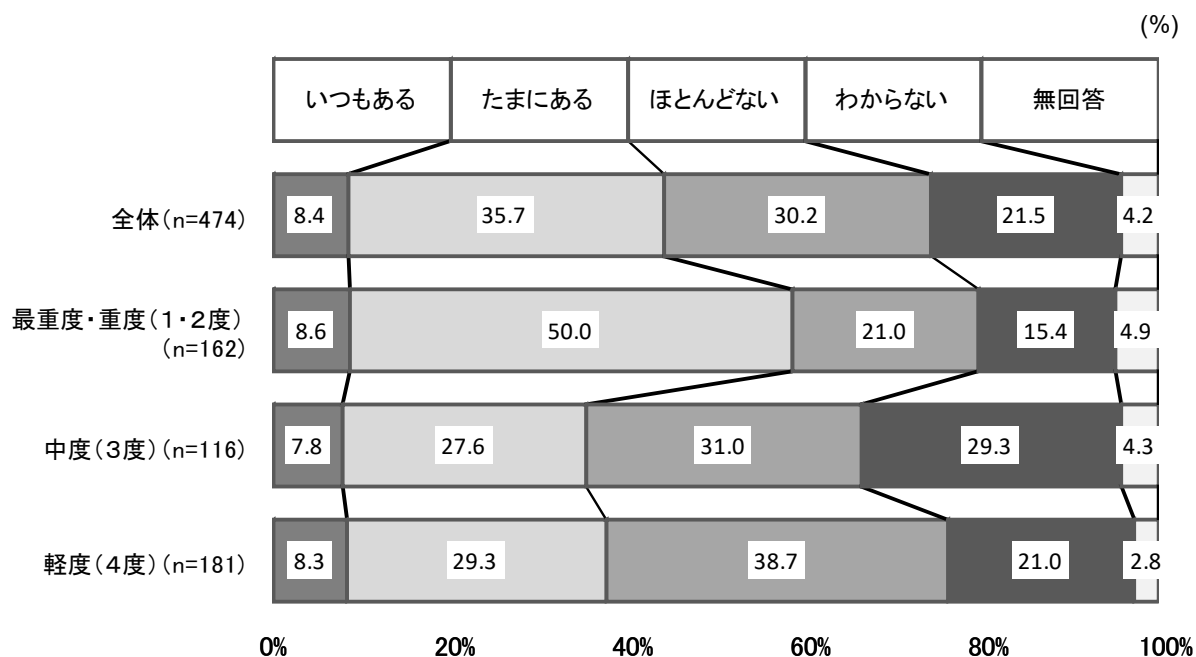
障害の程度別にみると、“差別や人権侵害を受けていると感じる”の割合は、中度（３・４級）、軽度（５・６級）に比べて、重度（１・２級）で高くなっている。

障害の種類別にみると、“差別や人権侵害を受けていると感じる”の割合は、聴覚障害が 36.4%と最も高くなっている。



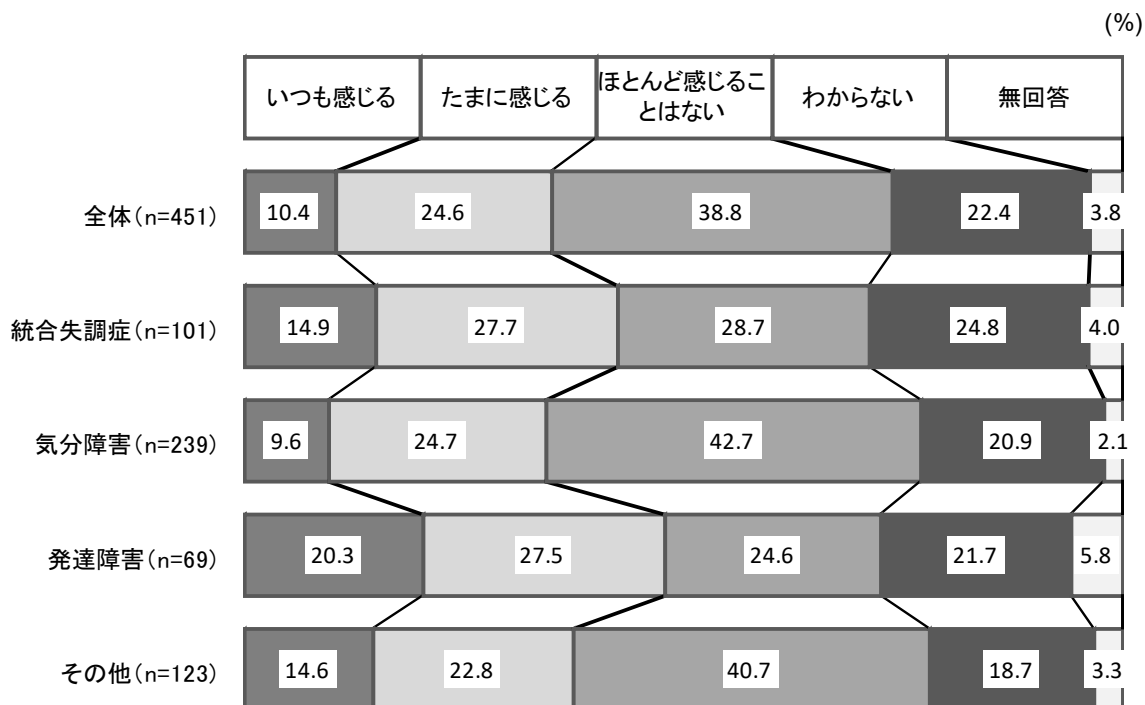
【知的障害者】

障害の程度別にみると、「いつもある」と回答した人の割合は、程度で大きな差はみられないが、最重度・重度（１・２度）では「たまにある」と回答した人が 50.0%となっている。



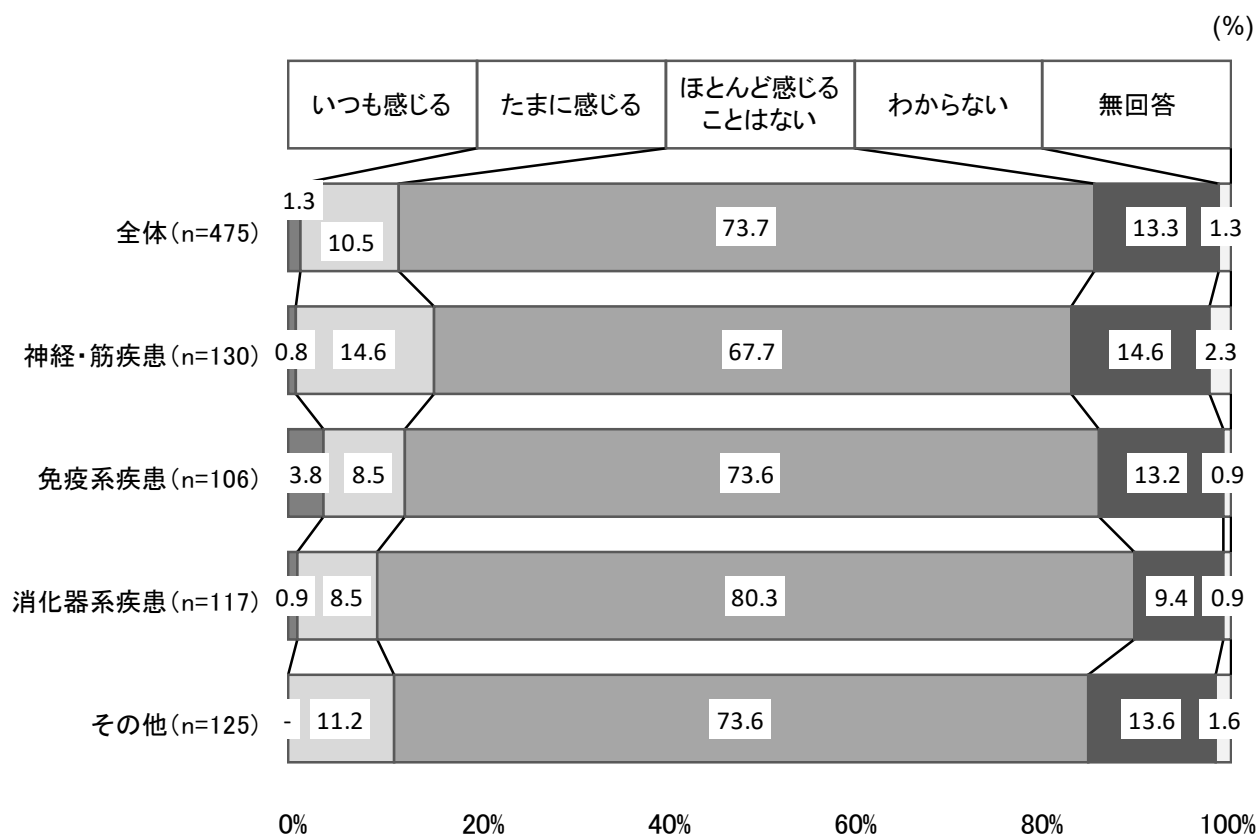
【精神障害者】

診断名別にみると、「いつも感じる」と回答した人の割合は、発達障害と診断されている人が 20.3%と最も多い。



【難病患者】

疾患群別にみると、いずれも「ほとんど感じることはない」が約7割～8割となっている。



② 差別や人権侵害を受けていると感じるとき（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

- ・移動するとき、車いすをいつも見られる。
- ・バス、電車での座席確保に非協力的な感じがする。
- ・歩行時に邪魔者扱いされることがある。
- ・耳がきこえないと言うと、そのあと対応してくれないことがあった。
- ・就職活動の際、障害があることでハンデを感じた。
- ・健常者と同じサークルには通えない、障害者への指導をしてくれるサークルが少ない。
- ・選挙の投票がしにくい。

【知的障害者】

- ・ジロジロ見られる。
- ・電車に乗っていると、周りから人が離れていく。
- ・歩いているときに距離をとられることがある。
- ・障害のためうまく話すことができず、店員に不審者扱いされた。
- ・歩けないのでベビーカーに乗せていたら、「大きいのだから歩かせなさい」と言われた。
- ・家庭や育て方に問題があると言われる。
- ・変な子と言われる。

【精神障害者】

- ・外出先で発作がおきたとき、迷惑がられたことが何度もある。
- ・精神疾患があると「何か問題を起こすのではないか」という先入観で見られる。
- ・病名を知ったとたん他人になる。
- ・仲間はずれにされたり、陰で悪口を言われる。
- ・就職しようとしたときに、嫌味を言われた。
- ・会社にいたとき、パワハラで苦しめられた。
- ・職場において責任のある仕事をさせてもらえない。

【難病患者】

- ・無視をされる。
- ・街中で舌打ちされたり、つき飛ばされたりした。
- ・ジロジロ見られる。
- ・就職した際、「通院で有給は使わせない」と陰で言われた。

【施設入所者】

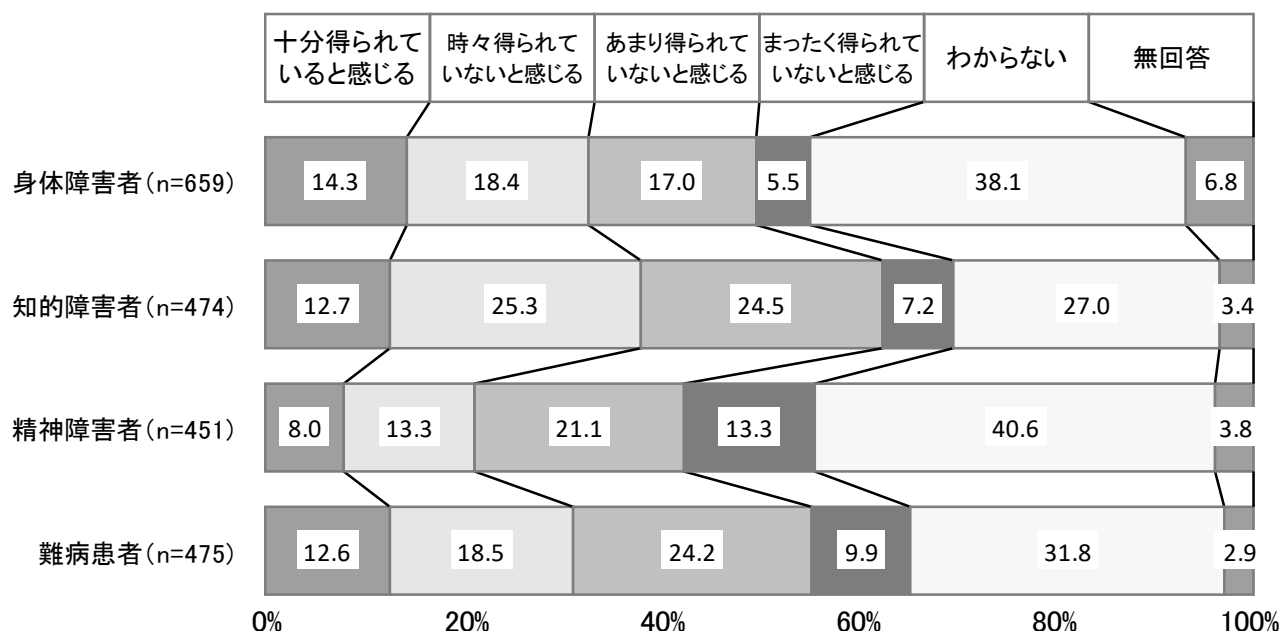
- ・飲食店が混んでいるときに、店員に邪魔と言われた。
- ・電車を見ているときや人に話しかけたときに、不審者扱いされてしまうことがある。

（２） 地域での障害に対する理解

① 地域での障害に対する理解の感じ方

地域で暮らす上で、“得られていないと感じる”（「時々得られていないと感じる」「あまり得られていないと感じる」「まったく得られていないと感じる」の合計）は、身体障害者で 40.9%、知的障害者で 57.0%、精神障害者で 47.7%、難病患者で 52.6%となっている。

(%)



【前回調査との比較】

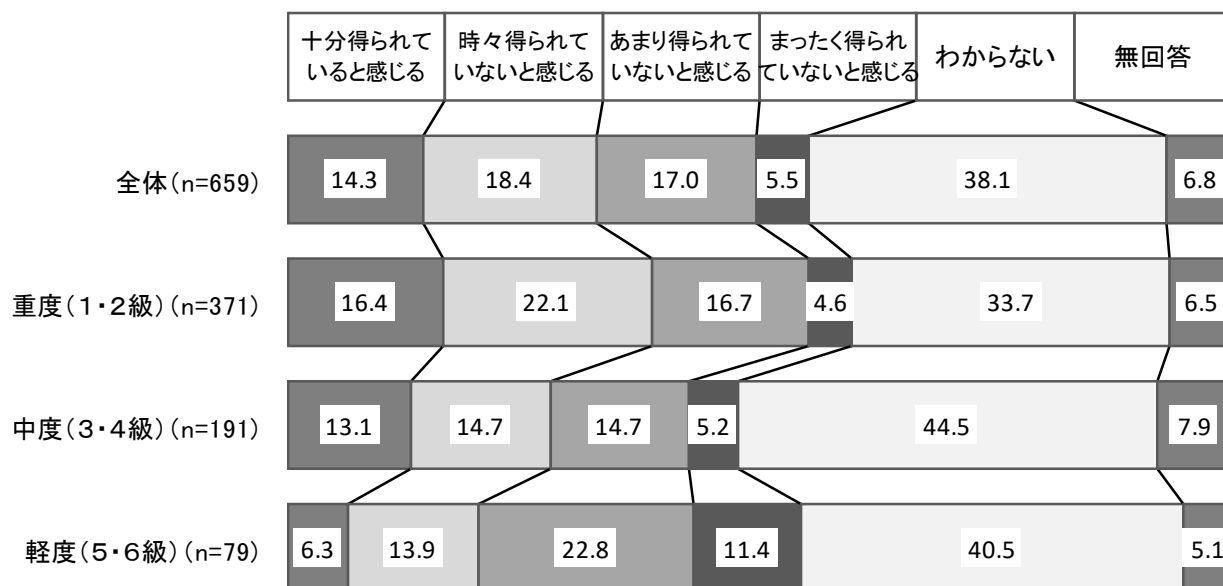
(単位：%)

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	わからない (38.1)	時々得られていないと感じる (18.4)	あまり得られていないと感じる (17.0)
	前回 (n=558)	わからない (35.8)	時々得られていないと感じる (21.5)	あまり得られていないと感じる (17.7)
知的障害者	今回 (n=474)	わからない (27.0)	時々得られていないと感じる (25.3)	あまり得られていないと感じる (24.5)
	前回 (n=248)	あまり得られていないと感じる (25.8)	時々得られていないと感じる (22.6)	わからない (21.4)
精神障害者	今回 (n=451)	わからない (40.6)	あまり得られていないと感じる (21.1)	時々得られていないと感じる / まったく得られていないと感じる (同率13.3)
	前回 (n=434)	わからない (38.2)	あまり得られていないと感じる (22.1)	時々得られていないと感じる (13.1)
難病患者	今回 (n=475)	わからない (31.8)	あまり得られていないと感じる (24.2)	時々得られていないと感じる (18.5)
	前回 (n=346)	わからない (30.3)	あまり得られていないと感じる (29.5)	時々得られていないと感じる (18.5)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度が重いほど「十分得られていると感じる」人の割合が高くなる傾向にあり、重度（１・２級）では16.4%となっている。

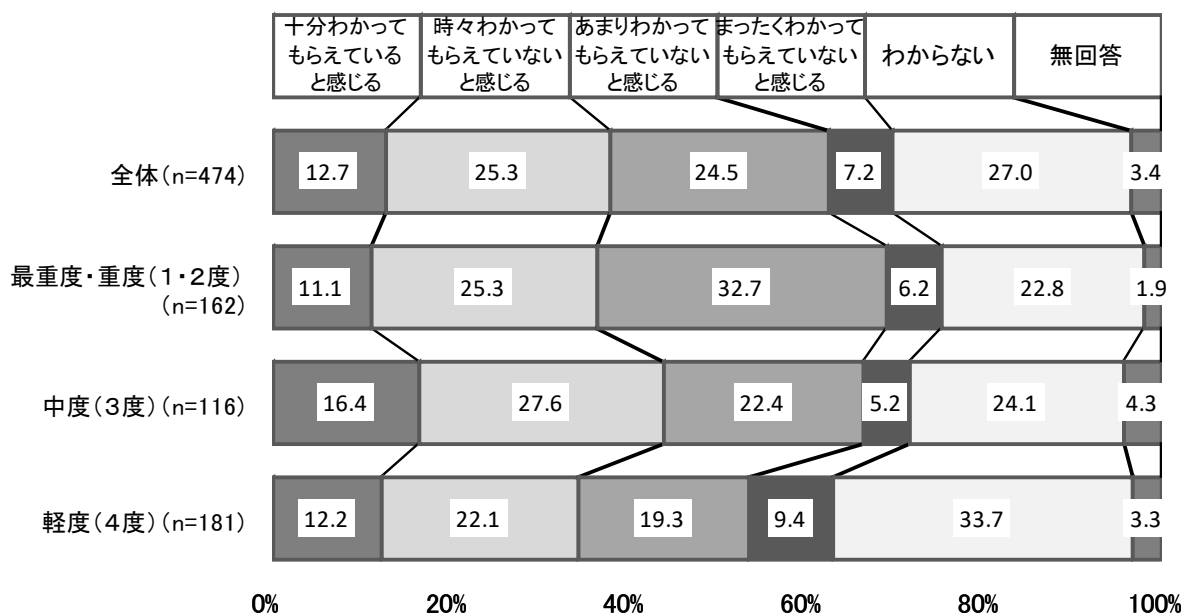
(%)



【知的障害者】

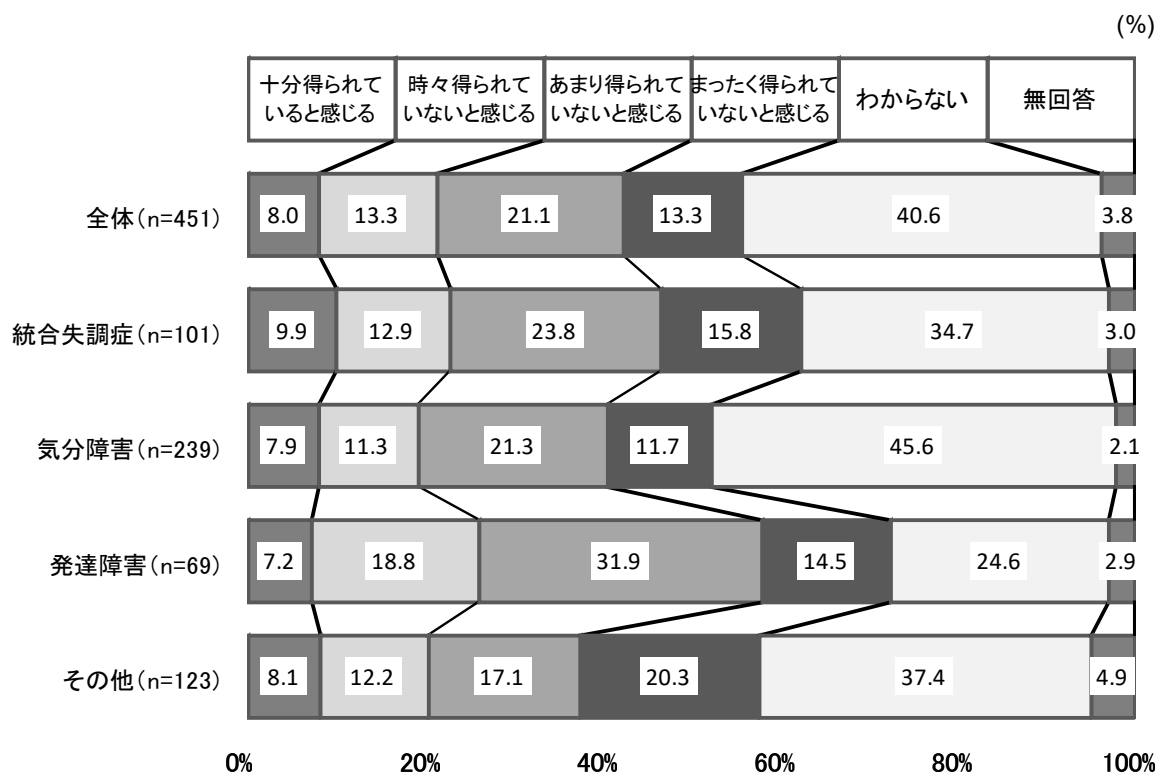
障害の程度別にみると、“障害に対して理解を得られていないと感じる”割合は、程度が重いほど高くなっている。（最重度・重度（１・２度）64.2%、中度（３度）55.2%、軽度（４度）50.8%）

(%)



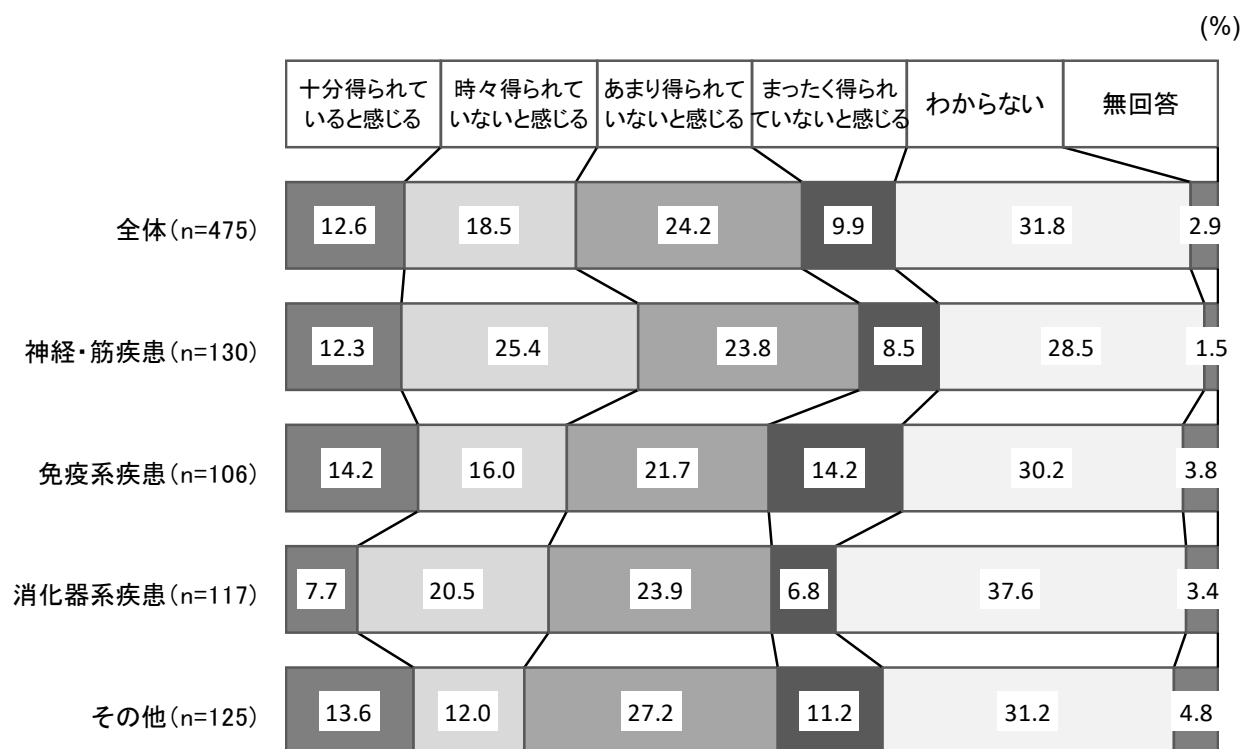
【精神障害者】

診断名別にみると、“精神疾患に対して理解を得られていないと感じる”割合が最も高いのは、発達障害で 65.2% となっている。



【難病患者】

疾患群別にみると、“難病に対して理解を得られていないと感じる”割合は、神経・筋疾患では 57.7%、免疫系疾患では 51.9%、消化器系疾患 51.2% となっている。



- ② 地域で暮らす上で、障害に対して理解を得られている、得られていないと感じるとき（自由回答）
主な回答内容は、次のとおりである。

ア. 理解を得られていると感じるとき

【身体障害者】

- ・町会の人たちがいろいろと気にかけてくれる。
- ・小学校に入学時、トイレや手すりなどをすぐに改修してくれた。
- ・聴覚障害のため、話すときにマスクを取って口の形をはっきり見せてくれる人がいた。
- ・電車やバスで席を譲ってもらえたり、手すりを持つように誘導してくれた。
- ・手話を覚えてくれる人がいた。

【知的障害者】

- ・地域の防災訓練にも参加しているが、日頃から近所の方が声をかけてくれる。
- ・毎日会う小学校の見守りの方にやさしくあいさつをされ、話しかけてもらえる。
- ・ヘルプマークを見て、あたたかい目でみてもらえた。
- ・選挙の投票の際に配慮があった。

【精神障害者】

- ・自分の障害のことを言ったときに、受け入れてくれる仲間がいた。
- ・丁寧に話を聞いてくれた。

【難病患者】

- ・ごみ捨てなどを助けてもらっている。
- ・電動車いすのため、買物をするとき店員が援助してくれる。
- ・病気の認知度が広まっている。

イ. 理解を得られていないと感じるとき

【身体障害者】

- ・車いすで倒れても、だれも手助けをししてくれなかった。
- ・白杖をついて歩いているのに、自転車が前を横切る。
- ・レストランなど、身体障害者用のトイレを設置しているところはまだまだ少ない。
- ・意図的に存在を見えないかのような態度を取られる。
- ・内部障害なので無理ができないのを、「怠けている、楽をしている」などと思われる。

【知的障害者】

- ・言動や行動のせいか、他人の視線を感じる。
- ・レジでお金を出すのが遅いと、嫌な顔をされた。
- ・手帳を見せてもサポートを受けられないときがある。
- ・会社で、説明されたことをメモすることが難しく、まじめに聞いていないと思われる。

【精神障害者】

- ・精神疾患をきちんと理解していないと思うような言動があった。
- ・腫れ物のような、触れてはいけないような態度を取られた。
- ・体調が悪く、自宅にいたことが多かったとき、不審に思われた。

【難病患者】

- ・免疫力が低いと伝えても、風邪気味の人に平気で近づかれた。
- ・外見では分かりにくく理解されない。
- ・電車内で席を譲ってくれないなど、配慮が少ない。

(3) 障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと（複数回答）

身体障害者、精神障害者では「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」が最も多くそれぞれ 35.7%、41.7%となっている。

知的障害者では「学校における福祉教育・人権教育を充実する」が最も多く 50.2%となっている。

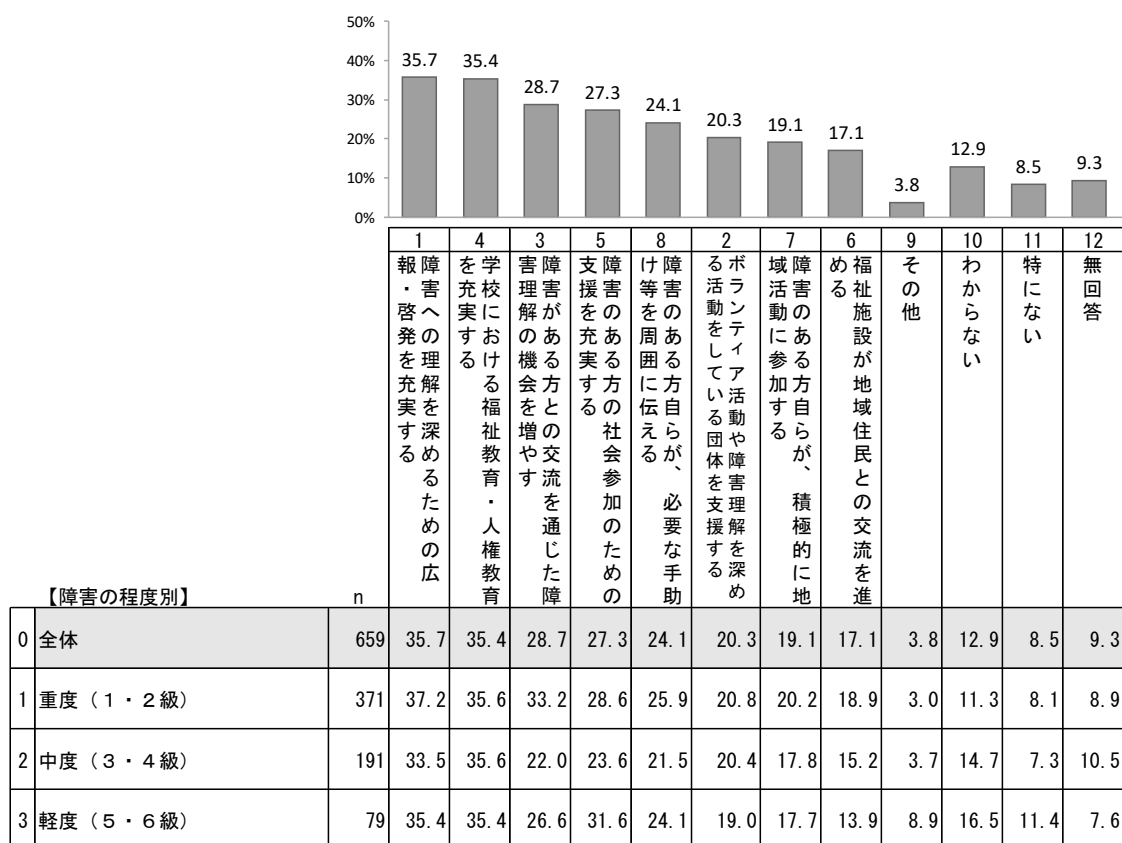
施設入所者では「福祉施設が地域住民との交流を進める」が 31.4%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	施設入所者 (n=105)
障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する	35.7（1位）	23.8	41.7（1位）	13.3
ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する	20.3	26.2	23.7	12.4
障害がある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす	28.7（3位）	42.8（2位）	25.7	30.5（3位）
学校における福祉教育・人権教育を充実する	35.4（2位）	50.2（1位）	34.1（2位）	20.0
障害のある方の社会参加のための支援を充実する	27.3	36.3（3位）	31.5（3位）	21.0
福祉施設が地域住民との交流を進める	17.1	30.0	15.1	31.4（2位）
障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する	19.1	18.4	14.4	12.4
障害のある方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える	24.1	19.8	18.8	9.5
その他	3.8	6.5	6.7	1.9
わからない	12.9	15.6	17.5	38.1（1位）
特になし	8.5	3.8	8.0	3.8
無回答	9.3	5.3	5.8	9.5

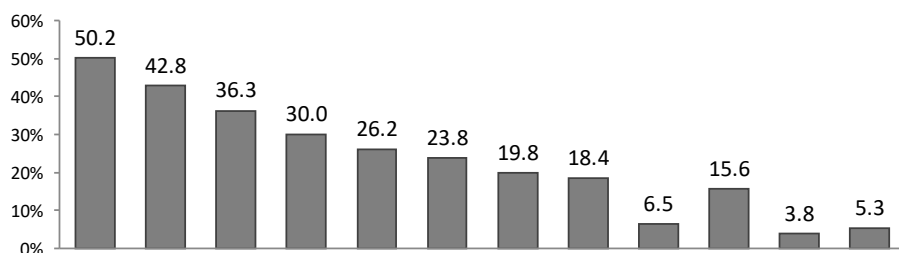
【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」と「学校における福祉教育・人権教育を充実する」が上位2項目となっている。



【知的障害者】

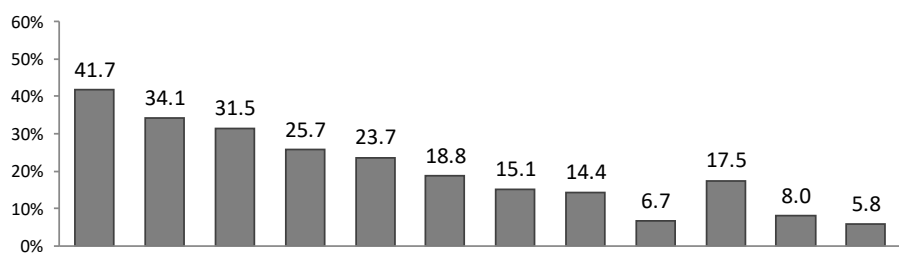
障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「学校における福祉教育・人権教育をすすめる」が66.0%と最も多く、次いで「障害のある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす」（53.7%）となっている。



【障害程度別】			n	4 学校における福祉教育・人権教育をすすめる	3 障害のある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす	5 障害のある方の社会参加をすすめる	6 福祉施設が地域住民との交流をすすめる	2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する	1 障害についてのお知らせや講演会などを充分におこなう	8 障害のある方自らが、必要な手助けをまわりの人に伝える	7 障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する	9 その他	10 わからない	11 特にない	12 無回答
0	全体		474	50.2	42.8	36.3	30.0	26.2	23.8	19.8	18.4	6.5	15.6	3.8	5.3
1	最重度・重度（１・２度）		162	66.0	53.7	37.0	46.3	31.5	25.9	21.0	21.0	11.1	6.8	2.5	1.9
2	中度（３度）		116	44.0	37.1	36.2	28.4	26.7	20.7	15.5	14.7	6.9	22.4	3.4	6.9
3	軽度（４度）		181	42.0	37.0	37.0	18.2	21.0	25.4	22.1	19.3	2.8	19.9	4.4	5.5

【精神障害者】

診断名別にみると、「精神疾患のある方の社会参加のための支援を充実する」ことをあげた人の割合は、統合失調症と診断されている人では 45.5%と、気分障害、発達障害と診断されている人に比べて高くなっている（それぞれ 29.7%、34.8%）。



【診断名別】		n	1 の精神 広報・啓 発への理 解を深め るため	4 育学校に おける福 祉教育・ 人権教 育を充実 する	5 た精神疾 患のある 方の社会 参加の支 援を充実 する	3 精神疾患 を理解す る機会を 増やす	2 援する ボランテ ィア活動 や精神疾 患への理 解を深め る活動し てい	8 な精神疾 患のある 方自らが 、必要 な手助け 等を周囲 に伝える	6 進福祉施 設が地域 住民との 交流を	7 的精神疾 患のある 方自らが 、積極 的に地域 活動に参 加する	9 その他	10 わからない	11 特にな い	12 無回答
0	全体	451	41.7	34.1	31.5	25.7	23.7	18.8	15.1	14.4	6.7	17.5	8.0	5.8
1	統合失調症	101	47.5	32.7	45.5	35.6	28.7	18.8	19.8	21.8	3.0	17.8	4.0	3.0
2	気分障害	239	42.3	33.5	29.7	23.8	25.5	19.7	12.1	13.4	7.9	17.2	8.8	3.8
3	発達障害	69	47.8	43.5	34.8	37.7	24.6	26.1	20.3	20.3	14.5	8.7	7.2	5.8
4	その他	123	44.7	34.1	28.5	28.5	23.6	17.9	17.9	12.2	9.8	15.4	7.3	7.3

【難病および難病がある方への区民の理解を深めるために必要なこと】（自由回答）

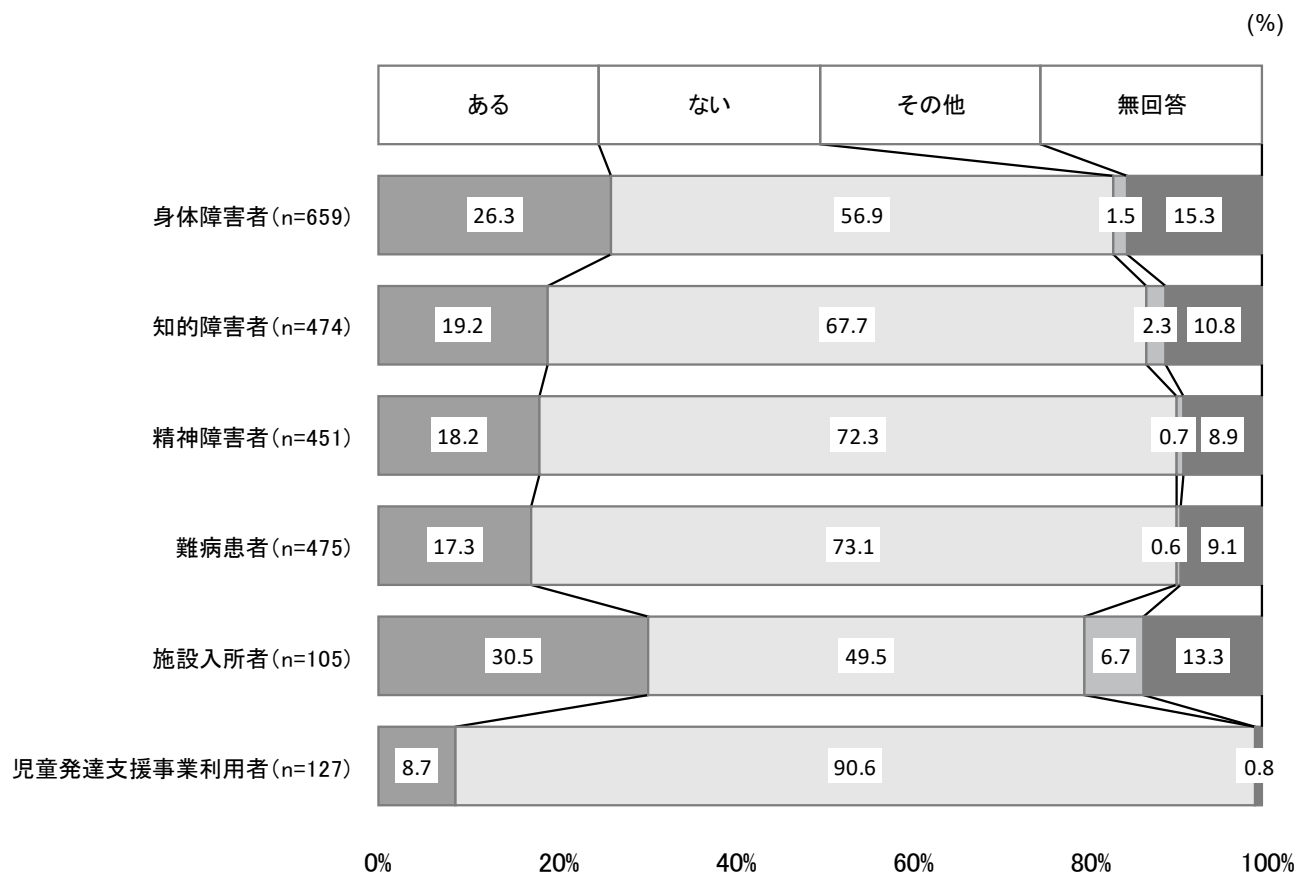
主な回答内容は、次のとおりである。

- ・小学校、中学校での難病理解を広めるためのプログラム
- ・Twitter、Instagramなどを活用した情報発信、区報での情報提供
- ・ワークショップやシンポジウムなど啓発イベントの開催
- ・ヘルプマークの活用

（４） 合理的配慮

① 合理的配慮を求めたことの有無

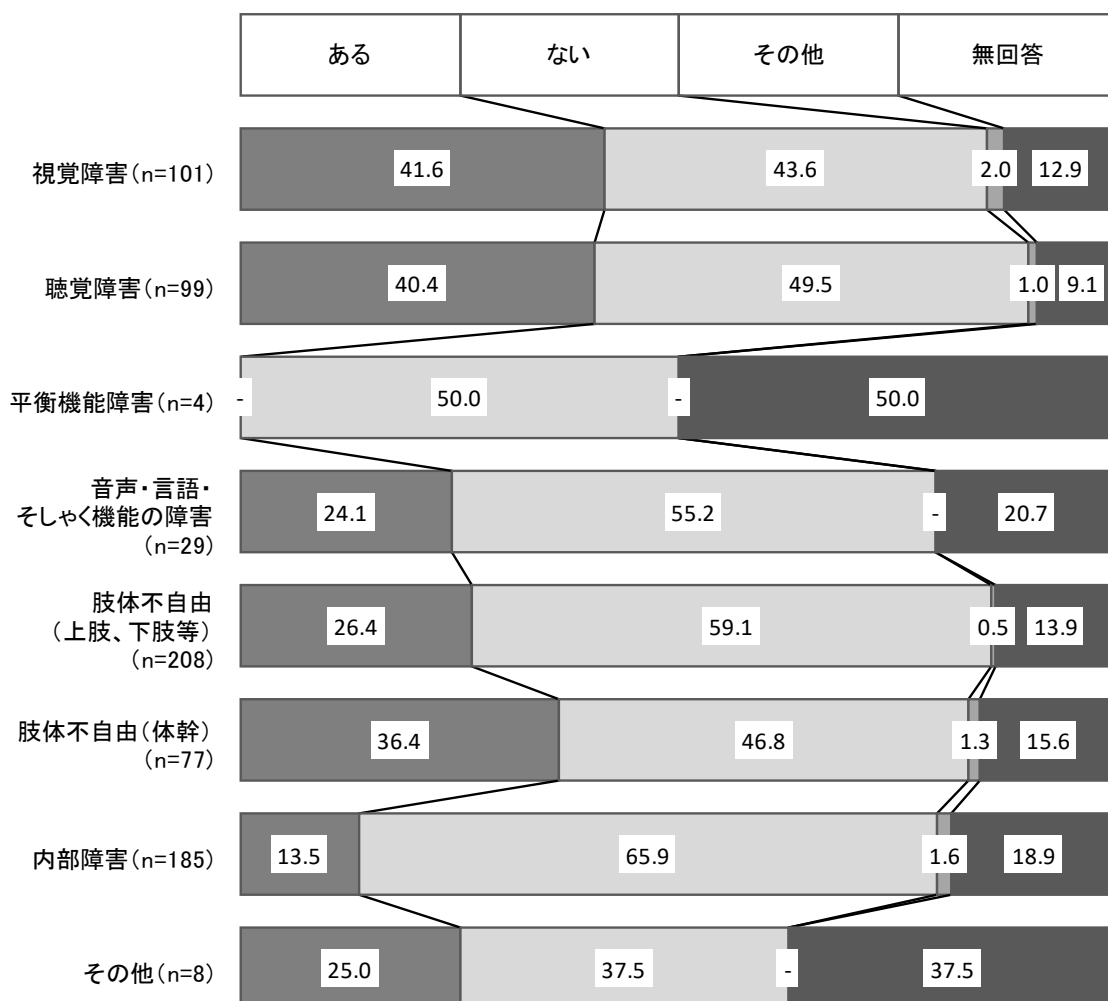
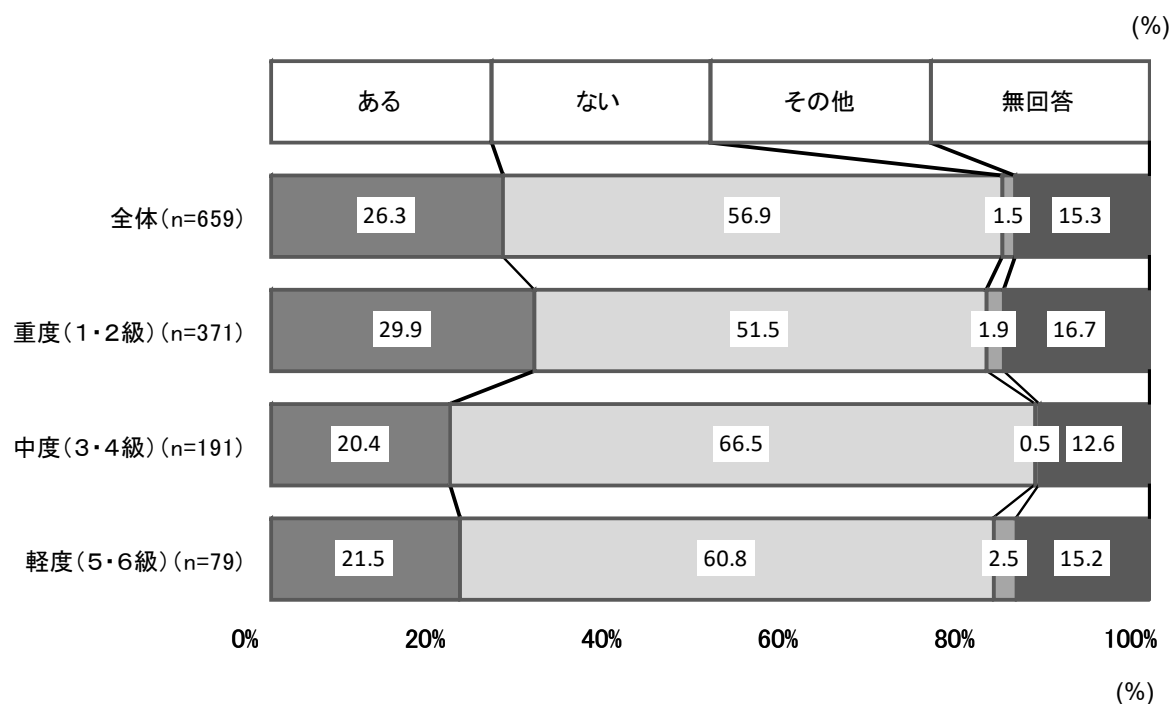
合理的配慮を求めたことが「ある」のは身体障害者で 26.3%、知的障害者で 19.2%、精神障害者で 18.2%、難病患者で 17.3%、施設入所者で 30.5%、児童発達支援事業利用者で 8.7%となっている。



【身体障害者】

障害の程度別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人の割合は、重度（１・２級）では 29.9%と、中度（３・４級）や軽度（５・６級）に比べて高くなっている。

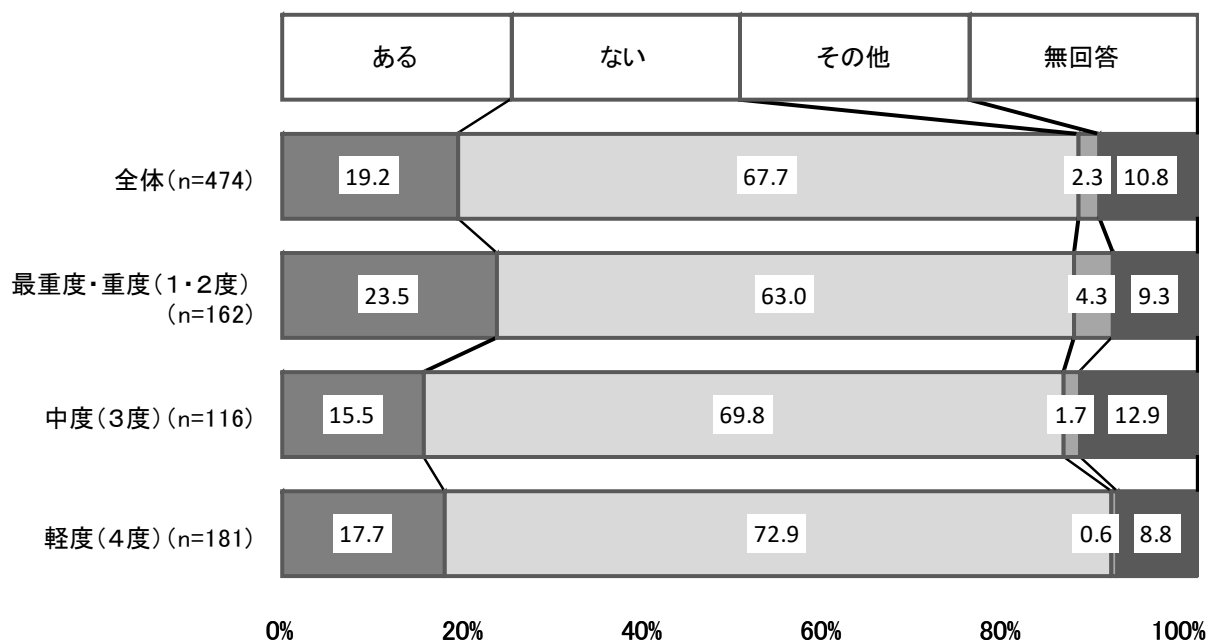
障害の種類別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人の割合は、視覚障害と聴覚障害で約４割となっている。



【知的障害者】

障害の程度別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人の割合は、最重度・重度（１・２度）では 23.5%、中度（３度）では 15.5%、軽度（４度）では 17.7%である。

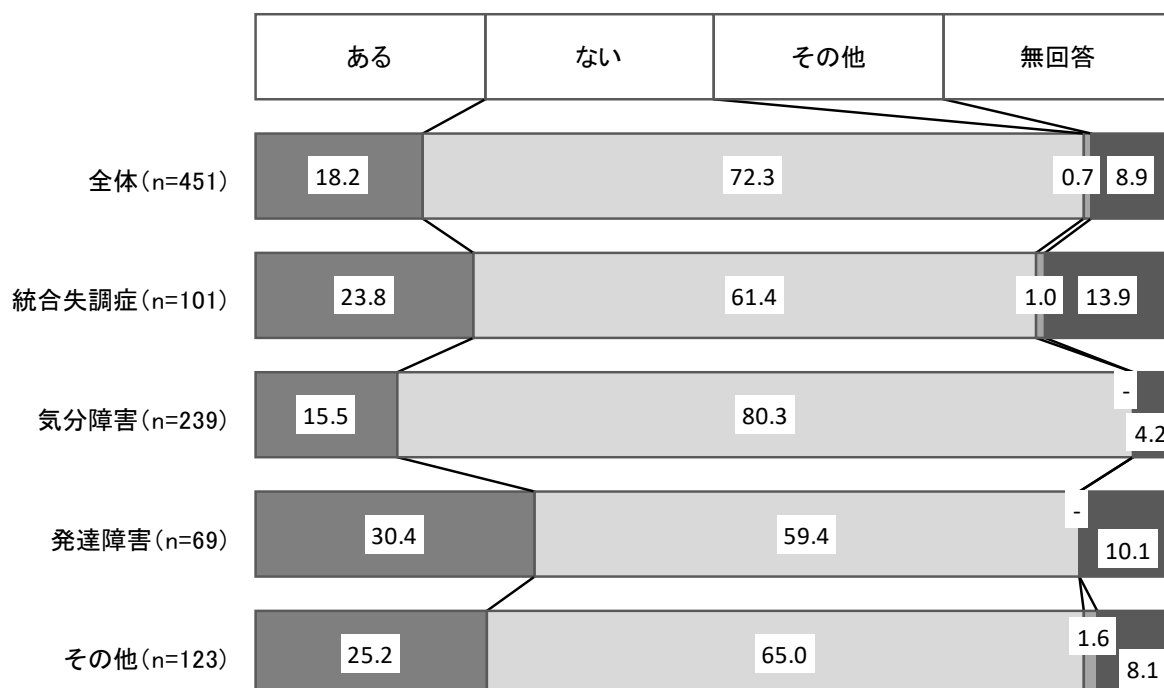
(%)



【精神障害者】

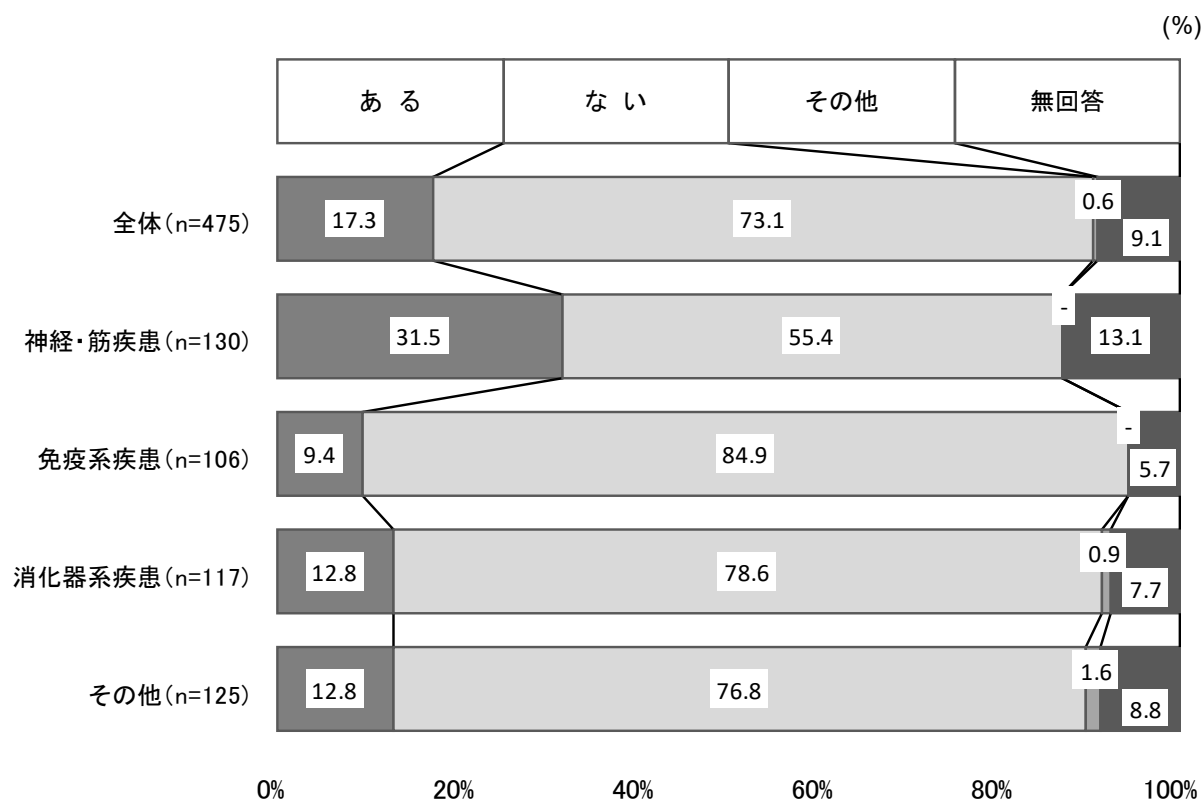
診断名別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人の割合は、統合失調症と診断されている人では 23.8%、気分障害と診断されている人では 15.5%、発達障害と診断されている人では 30.4%となっている。

(%)



【難病患者】

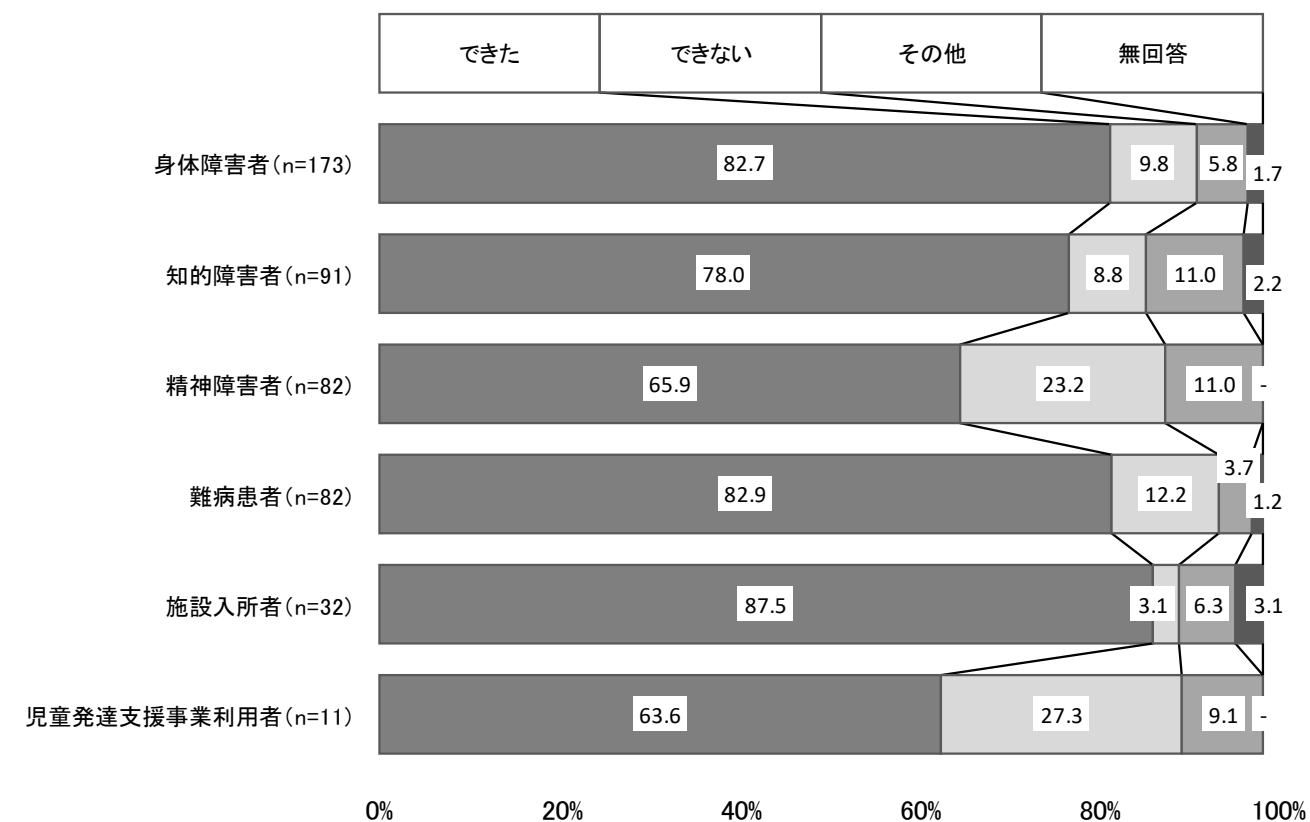
疾患群別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人の割合は、神経・筋疾患では31.5%、免疫系疾患では9.4%、消化器系疾患では12.8%となっており、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患で高くなっている。



② 合理的配慮を受けることができたか

合理的配慮を求めたことがある人のうち、合理的配慮を受けることが「できた」のは身体障害者で82.7%、知的障害者で78.0%、精神障害者で65.9%、難病患者で82.9%、施設入所者で87.5%、児童発達支援事業利用者で63.6%となっている。

(%)

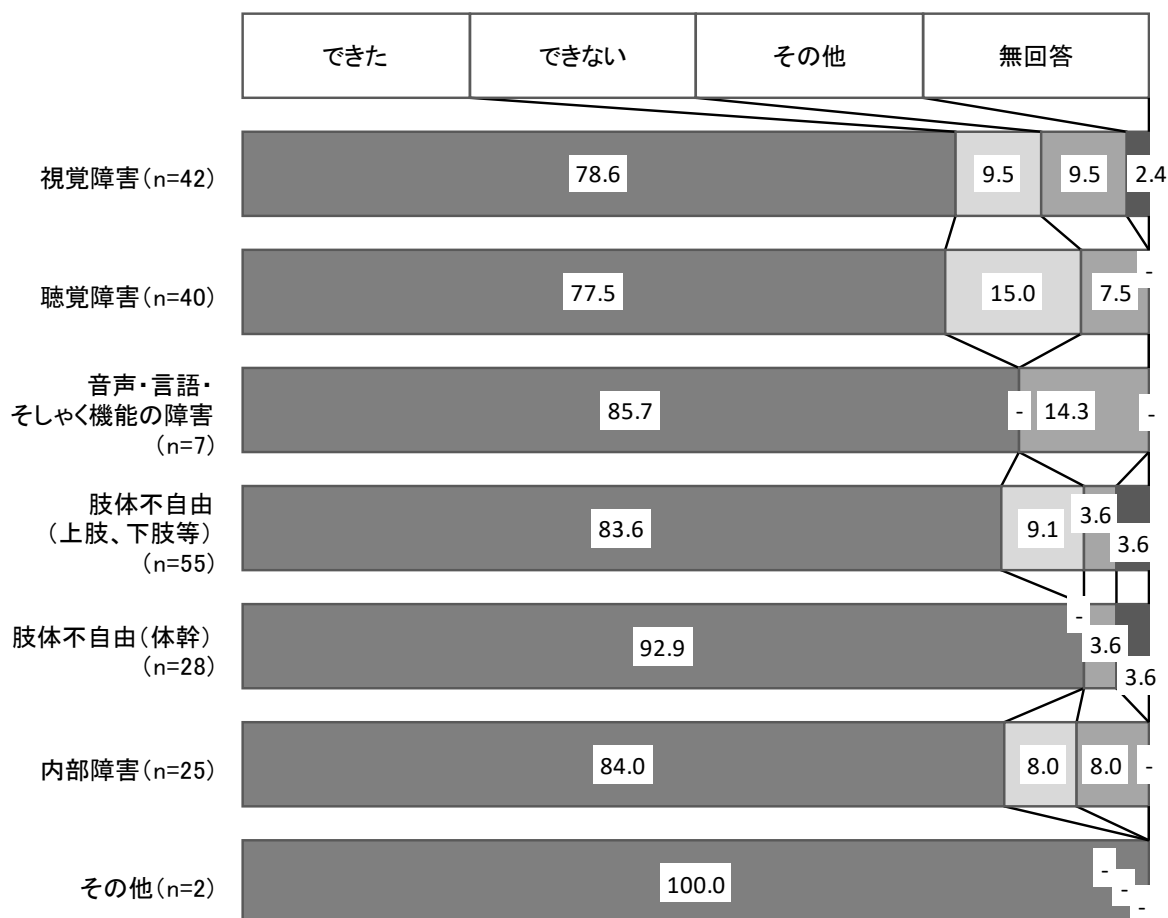
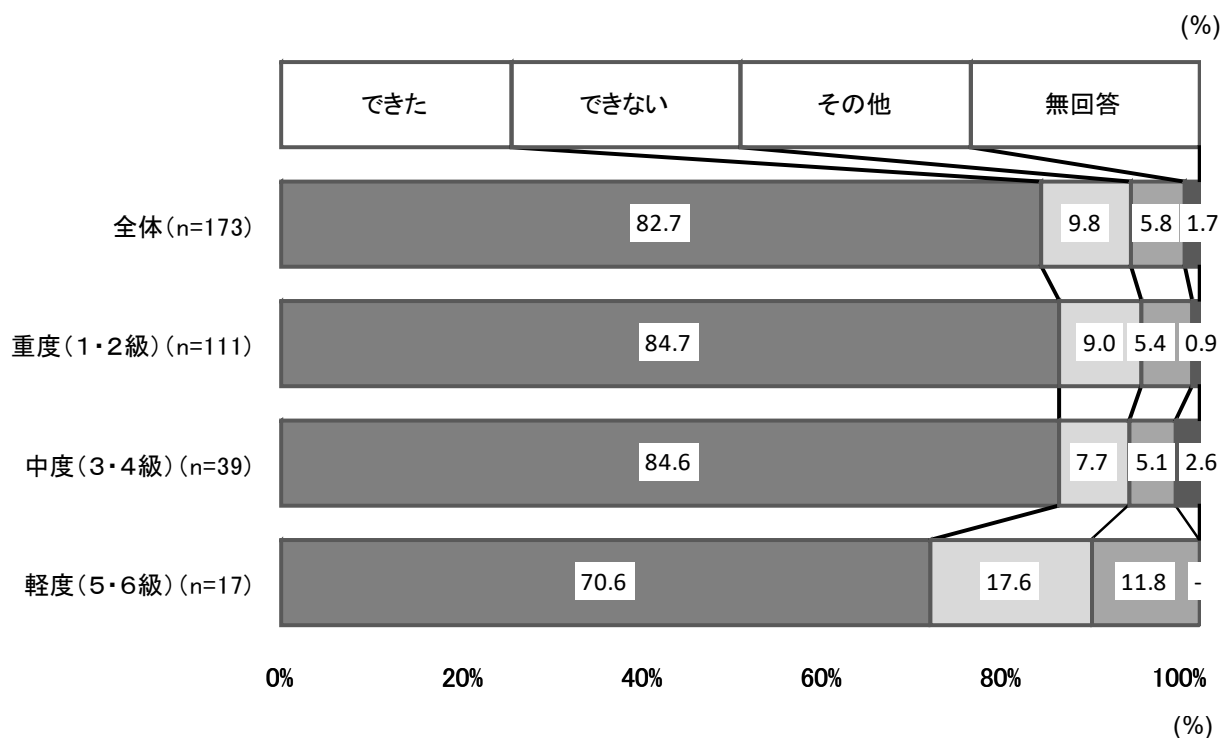


※ベース：合理的配慮を求めたことがある人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず、約7割～8割が合理的配慮を受けることが「できた」と回答している。

障害の種類別にみると、合理的配慮を受けることが「できた」人の割合は、視覚障害が78.6%、聴覚障害が77.5%、肢体不自由（上肢、下肢等）が83.6%となっている。

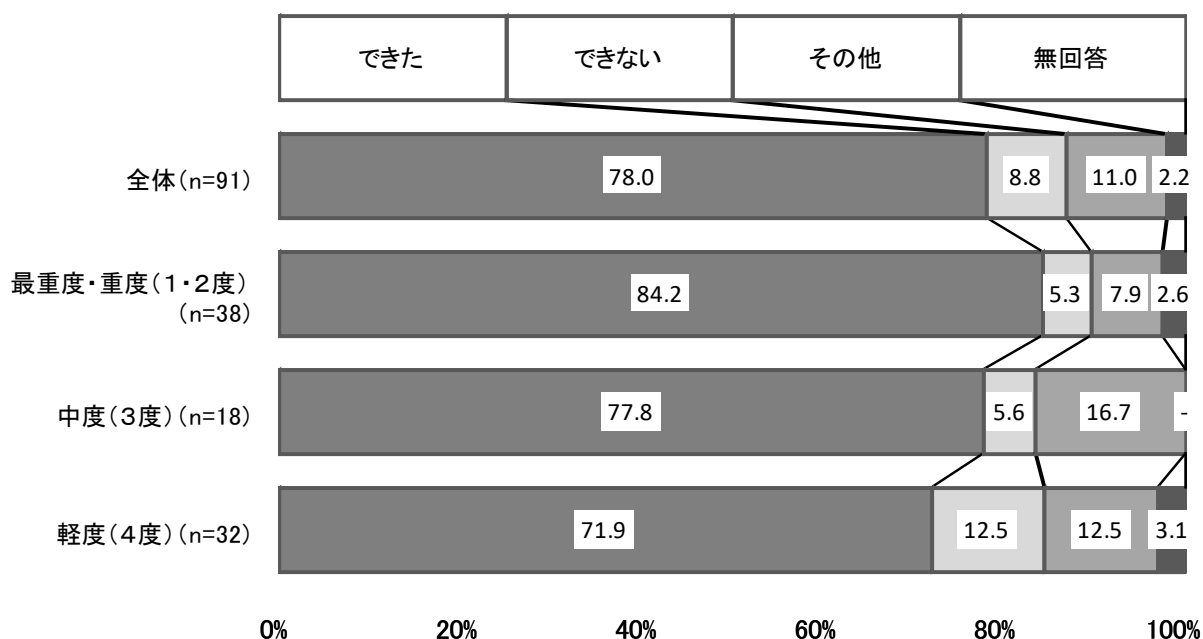


※ベース：合理的配慮を求めたことがある人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、合理的配慮を受けることが「できた」人の割合は、最重度・重度（１・２度）では 84.2%、中度（３度）では 77.8%、軽度（４度）では 71.9%と、程度が重いほど高くなっている。

(%)

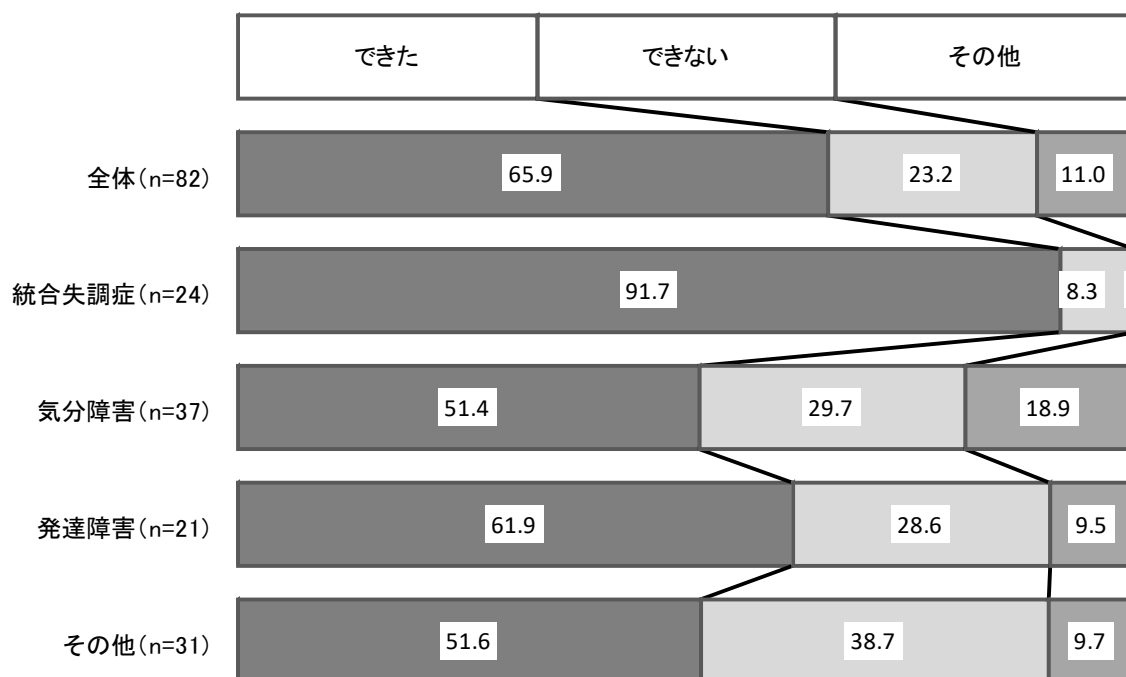


※ベース：合理的配慮を求めたことがある人

【精神障害者】

診断名別にみると、合理的配慮を受けることが「できた」人の割合は、統合失調症と診断されている人では 91.7%で最も高く、気分障害と診断されている人では 51.4%、発達障害と診断されている人では 61.9%となっている。

(%)

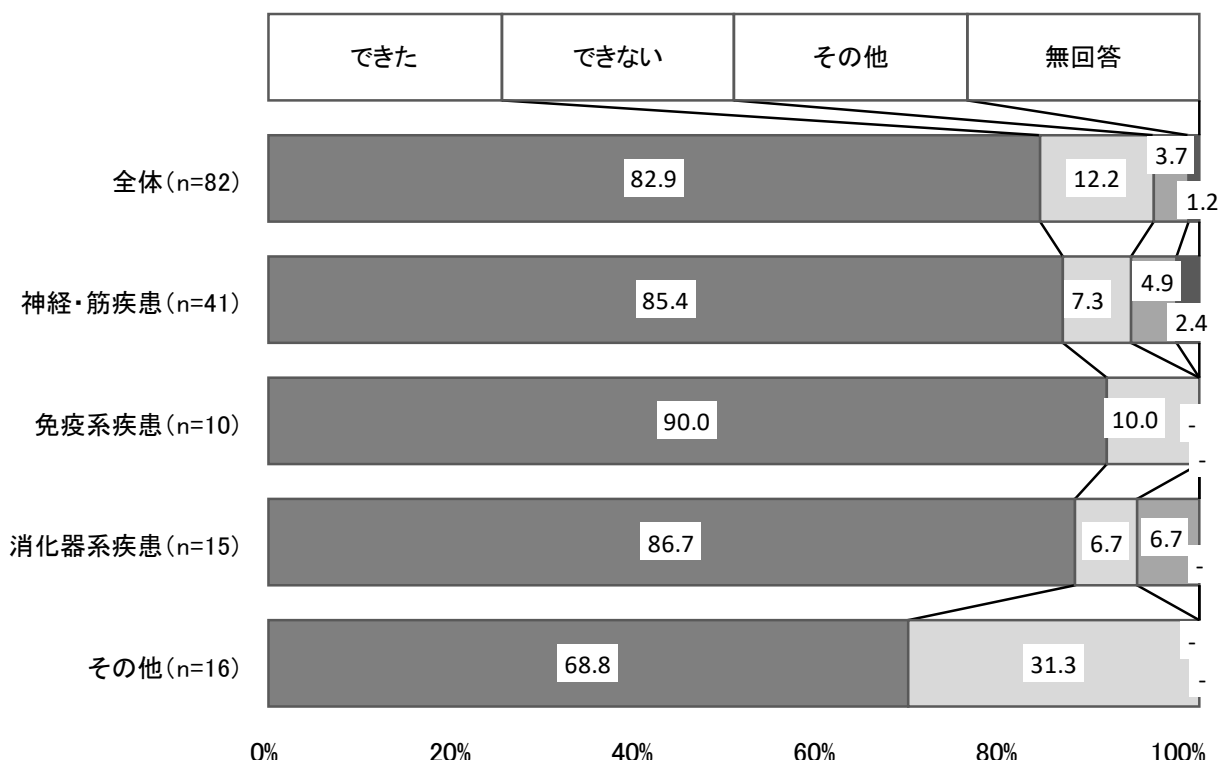


※ベース：合理的配慮を求めたことがある人

【難病患者】

疾患群別にみると、合理的配慮を受けることが「できた」人の割合は、神経・筋疾患では85.4%、免疫系疾患では90.0%、消化器系疾患では86.7%となっている。

(%)



※ベース：合理的配慮を求めたことがある人

③ 合理的配慮を求めたことがない理由

合理的配慮を求めたことがない人にその理由を聞いたところ、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者では「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」が最も多く、5割台から6割台となっている。施設入所者は、「合理的配慮について知らなかった」が48.1%と最も多くなっている。

(単位：%)

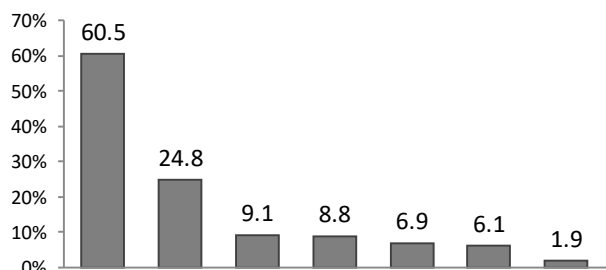
区 分	身体障害者 (n=375)	知的障害者 (n=321)	精神障害者 (n=326)	難病患者 (n=347)	施設入所者 (n=52)	児童発達支援事業利用者 (n=115)
合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない	60.5 (1位)	52.0 (1位)	54.6 (1位)	63.7 (1位)	30.8 (2位)	67.8 (1位)
そのときには、合理的配慮を求めることを思い浮かばなかった	8.8	15.3 (3位)	16.0 (3位)	7.8 (3位)	5.8	14.8 (2位)
合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった	9.1 (3位)	9.7	10.1	4.6	7.7	5.2
合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった	6.9	9.7	9.8	7.5	5.8	6.1
合理的配慮について知らなかった	24.8 (2位)	23.1 (2位)	28.5 (2位)	20.2 (2位)	48.1 (1位)	13.0 (3位)
その他	6.1	10.3	6.1	4.0	9.6	1.7
無回答	1.9	2.5	1.5	3.7	11.5 (3位)	2.6

※ベース：合理的配慮を求めたことがない人

【身体障害者】

障害の程度別にみると、「合理的配慮について知らなかった」と回答した人の割合は、程度が軽いほど高くなる傾向にあり、軽度（５・６級）では 29.2% となっている。

障害の種類別にみると、「合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった」と回答した人が、聴覚障害では 14.3%、肢体不自由（上肢、下肢等）では 12.2%、肢体不自由（体幹）では 16.7% となっている。



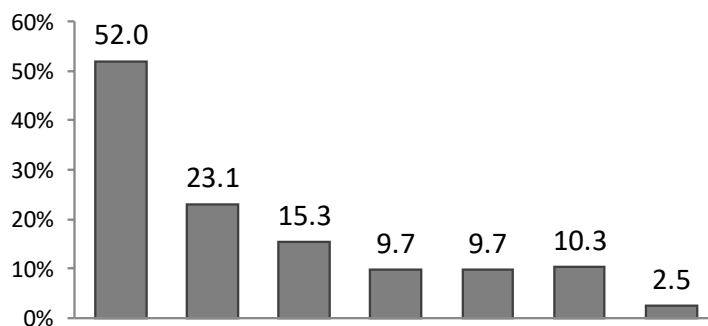
【障害の程度別】		n	1 面・合理的 機会に配慮 を必要とする 場合	5 合理的配慮 について知ら なかった	3 合理的配慮を 求めたが、周 围のことを考 えて遠慮した	2 求めるとき には、合理的 配慮を求め たい	4 合理的配慮を 求めたが、周 围のことを考 えて遠慮した	6 その他	7 無回答
0	全体	375	60.5	24.8	9.1	8.8	6.9	6.1	1.9
1	重度（１・２級）	191	63.4	22.5	7.3	9.4	4.7	5.2	2.6
2	中度（３・４級）	127	59.8	26.0	11.0	7.9	11.0	3.9	0.8
3	軽度（５・６級）	48	54.2	29.2	12.5	8.3	6.3	14.6	—

【障害の種類別】		n	1 面・合理的 機会に配慮 を必要とする 場合	5 合理的配慮 について知ら なかった	3 合理的配慮を 求めたが、周 围のことを考 えて遠慮した	2 求めるとき には、合理的 配慮を求め たい	4 合理的配慮を 求めたが、周 围のことを考 えて遠慮した	6 その他	7 無回答
1	視覚障害	44	52.3	25.0	6.8	11.4	4.5	13.6	—
2	聴覚障害	49	42.9	38.8	14.3	12.2	10.2	12.2	2.0
3	平衡機能障害	2	100.0	—	—	—	—	—	—
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	16	37.5	37.5	—	31.3	6.3	6.3	—
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	123	64.2	20.3	12.2	8.9	12.2	6.5	—
6	肢体不自由（体幹）	36	58.3	33.3	16.7	16.7	5.6	—	—
7	内部障害	122	68.9	18.9	4.9	5.7	2.5	3.3	3.3
8	その他	3	—	66.7	—	—	—	—	33.3

※合理的配慮がないと回答した人

【知的障害者】

障害の程度別にみると、「合理的配慮について知らなかった」と回答した人の割合は、程度が軽いほど高く、軽度（４度）では27.3%となっている。

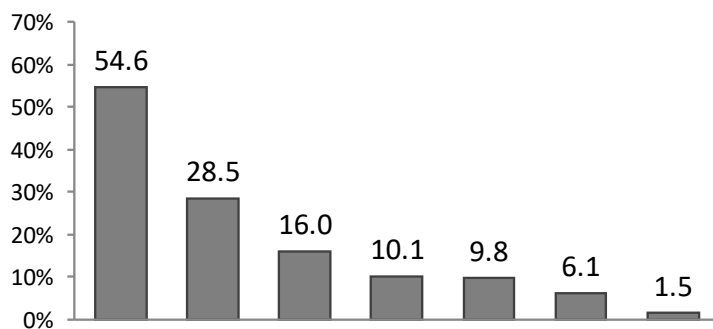


【障害程度別】			n	1 合理的配慮を必要としない場面・機会にあつたこと	5 合理的配慮について知らなかった	2 そのときには、合理的配慮を求め ることを思いつかなかった	3 合理的配慮を求めたが、周囲の ことを考えて遠慮してしまつた	4 合理的配慮を求めたが、配慮を 求めることを言い出さなかった	6 その他	7 無回答
0	全体		321	52.0	23.1	15.3	9.7	9.7	10.3	2.5
1	最重度・重度（１・２度）		102	43.1	19.6	17.6	15.7	15.7	10.8	1.0
2	中度（３度）		81	53.1	21.0	17.3	6.2	8.6	13.6	6.2
3	軽度（４度）		132	57.6	27.3	12.9	7.6	6.1	7.6	1.5

※合理的配慮がないと回答した人

【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では、69.4%が「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」と回答している。

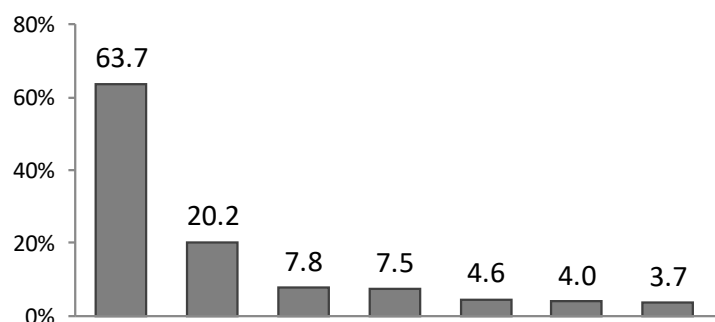


【診断名別】		n	1 合理的配慮を必要とする場面・機会 にあつたことがない	5 合理的配慮について知らなかった	2 そのときには、合理的配慮を求める ことを思いつかなかった	3 合理的配慮を求めたかったが、周囲の ことを考えて遠慮してしまった	4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を 求めることを言い出さなかった	6 その他	7 無回答
0	全体	326	54.6	28.5	16.0	10.1	9.8	6.1	1.5
1	統合失調症	62	69.4	30.6	14.5	12.9	8.1	4.8	3.2
2	気分障害	192	50.0	28.1	18.2	11.5	12.0	6.8	1.0
3	発達障害	41	46.3	31.7	19.5	12.2	17.1	9.8	2.4
4	その他	80	58.8	26.3	17.5	11.3	10.0	10.0	-

※合理的配慮がないと回答した人

【難病患者】

疾患群別にみると、いずれも「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」と回答した人が最も多くなっている。



【疾患群別】			n						
			1 合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない	5 合理的配慮について知らなかった	2 そのときには、合理的配慮を求めた	4 合理的配慮を求めたが、配慮を求めたことを言い出しにくかった	3 困った	6 その他	7 無回答
0	全体	347	63.7	20.2	7.8	7.5	4.6	4.0	3.7
1	神経・筋疾患	72	58.3	22.2	6.9	9.7	9.7	6.9	2.8
2	免疫系疾患	90	60.0	22.2	6.7	12.2	4.4	4.4	1.1
3	消化器系疾患	92	69.6	18.5	6.5	4.3	3.3	3.3	5.4
4	その他	96	62.5	19.8	11.5	6.3	3.1	2.1	4.2

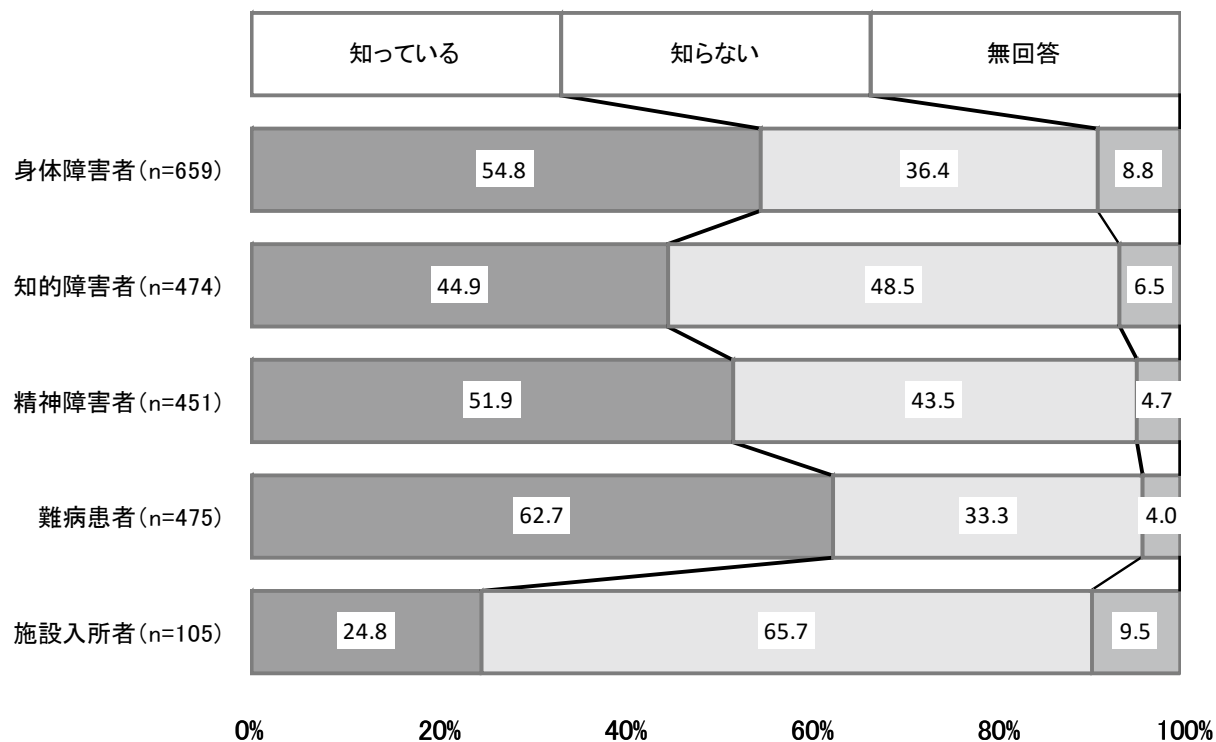
※合理的配慮がないと回答した人

(5) 成年後見制度

① 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度は、「知っている」と回答した人は、身体障害者が 54.8%、知的障害者が 44.9%、精神障害者が 51.9%、難病患者が 62.7%、施設入所者が 24.8%となっている。

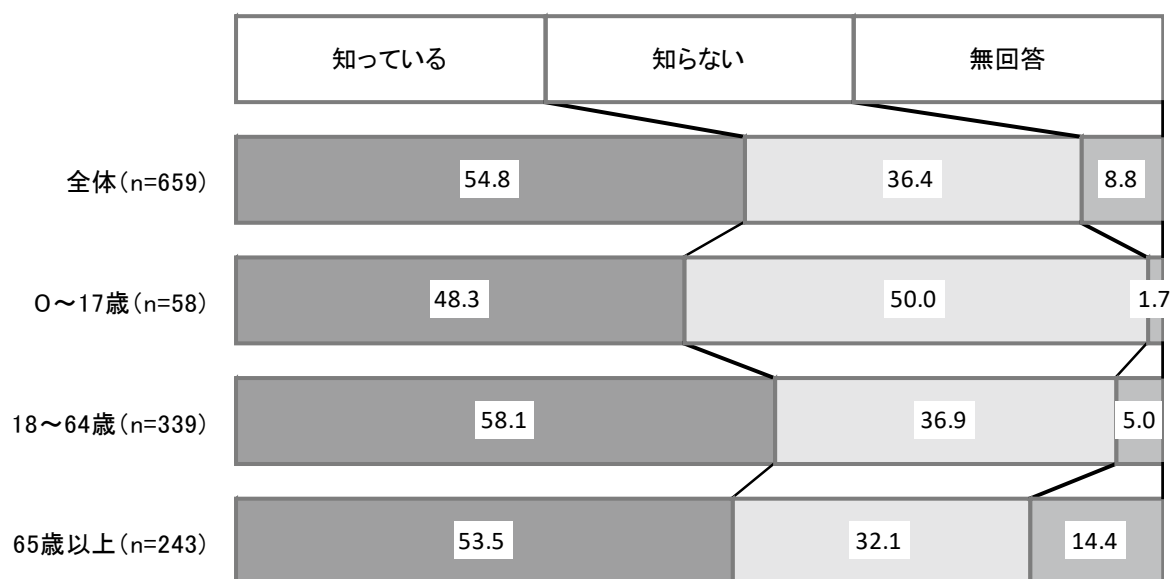
(%)



【身体障害者】

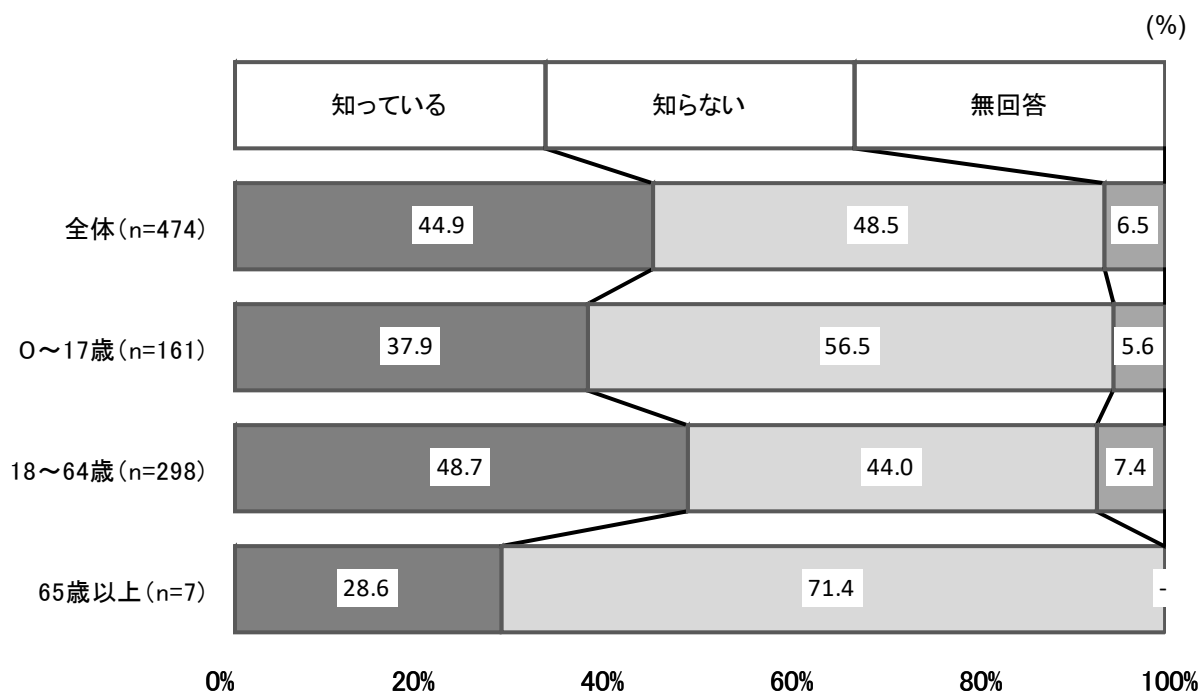
年齢 3 区分別にみると、0～17 歳のみ「知らない」が「知っている」を上回っている。

(%)



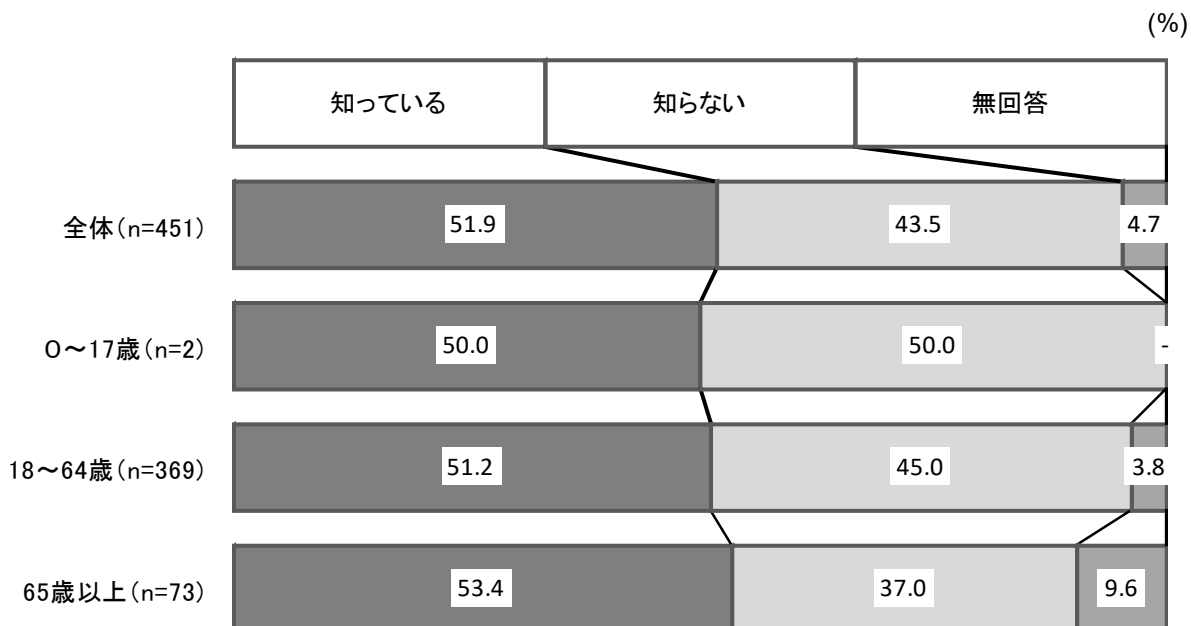
【知的障害者】

年齢3区分別にみると、成年後見制度を「知っている」人の割合は、0～17歳では37.9%、18～64歳では48.7%である。



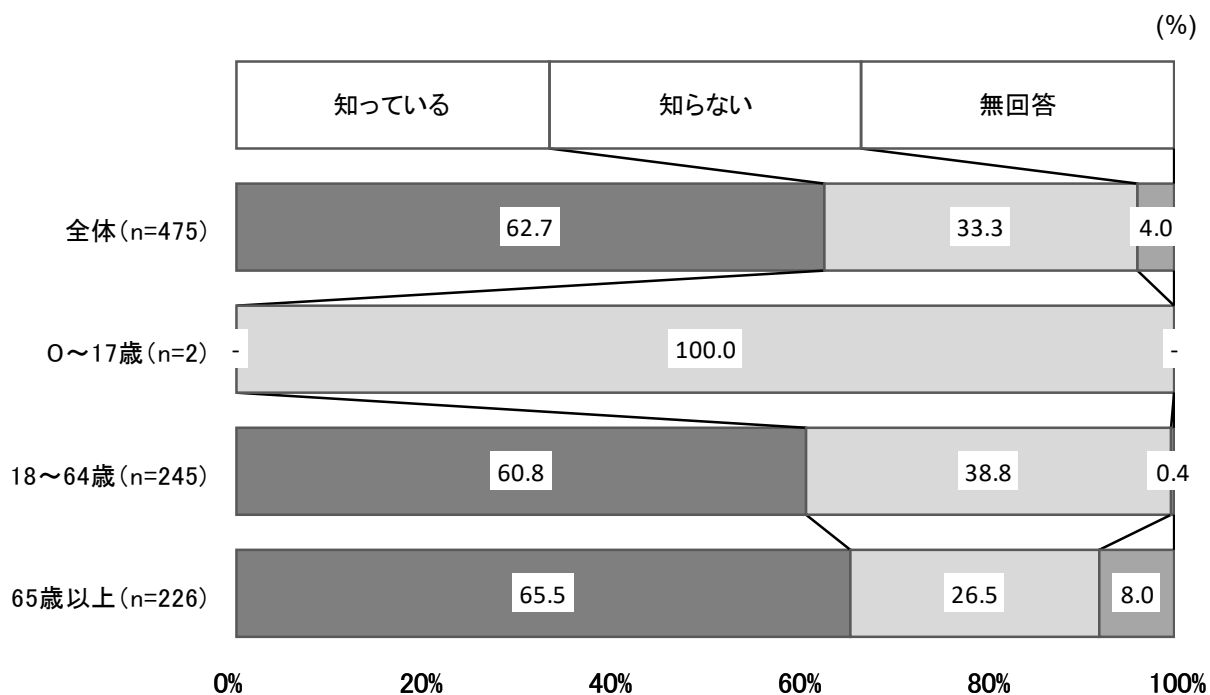
【精神障害者】

年齢3区分別にみると、いずれも約5割が「知っている」と回答している。



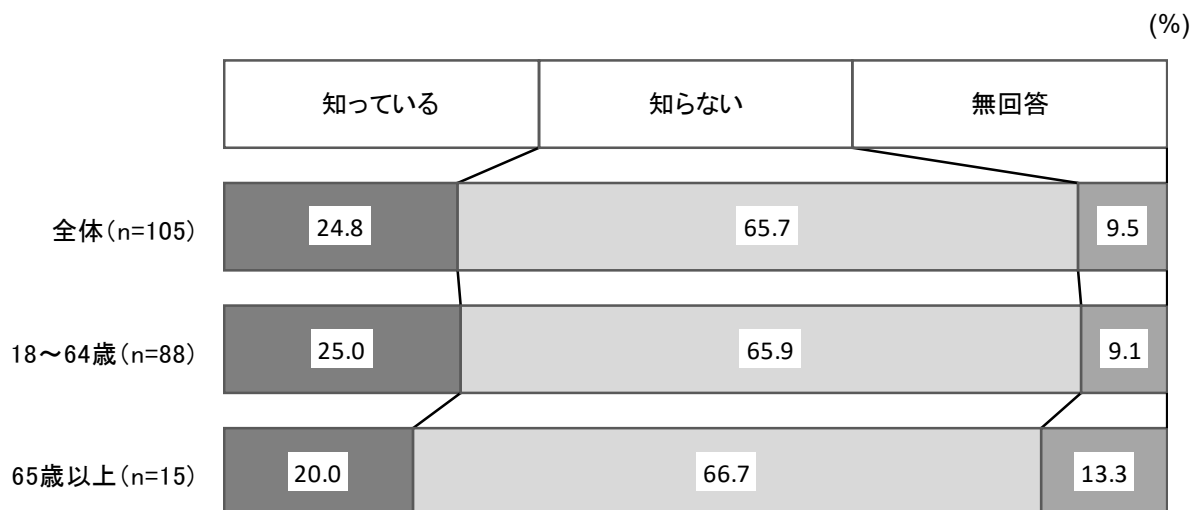
【難病患者】

年齢3区分別にみると、成年後見制度を「知っている」人の割合は、18～64歳では60.8%、65歳以上では65.5%となっている。



【施設入所者】

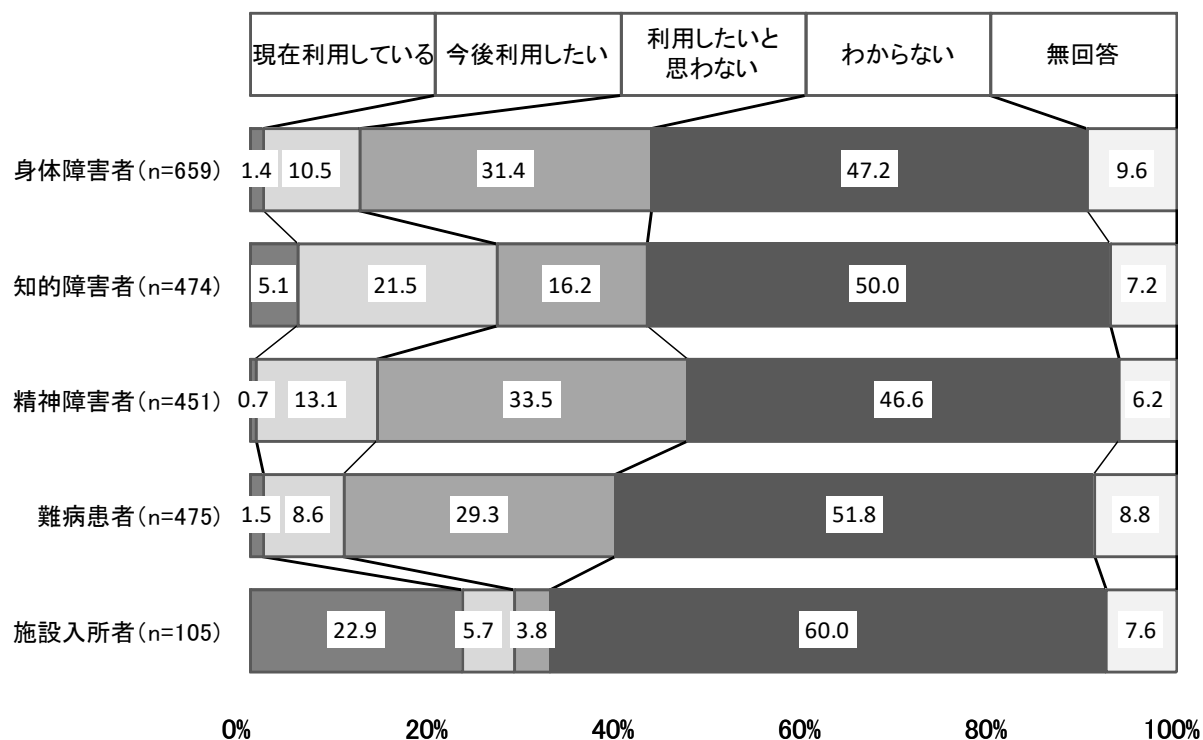
年齢区分別にみると、全体とほぼ同様の傾向を示している。



② 成年後見制度の利用意向

成年後見制度の利用意向では、いずれも「わからない」が4割強～6割を占めている。

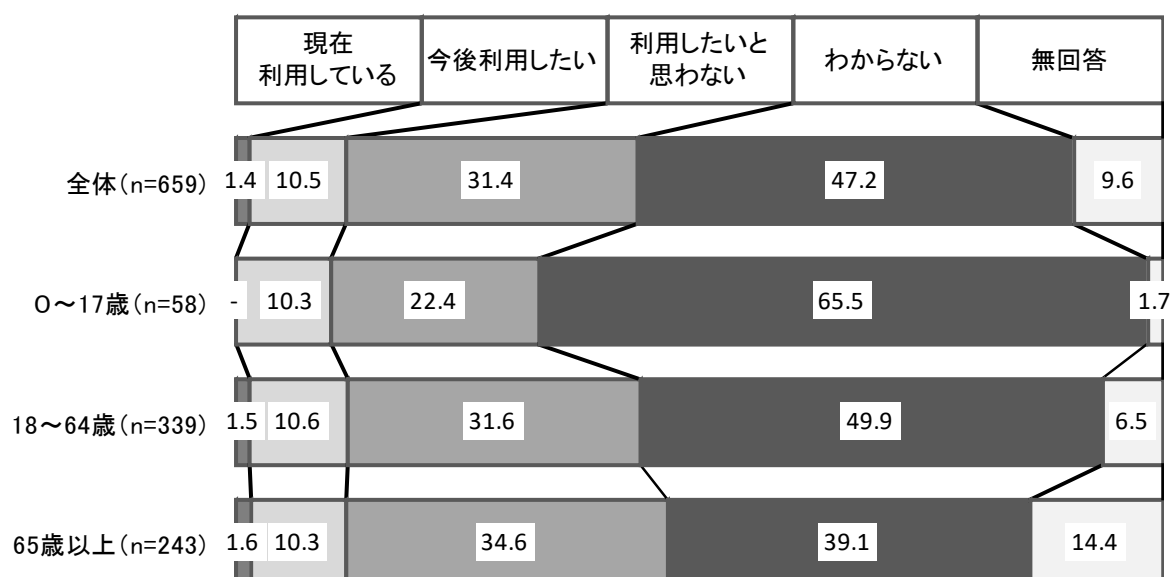
(%)



【身体障害者】

年齢3区分別にみると、18～64歳、65歳以上では、「利用したいと思わない」が3割を上回っている。

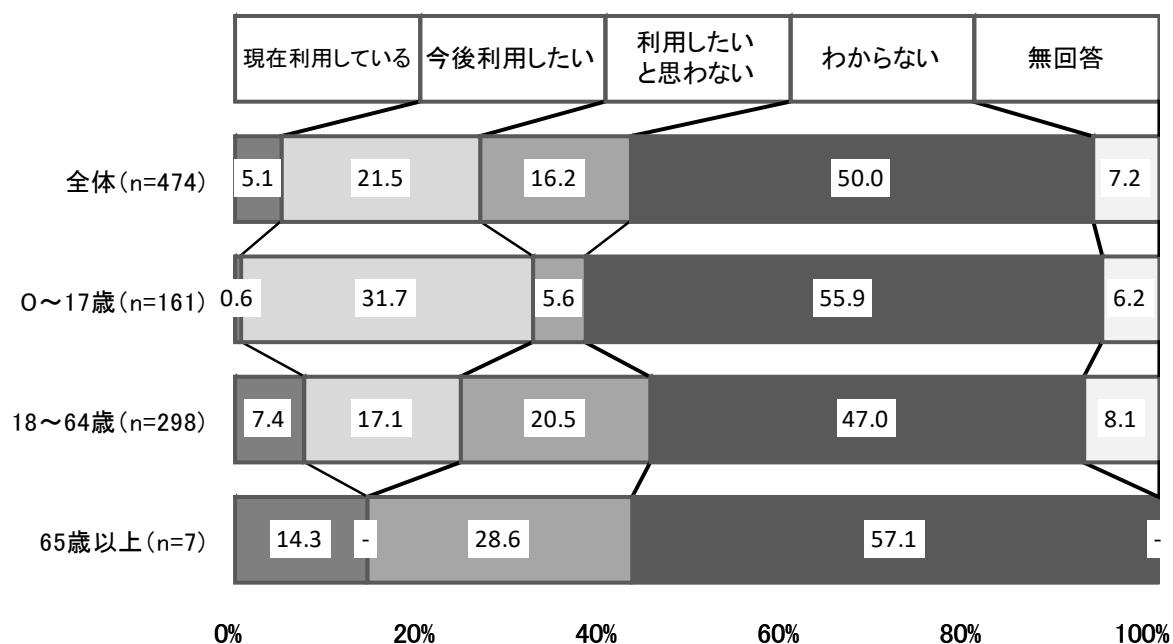
(%)



【知的障害者】

年齢3区分別にみると、0～17歳では、31.7%が「今後利用したい」と回答している。

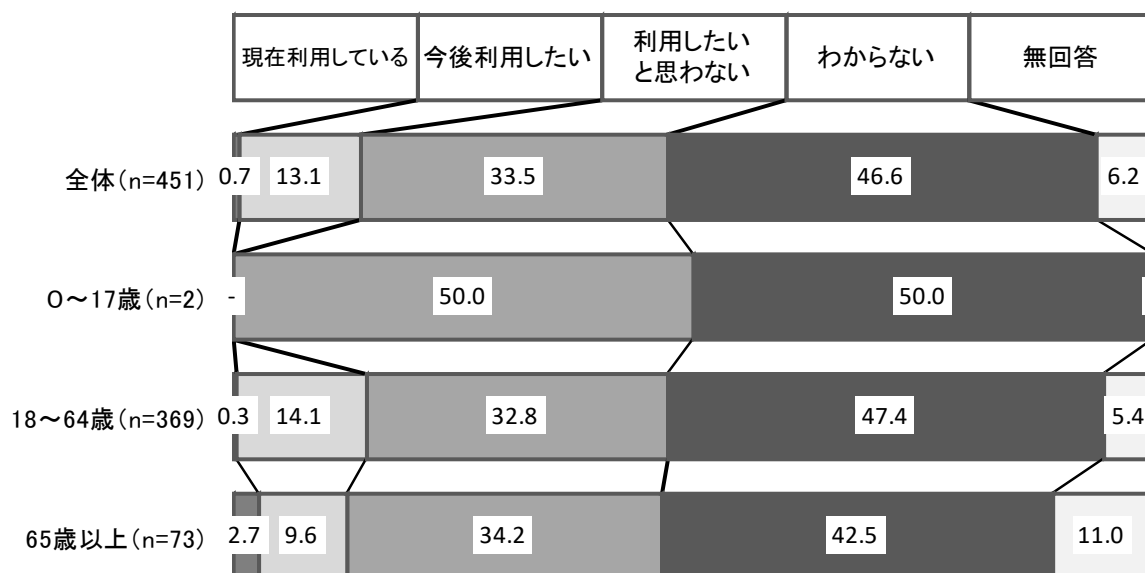
(%)



【精神障害者】

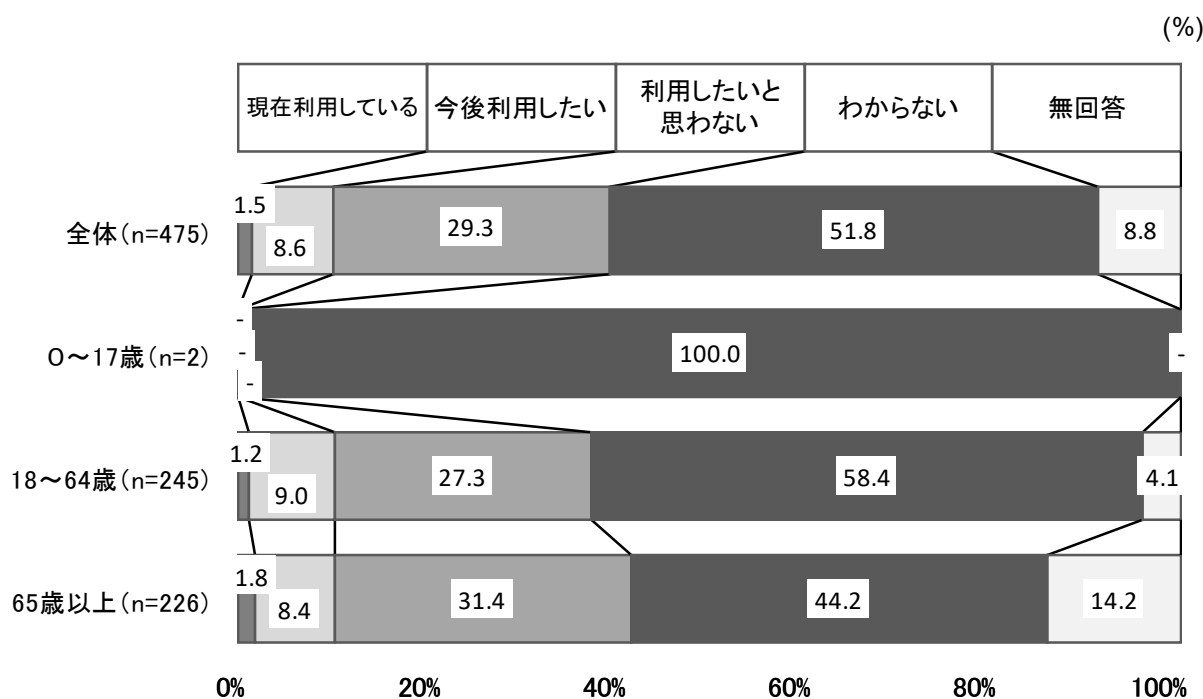
年齢3区分別にみると、18～64歳では、「今後利用したい」人は14.1%だが、47.4%は「わからない」と回答している。

(%)



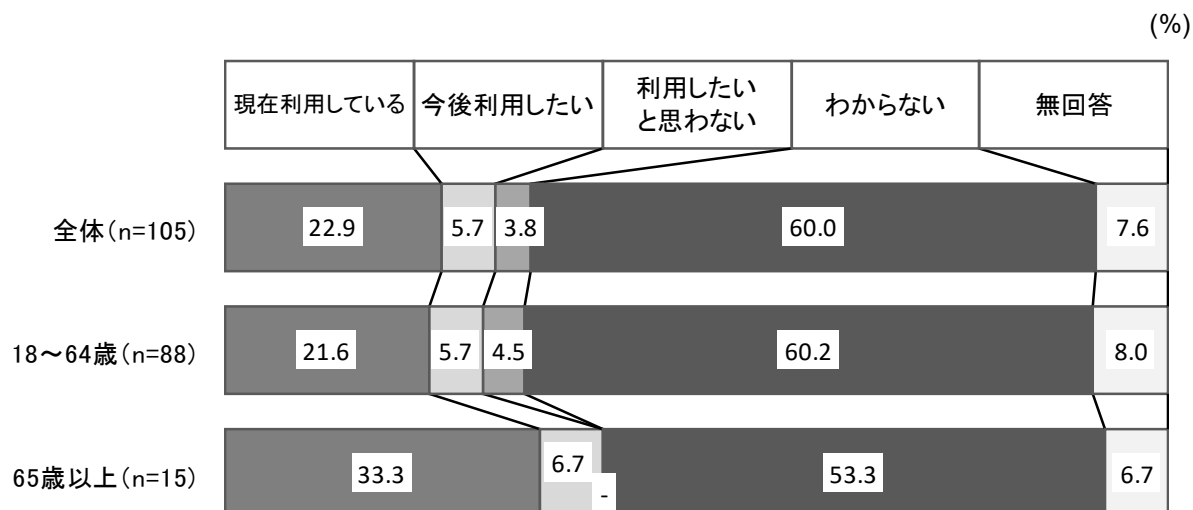
【難病患者】

年齢3区分別にみると、「今後利用したい」と回答した人の割合は、18～64歳では9.0%、65歳以上では8.4%となっている。



【施設入所者】

年齢区分別にみると、「現在利用している」と回答した人は、18～64歳では21.6%、65歳以上では33.3%となっている。



③ 成年後見制度を利用しない（したくない）理由（複数回答）

成年後見制度の利用意向で“利用したいと思わない”と回答した人の成年後見制度を利用しない（したくない）理由は、身体障害者、精神障害者、難病患者で「必要がない」が５割～６割となっている。また、「十分な支援が受けられるかわからない」は、身体障害者 16.9%、知的障害者 32.5%、精神障害者 24.5%、難病患者 13.7%となっている。知的障害者では「費用負担が大きい」が 36.4%と最も多くなっている。

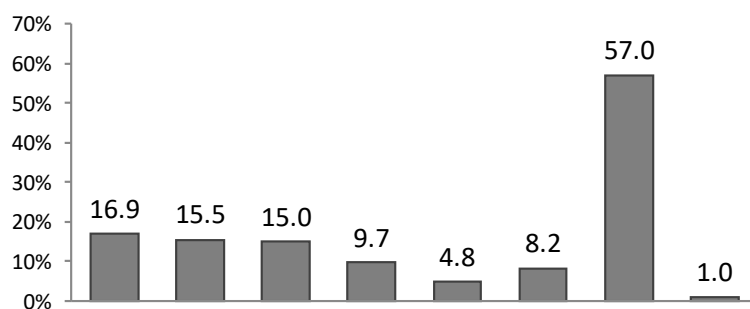
（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=207)	知的障害者 (n=77)	精神障害者 (n=151)	難病患者 (n=139)	施設入所者 (n=4)
手続きが難しい	9.7	32.5（２位）	13.9	7.2	－（３位）
費用負担が大きい	15.5（３位）	36.4（１位）	15.9	7.9	－（３位）
後見人が選任されるまでに時間がかかる	4.8	6.5	3.3	5.0	－（３位）
制度のしくみがよくわからない	15.0	26.0	19.9（３位）	15.1（２位）	－（３位）
十分な支援が受けられるかわからない	16.9（２位）	32.5（２位）	24.5（２位）	13.7（３位）	－（３位）
その他	8.2	19.5	13.9	9.4	25.0（２位）
必要がない	57.0（１位）	20.8	51.7（１位）	62.6（１位）	75.0（１位）
無回答	1.0	2.6	－	－	－（３位）

※ベース：成年後見制度の利用意向がない人

【身体障害者】

年齢3区分別にみると、65歳以上では「必要がない」が69.0%と多いが、18～64歳では、「十分な支援が受けられるかわからない」（21.5%）、「費用負担が大きい」（20.6%）、「制度のしくみがよくわからない」（19.6%）が、それぞれ約2割となっている。

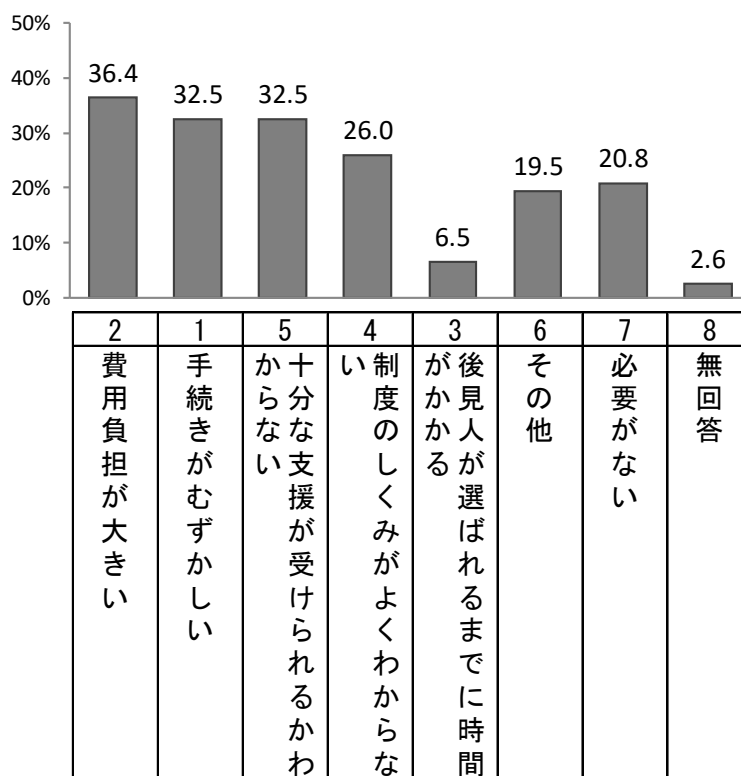


【年齢3区分別】		n	5 十分な支援が受けられるかわからない	2 費用負担が大きい	4 制度のしくみがよくわからない	1 手続きが難しい	3 後見人が選任されるまでに時間がかかる	6 その他	7 必要がない	8 無回答
0	全体	207	16.9	15.5	15.0	9.7	4.8	8.2	57.0	1.0
1	0～17歳	13	15.4	23.1	7.7	—	—	23.1	61.5	—
2	18～64歳	107	21.5	20.6	19.6	15.0	6.5	7.5	47.7	—
3	65歳以上	84	10.7	8.3	9.5	3.6	3.6	7.1	69.0	2.4

※ベース：成年後見制度の利用意向がない人

【知的障害者】

年齢3区分別にみると、18～64 歳では「十分な支援が受けられるかわからない」が 37.7%と最も多く、次いで「費用負担が大きい」（36.1%）、「手続きがむずかしい」（34.4%）となっている。

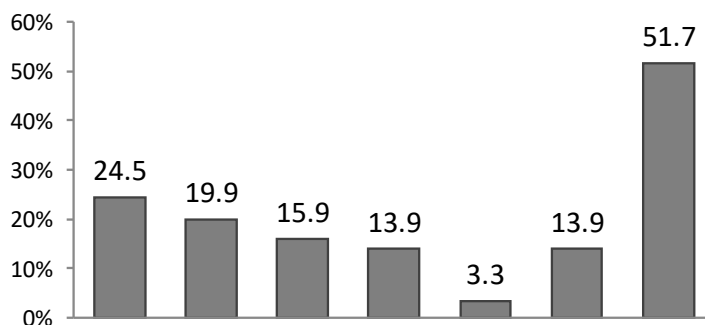


【年齢3区分別】		n	2 費用負担が大きい	1 手続きがむずかしい	5 十分な支援が受けられるかわからない	4 制度のしくみがよくわからない	3 後見人が選ばれるまでに時間がかかる	6 その他	7 必要がない	8 無回答
0	全体	77	36.4	32.5	32.5	26.0	6.5	19.5	20.8	2.6
1	0～17歳	9	44.4	44.4	22.2	44.4	11.1	22.2	22.2	—
2	18～64歳	61	36.1	34.4	37.7	24.6	6.6	18.0	19.7	1.6
3	65歳以上	2	—	—	—	—	—	—	50.0	50.0

※ベース：成年後見制度の利用意向がない人

【精神障害者】

年齢3区分別にみると、18～64歳では、25.6%が「十分な支援が受けられるかわからない」と回答している。

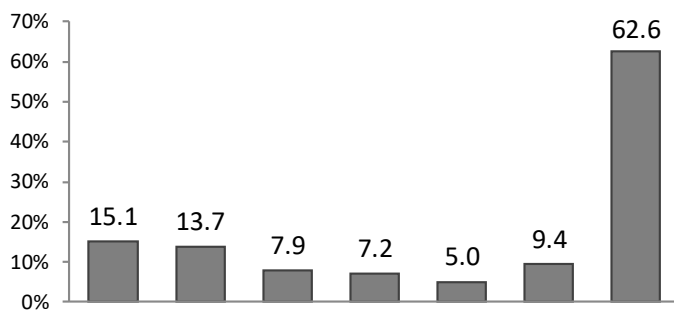


【年齢3区分別】			n						
			5	4	2	1	3	6	7
			から十分な支援が受けられるかわ	い制度のしくみがよくわからな	費用負担が大きい	手続きが難しい	間が見人が選任されるまでに時	その他	必要がない
0	全体	151	24.5	19.9	15.9	13.9	3.3	13.9	51.7
1	0～17歳	1	100.0	–	–	–	–	100.0	–
2	18～64歳	121	25.6	19.8	17.4	15.7	4.1	11.6	53.7
3	65歳以上	25	20.0	20.0	8.0	8.0	–	24.0	44.0

※ベース：成年後見制度の利用意向がない人

【難病患者】

年齢区分別にみると、18～64 歳では「十分な支援が受けられるかわからない」が 13.4%と多く、65 歳以上では「制度のしくみがよくわからない」が 18.3%と多くなっている。なお、「必要がない」と回答した人の割合は、18～64 歳では 70.1%、65 歳以上では 54.9%となっている。

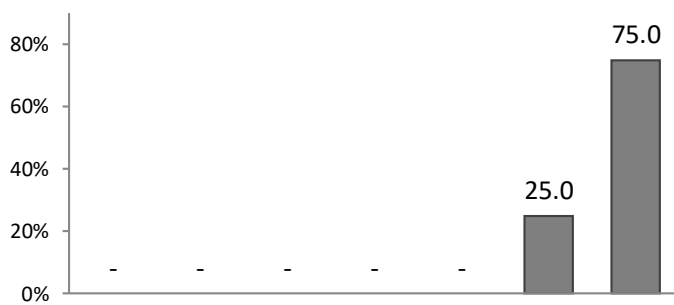


【年齢区分別】		n	4 制度のしくみがよくわからない	5 十分な支援が受けられるかわからない	2 費用負担が大きい	1 手続きが難しい	3 後見人が選任されるまでに時間がかかる	6 その他	7 必要がない
0	全体	139	15.1	13.7	7.9	7.2	5.0	9.4	62.6
1	18～64歳	67	11.9	13.4	4.5	6.0	6.0	4.5	70.1
2	65歳以上	71	18.3	14.1	11.3	8.5	4.2	14.1	54.9

※ベース：成年後見制度の利用意向がない人

【施設入所者】

18～64 歳では 4 人中 3 人（75.0%）が「必要がない」と回答している。



【年齢区分別】			n						
			1	2	3	4	5	6	7
			手続きがむずかしい	費用負担が大きい	後見人が選ばれるまでに時間がかかる	制度のしくみがよくわからない	十分な支援が受けられない	その他	必要がない
0	全体	4	-	-	-	-	-	25.0	75.0
1	18～64歳	4	-	-	-	-	-	25.0	75.0

※ベース：成年後見制度の利用意向がない人

13 障害者施策全般について

(1) 障害者施策を充実するために必要なこと（複数回答）

障害者施策を充実するために必要なことは、身体障害者では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること」、知的障害者では「当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること」、精神障害者では「障害の早期発見・早期療育に努めること」、難病患者では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」、施設入所者では「障害のある人とない人の交流をすすめること、お互いの理解を深めること」、児童発達支援事業利用者では「障害の早期発見・早期療育に努めること」、「障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること」が最も多くなっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
障害の早期発見・早期療育に努めること	27.6	41.1	50.6（1位）	39.8	21.9	70.1（1位）
障害のある人とない人の交流を進め、相互理解を深めること	32.3	45.1	29.9	25.1	39.0（1位）	52.0（3位）
障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	30.0	56.8（2位）	35.5	31.2	29.5	70.1（1位）
障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	43.1（2位）	53.6（3位）	49.2（2位）	42.9（1位）	23.8	
ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	28.2	34.6	22.4	28.4	22.9	14.2
区内で利用できる施設を整備すること	31.0	44.7	30.4	28.6	18.1	41.7
障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	48.3（1位）	46.0	37.9	40.6（2位）	33.3（2位）	29.1
障害のある人の住まい（公営住宅やグループホームなど）を整備すること	29.9	52.7	32.8	25.7	21.0	
文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること	18.7	28.1	23.3	16.8	20.0	25.2
障害のある当事者による活動を支援すること	17.6	24.1	22.8	18.9	11.4	19.7
ボランティア活動を充実すること	13.5	15.4	15.1	12.6	14.3	9.4
障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	36.1	36.1	35.9	33.3	22.9	22.8
相談体制を充実し、適切な支援をすること	36.4	50.6	42.6	35.4	31.4	36.2
当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	39.2（3位）	61.2（1位）	44.1（3位）	40.4（3位）	32.4（3位）	40.9
その他	2.7	3.8	6.7	2.1	5.7	3.9
特になし	6.7	3.4	8.2	6.7	19.0	4.7
無回答	9.0	7.0	5.3	6.3	10.5	1.6

【前回調査との比較】

（単位：％）

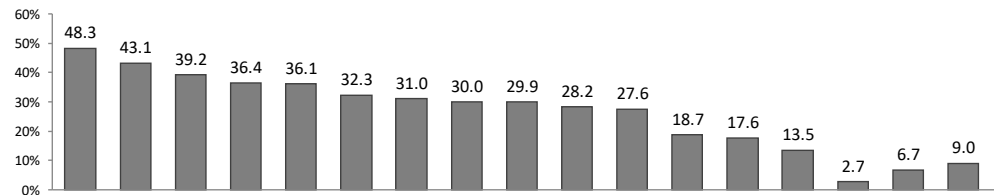
区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=659)	やさしい福祉のまちづくりを推進すること (48.3)	働く場の確保や働き続けるための支援の充実 (43.1)	家族を支える支援を充実すること (39.2)
	前回 (n=558)	やさしい福祉のまちづくりを推進すること (42.1)	働く場の確保や働き続けるための支援の充実 (38.2)	家族を支える支援を充実すること (37.1)
知的障害者	今回 (n=474)	家族を支える支援を充実すること (61.2)	障害のある子どもそれぞれに応じた教育の推進 (56.8)	働く場の確保や働き続けるための支援の充実 (53.6)
	前回 (n=248)	働く場の確保や働き続けるための支援の充実 (55.2)	家族を支える支援を充実すること (50.8)	障害のある子どもそれぞれに応じた教育の推進 (48.0)
精神障害者	今回 (n=451)	早期発見・早期療育に努めること (50.6)	働く場の確保や働き続けるための支援の充実 (49.2)	家族を支える支援を充実すること (44.1)
	前回 (n=434)	働く場の確保や働き続けるための支援の充実 (50.7)	障害の早期発見・早期療育に努めること (47.5)	相談体制の充実/家族支援の充実 (同率38.5)
施設入所者	今回 (n=105)	障害のある人とない人の交流を進め、相互理解を深めること (39.0)	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること (33.3)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (32.4)
	前回 (n=100)	相互理解を深めること/家族支援の充実 (同率37.0)		やさしい福祉のまちづくりを推進すること (36.0)

【身体障害者】

障害の程度別にみると、全体とほぼ同様の傾向を示している。

障害の種類別にみると、視覚障害と肢体不自由（上肢、下肢等）では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること」をあげる人が最も多く（それぞれ48.5%、55.3%）、聴覚障害と内部障害では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」をあげる人が最も多い（それぞれ55.6%、38.4%）。

年齢3区分別にみると、0～17歳では「障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること」（72.4%）と「当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること」（70.7%）がそれぞれ7割以上と多い。18～64歳では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が51.0%と最も多い。



【障害の程度別】		n	7	4	14	13	12	2	6	3	8	5	1	9	10	11	15	16	17
			障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	相談体制を充実し、適切な支援をすること	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること	区内で利用できる施設を整備すること	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	グループホームなど（公営住宅やとグ	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	障害の早期発見・早期療育に努めること	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること	障害のある当事者による活動を支援すること	ボランティア活動を充実すること	その他	特にな	無回答
0	全体	659	48.3	43.1	39.2	36.4	36.1	32.3	31.0	30.0	29.9	28.2	27.6	18.7	17.6	13.5	2.7	6.7	9.0
1	重度（1・2級）	371	48.2	43.7	40.4	38.3	36.9	33.4	28.6	31.5	31.0	29.4	25.3	19.7	18.3	13.2	3.2	6.2	9.7
2	中度（3・4級）	191	45.0	42.4	40.3	34.0	37.2	33.0	34.0	29.3	29.8	27.2	31.4	17.8	17.3	14.7	3.1	5.8	7.3
3	軽度（5・6級）	79	51.9	41.8	30.4	34.2	30.4	25.3	30.4	24.1	24.1	24.1	27.8	16.5	15.2	10.1	-	10.1	11.4

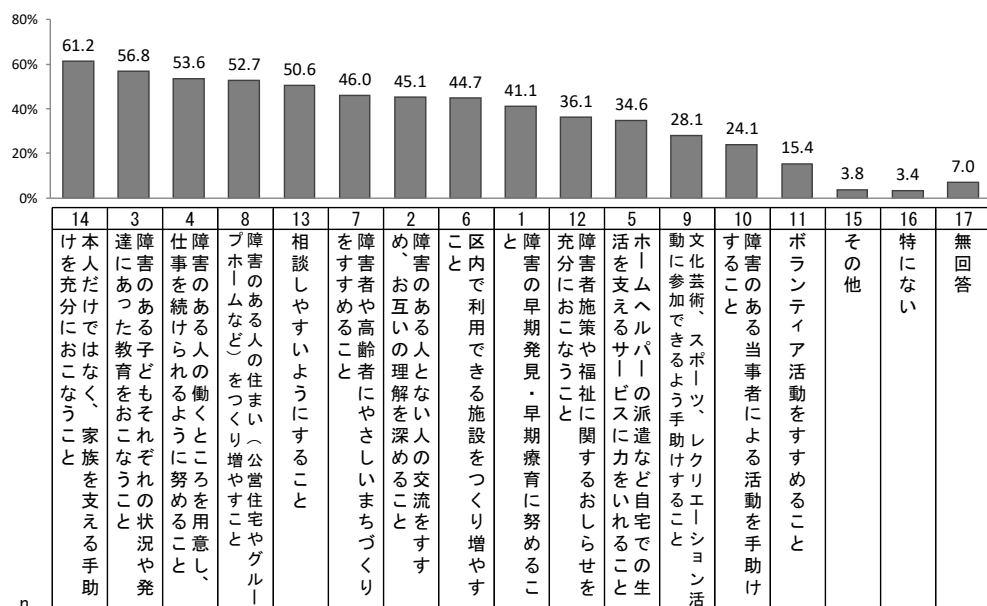
【障害の種類別】		n	7	4	14	13	12	2	6	3	8	5	1	9	10	11	15	16	17
			障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	相談体制を充実し、適切な支援をすること	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること	区内で利用できる施設を整備すること	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	グループホームなど（公営住宅やとグ	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	障害の早期発見・早期療育に努めること	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること	障害のある当事者による活動を支援すること	ボランティア活動を充実すること	その他	特にな	無回答
1	視覚障害	101	48.5	47.5	37.6	46.5	35.6	31.7	26.7	28.7	30.7	35.6	23.8	20.8	21.8	12.9	2.0	9.9	8.9
2	聴覚障害	99	51.5	55.6	38.4	37.4	43.4	47.5	33.3	43.4	33.3	26.3	38.4	28.3	24.2	18.2	4.0	7.1	4.0
3	平衡機能障害	4	25.0	50.0	-	-	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	29	55.2	31.0	24.1	27.6	44.8	31.0	27.6	24.1	24.1	24.1	20.7	6.9	17.2	10.3	3.4	6.9	10.3
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	208	55.3	45.2	51.9	38.0	39.4	38.0	42.3	34.6	39.4	37.0	28.4	22.1	20.2	17.8	3.4	2.9	8.2
6	肢体不自由（体幹）	77	58.4	40.3	58.4	45.5	39.0	32.5	40.3	42.9	41.6	45.5	29.9	22.1	22.1	19.5	5.2	1.3	9.1
7	内部障害	185	37.3	38.4	30.8	31.4	30.3	16.8	16.8	20.5	20.5	15.1	21.1	9.2	8.6	7.0	1.1	8.6	11.9
8	その他	8	25.0	12.5	-	12.5	37.5	12.5	25.0	-	12.5	12.5	12.5	12.5	-	-	12.5	12.5	25.0

【年齢3区分別】		n	7	4	14	13	12	2	6	3	8	5	1	9	10	11	15	16	17
			障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	相談体制を充実し、適切な支援をすること	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること	区内で利用できる施設を整備すること	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	グループホームなど（公営住宅やとグ	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	障害の早期発見・早期療育に努めること	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること	障害のある当事者による活動を支援すること	ボランティア活動を充実すること	その他	特にな	無回答
1	0～17歳	58	53.4	55.2	70.7	58.6	51.7	53.4	48.3	72.4	36.2	31.0	43.1	37.9	25.9	17.2	6.9	1.7	1.7
2	18～64歳	339	48.4	51.0	38.6	36.6	37.2	34.2	29.5	31.3	33.9	27.1	29.8	16.8	19.8	14.2	2.9	6.2	5.3
3	65歳以上	243	47.7	29.6	32.9	30.0	30.9	24.3	28.4	18.9	23.0	28.8	21.4	17.3	12.8	11.9	0.8	8.6	14.4

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）では、「本人だけでなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと」が74.7%と最も多く、次いで「障害のある人の住まい（公営住宅やグループホームなど）をつくり増やすこと」、「区内で利用できる施設をつくり増やすこと」がそれぞれ64.2%となっている。

年齢３区分別にみると、０～１７歳では、「障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと」が72.0%と最も多く、次いで「障害のある人の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること」が66.5%となっている。１８～６４歳では、「本人だけでなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと」が60.7%と最も多く、次いで「障害のある人の住まい（公営住宅やグループホームなど）をつくり増やすこと」が51.3%となっている。



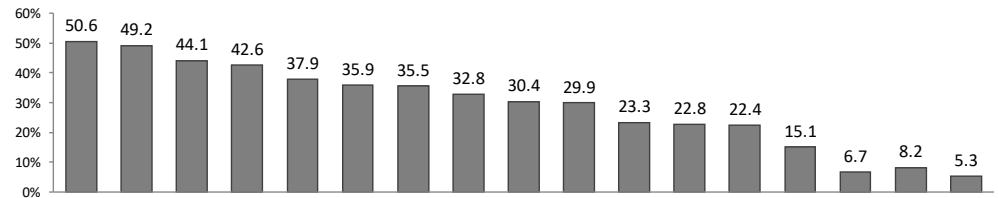
【障害程度別】		n	14	3	4	8	13	7	2	6	1	12	5	9	10	11	15	16	17
0	全体	474	61.2	56.8	53.6	52.7	50.6	46.0	45.1	44.7	41.1	36.1	34.6	28.1	24.1	15.4	3.8	3.4	7.0
1	最重度・重度（１・２度）	162	74.7	62.3	46.9	64.2	53.7	59.3	46.9	64.2	47.5	45.7	54.3	32.7	32.1	19.8	5.6	1.9	4.9
2	中度（３度）	116	55.2	55.2	55.2	52.6	44.0	39.7	43.1	39.7	34.5	30.2	25.9	20.7	23.3	13.8	4.3	2.6	6.9
3	軽度（４度）	181	55.8	53.0	59.7	44.2	53.6	39.2	46.4	32.6	40.3	32.6	23.2	28.2	18.2	12.2	2.2	5.0	7.7

【年齢３区分別】		n	14	3	4	8	13	7	2	6	1	12	5	9	10	11	15	16	17
1	０～１７歳	161	65.8	72.0	66.5	56.5	54.7	49.7	51.6	45.3	46.6	41.6	30.4	33.5	29.2	14.3	5.0	1.2	6.2
2	１８～６４歳	298	60.7	49.7	47.3	51.3	49.3	45.6	43.0	46.0	39.3	33.9	37.6	26.2	22.1	16.4	3.0	4.0	6.7
3	６５歳以上	7	14.3	28.6	28.6	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	-	14.3	28.6

【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では、「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が69.6%と最も多くなっている。

年齢3区分別にみると、18～64歳では、「障害の早期発見・早期療育に努めること」が53.7%と最も多く、次いで「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が52.6%となっている。

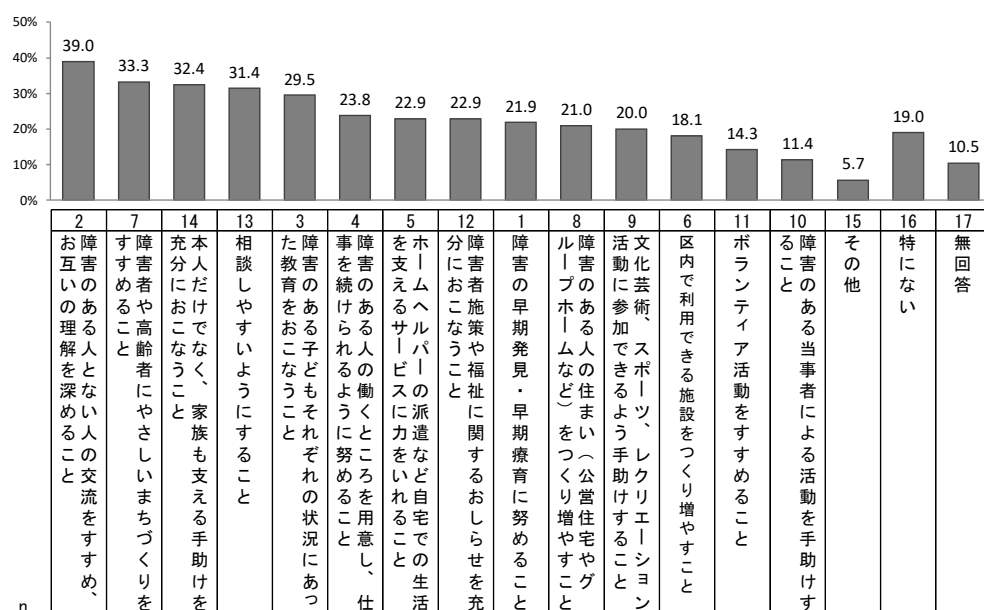


【診断名別】		n	1 障害の早期発見・早期療育に努めること	4 障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	14 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	13 相談体制を充実し、適切な支援をすること	7 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	12 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	3 障害に応じた教育を進めること	8 障害のある人の住まい（公営住宅やグループホームなど）を整備すること	6 区内で利用できる施設を整備すること	2 相互理解を深めること	9 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるように支援すること	10 障害のある当事者による活動を支援すること	5 ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	11 ボランティア活動を充実すること	15 その他	16 特になし	17 無回答
0	全体	451	50.6	49.2	44.1	42.6	37.9	35.9	35.5	32.8	30.4	29.9	23.3	22.8	22.4	15.1	6.7	8.2	5.3
1	統合失調症	101	52.5	52.5	48.5	40.6	46.5	38.6	37.6	39.6	27.7	35.6	28.7	26.7	28.7	18.8	8.9	6.9	5.9
2	気分障害	239	52.3	48.5	43.9	43.1	35.6	35.1	33.5	27.6	29.7	28.5	22.2	19.7	19.7	14.2	7.1	9.2	4.6
3	発達障害	69	50.7	69.6	47.8	49.3	39.1	44.9	52.2	42.0	43.5	42.0	23.2	34.8	27.5	21.7	10.1	7.2	-
4	その他	123	48.8	43.9	46.3	45.5	37.4	38.2	35.0	30.1	32.5	30.1	19.5	23.6	19.5	14.6	7.3	6.5	7.3

【年齢3区分別】		n	1 障害の早期発見・早期療育に努めること	4 障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	14 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	13 相談体制を充実し、適切な支援をすること	7 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	12 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	3 障害に応じた教育を進めること	8 障害のある人の住まい（公営住宅やグループホームなど）を整備すること	6 区内で利用できる施設を整備すること	2 相互理解を深めること	9 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるように支援すること	10 障害のある当事者による活動を支援すること	5 ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	11 ボランティア活動を充実すること	15 その他	16 特になし	17 無回答
1	0～17歳	2	-	100.0	50.0	50.0	-	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
2	18～64歳	369	53.7	52.6	47.4	43.9	38.2	37.9	37.4	35.2	31.2	32.0	23.8	24.7	23.3	16.3	7.0	7.9	3.5
3	65歳以上	73	39.7	32.9	30.1	38.4	39.7	27.4	26.0	23.3	27.4	20.5	21.9	16.4	19.2	11.0	4.1	8.2	15.1

【施設入所者】

年齢区分別にみると、18～64歳では、「障害のある人となない人の交流をすすめ、お互いの理解を深めること」が40.9%と最も多く、次いで「本人だけでなく、家族も支える手助けを充分におこなうこと」が33.0%となっている。



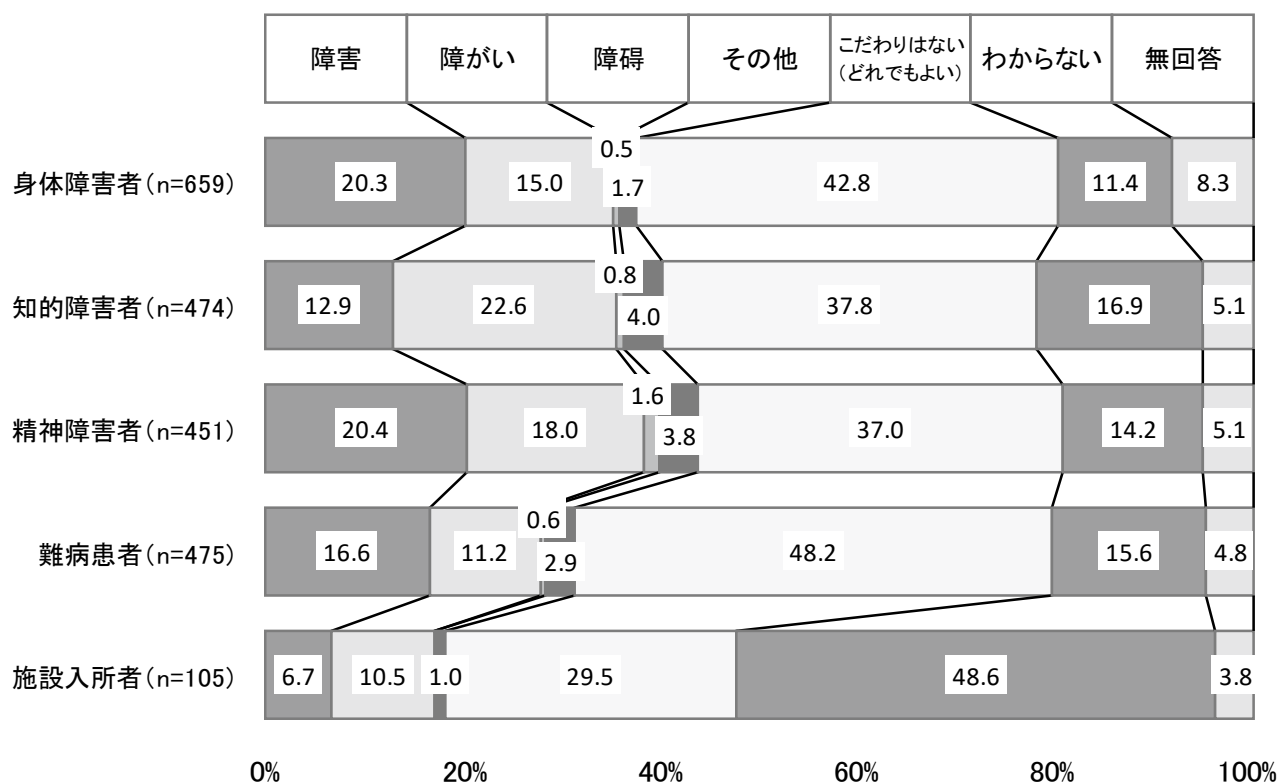
【年齢区分別】		n	2	7	14	13	3	4	5	12	1	8	9	6	11	10	15	16	17
0	全体	105	39.0	33.3	32.4	31.4	29.5	23.8	22.9	22.9	21.9	21.0	20.0	18.1	14.3	11.4	5.7	19.0	10.5
1	18～64歳	88	40.9	30.7	33.0	30.7	30.7	23.9	25.0	20.5	22.7	20.5	18.2	18.2	13.6	12.5	6.8	19.3	11.4
2	65歳以上	15	26.7	46.7	20.0	33.3	20.0	20.0	13.3	33.3	20.0	26.7	26.7	20.0	13.3	6.7	-	20.0	6.7

(2) 「障害」という言葉の表記

① 最もよいと思う「障害」という言葉の表記

「障害」という言葉の表記は「こだわりはない（どれでもよい）」がすべての障害で最も多くなっている。

(%)



② 表記を選んだ理由

「障害」の表記を前問のように回答した理由は、「表記だけ変えても意味がないから」がすべての障害で最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=659)	知的障害者 (n=474)	精神障害者 (n=451)	難病患者 (n=475)	施設入所者 (n=105)
見慣れているから	14.4	12.2	18.8 (3位)	13.3	6.7
わかりやすいから	15.0	10.5	18.4	12.8	2.9
差別感や不快感を感じないから	18.1 (3位)	24.7 (2位)	27.3 (2位)	21.9 (2位)	12.4
本来はそう書くべきだから	7.0	5.3	8.6	5.7	1.0
表記だけ変えても意味がないから	32.9 (1位)	37.3 (1位)	38.4 (1位)	39.4 (1位)	24.8 (2位)
その他	3.9	5.7	6.4	5.3	13.3 (3位)
無回答	23.5 (2位)	20.5 (3位)	14.0	18.9 (3位)	43.8 (1位)

(3) 意見・要望（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

（相談・情報提供）

- ・手話のできる相談員の充実
- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供

（各種申請・手続き）

- ・利用手続きの簡素化や明瞭化、申請から承認までの時間の短縮

（各種サービス）

- ・ヘルパーや支援員の充実、同性介助の充実
- ・移動支援の充実
- ・短期入所施設の充実
- ・重度障害者グループホームでの支援体制の充実（看護師の配置など）
- ・介護保険に移行後も、障害特性に合った適切な支援を受けたい。

（各種施設）

- ・50代、60代など若い人向けのリハビリ施設があるとよい。

（保育・教育）

- ・保育園の障害児枠の増加
- ・学校の校舎のバリアフリー化促進

（雇用・就労）

- ・就労意欲のある人がチャレンジできる制度の充実
- ・高齢障害者の就労支援、機会の拡充
- ・テレワークなど、多様な働き方ができるとよい。

（社会参加・地域とのつながり）

- ・障害者が社会参加しやすい環境づくり
- ・引きこもり気味の人への支援の充実
- ・当事者参画の機会の拡大
- ・バリアフリー化の促進、わかりやすい案内や情報提供

（その他）

- ・教育段階、家庭や地域社会における障害理解
- ・災害時の支援体制の充実

【知的障害者】

（相談・情報提供）

- ・相談窓口の充実
- ・いろいろなイベントに関する情報提供

（各種サービス）

- ・いつでも気軽に使えるよう、ショートステイの利便性を向上してほしい。
- ・医療的ケアへの対応
- ・移動支援の充実
- ・放課後等デイサービスの利用時間が短いので、仕事がしづらい。
- ・グループホームの増設

（各種施設）

- ・高齢化に対応できるよう医療体制も整った施設の整備
- ・療育も入院もできる療育医療センターの整備

（保育・教育）

- ・特別支援学級の充実
- ・子どもが地域で学び育っていけるよう、学校、学童クラブを充実してほしい。

(雇用・就労)

- ・仕事を続けられるような支援の充実
- ・就労の場の確保、安定した就労環境

(社会参加・地域とのつながり)

- ・地域のサークル、イベントの情報発信
- ・生涯学習の支援が受けられるサービス

(その他)

- ・親亡き後に入所できる施設が少なく心配である。区内で生活を続けられるとよい。
- ・本人の気持ちに寄り添った施策を推進してほしい。

【精神障害者】

(相談・情報提供)

- ・同じ病気の人でグループカウンセリングなどを受けたい。
- ・積極的な情報提供

(各種申請・手続き)

- ・手続などは、平日のみではなく土・日でもできるようにしてほしい。

(各種サービス)

- ・社会復帰するためのプロセスと一緒にサポートしてくれる支援が必要
- ・グループホームの増設

(雇用・就労)

- ・継続して働き続けることができる支援の充実

(社会参加・地域とのつながり)

- ・障害者が気軽に地域社会と関われる施策があるとよい。

(その他)

- ・地域社会の障害への理解
- ・学校における福祉・人権教育の充実
- ・経済的な支援

【難病患者】

(相談・情報提供)

- ・当事者と家族の課題を考えてくれる相談支援の充実
- ・一人ひとりに合った相談体制の充実

(各種申請・手続き)

- ・利用手続きの簡素化、明瞭化、利便性の向上

(各種施設)

- ・グループホームや生活寮の整備

(雇用・就労)

- ・区内で働ける職場の確保

(社会参加・地域とのつながり)

- ・地域でのつながりや集団の輪を広げられるような助け合いが強まってくればよい。
- ・障害者が日中に利用できる場の充実

(その他)

- ・本人へのサポートも大事だが、介護する家族へのサポートも大事である。
- ・難病という病気の理解が広まるとよい。

【施設入所者】

(その他)

- ・支援者へのサポートの充実
- ・障害のある方が地域へという考えがある一方で、不安や心配はある。

1 4 介助・援助者の意向

(1) 介助・援助するにあたって困っていること（複数回答）

介助・援助するにあたって困っていることは、身体障害者、知的障害者では「長期的な外出ができない」が最も多く、それぞれ 23.2%、33.6%となっている。精神障害者、児童発達支援事業利用者では「精神的な負担が大きい」が最も多く、それぞれ 20.3%、34.6%となっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=341)	知的障害者 (n=422)	精神障害者 (n=207)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
介助・援助の方法がわからない	4.7	3.6	3.9	4.7
福祉サービス等の情報が不足している	11.7	18.0	12.1	12.6
福祉サービス等が十分に利用できない	11.7	19.9	9.2	9.4
余暇など自分の時間が持てない	15.5	23.5	7.2	29.9（3位）
ちょっとした外出ができない	10.3	16.6	3.9	22.8
仕事に出られない	9.4	11.1	7.7	19.7
長期的な外出ができない	23.2（1位）	33.6（1位）	14.5	16.5
睡眠不足である	14.1	17.8	8.7	16.5
身体的な負担が大きい	19.4	20.1	7.2	18.1
年齢的に負担が大きい	22.9（2位）	24.4（3位）	14.0	13.4
孤独感がある	8.2	10.9	8.7	15.7
精神的な負担が大きい	19.9（3位）	32.5（2位）	20.3（1位）	34.6（1位）
経済的な負担が大きい	16.1	18.5	17.9（2位）	7.1
他にも介助の必要な家族・親族がいる	10.9	13.3	7.7	6.3
他の家族の援助が足りない	3.8	6.2	1.4	10.2
隣近所の人との関係づくりが難しい	5.3	12.6	7.7	6.3
何かの際に相談や介助を頼める人がいない	13.8	22.0	11.6	10.2
その他	3.2	3.8	3.9	3.1
特にない	17.6	15.6	16.4（3位）	30.7（2位）
無回答	28.4	11.1	39.1	3.9

※ベース：介助・援助者

【前回調査との比較】

（単位：％）

区 分		1 位	2 位	3 位
身体障害者	今回 (n=341)	長期的な外出ができない (23.2)	年齢的に負担が大きい (22.9)	精神的な負担が大きい (19.9)
	前回 (n=341)	長期的な外出ができない (22.6)	精神的な負担が大きい (20.2)	身体的な負担が大きい (19.6)
知的障害者	今回 (n=422)	長期的な外出ができない (33.6)	精神的な負担が大きい (32.5)	年齢的に負担が大きい (24.4)
	前回 (n=217)	精神的な負担が大きい (31.3)	長期的な外出ができない (26.7)	年齢的に負担が大きい (20.7)
精神障害者	今回 (n=207)	精神的な負担が大きい (20.3)	経済的な負担が大きい (17.9)	特にない (16.4)
	前回 (n=215)	精神的な負担が大きい (34.4)	長期的な外出ができない (22.3)	何かの際に相談や介助を頼める人がいない (20.0)

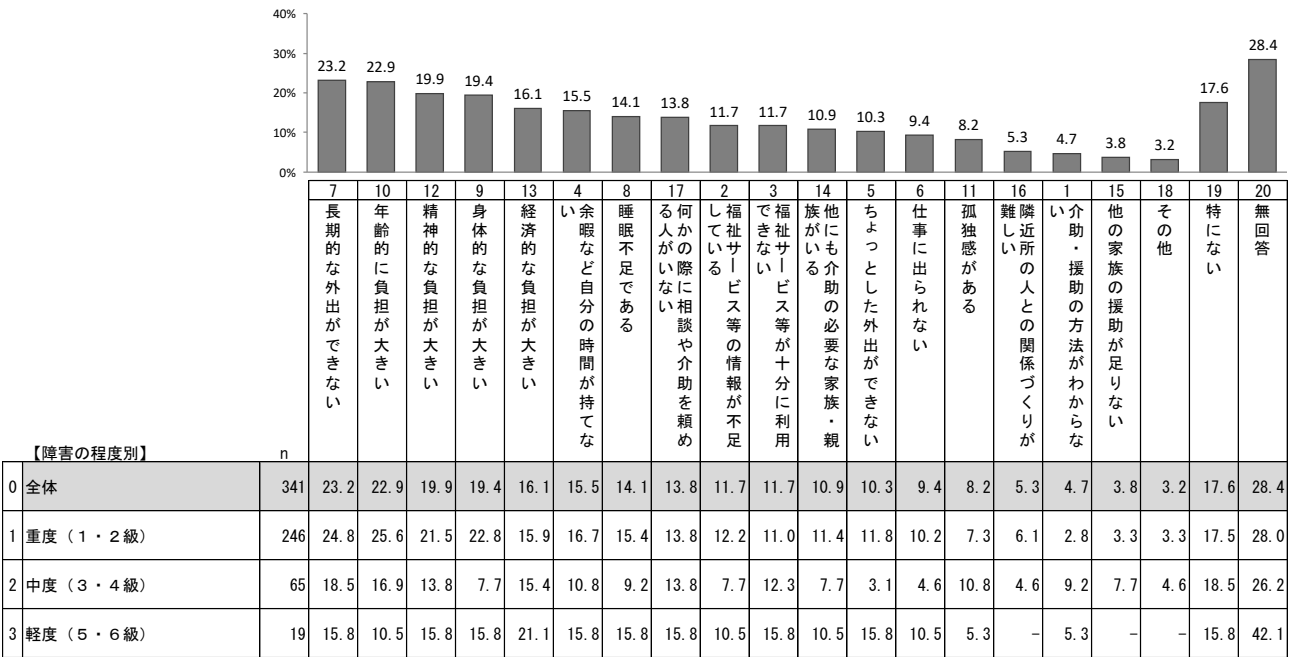
難病患者では、介助・援助するにあたって支援が必要なことは「介助・援助方法などの情報」が最も多く 33.1%となっている。

(単位：%)	
区 分	難病患者 (n=172)
介助・援助方法などの情報	33.1 (1位)
福祉サービス等の情報	30.2 (3位)
福祉サービス等を利用しやすくする	26.2
気軽に相談できる窓口	31.4 (2位)
地域の理解	7.0
その他	0.6
特にな	9.3
無回答	33.7

※ベース：介助・援助者

【身体障害者】

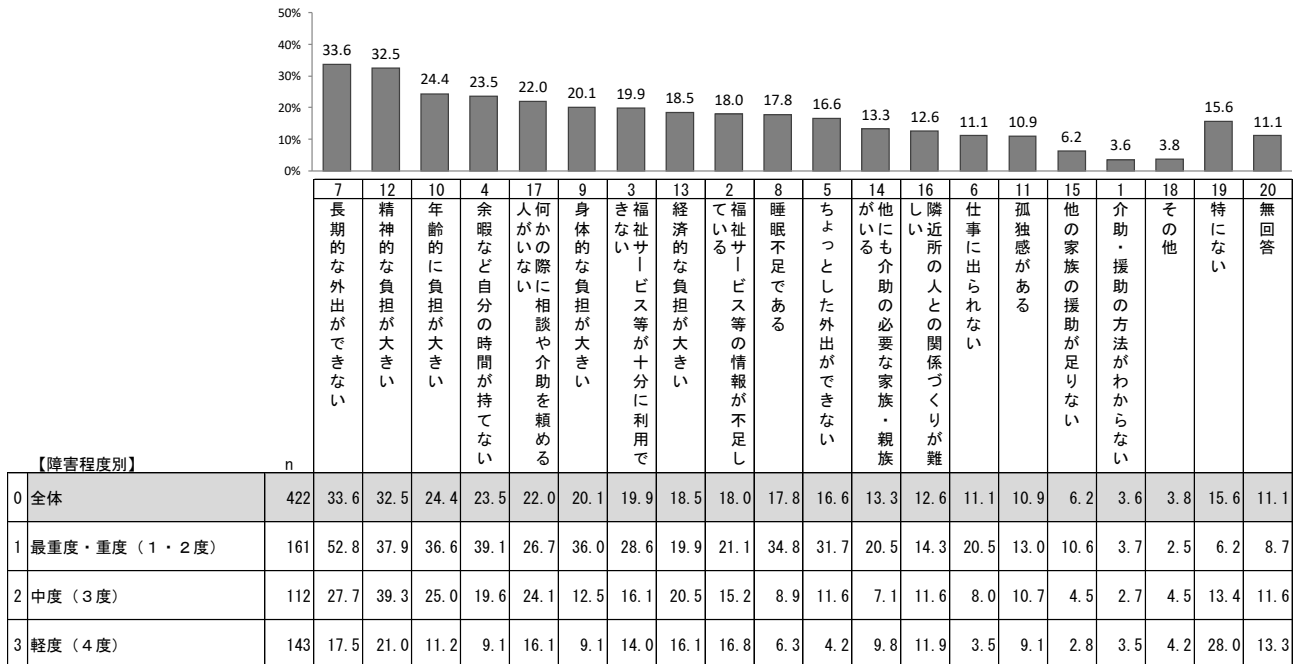
障害の程度別にみると、重度（１・２級）では、「年齢的に負担が大きい」（25.6%）、「長期的な外出ができない」（24.8%）、「身体的な負担が大きい」（22.8%）、「精神的な負担が大きい」（21.5%）でそれぞれ２割を超えている。また、中度（３・４級）と軽度（５・６級）では「特にな



※ベース：介助・援助者

【知的障害者】

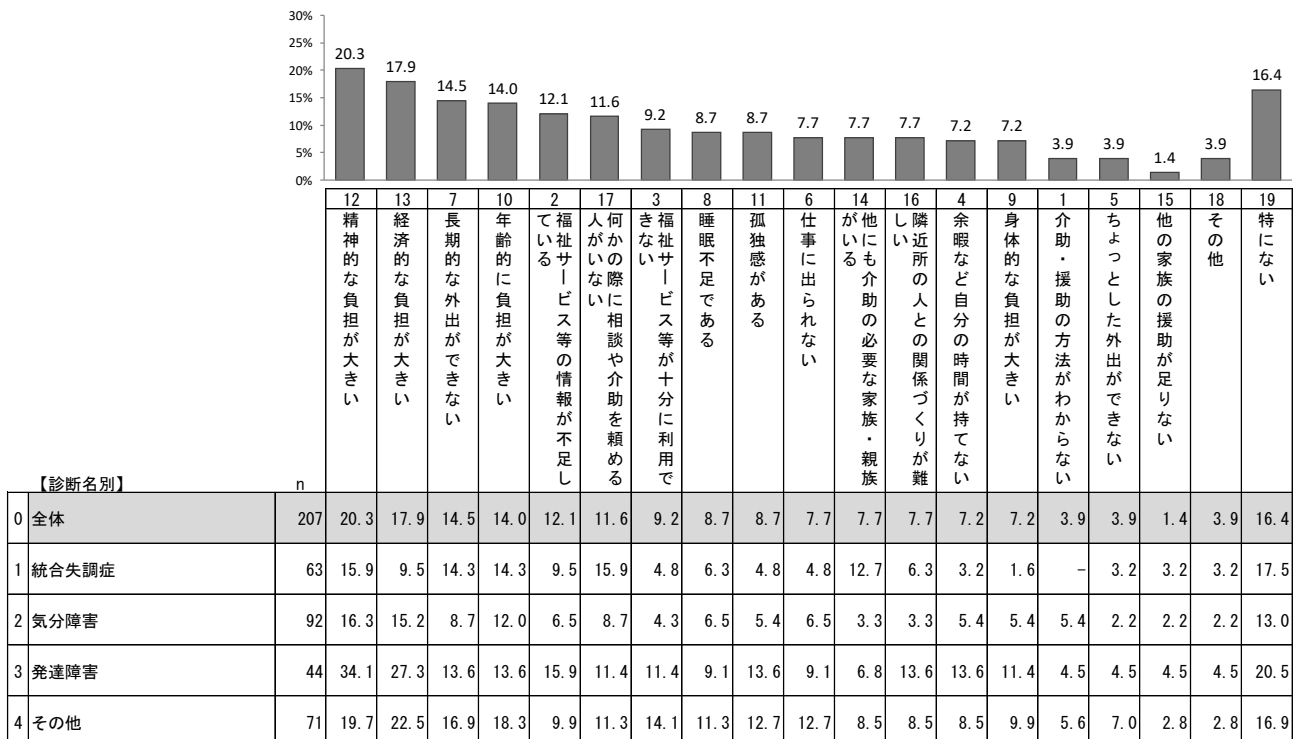
障害の程度別にみると、「長期的な外出ができない」の割合は、軽度（４度）では 17.5%、中度（３度）では 27.7%だが、最重度・重度（１・２度）では 52.8%と半数を超えている。



※ベース：介助・援助者

【精神障害者】

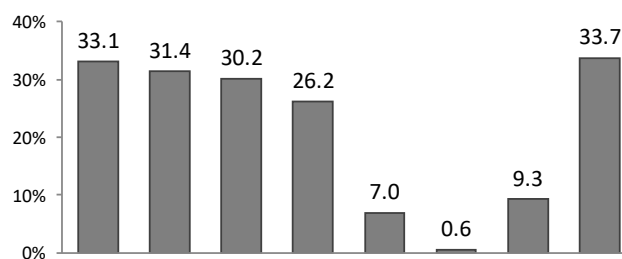
診断名別にみると、「精神的な負担が大きい」と回答した人の割合は、統合失調症と診断されている人では 15.9%、気分障害と診断されている人では 16.3%であることに比べ、発達障害と診断されている人では 34.1%と高くなっている。



※ベース：介助・援助者

【難病患者】

疾患群別にみると、介助・援助するにあたって必要なことは、神経・筋疾患では「介助・援助方法などの情報」が42.6%と最も多い。



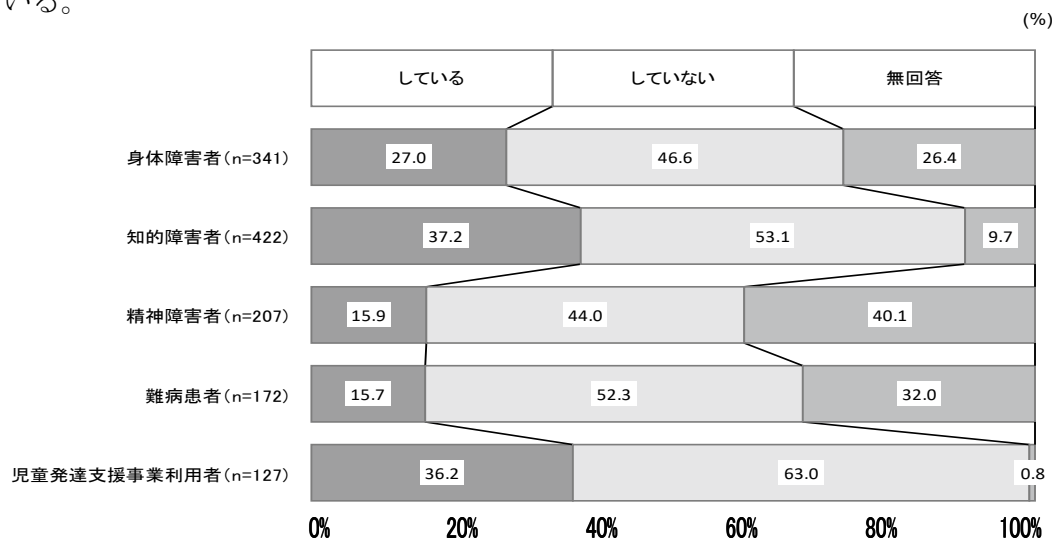
【疾患群別】			n							
			1	4	2	3	5	6	7	8
			介助・援助方法などの情報	気軽に相談できる窓口	福祉サービス等の情報	福祉サービス等を利用しやすい	地域の理解	その他	特にない	無回答
0	全体	172	33.1	31.4	30.2	26.2	7.0	0.6	9.3	33.7
1	神経・筋疾患	94	42.6	31.9	30.9	31.9	5.3	—	7.4	28.7
2	免疫系疾患	28	28.6	32.1	32.1	21.4	7.1	—	14.3	32.1
3	消化器系疾患	12	33.3	25.0	33.3	8.3	8.3	—	8.3	50.0
4	その他	38	15.8	34.2	26.3	21.1	10.5	2.6	10.5	39.5

※ベース：介助・援助者

(2) 当該障害者以外の育児・介護等の状況

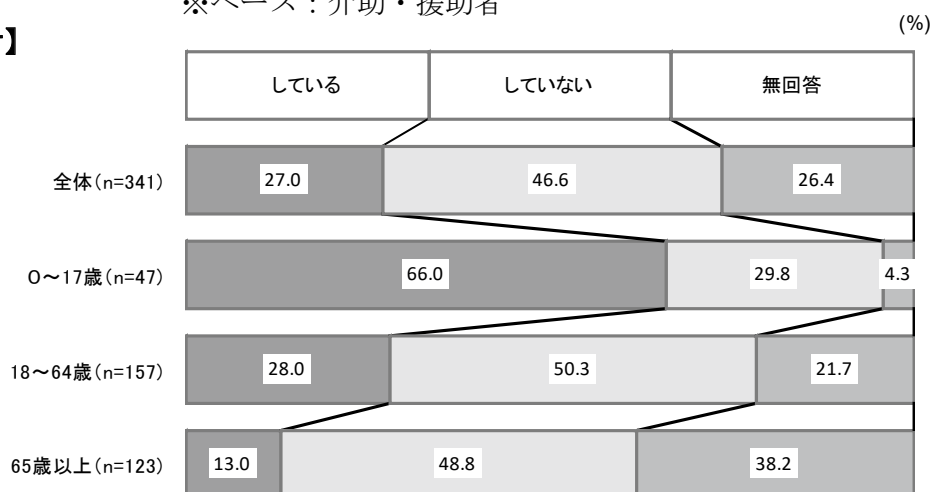
① 当該障害者以外に育児・介護等が必要な人の有無

当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答したのは身体障害者で 27.0%、知的障害者で 37.2%、精神障害者で 15.9%、難病患者で 15.7%、児童発達支援事業利用者で 36.2%となっている。



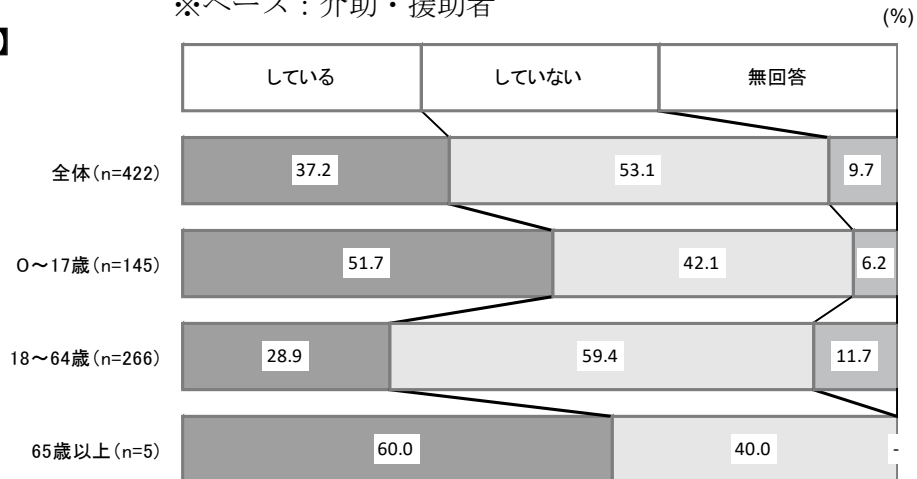
※ベース：介助・援助者

【身体障害者】



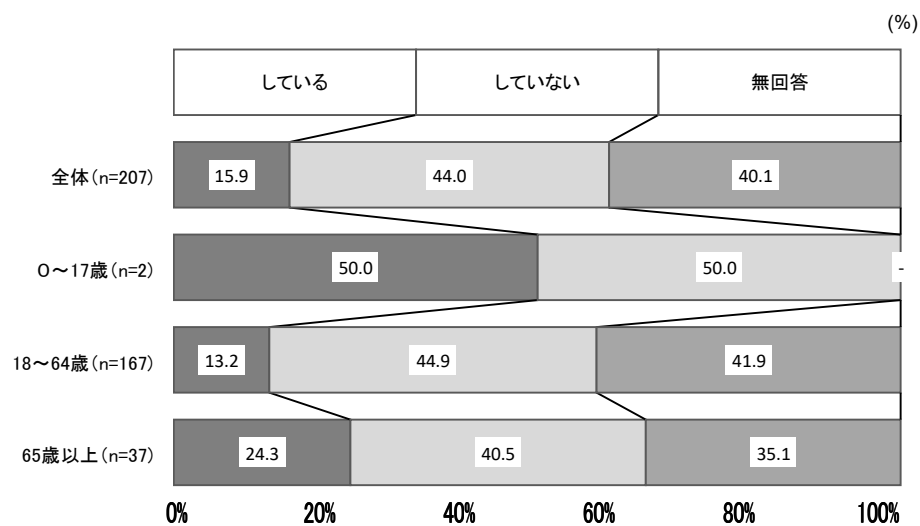
※ベース：介助・援助者

【知的障害者】



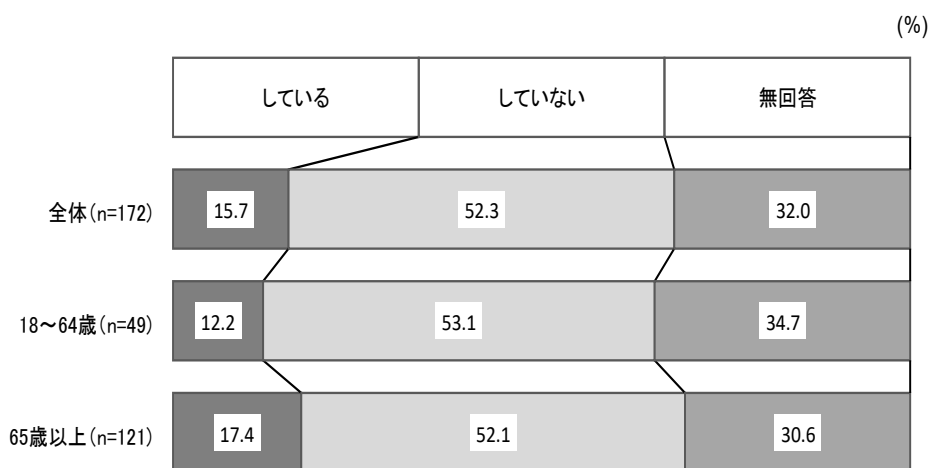
※ベース：介助・援助者

【精神障害者】



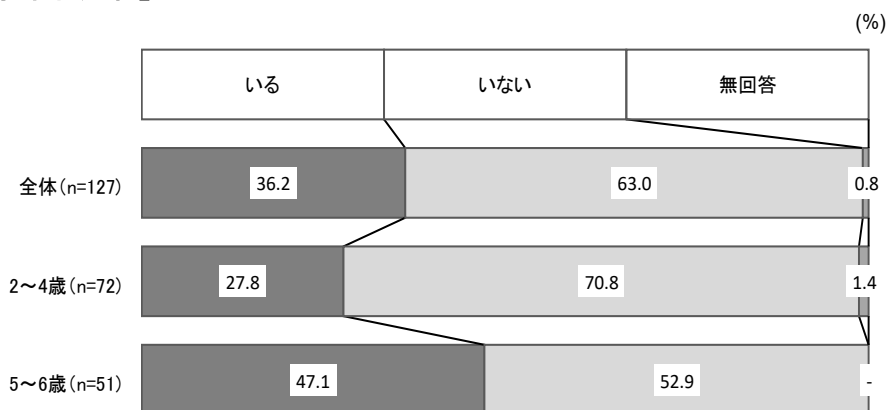
※ベース：介助・援助者

【難病患者】



※ベース：介助・援助者

【児童発達支援事業利用者】



※ベース：介助・援助者

② 育児・介護等が必要な人と当該障害者との関係（複数回答）

育児・介護等が必要な人と当該障害者との関係は、身体障害者、知的障害者、児童発達支援事業利用者では「兄弟・姉妹」が最も多くなっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=92)	知的障害者 (n=157)	精神障害者 (n=33)	難病患者 (n=27)	児童発達支援 事業利用者 (n=46)
兄弟・姉妹	33.7（１位）	35.7（１位）	12.1（３位）	3.7	76.1（１位）
父・母	29.3（２位）	17.8（２位）	42.4（１位）	44.4（１位）	2.2
祖父・祖母	14.1	15.3	6.1	－	10.9（２位）
子	17.4（３位）	14.6	33.3（２位）	25.9（３位）	4.3
その他	6.5	6.4	12.1（３位）	29.6（２位）	－
無回答	8.7	17.8（２位）	9.1	－	6.5（３位）

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

③ 介助・援助を必要とする理由（複数回答）

当該障害者以外で介助・援助を必要とする理由は、身体障害者では「高齢のため」（44.6％）、知的障害者では「育児中のため」（38.9％）、精神障害者では「高齢のため」（51.5％）、難病患者では「高齢のため」（63.0％）、児童発達支援事業利用者では「育児中のため」（73.9％）が最も多くなっている。

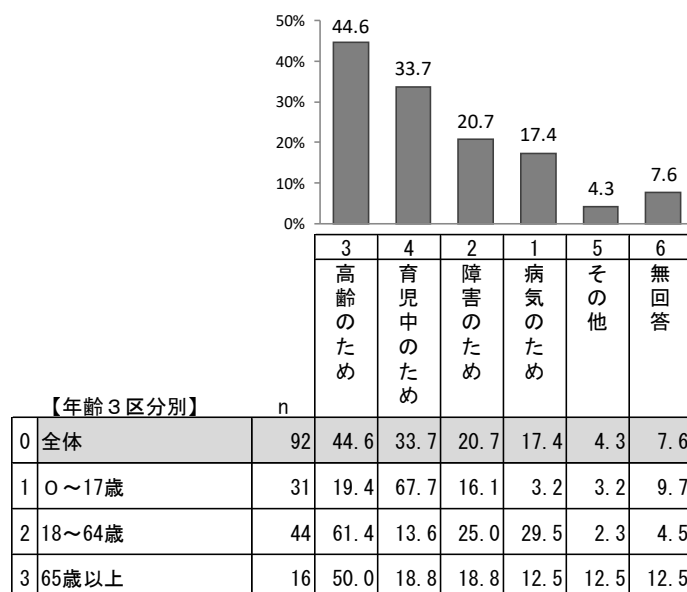
（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=92)	知的障害者 (n=157)	精神障害者 (n=33)	難病患者 (n=27)	児童発達支援 事業利用者 (n=46)
病気のため	17.4	21.7（３位）	36.4（２位）	37.0（２位）	4.3
障害のため	20.7（３位）	18.5	36.4（２位）	22.2（３位）	10.9（２位）
高齢のため	44.6（１位）	35.0（２位）	51.5（１位）	63.0（１位）	8.7（３位）
育児中のため	33.7（２位）	38.9（１位）	18.2	11.1	73.9（１位）
その他	4.3	5.1	6.1	7.4	4.3
無回答	7.6	4.5	6.1	－	4.3

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

【身体障害者】

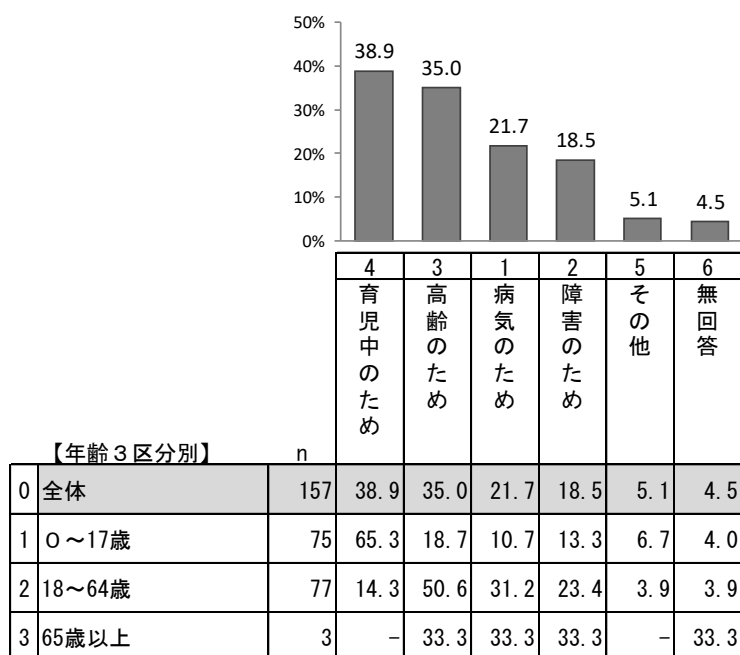
年齢３区分別にみると、０～１７歳では「育児中のため」が67.7％と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

【知的障害者】

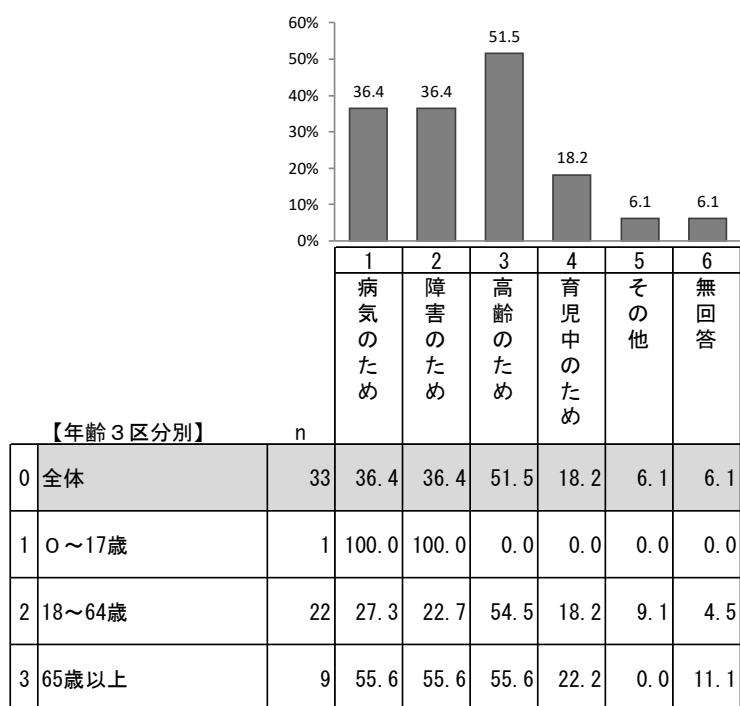
年齢3区分別にみると、0～17歳では「育児中のため」が65.3%と最も多くなっている。18～64歳では「高齢のため」が50.6%と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

【精神障害者】

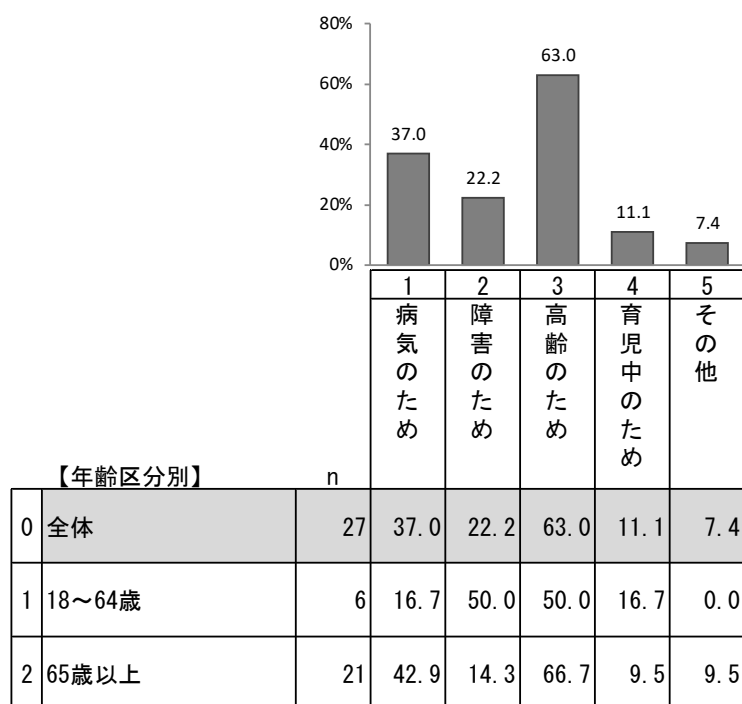
年齢3区分別にみると、18～64歳では「高齢のため」が54.5%と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

【難病患者】

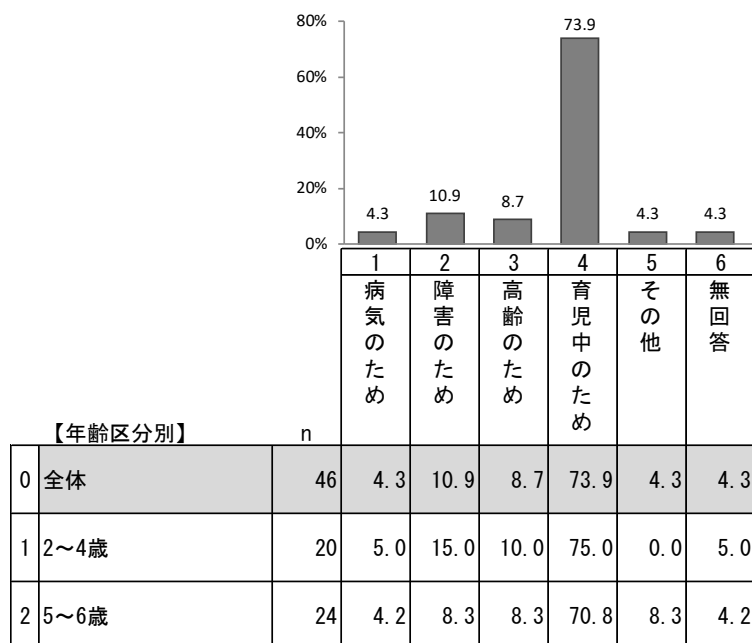
年齢区分別にみると、65 歳以上では「高齢のため」が 66.7%と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

【児童発達支援事業利用者】

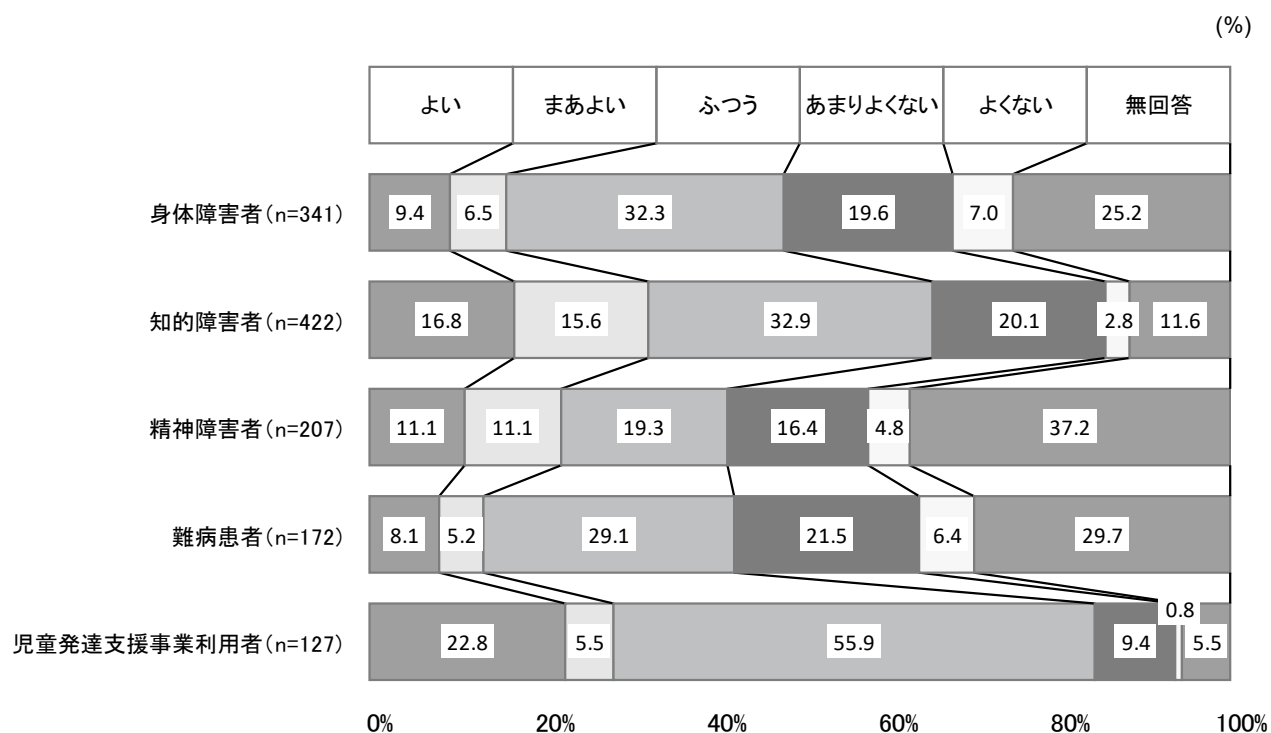
年齢区分別にみると、どの年齢でも「育児中のため」が最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

(3) 介助・援助者の健康状態

介助・援助者の健康状態が“良くない”（「あまりよくない」、「よくない」の合計）の割合は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者で2割台、児童発達支援事業利用者で10.2%となっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

(4) 家族等支援として区に充実してほしい施策（複数回答）

区に充実してほしい家族等支援施策は、身体障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者で「区からの情報提供を増やす」、知的障害者で「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」、精神障害者で「家族等に対する相談体制を充実させる」が最も多くなっている。

（単位：％）

区 分	身体障害者 (n=341)	知的障害者 (n=422)	精神障害者 (n=207)	難病患者 (n=172)	児童発達支援 事業利用者 (n=127)
区からの情報提供を増やす	29.3 (2位)	33.6 (3位)	23.2 (3位)	27.9 (2位)	58.3 (1位)
家族等の休養目的のショートステイを 充実させる	25.8 (3位)	48.1 (1位)	11.6	22.1	40.9 (2位)
家族等に対する相談体制を充実させる	22.9	35.5 (2位)	24.6 (2位)	25.0 (3位)	30.7
障害特性の理解や、適切な対応をする ための知識・方法を学ぶ家族向けプロ グラムを実施する	11.4	21.8	20.3	12.2	40.2 (3位)
家族同士の交流や情報交換の場・機会 をつくる	10.6	19.0	12.1	7.0	26.0
その他	3.8	4.7	2.9	1.2	1.6
特にない	14.1	9.7	15.0	6.4	13.4
無回答	31.7 (1位)	13.7	42.0 (1位)	43.6 (1位)	3.1

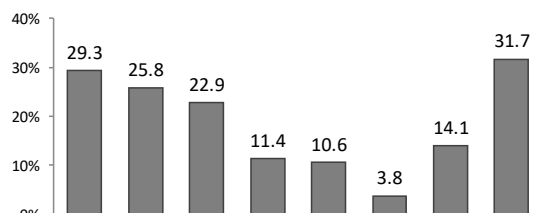
※ベース：介助・援助者

【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（１・２級）では「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」が26.4%と最も多く、中度（３・４級）と軽度（５・６級）では「区からの情報提供を増やす」が最も多くなっている（それぞれ35.4%、47.4%）。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）では「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」が52.4%と半数を超えている。

年齢３区分別にみると、いずれも年齢の高い層に比べて若い層の方が回答の割合が高くなる傾向にある。



【障害の程度別】		n	1	2	3	4	5	6	7	8
0	全体	341	29.3	25.8	22.9	11.4	10.6	3.8	14.1	31.7
1	重度（１・２級）	246	25.6	26.4	21.5	11.0	9.3	3.7	15.0	32.1
2	中度（３・４級）	65	35.4	21.5	23.1	13.8	15.4	6.2	12.3	29.2
3	軽度（５・６級）	19	47.4	21.1	26.3	10.5	5.3	—	5.3	42.1

【障害の種類別】		n	1	2	3	4	5	6	7	8
1	視覚障害	62	25.8	22.6	19.4	8.1	9.7	—	25.8	29.0
2	聴覚障害	37	40.5	40.5	29.7	18.9	24.3	—	10.8	21.6
3	平衡機能障害	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—
4	音声・言語・そしゃく機能の障害	15	33.3	20.0	26.7	20.0	20.0	6.7	20.0	13.3
5	肢体不自由（上肢、下肢等）	138	32.6	29.0	25.4	11.6	10.9	5.8	8.7	29.0
6	肢体不自由（体幹）	63	33.3	52.4	30.2	22.2	12.7	7.9	4.8	17.5
7	内部障害	77	20.8	14.3	16.9	9.1	6.5	3.9	14.3	45.5
8	その他	6	—	—	—	—	—	16.7	—	83.3

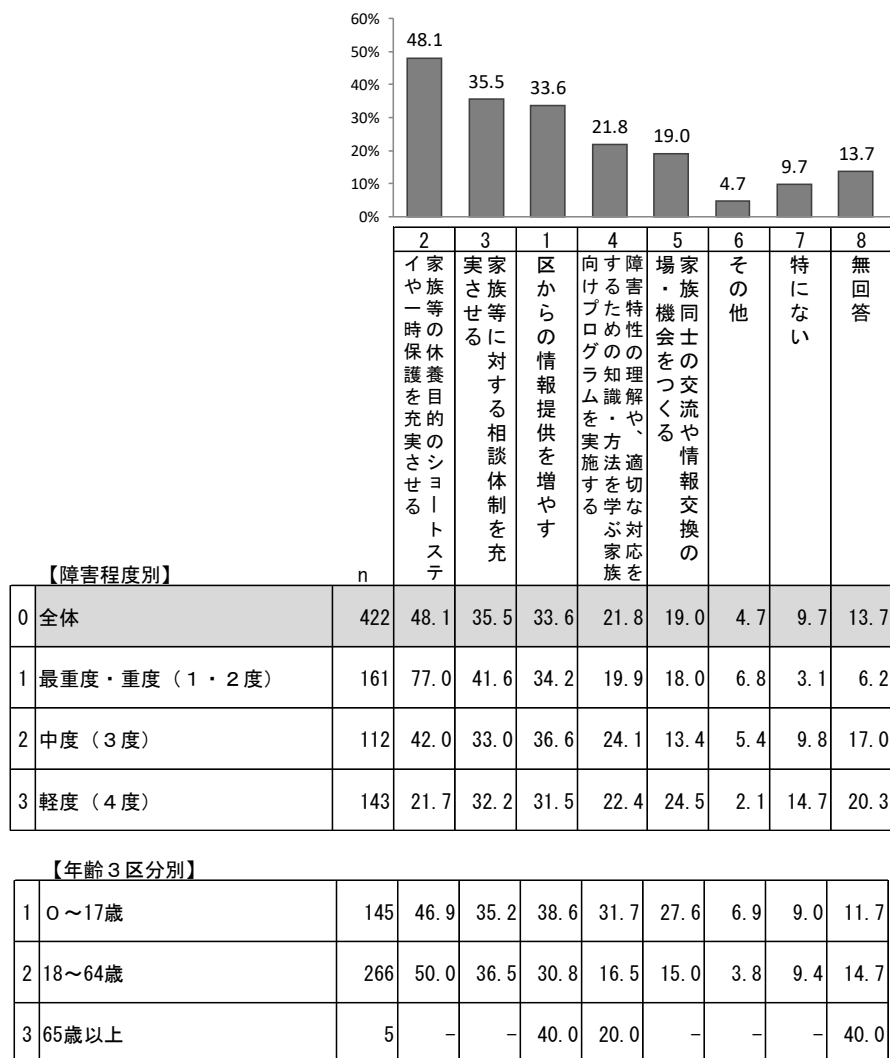
【年齢３区分別】		n	1	2	3	4	5	6	7	8
1	０～17歳	47	40.4	40.4	34.0	36.2	25.5	4.3	8.5	8.5
2	18～64歳	157	31.2	30.6	26.1	8.9	9.6	4.5	15.9	26.1
3	65歳以上	123	22.8	15.4	14.6	4.9	6.5	3.3	13.8	46.3

※ベース：介助・援助者

【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（１・２度）と中度（３度）では「家族等の休養目的のショートステイや一時保護を充実させる」がそれぞれ 77.0%、42.0%と最も多くなっている。

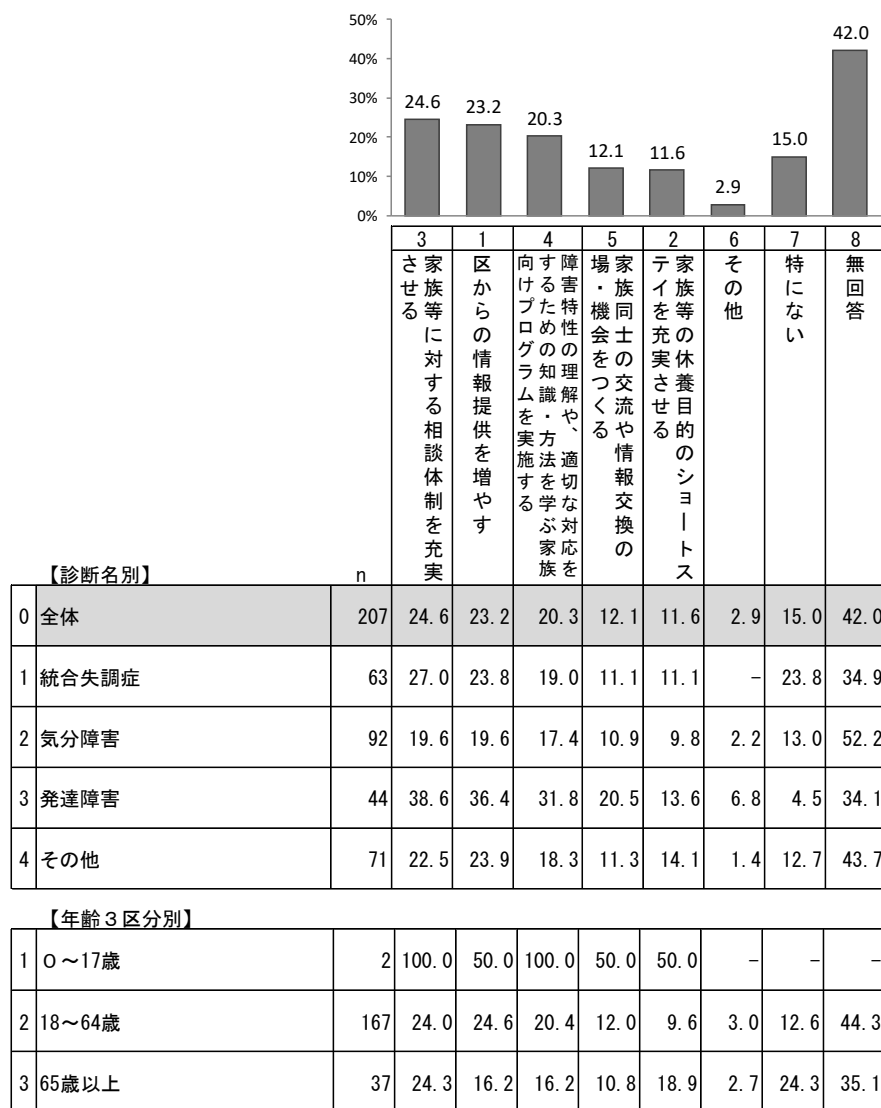
年齢３区分別にみると、「障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する」は 0～17 歳で回答の割合が高くなっている。



【精神障害者】

診断名別にみると、「障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する」と回答した人の割合は、統合失調症と診断されている人では 19.0%、気分障害と診断されている人では 17.4%であることに比べ、発達障害と診断されている人では 31.8%と高くなっている。

年齢3区分別にみると、18～64歳では、「区からの情報提供を増やす」が 24.6%と最も多く、次いで「家族等に対する相談体制を充実させる」（24.0%）、「障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する」（20.4%）となっている。

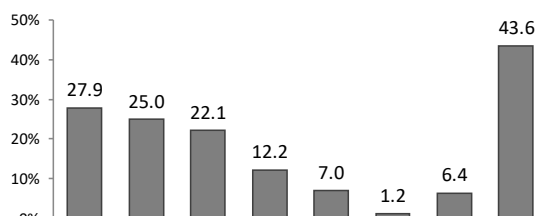


※ベース：介助・援助者

【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「区からの情報提供を増やす」ことをあげる人が30.9%と最も多く、次いで「家族等に対する相談体制の充実」、「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」がそれぞれ28.7%となっている。

年齢区分別にみると、18～64歳、65歳以上のいずれも「区からの情報提供を増やす」が最も多くなっている。（65歳以上では、「家族等に対する相談体制の充実」が同率（26.4%）。）



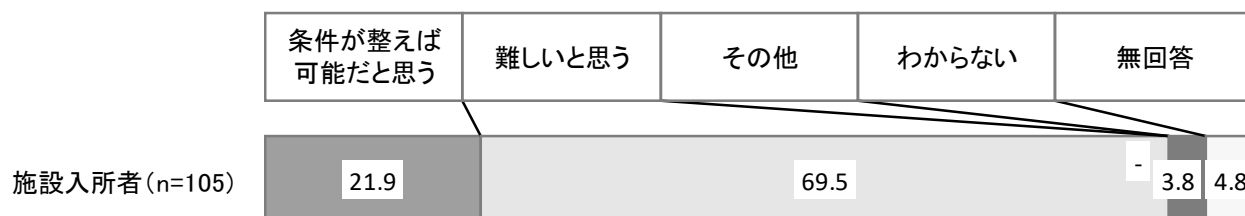
			【疾患群別】								
			n	1 区からの情報提供を増やす	3 実家族等に対する相談体制の充実	2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる	4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する	5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる	6 その他	7 特にな	8 無回答
0	全体	172	27.9	25.0	22.1	12.2	7.0	1.2	6.4	43.0	
1	神経・筋疾患	94	30.9	28.7	28.7	13.8	9.6	2.1	2.1	40.0	
2	免疫系疾患	28	28.6	17.9	3.6	7.1	-	-	14.3	42.0	
3	消化器系疾患	12	16.7	25.0	16.7	8.3	-	-	8.3	50.0	
4	その他	38	23.7	21.1	21.1	15.8	7.9	-	10.5	47.0	

（５） 地域で暮らすことの可能性と地域で暮らすための支援や環境（施設入所者のみ）

① 地域で暮らすことの可能性

施設入所者が地域で暮らすことについて、「条件が整えば可能だと思う」が 21.9%、「難しいと思う」が 69.5%となっている。

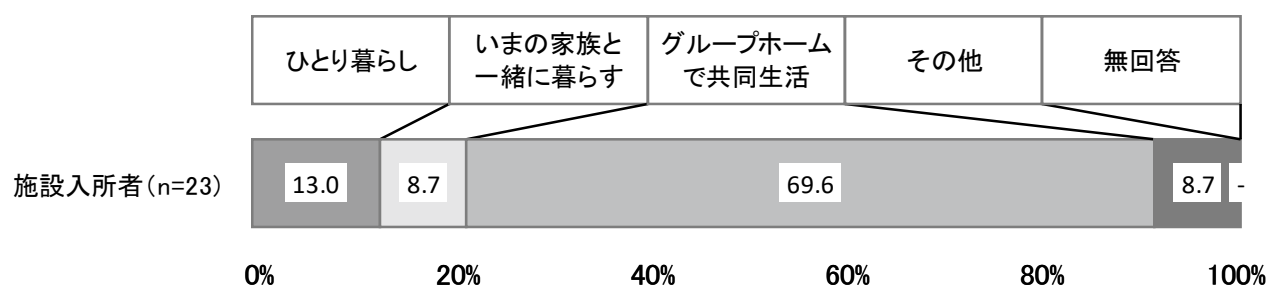
(%)



※ベース：介助・援助者

「条件が整えば地域での暮らしが可能」と回答した施設入所者が望ましいと思う地域での暮らし方は、「グループホームで共同生活」が 69.6%と最も多くなっている。

(%)

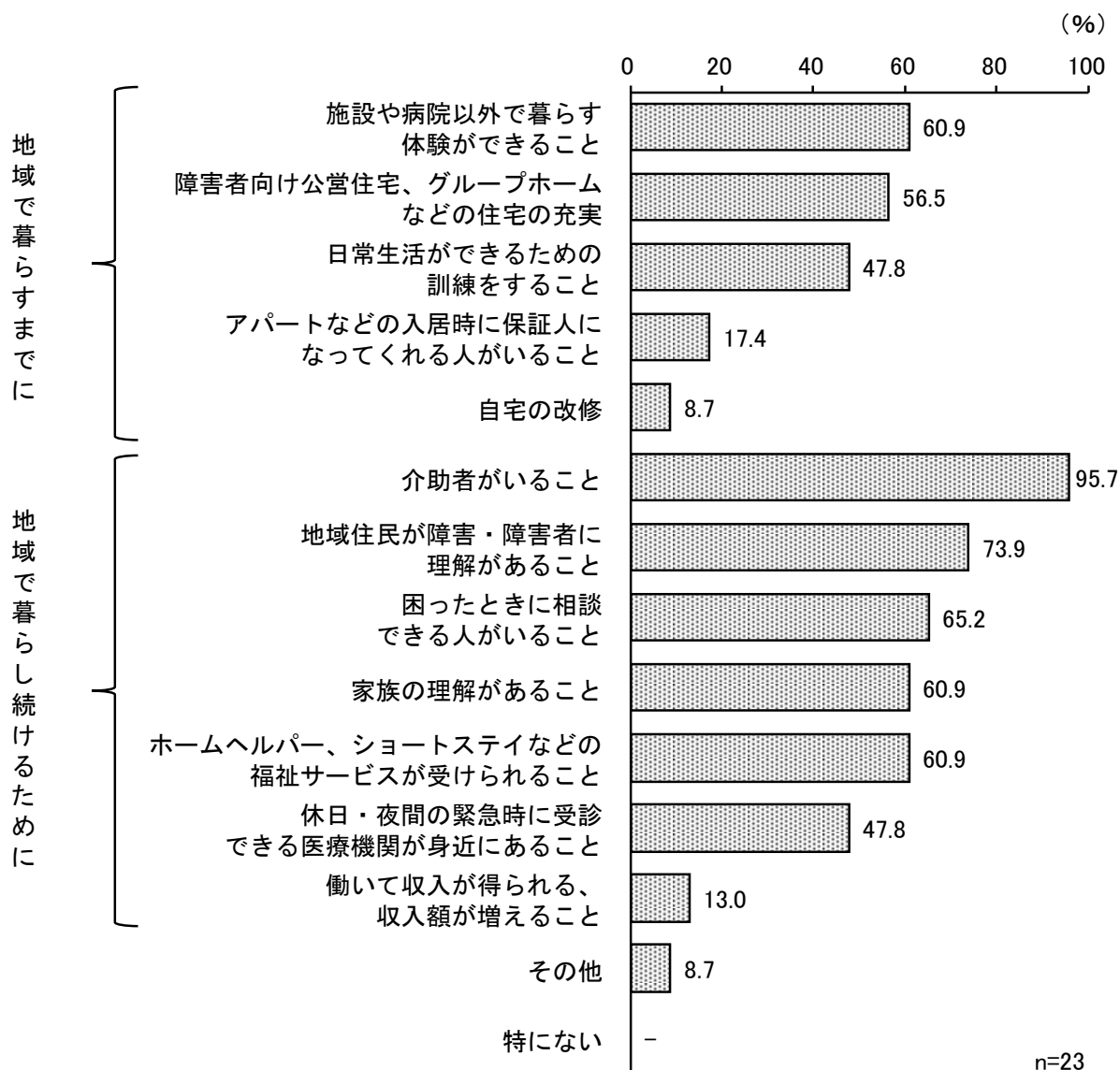


※ベース：介助・援助者で「条件が整えば地域での暮らしが可能」と回答した人

② 地域で暮らすために必要な支援や環境

施設入所者が地域で暮らすために必要な支援や環境について、“地域で暮らすまでに”では「施設や病院以外で暮らす体験ができること」が最も多く 60.9%となっている。

“地域で暮らし続けるために”では「介助者がいること」が最も多く 95.7%、次いで「地域住民が障害・障害者に理解があること」が 73.9%となっている。



※ベース：介助・援助者で「条件が整えば地域での暮らしが可能」と回答した人

【施設入所者の「施設からの退所が難しい理由」】（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・本人や家族が高齢のため。
- ・障害が重度であるため、介助の必要度が高い。
- ・医療等で 24 時間の対応が必要なため。
- ・強度の行動障害、自閉傾向、他害行為があるため。
- ・本人、保護者が施設にいることを希望している。

【地域で暮らすために必要な支援や環境について、本人の意向と介助・援助者の意向との比較】

地域で暮らすために必要な支援や環境についての意向を、本人と介助・援助者で比較すると、すべての項目で本人の割合を介助・援助者の割合が上回っており、特に、「介助者がいること」（48.8 ポイント差）、「地域住民が障害・障害者に理解があること」（39.5 ポイント差）、「施設や病院以外で暮らす体験ができること」（35.9 ポイント差）、「困ったときに相談できる人がいること」（30.8 ポイント差）については本人の意向を 30 ポイント以上、上回っている。

(単位:%)

区 分	本人 (n=32)	介助・援助者 (n=23)
日常生活ができるための訓練をすること	34.4	47.8
施設や病院以外で暮らす体験ができること	25.0	60.9
障害者向け公営住宅、グループホームなどの住宅を充実させること	31.3	56.5
アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること	3.1	17.4
自分の家の改修	3.1	8.7
家族の理解があること	37.5	60.9
介助者がいること	46.9	95.7
働いて収入が得られる、収入額が増えること	6.3	13.0
地域住民が障害・障害者に理解があること	34.4	73.9
困ったときに相談できる人がいること	34.4	65.2
ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること	34.4	60.9
休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること	28.1	47.8
その他	—	8.7
特になし	9.4	—
無回答	18.8	—

※本人のベース：一人暮らし、家族との同居、グループホームでの暮らしを希望する人

※介助・援助者のベース：条件が整えば地域で暮らす可能性あり

(6) 介助・援助者の意見・要望（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

【身体障害者】

（相談・情報提供）

- ・相談窓口の充実
- ・ひとり一人に合わせた情報提供

（各種サービス）

- ・訪問看護サービス、ホームヘルプサービスの充実
- ・通所施設や短期入所施設の増設
- ・医療的ケアに対応したショートステイがあるとよい。
- ・自立や一人暮らしへのサポートの充実
- ・重度障害者でも利用できるグループホームの整備

（雇用・就労）

- ・就労継続支援A型、B型、就労移行支援の充実
- ・トイレ介助等を受けられる職場や職業訓練所があるとよい。

（療育・保育・教育）

- ・保育園の障害児枠の増設
- ・医療的ケア児コーディネーターの配置
- ・学校教員の障害理解、専門性の向上

（その他）

- ・車いす利用者でも安心安全に外出できるような歩道の整備
- ・ヘルパー不足を解消するための事業所支援
- ・医療費負担の軽減
- ・災害時、避難所までのルートや避難生活に不安がある。

【知的障害者】

（相談・情報提供）

- ・兄弟、姉妹のケアが相談できる場がほしい。
- ・受けられる障害福祉サービスの情報提供
- ・障害児向けのしおりがあると分かりやすい。

（各種サービス）

- ・男性ヘルパーの充実
- ・移動支援の充実、事業所の拡充
- ・医療的ケアに対応した短期入所施設の整備
- ・放課後等デイサービスの充実
- ・障害特性に合わせたグループホームや施設が充実するとよい。
- ・医療が充実した施設があるとよい。

（雇用・就労）

- ・就労意欲のある障害者が、適切な支援を受け、安心して働けるようになるとうい。
- ・テレワークなど、多様な働き方の確保
- ・農福連携の推進

（療育・保育・教育）

- ・中学校の特別支援学級の増加
- ・障害児が普通学級で共に学べるような制度の充実

（その他）

- ・高等部卒業後の夕方の活動場所の充実
- ・家族へのレスパイトの充実
- ・手当等の所得制限の撤廃

- ・支援員の人材育成に力を入れてほしい。
- ・本人を囲む家族と福祉行政の理解し合うチームワークが必要
- ・サービス申請時や相談時の手続きを簡略化してほしい。
- ・社会性をスキルアップするための講座やプログラムの充実
- ・障害者同士が会えるような場がほしい。

【精神障害者】

(相談・情報提供)

- ・ひとり一人に合った情報提供がほしい。

(各種サービス)

- ・ヘルパーの充実、質の向上
- ・気軽に使えるショートステイがあるとよい。
- ・グループホームや入寮施設の整備

(雇用・就労)

- ・働ける場の確保

(その他)

- ・精神疾患への理解がもっと広まればよい。
- ・公営住宅を障害者用に十分に用意してほしい。
- ・精神障害者への各種手当の拡大

【難病患者】

(相談・情報提供)

- ・定期的な連絡体制の充実
- ・積極的な情報提供

(その他)

- ・本人も介助者も高齢化しているので、申請手続き等の利便性を向上させてほしい。
- ・ボーダーラインの人たちのことについても考えてほしい。
- ・介護する側、家族への支援の充実
- ・親亡き後、地域でも安心して楽しく暮らせるための支援の充実

【施設入所者】

(各種サービス)

- ・通院、散歩などのときに、ガイドヘルプを頼めるとよい。
- ・自宅帰省時に、ガイドヘルパー派遣などの支援があるとよい。
- ・重度知的障害者の入所施設の整備

【児童発達支援事業利用者】

(相談・情報提供)

- ・情報の一元化、ワンストップサービス
- ・成長段階に合わせた福祉サービスの積極的な情報提供

(各種サービス)

- ・児童発達支援事業所の増設
- ・土日に利用できる施設ができるとよい。
- ・成長期3～6歳の子が安心して通える居場所がほしい。

(その他)

- ・親が就労するための支援、預け先の拡充
- ・軽度の発達障害（グレーゾーン）の子や境界知能の子たちの支援の充実
- ・最初の発達検査までの時間短縮

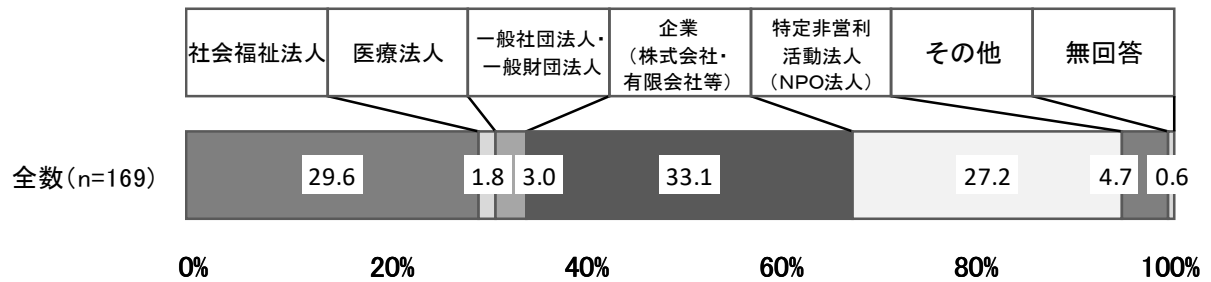
Ⅳ 調査結果の詳細（事業所調査）

1 事業所の基本情報

（１） 運営主体

事業所の運営主体は、「企業（株式会社・有限会社等）」が 33.1%、「社会福祉法人」が 29.6%、「特定非営利活動法人（NPO 法人）」が 27.2%となっている。

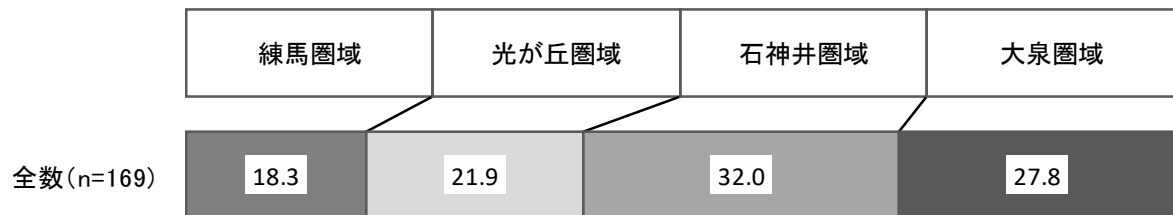
(%)



（２） 事業所の所在地

事業所の所在地は、「練馬圏域」が 18.3%、「光が丘圏域」が 21.9%、「石神井圏域」が 32.0%、「大泉圏域」が 27.8%となっている。

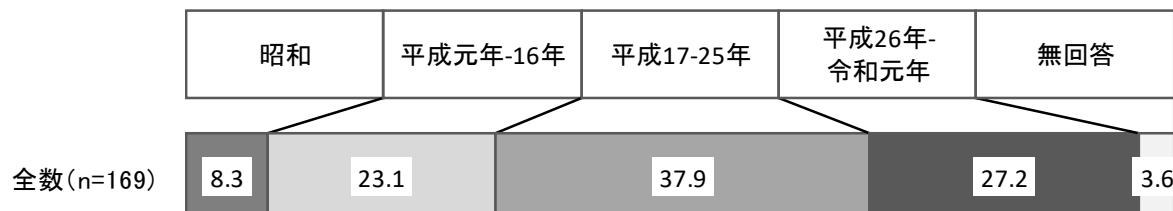
(%)



（３） 事業所の開始年度

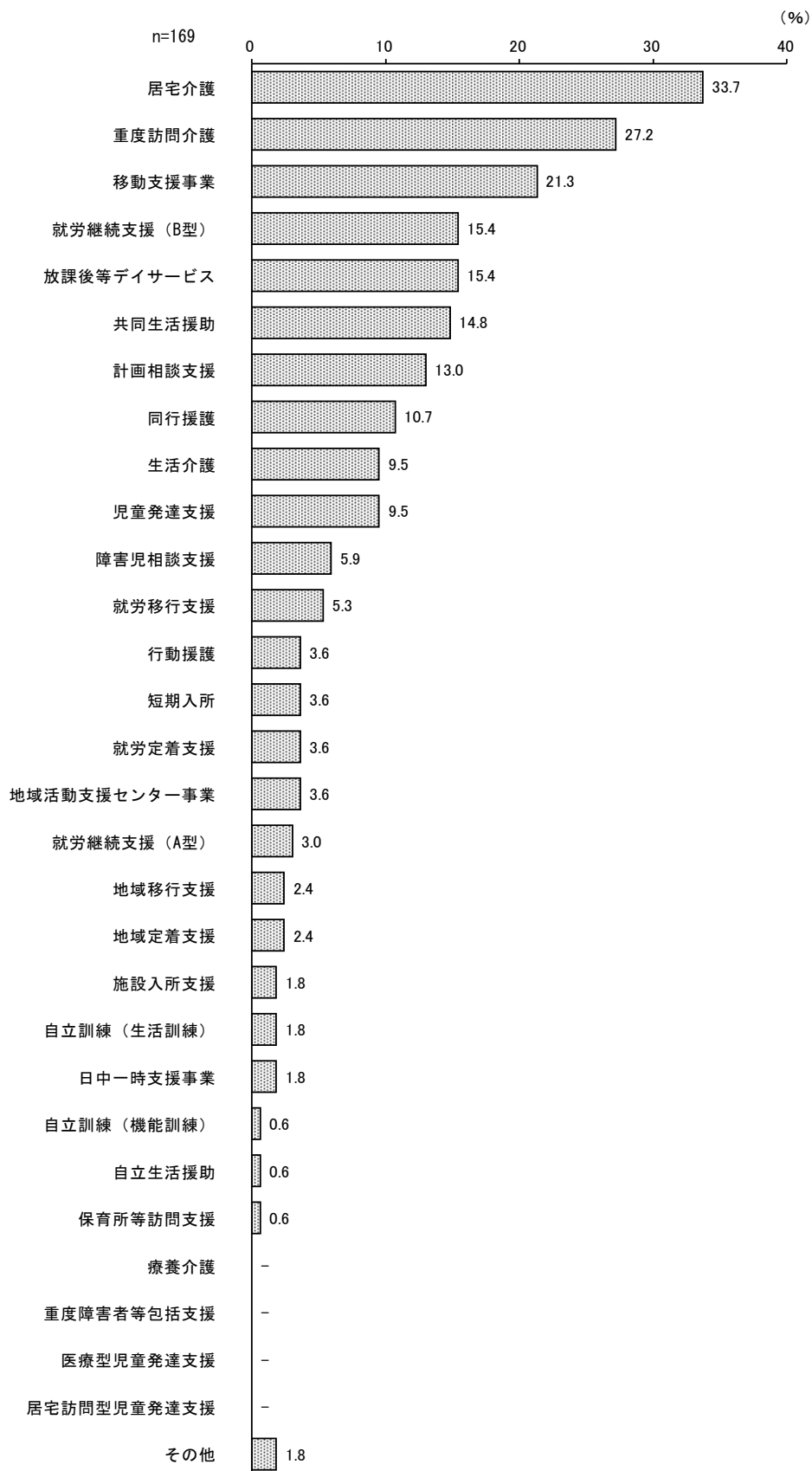
事業所の開始年度は、「昭和」が 8.3%、「平成元年～16年」が 23.1%、「平成17年～25年」が 37.9%、「平成26年～令和元年」が 27.2%となっている。

(%)



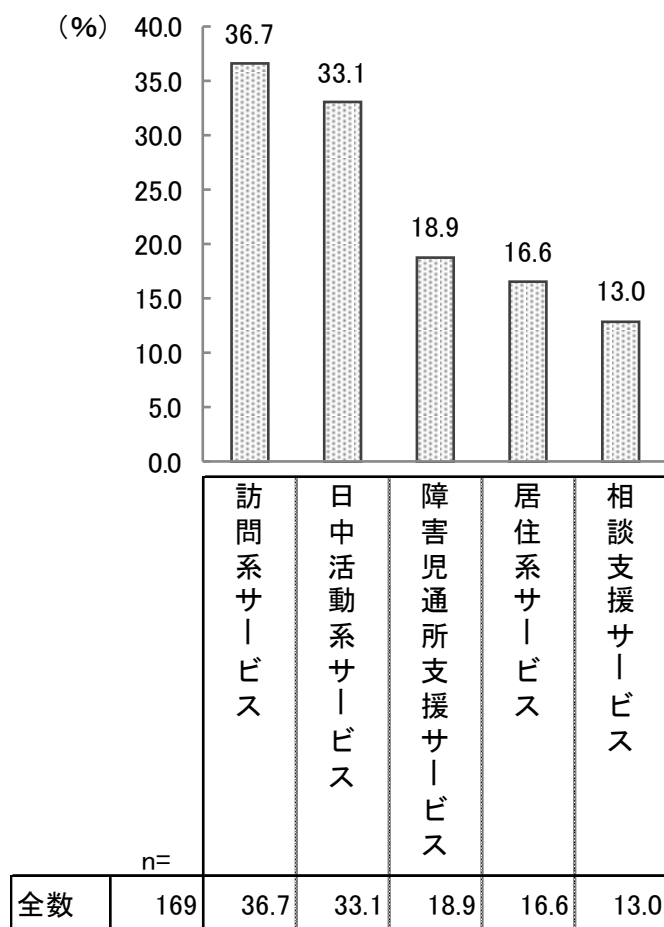
(4) 提供しているサービス（複数回答）

提供しているサービスは、「居宅介護」が 33.7%と最も多く、次いで「重度訪問介護」が 27.2%、「移動支援事業」が 21.3%となっている。



※練馬区では、「療養介護」「重度障害者等包括支援」「医療型児童発達支援」「居宅訪問型児童発達支援」を提供している事業所はない。（令和元年 12 月調査時点）

提供しているサービスを、サービス分類別にみると、「訪問系サービス」が 36.7%、「日中活動系サービス」が 33.1%、「障害児通所支援サービス」が 18.9%、「居住系サービス」が 16.6%、「相談支援サービス」が 13.0%となっている。



※事業所の分類

この報告書において、各設問のクロス集計を行う際に、サービス分類別により傾向を比較する場合には下記のとおり 5 つのカテゴリーに分類している。

「訪問系サービス」・・・・・・居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、自立生活援助、移動支援事業

「日中活動系サービス」・・・・生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A 型）、就労継続支援（B 型）
就労定着支援、地域活動支援センター事業、日中一時支援事業

「居住系サービス」・・・・・・共同生活援助、短期入所、施設入所支援

「相談支援サービス」・・・・・・計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援、障害児相談支援

「障害児通所支援サービス」・・・・児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援

（５） 事業所の定員（定員のあるサービスのみ）

事業所の定員について、「就労継続支援（Ｂ型）」の平均値は 28.1 人（中央値 23.5 人）、「共同生活援助（グループホーム）」の平均値は 11.9 人（中央値 9 人）、「放課後等デイサービス」の平均値は 9.8 人（中央値 10 人）となっている。

サービス名	回答 事業者数	平均値	中央値	最小値	最大値
居宅介護	1	5.0	5	5	5
重度訪問介護	1	5.0	5	5	5
行動援護	1	5.0	5	5	5
生活介護	14	39.9	40	10	77
短期入所(ショートステイ)	4	4.8	4	1	10
施設入所支援	3	60.0	60	40	80
自立訓練(機能訓練)	1	10.0	10	10	10
自立訓練(生活訓練)	3	37.3	20	10	82
就労移行支援	8	11.5	10	6	20
就労継続支援(A型)	5	17.2	15	10	30
就労継続支援(B型)	26	28.1	23.5	10	66
共同生活援助(グループホーム)	23	11.9	9	4	29
児童発達支援	12	17.9	10	5	75
放課後等デイサービス	22	9.8	10	5	15
地域活動支援センター事業	1	20.0	20	20	20
移動支援事業	1	1.0	1	1	1
日中一時支援事業	2	6.0	6	6	6

※回答のあったサービス・事業者のみ掲載

(6) 事業所の利用者数

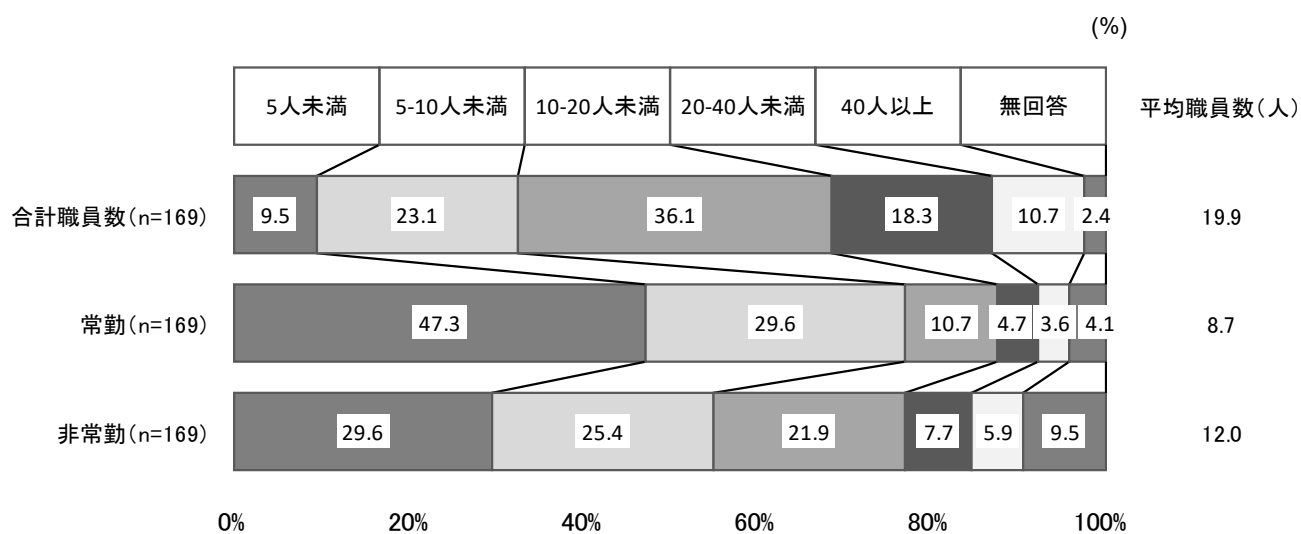
事業所平均の利用者数と区民数は以下のとおりとなっている。

サービス名	回答数	1事業所平均利用者数(単位:人)					
		身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	その他
居宅介護	42	6.0	1.1	3.3	0.1	0.1	-
重度訪問介護	29	2.0	0.1	-	-	0.7	0.1
同行援護	8	14.4	0.6	-	-	-	0.6
生活介護	14	9.1	30.3	-	-	-	-
短期入所(ショートステイ)	4	1.3	2.3	0.3	-	-	-
施設入所支援	2	-	67.0	-	-	-	-
自立訓練(機能訓練)	1	10.0	-	-	-	-	-
自立訓練(生活訓練)	3	1.0	3.3	27.0	-	-	-
就労移行支援	8	0.4	3.4	2.4	0.8	-	0.1
就労継続支援(A型)	5	-	8.2	4.2	-	-	-
就労継続支援(B型)	25	0.4	16.6	9.8	0.2	0.1	-
就労定着支援	5	0.2	6.4	0.8	0.8	0.2	-
自立生活援助	1	-	-	5.0	-	-	-
共同生活援助(グループホーム)	23	0.8	5.4	5.0	0.1	-	-
地域移行支援	1	-	-	1.0	-	-	-
計画相談支援	15	13.7	52.5	32.9	1.5	0.7	0.4
児童発達支援	13	8.4	5.7	0.4	29.0	0.5	8.8
放課後等デイサービス	25	3.5	14.5	0.2	11.5	0.5	1.4
障害児相談支援	4	0.5	26.8	-	14.0	0.3	182.5
地域活動支援センター事業	3	33.7	112.7	459.0	15.7	1.3	4.7
移動支援事業	24	2.7	8.1	0.3	0.6	0.1	-
日中一時支援事業	1	-	6.0	-	-	-	-

サービス名	回答数	1事業所平均利用者数(区民)(単位:人)					
		身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	その他
居宅介護	42	5.3	0.9	2.6	-	0.1	-
重度訪問介護	29	1.6	-	-	-	0.5	-
同行援護	8	10.4	-	-	-	-	0.6
生活介護	14	6.2	27.4	-	-	-	-
短期入所(ショートステイ)	4	0.5	2.3	0.3	-	-	-
施設入所支援	2	-	23.5	-	-	-	-
自立訓練(機能訓練)	1	10.0	-	-	-	-	-
自立訓練(生活訓練)	3	1.0	2.0	12.3	-	-	-
就労移行支援	8	0.3	3.4	1.9	0.8	-	0.1
就労継続支援(A型)	5	-	7.8	2.2	-	-	-
就労継続支援(B型)	25	0.3	14.1	8.5	0.2	0.1	-
就労定着支援	5	0.2	6.2	0.6	0.8	0.2	-
自立生活援助	1	-	-	3.0	-	-	-
共同生活援助(グループホーム)	23	0.7	4.3	2.8	0.1	-	-
地域移行支援	1	-	-	1.0	-	-	-
計画相談支援	15	10.7	40.9	26.1	1.2	0.7	0.4
児童発達支援	13	3.9	4.9	0.4	26.9	0.4	7.7
放課後等デイサービス	25	3.3	11.9	0.1	9.4	0.2	0.6
障害児相談支援	4	0.5	26.8	-	13.5	0.3	182.5
地域活動支援センター事業	3	25.7	104.3	353.3	9.0	1.0	3.0
移動支援事業	24	1.7	7.8	0.2	0.6	0.1	-
日中一時支援事業	1	-	6.0	-	-	-	-

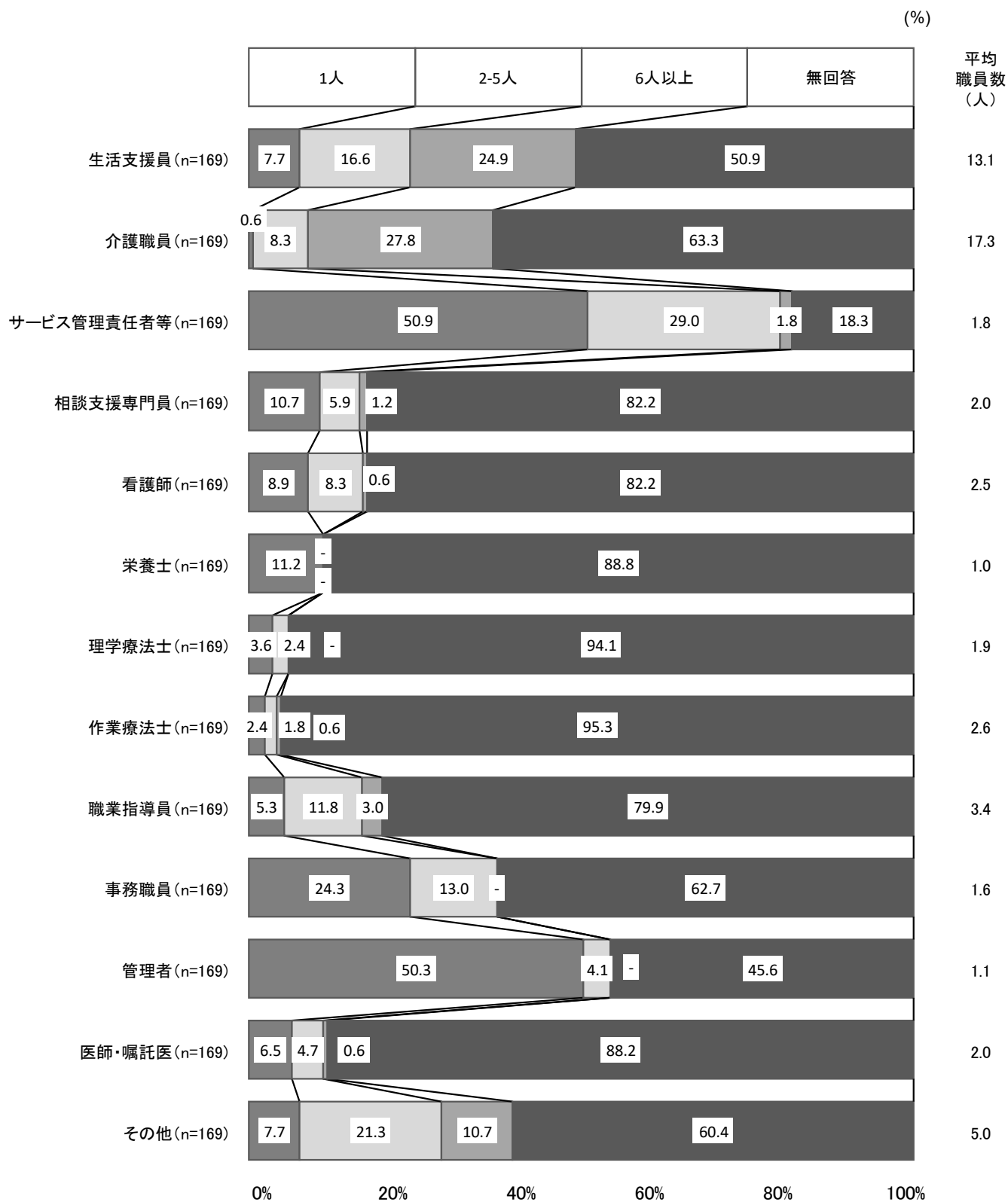
（７） 事業所の職員数

職員数は、常勤では「５人未満」が 47.3%、「５人～10 人未満」が 29.6%で、平均職員数は 8.7 人となっている。非常勤では「５人未満」が 29.6%、「５人～10 人未満」が 25.4%で、平均職員数は 12.0 人となっている。



(8) 職種別の職員数

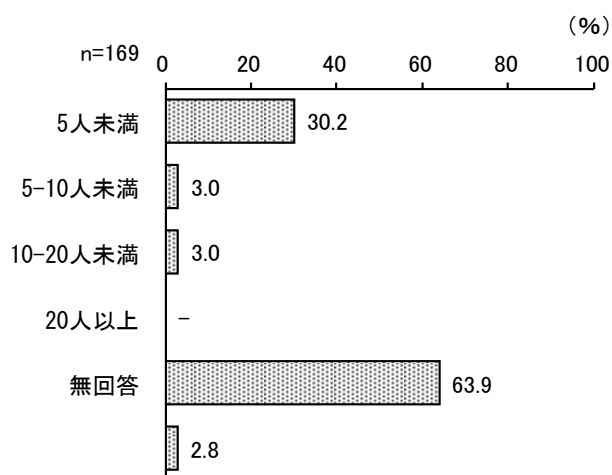
職種別の職員数は、生活支援員（24.9%）、介護職員（27.8%）では、6人以上が最も多くなっている。



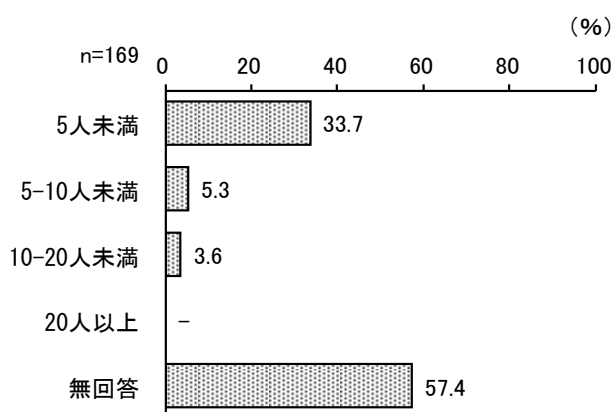
(9) 経験年数別の職員数

経験年数別の職員数は、どの経験年数においても「5人未満」が最も多くなっている。「5年以上10年未満」では「5～10人未満」が28.4%となっている。「10年以上」では「10～20人未満」が14.2%となっている。

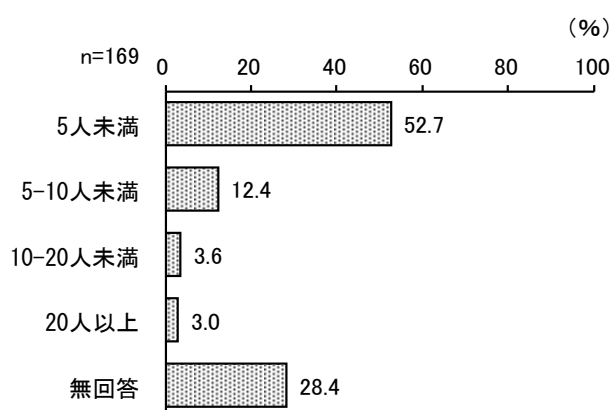
【6か月未満】



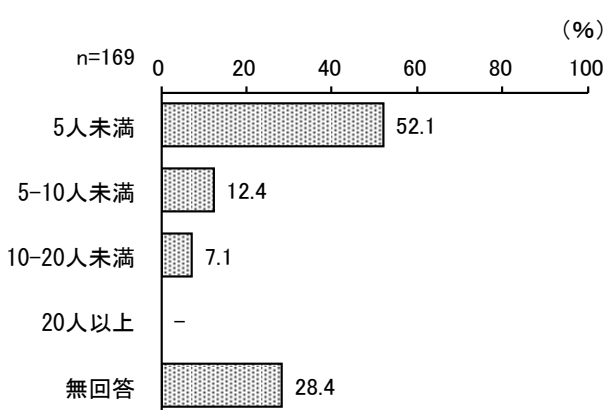
【6か月以上1年未満】



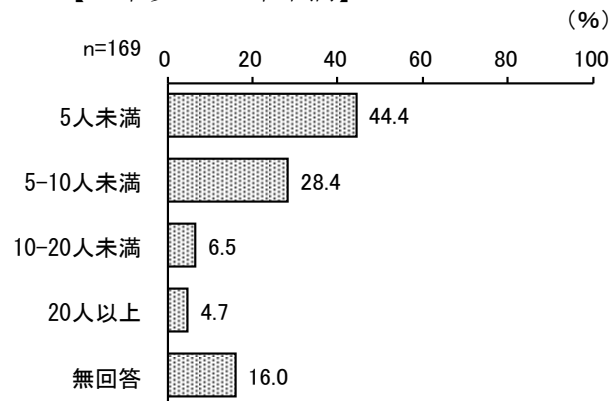
【1年以上3年未満】



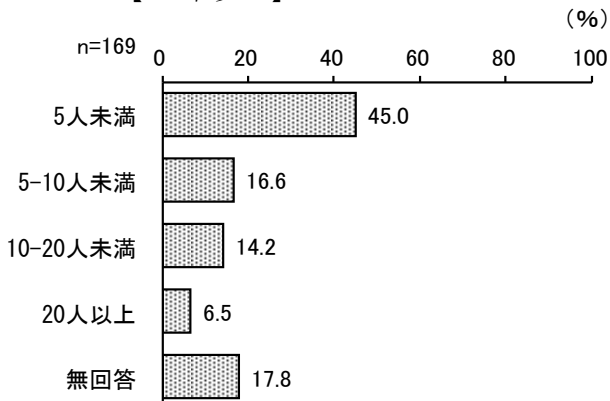
【3年以上5年未満】



【5年以上10年未満】



【10年以上】

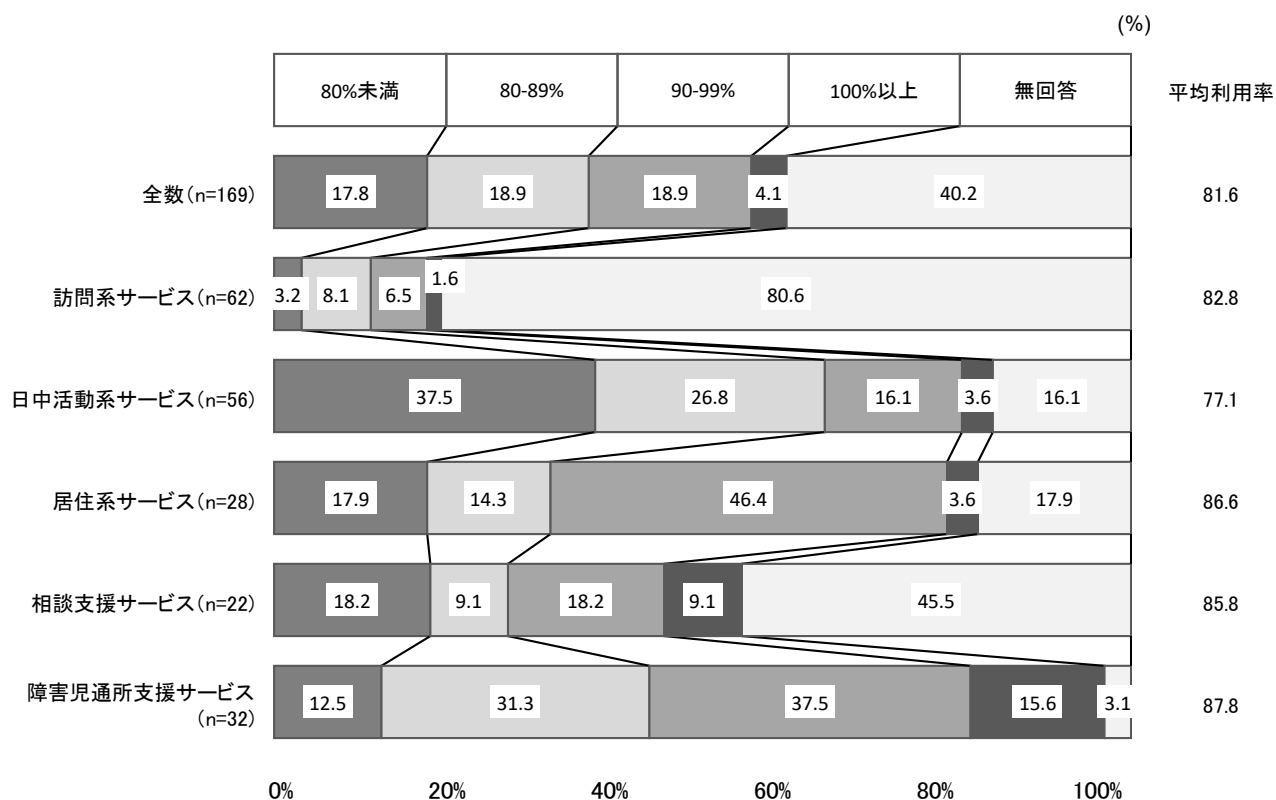


2 運営状況について

(1) 事業所の平均的な利用率（利用定員が定められている事業所）

平均的な利用率は、80%未満が 17.8%、8割台が 18.9%、9割台が 18.9%、100%以上が 4.1%となっている。

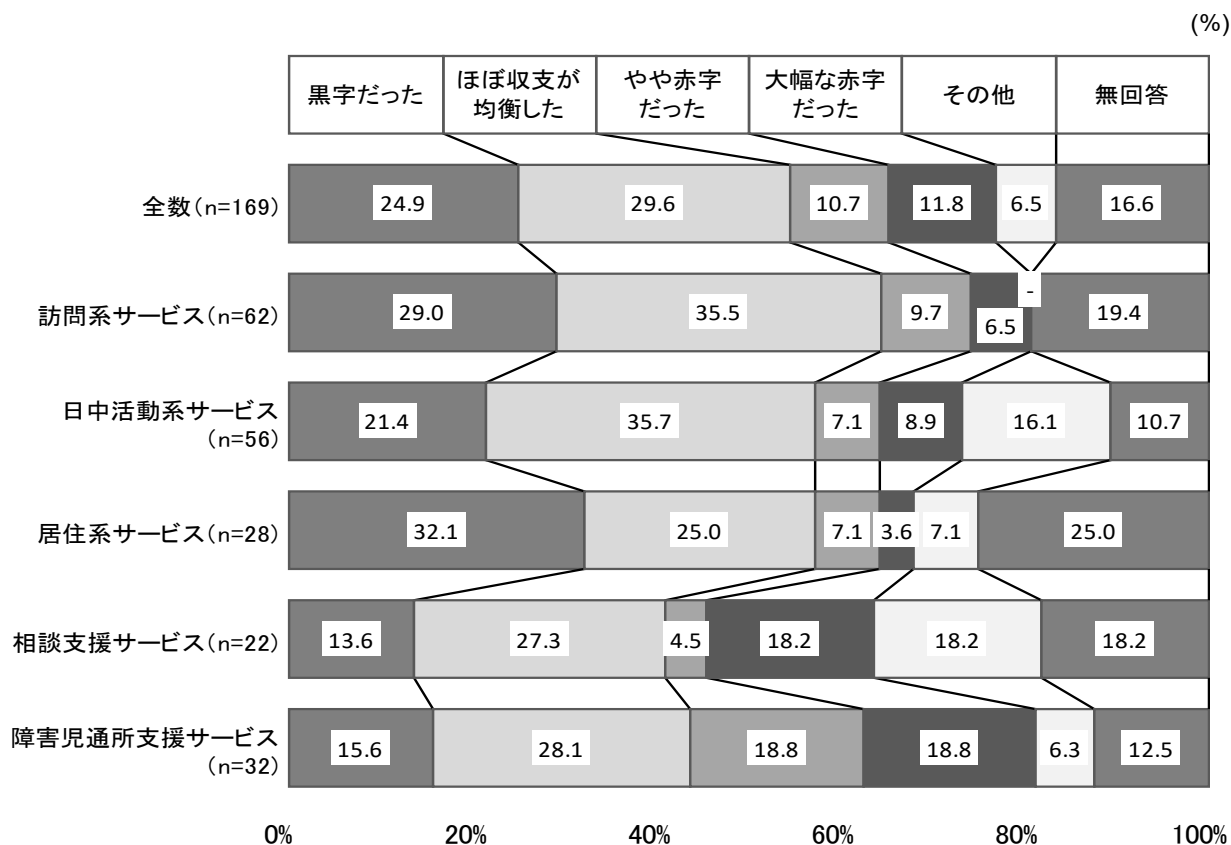
サービス分類別にみると、訪問系、居住系、相談支援、障害児通所支援では平均利用率が 80%台となっている。日中活動系では「80%未満」が 37.5%となっている。



(2) 事業の収支状況

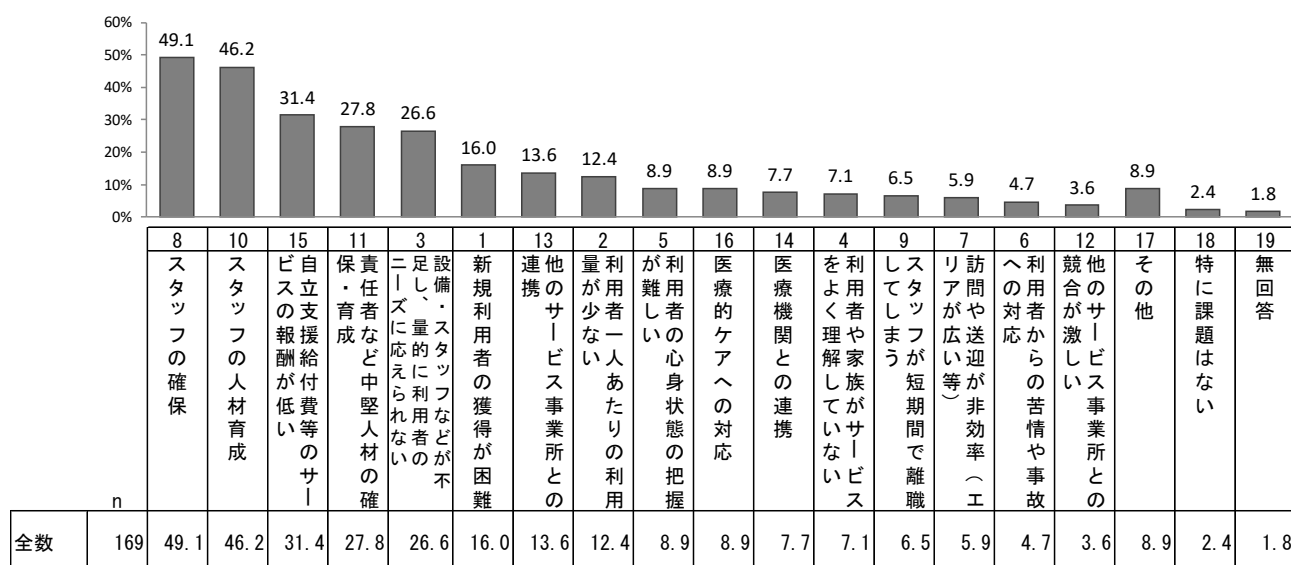
事業の収支状況は、「黒字だった」が 24.9%、「ほぼ収支が均衡した」が 29.6%、「やや赤字だった」が 10.7%、「大幅な赤字だった」が 11.8%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系、居住系では約 3 割、日中活動系では約 2 割が「黒字だった」と回答している。



(3) 事業を運営する上での課題（複数回答）

事業を運営する上での課題は、「スタッフの確保」が最も多く 49.1%、次いで「スタッフの人材育成」が 46.2%となっている。

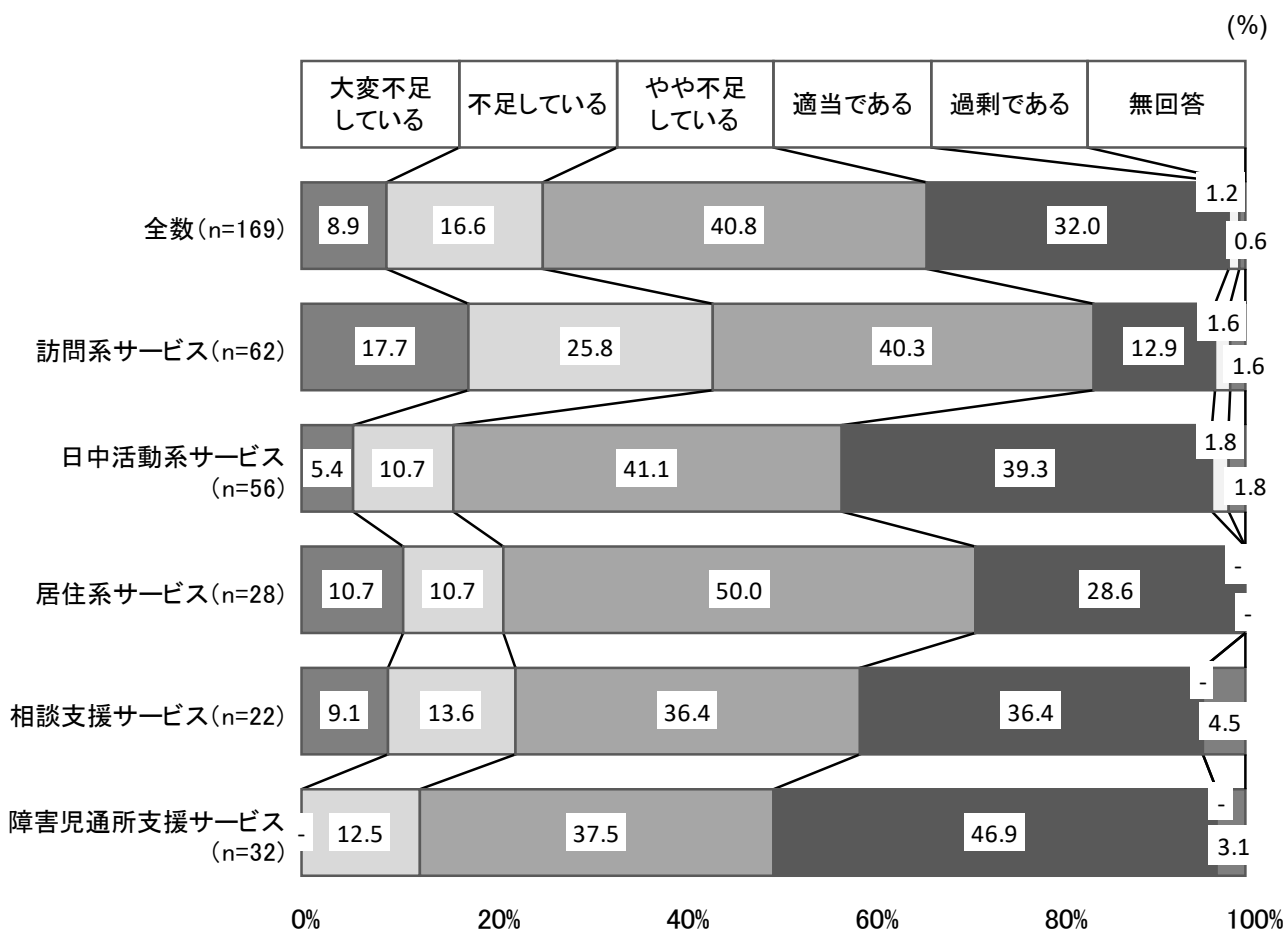


3 人材確保・人材育成について

(1) 職員の過不足

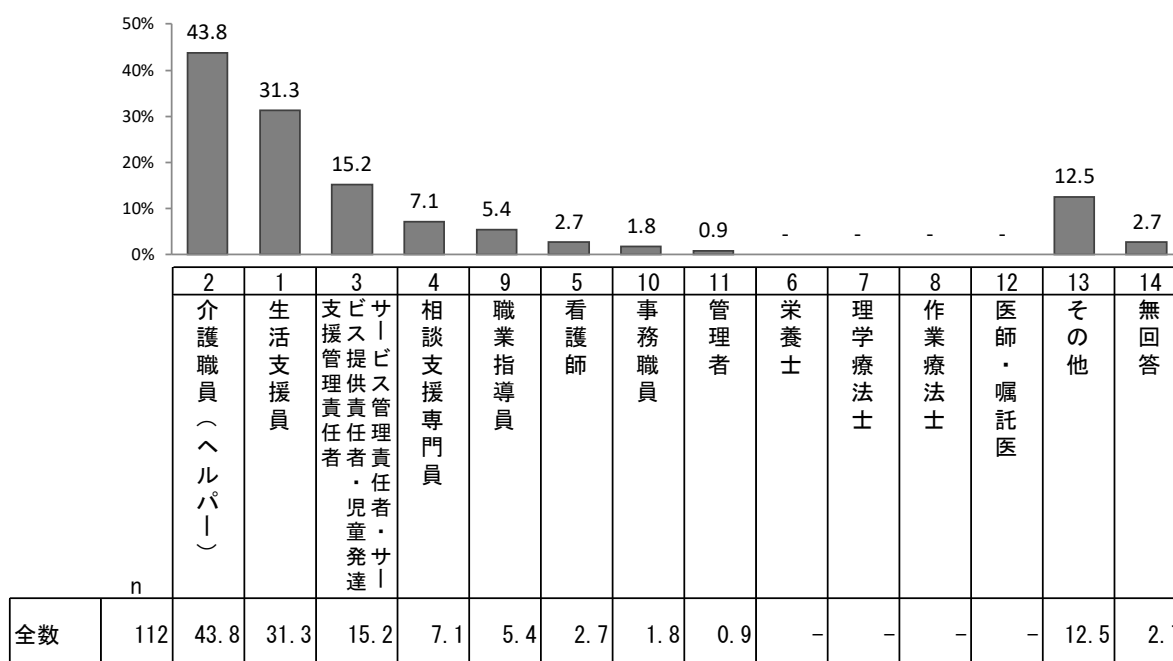
職員の過不足について、“不足している”（「大変不足している」「不足している」「やや不足している」の合計）と回答した事業所が6割を超えている。「適当である」と回答した事業所は32.0%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系では約8割、居住系では約7割が“不足している”と回答している。



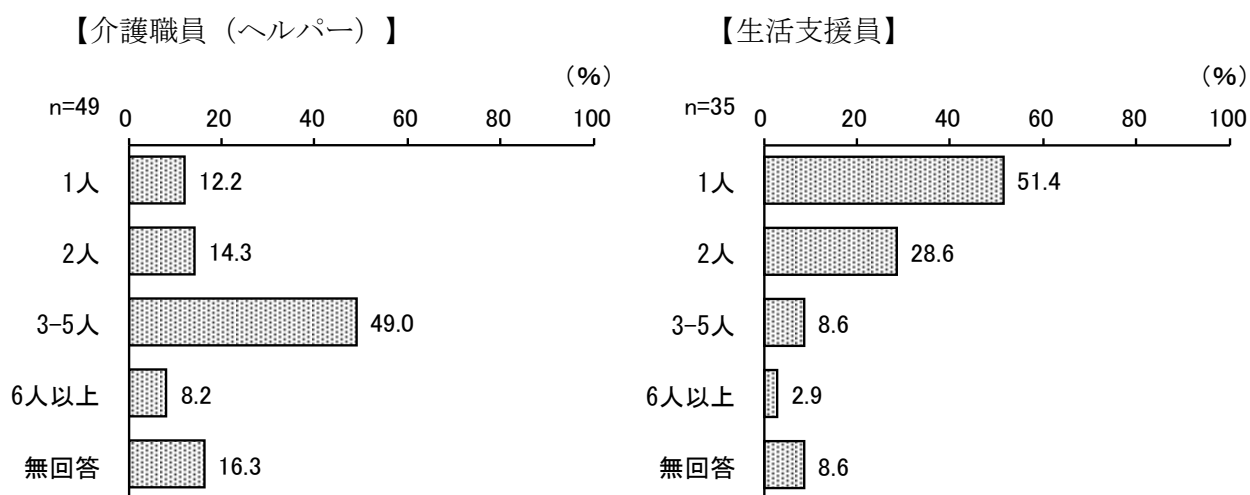
(2) 不足している職員の職種（複数回答）

不足している職員の職種は、「介護職員（ヘルパー）」が最も多く 43.8%、次いで「生活支援員」が 31.3%となっている。

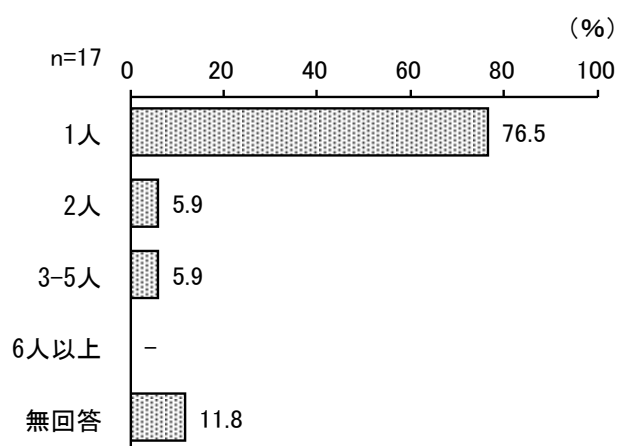


※ベース：職員が“不足している”事業所

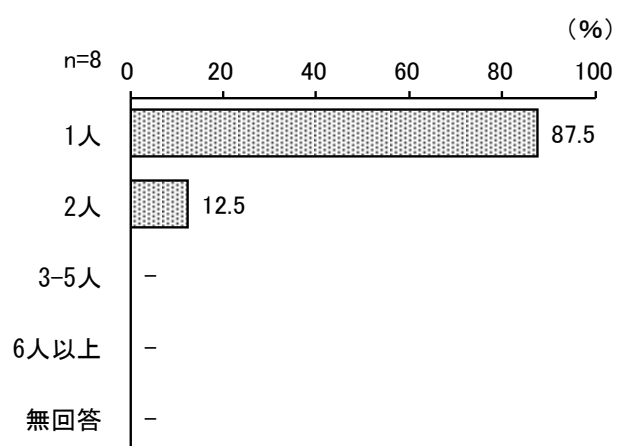
<職種ごとの不足数>



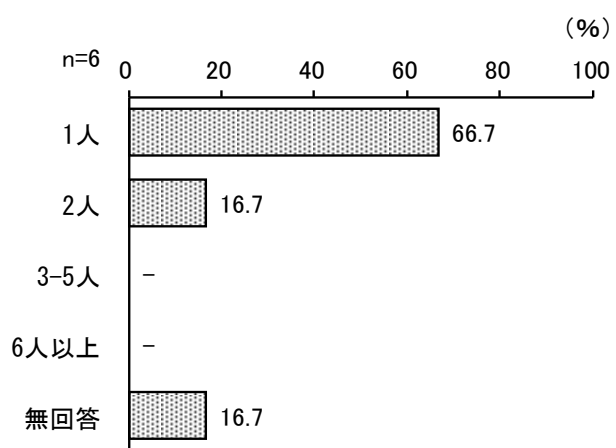
【サービス管理責任者・
サービス提供責任者・児童発達支援管理責任者】



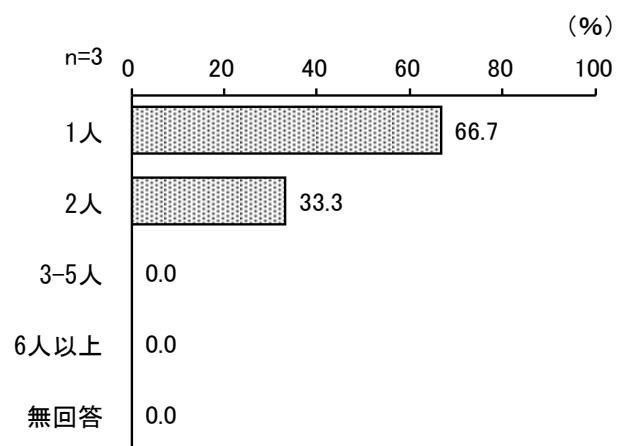
【相談支援専門員】



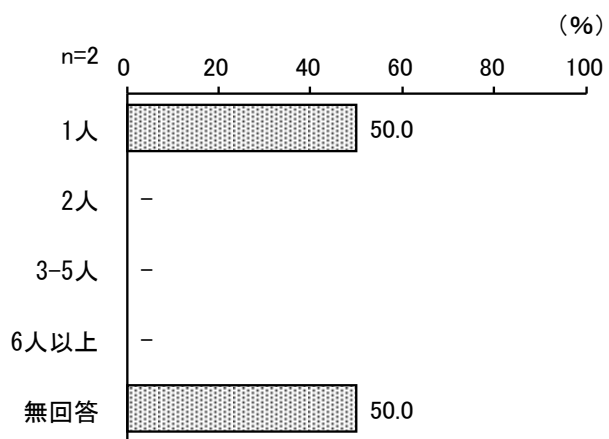
【職業指導員】



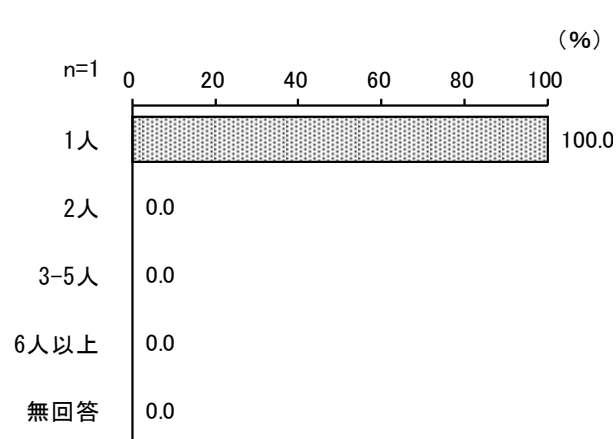
【看護師】



【事務職員】



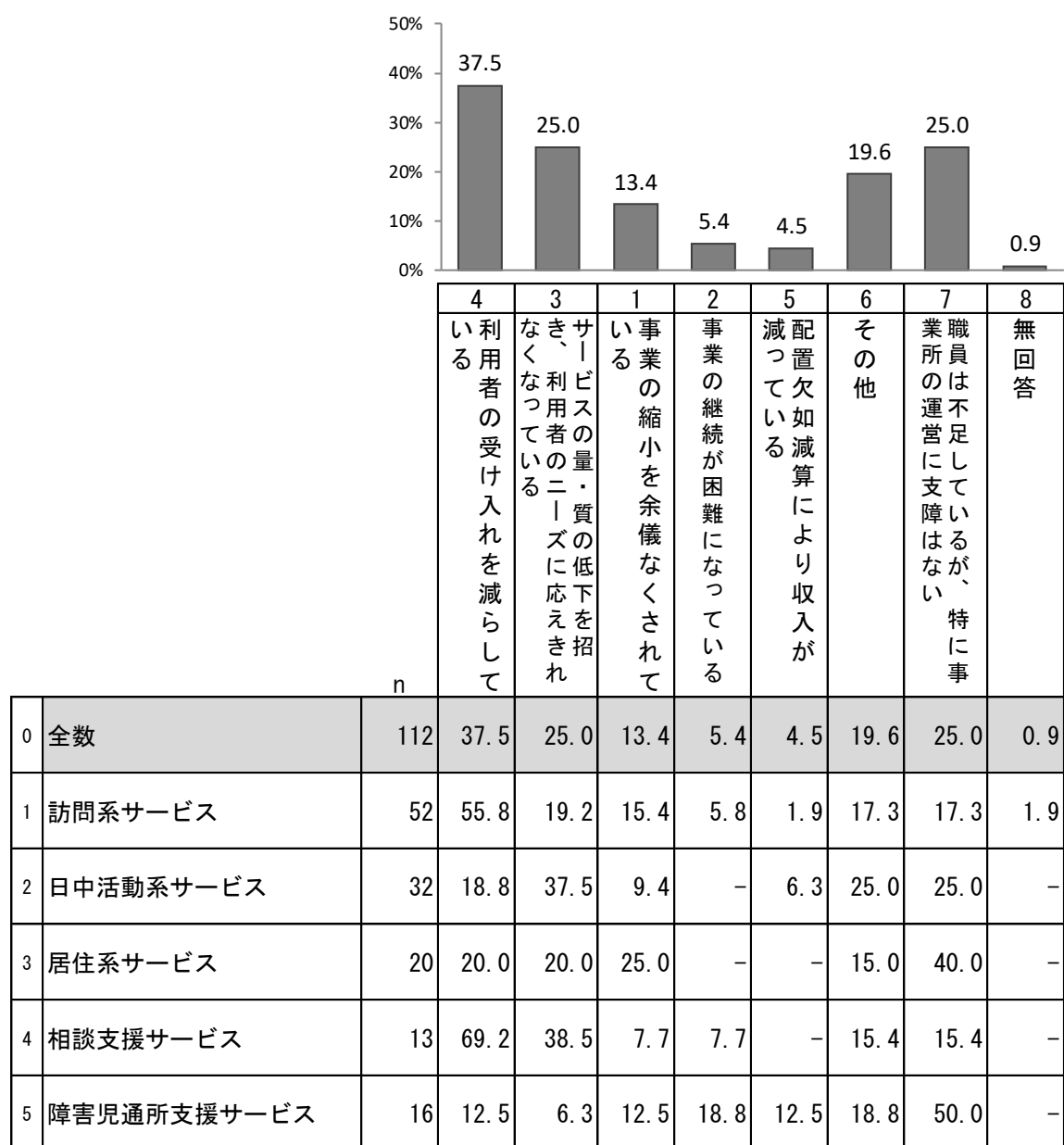
【管理者】



(3) 職員の不足による運営の支障（複数回答）

職員の不足による運営の支障としては、「利用者の受け入れを減らしている」が最も多く 37.5%、次いで「サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている」が 25.0% となっている。

サービス分類別にみると、訪問系、相談支援では半数以上が「利用者の受け入れを減らしている」と回答している。



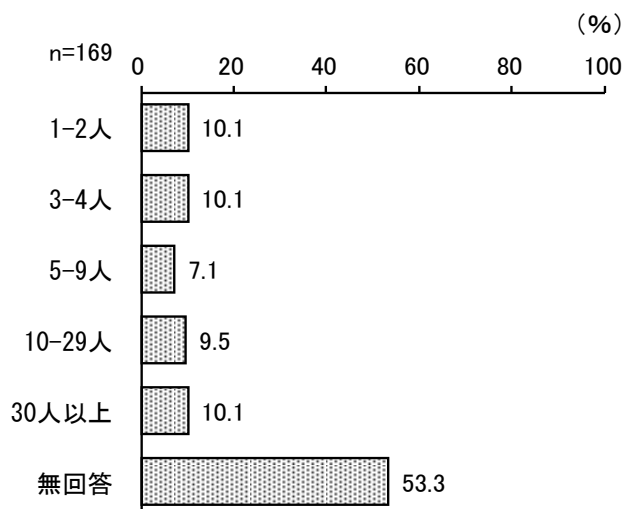
※ベース：：職員が“不足している”事業所

(4) 過去3年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）・退職者数

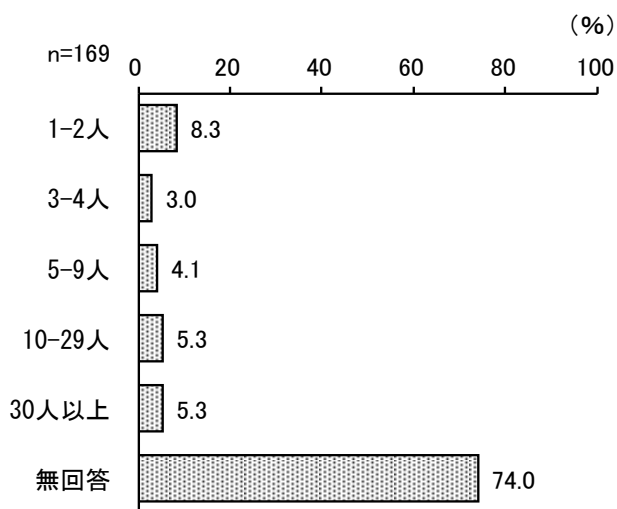
運営法人における過去3年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）、退職者数は以下のとおりとなっている。

<運営法人>

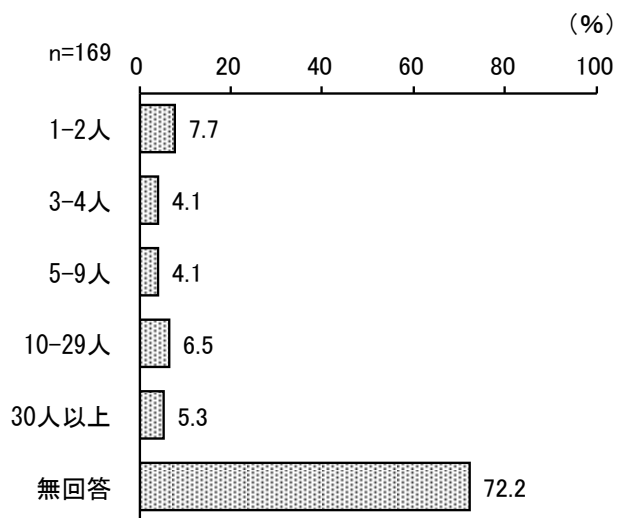
【採用者数：合計】



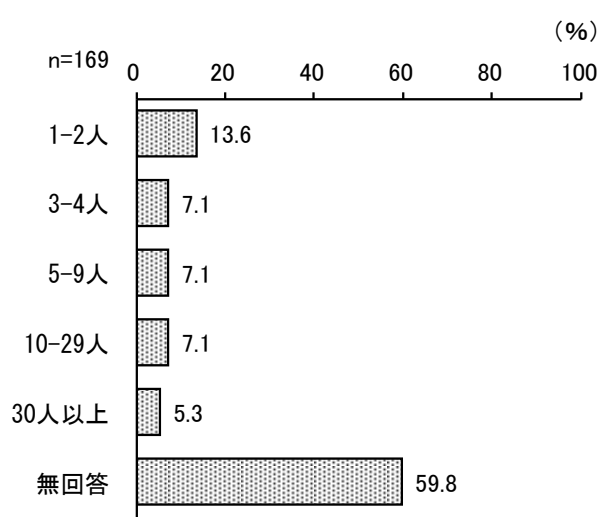
【採用者数：新規採用】



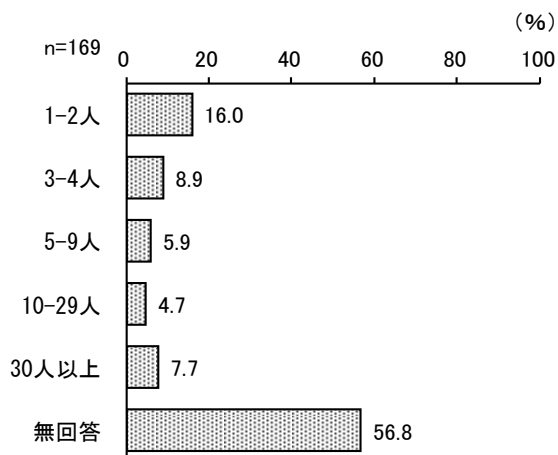
【採用者数：未経験者】



【採用者数：経験者】



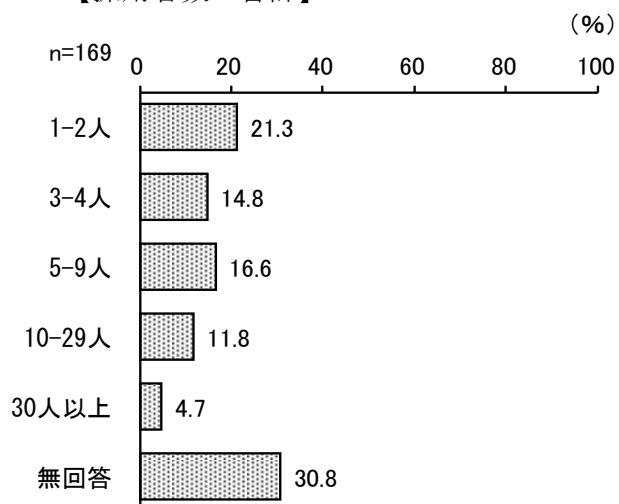
【退職者数】



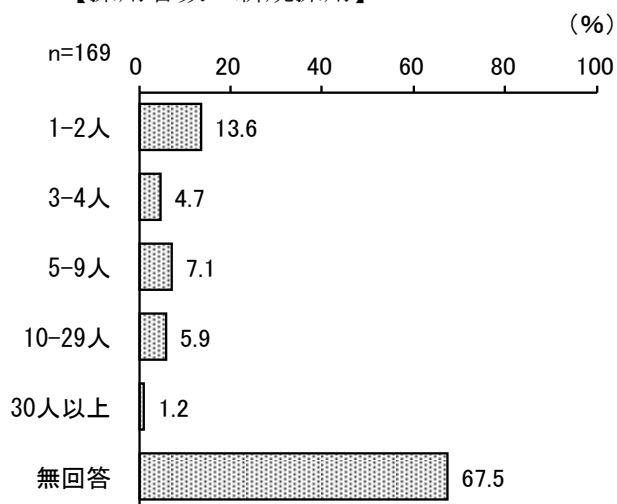
事業所における過去3年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）、退職者数は以下のとおりとなっている。

<事業所>

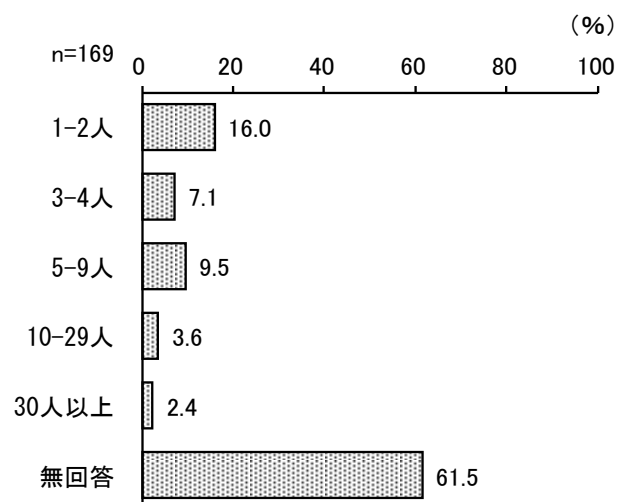
【採用者数：合計】



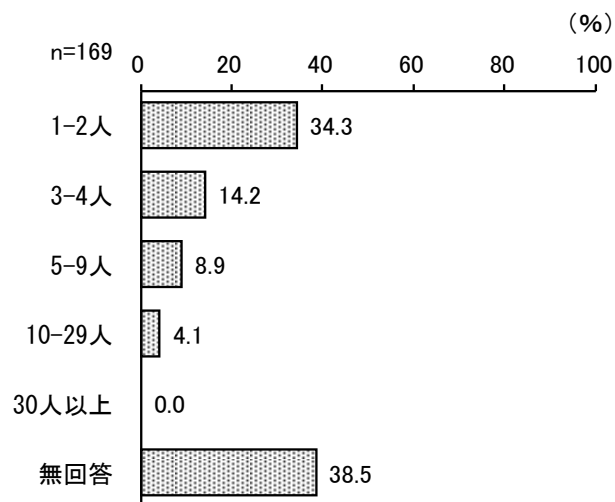
【採用者数：新規採用】



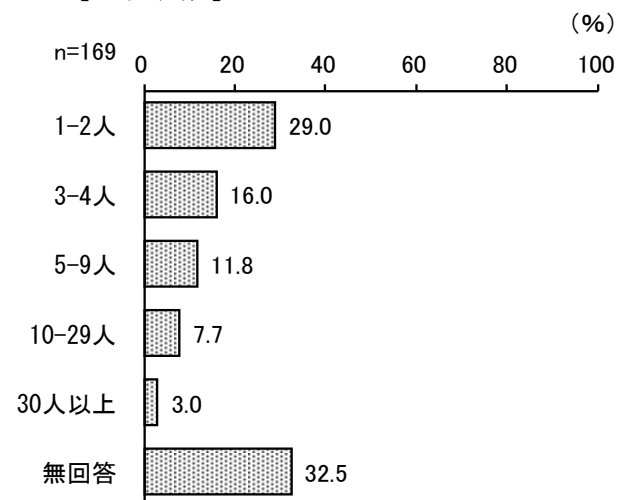
【採用者数：未経験者】



【採用者数：経験者】



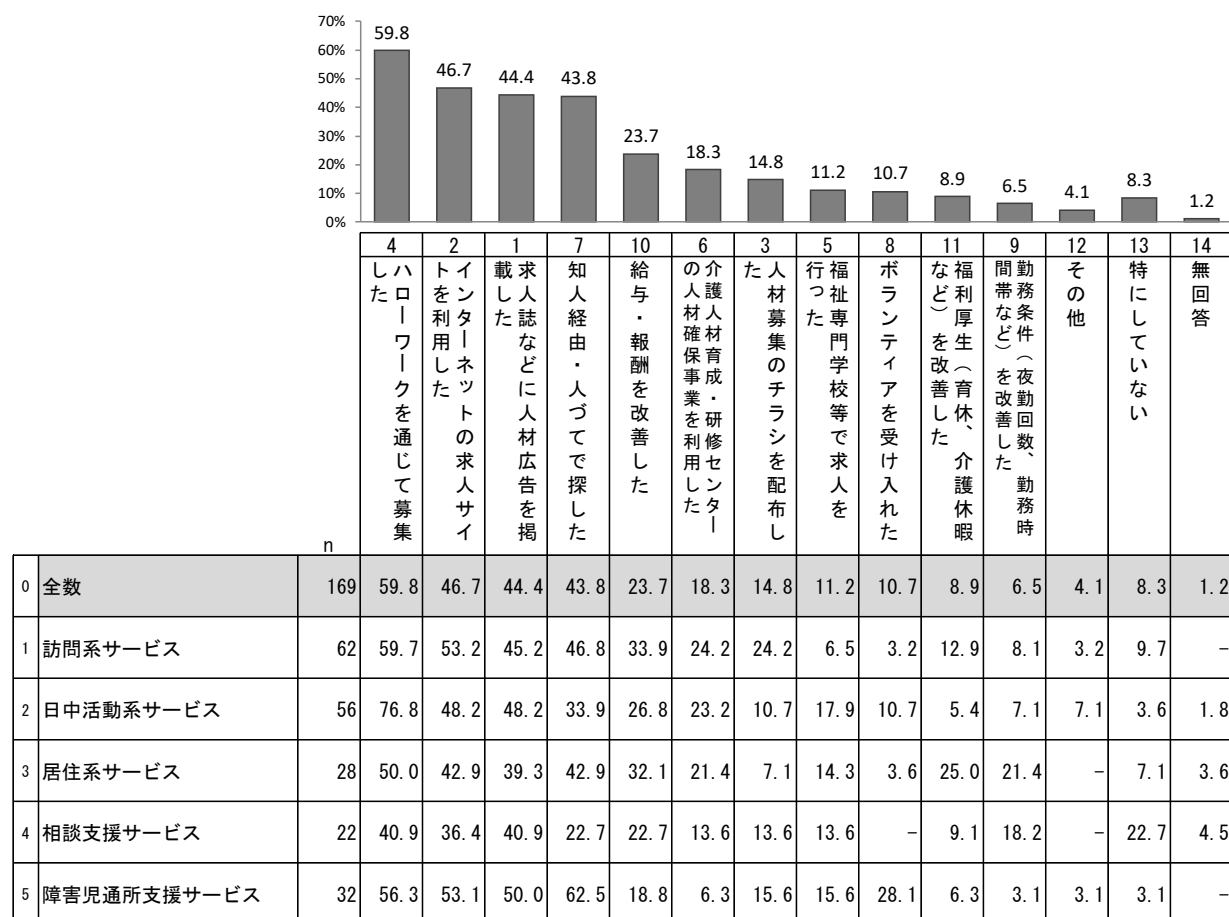
【退職者数】



(5) 人材確保のための取組（複数回答）

人材確保のための取組は、「ハローワークを通じて募集した」が最も多く 59.8%、次いで「インターネットの求人サイトを利用した」が 46.7%、「求人誌などに人材広告を掲載した」が 44.4%、「知人経由・人づてで探した」が 43.8%となっている。

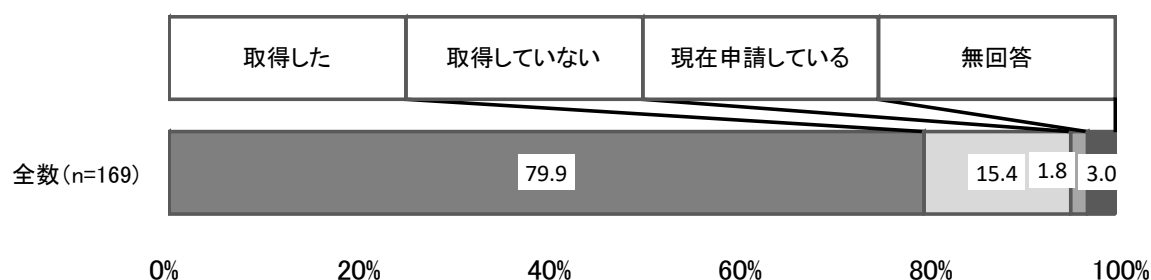
サービス分類別にみると、訪問系では約 6 割、日中活動系では約 8 割が「ハローワークを通じて募集した」と回答している。また、障害児通所支援では「知人経由・人づてで探した」が 62.5%と最も多くなっている。



(6) 処遇改善加算の取得

処遇改善加算は、「取得した」が 79.9%となっている。

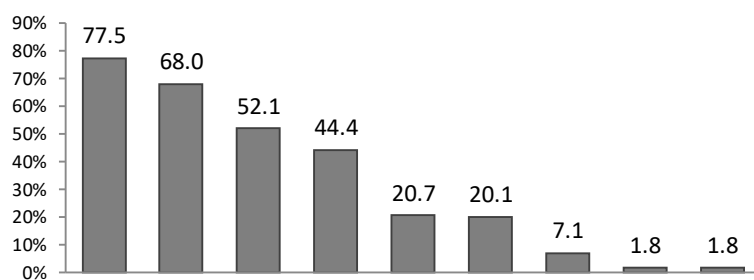
(%)



（７） 人材育成のための取組（複数回答）

人材育成のための取組は、「事業所での研修実施」が最も多く 77.5%、次いで「外部研修への参加支援（費用面など）」が 68.0%、「資格取得のための支援（費用面など）」が 52.1%となっている。

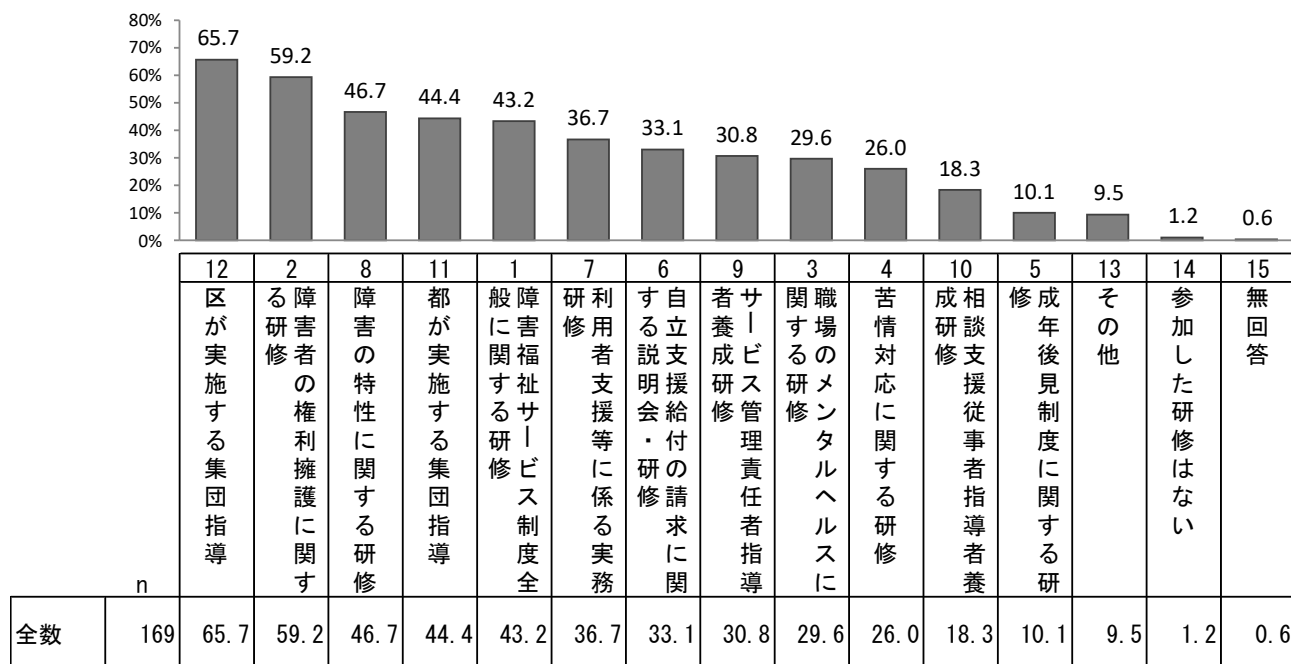
サービス分類別にみると、訪問系、日中活動系、障害児通所支援では「事業所での研修実施」（それぞれ 83.9%、83.9%、90.6%）が最も多く、居住系、相談支援では「外部研修への参加支援（費用面など）」（それぞれ 75.0%、72.7%）が最も多くなっている。



n			3 事業所での研修実施	2 外部研修への参加支援 （費用面など）	1 資格取得のための支援 （費用面など）	4 研修計画の策定	6 中堅・ベテラン職員に育 成を経験させる	5 スキルアップに対し報酬 制度を設ける	7 その他	8 特に取り組んでいない	9 無回答
0	全数	169	77.5	68.0	52.1	44.4	20.7	20.1	7.1	1.8	1.8
1	訪問系サービス	62	83.9	53.2	71.0	56.5	17.7	27.4	—	1.6	1.6
2	日中活動系サービス	56	83.9	71.4	35.7	46.4	23.2	17.9	12.5	—	—
3	居住系サービス	28	50.0	75.0	28.6	25.0	10.7	7.1	17.9	3.6	7.1
4	相談支援サービス	22	54.5	72.7	36.4	27.3	13.6	9.1	13.6	4.5	—
5	障害児通所支援サービス	32	90.6	87.5	75.0	50.0	31.3	31.3	3.1	—	—

(8) 過去 1 年間に参加した研修内容（複数回答）

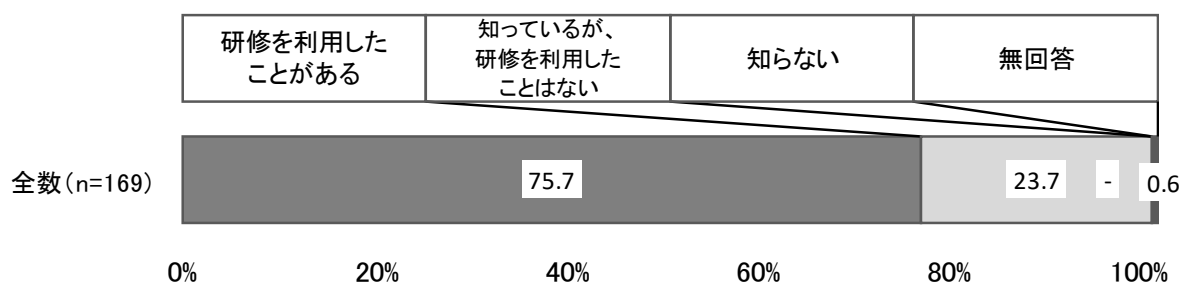
過去 1 年間に参加した研修内容は、「区が実施する集団指導」が最も多く 65.7%、次いで「障害者の権利擁護に関する研修」が 59.2%、「障害の特性に関する研修」が 46.7%となっている。



(9) 練馬障害福祉人材育成・研修センターの利用

練馬障害福祉人材育成・研修センターについて、「研修を利用したことがある」と回答した事業所が 75.7%、「知っているが、研修を利用したことはない」が 23.7%となっている。

(%)



(10) 練馬障害福祉人材育成・研修センターの利用についての考え方、理由（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

(利用している・利用を考えている)

- ・新規採用職員には必ず受講させている。
- ・研修計画に応じて受講している。
- ・メニューが豊富で充実している。スキルアップのため最大限に活用している。
- ・区内の会場で実施しており、また半日単位の研修が多く、参加しやすい。
- ・カリキュラムが幅広く、職員の育成として活用している。
- ・基礎研修、階層別研修、啓発研修と目的に応じて参加でき、無料というのも大変助かる。
- ・小さな事業所のため社内研修がなかなかできないので、できるだけ活用している。
- ・他の事業所とのコミュニケーションの場としても活用している。

(利用は難しい・利用は考えていない)

- ・日々の業務が忙しく、日程の確保が難しい。
- ・内容が毎年同じような感じで、スキルアップが期待できない。
- ・日中の時間帯での開催のため、支援時間と重なり、受講が難しいときがある。

(11) 練馬障害福祉人材育成・研修センターに期待すること（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

(研修の内容)

- ・毎回同じような内容にならないよう、様々な方面から講師選定をしてほしい。
- ・重症心身障害児（者）や重複障害、事業所の経営に関する研修
- ・研修テーマをトレンドに合わせたものとしてほしい。
- ・未経験者向けの研修、具体的な支援方法や事例の充実
- ・介護保険など高齢期に関する研修の充実
- ・議義だけではなく、グループワークによる研修を増やしてほしい。

(開催方法・開催時間)

- ・事業所内で実施する職員研修への講師派遣制度（出張研修・訪問による研修）
- ・土日や夜の開催を増やしてほしい。

(その他)

- ・事業所間で連携ができる環境づくり
- ・なかなか研修に参加できないので、資料だけでも提供してもらいたい。

(12) 人材確保・人材育成について、練馬区に取り組んでほしいこと（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・人材紹介、人材バンクの導入
- ・福祉のイメージを良くするようなPR、情報発信
- ・看護師の確保のため、医療機関との連携による交流等の機会をつくってほしい。
- ・ハローワークなどと連携した面談会の実施
- ・好事例の取組を実践している事業所の見学会
- ・ボランティア活動の活性化

4 サービスの提供状況について

(1) サービスの提供状況

サービスの提供状況（提供可能量と実際の提供量）について、1事業所あたりの1か月平均の回答平均値は以下のとおりとなっている。

サービス名	回答数	1か月平均の サービス 提供可能量 (1事業所あたり)	1か月平均の 実際の サービス提供量 (1事業所あたり)	単位
		回答平均値	回答平均値	
居宅介護	35	146.0	127.4	時間
重度訪問介護	25	374.8	349.9	時間
同行援護	8	41.6	37.1	時間
行動援護	3	63.3	55.0	時間
生活介護	14	291.4	261.1	日
短期入所(ショートステイ)	5	92.0	110.4	日
施設入所支援	3	58.7	58.0	人
自立訓練(機能訓練)	1	200.0	91.0	日
自立訓練(生活訓練)	2	300.0	117.5	日
就労移行支援	6	326.3	70.2	日
就労継続支援(A型)	5	60.2	32.0	日
就労継続支援(B型)	26	170.1	130.2	日
就労定着支援	5	191.0	121.6	日
自立生活援助	1	50.0	10.0	日
共同生活援助(グループホーム)	24	52.4	48.8	人
地域移行支援	4	1.3	1.1	人
地域定着支援	3	1.7	1.3	人
計画相談支援	17	19.2	18.2	人
児童発達支援	15	138.7	122.3	日
放課後等デイサービス	26	74.6	58.3	日
保育所等訪問支援	1	3.0	3.0	日
障害児相談支援	8	24.3	23.5	人
地域活動支援センター事業	5	57.0	35.5	日
移動支援事業	21	197.5	182.2	時間
日中一時支援事業	2	174.0	104.0	日

※回答のあったサービスのみ掲載

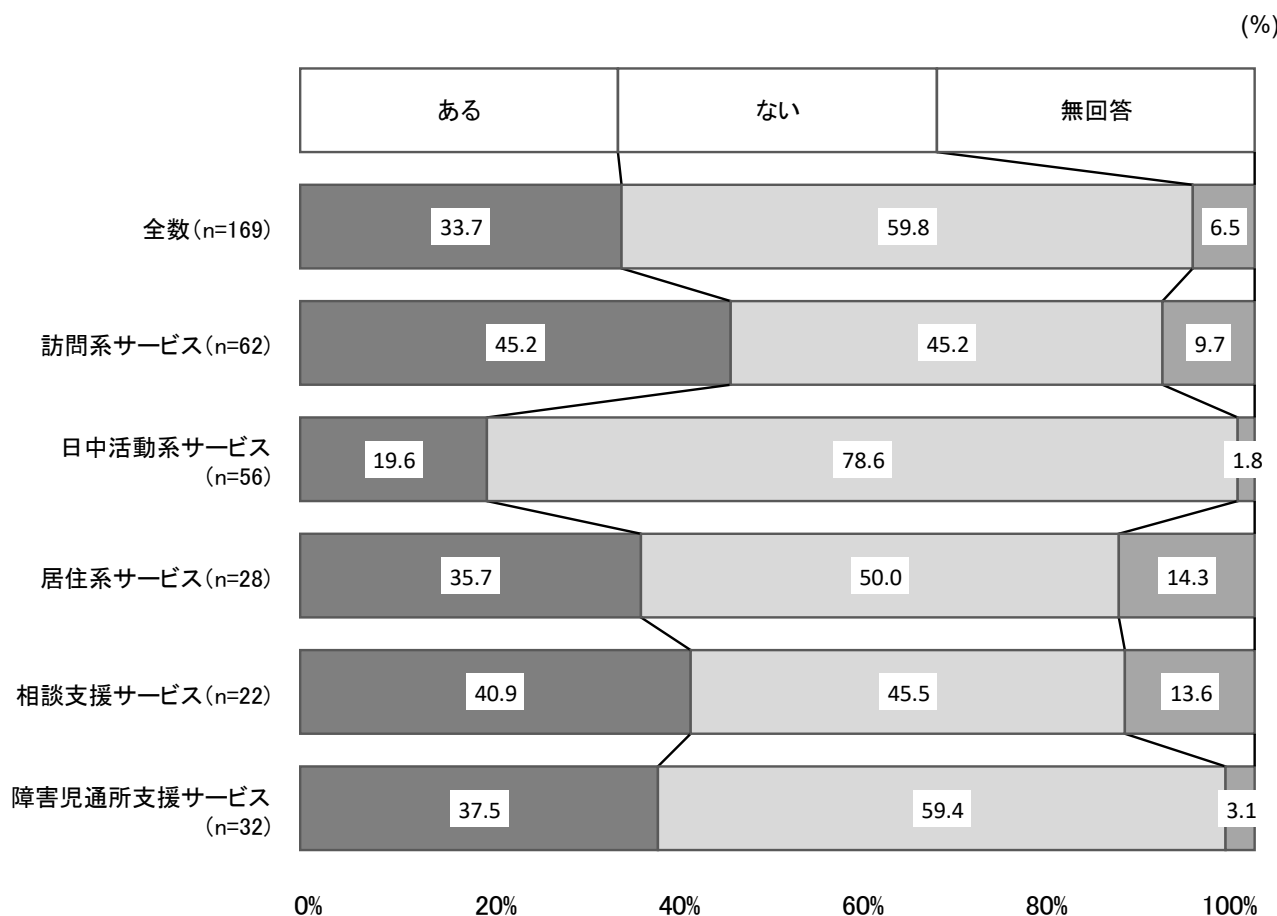
※単位が「時間」または「日」の場合は、「延べ時間」または「延べ日数」

※単位が「人」の場合は、実人数

（２） サービスを提供しようとしてできなかったこと

これまでにサービスを提供しようとしてできなかったことについて、「ある」と回答した事業所は 33.7%、「ない」と回答した事業所は 59.8%となっている。

サービス分類別にみると、「ある」と回答した事業所は訪問系、相談支援では４割台となっている。



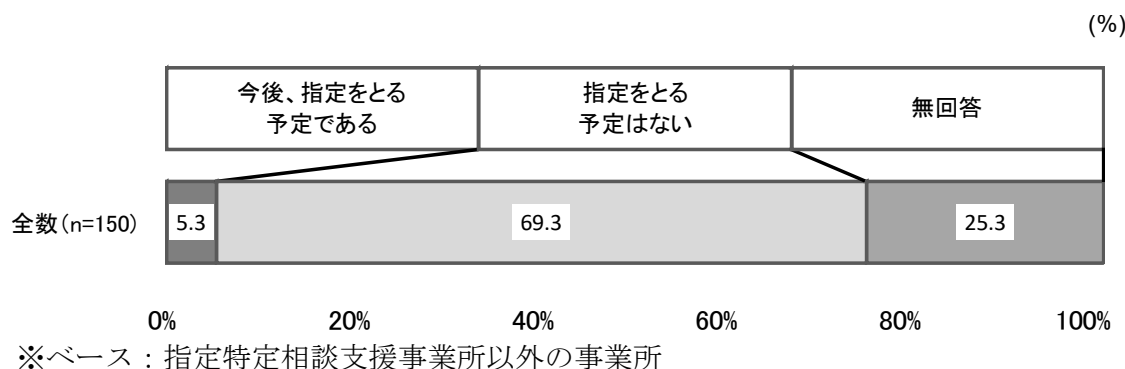
（３） サービスを提供しようとしてできなかった理由（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・ヘルパーの不足
- ・満室、満床、利用希望時間の重複（ショートステイ）
- ・重度の身体障害や日常的に医療的ケアが必要な方に対応ができない。
- ・支給決定量の制約
- ・台風や大雪などのため安全を考慮して休業したことがある。

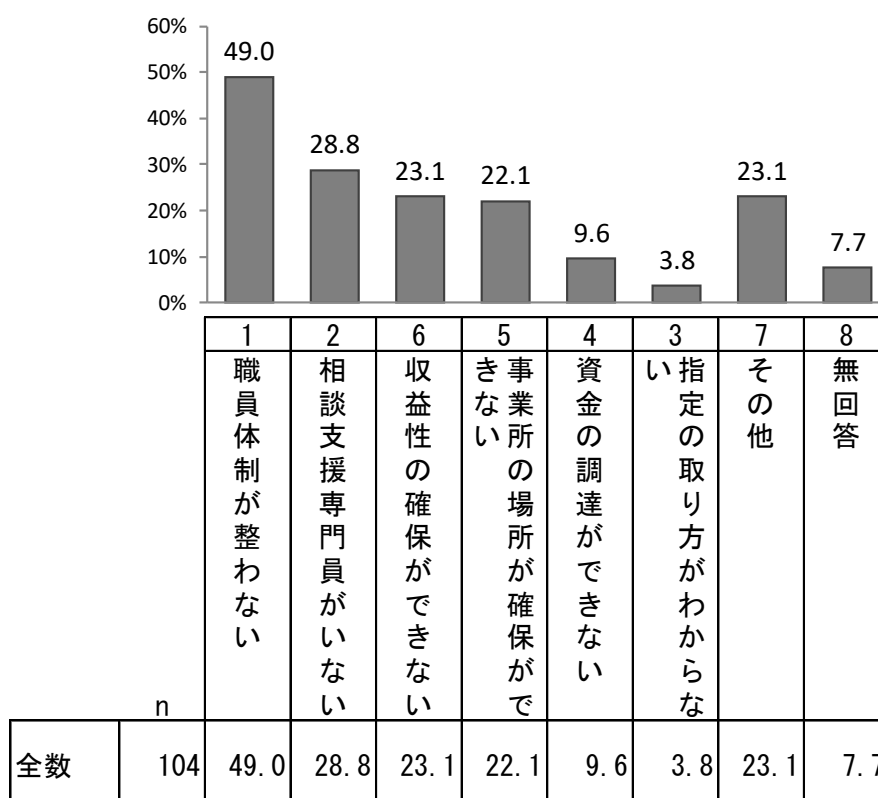
(4) 特定相談支援事業所の指定を取る予定の有無

特定相談支援事業所の指定について、「今後、指定をとる予定である」と回答した事業所は5.3%、「指定をとる予定はない」と回答した事業所は69.3%となっている。



(5) 特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由（複数回答）

特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由は、「職員体制が整わない」が49.0%と最も多くなっている。



※ベース：今後、特定相談支援事業所の指定をとる予定はないと回答した事業所

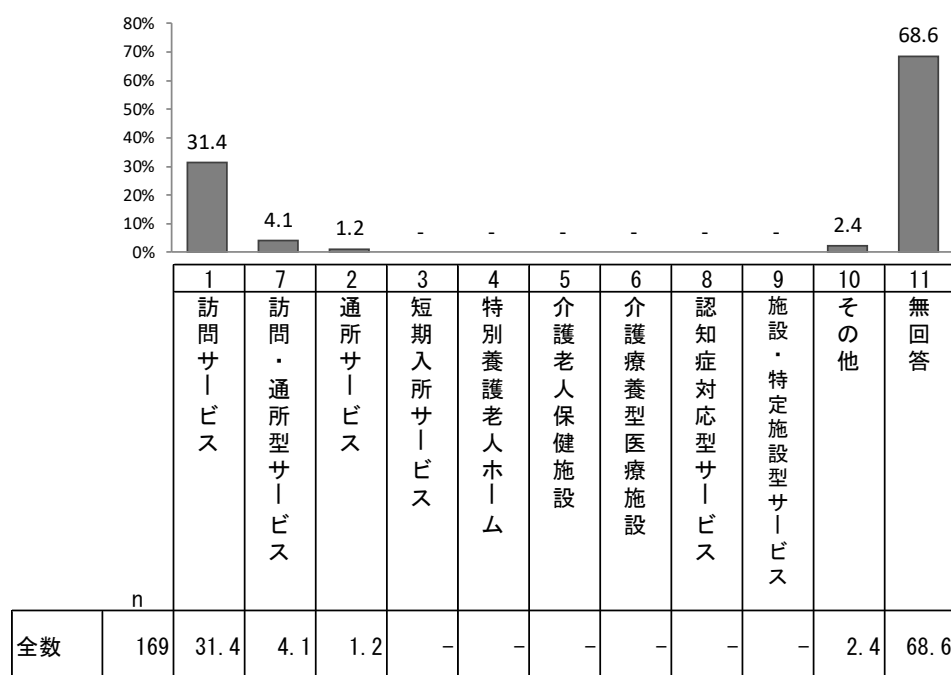
（６） 障害福祉サービス・介護保険サービス以外に提供しているサービス（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・ヘルパー派遣業務（自社独自サービス）
- ・育児支援ヘルパー（自費サービス）
- ・電話、ＬＩＮＥ、メールによる相談
- ・いきがいデイサービス
- ・福祉タクシー
- ・日常生活支援総合事業の訪問型サービス
- ・放課後、土日の居場所提供

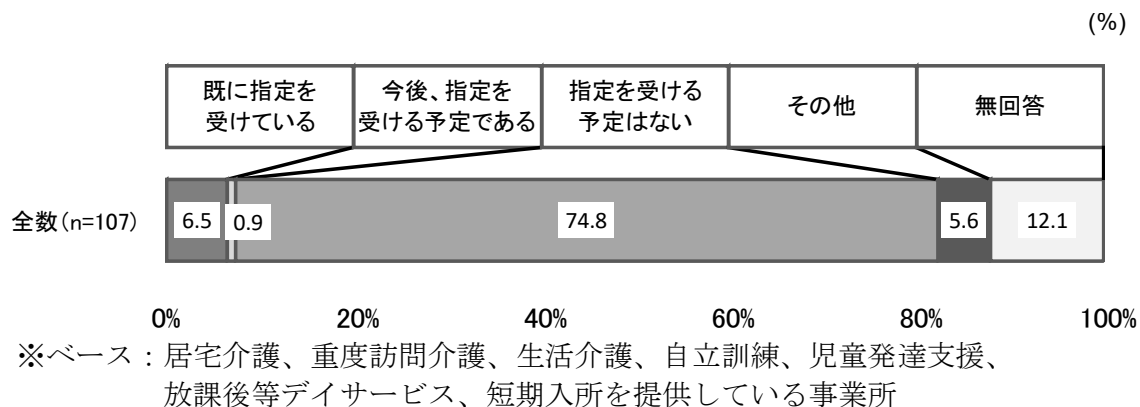
（７） 提供している介護保険サービスの種類（複数回答）

提供している介護保険サービスの種類は、「訪問サービス」が最も多く 31.4%となっている。



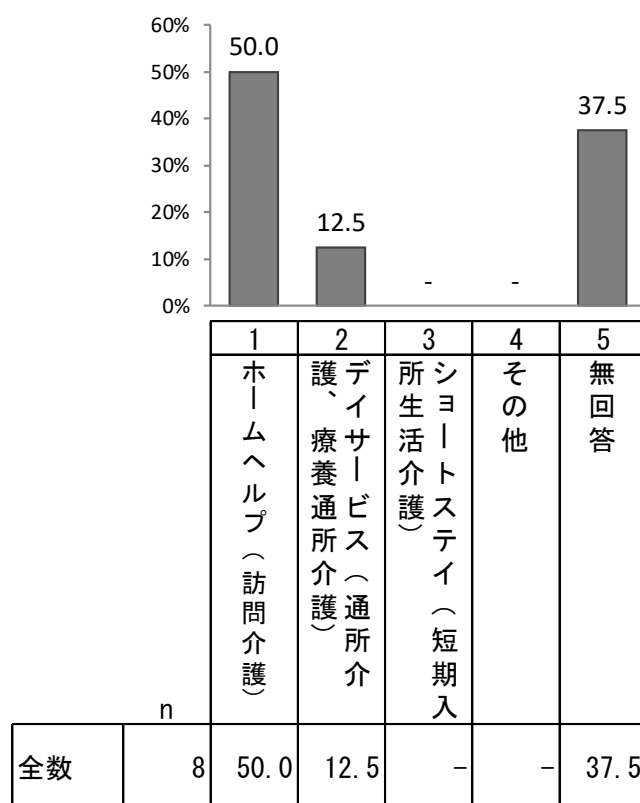
（８） 共生型サービスの指定を取る予定の有無

共生型サービスの指定について、「既に指定を受けている」が 6.5%、「指定を受ける予定はない」が 74.8%となっている。



（９） 指定を取る予定のある（既に指定を受けている）共生型サービスの種類（複数回答）

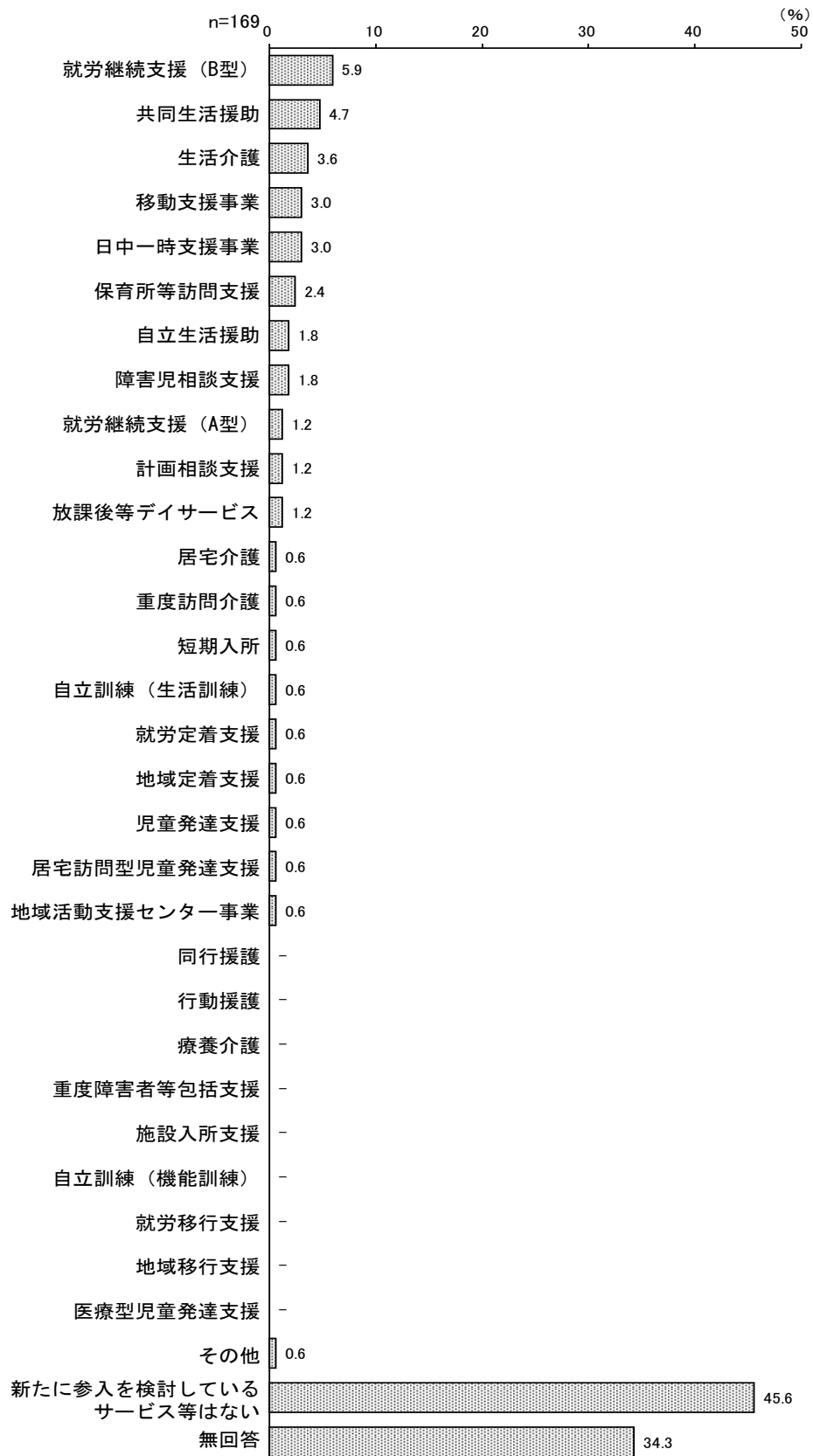
指定を取る予定のある（既に指定を受けている）共生型サービスの種類は、「ホームヘルプ（訪問介護）」が 50.0%と最も多くなっている。



ベース：居宅介護、重度訪問介護、生活介護、自立訓練、児童発達支援、放課後等デイサービス、短期入所を提供している事業所

(10) 新たに参入を検討しているサービス（複数回答）

今後、新たに参入を検討しているサービスは、「就労継続支援（B型）」が5.9%、「共同生活援助（グループホーム）」が4.7%となっている。なお、「新たに参入を検討しているサービス等はない」と回答した事業所が45.6%となっている。

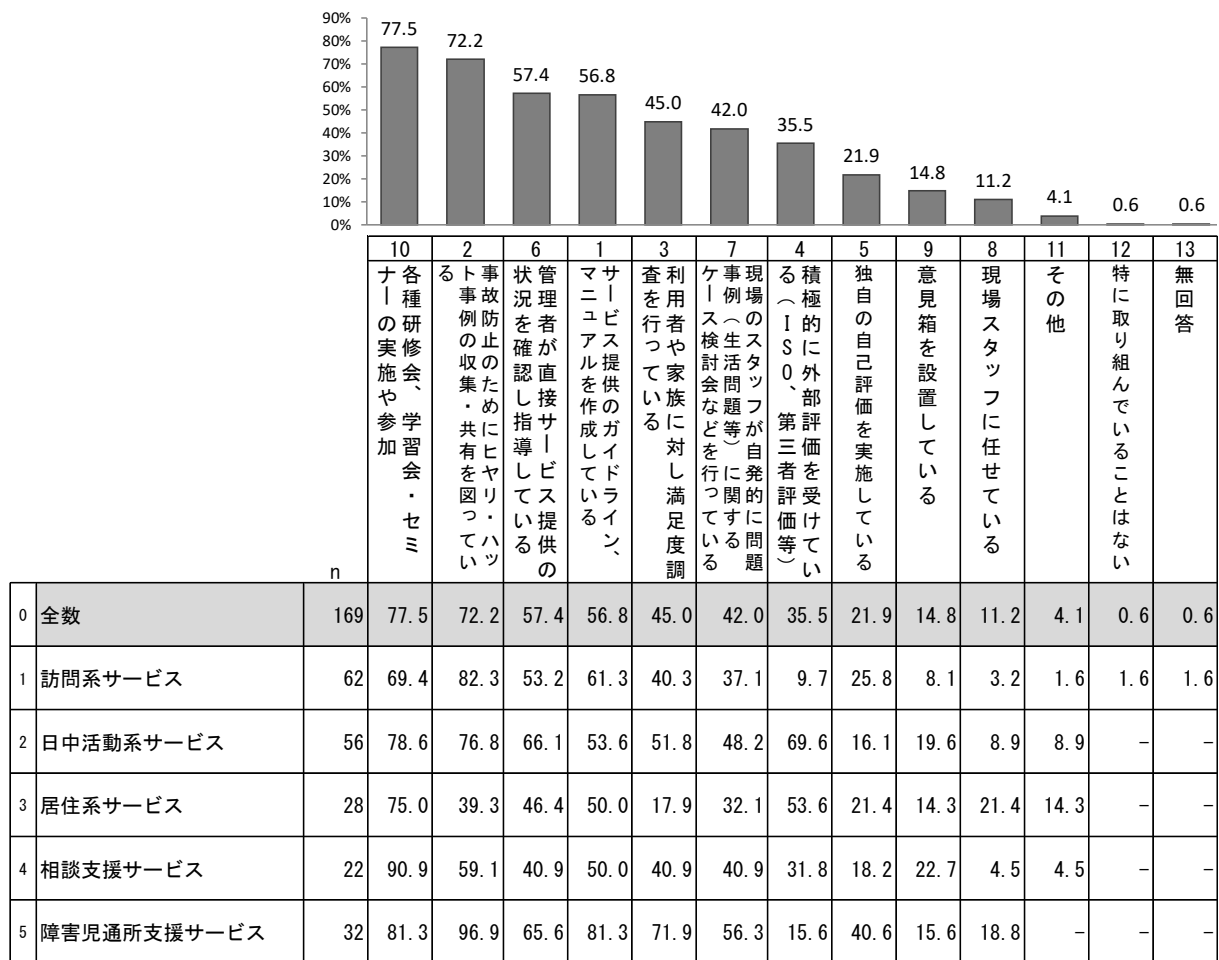


5 サービス向上のための取組について

(1) サービス向上のための取組（複数回答）

サービス向上のために行っている取組は、「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」が77.5%と最も多く、次いで「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が72.2%となっている。

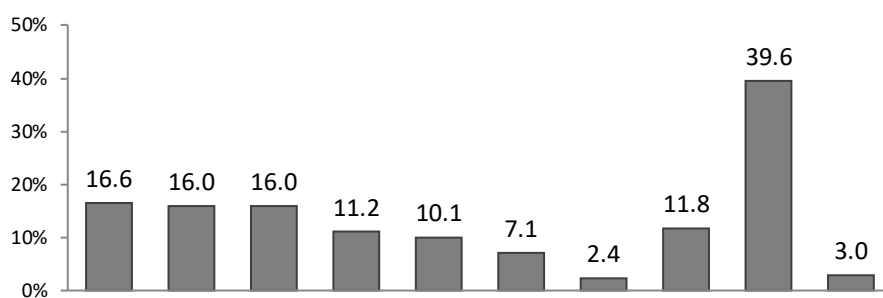
サービス分類別にみると、訪問系では「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が82.3%と最も多くなっている。また、日中活動系では「積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等）」が69.6%と他と比べて多くなっている。



(2) 利用者やご家族からの苦情や要望（複数回答）

利用者やご家族からの苦情や要望は、「利用できる回数や日数が少ない」が16.6%、「利用日などが希望通りにならない」、「サービス内容に不満がある」がともに16.0%となっている。また、「特に苦情や要望を受けることはない」が39.6%と最も多くなっている。

サービス分類別にみると、訪問系では「利用日などが希望通りにならない」、日中活動系、居住系では「サービス内容に不満がある」、障害児通所支援では「利用できる回数や日数が少ない」が多くなっている。

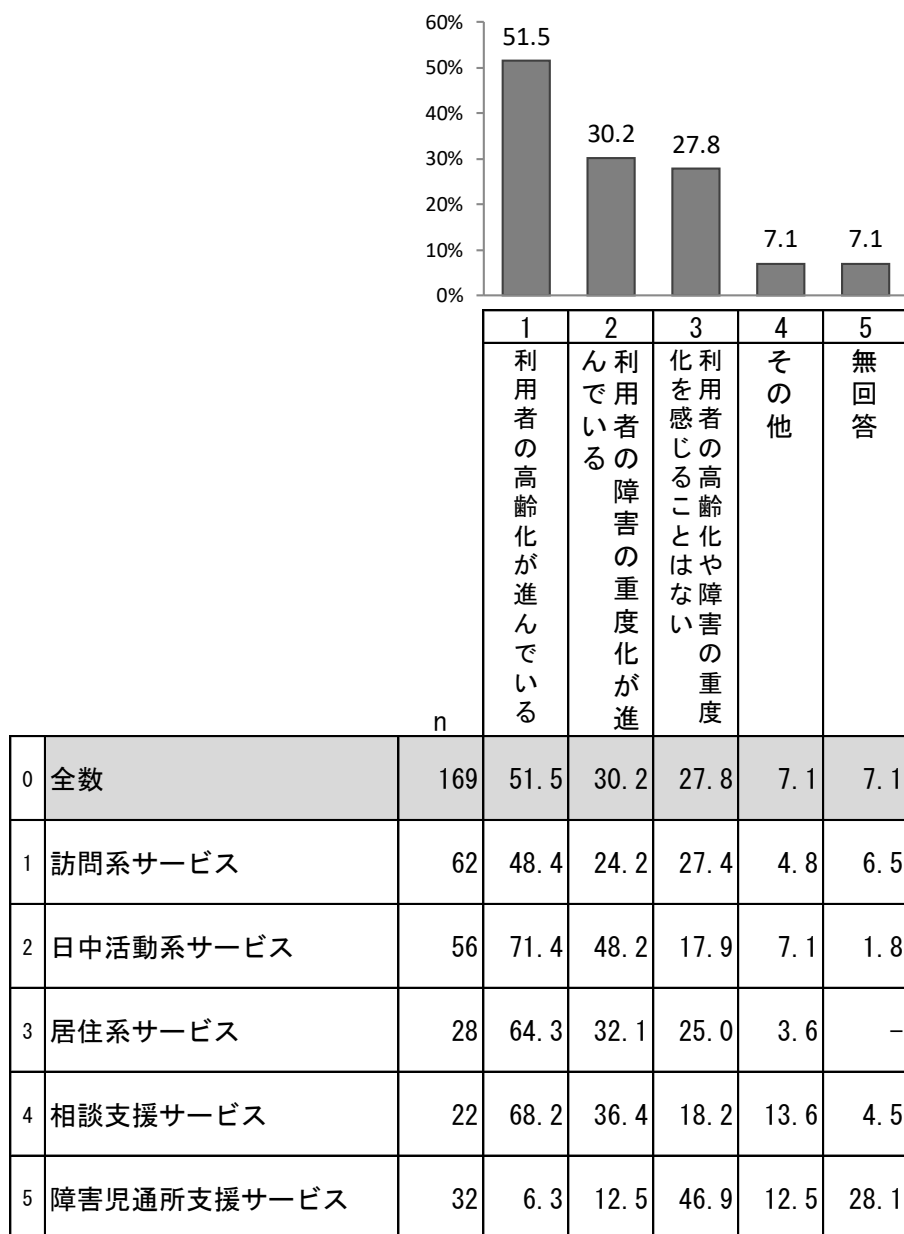


n			1 利用できる回数や日数が少ない	2 利用日などが希望通りにならない	3 サービス内容に不満がある	5 利用したいサービスが利用できない	4 職員間の申し送りが不十分	7 障害の状況・特性を十分に理解してもらえない	6 金銭的な利用者負担が大きい	8 その他	9 特に苦情や要望を受けることはない	10 無回答
0	全数	169	16.6	16.0	16.0	11.2	10.1	7.1	2.4	11.8	39.6	3.0
1	訪問系サービス	62	17.7	21.0	11.3	9.7	9.7	3.2	4.8	3.2	43.5	3.2
2	日中活動系サービス	56	7.1	8.9	21.4	5.4	14.3	10.7	3.6	16.1	42.9	3.6
3	居住系サービス	28	10.7	17.9	21.4	17.9	10.7	14.3	3.6	10.7	39.3	3.6
4	相談支援サービス	22	9.1	13.6	13.6	31.8	18.2	4.5	4.5	9.1	40.9	—
5	障害児通所支援サービス	32	34.4	15.6	12.5	18.8	6.3	—	3.1	18.8	34.4	3.1

(3) 利用者の高齢化・重度化（複数回答）

利用者の高齢化・重度化について、「利用者の高齢化が進んでいる」と回答した事業所は 51.5%、「利用者の障害の重度化が進んでいる」と回答した事業所が 30.2%となっている。

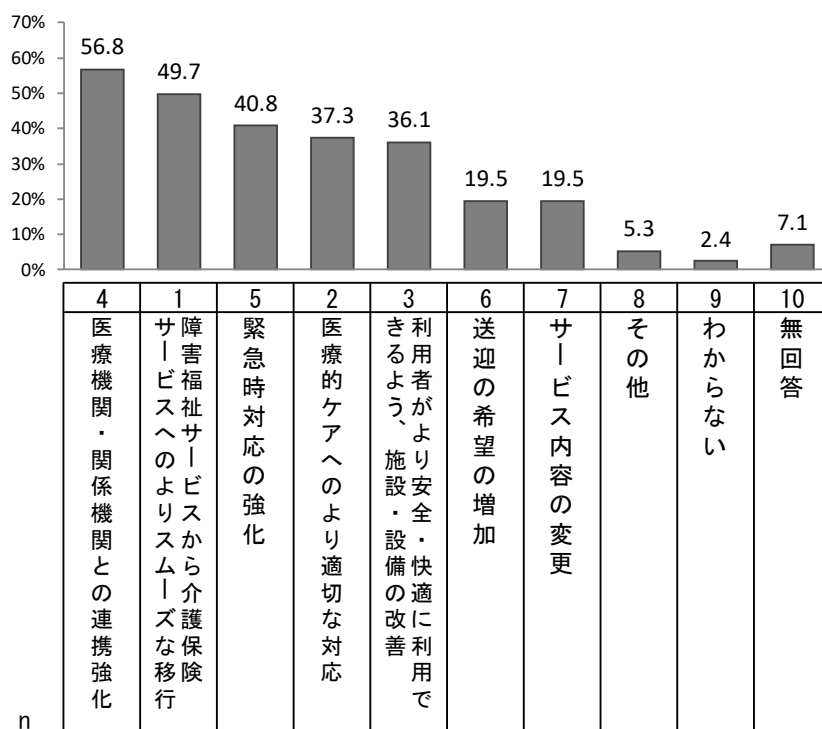
サービス分類別にみると、日中活動系、相談支援では約 7 割が「利用者の高齢化が進んでいる」と回答している。



（４） 高齢化・重度化に伴う利用者ニーズ（複数回答）

利用者の高齢化・重度化に伴い高まってきているニーズは、「医療機関・関係機関との連携強化」が56.8%と最も多く、次いで「障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行」が49.7%、「緊急時対応の強化」が40.8%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系では「障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行」（66.1%）、日中活動系、相談支援では「医療機関・関係機関との連携強化」（それぞれ64.3%、72.7%）が最も多くなっている。

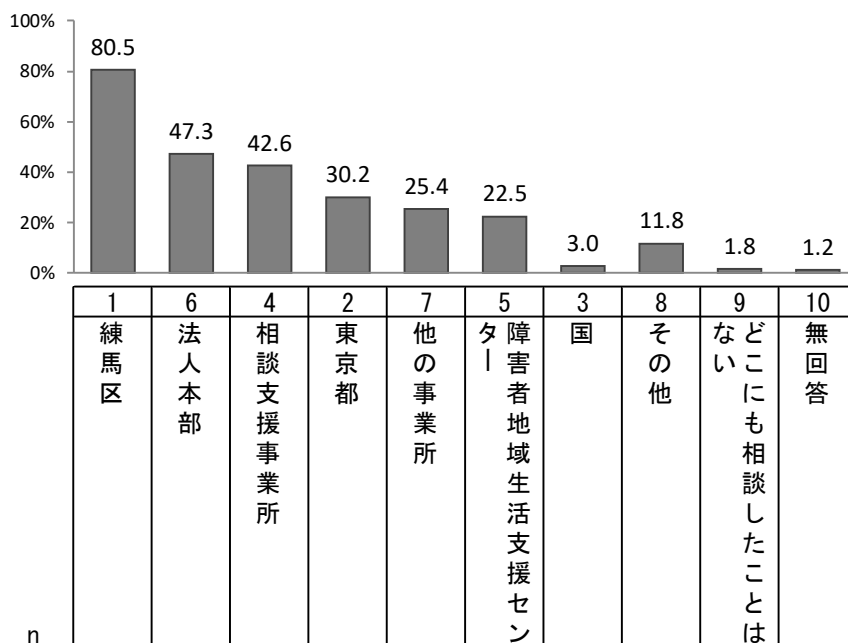


		n	4	1	5	2	3	6	7	8	9	10
			医療機関・関係機関との連携強化	障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行	緊急時対応の強化	医療的ケアへのより適切な対応	利用者がより安全・快適に利用できるよう、施設・設備の改善	送迎の希望の増加	サービス内容の変更	その他	わからない	無回答
0	全数	169	56.8	49.7	40.8	37.3	36.1	19.5	19.5	5.3	2.4	7.1
1	訪問系サービス	62	54.8	66.1	35.5	43.5	14.5	16.1	19.4	3.2	-	4.8
2	日中活動系サービス	56	64.3	55.4	39.3	37.5	44.6	17.9	26.8	1.8	1.8	5.4
3	居住系サービス	28	57.1	46.4	57.1	25.0	42.9	17.9	10.7	7.1	-	7.1
4	相談支援サービス	22	72.7	54.5	59.1	45.5	27.3	36.4	22.7	4.5	-	4.5
5	障害児通所支援サービス	32	40.6	9.4	25.0	37.5	50.0	18.8	12.5	12.5	9.4	18.8

(5) 問題が生じた場合の相談先（複数回答）

問題が生じた場合の相談先は、「練馬区」が 80.5%と最も多く、次いで「法人本部」が 47.3%、「相談支援事業所」が 42.6%となっている。

サービス分類別にみると、いずれも「練馬区」が最も多くなっている。

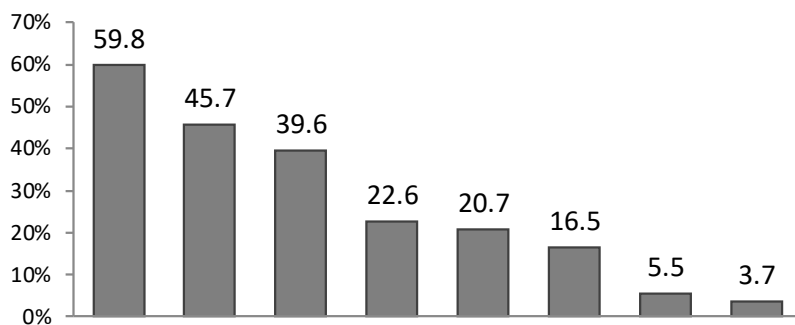


	n	1 練馬区	6 法人本部	4 相談支援事業所	2 東京都	7 他の事業所	5 障害者地域生活支援センター	3 国	8 その他	9 どこにも相談したことは	10 無回答
0 全数	169	80.5	47.3	42.6	30.2	25.4	22.5	3.0	11.8	1.8	1.2
1 訪問系サービス	62	75.8	27.4	46.8	21.0	16.1	30.6	3.2	8.1	3.2	3.2
2 日中活動系サービス	56	87.5	62.5	51.8	23.2	26.8	25.0	5.4	10.7	—	—
3 居住系サービス	28	78.6	50.0	42.9	42.9	46.4	10.7	—	14.3	3.6	—
4 相談支援サービス	22	95.5	50.0	31.8	18.2	40.9	40.9	4.5	9.1	—	—
5 障害児通所支援サービス	32	84.4	46.9	28.1	50.0	28.1	3.1	—	12.5	—	—

(6) 問題が生じた場合の相談内容（複数回答）

問題が生じた場合の相談内容は、「困難な事例への対応に関すること」が 59.8%と最も多く、次いで「事業所の運営の支援に関すること」が 45.7%、「利用者からの苦情や要望等への対応に関すること」が 39.6%となっている。

サービス分類別にみると、いずれも「困難な事例への対応に関すること」が最も多くなっている。



n			5 す 困 る 難 こ と 事 例 へ の 対 応 に 関	1 す 事 る 業 こ と 所 の 運 営 の 支 援 に 関	6 等 利 用 者 へ の 対 応 に 関 する 苦 情 や 要 望	2 関 人 材 の 確 保 ・ 質 の 向 上 に	4 と 技 術 的 な 支 援 に 関 する こ	3 こ サ と ー ビ ス の 拡 充 に 関 する	7 そ の 他	8 無 回 答
0	全数	164	59.8	45.7	39.6	22.6	20.7	16.5	5.5	3.7
1	訪問系サービス	58	51.7	25.9	46.6	13.8	12.1	20.7	3.4	10.3
2	日中活動系サービス	56	66.1	57.1	41.1	23.2	21.4	17.9	5.4	3.6
3	居住系サービス	27	66.7	55.6	37.0	22.2	29.6	11.1	7.4	—
4	相談支援サービス	22	59.1	50.0	45.5	22.7	27.3	18.2	—	—
5	障害児通所支援サービス	32	50.0	50.0	31.3	28.1	15.6	12.5	9.4	—

6 その他

(1) 虐待防止対策の取組（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

（会議・研修・マニュアル）

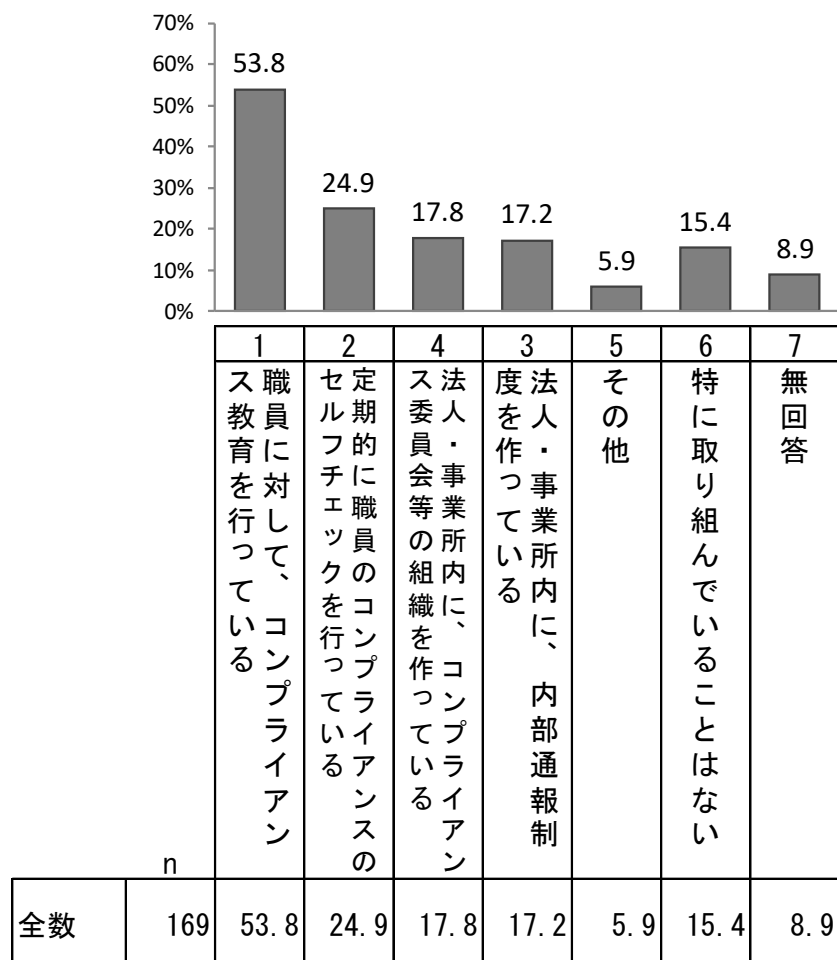
- ・定期的な所内研修の実施
- ・外部研修への参加
- ・職員会議での情報共有、意見交換
- ・マニュアルの作成、チェックリストの使用
- ・虐待防止委員会の設置
- ・対応窓口の設置

（その他）

- ・サービス提供事業所間での情報共有
- ・啓発ポスター、相談窓口案内の掲示（誰にでも見やすいところへの掲示）
- ・人権リーフレット配布
- ・何か問題がありそうなときは、その都度、個別に面談を行う。

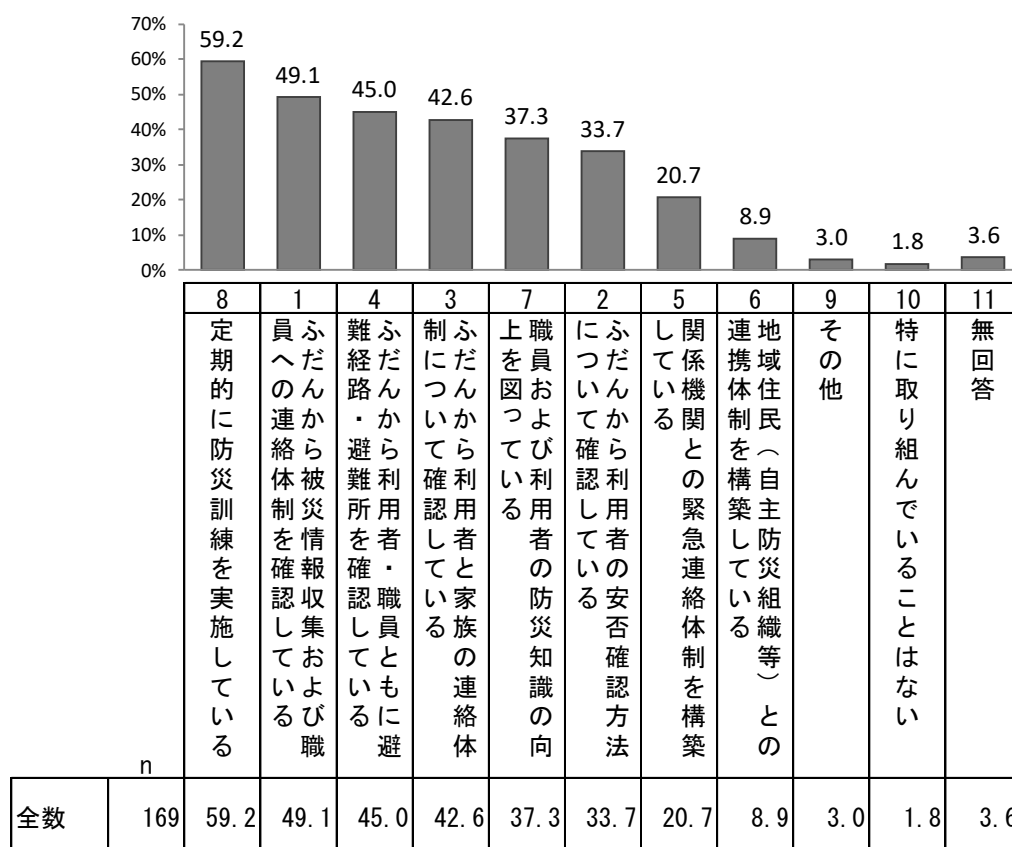
(2) コンプライアンスの取組（複数回答）

コンプライアンスの取組は、「職員に対して、コンプライアンス教育を行っている」と回答した事業所が最も多く 53.8%、次いで「定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている」が 24.9%となっている。



（３） 災害時の対策（複数回答）

大規模災害時を想定した利用者の安否確認等の取組は、「定期的に防災訓練を実施している」が59.2%と最も多く、次いで「ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している」が49.1%となっている。



（４） 区の障害者施策への意見・要望（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

（情報提供）

- ・共生型サービスなど、新しい制度が創設されたときは積極的に情報提供してほしい。
- ・活用できる社会資源を情報提供してほしい。
- ・区内施設の利用状況を知ることができるサイトやアプリの開発

（福祉サービス等）

- ・医療的ケアに対応した事業所の増設
- ・重症心身障害児対象の児童発達支援や放課後等デイサービスを増やしてほしい。
- ・障害者が民間賃貸住宅を借りるときの支援の充実

（経済的支援）

- ・相談支援事業所への区独自の補助
- ・障害児通所支援事業に施設賃借料（区加算）の適用を検討してほしい。
- ・児童発達支援はサービスの提供時間にかかわらず報酬単価が同じなので、サービスの提供時間が長い事業所や昼食の提供がある事業所には助成があるとよい。

（その他）

- ・区立施設、民間の事業所と一緒に交流できる機会が増えていくとよい。
- ・制度の狭間にいるような人たちへの支援の充実
- ・障害理解を促進するための一層の啓発活動

資 料 使用した調査票

生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて ■

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1 男	性	2 女	性	年齢		歳
----	-----	---	-----	---	----	----------------------	---

問2 この調査票はどなたが記入されますか。(○は1つ)

1	本人が自分一人で記入
2	本人に聞いて家族や介助者が代筆
3	本人の意向を考えながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

1	自分の持ち家(購入マンションも含む)	6	社宅、会社の寮
2	親など家族の持ち家(購入マンションも含む)	7	福祉施設
3	公営住宅	8	病院に入院している
4	アパート、賃貸マンション、借家	9	その他
5	グループホーム	(	)

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。(○はいくつでも)

1	自分一人だけで暮らしている	5	祖父、祖母
2	配偶者(夫または妻)	6	兄弟、姉妹
3	息子、娘(息子または娘の配偶者も含む)	7	その他(
4	父、母	8	グループホーム等の集団生活

問5 あなたご本人の収入源は何ですか。(○はいくつでも)

1	就労による収入	4	家族などからの仕送り
2	年金・手当	5	その他(
3	生活保護費	6	収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者（もっとも収入が多い方）はどなたですか。(○は1つ)
※「3 父」「4 母」とお答えの場合には、年齢（令和元年12月1日現在）をご記入ください。

1	あなたご本人	5	子
2	あなたの配偶者(夫・妻)	6	祖父・祖母
3	父 → 歳	7	兄弟・姉妹
4	母 → 歳	8	その他

問7 身体障害者手帳に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

1	1級	2	2級	3	3級	4	4級	5	5級	6	6級
---	----	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----

問8 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1 番 目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番 にしたがって「1 番目」と「2 番目」を記入してください。

1	視覚障害
2	聴覚障害
3	平衡機能障害
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害
5	肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)
6	肢体不自由(体幹)
7	心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害
8	その他()

↑

1 番目

↑

2 番目

問9 身体障害者手帳を初めて取得されたのは何歳の頃ですか。

年齢		歳頃
----	----------------------	----

問10 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

1	受けている	→ (	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	)
2	受けていない								

問11 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。

1	愛の手帳	→ (	1度	2度	3度	4度	)
2	精神障害者保健福祉手帳	→ (	1級	2級	3級	)	
3	これらの手帳は持っていない						

(○はいくつでも)

問12 あなたは、以下のように診断されたことがありますか。(○はいくつでも)

1	発達障害(広汎性発達障害、ADHD、LDなど)	3	難病
2	高次脳機能障害	4	特にない

問13-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

- 1 必要
- 2 必要ではない → 問14へ進む

→ 【問13-1で「必要」と回答した方におたずねします。】

問13-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

- 1 経管栄養
- 2 胃ろう
- 3 腸ろう
- 4 たん等の吸引
- 5 吸入
- 6 気管カニューレ
- 7 導尿
- 8 その他()

■ 介助・援助の状況について

【すべての方におたずねします。】

問14 ふだん、あなたを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1 とくに介助等を受けていない → 問17-1へ進む

- 2 配偶者(夫または妻)
- 3 父、母
- 4 息子、娘(息子、娘の配偶者も含む)
- 5 祖父、祖母
- 6 兄弟、姉妹
- 7 行政の職員(ワーカー・保健師等)
- 8 病院の職員(看護師・精神保健福祉士等)
- 9 施設の職員
- 10 訪問看護師
- 11 ホームヘルパー
- 12 その他()

最も長く介助・援助している人
はどなたですか。

→

(問14の選択肢の番号を記入)

【問15、問16は、現在、介助・援助を受けている方におたずねします。】

問15 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

- 1 食事
- 2 トイレ
- 3 入浴
- 4 衣服の着脱
- 5 家の中の移動
- 6 家事(調理、掃除、洗濯)
- 7 外出
- 8 服薬
- 9 医療的ケアに関わる介助
- 10 他の人と意思疎通を図りたいとき
- 11 金銭管理
- 12 その他()

問16 主に介助・援助している方が、病気のときや、外出しなければならぬ場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 同居している他の家族に頼みたい
- 2 同居していない家族や親せきに頼みたい
- 3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい
- 4 訪問看護を利用したい
- 5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい
- 6 近所の人や友人・知人に頼みたい
- 7 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない
- 8 その他()

【すべての方におたずねします。】

問17-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

- 1 必要だが、受けていない介助・援助がある
- 2 必要とする介助・援助は受けていると思う
- 3 特に介助・援助を必要としていない → 問18へ進む
- 4 その他()

→ 【問17-1で「必要だが、受けていない介助・援助がある」と回答した方におたずねします。】

問17-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問18 あなたは、平日の昼間、主にどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

- 1 幼稚園や保育園、学校などに通っている → 問19へ進む
- 2 働いている(就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む) → 問21へ進む
- 3 施設(福祉園など)で介護・訓練を受けている
- 4 病院や診療所のデイケアなどを利用している
- 5 障害者地域生活支援センター(きらら、すてっぷ、ういんぐ、きくら)に通っている → 問25へ進む
- 6 介護保険のデイサービスを利用している
- 7 自宅に多くのことが多い
- 8 その他() → 問27へ進む

■ 教育について ■

【問 19、問 20 は、現在「幼稚園や保育園、学校などに通っている」方におたずねします。】

問 19 通園・通学先はどこですか。(○は1つ)

1 幼稚園	5 特別支援学級	9 専門学校・大学
2 保育園	6 通常の学級	10 その他()
3 児童発達支援事業所等	7 高等学校	
4 特別支援学校	8 職業訓練校	

問 20 幼稚園・学校などに通っていて、もっと充実してほしいことはありますか。(○はいくつでも)

1 通いやすい(通学手段の改善など)	5 放課後の居場所づくりを充実してほしい
2 施設・設備などを充実してほしい	6 夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい
3 介助体制を充実してほしい	7 その他()
4 先生・生徒の理解などが深まってほしい	8 特に困っていることはない

【次は問 27 へ進んでください。】

■ 雇用・就労について ■

【問 21～問 24 は、現在「働いている」方におたずねします。】

問 21 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 自営業	5 内職
2 家業の手伝い	6 就労移行支援・就労継続支援事業所
3 会社・団体等の正規職員	7 その他()
4 非正規職員(契約、パート、派遣等)	

問 22 あなたの職場はどこにありますか。(○は1つ)

1 練馬区内	4 東京都外
2 23 区内(練馬区を除く)	5 在宅で仕事をしている
3 東京都内	

問 23 仕事で得た収入は1年にどれくらいですか(給与・賃金など)。(○は1つ)

1 5万円未満	6 300万円～500万円未満
2 5万円～20万円未満	7 500万円～700万円未満
3 20万円～50万円未満	8 700万円以上
4 50万円～100万円未満	9 収入はない
5 100万円～300万円未満	



問 24 仕事をすることで不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

1 収入が少ない	8 人間関係が苦手
2 仕事が難しい	9 職場での身分が不安定
3 仕事に体力的にきつい	10 トイレなど障害者用の設備が十分でない
4 自分にあった内容の仕事がない	11 昇給や昇進が平等ではない
5 1日の就労時間が長い	12 通勤が大変
6 1週間の就労日数が多い	13 その他()
7 障害への理解が足りない	14 特に不安や不満はない

【次は問 27 へ進んでください。】

【問 25～問 26 は、現在働いていない方におたずねします。】

問 25 働いていない理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1 体調がよくないから	7 仕事が難しそうだから
2 働くとき、体調が悪いときに休みにくいから	8 家があるから
3 働くとき、通院しにくいから	9 高齢だから
4 通勤が難しいから	10 仕事をすると年齢に達していないから
5 職場の理解が得られないと思うから	11 障害の程度や症状のため
6 やりたい仕事が見つからないから	12 その他()

問 26 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

1 働きたい	4 高齢のため働くことを考えていない
2 働きたいが、働けないと思う	5 わからない
3 働きたくない	

【すべての方におたずねします。】

問 27 あなたは、障害のある方が働くためにどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

1 自分の家の近くに働く場があること
2 自分の家の中で、通勤することなく働けること
3 健康状態にあわせて働き方ができること
4 障害のある人にあつた仕事を用意されること
5 就労支援機関(レインボーワーク、就労移行支援事業所等)が充実していること
6 生活支援・余暇支援が充実していること
7 事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること
8 職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるように配慮されていること
9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること
10 同じような障害のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること
11 その他()
12 わからない

※ ジョブコーチ：企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

問 28 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

- 1 付き添ってくれる人がいない
- 2 他人との会話が難しい
- 3 他人の視線が気になる
- 4 必要などときに、周りの人の手助け・配慮が足りない
- 5 歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい
- 6 建物などに段差が多く、利用しにくい
- 7 車を駐車するところがない
- 8 気軽に利用できる移動手段が少ない
- 9 電車やバスなどが利用しづらい
- 10 障害者用のトイレが少ない
- 11 その他()
- 12 特に困っていることはない

問 29 あなたは、これからどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 文化芸術活動
- 2 スポーツ・レクリエーション
- 3 旅行
- 4 ボランティア活動
- 5 障害者団体の活動
- 6 趣味などのサークル活動
- 7 個人的な趣味や学習の活動
- 8 講座や講演会などへの参加
- 9 地域の行事やお祭
- 10 その他()
- 11 特に活動したくない

問 30 あなたは、問 29 のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 1 活動についての情報が提供されること
- 2 一緒に行く仲間がいること
- 3 活動する場所が近くにあること
- 4 外出のための手段が確保されていること
- 5 障害にあった対応があること
- 6 適切な指導者がいること
- 7 障害のある人に配慮した施設や設備があること
- 8 介助者・援助者がいること
- 9 その他()
- 10 特にない

問 31 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

- 1 特に困っていることはない
- 2 近所に診てくれる医師がいない
- 3 専門的な治療を行う医療機関がない
- 4 通院や健康診査のときに付き添いがいない
- 5 往診を頼める医師がいない
- 6 定期的に健康診査を受けられない
- 7 医療機関とのコミュニケーションがとれない
- 8 障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
- 9 受診手続きなど、障害のある人への配慮が不十分
- 10 医療機関の建物が障害のある人に配慮した構造になっていない
- 11 医療費の負担が大きい
- 12 休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない
- 13 その他()

問 32 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

- 1 総合福祉事務所
- 2 保健相談所
- 3 障害者地域生活支援センター
(さらに・すてっぷ・ういんぐ・さくら)
- 4 権利擁護センター ほっとサポートねりま
- 5 民生委員・児童委員
- 6 障害者相談員
- 7 児童相談所
- 8 福祉施設
- 9 相談支援事業所
- 10 病院・診療所
- 11 学校・職場
- 12 障害者団体
- 13 友人・知人
- 14 ホームヘルパー
- 15 インターネットの掲示板(民間サイト)など
- 16 その他()
- 17 相談できるところはない
- 18 相談の必要はない

問 33 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外に相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。(自由記入)

問 34 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

1	ねりま区報	8	病院・診療所
2	区のホームページ	9	相談支援事業所
3	インターネットのサイト(区のホームページ以外)	10	民生委員・児童委員
4	区の障害者福祉のしおり	11	障害者団体
5	総合福祉事務所・保健相談所	12	家族・親せき
6	障害者地域生活支援センター	13	友人・知人
	(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)	14	その他()
7	学校、職場、施設	15	わからない

問 35 福祉サービスの情報を十分に得るためには、区はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(自由記入)

--

問 36 あなたは、ふだん周囲の方々とコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

1	パソコンのメール	8	補聴機器(補聴器・人工内耳など)
2	携帯/スマートフォンメール・SNS	9	触手話
3	電話(固定・携帯/スマートフォン)	10	指文字・指点字
4	携帯用会話補助装置	11	意志伝達装置
5	手話・手話通訳	12	文字盤
6	読 話	13	その他()
7	筆談・要約筆記	14	特に使用している機器はない

※ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、インターネットを介して友人・知人など利用者同士で情報発信・やりとりができるサービスです。

問 37 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(○はいくつでも)

1	点字による情報提供を増やす
2	音声による情報提供を増やす
3	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす
4	手話通訳・要約筆記を充実する
5	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする
6	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
7	コミュニケーション支援機器を充実する
8	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供を増やす
9	その他()
10	特にない

■ 福祉サービスについて ■

問 38 あなたは、この1年くらいの間に次のサービスのサービスを利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
11	グループホームなどの居住系サービス
12	児童発達支援・放課後等デイサービスなど
13	手話通訳者・要約筆記者の派遣
14	その他()
15	1～13のサービスを利用したことがない

問 39-1 あなたは、現在必要だと思うサービスを十分利用していますか。(○は1つ)

1 十分利用している	} → 問 40へ進む
2 十分ではないが、ほぼ利用している	
3 あまり利用していない	} → 問 40へ進む
4 その他()	
5 わからない	
6 サービスを利用する必要がない	

→ 【問 39-1 で「あまり利用していない」と回答した方におたずねします。】

問 39-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は何か。(○はいくつでも)

1 自己負担が大きいから	6 個別のニーズに対応できないから
2 支給要件に該当しないから	7 サービスに空きがなく利用できないから
3 必要とするサービスがないから	8 その他()
4 どのようなサービスがあるかわからないから	9 わからない
5 利用の仕方がわからないから	

【すべての方におたずねします。】

問 40 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1 ホームヘルプなどの訪問系サービス
2 訪問看護などの医療系サービス
3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4 補装具費の支給・修理
5 日常生活用具の給付・レンタル
6 住宅設備改善費の給付
7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
8 移動支援・同行援護
9 訪問入浴サービス
10 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
11 グループホームなどの居住系サービス
12 児童発達支援・放課後等デイサービスなど
13 手話通訳者・要約筆記者の派遣
14 その他()
15 1～13の中に利用したいサービスはない

問 41 サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思うサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
	→
	→
	→

【問 42 は、40 歳以上の方におたずねします。】

問 42 あなたは、介護保険のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)
1 訪問介護(ホームヘルプ)を利用している
2 通所介護(デイサービス)を利用している
3 短期入所(ショートステイ)を利用している
4 その他()
5 介護保険サービスは利用していない → 問 45へ進む

【問 43、問 44 は、介護保険サービスを利用している方におたずねします。】

問 43 あなたは、介護保険の要介護認定を受けたことがありますか。ある場合には、要介護度にも○をつけてください。(○は1つ)

1 ない
2 ある →
1 要支援1 2 要支援2
3 要介護1 4 要介護2 5 要介護3 6 要介護4 7 要介護5
8 わからない

問 44 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用して、何か困っていることはありますか。(○はいくつでも)

1 サービスの支給量が減ってしまった
2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった
3 利用者自己負担が増えた
4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった
5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった
6 その他()
7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみ利用)
8 特に困っていることはない

【すべての方におたずねします。】

問 45 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1	学校に通いたい	
2	一般企業などで働きたい	
3	就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい(福祉的就労)	
4	就労のための訓練・支援を受け(就労移行支援)、企業就労を目指したい	
5	自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい	
6	医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	
7	福祉園などの通所施設で、身辺の介護などを受けながらさまざまな活動を行いたい	
8	自宅で過ごしたい	
9	その他()	
10	わからない	

問 46 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。

第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

1	ひとりで暮らしたい	
2	家族と一緒に暮らしたい	
3	グループホームで暮らしたい	
4	施設に入所して暮らしたい	
5	その他()	
6	わからない	



第1希望	第2希望

【10年後】についてお答えください。

1	ひとりで暮らしたい	
2	家族と一緒に暮らしたい	
3	グループホームで暮らしたい	
4	施設に入所して暮らしたい	
5	その他()	
6	わからない	



第1希望	第2希望

【20年後】についてお答えください。

1	ひとりで暮らしたい	
2	家族と一緒に暮らしたい	
3	グループホームで暮らしたい	
4	施設に入所して暮らしたい	
5	その他()	
6	わからない	



第1希望	第2希望

問 47 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1	住み続けたい	2	区外に移転したい	3	わからない
---	--------	---	----------	---	-------

問 48 問 47のように答えた理由は何か。(自由記入)

--

■ 災害対策について ■

問 49-1 あなたは、最寄の避難拠点 (区立小中学校) の場所をご存じですか。(○は1つ)

※練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1	知っている	2	知らない
---	-------	---	------

→ 【問 49-1 で「知っている」と回答された方におたずねします。】

問 49-2 あなたは、災害時にその避難拠点まで自力で避難することができますか。(○は1つ)

1	できると思う	2	できないと思う	3	その他()
---	--------	---	---------	---	--------

【すべての方におたずねします。】

問 50 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思えますか。

(○はいくつでも)

1	避難しやすい避難所を整備する
2	障害のある人が防災訓練等に参加するように促す
3	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
4	緊急通報システムを整備する
5	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
6	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
7	避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する
8	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う
9	避難時の介助人などを確保する
10	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
11	避難所で補装具等の貸出しを行う
12	その他()
13	特にない

問51-1 障害があることで、差別や人権侵害を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

1 いつも感じる	3 ほとんど感じることはない
2 たまに感じる	4 わからない

問51-2 具体的には、どのようなときに差別や人権侵害を受けていると感じますか。(自由記入)

【すべての方におたずねします。】

問52 地域で暮らす上で、障害に対して理解を得られていると感じますか。(○は1つ)

1 十分得られていると感じる	4 まったく得られていないと感じる
2 時々得られていないと感じる	5 わからない
3 あまり得られていないと感じる	

問53 具体的には、どのようなときに理解を得られている、あるいは理解を得られていないと感じますか。(自由記入)

問54 あなたは、障害および障害のある方への区民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する
2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する
3 障害がある方との交流を通して障害理解の機会を増やす
4 学校における福祉教育・人権教育を充実する
5 障害のある方の社会参加のための支援を充実する
6 福祉施設が地域住民との交流を進める
7 障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する
8 障害のある方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える
9 その他()
10 わからない
11 特にない

問55-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

合理的配慮とは、障害のある人が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えるとき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することを行います。
《合理的配慮の具体例》
○ 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
○ 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
○ 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

1 ある	) → 問56進む
2 ない	
3 その他()	

【問55-1で「ある」と回答した方におたずねします。】

問55-2 その結果、「合理的配慮」を受けることができましたか。(○は1つ)

1 できた	2 できない	3 その他()
-------	--------	----------

【問55-1で「ない」と回答した方におたずねします。】

問55-3 「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 合理的配慮を必要とする場面・機会にあっていない
2 そのときには、合理的配慮を求めることを思い浮かべなかった
3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった
5 合理的配慮について知らなかった
6 その他()

【すべての方におたずねします。】

問56 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 57-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか（利用する予定ですか）。
(○は1つ)

1 現在利用している
2 今後利用したい
3 利用したいと思わない
4 わからない

【問 57-1 で「利用したいと思わない」とお答えの方におたずねします。】

問 57-2 成年後見制度を利用しない（したくない）理由は何ですか。（○はいくつでも）

1 手続きが難しい	5 十分な支援が受けられるかわからない
2 費用負担が大きい	6 その他（ ）
3 後見人が選任されるまでに時間がかかる	7 必要がない
4 制度のしくみがよくわからない	

■ 障害者施策全般について ■

【すべての方におたずねします。】

問 58 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

1 障害の早期発見・早期療育に努めること
2 障害のある人となじみの交流を進め、相互理解を深めること
3 障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること
4 障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること
5 ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること
6 区内で利用できる施設を整備すること
7 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること
8 障害のある人の住まい（公営住宅やグループホームなど）を整備すること
9 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること
10 障害のある当事者による活動を支援すること
11 ボランティア活動を充実すること
12 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること
13 相談体制を充実し、適切な支援をすること
14 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること
15 その他（ ）
16 特になし

問 59-1 あなたは「障害」という言葉について、どのように表記されるのが最もよいと思いますか。
(○は1つ)

1 障害	4 その他（ ）
2 障がい	5 こだわりはない（どれでもよい）
3 障碑	6 わからない

問 59-2 あなたが問 59-1 で、その表記を選んだ理由はどのようなことですか。

(○はいくつでも)

1 見慣れているから	4 本来はそう書くべきだから
2 わかりやすいから	5 表記だけ変えても意味がないから
3 差別感や不快感を感じないから	6 その他（ ）

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。
記入もれがないかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、
12月27日（金）までにお近くのポストに投函してください。
もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に介助・援助されている方のご意向
(19 ページ) もお聞かせください。



このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問 60 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよっとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他 ()
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年長的に負担が大きい	

問 61-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育て等をしてしていますか。(○はいくつでも)

1 している	2 していない
--------	---------

問 61-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	3 祖父・祖母	5 その他 ()
2 父・母	4 子	

問 61-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児中のため
2 障害のため	5 その他 ()
3 高齢のため	

問 62 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい	3 ぶつう	5 よくない
2 まあよい	4 あまりよくない	

問 63 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(○はいくつでも)

1 区からの情報提供を増やす
2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる
3 家族等に対する相談体制を充実させる
4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する
5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる
6 その他 ()
7 特にない

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までにご投函ください。

せいかつ かくし かん
生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1	おとこ	2	おんな
年齢	歳			

問2 このアンケートはだれが書いていますか。（○は1つ）

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 自分ひとりで書いている |
| 2 | 本人に聞いて家族や介助者が代筆 |
| 3 | 本人の意向を 考えながら家族や介助者が記入 |

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。（○は1つ）

- | | | | |
|---|-----------------------|---|-----------|
| 1 | 自分の持ち家（購入マンションも含む） | 6 | 社宅、会社の寮 |
| 2 | 親など家族の持ち家（購入マンションも含む） | 7 | 福祉施設 |
| 3 | 公営住宅 | 8 | 病院に入院している |
| 4 | アパート、賃貸マンション、借家 | 9 | その他（ ） |
| 5 | グループホーム | | |

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はだれですか。（○はいくつでも）

- | | | | |
|---|--------------|---|------------------|
| 1 | ひとりで暮らしている | 5 | おじいさん、おばあさん |
| 2 | 夫または妻 | 6 | きょうだい、しまい |
| 3 | こども（むすこ、むすめ） | 7 | その他（ ） |
| 4 | おとうさん、おかあさん | 8 | グループホームなどで暮らしている |

問5 あなたご本人の収入の種類は何ですか。（○はいくつでも）

- | | | | |
|---|-------|---|--------|
| 1 | 働いた収入 | 4 | 家族のお金 |
| 2 | 年金・手当 | 5 | その他（ ） |
| 3 | 生活保護費 | 6 | 収入はない |

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者（もつとも収入が多い方）はどなたですか。（○は1つ）
※ 「3 おとうさん」「4 おかあさん」とお答えの場合は、年齢（令和元年12月1日現在）を
ご記入ください。

- | | | | |
|---|----------------------|---|--------------|
| 1 | あなたご本人 | 5 | こども（むすこ、むすめ） |
| 2 | 夫または妻 | 6 | おじいさん、おばあさん |
| 3 | おとうさん → <div>歳</div> | 7 | きょうだい、しまい |
| 4 | おかあさん → <div>歳</div> | 8 | その他（ ） |

問7 愛の手帳には何度と書かれていますか。（○は1つ）

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | 1 度 | 2 | 2 度 | 3 | 3 度 | 4 | 4 度 |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|

問8 愛の手帳を何歳から持っていますか。

年齢	歳
----	--------------

問9 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。（○は1つ）

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 受けている → （ 区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6 ） |
| 2 | 受けていない |

問10 あなたは、愛の手帳のほかに持っている手帳はありますか。持っている方は等級にも○をつけてください。（○はいくつでも）

- | | | |
|---|---------------|-------------------------|
| 1 | 身体障害者手帳 | → （ 1級 2級 3級 4級 5級 6級 ） |
| 2 | 精神障害者保健福祉手帳 | → （ 1級 2級 3級 ） |
| 3 | これらの手帳は持っていない | |

【問11は、身体障害者手帳を持っている方がお答えください。】

問11 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1 番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

- | | |
|---|---|
| 1 | 視覚障害 |
| 2 | 聴覚障害 |
| 3 | 平衡機能障害 |
| 4 | 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 |
| 5 | 肢体不自由
（上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害） |
| 6 | 肢体不自由（体幹） |
| 7 | 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害 |
| 8 | その他（ ） |
- 1番目

2番目

【すべての方におたずねします。】

問12 あなたは、以下のように病院などで言われたことがありますか。（○はいくつでも）

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-----------|
| 1 | 発達障害（広汎性発達障害、ADHD、LDなど） | 3 | 難病 |
| 2 | 高次脳機能障害 | 4 | 言われたことはない |

問13-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要	2 必要ではない	→ 問14へ進む
------	----------	----------

問13-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養	5 吸入
2 胃ろう	6 気管カニューレ
3 腸ろう	7 導尿
4 たん等の吸引	8 その他()

■ 手助けについて

【すべての方におたずねします。】

問14 ふだん、あなたを手助けしている人はだれですか。(○はいくつでも)

1 ともに手助けしてもらっていない	→ 問17-1へ進む
2 夫または妻	8 病院
3 おとうさん、おかあさん	9 施設
4 こども(むすこ、むすめ)	10 訪問看護士
5 おじいさん、おばあさん	11 ホームヘルパー
6 きょうだい、しまい	12 その他()
7 総合福祉事務所、保健相談所	

最も長く手助けしている人
はだれですか。

(問14の番号を書いてください)

【問15、問16は、現在手助けをしてもらっている方におたずねします。】

問15 どのようなときに手助けをしてもらっていますか。(○はいくつでも)

1 食事	7 外出
2 トイレ	8 薬をのむ
3 おふろ	9 医療的ケアに関わる介助
4 着替え	10 他の人とコミュニケーションをとりたいとき
5 家の中の移動	11 お金の管理
6 家事(調理、掃除、洗濯)	12 その他()

問16 あなたを手助けしている方が、病気のときや、外出しなければならぬときなどは、どのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 いっしょに住んでいるほかの家族にたのみたい
2 いっしょに住んでいない家族や親せきにたのみたい
3 ホームヘルプサービスを利用したい
4 訪問看護を利用したい
5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい
6 近所の人や友だち、知り合いにたのみたい
7 いままでそのようなことはなかったもので、よくわからない
8 その他()

【すべての方におたずねします。】

問17-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする手助けをしてもらっていると思いますか。(○は1つ)

1 必要だが、してもらっていない手助けがある	→ 問18へ進む
2 必要とする手助けをしてもらっていると思う	
3 特に手助けを必要としていない	
4 その他()	

問17-2 必要だが、してもらっていない手助けは、どのようなことですか。(自由記入)

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問18 あなたは、平日の昼間、どこにいますか。(○は1つ)

1 幼稚園や保育園、学校	→ 問21へ進む
2 会社など(就労移行支援・就労継続支援など作業所も含む)	
3 施設(福祉園など)	
4 病院、診療所	
5 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐざくら)	
6 介護保険のデイサービスを利用している	→ 問25へ進む
7 自分の家	
8 その他()	→ 問27へ進む

■ 教育について

【問19、問20は、現在「幼稚園や保育園、学校」などです。方におたずねします。】

問19 あなたは、いまどこに通っていますか。(○は1つ)

1 幼稚園	5 特別支援学級	9 専門学校・大学
2 保育園	6 通常の学級	10 その他()
3 児童発達支援事業所など	7 高等学校	
4 特別支援学校	8 職業訓練校	

問20 幼稚園・学校などに通っていて、もっとよくしてほしいことはなんですか。(○はいくつでも)

1 通いやすくしてほしい(通学手段の改善など)
2 使いやすい施設にしてほしい
3 介助をうけやすくしてほしい
4 先生・生徒にもっと障害のことをわかってほしい
5 放課後の取組を充実してほしい
6 夏休みなど長い休みのときの取組を充実してほしい
7 その他()
8 特に困っていることはない

【次は問27へ進んでください】

■ 雇用・就労について

【問21～問24は、現在「働いている」方におたずねします。】

問21 仕事の働き方は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 自営業	5 内職
2 家業の手伝い	6 就労移行支援・就労継続支援事業所
3 会社・団体などの正規職員	7 その他()
4 非正規職員(契約、パート、派遣など)	

問22 あなたの職場はどこにありますか。(○は1つ)

1 練馬区内	4 東京都外
2 23区内(練馬区を除く)	5 在宅で仕事をしている
3 東京都内	

問23 この1年間に、働いてもらったお金(給料・工賃)はいくらですか。(○は1つ)

1 5万円未満	6 300万円～500万円未満
2 5万円～20万円未満	7 500万円～700万円未満
3 20万円～50万円未満	8 700万円以上
4 50万円～100万円未満	9 収入はない
5 100万円～300万円未満	

問24 仕事の不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

1 収入が少ない	8 職場の人たちとうまくいかない
2 仕事がおぼつかしい	9 今の職場でずっと働けるかどうかかわからない
3 仕事が体力的にきつい	10 トイレなどがつかいにくい
4 自分にあった内容の仕事がない	11 給料がふえない
5 1日の仕事時間が長い	12 通うのがたいへん
6 1週間の仕事日数が多い	13 その他()
7 障害のことをなかなかわかってくれない	14 特に不安や不満はない

【次は問27へ進んでください】

【問25～問26は、現在働いていない方におたずねします。】

問25 働いていない理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1 体調がよくないから	7 仕事が難しそうだから
2 働く、体調が悪いときに休みにくいから	8 家事があるから
3 働く、通院しにくいから	9 高齢だから
4 通勤が難しいから	10 仕事をする年齢に達していないから
5 職場の理解が得られないと思うから	11 障害の程度や症状のため
6 やりたい仕事が見つからないから	12 その他()

問26 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

1 働きたい	4 高齢のため働くことを考えていない
2 働きたいが、働けないと思う	5 わからない
3 働きたくない	

【すべての方におたずねします。】

問27 あなたは、障害のある方が働くためにどのようなことが大切だと思えますか。
(○はいくつでも)

- 1 家の近くに働くところがあること
- 2 通勤はしないで、家の中で働けること
- 3 からの調子にあわせて働けること
- 4 仕事の内容が障害のある人にあっていないこと
- 5 就労支援をおこなうところ(レインボーワーク、就労移行支援事業所など)が充実していること
- 6 生活支援・余暇支援が充実していること
- 7 事業主や職場の人たちが、障害のある人と働くことについて十分わかってくれていること
- 8 職場の施設や設備が使いやすいようになっていること
- 9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること
- 10 同じような障害のある仲間と仕事を分け合ったり、交代で働くなど、無理なく働けること
- 11 その他()
- 12 わからない

※ ジョブコーチ:企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

■ 外出や社会参加の状況について

- 問28 出かけるとき、困っていることがありますか。(○はいくつでも)
- 1 つきそってくれる人がいない
 - 2 まわりの人と話すのがむずかしい
 - 3 まわりの人の目が気になる
 - 4 まわりの人の手助け・配慮が足りない
 - 5 歩道が狭かったり、自転車が多い
 - 6 建物などに段差が多く、利用しにくい
 - 7 車を停めるところがない
 - 8 気軽に利用できる移動手段が少ない
 - 9 電車やバスなどが利用しづらい
 - 10 トイレが使いにくい、少ない
 - 11 その他()
 - 12 特に困っていることはない

- 問29 次の活動の中で、あなたがこれからしたいことはなんですか。(○はいくつでも)
- 1 文化芸術活動
 - 2 スポーツ・レクリエーション
 - 3 旅行
 - 4 ボランティア活動
 - 5 障害者団体の活動
 - 6 趣味などのサークル活動
 - 7 個人的な趣味や学習の活動
 - 8 講座や講演会などへの参加
 - 9 地域の行事やお祭
 - 10 その他()
 - 11 特にしたいことはない

問30 あなたは、問29 のような活動に参加するためにはどのような手助けが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 1 活動についてのおしらせがあること
- 2 いっしょに行く仲間がいること
- 3 活動する場所が近くにあること
- 4 外出のための手助け・サービスがあること
- 5 障害にあった対応ができること
- 6 きちんと教えてくれる人がいること
- 7 障害のある人が使いやすい施設などがあること
- 8 手助けをしてくれる人がいること
- 9 その他()
- 10 特にない

■ 健康状況や医療について

- 問31 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)
- 1 特に困っていることはない
 - 2 近所に診てくれるお医者さんがいない
 - 3 専門的な治療を行う病院・診療所がない
 - 4 通院や健康診査のときにつきそいがいない
 - 5 往診をたのめるお医者さんがいない
 - 6 定期的に健康診査を受けられない
 - 7 病院・診療所とのコミュニケーションがとれない
 - 8 障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
 - 9 受診手続きなどがわかりにくい
 - 10 病院・診療所の建物が使いにくい
 - 11 医療費の負担が大きい
 - 12 休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない
 - 13 その他()

■ 相談や情報の入手について

問32 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

- 1 総合福祉事務所
- 2 保健相談所
- 3 障害者地域生活支援センター
(きらら・すてぷ・ういんぐ・ざくら)
- 4 権利擁護センター ほっとサポートねりま
- 5 民生委員・児童委員
- 6 障害者相談員
- 7 児童相談所
- 8 福祉施設
- 9 相談支援事業所
- 10 病院、診療所
- 11 学校、職場
- 12 障害者団体
- 13 友だち、知り合い
- 14 ホームヘルパー
- 15 インターネットの掲示板(民間サイト)など
- 16 その他()
- 17 相談できるところはない
- 18 相談の必要はない

問33 どのようなになれば家族や親せき以外にも相談しやすくなりますか。(自由記入)

問34 福祉サービスなどの情報をどこで知りますか。(○はいくつでも)

1	ねりま区報	9	相談支援事業所
2	区のホームページ	10	民生委員、児童委員
3	インターネットのサイト(区のホームページ以外)	11	障害者団体
4	区の障害者福祉のしおり	12	家族、親せき
5	総合福祉事務所、保健相談所	13	友だち、知り合い
6	障害者地域生活支援センター	14	その他
	(きらら・すてっぷ・ういんぐ・ざくら)	15	わからない
7	学校、職場、施設		
8	病院、診療所		

問35 福祉サービスのことが十分にわかるためには、区はどのようなことに力を入れたらよいですか。(自由記入)

福祉サービスについて

問36 あなたは、この1年くらいの間に次のサービスを利用しましたか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
11	グループホームなどの居住系サービス
12	児童発達支援・放課後等デイサービスなど
13	手話通訳者・要約筆記者の派遣
14	その他
15	1～13のサービスを利用したことがない

問37-1 あなたは、現在必要だと思うサービスを十分利用していますか。(○はいつ)

1	十分利用している	} → 問38へ進む
2	十分ではないが、ほぼ利用している	
3	あまり利用していない	} → 問38へ進む
4	その他	
5	わからない	
6	サービスを利用する必要がない	

問37-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由はなんですか。(○はいくつでも)

1	自己負担が大きいから
2	支給要件にあてはまらないから
3	必要とするサービスがないから
4	どのようなサービスがあるかわからないから
5	利用の仕方がわからないから
6	個別のニーズに対応できないから
7	サービスに空きがなく利用できないから
8	その他
9	わからない

【すべての方におたずねします。】

問38 次のサービスの中で、これからも利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	就労移行支援・就労継続支援・生活介護の日中活動系サービス
11	グループホームなどの居住系サービス
12	児童発達支援・放課後等デイサービスなど
13	手話通訳者・要約筆記者の派遣
14	その他
15	1～13の中に利用したいサービスはない

問39 サービスを利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思うサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
	→
	→
	→

【問40は、40歳以上の方におたずねします。】

問40 あなたは、介護保険のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)

1 訪問介護(ホームヘルプ)を利用している	
2 通所介護(デイサービス)を利用している	
3 短期入所(ショートステイ)を利用している	
4 その他()	
5 介護保険サービスは利用していない → 問43へ進む	

【問41、問42は、介護保険サービスを利用している方におたずねします。】

問41 あなたは、介護保険の要介護認定を受けたことがありますか。ある場合には、要介護度にも○をつけてください。(○は1つ)

1 ない	
2 ある →	1 要支援1 3 要介護1 8 わからない 2 要支援2 4 要介護2 5 要介護3 6 要介護4 7 要介護5

問42 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用して、何か困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 サービスの支給量が減ってしまった	
2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	
3 利用者自己負担が増えた	
4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	
5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	
6 その他()	
7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみ利用)	
8 特に困っていることはない	

■ 将来について

問43 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 学校に通いたい	
2 会社などで働きたい	
3 就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい	
4 働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい	
5 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたい	
6 病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	
7 福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい	
8 自分の家で過ごしたい	
9 その他()	
10 わからない	

問44 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	
2 家族と一緒に暮らしたい	
3 グループホームで暮らしたい	
4 施設に入所して暮らしたい	
5 その他()	
6 わからない	

第1希望

第2希望

【10年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	
2 家族と一緒に暮らしたい	
3 グループホームで暮らしたい	
4 施設に入所して暮らしたい	
5 その他()	
6 わからない	

第1希望

第2希望

【20年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	
2 家族と一緒に暮らしたい	
3 グループホームで暮らしたい	
4 施設に入所して暮らしたい	
5 その他()	
6 わからない	

第1希望

第2希望

問45 今後も線馬区に住みつづけたいと思いますか。(○は1つ)

1 住みつづけたい	2 区外に引っこしたい	3 わからない
-----------	-------------	---------

問46 問45のように思った理由を書いてください。(自由記入)

--

災害対策について

問47-1 あなたは、最寄の避難拠点（区立小中学校）の場所をご存じですか。(○は1つ)

※ 線馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問47-2 あなたは、災害時にその避難拠点までひとりで避難することが出来ますか。(○は1つ)

1 できると思う	2 できなと思う	3 その他()
----------	----------	----------

【すべての方におたずねします。】

問48 災害が起きたときのために、どのような準備が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 避難しやすい避難所を整備する	2 障害のある人に防災訓練などへの参加をすすめる
3 日頃から避難方法などを知らせる	4 緊急通報システムをつくる
5 地域で助け合える体制をつくる	6 避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
7 避難時に人工送気や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全維持装置を用意する	8 避難時において、障害者がわかるようなお知らせをする
9 避難時の介助人などを用意する	10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを用意する
11 避難所で補装具などの貸出しを行う	12 その他()
13 特にない	

権利擁護について

問49-1 障害があることで、差別されたり、いやな思いをしたことがありますか。(○は1つ)

1 いつもある	3 ほとんどない
2 たまにある	4 わからない

問49-2 具体的には、どのようなときに差別されたり、いやな思いをしていますか。(自由記入)

--

問50 地域で暮らす上で、障害のことをわかってもらえていないと感じますか。(○は1つ)

1 十分わかってもらえていないと感じる	4 まったくわかってもらえていないと感じる
2 時々わかってもらえていないと感じる	5 わからない
3 あまりわかってもらえていないと感じる	

問51 どのようなときに障害のことをわかってもらえていない、あるいは障害のことをわかってもらえていないと感じますか。(自由記入)

--

問52 あなたは、障害および障害のある方のことを、まわりの人にもっとわかってもらうためには、何か必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 障害についてのお知らせや講演会などを充分におこなう	2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する
3 障害のある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす	4 学校における福祉教育・人権教育をすすめる
5 障害のある方の社会参加をすすめる	6 福祉施設が地域住民との交流をすすめる
7 障害のある方目らが、積極的に地域活動に参加する	8 障害のある方目らが、必要な手助けをまわりの人に伝える
9 その他()	10 わからない
11 特にない	

問53-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

- ※ 合理的配慮とは、障害のある人が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。
- 《合理的配慮の具体例》
- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
 - 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
 - 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

1	ある
2	ない
3	その他()

問53-2 「ある」と回答した方におたずねします。その結果、「合理的配慮」を受けることができませんでしたか。(○は1つ)

1	できた
2	できない
3	その他()

問53-3 「ない」と回答した方におたずねします。「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1	合理的配慮を必要とする場面・機会にあっていない
2	そのときには、合理的配慮を求めることを思い浮かばなかった
3	合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
4	合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにできなかった
5	合理的配慮について知らなかった
6	その他()

問54 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

- ※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選んで本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1	知っている
2	知らない

問55-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用するつもりですか)。(○は1つ)

1	現在利用している	→	問56へ進む
2	今後利用したい	→	問56へ進む
3	利用したいと思わない		
4	わからない	→	問56へ進む

【「利用したいと思わない」とお答えの方におたずねします。】

問55-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由はなんですか。(○はいくつでも)

1	手続きがむずかしい
2	費用負担が大き
3	後見人が選ばれるまでに時間がかかる
4	制度のしくみがよくわからない
5	十分な支援が受けられるかわからない
6	その他()
7	必要がない

【すべての方におたずねします。】

問56 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思えますか。
(○はいくつでも)

1	障害の早期発見・早期療育に努めること
2	障害のある人となない人の交流をすめ、お互いの理解を深めること
3	障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと
4	障害のある人の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること
5	ホームヘルパーの派遣など自宅での生活を支えるサービスに力をいれること
6	区内で利用できる施設をつくり増やすこと
7	障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすめること
8	障害のある人の住まい(公営住宅やグループホームなど)をつくり増やすこと
9	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう手助けすること
10	障害のある当事者による活動を手助けすること
11	ボランティア活動をすめること
12	障害者施策や福祉に関するおしらせを充分におこなうこと
13	相談しやすいようにすること
14	本人だけではなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと
15	その他()
16	特になし

問57-1 あなたは「障害」という言葉について、どのように表記されるのが最もよいと思えますか。(○は1つ)

1	障害	4	その他()
2	障がい	5	こだわりはない(どれでもよい)
3	障碍	6	わからない

問57-2 あなたが問57-1でその表記を選んだ理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

1	見慣れているから	4	本来はそう書くべきだから
2	わかりやすいから	5	表記だけ変えても意味がないから
3	差別感や不快感を感じないから	6	その他()

このアンケートの中の選択肢や自由記入欄だけでは書ききれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。
記入もれがないかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れ、12月27日（金）までにお近くの郵便ポストに入れてください。
もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に手助けされている方のご意向（19 ページ）もお聞かせください。

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問 58 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。（○はいくつでも）

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよっとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年齢的に負担が大きい	

問 59-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育てなどをしていますか。（○はいくつでも）

1 している	2 していない
--------	---------

問 59-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。（○はいくつでも）

1 兄弟・姉妹	4 子
2 父・母	5 その他
3 祖父・祖母	

問 59-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。（○はいくつでも）

1 病気のため	4 育児中のため
2 障害のため	5 その他
3 高齢のため	

問 60 あなたの現在の健康状態はいかがですか。（○は1つ）

1 よい	4 あまりよくない
2 まあよい	5 よくない
3 ふつう	

問 61 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。（○はいくつでも）

1 区からの情報提供を増やす
2 家族等の休養目的のショートステイや一時保護を充実させる
3 家族等に対する相談体制を充実させる
4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する
5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる
6 その他
7 特にない

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までにご投函ください。

生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1 男 性	2 女 性
年齢	歳	

問2 この調査票はどなたが記入されますか。(○は1つ)

1 本人が自分一人で記入
2 本人に聞いて家族や介助者が代筆
3 本人の意向を考えながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

1 自分の持ち家(購入マンションも含む)	6 社宅、会社の寮
2 親など家族の持ち家(購入マンションも含む)	7 福祉施設
3 公営住宅	8 病院に入院している
4 アパート、賃貸マンション、借家	9 その他()
5 グループホーム	

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。(○はいくつでも)

1 自分一人だけで暮らしている	5 祖父、祖母
2 配偶者(夫または妻)	6 兄弟、姉妹
3 息子、娘(その配偶者も含む)	7 その他()
4 父、母	8 グループホーム等での集団生活

問5 あなたご本人の収入源は何ですか。(○はいくつでも)

1 就労による収入	4 家族などからの仕送り
2 年金・手当	5 その他()
3 生活保護費	6 収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者（もともとも収入が多い方）はどなたですか。(○は1つ)
※「3 父」「4 母」とお答えの場合には、年齢（令和元年12月1日現在）をご記入ください。

1 あなたご本人	5 子
2 あなたの配偶者(夫・妻)	6 祖父・祖母
3 父 → 歳	7 兄弟・姉妹
4 母 → 歳	8 その他 ()

問7 さしかたをえなければ、あなたの診断名に○をつけてください。また、難病と診断されている方は、その部分にも○をつけてください。(○はいくつでも)

1 統合失調症	6 発達障害
2 気分障害(うつ病、躁うつ病など)	(自閉症、ADHD、学習障害、アスペルガー症候群など)
3 依存症(薬物、アルコールなど)	7 パーソナリティー障害
4 認知症(アルツハイマー、血管性、その他を含む)	8 摂食障害(拒食症、過食症など)
5 高次脳機能障害	9 その他()
	10 難病

問8 精神疾患にかかわる病気の発症年齢は何歳の時ですか。覚えていない方は、精神疾患にかかわる病気の診断を受けたときの初診時の年齢を記入してください。

年齢	歳
----	---------------

問9 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

1 受けている	→ (区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6)
2 受けていない	

問10 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。

(○はいくつでも)

1 精神障害者保健福祉手帳	→ (1級 2級 3級)
2 身体障害者手帳	→ (1級 2級 3級 4級 5級 6級)
3 愛の手帳	→ (1度 2度 3度 4度)
4 これらの手帳は持っていない	

【問11は、「身体障害者手帳」をお持ちの方におたずねします。】

問11 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1 番号」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1 番号」と「2 番号」を記入してください。

1 視覚障害	1 番号
2 聴覚障害	
3 平衡機能障害	
4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	2 番号
5 肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)	
6 肢体不自由(体幹)	
7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害	
8 その他()	

問 12-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要

2 必要ではない → 問 13へ進む

【問 12-1で「必要」とご回答された方におたずねします。】

- 問 12-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)
- 1 経管栄養

2 胃ろう

3 腸ろう

4 たん等の吸引

5 吸入

6 気管カニューレ

7 導尿

8 その他()

■ 介助・援助の状況について

【すべての方におたずねします。】

問 13 ふだん、あなたを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1 とくに介助等を受けていない → 問 16-1へ進む

2 配偶者(夫または妻)

3 父、母

4 息子、娘(息子、娘の配偶者も含む)

5 祖父、祖母

6 兄弟、姉妹

7 行政の職員(ワーカー・保健師等)

8 病院的職員(看護師・精神保健福祉士等)

9 施設の職員

10 訪問看護師

11 ホームヘルパー

12 その他()

→最も長く介助・援助している人

(問 13の選択肢の番号を記入)

【問 14、問 15 は、現在、介助・援助を受けている方におたずねします。】

問 14 どのようなときに介助・援助を受けていますか。具合が悪くなったときのみ受けている場合でも○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 部屋の整理・整頓・掃除

2 衣類の洗濯

3 日用品の買い物

4 食事のしたく

5 外出(通院を含む)

6 服薬

7 医療的ケアに関わる介助

8 他の人と意思疎通を図りたいとき

9 金銭管理

10 その他()

問 15 主に介助・援助している方が、病気のときや、外出しなければならない場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 同居している他の家族に頼みたい

2 同居していない家族や親せきに頼みたい

3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい

4 訪問看護を利用したい

5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい

6 近所の人や友人・知人に頼みたい

7 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない

8 その他()

【すべての方におたずねします。】

問 16-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

- 1 必要だが、受けていない介助・援助がある

2 必要とする介助・援助は受けていないと思う

3 特に介助・援助を必要としていない

4 その他()
- 問 17へ進む

【問 16-1で「必要だが、受けていない介助・援助がある」とご回答された方におたずねします。】

問 16-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問 17 あなたは、平日の昼間、主にどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

1 幼稚園や保育園、学校などに通っている → 問 18へ進む

2 働いている(就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む) → 問 20へ進む

3 施設(福祉園など)で介護・訓練を受けている

4 病院や診療所のデイケアなどを利用している

5 障害者地域生活支援センター(きらら、すてつぷ、ういんぐ、ういんぐ)に通っている → 問 24へ進む

6 介護保険のデイサービスを利用している

7 自宅に多くのことが多い

8 その他() → 問 26へ進む

■ 教育について ■

【問 18、問 19 は、現在「幼稚園や保育園、学校などに通っている」方におたずねします。】

問 18 通園・通学先はどこですか。(○は 1 つ)

1 幼稚園	5 特別支援学級	9 専門学校・大学
2 保育園	6 通常の学級	10 その他()
3 児童発達支援事業所等	7 高等学校	
4 特別支援学校	8 職業訓練校	

問 19 幼稚園・学校などに通っていて、もっと充実してほしいことはありますか。(○はいくつでも)

1 通いやすくてほしい(通学手段の改善など)	5 放課後の居場所づくりを充実してほしい
2 施設・設備などを充実してほしい	6 夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい
3 介助体制を充実してほしい	7 その他()
4 先生・生徒の理解などが深まってほしい	8 特に困っていることはない

【次は問 26 へ進んでください。】

■ 雇用・就労について ■

【問 20～問 23 は、現在「働いている」方におたずねします。】

問 20 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は 1 つ)

1 自営業	5 内 職
2 家業の手伝い	6 就労移行支援・就労継続支援事業所
3 会社・団体等の正規職員	7 その他()
4 非正規職員(契約、パート、派遣等)	

問 21 あなたの職場はどこにありますか。(○は 1 つ)

1 練馬区内	4 東京都外
2 23 区内(練馬区を除く)	5 在宅で仕事をしている
3 東京都内	

問 22 仕事で得た収入は 1 年にどれくらいですか (給与・賃金など)。(○は 1 つ)

1 5 万円未満	6 300 万円～500 万円未満
2 5 万円～20 万円未満	7 500 万円～700 万円未満
3 20 万円～50 万円未満	8 700 万円以上
4 50 万円～100 万円未満	9 収入はない
5 100 万円～300 万円未満	

問 23 仕事をすると不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

1 収入が少ない	8 人間関係が苦手
2 仕事が難しい	9 職場での身分が不安定
3 仕事が体力的にきつい	10 職場の施設・設備が症状に十分対応していない
4 自分にあった内容の仕事がない	11 昇給や昇進が平等ではない
5 1 日の就労時間が長い	12 通勤が大変
6 1 週間の就労日数が多い	13 その他()
7 精神疾患への理解が足りない	14 特に不安や不満はない

【次は問 26 へ進んでください。】

【問 24～問 25 は、現在働いていない方におたずねします。】

問 24 働いていない理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1 体調がよくないから	7 仕事が難しそうだから
2 働くとき、体調が悪いときに休みにくいから	8 家事があるから
3 働くとき、通院しにくいから	9 高齢だから
4 通勤が難しいから	10 仕事をすると年齢に達していないから
5 職場の理解が得られないと思うから	11 障害の程度や症状のため
6 やりたい仕事が見つからないから	12 その他()

問 25 今後、働いてみたいと思いますか。(○は 1 つ)

1 働きたい	4 高齢のため働くことを考えていない
2 働きたいが、働けないと思う	5 わからない
3 働きたくない	

【すべての方におたずねします。】

問 26 あなたは、精神疾患のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

1 自分の家の近くに働く場があること	
2 自分の家の中で、通勤することなく働けること	
3 健康状態にあわせた働き方ができること	
4 精神疾患のある方にあった仕事が用意されること	
5 就労支援機関(レインボーワーク、就労移行支援事業所等)が充実していること	
6 生活支援・余暇支援が充実していること	
7 事業主や職場の人たちが、精神疾患のある方の雇用について十分理解していること	
8 職場の施設や設備が精神疾患のある方にも利用できるように配慮されていること	
9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること	
10 同じような精神疾患のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	
11 その他()	
12 わからない	

※ジョブコーチ：企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

■ 外出や社会参加の状況について ■

問 27 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

1	付き添ってくれる人がいない
2	他人との会話が難しい
3	他人の視線が気になる
4	必要などときに、周りの人の手助け・配慮が足りない
5	その他()
6	特に困っていることはない

問 28 あなたは、これからどのような活動をしたしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1	文化芸術活動	7	個人的な趣味や学習の活動
2	スポーツ・レクリエーション	8	講座や講演会などへの参加
3	旅行	9	地域の行事やお祭
4	ボランティア活動	10	その他()
5	障害者団体の活動	11	特に活動したくない
6	趣味などのサークル活動		

問 29 あなたは、問 28 のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

1	活動についての情報が提供されること	6	適切な指導者がいること
2	一緒に行く仲間がいること	7	精神疾患のある方に配慮した施設や設備があること
3	活動する場所が近くにあること	8	介助者・援助者がいること
4	外出のための手段が確保されていること	9	その他()
5	精神疾患の症状にあった対応があること	10	特にない

■ 健康状況や医療について ■

問 30 精神疾患での、受療状況を教えてください。(○は1つ)

1	通院している	3	入院している
2	訪問診療(往診)してもらっている	4	入院・通院していない

問 31 精神疾患での入院歴がありますか。ある場合は入院期間にも○をしてください。(○は1つ)

1	ない
2	ある → (1 3か月未満 2 3か月～1年未満 3 1年～3年未満 4 3年以上)

問 32 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

1	特に困っていることはない
2	近所に診てくれる医師がいない
3	専門的な治療を行う医療機関がない
4	通院や健康診査のときに付き添いがいない
5	往診を頼める医師がいない
6	定期的に健康診査を受けられない
7	医療機関とのコミュニケーションがとれない
8	精神疾患のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
9	受診手続きなど、精神疾患のある方への配慮が不十分
10	医療機関の建物が精神疾患のある方に配慮した構造になっていない
11	医療費の負担が大きい
12	休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない
13	その他()

■ 相談や情報の入手について ■

問 33 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

1	総合福祉事務所	10	病院・診療所
2	保健相談所	11	学校・職場
3	障害者地域生活支援センター	12	障害者団体
	(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)	13	友人・知人
4	権利擁護センター ほっとサポートねりま	14	ホームヘルパー
5	民生委員・児童委員	15	インターネットの掲示板(民間サイト)など
6	障害者相談員	16	その他()
7	児童相談所	17	相談できるところはない
8	福祉施設	18	相談の必要はない
9	相談支援事業所		

問 34 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外に相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。(自由記入)

問 35 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

1	ねりま区報	8	病院・診療所
2	区のホームページ	9	相談支援事業所
3	インターネットのサイト(区のホームページ以外)	10	民生委員・児童委員
4	区の障害者福祉のしおり	11	障害者団体
5	総合福祉事務所・保健相談所	12	家族・親せき
6	障害者地域生活支援センター	13	友人・知人
	(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)	14	その他()
7	学校・職場・施設	15	わからない

問 36 福祉サービスの情報を十分に得るためには、区はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(自由記入)

--

問 37 あなたは、ふだん周囲の方々のコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

1	パソコンのメール	5	コミュニケーションボード(絵・カード等)
2	携帯/スマートフォン・SNS	6	その他()
3	電話(固定・携帯/スマートフォン)	7	特に使用している機器はない
4	筆談・要約筆記		

※ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、インターネットを介して友人・知人など利用者同士で情報発信・やりとりができるサービスです。

問 38 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(○はいくつでも)

1	音声による情報提供を増やす
2	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす
3	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする
4	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
5	コミュニケーション支援機器を充実する
6	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供を増やす
7	その他()
8	特にない

■ 福祉サービスについて

問 39 あなたは、この1年くらいの間に次の間サービスを利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)
5	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
6	グループホームなどの居住系サービス
7	児童発達支援・放課後等デイサービスなど
8	病院や診療所のデイケア
9	その他()
10	1～8のサービスを利用したことがない

問 40-1 あなたは、現在必要だと思うサービスを十分利用していますか。(○は1つ)

1	十分利用している	4	その他()
2	十分ではないが、ほぼ利用している	5	わからない
3	あまり利用していない	6	サービスを利用する必要がない

【問 40-1 で「あまり利用していない」とご回答された方におたずねします。】

問 40-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は何か。(○はいくつでも)

1	自己負担が大きいため	6	個別のニーズに対応できないから
2	支給要件に該当しないから	7	サービスに空きがなく利用できないから
3	必要とするサービスがないから	8	その他()
4	どのようなサービスがあるかわからないから	9	わからない
5	利用の仕方がわからないから		

【すべての方におたずねします。】

問 41 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)
5	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
6	グループホームなどの居住系サービス
7	児童発達支援・放課後等デイサービスなど
8	病院や診療所のデイケア
9	その他()
10	1～8の中に利用したいサービスはない

問 42 サービスを利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思ふサービスの名前と必要だと思ふことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思ふこと
→	
→	
→	

【問 43 は、40 歳以上の方におたずねします。】

問 43 あなたは、介護保険のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)

1 訪問介護(ホームヘルプ)を利用している
2 通所介護(デイサービス)を利用している
3 短期入所(ショートステイ)を利用している
4 その他()
5 介護保険サービスは利用していない → 問 46へ進む

【問 44、問 45 は、介護保険サービスを利用している方におたずねします。】

問 44 あなたは、介護保険の要介護認定を受けたことがありますか。ある場合には、要介護度にも○をつけてください。(○は1つ)

1 ない	2 要支援1	3 要介護1	4 要介護2	5 要介護3	6 要介護4	7 要介護5	
ある →	1 要支援1	2 要支援2	3 要介護1	4 要介護2	5 要介護3	6 要介護4	7 要介護5
	8 わからない						

問 45 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用していて、何か困っていることはありますか。(○はいくつでも)

1 サービスの支給量が減ってしまった
2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった
3 利用者自己負担が増えた
4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった
5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった
6 その他()
7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみ利用)
8 特に困っていることはない

【すべての方におたずねします。】

問 46 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 学校に通いたい
2 一般企業などで働きたい
3 就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい(福祉的就労)
4 就労のための訓練・支援を受け(就労移行支援)、企業就労を目指したい
5 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい
6 医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい
7 福祉施設などの通所施設で、身辺の介護などを受けながらさまざまな活動を行いたい
8 自宅で過ごしたい
9 その他()
10 わからない

問 47 あなたは、5 年後・10 年後・20 年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。第 1 希望・第 2 希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5 年後】 についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	第 1 希望	第 2 希望
2 家族と一緒に暮らしたい		
3 グループホームで暮らしたい		
4 施設に入所して暮らしたい		
5 その他()		
6 わからない		

【10 年後】 についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	第 1 希望	第 2 希望
2 家族と一緒に暮らしたい		
3 グループホームで暮らしたい		
4 施設に入所して暮らしたい		
5 その他()		
6 わからない		

【20 年後】 についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	第 1 希望	第 2 希望
2 家族と一緒に暮らしたい		
3 グループホームで暮らしたい		
4 施設に入所して暮らしたい		
5 その他()		
6 わからない		

問 48 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1 住み続けたい	2 区外に移転したい	3 わからない
----------	------------	---------

問 49 問 48 のように答えた理由は何ですか。(自由記入)

--

■ 災害対策について

問 50-1 あなたは、最寄の避難拠点（区立小中学校）の場所をご存じですか。(○は1つ)

※練馬区では、災害時に自宅生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1 知っている	2 知らない → 問 51へ進む
---------	------------------

【問 50-1 で「知っている」とご回答された方におたずねします。】

問 50-2 あなたは、災害時にその避難拠点まで自力で避難することができますか。(○は1つ)

1 できると思う	2 できないと思う	3 その他()
----------	-----------	----------

【すべての方におたずねします。】

問 51 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 避難しやすい避難所を整備する
2 障害のある人が防災訓練等に参加するように促す
3 日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
4 緊急通報システムを整備する
5 避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
6 避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する
8 避難時において障害者に配慮した情報提供を行う
9 避難時の介助人などを確保する
10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
11 避難所で補装具等の貸出しを行う
12 その他()
13 特にない

■ 権利擁護について

問 52-1 精神疾患があることで、差別や人権侵害を受けていると感じることがありますか。

(○は1つ)

1 いつも感じる	} → 問 53へ進む
2 たまに感じる	
3 ほとんど感じることはない	
4 わからない	

【問 52-1 で「いつも感じる」「たまに感じる」とご回答された方におたずねします。】

問 52-2 具体的には、どのようなときに差別や人権侵害を受けていると感じますか。(自由記入)

--

問 53 地域で暮らす上で、精神疾患に対して理解を得られていると感じますか。(○は1つ)

1 十分得られていると感じる	4 まったく得られていないと感じる
2 時々得られていないと感じる	5 わからない
3 あまり得られていないと感じる	

問 54 具体的には、どのようなときに理解を得られている、あるいは理解を得られていないと感じますか。(自由記入)

--

問 55 あなたは、精神疾患及び精神疾患のある方への区民の理解を深めるためには、何か必要だと思えますか。(○はいくつでも)

1 精神疾患への理解を深めるための広報・啓発を充実する
2 ボランティア活動や精神疾患への理解を深める活動をしている団体を支援する
3 精神疾患のある方との交流を通じて精神疾患を理解する機会を増やす
4 学校における福祉教育・人権教育を充実する
5 精神疾患のある方の社会参加のための支援を充実する
6 福祉施設が地域住民との交流を進める
7 精神疾患のある方自らが、積極的に地域活動に参加する
8 精神疾患のある方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える
9 その他()
10 わからない
11 特にない

【すべての方におたずねします。】

問 56-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

合理的配慮とは、障害のある人が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・
お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。
《合理的配慮の具体例》
○ 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
○ 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
○ 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

1	ある
2	ない
3	その他()

→ 【問 56-1 で「ある」と回答した方におたずねします。】

問 56-2 その結果、「合理的配慮」を受けることができましたか。(○は1つ)

1	できた
2	できない
3	その他()

→ 【問 56-1 で「ない」と回答した方におたずねします。】

問 56-3 「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1	合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない
2	そのときには、合理的配慮を求めることを思い浮かばなかった
3	合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
4	合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにできなかった
5	合理的配慮について知らなかった
6	その他()

問 57 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1	知っている
2	知らない

問 58-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか（利用する予定ですか）。(○は1つ)

1	現在利用している
2	今後利用したい
3	利用したいと思わない
4	わからない

→ 【問 58-1 で「利用したいと思わない」とお答えの方におたずねします。】

問 58-2 成年後見制度を利用しない（したくない）理由は何ですか。(○はいくつでも)

1	手続きが難しい	5	十分な支援が受けられるかわからない
2	費用負担が大きい	6	その他()
3	後見人が選任されるまでに時間がかかる	7	必要がない
4	制度のしくみがよくわからない		

【すべての方におたずねします。】

問 59 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

1	障害の早期発見・早期療育に努めること
2	障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること
3	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること
4	障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること
5	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること
6	区内で利用できる施設を整備すること
7	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること
8	障害のある人の住まい(公営住宅やグループホームなど)を整備すること
9	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること
10	障害のある当事者による活動を支援すること
11	ボランティア活動を充実すること
12	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること
13	相談体制を充実し、適切な支援をすること
14	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること
15	その他()
16	特にない

問 60-1 あなたは「障害」という言葉について、どのように表記されるのが最もよいと思いますか。(○は1つ)

1	障害	4	その他()
2	障がい	5	こだわりはない(どれでもよい)
3	障碍	6	わからない

問 60-2 あなたが問 60-1 で、その表記を選んだ理由はどのようなことですか。

(○はいくつでも)

1	見慣れているから	4	本来はそう書くべきだから
2	わかりやすいから	5	表記だけ変えても意味がないから
3	差別感や不快感を感じないから	6	その他()

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。
記入もれがないかももう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、12月27日（金）までにお近くのポストに投函してください。
もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に介助・援助されている方のご意向（19 ページ）もお聞かせください。

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問 61 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよっとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他 ()
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年長的に負担が大きい	

問 62-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育て等をしてしていますか。(○はいくつでも)

1 している	2 していない
--------	---------

→ 【問 62-2～問 62-3 は、「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。】

問 62-2 あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	4 子
2 父・母	5 その他 ()
3 祖父・祖母	

→ 問 62-3 その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児中のため
2 障害のため	5 その他 ()
3 高齢のため	

【すべての方におたずねします。】

問 63 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は 1 つ)

1 よい	4 あまりよくない
2 まあよい	5 よくない
3 ぶつう	

問 64 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(○はいくつでも)

1 区からの情報提供を増やす
2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる
3 家族等に対する相談体制を充実させる
4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する
5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる
6 その他 ()
7 特にない

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までにご投函ください。

生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別

1 男 性2 女 性

年齢

歳

問2 この調査票はどなたが記入されますか。(○は1つ)

1 本人が自分一人で記入

2 本人に聞いて家族や介助者が代筆

3 本人の意向を考えながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

1 自分の持ち家(購入マンションも含む)

2 親など家族の持ち家(購入マンションも含む)

3 公営住宅

4 アパート、賃貸マンション、借家

5 グループホーム、ケアホーム

6 社宅、会社の寮

7 福祉施設

8 病院に入院している

9 その他()

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。(○はいくつでも)

1 自分一人だけで暮らしている

2 配偶者(夫または妻)

3 息子、娘(息子または娘の配偶者も含む)

4 父、母

5 祖父、祖母

6 兄弟、姉妹

7 その他()

8 グループホーム等での集団生活

問5 あなたご本人の収入源は何ですか。(○はいくつでも)

1 就労による収入

2 年金・手当

3 生活保護費

4 家族などからの仕送り

5 その他()

6 収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者（もともと収入が多い方）はどなたですか。(○は1つ)
※「3 父」「4 母」とお答えの場合には、年齢（令和元年12月1日現在）をご記入ください。

1 あなたご本人

2 あなたの配偶者(夫・妻)

3 父 → 歳

4 母 → 歳

5 子

6 祖父・祖母

7 兄弟・姉妹

8 その他()

問7 現在罹患している主な難病の疾病名を別紙の「東京都難病医療費等助成制度の対象疾病一覧」の中から番号を選んで2つまでご記入いただくか、疾病名をご記入ください。

疾病番号	疾病名	疾病番号	疾病名
1		2	

問8 問7で記載した難病の発症年齢と、医療費助成を初めて申請した年齢を記入してください。

	発症年齢	医療費助成
1	歳頃	歳頃
2	歳頃	歳頃

問9 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

1 受けている → (区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6)

2 受けていない

問10 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。

(○はいくつでも)

1 身体障害者手帳 → (1級 2級 3級 4級 5級 6級)

2 愛の手帳 → (1度 2度 3度 4度)

3 精神障害者保健福祉手帳 → (1級 2級 3級)

4 これらの手帳はもっていない

問11-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要

2 必要ではない → 問12へ進む

問11-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養

2 胃ろう

3 腸ろう

4 たん等の吸引

5 吸入

6 気管カニューレ

7 導尿

8 その他()

■ 介助・援助の状況について

問12 ふだん、あなたを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1 とくに介助等は受けていない → 問15へ進む

2 配偶者(夫または妻)

3 父、母

4 息子、娘(息子、娘の配偶者も含む)

5 祖父、祖母

6 兄弟、姉妹

7 行政の職員(ワーカー・保健師等)

8 病院の職員(看護師・精神保健福祉士等)

9 施設の職員

10 訪問看護師

11 ホームヘルパー

12 その他()

→ 最も長く介助・援助している人 (問12の選択肢の番号を記入)
はどなたですか。

【問13、問14は、現在、介助・援助を受けている方におたずねします。】

問13 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

1 食事

2 トイレ

3 入浴

4 衣服の着脱

5 家の中の移動

6 家事(調理、掃除、洗濯)

7 外出

8 服薬

9 医療的ケアに関わる介助

10 他の人と意思疎通を図りたいとき

11 金銭管理

12 その他()

問14 主に介助・援助している方が、病気のときや、外出しなければならぬ場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 同居している他の家族に頼みたい

2 同居していない家族や親せきに頼みたい

3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい

4 訪問看護を利用したい

5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい

6 近所の人や友人・知人に頼みたい

7 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない

8 その他()

【すべての方におたずねします。】

問15 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

1 必要だが、受けていない介助・援助がある

2 必要とする介助・援助は受けていると思う

3 特に介助・援助を必要としていない

4 その他()

→ 問17へ進む

→ 問16 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問17 あなたは、平日の昼間、主にどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

1 学校に通っている → 問22へ進む

2 働いている → 問18へ進む

3 自宅にいる

4 自宅で療養している

5 病院・施設で療養している

6 介護保険のデイサービスを利用している

7 その他()

→ 問22へ進む

【現在「働いている」方におたずねします。】

問 18 仕事の形態は次のうちどれですか。(○はい 1 つ)

1 自営業	4 非正規職員 (契約、パート、派遣等)
2 家業の手伝い	5 内職
3 会社・団体等の正規職員	6 その他 ()

問 19 あなたの職場はどこにありますか。(○はい 1 つ)

1 練馬区内	3 東京都内	5 在宅で仕事をしている
2 23 区内 (練馬区を除く)	4 東京都外	

問 20 仕事で得た収入は 1 年にどれくらいですか (給与・賃金など)。(○はい 1 つ)

1 5 万円未満	4 50 万円～100 万円未満	7 500 万円～700 万円未満
2 5 万円～20 万円未満	5 100 万円～300 万円未満	8 700 万円以上
3 20 万円～50 万円未満	6 300 万円～500 万円未満	9 収入はない

問 21 仕事をすると上で不安や不満がありますか。(○はい 1 つでも)

1 収入が少ない	8 人間関係が苦手
2 仕事が難しい	9 職場での身分が不安定
3 仕事が体力的にきつい	10 職場の施設・設備が病状に十分対応していない
4 自分にあった内容の仕事がない	11 昇給や昇進が平等ではない
5 1 日の就労時間が長い	12 通勤が大変
6 1 週間の就労日数が多い	13 その他 ()
7 難病への理解が足りない	14 時に不安や不満はない

【すべての方におたずねします。】

問 22 あなたは、難病の方が働くためにどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(○はい 1 つでも)

1 自分の家の近くに働く場があること
2 自分の家の中で、通勤することなく働けること
3 健康状態にあわせた働き方ができること
4 難病の方の健康状態にあった仕事を用意されること
5 就労支援機関 (レインボーワーク、就労移行支援事業所) が充実していること
6 生活支援・余暇支援が充実していること
7 事業主や職場の人たちが、難病の方の雇用について十分理解していること
8 職場の施設や設備が、難病の方に利用しやすいように配慮されていること
9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること
10 同じような健康状態の方と一緒に、あるいは交替で働けること
11 その他 ()
12 わからない

※ ジョブコーチ：企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

問 23 外出の際に困っていることがありますか。(○はい 1 つでも)

1 付き添ってくれる人がいない
2 他人との会話が難しい
3 他人の視線が気になる
4 必要ときに、周りの人の手助け・配慮が足りない
5 歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい
6 建物などに段差が多く、利用しにくい
7 車を駐車するところがない
8 気軽に利用できる移動手段が少ない
9 電車やバスなどが利用しづらい
10 トイレが使いにくい・少ない
11 その他 ()
12 特に困っていることはない

問 24 あなたは、これからどのような活動をしたいですか。(○はい 1 つでも)

1 文化芸術活動	7 個人的な趣味や学習の活動
2 スポーツ・レクリエーション	8 講座や講演会などへの参加
3 旅行	9 地域の行事やお祭
4 ボランティア活動	10 その他 ()
5 患者団体・患者会の活動	11 特に活動したくない
6 趣味などのサークル活動	

問 25 あなたは、問 24 のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。

(○はい 1 つでも)

1 活動についての情報が提供されること	6 適切な指導者がいること
2 一緒に行く仲間がいること	7 難病の方に配慮した施設や設備があること
3 活動する場所が近くにあること	8 介助者・援助者がいること
4 外出のための手段が確保されていること	9 その他 ()
5 難病の方にあった対応があること	10 特にない

問 26 難病疾病で、主となる（最も頻度の高い）受療状況を教えてください。（○は1つ）

1 通院している
2 訪問診療（往診）してもらっている
3 入院している
4 入院・通院していない

問 27 難病疾病での入院歴はありますか。ある場合は入院期間にも○をしてください。（○は1つ）

1 な い
2 あ る → (3か月未満 3か月～1年未満 1年～3年未満 3年以上)

【問 28、問 29 は、通院している方におたずねします。】

問 28 通院する際の介助は必要ですか。（○は1つ）

1 介助は必要ない	2 付添いなどの介助が必要
-----------	---------------

問 29 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありますか。（○はいいくつでも）

1 特に困っていることはない
2 近所に診てくれる医師がいらない
3 専門的な治療を行う医療機関がない
4 通院や健康診査のときに付き添いがない
5 往診を頼める医者がいない
6 定期的に健康診査を受けられない
7 医療機関とのコミュニケーションがとれない
8 症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
9 受診手続きなど、難病の方への配慮が不十分
10 医療機関の建物が難病の方に配慮した構造になっていない
11 医療費の負担が大きい
12 休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない
13 その他()

【すべての方におたずねします。】

問 30 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。（○はいいくつでも）

1 総合福祉事務所	9 学校・職場
2 保健相談所	10 患者団体・患者会
3 障害者地域生活支援センター (きさら・すてつぷ・ういんぐ・さくら)	11 友人・知人
4 権利擁護センター ほっとサポートねりま	12 ホームヘルパー
5 民生委員・児童委員	13 インターネットの掲示板(民間サイト)など
6 病院・診療所	14 その他()
7 難病情報センター	15 相談できるところはない
8 相談支援事業所	16 相談の必要はない

問 31 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外に相談するためには、どのような体制が整っているかと思えますか。（自由記入）

--

問 32 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。（○はいいくつでも）

1 ねりま区報	8 病院、診療所
2 区のホームページ	9 相談支援事業所
3 インターネットのサイト(区のホームページ以外)	10 民生委員・児童委員
4 区の障害者福祉のしおり	11 患者団体、患者会
5 総合福祉事務所・保健相談所	12 家族、親せき
6 障害者地域生活支援センター (きさら・すてつぷ・ういんぐ・さくら)	13 友人・知人
7 学校、職場、施設	14 その他()
	15 わからない

問 33 福祉サービスの情報を十分に得るためには、区はどのようなことを充実すべきだと思いますか。（自由記入）

--

■ 福祉サービスについて ■

問 34 あなたは、この1年くらいの間に次のサービスを利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	グループホームなどの居住系サービス
11	日中一時支援
12	手話通訳者・要約筆記者の派遣
13	介護保険のサービス
14	その他()
15	1～13のサービスを利用したことがない

問 35-1 あなたは、現在必要だと思うサービスを十分利用していますか。(○は1つ)

1	十分利用している	} → 問 36へ進む
2	十分ではないが、ほぼ利用している	
3	あまり利用していない	} → 問 36へ進む
4	その他()	
5	わからない	
6	サービスを利用する必要がない	

問 35-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は何ですか。(○はいくつでも)

1	自己負担が大きいから	6	個別のニーズに対応できないから
2	支給要件に該当しないから	7	サービスに空きがなく利用できないから
3	必要とするサービスがないから	8	その他()
4	どのようなサービスがあるかわからないから	9	わからない
5	利用の仕方がわからないから		

【すべての方におたずねします。】

問 36 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	グループホームなどの居住系サービス
11	日中一時支援
12	手話通訳者・要約筆記者の派遣
13	介護保険のサービス
14	その他()
15	1～13の中に利用したいサービスはない

問 37 サービスを利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思うサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
→	
→	
→	

問 38 今あるサービス以外で、どんなサービスや施策が必要だと思いますか。(自由記入)

--

【問 39 は、40 歳以上の方におたずねします。】

問 39 あなたは、介護保険のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)

- 1 訪問介護(ホームヘルプ)を利用している
- 2 通所介護(デイサービス)を利用している
- 3 短期入所(ショートステイ)を利用している
- 4 その他()
- 5 介護保険サービスは利用していない → 問 42 へ進む

【問 40、問 41 は、介護保険サービスを利用している方におたずねします。】

問 40 あなたは、介護保険の要介護認定を受けたことがありますか。ある場合には、要介護度にも○をつけてください。(○は1つ)

- 1 ない
- 2 ある →

1 要支援1 2 要支援2 3 要介護1 4 要介護2 5 要介護3 6 要介護4 7 要介護5 8 わからない

問 41 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用して、何か困っていることはありますか。(○はいくつでも)

- 1 サービスの支給量が減ってしまった
- 2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった
- 3 利用者自己負担が増えた
- 4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった
- 5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった
- 6 その他()
- 7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみ利用)
- 8 特に困っていない

■ 将来について

問 42 あなたは、5 年後・10 年後・20 年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5 年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他()
- 6 わからない



第1希望

第2希望

【10 年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他()
- 6 わからない



第1希望

第2希望

【20 年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他()
- 6 わからない



第1希望

第2希望

問 43 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 住み続けたい
- 2 区外に移転したい
- 3 わからない

問 44 問 43 のように答えた理由は何ですか。(自由記入)

問 45 あなたは、最寄の避難拠点（区立小中学校）の場所をご存じですか。（○は1つ）

※ 練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

- 1 知っている 2 知らない

問 46 あなたは、災害時にその避難拠点まで自力で避難することが出来ますか。（○は1つ）

- 1 できと思う 2 できないと思う 3 その他（ ）

【すべての方におたずねします。】

問 47 災害に備えて、または災害時にどのような対策が必要だと思いますか。（○はいいくつでも）

- 1 避難しやすい避難所を整備する
2 難病患者の方にも防災訓練等に参加するように促す
3 日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
4 緊急通報システムを整備する
5 避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
6 避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する
7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する
8 避難時において障害者に配慮した情報提供を行う
9 避難時の介助人などを確保する
10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
11 避難所で補装具等の貸出しを行う
12 その他（ ）
13 特にない

問 48-1 難病を理由として、差別や人権侵害を受けていると感じることはありませんか。（○は1つ）

- 1 いつも感じる 3 ほとんど感じることはない
2 たまに感じる 4 わからない

問 48-2 具体的には、どのようなときに差別や人権侵害を受けていると感じますか。（自由記入）

【すべての方におたずねします。】

問 49 日常生活をおくる上で、難病に対して理解を得られていると感じますか。（○は1つ）

- 1 十分得られていると感じる 4 まったく得られていないと感じる
2 時々得られていないと感じる 5 わからない
3 あまり得られていないと感じる

問 50 具体的には、どのようなときに理解を得られている、あるいは理解を得られていないと感じますか。（自由記入）

問 51 難病および難病がある方への区民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。（自由記入）

問 52-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。（○は1つ）

合理的配慮とは、障害のある人が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたとき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
○ 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
○ 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

- 1 ある
2 ない
3 その他（ ）

問 52-2 「ある」と回答した方におたずねします。その結果、「合理的配慮」を受けることができませんでしたか。(○は1つ)

1	できた
2	できない
3	その他()

問 52-3 「ない」と回答した方におたずねします。「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1	合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない
2	そのときには、合理的配慮を求めることを思いつかなかった
3	合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
4	合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった
5	合理的配慮について知らなかった
6	その他()

問 53 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1	知っている
2	知らない

問 54-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか (利用する予定ですか)。(○は1つ)

1	現在利用している → 問 55へ進む
2	今後利用したい → 問 55へ進む
3	利用したいと思わない、
4	わからない → 問 55へ進む

【「利用したいと思わない」とお答えの方におたずねします。】

問 54-2 成年後見制度を利用しない (したくない) 理由は何ですか。(○はいくつでも)

1	手続きが難しい	5	十分な支援が受けられるかわからない
2	費用負担が大きい	6	その他()
3	後見人が選任されるまでに時間がかかる	7	必要がない
4	制度のしくみがよくわからない		

【すべての方におたずねします。】

問 55 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1	障害の早期発見・早期療育に努めること
2	障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること
3	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること
4	障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること
5	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること
6	区内で利用できる施設を整備すること
7	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること
8	障害のある人の住まい(公営住宅やグループホームなど)を整備すること
9	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること
10	障害のある当事者による活動を支援すること
11	ボランティア活動を充実すること
12	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること
13	相談体制を充実し、適切な支援をすること
14	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること
15	その他()
16	特にない

問 56-1 あなたは「障害」という言葉について、どのように表記されるのが最もよいと思いますか。(○は1つ)

1	障害	4	その他()
2	障がい	5	こだわりはない(どれでもよい)
3	障碍	6	わからない

問 56-2 あなたが問 56-1 で、その表記を選んだ理由はどのようなことですか。

(○はいくつでも)

1	見慣れているから	4	本来はそう書くべきだから
2	わかりやすいから	5	表記だけ変えても意味がないから
3	差別感や不快感を感じないから	6	その他()

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。
記入もれがないかももう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入
れて、**12月27日（金）まで**にお近くのポストに投函してください。
もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に介助・援助されている方のご
意向（18 ページ）もお聞かせください。

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向 ■

問 57 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、支援が必要なおことはありますか。
(いくつでも○)

1 介助・援助方法などの情報
2 福祉サービス等の情報
3 福祉サービス等を利用しやすくなる
4 気軽に相談できる窓口
5 地域の理解
6 その他()
7 特になし

問 58-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育て等をしていきますか。
(○はいくつでも)

1 している	2 していない
--------	---------

→ 問 58-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。あて名の方
ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	3 祖父・祖母	5 その他
2 父・母	4 子	()

→ 問 58-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。その方が介
助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児中のため
2 障害のため	5 その他
3 高齢のため	()

問 59 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい	3 ふつう	5 よくない
2 まあよい	4 あまりよくない	

問 60 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(〇はいくつでも)

1 区からの情報提供を増やす

2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる

3 家族等に対する相談体制の充実

4 障害特性の理解や、適切な対応するための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する

5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる

6 その他()

7 特にない

その他、ご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までにご投函ください。

生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

性別	1 おとこ	2 おんな
年齢		

問2 このアンケートはだれが書いていますか。(○は1つ)

1	自分ひとりで書いている
2	本人に聞いて家族や職員が代筆
3	本人の意向を 考えながら家族や職員が記入

問3 あなたは、現在の施設に入ってどのくらいになりますか。(○は1つ)

1	1年未満	3	5年以上10年未満
2	1年以上5年未満	4	10年以上

問4 あなたの住んでいる施設はどこにありますか。(○は1つ)

1	練馬区内	2	23区内(練馬区を除く)	3	東京都内	4	東京都外
---	------	---	--------------	---	------	---	------

問5 あなたご本人の収入の種類はなんですか。(○はいくつでも)

1	働いた収入	3	生活保護費	5	その他()
2	年金・手当	4	家族のお金	6	収入はない

問6 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の等級にも○をつけてください。(○はいくつでも)

1	愛の手帳	→ (1度	2度	3度	4度)
2	身体障害者手帳	→ (1級	2級	3級	4級 5級 6級)
3	精神障害者保健福祉手帳	→ (1級	2級	3級)	

問7 「愛の手帳」または「身体障害者手帳」を何歳のころから持っていますか。あてはまるものに年齢を書いてください。

愛の手帳		歳ごろ
身体障害者手帳		歳ごろ

【問8は、身体障害者手帳を持っている人かお答えください。】

問8 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

1	視覚障害	1番目
2	聴覚障害	
3	平衡機能障害	2番目
4	音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	
5	肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)	
6	肢体不自由(体幹)	
7	心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、腎臓、免疫の機能の障害	
8	その他()	

【すべての方におたずねします。】

問9 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

1	受けている → (区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6)
2	受けていない

問10 あなたは、以下のように病院などで言われたことがありますか。(○はいくつでも)

1	発達障害(広汎性発達障害、ADHD、LDなど)	3	難病
2	高次脳機能障害	4	言われたことはない

問11-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的なケアを必要としていますか。(○は1つ)

1	必要	2	必要ではない → 問12へ進む
---	----	---	-----------------

問11-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1	経管栄養	5	吸入
2	胃ろう	6	気管カニューレ
3	腸ろう	7	導尿
4	たん等の吸引	8	その他()

【すべての方におたずねします。】

問12 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

1 働きたい	→ 問14へ進む
2 働きたいが、働けないと思う	
3 働きたくない	} → 問14へ進む
4 わからない	

【問13は、問12で「2 働きたいが、働けないと思う」と回答した方におたずねします。】

問13 働きたいが、働けないと思う理由は何か。(自由記入)

--

【すべての方におたずねします。】

問14 あなたは、障害のある方が働くためにどのようなことが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

1 家の近くに働くところがあること
2 通勤はしないで、家の中で働けること
3 からの調子にあわせて働けること
4 仕事の内容が障害のある人にあること
5 就労支援をおこなうところ(レインボーワーク、就労移行支援事業所)が充実していること
6 生活支援・余暇支援が充実していること
7 事業主や職場の人たちが、障害のある人と働くことについて十分わかってくれていること
8 職場の施設や設備が使いやすいようになっていること
9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること
10 同じような障害のある仲間と仕事を分け合ったり、交代で働くなど、無理なく働けること
11 その他()
12 わからない

※ ジョブコーチ：企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

問15 出かけるとき、困っていることがありますか。(○はいくつでも)

1 つきそってくれる人がいない
2 まわりの人と話すのがむずかしい
3 まわりの人の目が気になる
4 まわりの人の手助け・配慮が足りない
5 歩道が狭かったり、自転車が多いのであつたりして、歩道が歩きにくい
6 建物などに段差が多く、利用しにくい
7 車を停めるところがない
8 気軽に利用できる移動手段が少ない
9 電車やバスなどが利用しづらい
10 トイレが使いにくい、少ない
11 その他()
12 特に困っていることはない

問16 次の活動の中で、あなたがこれからしたいことはなんですか。(○はいくつでも)

1 文化芸術活動	7 個人的な趣味や学習の活動
2 スポーツ・レクリエーション	8 講座や講演会などへの参加
3 旅行	9 地域の行事やお祭
4 ボランティア活動	10 その他()
5 障害者団体の活動	11 特にしたいことはない
6 趣味などのサークル活動	

問17 あなたは、問16のような活動に参加するためにはどのような手助けが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 活動についてのおしらせがあること	6 きちんと教えてくれる人がいること
2 いっしょに行く仲間がいること	7 障害のある人が使いやすい施設などがあること
3 活動する場所が近くにあること	8 手助けをしてくれる人がいること
4 外出のための手助け・サービスがあること	9 その他()
5 障害にあった対応ができること	10 特にない

■ 相談や情報の入手について

問18 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるととき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

1 総合福祉事務所	10 病院・診療所
2 保健相談所	11 学校・職場
3 障害者地域生活支援センター	12 障害者団体
(きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら)	13 友だち、知り合い
4 権利擁護センター ほっとサポートねりま	14 ホームヘルパー
5 民生委員・児童委員	15 インターネットの掲示板(民間サイト)など
6 障害者相談員	16 その他()
7 児童相談所	17 相談できるところはない、
8 福祉施設	18 相談の必要はない、
9 相談支援事業所	

問19 どのようなになれば家族や親せき以外にも気軽に相談しやすくなりますか。(自由記入)

--

問20 福祉サービスなどの情報をどこで知りますか。(○はいくつでも)

1 ねりま区報	8 病院・診療所
2 区のホームページ	9 民生委員・児童委員
3 インターネットのサイト(区のホームページ以外)	10 相談支援事業所
4 区の障害者福祉のしおり	11 障害者団体
5 総合福祉事務所・保健相談所	12 家族、親せき
6 障害者地域生活支援センター	13 友だち、知り合い
(きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら)	14 その他()
7 学校、職場、施設	15 わからない

問21 福祉サービスのことが十分にわかるためには、区はどのようなことに力を入れたらよいですか。(自由記入)

--

■ 将来について

問22 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 今いる施設で過ごしたい
2 学校に通いたい
3 会社などで働きたい
4 就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所で働きたい
5 働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい
6 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたい
7 病院 診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい
8 福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい
9 自分の家で過ごしたい
10 その他()
11 わからない

問23 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	第1希望	第2希望
2 家族と一緒に暮らしたい		
3 グループホームで暮らしたい		
4 施設に入所したまま暮らしたい		
5 その他()		
6 わからない		

【10年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	第1希望	第2希望
2 家族と一緒に暮らしたい		
3 グループホームで暮らしたい		
4 施設に入所したまま暮らしたい		
5 その他()		
6 わからない		

【20年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	第1希望	第2希望
2 家族と一緒に暮らしたい		
3 グループホームで暮らしたい		
4 施設に入所したまま暮らしたい		
5 その他()		
6 わからない		

問29 あなたは、障害および障害のある方のことを、まわりの人にもっとわかってもらいために、
には、何が必要だと思えますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----|---------------------------------|
| 1 | 障害についてのお知らせや講演会などを充分におこなう |
| 2 | ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する |
| 3 | 障害のある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす |
| 4 | 学校における福祉教育・人権教育をすすめる |
| 5 | 障害のある方の社会参加をすすめる |
| 6 | 福祉施設が地域住民との交流をすすめる |
| 7 | 障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する |
| 8 | 障害のある方自らが、必要な手助けをまわりの人に伝える |
| 9 | その他() |
| 10 | わからない |
| 11 | 特にない |

問30-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

※ 合理的配慮とは、障害のある人が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたとき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

- | | |
|---|--------|
| 1 | ある |
| 2 | ない |
| 3 | その他() |

問30-2 「ある」と回答した方におたずねします。その結果、「合理的配慮」を受けることができ
ましたか。(○は1つ)

- | | |
|---|--------|
| 1 | できた |
| 2 | できない |
| 3 | その他() |

問30-3 「ない」と回答した方におたずねします。「合理的配慮」を求めたことがないのはどの
ような理由からですか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 合理的配慮を必要とする場面・機会にあっていない |
| 2 | そのときには、合理的配慮を求めることを思い浮かばなかった |
| 3 | 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった |
| 4 | 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった |
| 5 | 合理的配慮について知らなかった |
| 6 | その他() |

【問23 の「5年後」「10年後」「20年後」のいずれかで、「ひとり暮らししたい」「家族と暮らしたい」「グループホームで暮らしたい」とお答えの方におたずねします。】

問24 どのような手助けや環境が必要になると思えますか。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 【地域で暮らし続けるために】 | | |
| 1 | 日常生活ができるための訓練をすること | 6 家族の理解があること |
| 2 | 施設や病院以外で暮らす体験ができること | 7 介助者がいること |
| 3 | 障害者向け公営住宅、グループホームなどの住宅を充実させること | 8 働いて収入が増えられる、収入額が増えること |
| 4 | アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること | 9 地域住民が障害・障害者に理解があること |
| 5 | 自分の家の改修 | 10 困ったときに相談できる人がいること |
| | | 11 ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること |
| | | 12 休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること |
| | | 13 その他() |
| | | 14 特にない |

問25 今後、練馬区に住みたいと思えますか。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|------|---|-----------|---|-------|
| 1 | 住みたい | 2 | 住みたいと思わない | 3 | わからない |
|---|------|---|-----------|---|-------|

問26 問25のように答えた理由を教えてください。(自由記入)

権利擁護について

問27 障害があることで、差別されたり、いやな思いをしたことがありますか。(○は1つ)

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| 1 | いつももある | 3 | ほとんどない |
| 2 | たまにある | 4 | わからない |

問28 具体的には、どのようなときに差別されたり、いやな思いをしていますか。(自由記入)

問31 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選んで本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1 知っている 2 知らない

問32-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用するつもりですか)。(○は1つ)

- 1 現在利用している → 問33へ進む
2 今後利用したい → 問33へ進む
3 利用したいと思わない
4 わからない → 問33へ進む

【利用したいと思わない】とお答えの方におたずねします】

問32-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 手続きがむずかしい 5 十分な支援が受けられないかわからない
2 費用負担が大きいの 6 その他()
3 後見人が選ばれるまでに時間がかかる 7 必要がない
4 制度のしくみがよくわからない

■ 障害者施策全般について ■

【すべての方におたずねします】

問33 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 障害の早期発見・早期療育に努めること
2 障害のある人となない人の交流をすめ、お互いの理解を深めること
3 障害のある子どもそれぞれの状況にあった教育をおこなうこと
4 障害のある人の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること
5 ホームヘルパーの派遣など自宅での生活を支えるサービスに力をいれること
6 区内で利用できる施設をつくり増やすこと
7 障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること
8 障害のある人の住まい(公営住宅やグループホームなど)をつくり増やすこと
9 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう手助けすること
10 障害のある当事者による活動を手助けすること
11 ボランティア活動をすすめること
12 障害者施策や福祉に関するおしらせを充分におこなうこと
13 相談しやすいようにすること
14 本人だけでなく、家族も支える手助けを充分におこなうこと
15 その他()
16 特になし

問34-1 あなたは「障害」という言葉について、どのように表記されるのが最もよいと思いますか。(○は1つ)

- 1 障害 4 その他()
2 障がい 5 こだわりはない(どれでもよい)
3 障碍 6 わからない

問34-2 あなたが問34-1でその表記を選んだ理由はどのようなことですか。(○はいくつでも)

- 1 見慣れているから 4 本来はそう書くべきだから
2 わかりやすいから 5 表記だけ変えても意味がないから
3 差別感や不快感を感じないから 6 その他()

このアンケートの中の選択肢や自由記入欄だけでは書ききれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただきました誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。
記入もれがないかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入
れ、12月27日（金）までに施設の職員の方にお渡しください。
もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を、主に手助けされている方のご意向
（12ページ）もお聞かせください。

これ以降の質問は、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助している方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向 ■

問35 あて名の方ご本人が、今後施設を出て、地域で暮らすことの可能性についてお答えくだ
さい。（○は1つ）

- 1

条件が整えば可能だと思
う
- 2

難しいと思う → 問38へ進む
- 3

その他（
- 4

わからない

【問36、問37は、問35で「条件が整えば可能だと思
う」とお答えの方におたずねします。
問36 あて名の方ご本人は、地域でどのように暮らすことがよいと思いますか。（○は1つ）

- 1

ひとり暮らし
- 2

いまの家族と一緒に暮らす
- 3

グループホームで共同生活
- 4

その他（

問37 地域で暮らすためには、どのような支援や環境が必要になると思いますか。
（○はいくつでも）

- 【地域で暮らすまでに】

1

日常生活ができるための訓練をすること

2

施設や病院以外で暮らす体験ができること

3

障害者向け公営住宅、グループホームなどの住宅の充実

4

アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること

5

自宅の改修

【地域で暮らし続けるために】

6

家族の理解があること

7

介助者がいること

8

働いて収入が得られる、収入額が増えること

9

地域住民が障害・障害者に理解があること

10

困ったときに相談できる人がいること

11

ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること

12

休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること

13

その他（

14

特にな
- 12 -
- 308 -

【問35で、地域で暮らすことが「難しいと思う」とお答えの方におたずねします。】

問38 差し支えなければ、施設からの退所が難しいと思う理由を教えてください。(自由記入)

最後に、練馬区の障害者施策などについてご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までに
施設の職員の方にお渡しください。

生活と福祉に関するアンケート

■ お子さん（児童発達支援事業の利用者）のことにについて ■

問1 お子さんの性別と年齢をお答えください。

性別	1 男 性	2 女 性	年齢	歳
----	-------	-------	----	------------------------

問2 この調査票はどなたが記入されますか。お子さんから見た続き柄でご記入ください。

(○は1つ)

1 父親	4 祖母
2 母親	5 その他()
3 祖父	

問3 現在、お子さんと一緒に暮らしている人はどなたですか。お子さんから見た続き柄でご記入ください。(○はいくつでも)

1 父親	4 祖母
2 母親	5 兄弟、姉妹
3 祖父	6 その他()

問4 お子さんは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。

(○はいくつでも)

1 愛の手帳	→ (1度	2度	3度	4度)
2 身体障害者手帳	→ (1級	2級	3級	4級 5級 6級)
3 精神障害者保健福祉手帳	→ (1級	2級	3級)	
4 これらの手帳は持っていない				

【問5は、身体障害者手帳を持っている方がお答えください。】

問5 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

1 視覚障害	1 番目
2 聴覚障害	
3 平衡機能障害	
4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	
5 肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)	
6 肢体不自由(体幹)	2 番目
7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害	
8 その他()	

【問6は、「愛の手帳」もしくは「身体障害者手帳」を持っている方がお答えください。】

問6 「愛の手帳」または「身体障害者手帳」を何歳のころから持っていますか。あてはまるほうに年齢を書いてください。

愛の手帳	年齢	歳ごろ
身体障害者手帳	年齢	歳ごろ

【すべての方におたずねします。】

問7 お子さんは、以下のように診断されたことがありますか。(○はいくつでも)

1 発達障害(広汎性発達障害、ADHD、LDなど)	3 難病
2 高次脳機能障害	4 特にない

問8-1 お子さんは現在、日常生活をおくるために、医療的なケアを必要としていますか。

(○は1つ)

1 必要	2 必要ではない→ 問9へ進む
------	-----------------

問8-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養	5 吸入
2 胃ろう	6 気管カニューレ
3 腸ろう	7 導尿
4 たん等の吸引	8 その他()

■ 介助・援助の状況について ■

【すべての方におたずねします。】

問9 ふだん、お子さんを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1	とくに介助等はない → 問12へ進む
2	母親
3	父親
4	祖父、祖母
5	訪問看護師
6	ホームヘルパー
7	その他()

→ 最も長く介助・援助している人 (問9の選択肢の番号を記入)
はどなたですか。

【問10、問11は、現在、お子さんが介助・援助を必要としている方におたずねします。】

問10 お子さんは、どのようなときに介助・援助が必要ですか。(○はいくつでも)

1	食事	6	外出
2	トイレ	7	服薬
3	入浴	8	医療的ケアに関わる介助
4	衣服の着脱	9	他の人と意思疎通を図りたいとき
5	家の中の移動	10	その他()

問11 あなた（お子さんを介助・援助している方）が、病気のときや、外出しなければなら
ない場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1	同居している他の家族に頼みたい
2	同居していない家族や親せきに頼みたい
3	介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい
4	訪問看護を利用したい
5	施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい
6	近所の人や友人・知人に頼みたい
7	子育てサービスを利用したい
8	今までそのようなことはなかったたので、よくわからない
9	その他()

【すべての方におたずねします。】

問12-1 お子さんは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

1	必要だが、受けていない介助・援助がある	} → 問13へ進む
2	必要とする介助・援助は受けていると思う	
3	特に介助・援助を必要としていない	
4	その他()	

→ 問12-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

--

■ 日中の過ごし方について ■

【すべての方におたずねします。】

問13 お子さんは平日の昼間、児童発達支援の他に、どこで過ごしていますか。(○は1つ)

1	幼稚園に通っている
2	保育園に通っている
3	自宅にすることが多い
4	その他()

■ 教育について ■

【問14は、現在、幼稚園または保育園に通っている方におたずねします。】

問14 幼稚園・保育園に通っていて、もっと充実してほしいことはありますか。(○はいくつでも)

1	通いやすくしてほしい(通園手段の改善など)	5	夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい
2	施設・設備などを充実してほしい	6	その他()
3	介助体制を充実してほしい	7	特に困っていることはない
4	先生・園児の理解などが深まってほしい		

【すべての方におたずねします。】

問 15 あなたがお子さんを連れて外出する際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

1	ほかに手伝ってくれる人がいない
2	他人の視線が気になる
3	必要ときに、周りの人の手助け・配慮が足りない
4	歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい
5	建物などに段差が多く、利用しにくい
6	車を駐車するところがない
7	気軽に利用できる移動手段が少ない
8	電車やバスなどが利用しづらい
9	だれでもトイレが少ない
10	その他()
11	特に困っていることはない

問 16 あなたは、これからお子さんにどのような活動をさせたいと思いますか。(○はいくつでも)

1	文化芸術活動	5	地域の行事やお祭
2	スポーツ・レクリエーション	6	その他()
3	旅行	7	特に活動させなくてよい
4	ならい事などの活動		

問 17 お子さんが問 16 のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1	活動についての情報が提供されること	5	適切な指導者がいること
2	一緒に行く仲間がいること	6	介助者・援助者がいること
3	活動する場所が近くにあること	7	その他()
4	外出のための手段が確保されていること	8	特にない

問 18 お子さんの健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

1	特に困っていることはない
2	近所に診てくれる医師がいない
3	専門的な治療を行う医療機関がない
4	往診を頼める医師がいない
5	定期的に健康診査を受けられない
6	医療機関とのコミュニケーションがとれない
7	障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
8	受診手続きなど、障害のある人への配慮が不十分
9	医療機関の建物が障害のある人に配慮した構造になっていない
10	休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない
11	その他()

問 19 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

1	総合福祉事務所	10	子ども発達支援センター
2	保健相談所	11	病院・診療所
3	障害者地域生活支援センター	12	学校・職場
4	(きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら)	13	障害者団体
5	権利擁護センター ほっとサポートねりま	14	友人・知人
6	民生委員・児童委員	15	ホームヘルパー
7	障害者相談員	16	インターネットの掲示板(民間サイト)など
8	児童相談所	17	その他()
9	福祉施設	18	相談できるところはない
	相談支援事業所	19	相談の必要はない

問 20 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外に相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。(自由記入)

--	--

問 21 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

1	ねりま区報	8	相談支援事業所
2	区のホームページ	9	こども発達支援センター
3	インターネットのサイト(区のホームページ以外)	10	民生委員・児童委員
4	区の障害者福祉のしおり	11	障害者団体
5	総合福祉事務所・保健相談所	12	家族・親せき
6	障害者地域生活支援センター	13	友人・知人
	(さらに、すべてつづいていんぐ、さくら)	14	その他()
7	病院・診療所	15	わからない

問 22 福祉サービスの情報を十分に得るためには、区はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(自由記入)

--	--

問 23 お子さんは、ふだん周囲の方々とコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

1	手話・手話通訳	6	指文字・指点字
2	読 話	7	意志伝達装置
3	筆談・要約筆記	8	文字盤
4	補聴機器(補聴器・人工内耳など)	9	その他()
5	触手話	10	特に使用している機器はない

問 24 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(○はいくつでも)

1	点字による情報提供を増やす	6	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
2	音声による情報提供を増やす		
3	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	7	コミュニケーション支援機器を充実する
4	手話通訳・要約筆記を充実する	8	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供を増やす
5	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	9	その他()
		10	特にない

■ 福祉サービスについて

問 25 お子さんは、この1年くらいの間に次のサービスのサービスを利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タグシソー券の交付、自動車燃料費の助成等
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	児童発達支援
11	手話通訳者・要約筆記者の派遣
12	ファミリーサポート
13	その他()
14	1～12のサービスを利用したことがない

問 26-1 お子さんは、現在必要だと思いうサービスを利用していますか。(○は1つ)

1	十分利用している	} → 問 27 へ進む
2	十分ではないが、ほぼ利用している	
3	あまり利用していない	} → 問 27 へ進む
4	その他()	
5	わからない	
6	サービスを利用する必要がない	

→ 問 26-2 必要だと思いうサービスを「あまり利用していない」理由は何か。(○はいくつでも)

1	自己負担が大きいため	6	個別のニーズに対応できないから
2	支給要件に該当しないから	7	サービスに空きがなく利用できないから
3	必要とするサービスがないから	8	その他()
4	どのようなサービスがあるかわからないから	9	わからない
5	利用の仕方がわからないから		

【すべての方におたずねします。】

問 27 次のサービスのうち、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1	ホームヘルプなどの訪問系サービス
2	訪問看護などの医療系サービス
3	短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
4	補装具費の支給・修理
5	日常生活用具の給付・レンタル
6	住宅設備改善費の給付
7	福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
8	移動支援・同行援護
9	訪問入浴サービス
10	児童発達支援
11	手話通訳者・要約筆記者の派遣
12	ファミリーサポート
13	その他()
14	1～12の中に利用したいサービスはない

問 28 サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思うサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
	→
	→
	→

■ 将来について ■

問 29 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1	住み続けたい	2	区外に移転したい	3	わからない
---	--------	---	----------	---	-------

問 30 問 29 のように答えた理由は何ですか。(自由記入)

--

■ 災害対策について ■

問 31-1 あなたは、最寄の避難拠点 (区立小中学校) の場所をご存じですか。(○は1つ)

※ 練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1	知っている	2	知らない → 問 32 へ進む
---	-------	---	-----------------

→ 問 31-2 あなたは、災害時にお子さんとその避難拠点まで自力で避難することができですか。(○は1つ)

1	できると思う	2	できないと思う	3	その他()
---	--------	---	---------	---	--------

【すべての方におたずねします。】

問 32 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1	避難しやすい避難所を整備する
2	障害のある人が防災訓練等に参加するように促す
3	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
4	緊急通報システムを整備する
5	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
6	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
7	避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する
8	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う
9	避難時の介助人などを確保する
10	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
11	避難所で補装具等の貸出しを行う
12	その他()
13	特にない

問 33-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

合理的配慮とは、障害のある人が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

1	あ	る
2	な	い
3	そ	の他()

問 33-2 「ある」と回答した方におたずねします。その結果、「合理的配慮」を受けることができましたか。(○は1つ)

1	でき	た
2	でき	ない
3	そ	の他()

問 33-3 「ない」と回答した方におたずねします。「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1	合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない
2	そのときには、合理的配慮を求めることを思いいつかなかった
3	合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
4	合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった
5	合理的配慮について知らなかった
6	その他()

問 34 あなたがお子さんを介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1	介助・援助の方法がわからない	11	孤独感がある
2	福祉サービス等の情報が不足している	12	精神的な負担が大きい
3	福祉サービス等が十分に利用できない	13	経済的な負担が大きい
4	余暇など自分の時間が持てない	14	他にも介助の必要な家族・親族がいる
5	ちよっとした外出ができない	15	他の家族の援助が足りない
6	仕事に出られない	16	隣近所の人との関係づくりが難しい
7	長期的な外出ができない	17	何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8	睡眠不足である	18	その他()
9	身体的な負担が大きい	19	特にない
10	年齢的に負担が大きい		

問 35-1 現在、お子さん以外に、他の方の介護や子育て等をしてしていますか。(○はいくつでも)

1	い	る	2	い	ない
---	---	---	---	---	----

→ 問 35-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。お子さんからみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1	兄弟・姉妹	3	祖父・祖母	5	その他()
2	父・母	4	子		

→ 問 35-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答された方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1	病気のため	4	育児のため
2	障害のため	5	その他()
3	高齢のため		

問 36 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1	よい	3	ふつう	5	よくない
2	まあよい	4	あまりよくない		

問 37 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(○はいくつでも)

1	区からの情報提供を増やす
2	家族等の体養目的のショートステイや一時保護を充実させる
3	家族等に対する相談体制を充実させる
4	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する
5	家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる
6	その他()
7	特にない

■ 障害者施策全般について ■

問 38 今後、福祉施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

1	障害の早期発見・早期療育ができるようにすること
2	障害のある人どない人の交流を進め、相互理解を深めること
3	障害のある子どもそれぞれの状況や段階に応じた教育を進めること
4	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること
5	区内で利用できる施設を整備すること
6	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること
7	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること
8	障害のある当事者による活動を支援すること
9	ボランティア活動を充実すること
10	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること
11	相談体制を充実し、適切な支援をすること
12	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること
13	その他()
14	特にない

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、区の施策に対しご意見などがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかももう一度お確かめのうえ、

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までにご投函ください。

－ 生活と福祉に関するアンケート ご協力をお願い －

日ごろより、練馬区の障害福祉行政の推進につきまして、ご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

この調査は、障害福祉サービス等を提供している事業所の皆様を対象に、障害福祉に関する施策検討のための基礎資料を得ることを目的として実施します。結果については統計的に処理し、回答内容について目的以外に利用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、このアンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

練馬区

《 記入にあたってのお願い 》

1. お答えは、あてはまる選択肢の番号に○をつけていただくものです。なお、「その他」の場合は()の中に具体的な内容も記入してください。

2. お答えは、「1つだけ」選んでいただくものと、「いくつでも」選んでいただくものと、また、自由に記入いただくものがあります。

3. 質問によっては、ある条件にあてはまる事業所だけにお答えをお願いするものがありますので、説明にしたがってお答えください。

4. 答えたくない質問については、無理に答える必要はありません。

ご記入が終わったアンケート用紙は、お手数ですが**12月27日(金)までに**、同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れ、お近くのポストに投函してください。

調査の実施は、株式会社インテージサーチに委託しています。お問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

【 アンケート調査に関するお問い合わせ先 】

株式会社インテージサーチ アンケート担当

電 話: 0120-240-224

(受付時間: 平日10時～17時)

F A X: 042-476-1388

Eメール: nrm-info@intage.com

【 調査の実施主体 (依頼元) 】

練馬区 福祉部 障害者施策推進課 事業計画担当係

練馬区豊玉北6-12-1

※(株)インテージサーチは、官公庁・大学機関より委託を受け統計調査・市場調査を実施しています。マーケティングサービス/マーケティングリサーチデータ収集サービス認証(ISO20252)、情報セキュリティマネジメントシステム(ISO27001)、プライバシーマークの認証を受けており、ご回答いただく皆様の情報を適切に取り扱いたします。

■ 事業所の基本情報 ■

問1 差し支えなければ、事業所名と住所をご記入ください。

事業所名	
住 所	

問2 貴事業所の経営主体をお聞きます。(○は1つ)

1 社会福祉法人	4 企業(株式会社・有限会社等)
2 医療法人	5 特定非営利活動法人(NPO法人)
3 一般社団法人・一般財団法人	6 その他()

問3 貴事業所の所在地をお聞きます。(○は1つ)

1 練馬圏域 (郵便番号が「176」から始まる地域)
2 光が丘圏域 (郵便番号が「179」から始まる地域)
3 石神井圏域 (郵便番号が「177」から始まる地域)
4 大泉圏域 (郵便番号が「178」から始まる地域)

問4 貴事業所の開業年をお聞きます。

昭和	・	平成	・	令和		年
----	---	----	---	----	--	---

問5 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等を選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

1 居宅介護	16 自立生活援助
2 重度訪問介護	17 共同生活援助(グループホーム)
3 同行援護	18 地域移行支援
4 行動援護	19 地域定着支援
5 療養介護	20 計画相談支援
6 生活介護	21 児童発達支援
7 短期入所(ショートステイ)	22 医療型児童発達支援
8 重度障害者等包括支援	23 放課後等デイサービス
9 施設入所支援	24 居宅訪問型児童発達支援
10 自立訓練(機能訓練)	25 保育所等訪問支援
11 自立訓練(生活訓練)	26 障害児相談支援
12 就労移行支援	27 地域活動支援センター事業
13 就労継続支援(A型)	28 移動支援事業
14 就労継続支援(B型)	29 日中一時支援事業
15 就労定着支援	30 その他()

問6 貴事業所で提供しているサービスのうち、利用定員が定められているサービスがありまし
たら、サービスごとに利用定員をご記入ください。

サービス	利用定員が定められているサービス ※ 問5の選択肢番号をご記入ください。	定員数
問5の 選択肢 番号		人
		人
		人

問7 貴事業所でサービスを提供している利用者数をお聞きます。問5で答えた提供サービス
ごとに、障害別にご記入ください。重複障害の方については、主たる障害についてお答え
ください。(令和元年12月1日時点)

サービス	障害種類	利用者数	うち練馬 区民数
問5の 選択肢 番号	身体障害	人	人
	知的障害	人	人
	精神障害	人	人
	発達障害	人	人
	難病	人	人
	その他	人	人

サービス	障害種類	利用者数	うち練馬 区民数
問5の 選択肢 番号	身体障害	人	人
	知的障害	人	人
	精神障害	人	人
	発達障害	人	人
	難病	人	人
	その他	人	人

問8 令和元年12月1日時点の職員数をご記入ください。

合計職員数

(内訳)

常勤

非常勤

人

人

人

問8-1 令和元年12月1日時点の職種別の職員数の内訳をご記入ください。
(合計人数は、問8の「合計職員数」と一致します)
(兼務している職員については、主として従事する職種にのみご記入ください)

生活支援員^{*1}

介護職員^{*2}
(ヘルパー)

サービス管理責任者
サービス提供責任者
児童発達支援管理責任者

相談支援専門員

人

人

人

人

看護師

栄養士

理学療法士

作業療法士

職業指導員^{*3}

人

人

人

人

人

事務職員

管理者

医師・嘱託医

その他

人

人

人

人

※1 社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などの有資格者および無資格者を含む。
※2 介護福祉士、実務者研修(研修終了)、介護職員初任者研修等の有資格者。
※3 社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などの有資格者および無資格者を含む。

問8-2 令和元年12月1日時点の経験年数(貴事業所での年数に限らず)別の職員数の内
訳をご記入ください。(合計人数は、問8の「合計職員数」と一致します)

6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
人	人	人	人	人	人

※職員ごとの正確な経験年数がわからなければ、おおよそで結構ですので、問8の「合計職員数」
と一致させてください。

■ 運営状況について

【問9は、利用定員が定められている事業所にお聞きます。】
問9 貴事業所における 2019 年9月から 2019 年 11 月までの平均的な利用率はおおよそ何%く
らいでしたか。

%

問 10 貴事業所の昨年度の事業の収支状況をお聞きます。事業所全体の状況と、問 5 で選択し
た提供している事業それぞれについてお答えください。

貴事業所の収支状況

1 黒字だった

2 ほぼ収支が均衡した

3 やや赤字だった

4 大幅な赤字だった

5 その他()

事業ごとの収支状況

1 黒字だった

2 ほぼ収支が均衡した

3 やや赤字だった

4 大幅な赤字だった

5 その他()

問5の番号

事業名

事業ごとの収支状況

1 黒字だった

2 ほぼ収支が均衡した

3 やや赤字だった

4 大幅な赤字だった

5 その他()

問5の番号

事業名

事業ごとの収支状況

1 黒字だった

2 ほぼ収支が均衡した

3 やや赤字だった

4 大幅な赤字だった

5 その他()

問5の番号

事業名

問 11 事業を運営する上での課題は何ですか。(○はいくつでも)

1 新規利用者の獲得が困難	9 スタッフが短期間で離職してしまう
2 利用者一人あたりの利用量が少ない	10 スタッフの人材育成
3 設備・スタッフなどが不足し、量的に利用者のニーズに応えられない	11 責任者など中堅人材の確保・育成
4 利用者や家族がサービスをよく理解していない	12 他のサービス事業所との競合が激しい
5 利用者の心身状態の把握が難しい	13 他のサービス事業所との連携
6 利用者からの苦情や事故への対応	14 医療機関との連携
7 訪問や送迎が非効率(エリアが広い等)	15 自立支援給付費等のサービスの報酬が低い
8 スタッフの確保	16 医療的ケアへの対応
	17 その他()
	18 特に課題はない

■ 人材確保・人材育成について ■

問 12-1 現在、職員の過不足の状況は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 大変不足している	3 やや不足している	5 過剰である
2 不足している	4 適当である	

【問 12-2、12-3 は、問 12-1 で「大変不足している」「不足している」「やや不足している」と回答した事業所にお聞きます。】

問 12-2 不足している職員の職種は何ですか。不足人数もお答えください。(○はいくつでも)

1 生活支援員	()	人	7 理学療法士	()	人
2 介護職員(ヘルパー)	()	人	8 作業療法士	()	人
3 サービス管理責任者・サービス提供責任者・児童発達支援管理責任者	()	人	9 職業指導員	()	人
4 相談支援専門員	()	人	10 事務職員	()	人
5 看護師	()	人	11 管理者	()	人
6 栄養士	()	人	12 医師・嘱託医	()	人
			13 その他()	()	人

問 12-3 貴事業所では、職員が不足していることによって、事業所の運営に何か支障が出ていますか。(○はいくつでも)

1 事業の縮小を余儀なくされている	
2 事業の継続が困難になっている	
3 サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている	
4 利用者の受け入れを減らしている	
5 配置欠如減算により収入が減っている	
6 その他()	
7 職員は不足しているが、特に事業所の運営に支障はない	

【すべての事業所にお聞します。】

問 13 貴運営法人及び貴事業所の過去3年間の採用者数、退職者数をご記入ください。

※ 1 年未満の有期雇用契約により、採用または退職した方は除いてください。

貴運営法人	過去3年間の採用者数				過去3年間の退職者数			
	新規採用	未経験者	経験者	合計	新規採用	未経験者	経験者	合計
		人	人	人		人	人	人
	合計							
	人				人			

貴事業所	過去3年間の採用者数				過去3年間の退職者数			
	新規採用	未経験者	経験者	合計	新規採用	未経験者	経験者	合計
		人	人	人		人	人	人
	合計							
	人				人			

問 14 貴事業所では、人材確保のための取り組みをしていますか。(○はいくつでも)

1 求人誌などに人材広告を掲載した	7 知人経由・人づてで探した
2 インターネットの求人サイトを利用した	8 ボランティアを受け入れた
3 人材募集のチラシを配布した	9 勤務条件(夜勤回数、勤務時間帯など)を改善した
4 ハローワークを通じて募集した	10 給与・報酬を改善した
5 福祉専門学校等で求人を行った	11 福利厚生(育休、介護休暇など)を改善した
6 介護人材育成・研修センターの人材確保事業を利用した	12 その他()
	13 特になし

問 15 貴事業所では、処遇改善加算を取得していますか。(○は1つ)

1 取得した	2 取得していない	3 現在申請している
--------	-----------	------------

問 16 貴事業所では、人材育成のためにどのようなことに取り組んでいますか。(○はいくつでも)

1 資格取得のための支援(費用面など)	5 スキルアップに対し報酬制度を設置
2 外部研修への参加支援(費用面など)	6 中堅・ベテラン職員に育成を経験させる
3 事業所での研修実施	7 その他()
4 研修計画の策定	8 特に取り組んでいない

問 17 貴事業所の職員が、過去1年間に参加した研修内容をお聞します。(○はいくつでも)

1 障害福祉サービス制度全般に関する研修	8 障害の特性に関する研修
2 障害者の権利擁護に関する研修	9 サービス管理責任者指導者養成研修
3 職場のメンタルヘルスに関する研修	10 相談支援従事者指導者養成研修
4 苦情対応に関する研修	11 都が実施する集団指導
5 成年後見制度に関する研修	12 区が実施する集団指導
6 自立支援給付の請求に関する説明会・研修	13 その他()
7 利用者支援等に係る実務研修	14 参加した研修はない

問 18 貴事業所の職員は、練馬障害福祉人材育成・研修センターで行っている各種研修を利用したことがありますか。(○は1つ)

1 研修を利用したことがある
2 練馬障害福祉人材育成・研修センターのことは知っているが、研修を利用したことはない
3 練馬障害福祉人材育成・研修センターがあることを知らない

問 19 貴事業所では、練馬障害福祉人材育成・研修センターの利用について、どのように考えていますか。差し支えなければ、そのように考える理由もあわせてお書きください。

(自由記入)

問 20 今後、練馬障害福祉人材育成・研修センターに期待することはどのようなことですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

問 21 人材確保・人材育成について、練馬区に取り組んでほしいことはどのようなことですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

■ サービスの提供状況について ■

問 22 貴事業所におけるサービスの提供体制についてお聞かせします。提供しているサービスごとにご記入ください。

サービス名	1 か月平均の サービス提供可能量	1 か月平均の 実際のサービス提供量
1 居宅介護	時間	時間
2 重度訪問介護	時間	時間
3 同行援護	時間	時間
4 行動援護	時間	時間
5 療養介護	人	人
6 生活介護	日	日
7 短期入所（ショートステイ）	日	日
8 重度障害者等包括支援	時間	時間
9 施設入所支援	人	人
10 自立訓練（機能訓練）	日	日
11 自立訓練（生活訓練）	日	日
12 就労移行支援	日	日
13 就労継続支援（A 型）	日	日
14 就労継続支援（B 型）	日	日
15 就労定着支援	日	日
16 自立生活援助	日	日
17 共同生活援助（グループホーム）	人	人
18 地域移行支援	人	人
19 地域定着支援	人	人
20 計画相談支援	人	人
21 児童発達支援	日	日
22 医療型児童発達支援	日	日
23 放課後等デイサービス	日	日
24 居宅訪問型児童発達支援	日	日
25 保育所等訪問支援	日	日
26 障害児相談支援	人	人
27 地域活動支援センター事業	日	日
28 移動支援事業	時間	時間
29 日中一時支援事業	日	日
30 その他（ ）	（ ）	（ ）

※ 単位が「時間」または「日」の場合は、「延べ時間」または「延べ日数」
※（例）「7 短期入所（ショートステイ）」で1日につき 2 名、月曜～金曜の受け入れが可能な場合、「1 か月平均のサービス提供可能量」は「40 日」（2 名×週5 日×4 週）とご記入ください。
※ 単位が「人」の場合は、「実人数」

問 23-1 これまでに、問 22 で回答したサービスを提供しようとして、できなかったことはありますか。（○は1 つ）

1 ある

2 ない

→問 23-2 サービスを提供しようとしてできなかった理由は何ですか。（自由記入）

【問 24-1 は、指定特定相談支援事業所以外の事業所にお聞かせします。】

問 24-1 貴事業所は、特定相談支援事業所の指定をとる予定はありますか。（○は1 つ）

1 今後、指定をとる予定である

2 指定をとる予定はない

→問 24-2 特定相談支援事業所の指定をとる予定がないのはなぜですか。（○はいくつでも）

1 職員体制が整わない

2 相談支援専門員がいない

3 指定の取り方がわからない

4 資金の調達ができない

5 事業所の場所が確保ができない

6 収益性の確保ができない

7 その他（ ）

問 25 貴事業所では、障害福祉サービス・介護保険サービス以外に提供しているサービスがありますか。ある場合には、その内容をお書きください。（自由記入）

問 26 貴事業所では、介護保険サービスを提供していますか。提供しているサービスがあれば、次の中から選んで○をつけてください。（○はいくつでも）

<居宅サービス>

1 訪問サービス

2 通所サービス

3 短期入所サービス

<施設サービス>

4 特別養護老人ホーム

5 介護老人保健施設

6 介護療養型医療施設

<地域密着型サービス>

7 訪問・通所型サービス

8 認知症対応型サービス

9 施設・特定施設型サービス

10 その他

【問 27 は、居宅介護・重度訪問介護・生活介護・自立介護・児童発達支援・放課後等デイサービス・短期入所を提供している事業所にお聞きます。】

問 27 貴事業所では、「共生型サービス」*の指定を受ける予定はありますか。(○は1つ)

1 既に指定を受けている
2 今後、指定を受ける予定である
3 指定を受ける予定はない
4 その他()

※高齢者と障害児者が同一事業所でサービスをうけやすくするため、介護保険又は障害福祉のいずれかの指定を受けた事業所がもう一方の制度における指定を受けやすくする制度

問 28 「共生型サービス」の指定を受ける予定がある場合、どのようなサービスを提供していくお考えですか。既に指定を受けている場合には、そのサービスも含めてお答えください。(○はいくつでも)

1 ホームヘルプ(訪問介護)
2 デイサービス(通所介護、療養通所介護)
3 ショートステイ(短期入所生活介護)
4 その他()

問 29 貴事業所では、今後、新たに障害福祉サービス等への参入を検討していますか。新たに参入を検討しているサービス等がありましたら○をつけてください。(○はいくつでも)

1 居宅介護	17 共同生活援助(グループホーム)
2 重度訪問介護	18 地域移行支援
3 同行援護	19 地域定着支援
4 行動援護	20 計画相談支援
5 療養介護	21 児童発達支援
6 生活介護	22 医療型児童発達支援
7 短期入所(ショートステイ)	23 放課後等デイサービス
8 重度障害者等包括支援	24 居宅訪問型児童発達支援
9 施設入所支援	25 保育所等訪問支援
10 自立訓練(機能訓練)	26 障害児相談支援
11 自立訓練(生活訓練)	27 地域活動支援センター事業
12 就労移行支援	28 移動支援事業
13 就労継続支援(A型)	29 日中一時支援事業
14 就労継続支援(B型)	30 その他()
15 就労定着支援	31 新たに参入を検討しているサービス等はない
16 自立生活援助	

■ サービス向上の取組について ■

問 30 貴事業所では、サービス向上のためにどのようなことに取り組んでいますか。(○はいくつでも)

1 サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している
2 事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている
3 利用者や家族に対し満足度調査を行っている
4 積極的に外部評価を受けている(ISO、第三者評価等)
5 独自の自己評価を実施している
6 管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している
7 現場のスタッフが自発的に問題事例(生活問題等)に関するケース検討会などを行っている
8 現場スタッフに任せている
9 意見箱を設置している
10 各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加
11 その他()
12 特に取り組んでいることはない

問 31 貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族からどのような苦情や要望を受けられることが多いですか。(○はいくつでも)

1 利用できる回数や日数が少ない
2 利用日などが希望通りにならない
3 サービス内容に不満がある
4 職員間の申し送りが不十分
5 利用したいサービスが利用できない
6 金銭的な利用者負担が大きい
7 障害の状況・特性を十分に理解してもらえない
8 その他()
9 特に苦情や要望を受けることはない

問 32-1 貴事業所では、ここ数年、利用者が「高齢化している」あるいは「障害が重度化している」と感じていますか。(○はいくつでも)

1 利用者の高齢化が進んでいる
2 利用者の障害の重度化が進んでいる
3 利用者の高齢化や障害の重度化を感じることはない
4 その他()

問 32-2 利用者の高齢化、障害の重度化に伴い、どのような利用者ニーズが高まってきているでしょうか。実際に貴事業所で高齢化・重度化が進んでいない場合でも、将来の利用者の高齢化・重度化を想定してお答えください。(○はいくつでも)

1	障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行
2	医療的ケアへのより適切な対応
3	利用者がより安全・快適に利用できるよう、施設・設備の改善
4	医療機関・関係機関との連携強化
5	緊急時対応の強化
6	送迎の希望の増加
7	サービス内容の変更
8	その他()
9	わからない

問 33 何か問題が生じた場合に、相談する先はどこですか。(○はいくつでも)

1	練馬区	6	法人本部
2	東京都	7	他の事業所
3	国	8	その他()
4	相談支援事業所	9	どこにも相談したことはない
5	障害者地域生活支援センター		

問 34 問 33 で相談されたのは、主にどのような内容ですか。(○はいくつでも)

1	事業所の運営の支援に関すること
2	人材の確保・質の向上に関すること
3	サービスの拡充に関すること
4	技術的な支援に関すること
5	困難な事例への対応に関すること
6	利用者からの苦情や要望等への対応に関すること
7	その他()

■ その他 ■

問 35 貴事業所では、虐待防止対策についてどのような取り組みをしていますか。(自由記入)

--

問 36 貴運営法人及び貴事業所では、コンプライアンスについてどのように取り組みをしていますか。(○はいくつでも)

1	職員に対して、コンプライアンス教育を行っている
2	定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている
3	法人・事業所内に、内部通報制度を作っている
4	法人・事業所内に、コンプライアンス委員会等の組織を作っている
5	その他()
6	特に取り組んでいることはない

問 37 貴事業所では、大規模災害時を想定した利用者の安否確認等について、どのような取り組みを進めていますか。(○はいくつでも)

1	ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している
2	ふだんから利用者の安否確認方法について確認している
3	ふだんから利用者と家族の連絡体制について確認している
4	ふだんから利用者・職員ともに避難経路・避難所を確認している
5	関係機関との緊急連絡体制を構築している
6	地域住民(自主防災組織等)との連携体制を構築している
7	職員および利用者の防災知識の向上を図っている
8	定期的に防災訓練を実施している
9	その他()
10	特に取り組んでいることはない

問 38 練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。(自由記入)

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございます。ありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、12月27日（金）までにご投函ください。

練馬区障害者基礎調査報告書
令和2年（2020年）3月

編集・発行 練馬区福祉部障害者施策推進課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号

電話 03-5984-4602（直通）

FAX 03-5984-1215

E-mail SHOGAISISAKU02@city.nerima.tokyo.jp

